

科目名	北河内を知る	科目名 (英文)	Introduction to Kita-kawachi Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年度	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	増田 知也, 小林 基
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01453a1, L科: LL01355a1, D科・S科: IL01362a1, P科: YL01418a2, J科: JL01364a1, W科: WL01343a1, N科: NL01344a1		

授業概要・目的	<p>摂南大学と大学が立地する「北河内」に焦点をあて、この地域の市町村の「まち・ひと・しごと創生総合戦略」から、地方自治体の現状と課題をグループディスカッションを行いながら学び、地域との関わり方を考える。</p> <p>授業では、自らが問題意識や疑問をもちながら地域の現状を分析し、多くの疑問点（質問）をだすこと。さらに疑問点（質問）に優先順位をつけ、それに基づいた学修・調査・研究を行うことのトレーニングを行う。</p> <p>またグループワークで互いに議論しながら、ひとつの方向性を見出す大切さを経験する。</p> <p>この授業は授業担当者として、北河内7市の「行政実務者」が担当する。</p>
到達目標	北河内地域の歴史、文化、産業、まちづくりを知り、地域に対する愛着を醸成し、社会の一員として地域とのかかわりの大切さを認識する。さらに地域における課題を発見し解決できる能力に必要な「考える力、判断する力、表現する力」を身につける。
授業方法と留意点	北河内地域の市町村の行政実務者をを学外講師とするオムニバス講義である。授業は、土曜日に集中的に実施し、毎回の授業で「自己学習・グループ学習」「質疑」「グループワーク・成果物のプレゼンテーション」を行う。
科目学習の効果（資格）	ソーシャルイノベーション副専攻の必須科目である。「北河内を知る」を通じて、地域の課題を発見して解決する能力を身につけることに努力する。さらに、外部講師の方々と交流を深め、地域貢献活動に参画し、自ら考え行動することで、生涯にわたり学習する基盤が培われる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 1限	授業の進め方、成績評価方法 グループワークの進め方等を学ぶ チームをつくり、相互理解を深める。	事前課題：北河内地域の概要について調べる（1時間） 事後課題：授業の進め方について確認する（1時間）
2	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
3	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
4	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
5	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
6	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
7	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
8	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
9	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
10	北河内地域に関する質疑 1限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
11	北河内地域に関する質疑 2限	北河内地域（守口市、枚方市、寝屋川市、大東市、門真市、四條畷市、交野市）行政実務者との質疑応答により、地域課題を発見する。	事前課題：学修する市の総合戦略等について調べ、質問をまとめる（2時間）
12	グループワーク・プレゼンテーション 3限	北河内地域の活性化・課題解決の対応策を策定し、発表する	事後課題：討議内容をもとに、自分の考えや意見をまとめる。グループワークの成果物をまとめる（2時間）
13	ワークショップ 1限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
14	ワークショップ 2限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事前課題：学習成果を振り返り、北河内地域の特徴や課題についてまとめる（2時間）
15	ワークショップ 3限	ワークショップにより、より深い学びを行う	事後課題：授業で学んだことを復習する（2時間）

関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻科目
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	個人課題の評価 (40%)、グループごとのルーブリック評価 (30%)、グループワークの成果物 (30%) グループワークを行うため、毎回の出席が前提となります。			
学生への メッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみませんか？			
担当者の 研究室等	増田知也 (法学部・法律学科) 寝屋川キャンパス 11号館10階			
備考	学外講師のご都合により、授業計画の内容や実施日、順序等を変更すること、学外の方が聴講すること、授業の様子をカメラ・ビデオで撮影することがあります。ご了解下さい。			

科目名	ソーシャル・イノベーション実務総論	科目名 (英文)	Social Innovation Studies
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: A○, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01454a1, L科: LL01356a1, D科・S科: IL01363a1, P科: YL01419a2, J科: JL01365a1, W科: WL01344a1, N科: NL01345a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点のようになることが期待される。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) ICT部門が急速な発展を遂げているビジネス社会にあって、ビジネスパーソン自身のあり方も大きく変わってきていることを理解する。</li> <li>2) ライフスタイルの変化は、単にキャリアパスを視野に入れるのではなく、個として生きる視点を組み込む必要性を意識せざるを得ないことと、Well-beingを理解する。</li> <li>3) グローバル社会において必要とされるビジネス実務ならびにビジネス実務能力とは何かを学ぶ。</li> <li>4) 変化するビジネス環境の現状と課題について考察し、社会に貢献し、革新を起こすクリエイティビティを發揮する自らの職業観を確立する。</li> </ol> <p>なお、講義は担当講師の民間企業、自治体、NPO法人での業務及び高等教育での教育ならびに経営の経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs-8.9</p>			
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) ビジネスに必要なビジネス実務能力を理解し、計画的に身につける必要性を学ぶ。</li> <li>2) 社会に貢献するためのビジネスという概念から、「異世代・異文化(多様性)を主体的に理解する力」、「地域社会の課題を主体的に発見する力」、「主体的に課題を解決し、新しい価値を生み出す力」(3つの力)を理解できる。</li> <li>3) Well-beingを理解し、実践するよう努める。</li> </ol>			
授業方法と留意点	<p>第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。</p> <p>また、座学の後、グループワークを通して課題を議論し、もしくは事前に与えた課題に関してのプレゼンテーションを行うこともある。</p>			
科目学習の効果(資格)	<p>最終的に、初歩的なビジネスプランを立てることができる。</p>			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ソーシャル・イノベーション実務総論の概要を説明する。</li> <li>・グループワークならびにプレゼンテーションに関して説明する。</li> <li>・自己紹介後、グループ形成をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 自己紹介の原案を考えること(2時間)</li> <li>・事後学修: 「ビジネスのイメージは?」というテーマでルールを守って自由に書くこと(2時間)</li> </ul>
	2	ビジネスの定義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビジネスとは何かを考察する。</li> <li>・イノベーションが繰り返し唱えられる理由について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: テキストの指定箇所を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: ソーシャルイノベーションカンパニーの実例を調べる(2時間)</li> </ul>
	3	組織の種類 ー 営利組織と非営利組織ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪神淡路大震災後、急速に進化したNPO組織について考える。</li> <li>・営利組織と非営利組織について、ディベートを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: NPOについて調べること(2時間)</li> <li>・事後学修として、営利・非営利組織の対照表を作成すること(2時間)</li> </ul>
	4	ビジネス環境をとらえる① ー 経済のグローバル化と高度情報化ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グローバル化の明暗について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: グローバル化とは何か、新聞記事等の情報を集めること(2時間)</li> <li>・事後学修: 日本のグローバル化に関する小レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	5	ビジネス環境をとらえる② ー 地球環境問題と少子高齢社会ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題とジェンダーエンパワメント指数について考察する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ジェンダーエンパワメント指数を調べ、そこから考えたことをまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 地球市民として考えたことをまとめること(2時間)</li> </ul>
	6	ビジネス現場をとらえる ー オフィスからワークプレイスへー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「四角いオフィスから無限大の空間」というテーマで自由に考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 将来の働き方をイメージし、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: グループで話し合ったことを主に、個人の意見をまとめたレポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	7	ビジネス実務能力	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「働くために必要な能力とは」、というテーマで考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかを自身の優先順位、番号をつけた 1 個条書きにすること(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をノートにまとめること(2時間)</li> </ul>
	8	ビジネス実務の基本①ー 仕事の進め方ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業等のビジネス組織で必要とされている「ビジネス実務能力」とは何かを理解する。</li> <li>・優先順位の付け方等、具体的な進め方や対応の科学的対処法を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 働くために必要な知識・スキルはどのようなもので、どのように身につけるかをまとめること。問題プリント①を解くこと(2時間)</li> <li>・事後学修: 自分に必要な「ビジネス実務能力」をまとめること。問題プリント②を解くこと(2時間)</li> </ul>
	9	ビジネス実務の基本②ー ビジネスと諸活動ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己を取り巻く環境の中で、企業等のビジネス組織が展開している諸活動を理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: CSRについて調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 一企業のCSRを選び、レポートを作成すること(2時間)</li> </ul>
	10	ビジネス実務の基本③ー ビジネスと経営資源ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経営資源としての人的資源を中心に学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: 男女共同参画社会に関して調べ、まとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 人的資源としてのヒト、あなたの目標を書いてみること(2時間)</li> </ul>
	11	自己実現とキャリアプランニング ー セルフマネジメントと自己啓発ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自己啓発の必要性を理解し、ライフデザインの中のキャリアデザインを考える。</li> <li>・社会の中における自己を位置づける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修: ・テキストの指定箇所(pp.164-174)を熟読し、ノートにまとめること(2時間)</li> <li>・事後学修: 再度自己振り返りシートを作成し直し、職業を通じた自己意識をレポートにまとめる。</li> </ul>

				と (2 時間)
	12	ビジネス実務の基本④ービジネスと PDCA サイクル/マーケティング活動とコストパフォーマンスー	<ul style="list-style-type: none"> <li>PDCA サイクルを理解する。</li> <li>マーケティングとコストの関係について理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：業界内の 2 社の CM を比較し、その特徴をノートにまとめること (2 時間)</li> <li>事後学修：次回のグループワークのために、3 つの NPO の資料 (スライド 12~13) をしっかり読み込むこと (2 時間)</li> </ul>
	13	ビジネスプラン①ー起業への意識と「寄付の教室」ー	<ul style="list-style-type: none"> <li>寄付行為の意味を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：寄付の意味を考え、まとめること (2 時間)</li> <li>事後学修：寄付行為を行う基準を考えること (2 時間)</li> </ul>
	14	ビジネスプラン②ープレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>作成したビジネスプランに基づいて発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：各自がテーマを見つけ、企画書を作成し、発表練習すること (2 時間)</li> <li>事後学修：ビジネスプランの再考をする (2 時間)</li> </ul>
	15	ビジネスプラン②ープレゼンテーション発表と授業の総まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>イノベーションの意味を再考する。</li> <li>VUCA の時代において、新たなビジネスの創出について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：この授業の学びをまとめること (2 時間)</li> <li>事後学修を：新たな発見をすること (2 時間)</li> </ul>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ビジネス実務総論	全国大学実務教育協会	紀伊国屋書店
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	20 歳のときに知っておきたかったこと	ティナ・シーリグ	阪急コミュニケーションズ
	2	イノベーションと企業家精神	P. F. ドラッカー	ダイヤモンド社
	3	「デザイン思考」を超えるデザイン思考	DIAMOND ハーバード・ビジネス・レビュー編集部	ダイヤモンド社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>グループワーク (30%)、プレゼンテーション (30%)、レポート (40%) を総合的に評価する。</li> <li>毎回、座学ののち、グループワークとプレゼンを繰り返す予定であるので、準備を怠ることがないように注意する。</li> </ul>			
学生へのメッセージ	<p>私たちが生きている社会を「ビジネス」という視点で見つめなおしたとき、異なったものが見えてきます。私たちの生活を豊かにしてくれる企業等のビジネス組織へただ何となく参加するのではなく、その実態を理解し、自ら参画することを選びませんか。さまざまな組織ではさまざまな働き方がありますが、基本はビジネス実務能力が求められています。それを理解したうえで、従来の社会の上に新しい視点を作り上げていきましょう。</p>			
担当者の研究室等	石井研究室 (寝屋川キャンパス、7 号館 5 階)			
備考	<p>予習・復習に毎回 2 時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で 60 時間程度を目安とする。</p> <p>学生のワークの進捗状況により、内容が前後することもある。</p>			

科目名	社会科・地歴科教育法 I	科目名 (英文)	Geography and History Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通じて、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。</li> <li>・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。</li> <li>・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	中学校教員免許 (社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく(3時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく(1時間)。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む(3時間)
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく(3時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく(2時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく(1時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく(1時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく(1時間)。事後、興味を持った実践について調べる(2時間)。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方／中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方／関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。

				り返りを行う (2 時間)。
関連科目	社会科教育法Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	成果物としての指導案 (50%) とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題 (50%) で評価を行う。 提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。 出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。			
学生への メッセージ	皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということと、一方で絶対的に優れた授業というものはない ということを知ってもらいたいと思っています。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科・地歴科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Geography and History Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。</li> <li>・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。</li> <li>・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。</li> </ul>
授業方法及び留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとにTeams上で共有する。
科目学習の効果(資格)	中学校教員免許(社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分: 教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法Ⅰの第7回目までの学習内容を復習しておく(2時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
	2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく(1時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
	3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する(2時間)。
	4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく(2時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。
	5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方/北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア/アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ/オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
	14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う(4時間)。	

関連科目	社会科学教育法 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案 (50%) とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題 (50%) で評価を行う。          提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。          出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>自ら教材を見つけることで、社会科学の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。</p>			
担当者の 研究室等 備考	7 号館 2 階 非常勤講師室			



科目名	社会科・公民科教育法 I	科目名 (英文)	Civic Education Method I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。

**到達目標**  
 本講義の到達目標は以下の通りです。  
 (1) 中学社会科 (地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。  
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。  
 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。

**授業方法と留意点**  
 まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。

**科目学習の効果 (資格)**  
 中学校 1 種「社会」、高校 1 種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目  
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領 (社会)、高校指導要領 (公民) にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領 (中学：社会科、高校：公民科) の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント (3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術 (1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター (パワーポイントやインターネット) を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術 (2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方 (1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方 (2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導 (2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業 (1)	模擬授業の実践と指導 (1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業 (2)	模擬授業の実践と指導 (2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業 (3)	模擬授業の実践と指導 (3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業 (4)	模擬授業の実践と指導 (4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う (事前課題)。
15	総括—社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

**関連科目**  
 社会科・公民科教育法 I、社会科・公民科教育法 II は「I → II」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、各種課題 (20%) 等により、総合的に評価する。		
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ60時間程度とする。		

科目名	社会科・公民科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Civic Education Method II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育（主権者教育）の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育（市民性教育、シティズンシップ教育）をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。

**到達目標**  
 本講義の到達目標は以下の通りです。  
 (1) 中学社会科（地理、歴史、公民分野）、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。  
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。  
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。  
 (4) 政治教育、市民性教育（シティズンシップ教育）についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

**授業方法と留意点**  
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

**科目学習の効果（資格）**  
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目  
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領（社会）、高校指導要領（公民）にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領（中学：社会科、高校：公民科）の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（1）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（2）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント（3）	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術（1）：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター（パワーポイントやインターネット）を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術（2）：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方（1）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（1）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方（2）：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導（2）：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業（1）	模擬授業の実践と指導（1）	模擬授業の準備。
11	模擬授業（2）	模擬授業の実践と指導（2）	模擬授業の準備。
12	政治教育（市民性教育）（1）	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育（市民性教育）（2）	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成（事前課題）
15	総括—社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

**関連科目**  
 原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文芸出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文芸出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート(30%)、模擬授業(50%)、平常点:授業への貢献度等(20%)。 出席については全体の80%以上の出席(15回中12回以上)が必須。 出席率が80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します(前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし)。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	道徳教育の研究	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける「立場」からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
12	授業づくりの実践②：SNS上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。 ・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 (基準)	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート (One Page Portfolio シート) の記述内容や授業中の学修の様子 (60%)、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容 (40%) 等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7 号館 4 階 (谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動の理論と方法	科目名 (英文)	Theories and Methods for Special Activities
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。  
 総合的な学習（探求）の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

**到達目標**  
 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。  
 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。  
 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。  
 4 総合的な学習（探求）の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。  
 5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習（探求）の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

**授業方法と留意点**  
 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グルーワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

**科目学習の効果（資格）**  
 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許（中学校・高等学校）取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習（探求）の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習する（2時間）。
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク：学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グルーワーク：学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会（児童会）活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料を参考に復習をする（2時間）。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グルーワーク：学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第1節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。（ABDによる）	教科書第4章第2節を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景との関係 個別ワーク：戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク：特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
11	総合的な学習（探求）の時間の目標・内容・原理	総合的な学習（探求）の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グルーワーク：総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
12	総合的な学習（探求）の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
14	総合的な学習（探求）の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく（2時間）。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする（2時間）。
15	補足とまとめ／最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク：総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

**関連科目** すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育

	社会学などの学習につなげるのが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだと言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するという事に尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			



科目名	教育社会学	科目名 (英文)	Sociology of Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹中 祐二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的  
生物としてのヒトが社会の一員としての人間になる過程を理解する上で欠くことのできない、極めて重要な概念が「社会化」であるが、E.デュルケムは方法的社会化・系統的社会化作用として教育を位置付けている。人間にとって、「社会化としての教育」が本質的なものである一方、「制度としての教育」は、時代や文化による影響を色濃く受けるものでもある。この授業では、教育というものの、そもそも、あるいは今、「あるべき姿」というものについて、社会との関わりから捉え直すことを目的とする。

到達目標  
①「近代化」との関わりから、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。  
②時代や文化を超えて普遍的である特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。  
③今日の特徴を押さえて、「教育」とは何かという問いに対して、社会学の基礎理論や基本的概念を組み合わせた上で、文章によって解答することができる。  
④教育制度の歴史の変遷や、今日の学校と地域社会や関係機関との連携を踏まえつつ、教育に関わる主体の役割や特徴を、文章によって説明することができる。

授業方法と留意点  
・本授業では指定している教科書を購入し、事前に講義で扱うテーマに該当する部分(章)を読み、内容を理解した上で授業に臨んで下さい(教科書に記載のない事項の場合、別途資料を配付します)。  
・授業では、教科書(および配付資料)に記載のない事柄についての追加説明や、記載のある事柄を掘り下げる説明を行います。  
・授業後には、教科書に記載している問題を中心に、復習課題を配信します。  
・各回授業の初めに、復習課題と前回授業に対する振り返り・質疑応答を行います。  
・いずれかの回で、(予告した上で)収録済講義動画を視聴した上で、ワークシート課題に充てる、反転授業を行うことがあります。

科目学習の効果(資格)  
(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状の取得に必要です。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目: 教育の基礎的理解に関する科目  
各科目に含める必要事項: 教育に関する社会的、制度的又は経営的事項

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	制度としての教育①	教育内容や教育方法の変遷を学び、それらが社会と深く関わっていることについて学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
2	制度としての教育②	階層再生産のメカニズムといった、近代化の所産と教育のあり方について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
3	制度としての教育③	主に義務教育課程について、その概要について学ぶと共に、教育をめぐる平等について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
4	制度としての教育④	高校ならびに大学への進学率上昇と、その背後に潜む諸問題について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
5	社会における教育者の意義①	重要な他者/一般化された他者としての教育者の役割、あるいはそのオルタナティブについて学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
6	社会における教育者の意義②	今日の子どもの権利をめぐる諸議論に関わって教育が果たすべき役割について考察すると共に、非対称的な関係が構造的にもたらす教育の逆機能についても学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
7	社会における教育者の意義③	子どもにとっての学校が持つ意味を踏まえながら、教師と子どもの関係および学校現場における両者の相互作用について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
8	日本における教育環境の変遷①	学校現場への理解から、非行・不登校・いじめ問題について学習する。	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめる。(1時間) 事後課題: 配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)
9	日本における教育環境の変	トラッキングやメリトクラシーの問題	事前課題: 教科書(および配付資料)の該当頁を

		遷②	から、日本におけるキャリア教育について学習する。	み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	10	日本における教育環境の変遷③	特別活動や部活動の検討を通して、教師と子どもそれぞれが今日置かれている教育環境について学習する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	11	日本における教育環境の変遷④	今日的な課題のうち、マイノリティ教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	12	日本における教育環境の変遷⑤	今日的な課題のうち、ジェンダー教育に対する教育の意義や実践例について考察する。	事前課題:教科書(および配付資料)の該当頁を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	13	学級経営における多機関連携①	「チーム学校」論の概要について学び、子どもが安全・安心に学ぶことのできる権利を多角的に保障することの意義と方向性、それらが提起されてきた今日の社会背景について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	14	学級経営における多機関連携②	スクールソーシャルワーク実践を軸とする「チーム学校」論の視点から、「登下校の見守り活動」等の具体例を通して、子どもの安全・安心を制度的に保障することの意義やポイントについて学ぶと共に、主体である子ども自身の関わり方について学ぶ。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:配信する復習課題に回答する。(1.5時間) 授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間)																
	15	総括	本科目を通じて学習した内容について振り返り、専門職をはじめとするそれぞれの立場から社会の中で教育を達成することの意義について再考し、理解を深める。	事前課題:配付資料を読み、内容を理解した上で、疑問点についてまとめてくる。(1時間) 事後課題:授業内で気になった点について追加学習をする。(1.5時間) 期末課題に備えて、先行研究涉猟やデータ収集等の追加学習をする。(1.5時間)																
関連科目	「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教育実習Ⅰ」「教職実践演習」「各教科教育法」																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現場で使える教育社会学</td> <td>中村高康・松岡亮二</td> <td>ミネルヴァ書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現場で使える教育社会学	中村高康・松岡亮二	ミネルヴァ書房																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>現代教育社会学</td> <td>岩井八郎・近藤博之</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>新・教育の社会学</td> <td>荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗</td> <td>有斐閣</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>これからの教育社会学</td> <td>相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子</td> <td>有斐閣</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣	2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣	3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	現代教育社会学	岩井八郎・近藤博之	有斐閣																	
2	新・教育の社会学	荻谷剛彦・濱名陽子・木村涼子・酒井朗	有斐閣																	
3	これからの教育社会学	相澤真一・伊佐夏実・内田良・徳永智子	有斐閣																	
評価方法(基準)	授業後課題(45%)・期末レポート課題(55%) ※試験は実施しない予定ではあるが状況により変更する場合がある。																			
学生へのメッセージ																				
担当者の研究室等備考	3号館3階・竹中研究室																			

科目名	教育心理学	科目名 (英文)	Educational Psychology
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学校での教育活動において教師の果たす役割は大きい。学習の質を高めるために、教師が学習者を理解し、さまざまな形で援助していくためにはどうすればよいのか。それを考えていくにあたって必要な基礎的な知識を身につけ、日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができるようになることを目標とする。
到達目標	① 幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程について、基礎的な知識を身につける。 ② 各発達段階における心理的特性を踏まえた学習活動を支える指導の基礎となる考え方を理解する。 ③ 教育心理学の基本的な考え方、基礎的な知識を得ることができる。 ④ 日常生活の中で行われている学習活動や学校等における問題について、心理学的に説明し、考えることができる。
授業方法と留意点	講義中心で行う。事前に資料を moodle 上で配付するので、各自入手しておくこと。 必要に応じて、簡易実験やグループディスカッション等を行う。
科目学習の効果 (資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育の基礎的理解に関する科目」10単位のうち2単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	発達と教育と心理学と	教育に対して心理学ができること、発達と教育	テキスト第0章1・第8章、配付資料による本時の予習と復習
2	こどもの発達1	乳幼児期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第9章、配付資料による本時の予習と復習
3	こどもの発達2	児童期.....運動発達・言語発達・認知発達・社会性の発達	テキスト第10章・第11章、配付資料による本時の予習と復習
4	こどもの発達3	青年期①.....運動発達・言語発達・認知発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
5	こどもの発達4	青年期②.....社会性の発達	テキスト第10章・第11章・第12章、配付資料による本時の予習と復習
6	学習を支える認知機能1	思考.....人間の思考の特徴、メタ認知の機能と発達	テキスト第7章1、配付資料による本時の予習と復習
7	学習を支える認知機能2	言語.....言語の機能、言語理解・言語産出とその発達	テキスト第11章、配付資料による本時の予習と復習
8	学習を支える認知機能3	記憶.....記憶のメカニズムと発達	テキスト第4章・第5章、配付資料による本時の予習と復習
9	こどもの学び1	さまざまな学習①.....学習とは何か、主な学習理論の概観、条件づけ	テキスト第1章、配付資料による本時の予習と復習
10	こどもの学び2	さまざまな学習②.....観察学習、自己制御学習	テキスト第1章・第6章、配付資料による本時の予習と復習
11	学習を支える動機づけ1	意欲とは何か.....動機づけ過程、動機づけ理論	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
12	学習を支える動機づけ2	さまざまな意欲.....外発的動機づけ・内発的動機づけ、その他の視点、意欲の発達	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
13	学習を支える動機づけ3	意欲を育む.....こどもの発達と意欲、意欲を育む教育のあり方、学習と評価	テキスト第2章・第3章、配付資料による本時の予習と復習
14	学校における人間関係	教師-生徒の関係、生徒-生徒の関係、教師-教師の関係、集団としての学級	テキスト第0章2・第10章、配付資料による本時の予習と復習
15	個に応じた教育	個人差の理解と教育.....ATI、学習方略	テキスト第0章3・第6章・第7章2、配付資料による本時の予習と復習

関連科目	教職課程におけるすべての科目
------	----------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	絶対役立つ教育心理学—実践の理論、理論を实践—	藤田哲也 (編著)
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	小テスト 30%, 期末試験 70%
-----------	--------------------

学生へのメッセージ	これまで受けてきた教育を思い出してください。また心理学の用語の中には、日常的に遣われているのとやや異なる意味で用いられるものがあることに留意してください。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館3階 (吉田研究室)
----------	---------------

備考	Teams コード 火曜 5 限: o3hr1s8 木曜 1 限: 9oex0u1 木曜 5 限: j4uz0u4 金曜 5 限: 8h3rwzd
----	---

	Moodle コース名と登録キー 火曜5限：2024 教育心理学 (火5) あるいは 24 教心 (火5) 2024EPTUE5 木曜1限：2024 教育心理学 (木1) あるいは 24 教心 (木1) 2024EPTHU1 木曜5限：2024 教育心理学 (木5) あるいは 24 教心 (木5) 2024EPTHU5 金曜5限：2024 教育心理学 (
--	--

科目名	特別支援教育論	科目名 (英文)	Studies of Special Needs Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	通常の学級にも在籍している発達障害や知的障害をはじめとする様々な障害者等により特別な支援を必要とする子ども達が授業において学習活動に参加している。学実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身につけていけるよう、子どもの学習上または生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の職員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
到達目標	①インクルーシブ教育システムにおける特別支援教育に関する理念や仕組みについて理解する。 ②視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱・発達障害を含むさまざまな障害のある幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難について理解する。 ③発達障害や知的障害をはじめとする特別の支援を必要とする児童・生徒の心身の発達、心理的特性、障害の場合はその特性について理解する。 ④個別の教育支援計画及び個別の指導計画を作成する意義と方法について理解する。 ⑤管理職・特別支援教育コーディネーターをはじめとするチーム学校、関係諸機関や家庭、保護者と連携しながら支援体制を構築することの必要性について理解する。 ⑥貧困・LGBTなどの理由により、特別の支援を必要とする子供たちに対する支援方法について理解する。 ⑦ICTの活用により、障害の疑似体験をしたり、支援に役立つ学習アプリを実際に操作したりする。
授業方法と留意点	1 授業は対面式で行う。状況によってはオンラインで行うこともありうる。ICTツールはTeamsを使用する。 2 講義資料等は「ファイル」に各授業回別のフォルダをつくり、そこに掲載する。プリントアウトするなどして各自で管理すること。 3 Teamsで「課題」の提出を求めるので遅滞なく提出すること。
科目学習の効果 (資格)	教職科目 特別支援教育論は、教員免許 (小学校・中学校・高等学校) 取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	特別支援教育を学ぶ意義と本授業のガイダンス	・なぜ特別支援教育学を学ばなければならないか理解する。・グループ学習のやり方について説明を聞き、グループ分けを行う。	・授業計画及び教科書第1章を読み、今後の学習について見通しを持つ (2時間)・グループでの役割に応じて4回目授業での発表準備を進める (2時間)
2	特別支援教育の歴史と現行制度について	・特殊教育・特別支援教育の歴史の概要を知る。 ・特別支援教育を支える仕組みについて理解する。 ・ICFモデル・特別支援教育への転換について知る。	・教科書第2章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて4回目の授業での発表準備を進める (2時間)
3	支援システムの構築と法的整備	・校内支援システムの構築や他職種等の連携を知り、チーム学校について理解する。	・教科書第3章をよく読み、質問をまとめておく。(2時間)・ペアでの役割に応じて、4回目の授業での発表の資料をA4一枚程度(両面可)にまとめる。(2時間)
4	視覚障害・聴覚障害について	・視覚障害・聴覚障害の概要・必要な支援・教育について教えあう。 ・見え方紹介アプリの活用	・教科書第11章をよく読むとともに、自分の担当部分をペアに説明する準備を行う。(2時間)・講義やペア学習、教科書を元に学習内容をまとめる。(2時間)
5	肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複について	・肢体不自由・病弱・身体虚弱・重度重複の概要・必要な支援・教育について理解する。	・教科書第10章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・グループでの役割に応じて、7回目の授業での発表資料をA4二枚以内(両面可)にまとめる。(2時間)
6	情緒障害・言語障害について	・情緒障害・言語障害の概要及びタイプ、指導・支援方法等について学ぶ。	・教科書第8章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
7	知的障害・発達障害について (1)	・知的障害・発達障害についてグループで発表を行い、質疑応答をする。・障害別に担当者が集まり、お互いの内容を補完し、疑問点を解決する。	・教科書6・7・9章などを参考に自分の担当部分についてよく伝わるようにまとめておく。担当以外の部分についても教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、発表資料を訂正しておく。(2時間)
8	知的障害・発達障害について (2)	・資料をもとにグループ発表を行う。代表者にまとめの発表をしてもらい、感想をまとめる。 ・学習支援アプリの操作・体験	・自分の発表部分について、よく伝わるように練習をしておく。教科書を読んで概要を理解しておく。(2時間) 授業で学んだことを整理し、教科書を再読する。(2時間)
9	LGBT等特別な教育的支援が必要な子どもの理解と指導・支援	・学習困難・ギフテッド・LGBT・不登校・いじめなど教育的支援が必要な児童について学び、学級での支援の方法について理解する。	・教科書第12章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
10	個別の指導計画と個別の教育支援計画	・合理的配慮と個別の支援計画・個別の指導計画について理解し、実際に個別の指導計画を作成してみる。	・教科書第5章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
11	通常学級での特別支援教育 (小・中学校)	・授業のユニバーサルデザインで目指すものとユニバーサルデザインの概要について理解する。 ・通級指導の概要を理解する	・第2回の授業内容について教科書やノートで復習しておく (2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる (2時間)
12	通常学級での特別支援教育 (高等学校)	・通級指導の概要を理解する ・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育について理解する。	・京都府や大阪府にある高等学校で行われている先進的な特別支援教育についてネット等で調べる (2時間)・講義を元に学習内容をまとめる (2時間)
13	保護者との連携・専門機関・地域との連携	・特別な教育的支援を必要とする子どもや親を支える専門機関の種類と役割を理解する ・地域での生活を送るうえでの支援と課題を理解する。	・教科書第13章・14章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・教科書と講義を元に学習内容をまとめる (2時間)

	14	早期支援と就労支援	・早期発見システムについて学び、早期支援について考える。 ・進路支援・就労支援の実際を知り、問題点を明らかにする。	・教科書第15・第16章をよく読み、疑問点をまとめておく。(2時間)・講義や教科書を元に学習内容をまとめる(2時間)																
	15	発達障害等に対する指導技法まとめ	・特別支援教育学の講義全体を見直し、課題と解決方法について、自分なりの考えを持つ。	・配布した資料に目を通しておく。今まで学習した内容を教科書やノートで振り返る。(2時間) ・今までの学修をふりかえる(2時間)・当日出題される課題に取り組み、提出する。																
関連科目	教職科目全般と関連性をもつ。特に、教師論、教育心理学、特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法、教育方法論、教育課程論、教育社会学、教育相談での学習内容と関連させて理解を深めることが大切である。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために</td> <td>柘植雅義他</td> <td>有斐閣アルマ</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	はじめての特別支援教育 教職を目指す大学生のために	柘植雅義他	有斐閣アルマ																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>やさしく学ぶ教職課程特別支援教育</td> <td>是永かかな子他</td> <td>学文社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編</td> <td>文部科学省</td> <td>海文堂出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かかな子他	学文社	2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版	3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	やさしく学ぶ教職課程特別支援教育	是永かかな子他	学文社																	
2	特別支援学校幼稚園部教育要領小学校・中学部学習指導要領 平成29年4月告示	文部科学省	海文堂出版																	
3	中学校学習指導要領(平成29年告示) 総則編	文部科学省	海文堂出版																	
評価方法(基準)	授業への参加状況【課題等】(40%)、中間レポート(30%)、最終レポート(30%)を総合的に評価する。																			
学生へのメッセージ	本科目を受講することで、障害のある児童生徒をはじめ、特別な支援を必要とする児童生徒への理解が進み、1人ひとりの教育ニーズに応じた教育が展開できるようになってほしい。																			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階松浦研究室																			
備考	授業外総学習時間を60時間とする。																			

科目名	教育課程論	科目名 (英文)	Studies of Curriculum Development
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育課程 (カリキュラム) は、「子どもたちの成長と発達に必要な文化を組織した、全体的な計画とそれに基づく実践と評価を統合した営み」とされる。カリキュラムは、学習指導要領や教科書に示された教育内容を組織したものであるのみならず、子どもたちが実際に獲得した内容を含む概念である。そのため、子どもたちの学習経験を見取り、学習改善を行うために教育評価も欠かせない。本講義では、学習指導要領の変遷についての知識を修得するのみならず、カリキュラム編成を行う上で基盤となる原理や方法を理解することを求める。これらの理解を踏まえ、各自が取得を目指す免許教科の単元計画を構想できるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育課程やカリキュラムをめぐる基礎的な知識を修得している。 (2) カリキュラム編成の基本原則・編成方法を踏まえ、関連する他の教科・領域・学年の系統性を意識したカリキュラム編成を行うことができる。
授業方法と留意点	(1) 配布資料を中心に進める講義形式を基本とする。例外的に、各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行うグループワークを実施する回がある。その際には事前の準備が求められる。 (2) 期末課題の準備として、各自が取得を目指す免許教科の教科書を少なくとも1冊は入手すること (栄養教諭の場合は、関連する教科の教科書に目を通すこと)。 (3) 現行学習指導要領 (本文・解説) は文部科学省 HP からダウンロードすること。 (4) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育課程の意義及び編成の方法 (カリキュラム・マネジメントを含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション: 教育課程・カリキュラムとは何か	教育課程 (カリキュラム) とは何かを理解するとともに、カリキュラムをめぐる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
2	教育評価とは何か	教育評価の歴史を概観し、評定 (成績づけ) とは異なる教育評価の意義を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
3	教育評価と教育目標	カリキュラム編成の要となる教育目標にまつわる論点を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
4	学力評価の方法論	学力を把握するための様々な方法について学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
5	現行学習指導要領の特質をふまえたカリキュラム編成の方法	現行学習指導要領の特質、および、今求められているカリキュラムのあり方とその編成の方法を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
6	カリキュラム編成原理1: 経験主義	経験主義カリキュラムの思想と実例を扱い、経験主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
7	カリキュラム編成原理2: 系統主義	系統主義カリキュラムの思想と実例を扱い、系統主義の特徴と課題を考察する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
8	日本における学習指導要領の歴史1	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、戦後～1980年代の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
9	日本における学習指導要領の歴史2	本講義の前半で学習したカリキュラム編成原理と結びつけながら、1990年代～現在の学習指導要領の歴史と特徴を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
10	教育課程の思想と構造: 領域論、履修原理	教育課程を領域化する際に問われる問題、教育課程の履修原理に関する問題を学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
11	カリキュラム編成レポートの相互批評会	各自が作成したカリキュラム編成レポートを持ち寄り、相互批評を行おう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを作成する (20時間)
12	総合的な学習 (探究) の時間のカリキュラム	領域としての「総合的な学習 (探究) の時間」の意義とカリキュラムの事例を紹介する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
13	カリキュラム・マネジメントの意義と評価	カリキュラム・マネジメントの意義や重要性を確認する。カリキュラム評価の基礎的な考え方を概観する。	授業終了時に示す文献を読む (1時間)
14	カリキュラム・マネジメントの具体例: 同和・人権教育	同和・人権教育や外国につながる子どもたちへの取り組みを取り上げ、現前の問題に取り組む学校のカリキュラムを学ぶ。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) カリキュラム編成レポートを改稿し提出する (10時間)
15	総括: 教育課程をめぐる論点	教育課程をめぐる論点をあらためて取り上げ、講義全体の振り返りをおこなう。	授業終了時に示す文献を読む (1時間) 定期試験に向けた準備をする (15時間)

関連科目 同時期開講の教育方法論と密接にリンクしている。教育課程論では一単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新しい時代の教育課程（第5版）	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵	有斐閣
	2	新しい教育評価入門（増補版）	西岡加名恵・石井英真・田中耕治編	有斐閣
	3	新訂学習指導要領は国民形成の設計書	水原克敏・高田文子・遠藤宏美・八木美保子	東北大学出版会
評価方法 （基準）	<p>(1) 期末試験（50%）：教育課程にまつわる基礎的知識の修得を問う。</p> <p>(2) 授業内課題：カリキュラム編成レポート（50%）：各自が選んだ単元のカリキュラム編成を行う。現在求められるカリキュラムの在り方を踏まえているかどうか、教育目標と評価課題の妥当性、相互批評で出された意見を踏まえた改善を規準として評価する。</p> <p>評価基準（ループリック）の詳細は講義内で提示する。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館3階 鎌田研究室			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。 授業計画に記載している授業テーマは、授業の進捗状況や学生の関心に応じて変更することがある。			



科目名	道徳教育論	科目名 (英文)	Studies of Moral Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	この授業では、中学校において「特別の教科 道徳」(以下、道徳科)の授業を行うために必要な基本的な知識を習得した上で、生徒の実態や教材の特性に応じた適切な指導法を選択して学習指導案を作成できるようになることを目的としています。 授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を受ける」立場からではなく「作る」立場から能動的な学びを期待します。
到達目標	受講者が、道徳教育の必要性や歴史、現状と課題等についての基本的な知識を身に付け、中学校の道徳科の様々な指導法の特徴と課題について理解し、適切な発問を構成し、学習指導案を作成できるようになることを目標とします。
授業方法と留意点	本授業は道徳科の授業づくりについて実践的に学ぶ内容のため対面で行います。具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話を通して道徳教育や道徳科の授業についての学びを進めていきます。また、後半には、学習指導案作成等の演習や受講者のみなさんによる模擬授業等を適宜取り入れます。 そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、道徳科の授業づくりについて多面的・多角的に考えることができるように配慮します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭1種免許状の取得に必要です。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：道徳の理論及び指導法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：道徳科の授業について考える	・現在、我が国においてどのような道徳教育が行われているかを確認する。 ・正しさを決める4つのアプローチについて概観する。	(事前)自身が学校教育においてが受けてきた道徳教育がどのようなものであったかを思い出しておく。 (事後)テキスト2のP.8～17を精読しておく。
2	日本の道徳教育の歴史	・明治から現在に至るまでの我が国の道徳教育の歴史を概観する。 ・道徳教育に存在する信念対立について考える。	(事前)テキスト1のP.6～12を精読しておく。 (事後)日本の道徳教育の歴史や信念対立について整理しておく。
3	よい道徳教育とは何か	・よい道徳教育について、生徒の道徳性の発達や教師の職能成長という観点から考える。	(事前)テキスト1のP.12～25を精読しておく。 (事後)道徳科の授業や道徳教育の方法と生徒の道徳性の発達、教師自身の成長との関係について整理しておく。
4	道徳の授業の多様な指導方法の特徴	・道徳科の授業のねらいに基づく8類型について概観し、多様な指導方法の特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.26～35及びテキスト2のP.26～29を精読しておく。 (事後)道徳科の授業のねらいに基づく8類型について整理しておく。
5	道徳の授業の発問の構成法	・「特別の教科 道徳」の目標や内容について確認し、ねらいに基づく発問の構成法について考える。	(事前)テキスト1のP.36～48及びテキスト2のP.30～33を精読しておく。 (事後)ねらいに基づく発問の構成法について整理しておく。
6	道徳の授業の学習指導案の作成法	・「特別の教科 道徳」のねらいに沿った授業を計画的に進めるための学習指導案の作成方法について考える。	(事前)テキスト1のP.49～58及びテキスト2のP.34～37を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の学習指導案の作成方法について整理しておく。
7	道徳の授業の評価	・「特別の教科 道徳」における評価の内容や方法について考える。	(事前)テキスト1のP.59～68及びテキスト2のP.38～41を精読しておく。 (事後)道徳科の授業の評価の内容や方法について整理しておく。
8	各授業類型のねらいと発問の特徴	・教材の特性を踏まえた教材分析の方法について概観し、授業類型のそれぞれのねらいと特徴について考える。	(事前)テキスト1のP.71～85及びテキスト2のP.42～45を精読しておく。 (事後)教材分析の方法や授業構成について度整理しておく。
9	教材分析の視点	・教材に描かれている人物や事象等を図式化することで道徳的な問題を明確化する教材分析の方法について概観する。	(事前)テキスト1のP.86～95及びテキスト2のP.46～49を精読しておく。 (事後)教材分析の方法について整理するとともに、自身が選択した教材について分析しておく。
10	発問分析による授業づくりの視点	・発問の特徴について概観し、発問分析に基づく授業改善の方法について考える。	(事前)テキスト1のP.96～106及びテキスト2のP.50～53を精読しておく。 (事後)問題解決的な学習や発問分析に基づく授業改善の方法について整理しておく。
11	授業づくりの実践①：いじめを扱った教材の授業実践	・いじめを扱った教材を使用する道徳科の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.107～130及びテキスト2のP.54～57を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
12	授業づくりの実践②：SNS上のトラブルを扱った教材の授業実践	・SNS上のトラブルを扱った教材の授業動画を視聴し、授業づくりの実践について学ぶ。	(事前)テキスト1のP.131～152及びテキスト2のP.58～61を精読しておく。 (事後)授業づくりの実践について整理しておく。
13	学習指導案の作成	・これまでの学修をふまえ、第9回で選択し教材分析した教材を用いた道徳科の授業について、学習指導案を作成する。	(事前)テキスト2のP.62～65を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
14	模擬授業と事後検討会①	・模擬授業を行い、授業改善のための事後検討会を行う。	(事前)テキスト2のP.66～69を精読しておく。 (事後)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。
15	模擬授業と事後検討会② まとめ：道徳科の授業について再び考える	・模擬授業を行い、授業改善のための検討を行う。 ・道徳科の授業づくりについてまとめる。	(事前)模擬授業と事後検討会の準備をしておく。 (事後)「よい道徳科の授業」について考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の授業で学習した内容と関連づけて考えてみるのが大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	道徳科 初めての授業づくり	吉田誠・木原一彰 編著	大学教育出版
	2	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	教育出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	小学校学習指導要領（平成 29 年告示）解説 特別の教科 道徳編	文部科学省	廣済堂あかつき
	2	『道徳教育』PLUS 考え、議論する道徳をつくる新発問パターン大全集	『道徳教育』編集部	明治図書出版
	3			
評価方法 （基準）	毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の記述内容や授業中の学修の様子（60%）、作成した道徳科学習指導案や模擬授業の内容（40%）等をもとに、総合的に評価します。 また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク、模擬授業等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	7号館4階(谷口研究室)			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法	科目名 (英文)	Methodolgy of Special Activities and Integrated Studies
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 特別活動の理論と指導法については、学校における様々な構成・場面での集団活動を通して、課題の発見や解決を行い、よりよい学級生活・学校生活の実現を目指す特別活動の意義、目標及び内容を理解し、特別活動の特質を踏まえた指導に必要な知識や素養を身に付ける。  
 総合的な学習(探求)の時間の理論と指導法については、探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を探究的な学びの過程を通して行い、よりよく課題を解決し、自己の生き方について考えていくための資質・能力の育成をめざし、指導計画の作成、学習指導や評価の考え方、留意点を理解する。

**到達目標**  
 1 教育課程における特別活動の位置付けと各教科等との関連、学習指導要領における特別活動の目標及び主な内容を理解している。  
 2 特別活動における取組の評価・改善活動の重要性、家庭・地域住民や関係機関との連携の在り方を理解している。  
 3 合意形成に向けた学級での話し合い活動、意思決定につながる指導及び集団活動の意義や指導の在り方を例示することができる。  
 4 総合的な学習(探求)の時間の意義と教育課程において果たす役割、目標並びに各学校において目標及び内容を定める際の考え方や留意点、年間指導計画を作成することの重要性について理解している。  
 5 主体的・対話的で深い学びを実現する総合的な学習(探求)の時間の単元計画を作成することの重要性、探究的な学習の過程及びそれを実現するための具体的な手立て、児童及び生徒の学習状況に関する評価の方法及びその留意点を理解している。

**授業方法と留意点**  
 講義はテキストやプリント教材、視聴覚教材をもとにすすめるが、ソロワーク、グルーワークを取り入れる。「為すことによって学ぶ」ことが求められる特別活動や自ら問いを見だし、課題を立て、情報を整理分析して、まとめ表現することが求められる総合的な学習の時間を指導しなければならない教員の立場に立って、集団をファシリテートできるよう、自身の「自己理解」「他者理解」「共感的な人間関係」の充実も図りながら、グループでのディスカッション・コーディネーション・プレゼンテーションへの積極的な参加を求める。

**科目学習の効果(資格)**  
 教職科目 特別活動・総合的な学習の時間の理論と指導法は、教員免許(中学校・高等学校)取得上必修科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・特別活動及び総合的な学習(探求)の時間の意義と課題	学校教育活動のなかでの特別活動の意義と課題、総合的な学習の時間の意義と教育課程の中で果たす役割、指導する上で教師に求められる力量	特別活動テキスト第1章、講義資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をする(2時間)。
2	特別活動の目標・内容・方法	教科外活動としての位置づけ、特別活動の3つの内容、方法としての集団活動・体験活動	特別活動テキスト第2章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習する(2時間)。
3	学級活動・ホームルーム活動1	学級とは何か、特別活動の実践的基盤としての学級、教師と子どもの関係づくり 個人ワーク:学級活動の年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
4	学級活動・ホームルーム活動2	学級活動の実際と合意形成 グルーワーク:学級開きと年間計画の作成	特別活動テキスト第3章第1節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
5	生徒会活動・児童会活動	生徒会(児童会)活動の歴史・目標・内容。 学級経営に役立つワーク	特別活動テキスト第3章第2節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料を参考に復習をする(2時間)。
6	学校行事	学校行事の歴史・種類・内容・観点 グルーワーク:学校行事の思い出	特別活動テキスト第3章第3節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
7	特別活動の指導計画の作成にあたっての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第1節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
8	特別活動の内容の取扱いについての配慮事項	グループに分かれ、担当の箇所についてまとめ、プレゼンをする。(ABDによる)	教科書第4章第2節を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
9	特別活動の歴史	学習指導要領における位置づけの変遷、課題の変化、目標の変化、時代背景との関係 個別ワーク:戦後の特別活動の歴史をまとめる	講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
10	外国における特別活動 特別活動の指導を担当する教師	諸外国ではどのような特別活動が行われているか理解する。 個別ワーク:特別活動を指導する教師に必要な力	特別活動テキスト第4章第4節、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
11	総合的な学習(探求)の時間の目標・内容・原理	総合的な学習(探求)の時間の目標の構成、各学校において定める目標及び内容、方法的原理 グルーワーク:総合的な学習の思い出	総合的な学習の時間のテキスト第1・2・3章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
12	総合的な学習(探求)の時間の指導計画	全体計画、年間計画、単元計画の作成 学校現場で役立つワーク1	総合的な学習の時間のテキスト第5章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
13	探究的な学習の過程について	生徒の主体性を重視した学習指導、探究的な学習の過程における主体的で対話的で深い学び 学校現場で役立つワーク2	総合的な学習の時間のテキスト第2・7章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
14	総合的な学習(探求)の時間の評価	カリキュラムマネジメントの考え方による全体計画、年間計画、単元計画の評価、生徒の学習状況の評価 学校現場で役立つワーク3	総合的な学習の時間のテキスト第5・6・8章、講義資料、ワーク資料を事前に読んでおく(2時間)。講義資料、ワーク資料を参考に復習をする(2時間)。
15	補足とまとめ/最終レポートについて	補足を行うとともに全学習事項について再度振り返り整理する。 個別ワーク:総合的な学習の時間を指導する教師に必要な力	・第1回目から14回目までの配布資料に目を通して全体を復習しておく。 ・課題に沿ったレポートを作成する。

**関連科目** すべての教職科目と関連するが、特に、教師論、教育心理学で学習したことと関連づけるとともに、教育方法論、生徒指導論、道徳教育論、教育

	社会学などの学習につなげることが大切である。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領解説 総合的な学習の時間編 平成29年告示	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 特別活動編 平成29年告示	文部科学省	東京書籍
	2	高等学校学習指導要領 総合的な探求の時間編 平成29年告示	文部科学省	学校図書
	3			
評価方法 (基準)	授業への参加状況及び課題 (40%)、中間レポート (30%)、最終レポート (30%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	学級はもともと「ある」ものではなく、つくって「なる」ものだというのが言われる。子どもどうしがつながりあって、心地よい関係の中で育つことができる環境をつくり、維持するために努力するという事に尽きる。それは、どのような時代にあっても教師であることの醍醐味である。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3F松浦研究室			
備考	授業外学習総時間を60時間とする。			

科目名	教育方法論	科目名 (英文)	Studies of Educational Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 祥輝
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育方法の基礎的な知識・技術を修得し、今求められる教育・学びのあり方を踏まえた授業をデザインし、実践できるようになることを目的とする。受講生には学習指導案を作成するとともに、10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業の相互批評を体験することで、模擬授業による効果的なリフレクションの方法を学ぶ。これにより今後、受講生が自主的・主体的に授業を構想・実践し省察することを通して、教師として授業の力量を高めていけるようになることを目指す。
到達目標	(1) 教育方法の基礎的な知識・技術を修得している。 (2) 今求められる教育・学びのあり方を踏まえ、授業をデザインし、実践することができる。 (3) 模擬授業で起きた出来事をもとに省察し、授業を改善することができる。
授業方法と留意点	(1) 講義は対面で実施する。 (2) 前半は講義を中心とするが、受講生に発言を求めることがある。また、模擬授業検討会のあり方や授業観察の方法論を、授業記録・授業映像を用いて実践しながら学ぶ。後半は、受講生全員に学習指導案の作成と10分間の模擬授業の実施を求める。模擬授業は教師役として実施するだけでなく、生徒役として授業を受けて疑問や感想を出し、振り返ることも大切である。 (3) 授業資料は印刷して配布するほか、オンライン上で共有する。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修科目である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教育の方法及び技術術（情報機器及び教材の活用を含む。）

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション:授業とは何か	授業という営みの本質や、教師として授業の力量を高める方法論を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)
2	今求められる教育・学びの在り方とは	社会の変化や教育政策の動向などを踏まえ、これからの社会を担う子どもたちに求められる学力や授業・学びのあり方を概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
3	教育目標の明確化と教育評価	教育目標を明確化する意味、目標に対応させた評価を指導や学習に活かす方法を学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
4	教材研究の方法論	教材研究とは何か、すぐれた教材とはどのようなものかを、実例を通して学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
5	学習のための空間作り	教室空間のデザインや ICT 活用を含む学習ツールの活用など、学習のための空間作りについて概観する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
6	技とテクノロジーの活用	板書、ノート指導、情報機器活用といった指導技術や、情報活用能力育成を志向する指導のあり方について学ぶ。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
7	学習指導案の意義と指導案作成	学習指導案を作成する意義や授業の構想力を高める指導案のあり方を学ぶ。また、指導案作成を書く際のポイントを紹介する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う (10時間)	
8	模擬授業・検討会のあり方	授業で起きた出来事をもとに省察し、授業づくりの考え方を学ぶような模擬授業検討会のあり方を学び、実際に体験する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う (10時間)	
9	授業観察の方法と授業をみる視点	授業観察の際、授業をどのような視点で検討すれば良いか、またどのような記録を残せばよいかを学ぶ。授業ビデオを用いて授業記録をとる練習を行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間) 模擬授業に向けて指導案作成と授業の練習を行う (10時間)	
10	模擬授業・検討会：教育目標・評価に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に目標と評価の対応に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
11	模擬授業・検討会：教材に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に教材の活用（デジタル教材を含む）に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
12	模擬授業・検討会：学習空間に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に学習のための空間作りに着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
13	模擬授業・検討会：技とテクノロジーの活用に着目して	模擬授業とリフレクションを実施する。特に指導技術や ICT 活用に着目した振り返りを行う。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
14	実践記録と力量形成	実践記録を読むこと・書くことを通して、教師として授業の力量を高めるための方法を学ぶ。実践記録を読み、考察する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間)	
15	総括：教師としての力量形成	教師として授業の力量を高める方法論を、これまでの講義を振り返りながら総括する。	授業終了時に示す小課題・コメントカードを記入する (1時間) 模擬授業の振り返りを踏まえて指導案を改稿する (15時間)	

関連科目 同時期開講の教育課程論と密接にリンクしている。教育課程論では1単元のカリキュラム編成を、教育方法論ではその単元に含まれる一時間の授業の指導案作成を求める。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業づくりの深め方	石井英真	ミネルヴァ書房
	2	授業づくりの考え方	渡辺貴裕	くろしお出版
	3	時代を拓いた教師たち	田中耕治編著	日本標準
評価方法 (基準)	(1) 模擬授業（学習指導案作成を含む）（50%）：学習指導案作成、および10分間の模擬授業を実施する。 (2) コメントカード・小課題（20%）：講義・模擬授業・検討会の振り返りを毎回の講義後に記入する。 (3) 授業内課題（30%）：模擬授業でうけた意見をもとに、学習指導案を改稿し提出する。 ※評価基準・規準（ルーブリック）は講義内で提示する。			
学生への メッセージ	授業のお知らせはTeamsを通して連絡します。必ずTeamsに登録してください。			
担当者の 研究室等	7号館3階(鎌田研究室)			
備考	事前・事後学習総時間を60時間とする。 受講生の人数により、模擬授業・検討会の実施日が増減する可能性がある。			

科目名	生徒指導論 (進路指導を含む)	科目名 (英文)	Studies of Guidance and Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西村 晃一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>昨年、子どもたちを取り巻く環境は大きく変化し続けている。いじめ・暴力行為・不登校・中途退学・自殺など多岐にわたり、課題が山積している。本講義では、生徒指導および進路指導について理解を深める。理論と実践の往還を重視し、具体的な事象を取り上げながら授業を展開することで、生徒指導の諸課題に対応し、進路指導を通じたキャリア教育の実現に寄与する。</p>
到達目標	<p>本講義を通して、生徒指導および進路指導の意義を理解する。児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題について研鑽を重ね、学校現場の問題点について主体的に考える素養を養う。また、進路指導では広くキャリア発達の視点から学び、将来教員になった際、子どもたちの社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てる力を培うことを目標とする。</p>
授業方法と留意点	<p>授業は対面形式で行う。PowerPointを用いながら授業を展開し、毎時間課題を提示する。また、Teamsのファイルより、各資料を共有する。本講義は、アクティブ・ラーニングを採用しているため、ディスカッションやKJ法、ロールプレイを通して理論と実践の往還を目指す。加えて、授業では教科書を使用するため、毎時間持参すること。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：生徒指導の理論及び方法、進路指導及びキャリア教育の理論及び方法</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生徒指導の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の定義と目的</li> <li>生徒指導の構造 (2軸3類4層構造)</li> <li>チーム支援による組織的対応</li> </ul>	教科書P.12～38 学習課題：子どもの権利条約
2	生徒指導と教育課程	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童生徒の発達を支える教育課程</li> <li>教科、道徳科、総合的な学習 (探求) の時間、特別活動の各領域と生徒指導との関連</li> </ul>	教科書P.39～67 学習課題：探求学習の4STEP
3	チーム学校による生徒指導体制	<ul style="list-style-type: none"> <li>チーム学校における学校組織と生徒指導体制</li> <li>生徒指導と教育相談が一体となったチーム支援</li> </ul>	教科書P.68～118 学習課題：チーム学校
4	個別の課題に対する生徒指導：いじめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>いじめ防止対策推進法</li> <li>いじめに関する生徒指導の重層的支援構造</li> <li>関係機関等との連携体制</li> </ul>	教科書P.119～140 学習課題：いじめの定義と関係法規
5	個別の課題に対する生徒指導：暴力行為	<ul style="list-style-type: none"> <li>暴力行為に対する対応指針</li> <li>暴力行為に関する生徒指導の重層的支援構造</li> <li>関係機関等との連携体制</li> </ul>	教科書P.141～152 学習課題：暴力行為の定義
6	個別の課題に対する生徒指導：少年非行	<ul style="list-style-type: none"> <li>少年法と児童福祉法</li> <li>少年非行の基本的な対応</li> <li>喫煙、飲酒、薬物乱用</li> <li>特定少年</li> </ul>	教科書P.153～170 学習課題：犯罪白書
7	個別の課題に対する生徒指導：児童虐待	<ul style="list-style-type: none"> <li>児童福祉法、児童虐待の防止に関する法律</li> <li>学校の体制</li> <li>虐待対応に対するアセスメント</li> </ul>	教科書P.171～188 学習課題：児童虐待の定義と虐待事例
8	個別の課題に対する生徒指導：自殺	<ul style="list-style-type: none"> <li>自殺対策基本法</li> <li>自殺防止のための学校の組織体制と計画</li> <li>関係機関との連携に基づく自殺予防の体制</li> </ul>	教科書P.189～208 学習課題：自殺の動向
9	個別の課題に対する生徒指導：中途退学、インターネットに関わる問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>中途退学の関係法規と基本方針</li> <li>インターネット問題への組織的取組</li> <li>各課題に対する重層的支援構造</li> </ul>	教科書P.209～220, P.240～254 学習課題：インターネットトラブル
10	個別の課題に対する生徒指導：不登校	<ul style="list-style-type: none"> <li>不登校に関する関係法規と基本方針</li> <li>不登校対応に求められる学校の組織的体制と計画</li> <li>関係機関との連携体制</li> </ul>	教科書P.221～239 学習課題：不登校の定義、教育機会確保法
11	個別の課題に対する生徒指導：多様な背景を持つ児童生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>性に関する課題</li> <li>発達障害に関する課題</li> <li>支援を要する家庭状況</li> <li>外国人児童生徒</li> </ul>	教科書P.255～289 学習課題：性的マイノリティ
12	進路指導とキャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリア教育とは何か</li> <li>進路指導とキャリア教育の歴史的背景</li> </ul>	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：4領域8能力
13	進路指導：キャリア教育を通して育成すべき「4領域8能力」	<ul style="list-style-type: none"> <li>4領域8能力</li> <li>基礎的、汎用的能力</li> </ul>	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：キャリア教育
14	進路指導：中学校・高等学校における実践	<ul style="list-style-type: none"> <li>中学校におけるキャリア発達</li> <li>高等学校におけるキャリア発達</li> <li>校種間連携</li> </ul>	キャリア教育の手引き (配布資料) 学習課題：生徒指導と進路指導
15	生徒指導と進路指導	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の諸課題</li> <li>進路指導とキャリア教育の結び付き</li> <li>総括</li> </ul>	学習課題：第1～14回で最も関心のあるトピックを1つ挙げて論述

関連科目	「教育の基礎的理解に関する科目」全般に関連する。		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	生徒指導提要	文部科学省	東洋館出版社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	
	3	生徒指導提要	文部科学省	
評価方法 （基準）	期末試験 60%，毎時間の課題・レポート 40%とする。			
学生への メッセージ	生徒指導とは、児童生徒が、社会の中で自分らしく生きることができる存在へと、自発的・主体的に成長や発達する過程を支える教育活動のことである。ゆえに、学生自身が自発的・主体的に学び、豊かな人間性を養う必要がある。本講義では、双方向の学習を取り入れている。積極的な参加を期待している。			
担当者の 研究室等	7号館3階 西村研究室			
備考	本講義は、複数の曜日時限が設けられている。必ず、自身が履修登録をしている曜日時限の Teams コードに登録すること。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度である。			



科目名	教育相談 (カウンセリングの基礎を含む)	科目名 (英文)	School Counseling
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 教育相談は、幼児児童生徒が自己理解を深めたり好ましい人間関係を築いたりしながら、集団の中で適応的に生活する力を育み、個性の伸長や人格の成長を支援する教育活動である。幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。  
 特に、学校における教育相談に焦点を当て、教師が行う教育相談活動の基本的な考え方や教育相談に必要なスキルを身につけるために、教育相談のもつ今日的な意義を解説し、カウンセリングの基礎知識及びその実践的な手法を紹介する。併せて生徒理解と「問題」への対応について、実践的な取り組み方を考える。

**到達目標**  
 ① 幼児児童生徒の発達状況に即しつつ、個々の心理的特質や教育的課題を適切に捉え、支援するために必要な基礎的知識 (カウンセリングの意義、理論や技法に関する基礎的知識を含む) を身に付ける。  
 ② 教育相談の基本的な考え方や、カウンセリングの基礎、生徒理解と「問題」への対応についての知識を得ることができる。  
 ③ その上で、生徒を支援するための具体的な方法について考えることができる。

**授業方法と留意点**  
 講義と演習を組み合わせで行う。講義の資料は、事前に Moodle で配付するので、各自入手しておくこと。演習は、グループごとに取り組んだ課題について発表するものとする。

**科目学習の効果 (資格)**  
 教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目」4 単位のうち 2 単位を充足。  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目  
 各科目に含める必要事項：教育相談 (カウンセリングに関する基礎的知識を含む。) の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育相談とは何か	教育相談の意義、教師としての立場、カウンセリングマインド	テキスト第 1 講、配付資料を用いた予習・復習
2	カウンセリングの基礎	カウンセリングの基本的な考え方や、カウンセリングの技法	テキスト第 2 講・第 3 講、配付資料を用いた予習・復習
3	チームビルディング	グループワーク (アイスブレイク含む)	検討したいテーマについてよく考えておく グループ発表の準備
4	教育相談の体制	教育相談の構造、チーム支援の意義、チームの作り方	テキスト第 1 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
5	教育相談の実際 1	チーム支援のプロセス、アセスメント	テキスト第 1 講・第 10 講・第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
6	教育相談の実際 2	チーム支援の実際	テキスト第 1 講・第 10 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
7	パーソナリティ理解	パーソナリティを理解するために、パーソナリティ理解をゆがめるもの	テキスト第 11 講・第 12 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
8	“問題”の理解と対応 1	“問題”とは何か、その原因・背景と対応、適応過程	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
9	“問題”の理解と対応 2	ストレス、欲求不満、葛藤	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 グループ発表の準備
10	心の発達と危機	認知の発達、自己意識の発達、道徳性の発達、仲間関係の発達	テキスト第 9 講、配付資料を用いた予習・復習 教育心理学の復習 グループ発表の準備
11	学校における諸課題とその対応①	不登校.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第 5 講、配付資料を用いた予習・復習
12	学校における諸課題とその対応②	いじめ.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第 4 講、配付資料を用いた予習・復習
13	学校における諸課題とその対応③	授業崩壊・学級崩壊.....その理解と対応 (グループ発表)	配付資料を用いた予習・復習
14	学校における諸課題とその対応④	反社会的行動.....その理解と対応 (グループ発表)	テキスト第 7 講、配付資料を用いた予習・復習
15	これからの教育相談	新たな課題、教師のメンタルヘルス、さらなる連携	テキスト第 13 講・第 15 講、配付資料を用いた予習・復習

**関連科目** 教職課程の科目全般

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	よくわかる! 教職エクササイズ3 教育相談 [第 2 版]	森田健宏・吉田佐治子 (編著)	ミネルヴァ書房
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)** グループ発表 50%、期末試験 50%

**学生へのメッセージ** これまでの学校での「困った」経験を思い出してみてください。

担当者の研究室等	7号館3階(吉田研究室)
備考	<p>グループ発表について、他の受講者からの評価をまとめたものを次回授業時に配付します。  グループ内ではピア評価を行います。  事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。</p> <p>Teams コード  月曜2限: xfdelyw  火曜2限: mi255ww  木曜1限: irmdqyv  木曜4限: ui2p7a7</p> <p>Moodle コース名と登録キー  月曜2限: 2024 教育相談 (月2) あるいは 24 教育相談 (月2) 2024ECMON2  火曜2限: 2024 教育相談 (火2) あるいは 24 教育相談</p>

科目名	工業科教育法 I	科目名 (英文)	Engineering Education I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	工業科教育法 I では、工業教育の意義・役割・目標や教育関連法規、歴史と現状などについて学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得と課題対応能力の向上を図る。 授業担当者の工業高等学校教諭・校長、教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。
到達目標	工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを併用した講義を行い、レポートの提出を求める。質疑応答等についても対面講義の中でを行い、実践的な能力の向上を図る。また、小テストも実施する。
科目学習の効果 (資格)	高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	工業教育の意義・歴史・法令関係 <意義・役割・目標・内容等>	工業教育の目標やその内容、適正年齢等について解説する。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
3	工業教育の意義・歴史・法令関係 <意義・役割・目標・内容等>	工業教育における技術者倫理の育成について解説する。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
4	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (日本国憲法、教育基本法等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
5	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (新旧教育基本法の比較等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
6	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (学校教育法等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
7	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (学校教育法施行規則、地教法等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
8	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する。(高等学校学習指導要領総則関係)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
9	工業教育の意義・歴史・法令関係 <教育関係法令>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (工業高等学校の目標等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
10	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	教育関係法令の種類と法令のおもな部分について解説する (高等学校学習指導要領解説工業編)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
11	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代初期の工業の教育等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
12	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (明治時代中期以降の工業の教育等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
13	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	日本の工業高校歴史と現在の状況について解説する (大正時代以降の工業の教育の歴史、現在の状況等)。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
14	工業教育の意義・歴史・法令関係 <工業高校発展の歴史と現状>	工業高等学校の学科の種類とその特徴を解説し、専門高校の全体像を把握する。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)
15	教科・工業の内容関係 <教科・工業の共通科目>	工業技術基礎および課題研究の指導内容・方法について解説し、教材等について研究協議を行う。 工業科教育法 I で学習したことをまとめる。	参考書等による事前学修 (2時間) 授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (2時間)

関連科目	教職に関連する科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
	2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省	
	3	新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社
評価方法 (基準)	提出物 70%、小テスト 30%により評価する。			
学生への メッセージ	工業教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室、図書館			
備考	連絡は 3 号館 1F 教務課へ			

科目名	工業科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Engineering Education II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	福岡 優
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
工業科教育法Ⅱでは外国や専門学校における工業教育、さらに、工業高等学校における学習指導・学習指導計画の作成から授業の進め方と成績評価・授業改善、進路指導等について学び、工業高等学校教員として必要な基礎的知識の修得を図る。  
授業担当者の工業高等学校教諭・校長、教育センター指導主事の経験を活かし、実践力を育成する授業を行う。

**到達目標**  
工業高等学校において教育を行うために必要な基礎的知識や技能を得ることができる。

**授業方法と留意点**  
パワーポイントを併用した講義を行い、模擬授業も行う。

**科目学習の効果 (資格)**  
高等学校教諭一種免許状(工業)を得るために必要。  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教科及び教科の指導法に関する科目  
各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する(韓国)。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
2	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する(アメリカ)。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
3	外国の技術・工業教育について	外国の技術・工業教育の具体例を説明する(ドイツ)。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
4	専修学校について	専修学校等などの工業教育の内容について説明する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
5	教材・教具と報告書について	工業高等学校における教材・教具と報告書について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
6	安全教育について	工業高等学校における安全教育について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
7	授業と学習指導案について	工業高等学校における授業と学習指導案について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 授業終了時に示す課題についてのレポート作成(2時間)
8	学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について	工業高等学校における学習指導案の作成、評価規準、教材の活用について解説する。	参考書等による事前学修(2時間) 学習指導案の作成(2時間)
9	模擬授業1と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
10	模擬授業2と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
11	模擬授業3と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
12	模擬授業4と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
13	模擬授業5と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
14	模擬授業6と評価および意見交換	工業各分野に関する科目の模擬授業を実施し、研究協議を行う。	模擬授業の研究協議について事後学修(4時間)
15	工業科教育法Ⅱのまとめ	工業高校における工業教育について研究協議を行う。	参考書等で事前学習(4時間)

**関連科目**  
教職に関連する科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領	文部科学省	
2	高等学校学習指導要領解説工業編	文部科学省		
3	「新しい観点と実践に基づく工業科教育法の研究」	池守滋、佐藤弘幸、中村豊久	実教出版株式会社	

**評価方法 (基準)**  
提出物50%、模擬授業50%により評価する。

**学生へのメッセージ**  
工業科教育に必要な科目です。主体的な学びを期待します。

**担当者の研究室等**  
非常勤講師室、図書館

**備考**  
連絡は3号館1F教務課へ

科目名	数学科教育法 I	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法 I では、高等学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できるようにするための基礎的な実践能力の育成をめざす。「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」をとらえ、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。また、問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ学習を重視し、マイクロティーチング・プレゼンテーションを通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。
到達目標	(1) 現行の学習指導要領を踏まえて、学習目標をたて、指導案を作成し、高等学校数学科の科目内容に関する30分程度のマイクロティーチングを行うことができる。 (2) 相互評価・自己評価を通じて、現在の自分を見つめ直し、教育観・教育力を育むことができる。
授業方法と留意点	講義形式の授業だけでなく、15回の授業の後半でのマイクロティーチングにおいてはグループ学習・活動を実施する。自らが発見した課題に積極的に取り組むことにより学ぶ「メタ学習」を根本におく。加えて、レポートの提出を求める。ビデオ、教材提示装置等視覚教材を用いた講義も行う。課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果 (資格)	「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。(高等学校一種免許 (数学)) 数学科教育法 I の内容は数学科教育法 II へつながる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方	課題レポート
2	教育と評価(1)	「評価」観の変遷から新しい「学力」観におけるメタ認知・メタ学習における評価について考える。	課題レポート
3	教育と評価(2)	教育における指導と評価を一体化させる方法を考え、「教育改善のための評価法」に統合する。	課題レポート
4	数学教育の目的と目標	教授の概念を学び、教授論の歴史的展開から教授メディアの発展及び学習理論について学ぶ。	課題レポート
5	新しい学力観	数学的な見方・考え方に関わる教授法に関する知識を、学習理論に結びつけ、新しい「学力」観について考える。	課題レポート
6	生きる力(1)	近接校種等の総合的な学習の時間における教育のあり方を学び、先進的な実践校の内容と、その分析をおこなう。	課題レポート
7	生きる力(2)	教授法・学習理論をメタ学習・数学教育の観点から教育の現場で役立つ力とする。	課題レポート
8	学級崩壊・学力崩壊	近接校種の教育の現場の状況を知り、各自の目指す校種に至るまでの現状を知る。特に小学校低学年における学級崩壊の実状を考察して、各自の教育観をたてる。	課題レポート
9	学習指導要領(1)	学習指導要領制定の経緯、変遷の経過に、それぞれの時代の求められた教育観がいかに反映されたかを学ぶ。	課題レポート
10	学習指導要領(2)	高等学校の学習指導要領について学び、その目標や内容について知り、教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	課題レポート
11	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	課題レポート
12	マイクロティーチングの方法	教育機器と教授メディア、教授メディアの発展と現状、チャート・カード・OHPなどの活用について。	課題レポート
13	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(1)	各自の求める数学教育について、「30分間のマイクロティーチング」にまとめ、実践する。	課題レポート
14	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(2)	グループ員各々のマイクロティーチングを「学ぶものの立場」、「同僚(教えるもの)としての立場」で相互評価し、「教えるもの」としての自己評価を加えて総合的にまとめる。	課題レポート
15	マイクロティーチング(プレゼンテーション)・グループ学習(3)	マイクロティーチングの相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	課題レポート

関連科目 本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目をあらかじめ履修しておくことが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領(平成30年告示)解説 数		学校図書

		学編 理数編		
	2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編		東洋館出版社
	3	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編		日本文教出版
参考書				
	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	バズ式セッションを中心に展開(グループ員との連携が必須・特に欠席時)。マイクロティーチング(模擬授業)は必須。レポートの提出を求める。マイクロティーチングと評価のまとめで50%、レポートと日常学習状況(出席状況を含む)の評価を50%とする。			
学生へのメッセージ	将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、グループ活動においては、新しい教材開発など積極的な活動を求める。			
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室			
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回2時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。			

科目名	数学科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	数学科教育法Ⅱでは、高等学校数学科教員を目指す学生が実際に教育を担当できうるための基盤となる実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰでまとめあげた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成し、生徒の学習意欲を高め、自ら学び自ら考える力を育成できるプロジェクトをたて、教育コースウェアを研究・開発し、バズ式セッション・グループ活動・他者評価・自己評価、相互評価などで実践的な学びを展開する。
到達目標	高等学校数学科の科目内容に関して、学習目標・内容・評価を含む指導計画を立て、学習指導案（指導細案）を作成し、約50分のマイクロティーチング（模擬授業）を行うことができる。
授業方法と留意点	授業では、講義だけでなくグループ学習・活動を取り入れ、学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力を涵養する。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。
科目学習の効果（資格）	「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。（高等学校一種免許（数学）） 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、ガイダンス、全体の展望、学習の進め方。	課題レポート
2	生きる力と確かな学力、学力観(1)	高等学校教科「数学」や専門教科「理数」において、生徒の学習意欲を高め、生きる力を支える「確かな学力」について考える。	課題レポート
3	生きる力と確かな学力、学力観(2)	「生徒が数学的な見方・考え方が好きだと思ふこと」とは、また「授業以外に学ぶ習慣を体得できる種々の方策」とはについて考える。	課題レポート
4	生きる力と確かな学力、学力観(3)	「生活の中での数学の有効性を体験し、論理的に考える態度の育成」とは、また「人やものと関わる力を高めるための体験」とはどのようなものであるかを考える。	課題レポート
5	生きる力と確かな学力、学力観(4)	身近な事象から、どのような数学的知識が引き出されているか具体例を挙げ、数学的思考の構成過程を振り返って、当初の事象にどのように活用されているかを考える。	課題レポート
6	高等学校の数学教育開発プロジェクト(1)	高等学校普通教科数学「Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、A、B、数学活用」や専門科目「理数」の各々について、その理念と意義及び目標・内容について理解する。	課題レポート
7	高等学校の数学教育開発プロジェクト(2)	理解の過程で各自が持った問題意識でテーマをたて「自分が求める数学教育」を設定し、各自のたてた学力観から教授モデルや評価のあり方についてさらに考えをすすめる。	課題レポート
8	高等学校の数学教育開発プロジェクト(3)	自ら学び自ら考える力や表現力を身につけさせることができる「各自の行いたい教育コースウェア」を開発するプロジェクトを考察する。	課題レポート
9	高等学校の数学教育開発プロジェクト(4)	教育目標・目的、内容・方法、評価について考え、教育課程、年間指導計画、単元計画、本時の学習についての学習指導案・学習指導細案・ワークシート・板書計画・評価法をまとめ上げる。	課題レポート
10	バズ式セッション、模擬授業・評価(1)	グループ活動として、各自の開発した教育コースウェアについてバズ式セッションで討議する。	課題レポート
11	バズ式セッション、模擬授業・評価(2)	討議の結果をフィードバックして各自の考えた教育コースウェアを修正し、「50分間の模擬授業」を行う。	課題レポート
12	バズ式セッション、模擬授業・評価(3)	各自の考えた「評価規準」「評価基準」「ルーブリック」等で評価を行い、観点別評価を実践する。	課題レポート
13	バズ式セッション、模擬授業・評価(4)	実践により各々のプロジェクト型問題解決学習を完結し、一人ひとりの「Plan-Do-Check-Action のサイクル」をシステマティックに組み上げる。	課題レポート
14	バズ式セッション、模擬授業・評価(5)	教育者としての基盤を確立し、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	課題レポート
15	まとめ	高等学校教科「数学」の学習指導要領について体系的な知識を身につけ、「生きる力」や「確かな学力」について考えを	課題レポート



		まとめ、各自の「学力観」を立てる。		
関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法 I を履修すること。他の教職関連科目、一般教養科目などもあらかじめ履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 数学編 理数編		学校図書
	2	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 総則編		東洋館出版社
	3	中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 数学編		日本文教出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法（基準）	マイクロティーチング（模擬授業）は必須。授業への参画（受講態度、平常点）、課題提出、課題解決の経過等の日常学習状況の評価が50%、マイクロティーチングと評価のまとめで50%とする。			
学生へのメッセージ	生徒の自己実現を支援する高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち、常に問題を発見し問題解決・課題解決に情熱を傾け、日々の課題を着実に解決し、自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的に行う学生の受講を希望する。			
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室			
備考	事前・事後学習には、それぞれ毎回2時間を目安に、十分時間をかけて取り組むこと。			

科目名	数学科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>・数学科教育法Ⅲでは、中学校数学科教員を目指す学生の意識を高め、実際に教育を担当できうるための基礎的な実践能力の育成をめざす。</p> <p>・中学生の実態を捉え、「カリキュラム・教育目標・目的・方法・内容・評価・教授及び学習に関する理論」に関する知識を展開し、数学教育における教育の方法や技術の修得に重点を置く。</p> <p>・問題発見力と解決のための「情報活用法」を体得するべく、グループ形成時にはその学習を協力的体制を重視し、プレゼンテーション・模擬授業を通して「教えるもの」と「学ぶもの」の相互の立場を経験し、自己の教育観・教育力の基礎的基盤の確立を目指す。</p> <p>・校種間の連携も考え、特に、小学校の学習・指導についても学ぶ。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導の理解</li> <li>・数学的な活動の理解と体得</li> <li>・授業力の理解とその育成</li> <li>・模擬授業の基礎力</li> <li>・評価と評定についての理解</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>受講生数によっては、グループ学習・活動を実施することもある。</p> <p>設定した課題（学習単元の指導法など）に積極的に取り組む。</p> <p>成果として、発表・レポートの提出を求める。</p>
科目学習の効果（資格）	<p>「創造型人材育成教育（数学教育）を実践しうる教育者」となるための基礎・基本の確立ができる。（中学校一種免許（数学））</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
2	数学教科書分析（1）	学習指導要領などを基に教科書の分析法や、授業・指導の組織化の方法について学ぶ。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
3	数学教科書分析（2）	教科書を比較することから数学指導における注意点を認識し、その指導法について考える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
4	学習指導案作成	典型的な学習指導案の作成について学ぶ。（学習指導要領から目標などを学ぶ。）	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
5	教科書分析・模擬授業に関わる考察（1）	各自の発表に関して、該当単元設置の目的、注意点についてまとめ、発表する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
6	教科書分析・模擬授業に関わる考察（2）	相互の準備状況について意見交換を行い、発表に備える。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
7	数学科教授計画	授業の設計法を体系的に学ぶ。目標の分析法や、授業・指導の設計法を体系的に学び、その知識を援用して学習指導案にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
8	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習（1）	各自の求める数学教育像の一つとして、「10or15分間の模擬授業」をまとめ、実践する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
9	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習（2）	グループ員各々の模擬授業を「学ぶもの」の立場、「同僚（教えるもの）」としての立場で相互評価し、自己評価を加えて総合的にまとめる。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
10	模擬授業（・プレゼンテーション）・グループ学習（3）	模擬授業の相互評価と自己評価の発表と検討により、自己の教育力・評価力育成のための方法を体得する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
11	数学教育の歴史	数学教育体制がどのように始められ変遷してきたか学ぶ。 学習指導要領の下、戦後の数学教育の発展に考察する。 また、数学教育史から現代数学教育を見つめなおす。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
12	数学教材とその応用（1）	教科横断型、学年・校種を越えた数学教育の探求授業について考察していく。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
13	数学教材とその応用（2）	数学教材（発展的内容を含む）の一分野を基に教育・指導観を吟味する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
14	数学教材とその応用（3）	数学教材（発展的内容を含む）の一分野を基に課題研究に取り組む準備を行う。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（180分） 次回の内容を確認する（60分）
15	まとめ	具体的な問題を取り上げ、学習してきた内容を基に、その指導法について考察する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成（240分）

関連科目	本科目を学ぶまでに開講されている他の教職関連科目、一般教養科目を予め履修しておくことが望ましい。
教科書	

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>中等数学科教育法序論</td> <td>黒田恭史</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	中等数学科教育法序論	黒田恭史	共立出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	中等数学科教育法序論	黒田恭史	共立出版														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 模擬授業関係を含む発表 (30%)</li> <li>○ 受講生同士の連携など (10%)</li> <li>○ 学習状況・レポート (60%)</li> </ul> <p>※模擬授業関係を含む発表は必須 ※受講人数によってはグループ分けを行う</p>																
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ まずは、教育実習に対応できる教科指導法を身につける。</li> <li>○ 将来教員をめざす学生の切磋琢磨の場として、プレゼンテーション能力の育成をはかり、新しい教材開発など積極的な活動を求める。</li> </ul>																
担当者の 研究室等	<p>対応は、当該講義内が中心となります。 ただし、連絡を取る必要がある場合は、指定メールを利用してお問い合わせください。</p>																
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。</li> <li>○ 第1回目に本授業に関する説明を行います。教科書準備などはその後に判断してください。</li> <li>○ 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</li> </ul>																

科目名	数学科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	Method of Mathematics Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	富永 雅
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>数学科教育法Ⅳでは、中学校・高等学校の数学科教員を目指し、実際に教科教育を担当できるようにするための高度な実践力の育成をめざす。数学科教育法Ⅰ、Ⅱ、Ⅲで培ってきた各自の「教える立場に立ったときの心構え・知識」と、体験したマイクロティーチングを礎にして、生きる力を知的な側面から支える「確かな学力」を育成するための教育コースウェアを研究・開発する。</p> <p>具体的には、探求型授業の取り組みなど行うために自らが題材設定し、その題材を様々な角度から分析・教材開発していく。また必要に応じてグループ活動を学習形態に取り入れ、学習意欲が高まり、自ら学び自ら考える力を育てられるよう工夫を行う。また、高度化された教科内容あるいは教科横断的教科内容を 取り入れることもある。</p> <p>受講生は、それらを自己評価、あるいは相互に評価し合い、より完成度の高い授業を構築する。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校学習指導要領 (数学) の内容の体得</li> <li>・数学的な活動を含んだ教育教育についての理解</li> <li>・学習指導案の作成力</li> <li>・マイクロティーチングの実践力</li> <li>・各領域における一層の理解 (高度化された教育内容・教科横断的学習を含む)</li> </ul>
授業方法と留意点	学ぶ意欲を維持し自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決し、プレゼンテーションする資質や能力の涵養を目指す。
科目学習の効果 (資格)	<p>「創造型人材育成教育 (数学教育) を実践しうる教育者」となるための基盤力が涵養できる。(中学校一種免許 (数学))</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	本授業のねらいと展開	本教科科目の内容、特徴、学び方、全体の展望、学習の進め方	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
2	・テーマ決め(1) (含:学習指導要領の概括)	中・高等学校数学の学習内容を改めて概括、領域の確認を行う。 発展教材例を参考に、本授業を通しての自身のテーマを設定する。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
3	・テーマ決め(2)	発展教材例を参考に、本授業を通しての自身のテーマを設定する。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
4	数学設定テーマ内容深化 (1)	設定したテーマ内容についての日常への応用、先行研究などについて内容把握し、テーマへの理解を深める。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
5	数学設定テーマ内容深化 (2)	設定したテーマ内容についての日常への応用、先行研究などについて内容把握し、テーマへの理解を深める。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
6	数学教材の応用	例示されたテーマで本授業の進め方を知り、各テーマのこれから進め方について確認する。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
7	数学設定テーマと学校数学教材 (1)	学校数学 (学習指導要領・教科書) とその応用を用いて、設定テーマの応用について考察する。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
8	数学設定テーマと学校数学教材 (2)	学校数学 (学習指導要領・教科書) とその応用を用いて、設定テーマの応用について考察する。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
9	数学設定テーマと学校数学教材 (3)	学校数学 (学習指導要領・教科書) とその応用を用いて、設定テーマの応用について考察する。(第3グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
10	数学科指導案作成	これまでの学びを基に、テーマに沿って授業内容を構成する。 (予備発表を行うこともある)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
11	数学設定テーマの最終発表 (1)	設定テーマでの数学教材発表 (評価も取り入れる予定) を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。(第1グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
12	数学設定テーマの最終発表 (2)	設定テーマでの数学教材発表 (評価も取り入れる予定) を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。(第2グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
13	数学設定テーマの最終発表 (3)	設定テーマでの数学教材発表 (評価も取り入れる予定) を行い、その学習内容・指導の在り方、問題点を確認し、深みある吟味を行い、まとめにつなげる。(第3グループ)	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
14	数学設定テーマ報告書について	設定テーマで報告書を作成し、その内容について、討議なども可能な限り行い修正の後、完成に近づける。	授業終了時に示す課題についてレポートの作成 (180分) 次回の内容を確認する (60分)
15	まとめ	数学教育に必要な体系的な知識を身に	授業終了時に示す課題についてレポートの作成

			つけ、「生きる力」や「確かな学力」についても考慮し、教育者としての基盤を確立、自己の教育力（授業改善力・評価力等）育成のための方法を体得する。	(240分)
関連科目	本科目を学ぶまでに数学科教育法Ⅲを履修すること。他の教職関連科目，一般教養科目なども予め履修しておくことが望ましい。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中等数学科教育法序論	黒田 恭史	共立出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 模擬授業関係を含む発表 (30%)</li> <li>○ 受講生同士の連携など (10%)</li> <li>○ 学習状況・レポート (60%)</li> </ul> ※模擬授業関係を含む発表は必須 ※受講人数によってはグループ分けを行う			
学生への メッセージ	生徒の自己実現を支援する中学校・高等学校数学科の教員を目指すという目的意識を持ち，常に問題を発見し，問題解決・課題解決に情熱を傾け，日々の課題を着実に解決し，自ら継続的に問題（課題）解決のための取り組みを日常的におこなう学生の受講を希望する。			
担当者の 研究室等	当該講義内での対応が中心となります。 ただし、連絡を取る必要がある場合は、別途記した指定メールを利用してお問い合わせください。			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 授業においては、ICT ツール Moodle を用いることがあります。</li> <li>○ 事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。</li> </ul>			

科目名	理科教育法 I	科目名 (英文)	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法は中等教育において理科教育を如何に行うかを考え、教育現場で如何に実践していくかを身につける科目である。理科教育法 I では、戦後からの理科教育の流れをみつめ、現代の理科教育のあり方を考えていく。中学校・高等学校学習指導要領に則った教育課程の編成や目標、内容、方法等の基本的必須事項を理解して教授法を身につけ、指導計画や授業設計ができるようになるための知識をつける。高等学校の授業を生徒の立場から体験してもらう目的で、授業担当者が授業展開の実際を示すサンプル授業を実施するので、自身が授業を行うときの参考にしてもらいたい。教育実習等で不可欠な学習指導案の内容、作成の方法にも触れる。
---------	---

到達目標	<p>《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。</p> <p>《行動目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① わかりやすい文章が書けるようになる</li> <li>② 理解しやすい話(説明)ができるようになる</li> <li>③ 授業に必要な知識を身につける</li> <li>④ 授業計画・授業設計ができるようになる</li> <li>⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる</li> <li>⑥ 適切な評価ができるようになる</li> <li>⑦ 適切な板書ができるようになる</li> <li>⑧ 学習指導案が作成できるようになる</li> <li>⑨ 理科実験における安全管理・危機管理ができるようになる</li> <li>⑩ 何事に対しても臨機応変に対処できるようになる</li> </ol>
------	--

授業方法と留意点	本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。毎回、授業用のノートを配布するので、授業で聞いたことや自身で調べたことなどを書いて提出してもらい、さらに授業終了後は Moodle のミニッツシートに、本時の学び、本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問等を書いて提出し、授業の振り返りを行ってもらう。次回の授業開始後に、前回のミニッツシートに記載されていた意見や質問に対して、問題提起や返答を実施し、前時の振り返りを行う。
----------	---

科目学習の 効果 (資格)	高等学校一種免許 (理科) 中学校一種免許 (理科)
------------------	-------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	理科教育法のガイダンスと 論作文の書き方	本教科目(理科教育法 I ~ IV)のガイダンスを行う。理科教育法を学ぶ目的や意義を知るために、授業の内容、特徴、学び方、進め方についての解説を行なう。今後、教員採用試験等で必要な論作文の書き方に関して、解説する。	[事後課題] (4時間以上) ・生徒から「なぜ、勉強しなければいけないか」の質問に対する返答 ・「教育」とは何か ・ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。
2	理科教育の目的	日本の理科教育と諸外国との違いについて学び、自身はどのような理科教育をしたいかについて考える。	[事後課題] (3時間以上) ・他者の「教育」とは何かの賛否意見を述べる。 ・ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
3	戦後の高校理科の教育課程 と授業時間数の変遷	高等学校学習指導要領に記載された理科の各科目の単位数を比較することで、高等学校の理科教育がどのように変遷したかを考える。 授業では、新旧の教科書を比較して、その内容の変遷についても学びとる。GWまたはPWによって気づいたことをWSにまとめる。	[事前課題] (3時間以上) ・高等学校学習指導要領に記載された理科の各科目の単位数を比較し、疑問点や改訂された理由等について考える。 [事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
4	教育課程の変遷と歴史的 背景	中学校・高等学校の理科教育がどのようにして変遷してきたかを時代の背景とともに学び、近年ではOECDが実施しているPISA調査から見えた問題点や課題を受けて改訂されていることを知る。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
5	PISA調査	PISA調査とはどのような調査であるかを知り、実際に解いてみることによって、新しい学力観、能力観とはどのようなものが求められているかを知る。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
6	学習指導要領理科の授業内 容の取り扱い	高等学校学習指導要領理科編理数編について、その目標や内容について知り、指導計画の作成や取り扱いの留意点について学ぶ。	[事前課題] (5時間以上) ・学習指導要領高等学校理科編理数編第1章を読み各自でまとめる。 [事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
7	理科における評価の方法	評価についての教育的意義を知り、学習指導とその評価について考える。また、目標に応じた評価方法について学び、教育評価を教育の改善に役立たせる方法を考えてみる。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
8	年間授業計画とシラバス・授 業設計	授業を設計するにあたり、単元や年間授業計画との関わりについて知り、年間を通して効率の良い授業ができることを学ぶ。学習目標を定めることにより、教師の授業デザイン力の向上となるような授業設計を考える。	[事後課題] (3時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
9	理科の授業づくりと授業の	具体的な授業の進め方を知るためにサ	[本時課題] (2時間以上)	

	方法	ンプルとなる高等学校の授業を授業担当者が実際に行なう。終了後に疑問点や課題について GW による話し合いを行い、授業でのねらいなどについて考える。	・終了後に疑問点や課題について WS にまとめ、授業でのねらいなどについて考える。 [事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
10	理科の授業づくり～指導計画～	理科の授業づくりの意義を知り、教材研究の進め方と手順、授業の工夫について学ぶ。	[事前課題] (5 時間以上) ・学習指導要領高等学校理科編理数編第 3 章を読み各自でまとめる。 [事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
11	学習指導案の事例と研究	学習指導案について、その事例を用いて、授業の組み立ての基本について学ぶ。また、学習指導案を作成するためのワークシートを用いて、指導案作成の準備を行う。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
12	授業における導入について	授業の進め方の中で導入部分の重要性を知り、魅力ある授業設計や授業計画を行うことを学ぶ。そのための導入部分の授業を実際に考える。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
13	授業における展開について	授業の展開において、発問の重要性は大きく、学習者に魅力ある学習活動ができるような指導方略を考える。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
14	授業におけるまとめについて	授業の締めくくりであるまとめの意義について考え、授業でのまとめの方法や効果について学ぶ。ガニエの 9 教授事象と導入・展開・まとめとの関連について考える。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
15	授業における板書と話し方について	具体的に授業を進める際、板書の方法や話し方によって、学習者にもたらす効果は異なる。授業を行なうための適切な板書の方法について考え、授業を行うにあたっての板書計画・板書レイアウトなどについても学ぶ。また、授業を行なうための適切な話し方について学び、その効果を考える。	[事後課題] (3 時間以上) ・学習ノートに纏める。 ミニッツシートを記入し、本時の振り返りを行う。	
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説理科編・理数編	文部科学省	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記テスト(70%)、平常点 [ミニッツシート(15%)、課題・レポート(15%)]			
学生へのメッセージ	学習者の自己実現を支援する理科教員を目指すという自覚と目的意識を持ち、理科教育に関する理解を深め、理科教育に必要な基礎能力を習得して欲しい。			
担当者の研究室等	ラーニングセンター (2号館 2階)			
備考	配布した講義プリント、資料は、理科教育法 I～IVで相当な量になるので、ファイル(百円ショップにある数センチ幅のもので良い)に綴じていくこと。			

科目名	理科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Science Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
日本の教育問題の1つに理科離れがある。理科の面白さを引き出すためには理科の実験・観察の果たす役割は大きく、実験や手作業を通して身につく“見えない学力”は将来、技術者や研究者についたときの基礎力になる。理科教育法Ⅱは授業で実験・観察を行う意義をとらえ、理科の教科指導と授業力に関する資質と能力の育成をはかり、実験を取り入れた授業を組み立てることを前提に、授業計画や実験の方法について、具体例や実践例を挙げながら授業をすすめる。さらに理科教育法Ⅰと関連付けて指導計画、指導法などを実践の場で具体的に役立つ方法として身につけるために、各自に50分間の模擬授業を実施してもらう。

**到達目標**  
《一般目標》  
楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。  
《行動目標》  
① わかりやすい文章が書けるようになる  
② 理解しやすい話(説明)ができるようになる  
③ 授業に必要な知識を身につける  
④ 授業計画・授業設計ができるようになる  
⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる  
⑥ 適切な評価ができるようになる  
⑦ 適切な板書ができるようになる  
⑧ 学習指導案が作成できるようになる  
⑨ 理科実験における安全管理・危機管理ができるようになる  
⑩ 何事に対しても臨機応変に対処できるようになる

**授業方法と留意点**  
本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者のこれまでの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。本時の収穫(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問をミニッツシートにて毎回提出する。次回の授業開始後に、ミニッツシートに記載されていた意見や質問に対して、問題提起や返答を実施し、前時の振り返りを行う。  
後半には高等学校の模擬授業を実施してもらう。模擬授業は、事前打合わせ(10分)、授業(50分)、研究協議(25分)、授業担当者の講評とまとめ(5分)で進める。模擬授業を行う学生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。授業を受ける学生は、実施された模擬授業に対するルーブリック評価と講評を行なう。授業を行った学生は学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、USBにて手渡すので、視聴した上で自身の課題点などを見つめること。

**科目学習の効果(資格)**  
高等学校一種免許(理科)  
中学校一種免許(理科)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	模擬授業の進め方と指導計画案の作成と留意点	本授業の中盤から実施する模擬授業の進め方についての解説を行う。また、学習指導案を作成するにあたっての留意点についての解説を行い、その作成手順についても学ぶ。	〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
2	教材・教具の研究とその重要性	学習者にとって魅力ある授業は教材がうまく配列されており、必要性に応じた教具が多用されている。教材・教具の必要性・重要性を知り、学習者により効果をもたらす教材や教具について考える。講義では教材・教具のサンプルも紹介する。	〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
3	理科の実験授業・その意義と方法及び理科実験における安全・管理	理科の授業における実験の意義について学び、探求的な活動としての理科実験のあり方を知る。また、課題のワークシートをもとに、実験室における危険な行動や器具の取り扱いについて考えた事を発表してもらい、安全管理・危機管理について学ぶ。さらに理科実験における事故・安全・管理について学び、事故防止やその対策について考える。	〔事前課題〕実験室における実験風景のイラストを見て、危険な行動や危険な器具の取り扱いを指摘する。(4時間) 〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
4	学校現場における理科実験の事故例	学校現場における過去に起きた事故の例から事故原因などを考え、事故防止をふまえた安全管理を身に付ける。	〔事前課題〕過去に実際に起きた事故事例から、事故発生の原因について考察する。(4時間) 〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
5	理科の実験観察とその授業計画・実施	安全管理、事故防止をふまえたうえで理科実験の計画を考え、予備実験の重要性についても学ぶ。さらに生徒実験における結果の分析方法や意義について知り、評価の方法についても学ぶ。	〔事前課題〕生徒実験を行うためにどのような準備や事前・事後指導をするかを考える。(5時間以上) 〔事後課題〕学習ノートとミニッツシートに記入して提出する。(2時間)
6	模擬授業(1)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
7	模擬授業(2)	各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10



			研究協議と講評を行なう。	時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
8	模擬授業(3)		各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
9	模擬授業(4)		各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
10	模擬授業(5)		各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
11	模擬授業(6)		各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
12	模擬授業(7)		各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
13	模擬授業(8)		各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)
14	模擬授業(9)		各自が目指す理科教育をふまえて指導計画を行い、高等学校の50分間の模擬授業を行なう。また、模擬授業終了後に研究協議と講評を行なう。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備として学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成を行う。(10時間以上) ・模擬授業の事後課題として、研究協議から得られた学習者側の助言と自身の模擬授業動画を視聴して、自身の自己評価を自己評価シートにまとめる。(2時間)

				《学習者》 ・授業者の行った模擬授業に対するルーブリック評価を行い、講評を評価票に記入する。(2時間)																
	15	模擬授業についての講評とまとめ	各自が実施した模擬授業についての講評を行う。また、行った模擬授業の内容について改善点などの問題提起を行い、GW、PWにて討議し発表してもらう。教員採用試験を念頭に志望理由書を作成する。	〔課題〕志望理由書の作成〔10時間以上〕																
関連科目	本科目を履修するにあたり、開講されている教職教養科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。理科教育法Ⅰを履修のこと。																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領 解説 理科編</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領 解説 理科編	文部科学省		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	高等学校学習指導要領 解説 理科編	文部科学省																		
2																				
3																				
評価方法 (基準)	模擬授業(30%)、模擬授業評価表(ルーブリック)(10%)、学習指導案(10%)、課題(35%)、ミニッツシート、模擬授業講評(15%)																			
学生への メッセージ	模擬授業を行うにあたって、事前準備に時間がかかり労力を要するが、教育実習に行き、将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評を行えるようになって欲しい。																			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)																			
備考	高等学校の教科書は各自が使用していたものでよいが、持っていない人は貸し出しします。																			

科目名	理科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Science Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

高等学校の理科は選択制が導入されており、中学校理科の果たすべき役割は大きい。そのため、第1分野、第2分野の内容の特徴と小学校、高等学校の接続や内容との関連性について学び、物理、化学、生物、地学の各分野の特徴についての知識も必要となる。理科教育法Ⅲでは中学校の理科教師を目指す学生に、理科教育の内容、指導法に関する基本事項を再確認し、中学校で授業を行うために必要な授業作りの方法を身につける。また、楽しく、わかりやすい授業を行うための知識や技術を習得するとともに、簡単な実験・観察やグループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学習者主体の活動的な授業を行うことを目標としている。また、聞き手である生徒が授業をよりわかりやすく受けることができるための方法や工夫を研究する。

- 《一般目標》  
楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。
- 《行動目標》
- ① わかりやすい文章が書けるようになる
  - ② 理解しやすい話(説明)ができるようになる
  - ③ 授業に必要な知識を身につける
  - ④ 授業計画・授業設計ができるようになる
  - ⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる
  - ⑥ 適切な評価ができるようになる
  - ⑦ 適切な板書ができるようになる
  - ⑧ 学習指導案が作成できるようになる
  - ⑨ 理科実験における安全管理・危機管理ができるようになる
  - ⑩ 何事に対しても臨機応変に対処できるようになる

授業方法と留意点  
本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、各回の講義内容はレジュメとして配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。授業の前半は座学を、中盤から中学校の模擬授業も実施してもらう。模擬授業は、事前打合わせ(10分)、授業(50分)、研究協議(25分)、授業担当者の講評とまとめ(5分)で進める。模擬授業を行う学生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し、模擬授業を行う。模擬授業を受けた学生は、実施された模擬授業に対するルーブリック評価と講評を行なう。さらに授業を行った学生は学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、USBにて手渡すので、視聴した上で自身の課題点などを見つめること。

科目学習の  
効果 (資格)  
高等学校一種免許 (理科)  
中学校一種免許 (理科)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	新学習指導要領(平成 29 年告示)中学校理科①様々な調査	中学校学習指導要領の改訂の経緯に様々な学力調査や学習状況調査がある。それらの調査問題を実際に解き、それぞれの調査のねらいなどを考察する。また、改訂の基本方針について理解する。	〔事後課題〕(3時間以上) 学習ノートに纏める ミニッツシートを記入して提出する。
2	新学習指導要領(平成 29 年告示)中学校理科②総説、指導計画の作成と取り扱いと理科の目標	中学校学習指導要領に基づいて、改善の要点、指導の留意点などの内容について学ぶ。指導計画の作成、観察、実験の時間や探究する時間の設定、ものづくりの推進などについて、実施の方法や取り扱いについてのヒントを紹介する。	〔事前課題〕(5時間以上) 理科の目標について学習指導要領を読んでまとめる。 〔事後課題〕(2時間以上) ミニッツシートに記入して提出する。
3	理科における教育機器の活用	コロナ禍以降、教育現場における ICT の普及が急激に進んだ。国が行ってきた様々な調査からも授業に ICT を取り入れている場合には教育効果が高いという結果が出ており、今後はさらなる進展が考えられる。本講義では理科教育と ICT の活用の現状や課題について理解し、その活用事例について学ぶ。	〔事後課題〕(3時間以上) 学習ノートに纏める ミニッツシートを記入して提出する。
4	模擬授業(A1)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関する助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
5	模擬授業(A2)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関する助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
6	模擬授業(A3)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関する助言や改善案を述	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の

			べる。	自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
7	模擬授業(A4)		模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
8	模擬授業(A5)		模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
9	学習者から高い評価を受ける授業の実践例とその分析		達人が行う中学校の授業のビデオを視聴する。授業づくりや教材研究、授業の展開の工夫や教授法について学びとったことをレポートする。	〔事後課題〕(4時間以上) レポートを作成して提出する。 ミニッツシートに記入して提出する。
10	教授フローチャートによる授業		指導案を共同利用する目的で考案された教授フローチャートについて、その特徴や利点について学ぶ。	〔事後課題〕(4時間以上) 学習ノートに纏める ミニッツシートを記入して提出する。
11	模擬授業(B11)		指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
12	模擬授業(B12)		指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
13	模擬授業(B13)		指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
14	模擬授業(B14)		指定された範囲で1校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は50分(45分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上) ・自身の授業風景を視聴し、研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)
15	理科教育法 III のまとめ		各授業者の行った模擬授業についての振り返りを行い、改善点について提案する。	〔事後課題〕(3時間以上) ミニッツシートに記入して提出する。

関連科目 本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。理科教育法Ⅰ・Ⅱは履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	
	2			
	3			
評価方法 (基準)	模擬授業講評と課題レポート、小テスト(50%)、模擬授業「授業(30%)、学習指導案(10%)、ルーブリック評価(10%)」			
学生への メッセージ	模擬授業を行うにあたって、事前準備や事後処理に時間がかかり、労力を要するが、将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として積極的に取り組んで欲しい。模擬授業ではグループワークなどのアクティブラーニングを積極的に取り入れ、学習者主体の活動的な授業が行えるようになって欲しい。また、自他を問わず正しい評価、適切な講評が行えるように心がけること。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター（2号館2階）			
備考				

科目名	理科教育法IV	科目名 (英文)	Science Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	菅波 昌広
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法IVでは、教育実習時に十分通用するような授業実践力を培うことを第一目標とする。指定された単元の模擬授業を実際に行うことで、授業の難しさ、教材研究の重要性を知る。さらに、模擬授業に対する研究協議によって、授業計画や指導法の改善を行う。
到達目標	<p>《一般目標》 楽しく、わかりやすい、魅力ある授業を行うために、それらに必要な知識の習得や技術を身につける。</p> <p>《行動目標》</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① わかりやすい文章が書けるようになる</li> <li>② 理解しやすい話(説明)ができるようになる</li> <li>③ 授業に必要な知識を身につける</li> <li>④ 授業計画・授業設計ができるようになる</li> <li>⑤ 授業に必要な教材や教具が作成できるようになる</li> <li>⑥ 適切な評価ができるようになる</li> <li>⑦ 適切な板書ができるようになる</li> <li>⑧ 学習指導案が作成できるようになる</li> <li>⑨ 理科実験における安全管理・危機管理ができるようになる</li> <li>⑩ 何事に対しても臨機応変に対処できるようになる</li> </ol>
授業方法と留意点	<p>本授業では講義をベースにグループワーク、討議などを中心に進め、講義内容は教材プリントにまとめたものを配布する。授業は講義内容に沿って説明や解説を行うが、学習者の今までの経験や体験談なども発表してもらい、意見交換や情報共有をしていく。ミニッツシートに本時の取組(授業で得られたことや身についたことなど)と授業に対する意見や質問を書いて提出する。次回の授業の最初に、前回の学習ノートに記載されていた意見や質問に対して、問題提起や返答を行って前時の振り返りを行う。</p> <p>授業の中盤から教育実習で授業を行うことを主眼におき、指定範囲の模擬授業を実施してもらう。教育実習で授業を行うことを主眼におき、指定範囲全体の指導計画を行い、そのうちの1校時分について教材研究、板書計画、教材・教具の作成などを行い模擬授業を実施する。模擬授業は、事前打合わせ(10分)、授業(50分)、研究協議(25分)、授業担当者の講評とまとめ(5分)で進める。模擬授業終了後は研究協議として模擬授業を受けた学生は、実施された模擬授業に対する助言と講評を行なう。授業を行った学生は学習者側からの助言をまとめ、自己評価を行う。行なった模擬授業はビデオ撮りを実施し、USBにて手渡すので、視聴した上で自身の課題点などを見つめること。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>高等学校一種免許(理科)</p> <p>中学校一種免許(理科)</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	教員を目指すために(教員採用試験では)	教員になるために超えなければならない2つのハードルがある。それが何かを考え、今後の取り組みや準備すべき事を考える。	〔事後課題〕(4時間以上) 学習ノートに纏める。 ミニッツシートに記入して提出する。
2	中学校理科の授業づくりと授業の進め方	中学校の具体的な授業の進め方を知ってもらうために、授業担当者がサンプルとなる授業を行なう。サンプル授業終了後に疑問点や課題について討議する。また、高等学校と中学校との教授法の違いについて考え、授業づくり、教材研究、授業の工夫について役立てる。	〔事後課題〕(4時間以上) 課題レポートを提出する。 ミニッツシートに記入して提出する。	
3	中学校学習指導案について	教育目標、目的、内容、方法、評価についても考え、板書計画を含めた、指導細案の作成を行う。	〔事後課題〕(4時間以上) 学習ノートに纏める。 ミニッツシートに記入して提出する。	
4	中学校模擬授業(B1)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上)</li> <li>・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上)</li> </ul> <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)</li> </ul>	
5	中学校模擬授業(B2)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上)</li> <li>・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上)</li> </ul> <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)</li> </ul>	
6	中学校模擬授業(B3)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、中学校の50分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参観者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業実施日までの事前準備(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成)(10時間以上)</li> <li>・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2時間以上)</li> </ul> <p>《学習者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3時間以上)</li> </ul>	
7	中学校模擬授業(B4)	模擬授業実施者は各自が目指す理科教育をふまえて作成した指導案に基づき、	<p>《授業者》</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・模擬授業実施日までの事前準備</li> </ul>	

			中学校の 50 分間の授業を行なう。模擬授業後は研究協議を行い、模擬授業参加者は、受けた授業に関して講評を行ない、課題点に関しての助言や改善案を述べる。	(学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成) (10 時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2 時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3 時間以上)
8	教育現場の授業の実際		先輩が教育実習で行った研究授業のビデオを見て、学習指導案をもとに講評を行い、疑問点や課題について協議する。また、実際の教育現場や教室の雰囲気なども感じ取る。	〔事後課題〕(4 時間以上) レポートを作成する。 ミニツシートに記入して提出する。
9	教育実習へのヒント		教壇実習を行うことを意識した授業設計の方法について話す。また、教育実習に向けて準備しておくことや実習中についてのヒントを話す。	〔事後課題〕(4 時間以上) 学習ノートに纏める。 ミニツシートに記入して提出する。
10	中学校模擬授業(A11)		指定された範囲で 1 校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成) (10 時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2 時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3 時間以上)
11	中学校模擬授業(A12)		指定された範囲で 1 校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成) (10 時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2 時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3 時間以上)
12	中学校模擬授業(A13)		指定された範囲で 1 校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成) (10 時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2 時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3 時間以上)
13	中学校模擬授業(A14)		指定された範囲で 1 校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成) (10 時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2 時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3 時間以上)
14	中学校模擬授業(A15)		指定された範囲で 1 校時の模擬授業を行う。指導案に基づき、模擬授業実施者は 50 分(45 分)間の授業を行なう。さらにその模擬授業について研究協議を行ない、助言を受けた箇所については改善を行い、教育実習に臨む。	《授業者》 ・模擬授業実施日までの事前準備 (学習指導案、板書計画、教材、教具などの作成) (10 時間以上) ・研究協議から得られた学習者側の助言を自己評価シートにまとめ、自身の自己評価を行う。(2 時間以上) 《学習者》 ・授業者の行なった模擬授業に対する評価(ルーブリック)と講評を評価票に記入する。(3 時間以上)
15	理科教育法Ⅳのまとめ		理科教育法Ⅰ～Ⅳを振り返り、到達目標の伸長について、自己評価や自己点検を行う。	自己評価と自己点検等をミニツペーパーに書いて提出する。(4 時間)

関連科目 本科目を履修するにあたり、開講されている教職関連科目、一般教養科目等を予め履修されていることが望ましい。  
理科教育法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを履修していること。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	

	2	中学校学習指導要領解説 理科編	文部科学省	
	3			
評価方法 (基準)	模擬授業(50%)、学習ノートと課題レポート(50%)			
学生への メッセージ	理科教育法IVでは教育実習時に生徒たちが少しでも理科に対して興味・関心を持ち、授業を受けられて良かったと思えるような授業づくりをこころがけよう。そのため十分に時間をかけて教材研究を行ない、教材教具を多用し、アクティブラーニングを取り入れた価値ある授業展開ができるようになって欲しい。模擬授業では将来教員を目指している学生の切磋琢磨の場として、積極的な取り組みを期待する。			
担当者の 研究室等	ラーニングセンター(2号館2階)			
備考				



科目名	英語科教育法 I	科目名 (英文)	English Teaching Methods I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	学習者が第二言語・外国語を習得するプロセスについて基礎的な内容を理解し、授業指導に生かせるようにする。また、中学校及び高等学校における年間を通した学習到達目標に基づく評価の在り方、観点別学習状況の評価に基づく各単元における評価規準の設定、さらに評定への総括のしかたについて理解する。さらに、中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」の指導および領域統合型の言語活動に関する基本的な知識と技能を身に付けるとともに、様々な教材やICTの活用方法を学び、生徒の特性や習熟度に応じた指導についても考える。
到達目標	中学校及び高等学校における英語の学習指導に関する知識と授業指導および学習評価の基礎を身につけた上で、授業観察、授業体験、模擬授業などの学習形態を通して、実際の授業の組み立て方や学習指導案の作成方法を学ぶ。また、言語能力の測定や評価の方法を理解する。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。</li> <li>・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。</li> <li>・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	英語教員免許(中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	語彙指導	語彙とは 語彙学習活動と評価	第19章
3	リーディング指導	リーディングとは リーディング活動と評価	第12章
4	リーディング指導	多読とは 多読活動と評価、	第12章
5	ライティング指導	ライティングとは ライティング活動と評価	第13章
6	リスニング指導	リスニングとは リスニング活動と評価	第10章
7	スピーキング指導	スピーキングとは スピーキング活動と評価	第11章
8	模擬授業と分析 (1)	単独領域模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
9	領域統合型指導	領域統合型活動と評価	第10～13章、第19章、第20章
10	学習者要因	学習者要因とは 種類とその影響	第4章
11	測定と評価	測定と評価の種類と方法	第15章
12	ICTを用いた活動	ICTを用いた活動例の紹介、実践	第16章
13	模擬授業と分析 (2)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
14	模擬授業と分析 (3)	領域統合型模擬授業	第10～13章、第19章、第20章
15	総括	求められる英語教師像 教師の役割	第5章

関連科目 「教育原理」「教育社会学」「道德教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1 (令和3)		開隆堂
2	Sunshine English Course 2 (令和3)		開隆堂
3	Sunshine English Course 3 (令和3)		開隆堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法	望月昭彦編著	大修館書店
2	英語4技能評価の理論と実践	望月昭彦・深澤真・印南洋・小泉利恵 [編著]	大修館書店
3	英語リーディングの科学-読めたつむりの謎を解く	卯城祐司 [編著]	研究社

評価方法 (基準) ①小テスト・レポート (50%)  
②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)

学生へのメッセージ  
英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。  
★Sunshine English Course1,2,3 (中学英語教科書) は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。  
★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動

担当者の研究室等 7号館4階 齋藤研究室

備考 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	英語科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	English Teaching Methods II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	外国語としての英語を学習する過程をデザインする立場に身をおき、教材や機器を効果的に用いて学習者に合ったさまざまな学習指導案を作成したり、実際に実技を行ったりしながら教授法を学ぶ。自己の実技を録画したものをを用いて改善点を見出し、改訂版の授業を行う。小中高といった校種や教科の壁を越えて連携ができるよう、他者の学習指導案や授業について建設的なディスカッションを行い、多様な授業を創る方法を理解する。なお、学習指導案の個別指導は課外にも行う。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校および高等学校における3つの資質・能力を踏まえた「5つの領域」（「聞く」「読む」「話す（やりとり）」「話す（発表）」及び「書く」）の指導および各領域を支える音声、文字、語彙・表現、文法の指導について基本的な知識と技能を身に付け、複数の領域を統合した言語活動の指導方法を身に付ける。</li> <li>・教材やICTの活用方法を知るとともに、英語による授業展開やALT等とのチーム・ティーチングの方法について理解する。さらに、生徒の特性や習熟度に応じた指導について理解する。</li> <li>・学年ごとのカリキュラムを考え、ユニットや個々の授業時間の学習目標を設定できるようになる。</li> <li>・模擬授業を分析し、授業展開のオプションを検討できるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。</li> <li>・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。</li> <li>・2024年度は、第8・9回以外にもICTを履修生自身が扱う練習を行う。模擬授業は「対面、およびオンライン授業を企画・実施」とする。オンライン模擬授業の回には教員役も生徒役もオンラインに接続し、互いに向き合えるのか、対面模擬授業との差を体験し、改善点を考える。</li> <li>・連絡・教材・提出・録画等に、Teams, Webfolder, Zoomを利用する。</li> </ul> <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。</li> <li>・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行うこと。</li> <li>・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。</li> <li>・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	英語教員免許 (中・高) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	小学校における外国語活動と英語・文字に関する指導	小学校での外国語活動の実例紹介	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習 (1)
3	中学校の英語の検定教科書と高校入試	検定教科書と入試問題の分析	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習 (2)
4	教材研究と学習指導案の作成 (1) 英語の音声的な特徴に関する指導	中学校の検定教科書を用いた音声指導案の作成	基本的な英文法の復習と教員としての英語のモデル音読の練習 (3)
5	学習者間のやりとりを増やす学習活動デザイン:英語でのインタラクション	リスニング力の向上の方法に関して学ぶ 中学校で学ぶ語彙・文法を用いた対話例の作成	公立高校の入試問題を解く (1)
6	模擬授業と分析 (1) 音声言語を中心とする学習活動	指導上の留意点・生徒の発話を引き出す方法	公立高校の入試問題を解く (2)
7	高校の英語の検定教科書と大学入試	ライティングの指導法・方法論に関して 高等学校の検定教科書を分析する	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる (1)
8	教材研究と学習指導案作成 (2) ICT等の活用	指導案作成	検定教科書の付属教材を自分で解いてみる (2)
9	ICT活用と教授言語:学習言語のみによる授業展開と、日本語併用の場合の比較	板書とICTの演習	センター入試の前年度の問題を自分で解いてみる
10	模擬授業と分析 (2) 教員1人でICT機器を使う場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習 (1)
11	生徒の特性や習熟度に応じた指導と評価	指導案の展開バリエーションを増やす	空き教室の黒板とホワイトボードで板書の練習 (2)
12	教材研究と学習指導案作成 (3) ALT等とのチーム・ティーチング	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習
13	演劇を応用した言語活動	易しい英語の脚本を用いたスキット指導を学ぶ ドラマ手法を会話練習に応用する	授業の練習
14	模擬授業と分析 (3) 教員2人の場合	自分で企画した授業をクラスで実践する 分析と改善	授業の練習

	15	これからの英語教育がめざすもの	討論と発表、筆記テスト	復習
関連科目	教職科目全般 英語科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 (ISBN: 9784469246216)	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language (ISBN:9780194233972)	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学習指導要領 (文部科学省 HP)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 100 (レッスンプラン作成 30%・授業時間中に行う実技 40%・模擬授業に関するレポート 30%) (2) 筆記テスト 100 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点中の60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教育実習時に中高生にわかりやすくワクワクする授業を自力で立案・実施できるようになるには、「先生になりたい」気持ちだけでは足りません。言語に関する正確な知識と高い運用能力が必須です。教職課程の授業は全回、全力で予習・復習し、授業時間以外にも辞書をひいて英語を読み、英語の文法、語彙、スペル、発音等、基礎から復習をしてください。3年次終わりまでに英検準1級レベルに到達しましょう。</li> <li>・担当者は、日本の小学校に英語活動が導入された時期に数年間、ALTや小学校教諭と小学校で教えたり、寝屋川市・大東市・教員免許更新</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館4階 (齋藤研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。</li> <li>・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。</li> <li>・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。</li> </ul>			

科目名	英語科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	English Teaching Methods III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>中学校や高等学校の英語教員をめざすうえで、押さえておくべき英語科教育の基礎について理論的側面と実践的側面から学ぶ。特に</p> <p>①リーディングとライティングの指導、          ②文字と文法に関する指導、          ③語彙・表現に関する指導</p> <p>に焦点をあてて、学習指導要領の「3つの資質・能力」（「知識・技能」、「思考力・判断力・表現力」、「学びに向かう力等」）を踏まえた目標の設定方法と指導計画の立て方、学習到達目標に基づいた授業の組み立て方と学習指導案の作成方法、観点別学習状況の評価方法や評価規準の設定方法、などを修得し、それらを実践する力を養う。</p>
到達目標	英語科教育に関する基礎的内容を押さえ、リーディングとライティングの指導法、文字と文法の指導法、語彙・表現の指導法を修得する。受講生は授業観察や授業体験を通じて実際の授業の展開を理解し、さらに自分で作成した学習指導案に基づいた模擬授業を行うことによって実践的な力を養う。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。</li> <li>・各自が授業指導案を作成する際は、担当者が随時添削など個別指導を行う。</li> </ul> <p>留意点：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回の授業で予習・参加・復習が必須。全回出席を前提に授業が進む。</li> <li>・ブロークンではなく正確な英語を話したり書いたりするためのトレーニングを、授業外でも各自行う。</li> <li>・「学習者」と「授業を創る側」の両方の立場で、自分が大学で受講中の授業を分析的に見る。</li> <li>・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。</li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	<p>英語教員免許 (中・高)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含める必要事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)</p>
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	学習者と英語教員 音声指導 (1) + 指導案作成	カリキュラムとシラバス 調音の仕組み	鏡を見て自分の発声を観察する・いろいろな音を開き分ける
2	学習指導要領と英語教授法 音声指導 (2) + 指導案作成	カリキュラムとシラバス 英語の音と日本語の音のちがひ	音の出し方を他人に説明する練習をする
3	第2言語習得と英語教育 音声指導 (3) + 模擬授業	イントネーション	意識的な音の出し方を練習する
4	リーディング指導: リーディング指導の目標	読むことの指導	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
5	リーディング指導: 指導方法と評価方法	読むことの指導と評価	英語で書かれた文章を読む自分をモニターする
6	ライティング指導: ライティング指導の目標 文字の指導	書くことの指導	日常生活の中から、質問のバリエーションを広げる
7	ライティング指導: 指導方法と評価方法	書くことの指導と評価	広告や雑誌・新聞などを教材の材料として注意深く見る
8	教材研究と指導案作成の基礎	教材の作りやすさと使いやすさ	糊とはさみで教材を作る
9	指導案作成と模擬授業 (1): リーディング指導	授業づくり 使えるものは何でも使ってみよう: 学校の機器を使って、学習活動のバリエーションを増やす	校内にあるさまざまな教具や機器を探す
10	指導案作成と模擬授業 (2): ライティング指導	授業の狙いと機器の価値: 実際に教室の機器や学内の設備を使って、教科書の価値を高める教え方・学び方を考える	校内にあるさまざまな教具や機器が授業でどのように使われているか調査する
11	文字の指導	文字の指導方法 ディスレクシアの理解と教育現場での対応	復習 調査
12	文法の指導	文法の指導方法	復習 調査
13	語彙・表現の指導	語彙・表現の指導方法 自分で企画した授業をクラスで分析する	復習 調査
14	指導案作成と模擬授業	文字・文法の指導、語彙・表現の指導を含めた授業づくり	復習
15	英語教育の展望	・社会が要請する外国語教育について、報道記事を元に考え、討論する ・筆記テスト	これまでの自分の学習を振り返る

			・今学期の自分の変化を語る・今後の目標と到達のための手がかりを探す	
関連科目	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教職科目全般</li> <li>・英語科目全般</li> </ul>			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新学習指導要領にもとづく英語科教育法 第3版 ISBN:9784469246216	望月 昭彦 編著	大修館書店
	2	The History of the English Language (ISBN: 978-0-19-423397)	Brigit Viney	Oxford UP
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	学習指導要領 (文部科学省 HP)		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	日本の検定教科書を使って中学・高校で英語科目を教えるに十分な英語の知識と運用力を前提とした、 (1) 模擬授業 100 (レクチャー作成 30%・15回の授業時間中に行う実技 40%・模擬授業に関するレポート 30%) (2) 筆記テスト 100 上記項目の両方の評価がいずれも100点満点の60点以上で合格とする。			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大好きな科目、大好きな学校 で働きたい、と思うなら、責任を持って教えられる人になるため、貪欲に知識を増やし、妥協せず能力を磨いていきましょう。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館4階(齋藤研究室)			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・履修前に、学習指導要領を、文部科学省のHPで読んでおくこと。</li> <li>・日々、学校教育や言語学習をめぐるニュースに目を向けよう。</li> <li>・事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。</li> </ul>			

科目名	英語科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	English Teaching Methods IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	齋藤 安以子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
現在の英語教育学界は、小学校への英語教育導入を始め、高等学校への英語による英語授業への展開等、目まぐるしい動きを見せている。それに対応できるように、新たな英語教育へ向けて、英語教授法や授業の運営スキル等を身につけることが、この授業の目標である。主に、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導というテーマに焦点をおいて、これらのことを理解し、授業指導に生かすことができるようになることを目指す。

**到達目標**  
本授業は3つのことを行う。第1に、教科書を講読しながら、リスニング、スピーキング、ライティング、文法・語彙・表現、異文化理解に関する指導に関する理論を学び、知識を身につける。第2に、これらの知識を基に創意あふれる授業を計画し、その学習指導案が書けるようになる。第3に、模擬授業を行い、自分のパフォーマンスを客観的に見返し、またクラスメートからのコメントを参考にし、自分の教授のスキルの弱点を克服することを学ぶ。学習指導案の個人指導は課外時間に行う。充実した教育実習を行うことができるように万全の準備をする。

**授業方法と留意点**  
・スピーキング、リスニング、リーディング、ライティングの4つの基本スキルの指導、授業の準備や分析、評価などを演習を通して学ぶ。  
・理論を学び、グループで具体的な指導のスキルを練習すると共に、各々で短い授業を企画し、実技で発表する。  
・教授法を学ぶ前段階として必要な英文法・語彙の習得が足りないと判断される場合は、履修を続行する以前に、基礎の復習を先に行うことを勧めることがある。

**科目学習の効果 (資格)**  
英語教員免許(中・高)  
【免許法施行規則に定める科目区分】  
科目：教科及び教科の指導法に関する科目  
各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法 (情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	英語教育の基礎理論	英語科教育法とは 英語科教育法の目的	序章
2	英語教育の基礎理論	英語教育と英語教育学	第1章
3	英語教育の基礎理論	英語の国際化と日本の英語教育	第2章
4	英語教育の基礎理論	学習指導要領	第3章
5	英語教育の実践編	リスニングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第10章
6	英語教育の実践編	リスニング：教科書を使った模擬授業	第10章
7	英語教育の実践編	スピーキングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第11章
8	英語教育の実践編	スピーキング：教科書を使った模擬授業	第11章
9	英語教育の実践編	ライティングの指導：教材研究及び学習指導案作成	第13章
10	英語教育の実践編	ライティングの指導：教科書を使った模擬授業	第13章
11	英語教育の実践編	文法の指導：教材研究及び学習指導案作成	第18章
12	英語教育の実践編	文法の指導：教科書を使った模擬授業	第18章
13	英語教育の実践編	語彙・表現の指導：教材研究及び学習指導案作成	第19章
14	英語教育の実践編	語彙・表現：教科書を使った模擬授業	第19章
15	英語教育の実践編及びまとめ	異文化理解の指導及びまとめ	第2章、第9章

**関連科目** 「教育原理」「教育社会学」「道徳教育の研究」「教育心理学」「生徒指導論」「教育相談」「教育経営論」「教職総合演習」「各教科教育法」

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Sunshine English Course 1 (令和3)		開隆堂
2	Sunshine English Course 2 (令和3)		開隆堂
3	Sunshine English Course 3 (令和3)		開隆堂

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	英語多読・多聴指導マニュアル	高瀬教子	大修館書店
2	シャドーイング・音読と英語コミュニケーションの科学	門田修平	コスモビア
3	英語指導における効果的な誤り訂正：第二言語習得研究の見地から	白井知彦	大修館書店

**評価方法 (基準)**  
①小テスト・レポート (50%)  
②模擬授業 (学習指導案作成・実技・実技分析) (50%)

**学生へのメッセージ**  
英語教師が知っておくべき知識を広い分野でカバーした科目です。情報量が膨大ですが、全体像を把握してもらう入門コースとなります。興味を持った分野があれば、さらに文献を読み込み、勉強をしてください。英語教員には広い知識と高い英語力が必要です。普段から4技能をバランスよく伸ばすための練習を続けてください。  
★Sunshine English Course1,2,3 (中学英語教科書)は模擬授業ですぐに使います。必ずすぐ購入してください。  
★新聞やテレビで、学校教育に関わる情報が毎日のように流れています。社会の動

**担当者の研究室等**  
7号館4階 齋藤研究室

**備考**  
事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。

科目名	商業科教育法	科目名 (英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	澤井 宏幸
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。</p> <p>後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることができます。</p>
---------	--

到達目標	<p>①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。</p> <p>②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。</p> <p>③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。</p>
------	--

授業方法と留意点	<p>前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科・科目の構造について学びます。</p> <p>後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。</p>
----------	---

科目学習の効果 (資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など)を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することができます。</p>
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	前期のガイダンス「授業の進め方」	授業の進め方及び自己申告書の記入	
	2	学習指導要領の総則とカリキュラムデザイン	学習指導要領総則、教育課程について、特色ある教育課程とは	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	3	商業高校の課題と先進的商業高校の事例	商業高校が抱える課題と先進的な商業高校の事例について	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	4	経営学部・商学部の教育との接続	高大接続を受けて、経営学部・商学部は何を学ぶところか	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	5	経営リテラシーの構造的な理解	ビジネス教育と経営リテラシーについて	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	6	職業能力の育成と構成要素	学校教育の「生きる力」、大学での「基礎的職業能力」、社会人の「職業能力」とは	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	7	教科「商業」	学習指導要領、教科の分野構成と学習内容について	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	8	商業教育を支える研究団体	商業教育を支える研究団体と事業内容、資格取得と検定試験について	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	9	授業づくりの基礎(1)	教科書の内容の分析と活用	[事後] 課題レポートの作成(240分)
	10	授業づくりの基礎(2)	教材開発・資料活用の着眼点と方法	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
	11	授業づくりの基礎(3)	ICTを活用する教材づくり	[事後] ミニツペーパーの作成(180分)
	12	学習指導案の作成と検討	カリキュラム・単元・指導計画の吟味と学習指導案の確認	[事後] 学習指導案の作成(240分)
	13	学習指導案の作成と授業の実践(1)	指導案の作成の意義付けと授業後の検討	[事後] 学習指導案の作成(240分)
	14	学習指導案の作成と授業の実践(2)	授業の展開での板書・説明と発問	[事後] ミニツペーパーの作成(200分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成		

関連科目	<p>大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。</p> <p>簿記、会計、原簿計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。</p>
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	<p>課題レポート・ミニツペーパー 50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等) 50%とし、総合的に判断して評価する。</p>
-----------	--

学生へのメッセージ	<p>商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。</p>
-----------	--

担当者の研究室等	全学教育機構
----------	--------

備考	質問等はメール等で対応する。
----	----------------

科目名	社会科教育法 I 【地歴分野】	科目名 (英文)	Social Studies Teaching Methods I (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	社会科教育の意義や目的、課題について、歴史的な経緯をふまえて理解する。そのうえで、中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。</li> <li>・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。</li> <li>・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。</li> </ul>
授業方法及び留意点	模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。 『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。 中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。 教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとに Teams 上で共有する。
科目学習の効果(資格)	中学校教員免許(社会科) 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科で育てたい資質・能力について	事前に既修の「教師論」「教育原理」を復習しておく(3時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	よい授業とはどんな授業か	江戸末期以降から現代までの教育制度の変遷について学ぶ。	事前にこれまで自分が経験した社会科の授業についてまとめておく(1時間)。事後に興味をもった構成要素に関連する実践資料を読む(3時間)
3	社会科教育の歴史(1)	戦後の学力観の変化と指導要領改訂の変遷を学ぶ。	事前に指示された資料を読み、発問を考えておく(3時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
4	社会科教育の歴史(2)	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に社会科学習指導要領の変遷について調べ、まとめておく(2時間)。事後については授業終了時に指示する(1時間)。
5	歴史的分野の授業とその構成方法	地理・歴史科学習指導案作成の基礎を身に付け、授業への活用方法を学ぶ。	事前に「学習指導要領 解説」を熟読しておく(1時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
6	地理的分野の授業とその構成方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に「学習指導要領 解説」を通読しておく(1時間)。事後に、学習指導案例を自ら探して検討する(2時間)。
7	社会科の評価方法	模擬授業を実施し、その問題点や改善点を話し合うことにより授業力の向上を図る	事前に定期テスト問題や入試問題についての情報を集めつつ、社会科・地歴科におけるテストについて振り返っておく(1時間)。事後、興味を持った実践について調べる(2時間)。
8	模擬授業(1)	歴史的分野「原始・古代の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
9	模擬授業(2)	歴史的分野「中世の日本と世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
10	模擬授業(3)	歴史的分野「近世の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
11	模擬授業(4)	歴史的分野「近世の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
12	模擬授業(5)	地理的分野「日本の地域構成」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
13	模擬授業(6)	地理的分野「九州地方/中国・四国地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
14	模擬授業(7)	地理的分野「近畿地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
15	模擬授業(8)	地理的分野「中部地方/関東地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。



				成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。
関連科目	社会科教育法Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成29年告示)	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案(50%)とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題(50%)で評価を行う。          提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。          出席回数が2/3以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>皆さんのお手本になるような優れた授業が先人たちによって開発されてたくさんあるということ、一方で絶対に優れた授業というものはないということを知ってもらいたいと思っています。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅱ【地歴分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods II (Geography and History)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	中学校社会科で扱う地理的分野・歴史的分野の授業を行うために必要な知識・授業構成方法・教育方法を学び、学習指導案を作成し、模擬授業を行う。 模擬授業について、参加者全員で討議・批評を行うことを通して、授業者が自ら授業を改善していくための基礎的な力量を身に付ける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習指導要領に示されている社会科の目標や内容を理解する。</li> <li>・カリキュラム・マネジメントの観点から社会科の学習を捉えることができる。</li> <li>・情報通信技術の活用も含めて、適切な教材や教育方法、評価方法を考え、それを指導案として表現し、中学校における具体的な授業場面を想定しながら授業を行うことができる。</li> <li>・授業の実施と振り返りや共同的に行われる授業研究を通して、授業改善に取り組むことができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>模擬授業やグループ・ワーク、討論を多く行うので、とくに積極的な発言及び講義参加姿勢が望まれる。</p> <p>『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』『中学校学習指導要領(平成29年告示) 解説 社会編』は購入もしくは文部科学省HPよりダウンロードし、手元ですぐに確認できるようにしておくこと。</p> <p>中学生のときの社会科教科書・資料集・地図帳やノートをなるべく手元に置いておくこと。</p> <p>教科書は指定しない。必要な資料については授業ごとにTeams上で共有する。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>中学校教員免許(社会科)</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目区分: 教科及び教科の指導法に関する科目</p> <p>各科目に含めることが必要な事項: 各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の概要と評価方法について 社会科の特性を生かした教材・教具、発問の検討	事前に社会科教育法1の第7回目までの学習内容を復習しておく(2時間)。事後学習については授業終了時に指示する(1時間)。
2	授業実践検討	優れた授業を言語化する	事前にこれまで自分が経験した授業についてまとめておく(1時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。	
3	概念中心カリキュラム	国際バカロレアの教育方法の検討	事前課題なし。事後課題については授業内で指示する(2時間)。	
4	教科横断的な学びのあり方	他教科や総合的な学習の時間との連携	事前に「カリキュラム・マネジメント」と「教科横断的な学び」について調べておく(2時間)。事後課題については授業内で指示する(1時間)。	
5	模擬授業(1)	地理的分野「東北地方/北海道地方」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
6	模擬授業(2)	地理的分野「アジア/アフリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
7	模擬授業(3)	地理的分野「ヨーロッパ」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
8	模擬授業(4)	地理的分野「北アメリカ」の模擬授業の実施と検討	全員が当該分野の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
9	模擬授業(5)	地理的分野「南アメリカ/オセアニア」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
10	模擬授業(6)	歴史的分野「近代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
11	模擬授業(7)	歴史的分野「近代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
12	模擬授業(8)	歴史的分野「現代の世界」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
13	模擬授業(9)	歴史的分野「現代の日本」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
14	模擬授業(10)	歴史的分野「文化史」の模擬授業の実施と検討	全員が指定範囲の学習指導要領および教科書を予習して臨む(2時間)。模擬授業担当者は指導案を作成する(6時間程度)。全員が事後に当日の授業の振り返りを行う(2時間)。	
15	授業の振り返り	補足的事項の解説及び授業全体の振り返り	事後、各自において本授業全体の振り返りを行う(4時間)。	

関連科目	社会科教育法 I			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領(平成 29 年告示)』	文部科学省	東山書房
	2	中学校学習指導要領(平成 29 年告示) 解説 社会編	文部科学省	東洋館出版社
	3			
評価方法 (基準)	<p>成果物としての指導案（50%）とコメントカードなどの授業内で指示する提出課題（50%）で評価を行う。          提出されたコメントカードの記述に対しては、次回授業内でコメントもしくはプリントにてフィードバックを行う。          出席回数が 2/3 以上の者を評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>自ら教材を見つけることで、社会科の授業の可能性の広がりや面白さを共有できたらと思っています。</p>			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	社会科教育法Ⅲ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods III (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、中学社会科、高校公民科の学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな授業方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、可能な方法・範囲での模擬授業の実践を行い、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるようにしていきます。まずは「教育実習」で生徒を失望させないきちんとした授業ができるよう、知識と意欲、そして責任をもって授業に参加してください。
到達目標	本講義の到達目標は以下の通りです。 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」「技術・スキル」を確実に身につける。 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。 (3) 社会科・公民科の授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」をするための力をつける。
授業方法と留意点	まず本授業では社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲・方法で履修者全員に模擬授業を行ってもらうよう「実践的な授業」を目指します。模擬授業の実践では、授業準備、指導案の作成、教材研究は必ず行ってもらいます。本講義では教師としての自覚もあわせて養成するため、授業への積極的な参加、そして各々の模擬授業の準備やそのふりかえりに積極的に取り組んでください。
科目学習の効果(資格)	中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科・公民科教育の課題について考えてくること。 ※それぞれの学習指導要領の総則部分を読んでおく。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手及びダウンロードした学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※前時の事前授業まとめと配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業案作成	板書の方法・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業のミニ模擬授業案の作成	新聞記事の検索、及びミニ模擬授業案の作成
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業案作成案作成	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業案を作成する。	ディベート準備。ミニ模擬授業案の作成
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成のヒントを説明する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案をもとに、作成する上での留意点について説明する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	模擬授業(3)	模擬授業の実践と指導(3)	模擬授業の準備。
13	模擬授業(4)	模擬授業の実践と指導(4)	模擬授業の準備。
14	成績評価の方法、及び社会科試験の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験作成についても学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び、定期試験問題作成のシュミレーションを行う(事前課題)。
15	総括—社会科、公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	各自、社会科教師としての自分の課題について考え、まとめてくること。

関連科目 社会科・公民科教育法Ⅰ、社会科・公民科教育法Ⅱは「Ⅰ→Ⅱ」と連続して受講することが望ましい。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
	2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	事前学習課題の提出 (30%)、模擬授業 (50%)、各種課題 (20%) 等により、総合的に評価する。		
学生への メッセージ	中学社会科学習指導要領 (最新年度版) を第一回目の授業開始までに購入あるいは文部科学省ホームページよりダウンロードし印刷しておくこと。これがないと授業参加や事前学習課題等に取り組むことができません。購入方法については書店、オンライン書店等を利用してください。購入についての質問等はメールアドレスまで。		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室		
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 事前・事後学習総時間数はおおよそ60時間程度とする。		

科目名	社会科教育法Ⅳ【公民分野】	科目名(英文)	Social Studies Teaching Methods IV (Civics)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	田中 曜次
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 本講義は、中学校社会科、及び、高校公民科の学習指導ができるようになるための基礎的素養を学ぶことを目的としています。そのため、できるかぎり実践的な観点から授業を進めていきます。まず、学習指導要領の内容を理解し、授業展開のポイントを解説します。また、わかりやすい授業を行うためのさまざまな方法を実践的に考えます。具体的には指導案の書き方の指導、模擬授業の実践を中心に参加型の授業法を取り入れて、皆さん自身が教師としての心構えを磨き上げていけるよう、互いに刺激し、批評しあう機会をもうけます。また、近年、選挙年齢が18歳に引き下げられたことによる子どもたちへの政治教育(主権者教育)の重要性が改めて問われています。とりわけ公民科では政治や経済問題を取り扱うことが多く、子どもたちに政治の主体として意識を涵養するための教育(市民性教育、シティズンシップ教育)をどのように実践できるのかについても考えていきます。具体的には政府が作成した政治教育副教材の分析や学校現場での実践例の分析などを行います。

**到達目標**  
 本講義の到達目標は以下の通りです。  
 (1) 中学社会科(地理、歴史、公民分野)、高校公民科の教師として必要な「知識」を確実に身につける。  
 (2) 中学社会科、高校公民科の教師として、高い「授業実践力」をつける。  
 (3) 授業を実践していくうえで最も重要な「教材研究」の力をつける。  
 (4) 政治教育、市民性教育(シティズンシップ教育)についての理解を深め、指導案を作成し、授業実践ができるようになる。

**授業方法と留意点**  
 まず社会科、公民科教育の理論の整理、そして、可能な範囲で履修者全員に模擬授業を実践してもらうような「実践型・参加型の授業」を目指します。また模擬授業の実践では、それぞれの模擬授業終了後は必ず全員で意見交換を行い、授業内容に対する問題点と課題点を整理します。ここでのコメント力を鍛えることも重要な目標です。指示した授業準備は必ず行ってください。教師としての自覚もあわせて養成するため、遅刻・無断欠席については厳しく対応します。

**科目学習の効果(資格)**  
 中学校1種「社会」、高校1種「公民」の教育職員免許を取得するために必要である。  
 【免許法施行規則に定める科目区分】  
 科目：教科及び教科の指導法に関する科目  
 各科目に含める必要事項：各教科の指導法(情報機器及び教材の活用を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：社会科・公民科教育の意義	日本における社会科教育の歴史と現状について学び、社会科・公民科教育の意義について考える。	社会科教育の課題について考えてくること。
2	中学校指導要領(社会)、高校指導要領(公民)にみる授業の目的	学習指導要領の概要について学ぶ。	各自事前に入手した学習指導要領(中学：社会科、高校：公民科)の事前読了。 ※指導要領の要約
3	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(1)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
4	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(2)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
5	中学校社会科、高校公民科の授業展開のポイント(3)	中学社会科・高校公民科での優れた授業実践の解説と批評。	※事前配布資料の要約
6	教育方法と技術(1)：ミニ模擬授業	板書・話し方・参考資料の作り方・新聞記事の利用のしかたなど、教育実践の基本的技術について。コンピューター(パワーポイントやインターネット)を用いた授業のやり方。パワーポイントを用いた授業をミニ模擬授業で実演する。	新聞記事の検索。
7	教育方法と技術(2)：ミニ模擬授業	ディベートを取り入れた授業の工夫について。公民に関わるテーマで模擬ディベートを行いながら学ぶ。調査の意義と方法、研究発表の指導について。ディベートを取り入れたミニ模擬授業を実演する。	ディベート準備。
8	学習指導案の書き方(1)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(1)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
9	学習指導案の書き方(2)：ミニ模擬授業	学習指導案の作成指導(2)：各自が作成した学習指導案のうち、もっとも力を入れるべき箇所をミニ模擬授業として実演する。	学習指導案の作成。
10	模擬授業(1)	模擬授業の実践と指導(1)	模擬授業の準備。
11	模擬授業(2)	模擬授業の実践と指導(2)	模擬授業の準備。
12	政治教育(市民性教育)(1)	政治教育副教材の分析	各自、政治教育副教材を分担し、担当箇所を要約する。
13	政治教育(市民性教育)(2)	実践事例分析	政治教育実践例についてまとめ、発表。
14	成績評価の方法、及び試験問題の作成について	成績評価にあたって重要となる事柄の概要を知り、さまざまな成績評価の方法を学ぶ。また、定期試験問題作成について学ぶ。	※事前配布資料の要約、及び定期試験問題作成(事前課題)
15	総括—社会科・公民科の指導について	授業全体をふりかえって討論し、社会科教師としての課題と責務を確認する。	社会科教師としての自分の課題について考えてくること。

**関連科目**  
 原則として社会科・公民科教育法Ⅰを既に履修していること。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	中学校学習指導要領解説社会編	文部科学省	日本文教出版
2	高等学校学習指導要領解説公民編	文部科学省	日本文教出版
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題・レポート(30%)、模擬授業(50%)、平常点:授業への貢献度等(20%)。 出席については全体の80%以上の出席(15回中12回以上)が必須。 出席率が80%に満たない者は成績評価の対象外となる場合があります。			
学生への メッセージ	本講義は学生の皆さんの主体的な授業への関与が求められます。一般的な講義に見られるような、教員が一方的に授業を進めていくスタイルではありません。学生の皆さんが授業をつくっていくことになります。ですので、宿題やレポート作成など、授業運営に欠かせない作業を怠ると自分自身はもちろんのこと、周囲に多大な迷惑がかかります。毎時間予習・復習を怠ることなく、責任と意欲を持って講義に出席して下さい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業計画・内容は、授業の進捗状況等により変更することがあります。あらかじめご了承ください。 中学社会科、高校公民科の学習指導要領の入手方法については改めて説明します(前期社会科公民科教育法Iで購入済みの者は購入の必要なし)。 事前・事後学習総時間をおおよそ60時間程度とする。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で意見を出し合ってください。
科目学習の効果 (資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付きます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習：本科目のシラバスを熟読すること（1時間） 事後学習：年間の学びの計画を立てること（3時間）
2	職業指導の基礎理論	・職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習：職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと（2時間） 事後学習：職業指導に関する資料を熟読すること（2時間）
3	職業指導の歴史①	・アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習：欧米の職業指導に関して調査すること（3時間） 事後学習：講義の内容を振り返ること（1時間）
4	日本の産業構造の変化	・日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習：日本の産業の変遷について市調しておくこと（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
5	職業指導の歴史②	・日本の戦後の教育改革について	事前学習：日本の戦後の教育改革について調べておくこと（2時間） 事後学習：配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること（2時間）
6	日本型雇用と職業指導	・日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習：日本型雇用について発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：発表及びディスカッションの内容を振り返ること（1時間）
7	新規高卒就職システム	・新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習：高卒労働市場に関して調べておくこと（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
8	高等学校における職業指導	・各種学校における職業指導の在り方について	事前学習：高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること（3時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（1時間）
9	「労働すること」を考える	・仕事をするものの意義を考える	事前学習：仕事をする意味について意見をまとめておくこと（2時間） 事後学習：自らの労働観について考えること（2時間）
10	職業指導の領域	・学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習：職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
11	キャリア教育の基礎理論①	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：自己について考えておくこと（2時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（2時間）
12	キャリア教育の基礎理論②	・キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習：児童・生徒の発達について考えておくこと（3時間） 事後学習：キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること（1時間）。
13	授業内容立案	・高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習：高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと（1時間） 事後学習：模擬授業の準備をすること（3時間）
14	模擬授業	・講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習：模擬授業の準備をすること（2時間） 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（2時間）
15	講義の振り返り	・講義の振り返り、最終レポートの提出	事前学習：前期のレポートを作成すること（3時間） 事後学習：講義全体を振り返ること（1時間）

関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			



	3		
評価方法 (基準)	<p>講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。</p> <p>平常点(30%)、(授業課題20%)、期末レポート(50%) また、前期最終時にレポートを実施します。</p>		
学生への メッセージ	<p>「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。なお、講義は科目担当者の人材業界での業務経験・及び起業経験を元にしたお話も交えて進行します。</p>		
担当者の 研究室等	水野講師室 (7号館3階)		
備考			

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化とそれが職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。  講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果(資格)	商業科における職業指導の基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業概要の説明	事前学習：本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習：後期の学習計画を立てること(3時間)
2	商業教育と職業指導	・商業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：商業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)
3	工業教育と職業指導	・工業高校における職業指導の事例を知る	事前学習：工業高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)
4	普通科高校と職業指導	・普通科高校における職業指導について	事前学習：普通科高校の職業指導事例に関して調査すること(2時間)。 事後学習：講義の内容を振り返ること(2時間)
5	フリータートニートについて	グループ(またはペア)でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)
6	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること(2時間)。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること(2時間)
7	キャリアデザインとは何か	キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)
8	高校生の就業力について職業適性とは何か	・新規高卒者に求められる基本的な能力 ・職業適性、アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること(2時間)。 事後学習：自らの適性の活かし方考えること(2時間)。
9	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること(2時間)。 事後学習：配布資料を精読すること(2時間)
10	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること(2時間)。 事後学習：講義内容を振り返ること(2時間)
11	就業力向上企画を立案①	高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)
12	就業力向上計画立案②	11回目まで考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること(3時間)。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること(1時間)
13	キャリアカウンセリング理論①	自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(2時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(1時間)
14	キャリアカウンセリング理論②	カウンセリングマインドについて	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと(1時間)。 事後学習：講義の内容について振り返ること(2時間)
15	まとめ/講義の振り返り	提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること(4時間)。 事後学習：講義全体を振り返ること(2時間)

関連科目 教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。「特別活動論」にも近接します。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	レポートを実施します。その他、授業への積極的参加、その他課題の提出状況およびその内容、報告や討議の内容も加味して、成績を判定します。 平常点(20%)、調査・プレゼンテーション課題(30%)、期末レポート(50%)		
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。なお、講義では担当者の実務経験にもとづいて議論を進めることもあります。		
担当者の 研究室等 備考	水野講師室（7号館3階）		

科目名	教師論	科目名 (英文)	Teacher Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教職に関する理解を深め、自己の適性を見つめ直し、最終的に教職をめざすことについて主体的な進路選択を行うための判断材料を提供します。具体的には、「教職の意義とは何か」「教師の役割や求められる資質能力とは何か」「教職の専門性は何によって担保されるのか」「教師の職務とは何か」「教師の身分や身分保障はどのようにになっているのか」などについて基礎的な知識を講義し、これに基づき関連するテーマについて議論を通して理解を深めます。
到達目標	学生は、教職に関する基礎的な知識を獲得し、「自分は教師に向いているのか」「自分どのような教師をめざすのか」などについて判断できるようになります。また、グループワークを通じ、視野を広め、コミュニケーション力を向上させることができます。
授業方法と留意点	講義を中心に、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。 「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上必修 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：教職の意義及び教員の役割・職務内容 (チーム学校運営への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 教職への道	科目概要について説明 自らの学校・生徒体験、心に残る教師等 についてのふりかえり 教職課程の履修動機 教師になることの意味	本科目のシラバスの熟読
2	教職の成立とその意義	公教育の成立 教職の誕生 戦前の教員養成	戦前の教員養成制度に関する配布資料
3	教師教育と教職の専門性 (1)	教員への道 戦後教員養成の原則と制度 教員免許制度の確立	戦後の教員養成制度に関する配布資料
4	教師教育と教職の専門性 (2)	教員免許制度の新たな展開 教員採用の動向と採用試験	教員免許制度に関する配布資料
5	教師教育と教職の専門性 (3)	教員の研修の意義 教員の研修の種類と体系	学び続ける教師に関する配布資料
6	教師教育と教職の専門性 (4)	法定研修 教員の自己研修	教員研修体系に関する配布資料
7	文献・映像に基づく教師像の 探究 (1)	戦前・戦後の教師像 憧れの教師	教師像に関する配布資料
8	文献・映像に基づく教師像の 探究 (2)	「不良教師」と「熱血教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「不良教師」と「熱血教師」に関する配布資料を読みレポート提出
9	文献・映像に基づく教師像の 探究 (3)	「人間教師」と「プロ教師」(文献・映像 に基づく教師像の探究) レポートに基づくグループワーク	「人間教師」と「プロ教師」に関する配布資料を読みレポート提出
10	文献・映像に基づく教師像の 探究 (4)	教師としての資質能力のあり方	教師に求められる資質能力についての議論に関する配布資料
11	教員の役割・職務 (1)	学校・教室における指導者の視点からみた 教員の役割・職務	授業・カリキュラムと教師に関する配布資料
12	教員の役割・職務 (2)	学校組織の構成員の視点からみた教員の 役割・職務	教職員構成と校務分掌に関する配布資料
13	教員の役割・職務 (3)	学校内外の連携の視点からみた教員の 役割・職務 (チーム学校運営への対応を 含む)	「チーム学校」の考え方と学校運営の実践に関する 配布資料
14	教員の役割・職務 (4)	教員の任用と身分 教員の服務と身分保障	教員の任用・服務等に関する配布資料
15	教員の役割・職務 (5)	教員の勤務条件 教員のメンタルヘルス、バーンアウト	教員の勤務実態とメンタルヘルスに関する配布資料

関連科目 教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教育経営論」「教育課程論」「教育方法論」「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー 10%。定期試験を受験しなかった場合は評価不能 (評定なし) とします。

学生へのメッセージ 教職について考えることは教育について考えることであり、「教え」「学び」「育ち」を含む「生き方」について考えることになります。教養をもとに、広い視野で物事を捉える習慣を身につけましょう。  
遅刻・早退等は厳禁です。教師を目指す者としての資質が問われます。

担当者の研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス7号館3階
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ60時間程度です。

科目名	教育経営論	科目名 (英文)	Studies of Educational Administration
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	朝日 素明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では、現代公教育制度の意義・原理・構造について、その法的・制度的仕組みに関する基礎的知識、および学校や教育行政の組織構造・機能・関係に関する基礎的知識を身につけ、経営の観点から理解するとともに、そこに内在する課題を理解します。そのために、公教育システムに関してなじみの深い事象を参照し、その原理や構造・機能、それに関する政策や法制度、理論や論争、実態や課題を検討していきます。
到達目標	私たちにとってはあたりまえで意識することもないうような、学校教育を中心とした公教育システムのあり方について視野が広がり、理解が深まります。例えば「学校では何を学ぶのか」「学校ではどのように教えられるのか」という内容・方法的な事柄についても、さまざまな制度やその運用によって規定されている様子がわかるなど、教育の環境や条件についての関心が高まり、直接的な行為だけに回収されない教育の奥行きや広がり理解できるようになります。
授業方法と留意点	プレゼンテーションソフトを用いた講義のほか、テキスト・資料の事前学習に基づくディスカッション (LTD ; Learning Through Discussion) 等のグループワークも織り交ぜて授業を進めます。事前学習は必須です。ウェブ上で資料配布、課題提示・レポート提出をすることがあります。「事前・事後学習課題」はすべて事前学習課題です。事後学習課題については別途、指示します。
科目学習の効果 (資格)	教員免許取得上選択必修であり、可能な限り修得することが望ましい科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：教育の基礎的理解に関する科目 各科目に含める必要事項：社会的、制度的又は経営的事項 (学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	教育権の構造	「教育をする権利」「教育を受ける権利」 「学習する権利」	テキスト第 6 章を読んでくる。
3	教育を受ける権利の保障	教育権論争について簡単なグループワーク 公教育の制度原理	教育権についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
4	学校体系のしくみ	段階性、系統性 学校体系の類型 学校の種類と設置者	テキスト第 4 章を読んでくる。
5	学校体系の現代的課題	「義務制」「無償制」にかかわって簡単なグループワーク 選別・分離と接続・統合	教育の制度原理についての配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
6	教育条件整備の法制度と新しい動向	「選抜・選別」について簡単なグループワーク 公教育を支える諸条件とは 条件整備はどのようになされるか	学校の機能に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
7	中央教育行政の組織構造	各省庁・審議会	テキスト第 8 章を読んでくる。
8	地方教育行政の組織構造	教育行政の原則 教育委員会のしくみとはたらき 首長部局と教育委員会	テキスト第 9 章を読んでくる。
9	中央・地方教育行政の関係構造	教育委員会制度論の新動向に関して簡単なグループワーク 監督行政と指導行政 教育行政関係の新しい動向	教育委員会制度の動向に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。
10	指導行政と教育内容行政	学習指導要領、研究指定・研究開発、教科書行政	テキスト第 11 章を読んでくる。
11	教育課程経営	学力低下論争をめぐる簡単なグループワーク カリキュラムマネジメント 学力論争と教育評価論	学力低下論争に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 15 章を読んでくる。
12	人事行政と教職員管理	教職員の資格・身分・服務管理、教育労働管理	テキスト第 10 章を読んでくる。
13	学校の組織管理と組織編制	教職員配置、学校・学級の「適正規模」「適正配置」 学校評議員制度、学校運営協議会制度	テキスト第 16 章、第 19 章を読んでくる。
14	学校経営の組織構造	学校の「適正規模」「適正配置」にかかわって簡単なグループワーク 学校の組織特性、学校経営の組織と過程 (学校と地域との連携含む)	学校統廃合に関する配布資料を読み、レポート提出を済ませておく。 テキスト第 14 章を読んでくる。
15	学校の安全管理と安全教育	安全管理の領域 安全教育の方法	テキスト第 18 章を読んでくる。

関連科目	教職科目全般、とりわけ「教育原理」「教師論」「教育課程論」に関連する事項を含みます。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	公教育経営概説 (改訂版)	堀内孜	学術図書出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	定期試験 60%、レポート 30%、グループワークにおけるピアレビュー10%。定期試験を受験しなかった場合は評価をしません。		
学生への メッセージ	教員採用試験で頻出の教育法規については授業中に折に触れ解説しますが、採用試験ではそれを基本としてさらに幅広い知識、深い理解と応用力が要求されます。本科目は採用試験対策のための講義ではありませんので、各自が自主的に採用試験受験準備に取り組んでください。遅刻・早退等は厳禁です。専門職業人・教師としての資質が問われます。		
担当者の 研究室等	朝日研究室；寝屋川キャンパス 7 号館 3 階		
備考	ポータルシステムを通して講義連絡、学生呼出、資料配布、レポートの課題提示・提出受付を行うことがあります。リマインダ設定と定期的なサイト確認を確実にしてください。 事前・事後学習総時間はおおよそ 60 時間程度です。		

科目名	教育実習 I	科目名 (英文)	Teaching Practice I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典, 吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	3年次前期終了後にクラス編成が行われる。クラスごと各担当者が指導する。(1)教育実習の実際についての情報を提供する。それらに基づき、受講者は、演習や実習を行う。(2)教育実習校における実習に必要な教育実践の基本を理解して、教科指導、学級・ホームルーム経営、生徒指導等の実際について有効な指導計画を立案し、効果的な指導をできるようにする。(3)教育実習の現状と課題についての認識を深めるとともに、教育実習生としての基本的心がまえについて理解を深める。
到達目標	教育実習の目的や意義、内容等を理解し、教育実習へ向けての十分な準備ができるようになる。そのことにより、自信をもって教育実習に臨めるようになる。
授業方法と留意点	講義(体験報告を含む)、演習(文献購読、発表、討議を含む)、実習(指導案作成、模擬授業を含む)を行う。対面授業を基本とする。実習生として主体的・能動的な姿勢・態度で参加すること。
科目学習の効果(資格)	教員免許状取得上必修、免許法施行規則に定められた「教育実習」5単位あるいは3単位のうち「教育実習に係る事前及び事後指導」1単位を充足。 【免許法施行規則に定める科目区分】教育実践に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：教育実習(教育実習に係る事前及び事後指導)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	実習中の勤務の要領	学校の日、一週間の流れ、学校の組織と運営の概要について	授業時に指示する
3	授業の方法と技術	授業のスタイルとスキル、教材研究、学習評価の観点について	授業時に指示する
4	授業の記録と評価	授業研究の意義、授業分析の方法、授業評価について	授業時に指示する
5	生徒理解・生徒指導と学級・ホームルーム経営	生徒理解・生徒指導の方法、個別指導・集団指導、学級・ホームルームの指導について	授業時に指示する
6	学校における人権教育	人権教育の現状と課題について、学校保健と安全指導について	授業時に指示する
7	特別支援教育の現状と課題	障がいの種類と配慮事項、障がい児理解と交流教育について	授業時に指示する
8	指導案の作成(1)	授業の準備と配慮事項、学習指導案の書き方、教科指導の学習指導案、板書計画の作成	授業時に指示する
9	指導案の作成(2)	学級(ホームルーム)活動等の指導案について	授業時に指示する
10	模擬授業(1)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
11	模擬授業(2)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
12	模擬授業(3)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
13	模擬授業(4)	作成した学習指導案に沿った模擬授業、意見交換	授業時に指示する
14	教育実習の実際(1)	教職フォーラムへの出席、教育実習体験発表の聴講と討議	授業時に指示する
15	教育実習の実際(2)	教育実習総括講義への出席、教育実習の課題テーマについて討議	授業時に指示する

関連科目	教職課程で学んだ全科目
------	-------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	『新編 教育実習の常識』	教育実習を考える会	蒼丘書林
	2			
	3			

評価方法(基準)	授業における積極性・貢献度(30%)、模擬授業(40%)、提出物(30%)によって総合的に評価します。
----------	---

学生へのメッセージ	教育実習はこれまで学んできたことの総まとめです。よい実習ができるよう、十分に準備してください。
-----------	---

担当者の研究室等	鎌田研究室・吉田研究室：寝屋川キャンパス7号館3階
----------	---------------------------

備考	教職フォーラム(10月最終土曜日)、教育実習総括講義(11月最終土曜日)には必ず出席すること。 ポータルシステムを通して連絡・呼出、資料配布、課題提示・提出を行うことがあるので、リマインダ設定と定期的なサイト確認を必ずすること。 担当者により、授業の具体的な内容・方法が若干異なる場合がある。
----	--



事前・事後学習総時間はおおよそ 30 時間程度となる。

科目名	栄養教育実習 I	科目名 (英文)	Practice in Teaching I (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習で行う事前指導は、教育実習を円滑かつ効果的に実施するために、実習校の担当指導教員と連絡、調整する基本的なマナーなどを理解するとともに、栄養教諭として身につけるべき専門知識と技術の統合をはかるものである。教育実習の目的や内容を習熟するとともに、指導案や実習日誌の書き方について学ぶ。また、学校経営、学級経営の原理と方法、児童生徒を理解するための適切な方法、生徒指導や学習指導の原理と方法を具体的に理解し、指導に必要な技能と態度を修得し、栄養教諭として行う食に関する指導の具体的な技能と方法を修得する。さらに、実習終了後の成果発表の方法やまとめ方を学修する。
到達目標	① 教育実習に主体的に取り組むことができる。 ② 実習受け入れ校と打ち合わせをすることができる。 ③ 実習校と打ち合わせた内容で指導案を作成することができ、教育実習に必要な知識と技術を身につける。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③食に関する指導の手引きから読み解く ④グループ討議とロールプレイング
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 教育実習の意義と目的	オリエンテーション 教育実習の意義と目的を理解し、教育実習に対する意欲を高める。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
2	事前挨拶について	マナーを守った電話対応に必要な情報を得る。(ロールプレイング・グループ討議)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
3	身だしなみについて	礼儀作法、言葉使い、守秘義務、マナーについて学修する。(挨拶、礼状の書き方の演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)
4	教育実習における注意点について	教育実習記録の記入方法や欠勤届けについて、事例をもとに学修する。	事前: 栄養教育実習のびきを熟読する (0.5 時間)。
5	学校・学級経営の研究について	学校経営や学級経営がどのように行われているかその方法について考える。	事後: レポート提出 (1 時間)。
6	食に関する指導の研究について	児童生徒の食生活に関する実態把握、教科等の指導、個別指導、連携調整、その他のポイントについてどのように調査・研究したらよいかグループで考え発表する。 (講義、グループ活動)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
7	学習指導案の立て方	食教育上の課題を発見し、その課題を解決するための指導案を作成する。	事前: プリントの熟読と食に関して懸念される事項や食料自給率の問題を調べる (1 時間)。 事後: 指導案提出 (1 時間)。
8	生徒指導について	生徒指導は子どもの理解から始まることを理解し、その方法をグループで考え発表する。(グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (0.5 時間)。 事後: レポート提出 (1 時間)。
9	栄養食事管理について	栄養食事管理の方法、集団と個別や合理的配慮を要する児童生徒の栄養管理の方法について話し合う。 (グループ討議)	事前: 配布資料を熟読する (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
10	給食の時間の指導について (偏食指導)	給食の時間における指導の特質について理解し、偏食等の問題のある子どもへのことばがけについて学修する。 (講義、ロールプレイング)	事前: 食に関して合理的配慮の必要な児童生徒について調べる (1 時間)。 事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
11	給食の時間の指導について (事故防止)	給食の時間中に起きると想定される窒息事故、ノロウイルスに対する処置ができるように学修する。(講義・演習)	事前: ノロウイルスによる二次感染の予防対策について調べる (1 時間)。
12	給食の時間の指導について (給食当番)	給食当番へ、協力の大切さと衛生の観点で指導ができるように学修する。(講義・グループ討議・演習)	事後: ワークシート提出 (0.5 時間)。
13	給食時のクラスの衛生管理について	給食時における衛生上の指導ができるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 給食時のクラスの衛生について調べる (1 時間)。 事後: ルーブリック表を提出 (0.5 時間)。
14	食事のマナーについての指導方法について	給食時の食事のマナーについて指導できるように学修する。 (講義・グループ討議・ロールプレイング)	事前: 食に関する指導の手引 (食事のマナー) を熟読する (0.5 時間)。
15	成果発表会について	実習報告のまとめかたと発表の方法について学修する。 (講義・配布資料)	事後: レポート提出 (1 時間)。

関連科目	学校栄養指導論 I・学校栄養指導論 II			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き第二次改訂版	文部科学省	東山書房
	2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論－理論と実際－	金田雅代	建帛社
	2	配付資料		
	3			
評価方法 (基準)	提出物 70% 学修への取り組み (ルーブリック評価) 30%			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8 号館 326 号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko. imajo@setsunan. ac. jp			
備考				

科目名	教職実践演習 (中・高)	科目名 (英文)	Practicum in Prospective Teachers
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一・朝日 素明・鎌田 祥輝・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教育実習を終え、各自の問題点を明確化しながら今後の自らの実践課題をグループワーク等を通して再認識し、教員としての適性や ICT の活用など実践的な力量について確認する。</li> <li>○中学・高校での現場体験学習をもとに、現職・元教員、教育委員会指導主事等と研究交流し、生徒理解を通して生徒指導・進路指導ができることを確認する。</li> <li>○教科に関する科目の担当者や科目の指導主事・現職教員と連携協議し、専門科目・教職科目の学習を深め、授業実践ができることを確認する。</li> <li>○教員としての適性や力量、特に「授業を創造する意欲と能力」「対人関係能力と社会性・協調性」「使命感・責任感」「学校教育活動におけるリーダーシップ」等を有していることを確認する。</li> </ul>
到達目標	免許教科に関する学習、中学校での学習、今日的な教育問題に関する学習など、様々な学習を通して自身の課題を見つめ直し、教員としての適性や力量について確認することができる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職課程の専任教員6名による全体指導と、各専任教員ごとのグループ学習を中心に進める。1グループは10名程度。さらに、長年の実践経験を有する教員から実践を通して見えてくる学校現場の諸課題を知り、自己の実習経験と重ねるなかで、新たな課題を探り、かつ全体でも共有していく。</li> <li>○教科に関する科目の本学の担当者や近隣市の指導主事および現職教員と連絡協議し、教科指導・生徒指導・進路指導等ができることを確認していく。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>○教職実践演習は、当該演習を履修する者の教科に関する科目及び教職に関する科目 (教職実践演習を除く) の履修状況を踏まえ、教員として必要な知識技能を修得したことを確認するものである。</li> <li>○教職課程の必修科目。免許資格取得と同時に即学校現場で生かせる実践力を身に付けることが求められる。</li> </ul>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	「教職実践演習」の全体ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義の目的、内容方法についての確認。</li> <li>・受講者各自の教育実習後の課題についての確認。</li> <li>・2回目以降に行われるグループ学習の各課題の確認。</li> </ul>	教育実習ノートの点検と再確認
2	いじめの現状	<ul style="list-style-type: none"> <li>問題行動のなかから特に「いじめ」を取り上げ、その多様性、メカニズム、深刻さを理解する。</li> <li>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</li> </ul>	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
3	いじめ問題への取り組み	<ul style="list-style-type: none"> <li>日常の些細な出来事がどのように「いじめ」に発展するのか、教師がいじめを見抜くのはどうして困難なのかを考える。</li> <li>配布資料の事前学習に基づき、グループワークを行う。</li> </ul>	(事前) 配布資料の熟読、小レポートの提出	
4	「よい授業」を探究する: 「わかる授業」と「たのしい授業」	<ul style="list-style-type: none"> <li>「わかる授業」と「たのしい授業」をめぐる歴史的な論争を紐解きながら、「よい授業」のあり方を探究する。</li> </ul>	(事前) 「よい授業」のイメージを考えておく。 (事後) 小課題を課す。	
5	学習指導案を読み解く	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教師の主體的な授業構想が記されている学習指導案を複数取り上げ、授業の風景や教師のねらいを読み解く。</li> <li>・現在一般に使用されている学習指導案の形式の特徴や課題を理解し、授業づくりに関わる知見を深める。</li> </ul>	(事前) 配付資料を読んでおく。 (事後) 小課題を課す。	
6	学校の危機管理 (1): 学校管理下の事件・事故	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校管理下における事件・事故発生時の初期対応や事後対応等について文部科学省が運営する学校安全ポータルサイトなどを活用しながらグループで考えることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</li> </ul>	(事前) 学校管理下の事件・事故に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
7	学校の危機管理 (2): 災害	<ul style="list-style-type: none"> <li>災害発生時の初期対応や事後対応等についてグループで考えることや、国土交通省が運営する「ハザードマップポータルサイト」を活用し、居住地や勤務予定地域の災害リスクを調べることを通して、教員としての学校安全に関する資質・能力を高める。</li> </ul>	(事前) 災害発生時の学校の対応に関する配布資料を読んでくる。 (事後) ミニレポートを課す。	
8	学校における行動問題支援 (理論編)	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校生活で生徒が起こす行動問題支援のための基礎理論となる「応用行動分析」の基礎を学ぶ。</li> </ul>	(事前) 学校生活で生徒が起こす行動問題について具体的にどのようなものがあるかまとめておく。 (事後) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析する。	
9	学校における行動問題支援 (実践編)	<ul style="list-style-type: none"> <li>持ち寄ったレポートを基にそれぞれの事例について、事例検討会を行う。</li> </ul>	(事前) 教育実習等で気になった生徒の行動問題について「応用行動分析」の立場から自分なりに分析したことをレポートにまとめる。 (事後) 2回の学修内容について、配布資料をもとに振り返る。	
10	カウンセリングマインドと生徒対応	<ul style="list-style-type: none"> <li>カウンセリングの技法を生徒への対応、保護者への対応に応用する。</li> </ul>	(事前) カウンセリングマインドについての復習。 中学生あるいはその親のもつ“悩み”を3つあげる。	

	11	「自分」を知る	教育職における「自己を知る」ことの重要性を知り、そのための一方法としてのエゴグラム作成を行う。	(事後) 小レポート (事前) 「自分」について考える。 (事後) 小レポート
	12	生徒指導:生徒理解と学級運営	・生徒指導の定義と目的をふまえ、生徒理解と学級運営について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	13	進路指導:保護者対応とキャリア教育	・キャリア教育の必要性と意義をふまえ、学校と家庭・地域との連携方法について学ぶ。 ・実際にあった事例を参考に実践的なワークショップ型演習を行い、理解を深める。	(事前) 配布資料を熟読する。 (事後) 小レポートの提出
	14	生徒指導・進路指導(中学校現場での実地学習)	近隣市の教育委員会との連携協力のもとに、中学校現場をグループごとに参観し、生徒指導・進路指導上の実践課題を知る。	中学校における集団づくりと個別指導(生徒指導・進路指導のあり方)についてレポートにまとめる
	15	免許教科における実践上の課題	免許教科ごとに分かれ、その科目の実践上の課題について、教科教育法担当教員が指導する。その上で、研究交流する。	免許教科における実践上の課題について整理する。
関連科目	全ての教職課程必修科目、取得予定免許状に関わる各教科ごとの必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	グループ学習が中心となり、各回の授業担当教員から課題を出します。課題の内容や授業に臨む姿勢などを各授業担当教員が評価します(87.5%(12.5%×7名))。また、最終レポートを提出してもらい、グループの担当教員が評価します(12.5%)。これらを合計し、最終的な評価とします。			
学生へのメッセージ	教育実習を終えた時点で各自が自らの実習を省察してください。その中で、問題点を見出し、課題を自ら設定し、この科目を軸にしながら、全体講義やグループワークを通して課題克服を目指しながら、さらなる実践的力量を身に付けていきましょう。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(朝日、鎌田、西村、松浦、吉田) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口)			
備考	事前・事後総学習時間は、60時間程度である。			

科目名	教職実践演習 (栄養教諭)	科目名 (英文)	Practical Seminar on Teaching (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子, 谷口 雄一
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本演習は、栄養教諭となるために必要な知識技能を修得したことを確認するものである。よって、昨今の食に関する問題や教育実習でつかんだ児童・生徒の状況を踏まえ、これらの問題を解決するための手立てを、給食の時間や授業、家庭や地域との連携の場合について考えていく。さらに、考えた手立てを学習指導案や給食だよりといった具体的な指導に結び付け、模擬授業や親子料理教室などへ展開していく。児童・生徒が抱える食の課題に対する効果的な指導となるように実践的な手立てを修得し、豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①今までの学修を振り返り、各自の課題を発見することができる。 ②摂取する食品と健康との関連や毎日の食事と社会とのつながりについて、食育の視点で指導案を作成し模擬授業ができる。 ③児童・生徒が適量を食べようとするための指導ができる。 ④スポーツをする児童・生徒への個別指導の方法を考え、その一環として食品構成表を作成するなど食事提案ができる。 ⑤地場産物を活用した学校給食献立を考えることができ、そのメニューを活用した親子料理教室の企画書を作成することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントや配布資料を用いて授業をすすめる。 ②グループ討議では受身にならず、意欲的に意見交換を行い傾聴力や実行力を高める。 ③教育実習で経験した児童・生徒の状況を整理し、学校教育現場を常に想定しながら演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	教育実践演習について	教育実習の振り返りや「教職履修カルテ」と「自己評価シート」に基づいて自分の課題を発見し、課題に取り組む。	予習：今までの教職科目を振り返る (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
2	教職の意義・役割について	「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」について各自振り返り発表、討議し、教職の意義や教員の役割、教職内容、児童・生徒に対する責任について考えを深め、自分の課題を克服する。	予習：「教職入門」「教育原理」「教育心理学」「教育制度」についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
3	組織としての栄養教諭について	組織の一員としての自覚、食育のコーディネーターとしての在り方、保護者や地域の方々、児童・生徒との人間関係の構築等で自分の課題を発見し、克服しようとする手立てを考える。	予習：学校組織についてまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
4	食に関わる問題について	学校が目指す児童・生徒像に近づけるため食育でどう近づいていくか考え、食育の全体計画を作成する。	予習：児童・生徒の食に関する課題をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (3時間)。
5	全体計画の発表	児童・生徒の食に関する問題点、目指す児童・生徒像から食育の全体計画を作成し発表する。	予習：食育の全体計画の修正 (3時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。
6	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (指導案と指導資料)	給食では必ず提供される牛乳を飲もうとする意欲を高める指導案作成と指導資料作り、家庭へのおたよりを作成する。	予習：牛乳と健康の保持増進について調べておく (2時間)。 事後：指導案提出 (2時間)。
7	摂取する食品と健康の保持増進の関連指導について (模擬授業と評価)	健康を考えて牛乳を飲もうとする意欲を高める模擬授業を行い、意見交換や発表の評価を行う。	予習：模擬授業にむけて練習をしておく (2時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。
8	学校安全で行う安全教育について理解する。	学校での安全教育の位置づけを理解し、栄養教諭としての役割を考える。	予習：安全教育の3つの領域について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
9	学校安全で行う食に関する災害安全学習について (模擬授業と評価)	災害時の食に関する学習の単元構成の発表と指導方法についてグループで考える。	予習：過去の災害時の食の問題について調べておく (3時間)。 事後：災害時の食についての学習指導案提出 (2時間)。
10	適量を食べようとするための取組み (授業、給食時間の働きかけ)	児童・生徒の肥満や、やせの問題についてグループ討議を行い、児童・生徒が適量を食べようとするためには、どのような手立てが必要か考え、それに基づく学習指導案や給食だよりを作成する。	予習：食品構成をまとめておく (2時間)。 事後：指導案提出 (3時間)。
11	障害のある児童生徒への食に関する指導について	障害のある児童生徒への食に関する指導の視点や展開を考える。	予習：特別支援学校について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (1時間)。
12	個別指導 (食物アレルギー対応・スポーツをする児童・生徒)	食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題を考え、個々に対応した食品構成を作成し、それを基に指導演習を行う。	予習：食物アレルギーやスポーツをする児童・生徒の今日的課題について調べておく (2時間)。 事後：ループリック提出 (1時間)。
13	学校給食管理について (施設見学・調査)	学校給食施設を見学し、衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査する。	予習：学校給食の給食管理について調べておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
14	学校給食管理について (レポート作成)	学校給食における衛生管理や調理指導、施設管理、地場産物の活用などについて調査したことや新たな発見・課題をまとめて発表する。	予習：学校給食の給食管理について課題点をまとめておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
15	家庭・地域連携について	児童・生徒の食の問題点を解決するための給食試食会を企画する。	予習：児童・生徒の食の問題点について調査しておく (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。

関連科目	全ての教職課程必修科目、栄養教諭免許状に関わる必修科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂	文部科学省	東山書房
	2	栄養教諭論Ⅱ 実践研究	金田雅代	建帛社
	3	プリント配布		
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題提出物 60% 成果発表 30% 学修への取り組み(ルーブリック評価) 10%			
学生への メッセージ	教育実習を終えた時点で自らの実習の課題点を見出し、課題解決のための目標を設定し、授業やグループワークを通して克服し、栄養教諭として実践的力を身に付けましょう。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	地域連携教育活動 I	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 実際の教育現場を知る。 ② 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ③ 社会的倫理観を確立する ④ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑤ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスマニエールの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・部活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、はじめて「地域連携教育活動 I」を履修する学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導 1</td> <td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td> <td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導 2</td> <td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td> <td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導 3</td> <td>「守秘義務」についての確認。</td> <td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td> <td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動 1~25</td> <td>受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>活動報告会</td> <td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td> <td>事前：報告会での発表準備(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1~25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書(日誌等)の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備(3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、最終報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階(朝日研究室)、7号館3階(鎌田研究室)、7号館4階(谷口研究室)、7号館3階(西村研究室)、7号館3階(松浦研究室)、7号館3階(吉田研究室)																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等にかかなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		



科目名	地域連携教育活動Ⅱ	科目名 (英文)	Community-Based Education Support Activities II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	吉田 佐治子, 朝日 素明, 鎌田 祥輝, 谷口 雄一, 西村 晃一, 松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「地域連携教育活動Ⅰ」と異なる、あるいは同じ大学近隣の学校で、年間を通じて授業補助、学習支援、学校行事、課外活動等幅広く体験し、自己の適性を把握する機会をもち、人間的成長や社会意識の向上、教員としての愛情と使命感を深めることを目指す。																																																																		
到達目標	① 「地域連携教育活動Ⅰ」を受け、その体験をもとにさらに学びを深める。 ② 実際の教育現場を知る。 ③ 自身の能力や適性を考え課題を自覚する。 ④ 社会的倫理観を確立する ⑤ 相手に合わせたコミュニケーションがとれる。 ⑥ ものごとを多面的に考察できる。																																																																		
授業方法と留意点	本科目はサービスラーニングの授業であり、実践型学習プログラムである。大学近隣の小学校・中学校で教育現場の教育補助、課外活動を幅広く体験し、自己の適性を把握する機会を持ち、人間的成長や社会意識の向上を目指す。 活動内容は、授業運営補助、「総合的な学習の時間」の補助、学校行事運営補助、クラブ・サークル活動の補助、図書室運営の補助、放課後学習の補助などを組み合わせ、年間を通じた活動を大学授業の空き時間を利用して週1回90分行う。 原則として、「地域連携教育活動Ⅰ」を履修した学生を対象とする。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	教職課程における「大学が独自に設定する科目」 実際の学校現場で学ぶことは、教員免許状を取得するのに大いに資する。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>事前指導 1</td> <td>活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。</td> <td>学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>事前指導 2</td> <td>学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。</td> <td>教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>事前指導 3</td> <td>「守秘義務」についての確認。</td> <td>守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>活動準備</td> <td>受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。</td> <td>受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>活動 1～25</td> <td>受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)</td> <td>各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>活動報告会</td> <td>学外での活動をまとめ、報告会で発表する。</td> <td>事前：報告会での発表準備 (3時間程度)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>8</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>9</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>10</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>11</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>12</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>13</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>14</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>15</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)	2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)	3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)	4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)	5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成	6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3時間程度)	7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前指導 1	活動についての心構え、活動内容の確認、活動計画作成準備。	学外での活動に際し、活動内容や活動計画の内容を考える。(3時間程度)																																																																
2	事前指導 2	学校という教育現場、現在の児童・生徒について。マナーの確認。	教育現場や児童、生徒への対応やマナーについて調べてくる。(3時間程度)																																																																
3	事前指導 3	「守秘義務」についての確認。	守秘義務とは何かを調べてくる。(3時間程度)																																																																
4	活動準備	受け入れ校と協議し、活動計画を作成する。	受入先との協議を行い、活動計画の素案を考えてくる。(3時間程度)																																																																
5	活動 1～25	受け入れ校にて活動 (日誌・活動時間票の提出)	各種活動の事前準備および活動後の報告書 (日誌等) の作成																																																																
6	活動報告会	学外での活動をまとめ、報告会で発表する。	事前：報告会での発表準備 (3時間程度)																																																																
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	すべての科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	①年間活動計画書 ②出席簿 ③日誌 ④レポート の全てを提出し、活動報告会で ⑤活動報告 した場合のみ、評価する。なお、評価割合はそれぞれ20%である。																																																																		
学生へのメッセージ	大学の授業と授業の合間を有効利用して、大学近隣の小・中学校の教育現場の教師をサポートしながら、責任感・忍耐力・協調性・創造力を養うことで、自分のかけがえのない財産形成を行ってください。																																																																		
担当者の研究室等	7号館3階 (朝日研究室)、7号館3階 (鎌田研究室)、7号館4階 (谷口研究室)、7号館3階 (西村研究室)、7号館3階 (松浦研究室)、7号館3階 (吉田研究室)																																																																		
備考	事前指導・最終報告会の日程等については、別途連絡します。 必ず出席してください。 受け入れ校での活動に際し、事前の準備・事後のまとめ等かなりの時間を要します。1回の活動に対して、それぞれ1、2時間は必要です。																																																																		

科目名	理科教育法 I	科目名 (英文)	Science Teaching I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期集中	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本科目では理科教育の変遷などの学習を通じて、中学校、高等学校の教育課程の意義及び編成の方法について理解し、その上に立って理科教育の内容及び指導法の基礎的・基本的事項を学修します。授業は、上記のような基礎的・基本的事項を踏まえ、今日的な評価理論からくる評価の観点や評価基準の考え方を理解することで、授業づくりに関する講義とともに学校現場の授業指導案も参考にして、フルバージョンの学習指導案作成のポイントを理解できるようにします。その中で、学習指導要領に示された理科教育のねらいと現代の様々な諸課題等を踏まえ、如何にすれば効果的な理科教育を実践できるか、生徒の学習意欲を高め、生徒自身が学習の主体となるような学習指導を行うにはどうすれば良いのか等々について協議も行います。さらに、適時レポートを課し、それらについて学生間の討議なども取り入れて進めます。
到達目標	①小学校・中学校・高等学校の理科教育の学習体系を把握し以降の系統学習による模擬授業に活用できる知識を身に付ける。 ②中学校や高等学校での理科教育の授業指導案を作成する能力を習得する。 ③理科教育の授業展開に必要な基礎的実践力を養う。 ④グループワークや協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に図ることができる能力を身に付ける。
授業方法と留意点	この授業では、約半分の時間を講義に費やしますが、加えて各自での調べ学習を前提とした演習や協議を行うこととなります。また3年次に開講される「理科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」で必要となる基本知識を学びます。今日的な学習指導案では、単元計画に評価をリンクさせた単元の指導と評価計画を記載することが求められており、この点に関しても本講義の内容を十分に理解することで、以降の理科教育法Ⅱ・Ⅲ・Ⅳにおける模擬授業を計画することが可能となります。
科目学習の効果 (資格)	中学校教諭一種免許 (理科) 高等学校教諭一種免許 (理科)

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	理科教員を目指すにあたって	協議： ・生徒として経験した理科授業 ・現在の学校教育における理科教員の役割等を講義とともに協議する。	中学校学習指導要領解説理科編及び高等学校学習指導要領解説理科編を準備しておく (1 時間)
2	理科離れについて	協議：ワールドカフェ方式のグループ協議を実施する	ワールドカフェの特徴を確認する (30 分) 協議に関する小レポートを作成する (1 時間)	
3	理科教育の歴史と変遷	講義： ・ルソーの自然主義教育 ・我が国の理科教育の変遷	ルソーの教育観について調べ学習をしておくこと (1 時間)	
4	中学校・高等学校学習指導要領①	講義： ・理科教育の目的について ・中学の内容詳細 ・高等学校の科目について	中学校学習指導要領解説理科編及び高等学校学習指導要領解説理科編より理科教育の目的を把握しておく (1.5 時間)	
5	中学校・高等学校学習指導要領②	講義： ・中学及び高等学校の理科単位数について ・高等学校のカリキュラムと標準単位数 協議：現在の理科教科書について	WEB 等で高等学校学習指導要領総則編の単位数に関する記述を読んでおくこと (1.5 時間)	
6	今日の評価について	講義： ・評価について ・相対評価と絶対評価 ・いわゆる絶対評価について ・観点別評価について	相対評価と絶対評価について調べ学習をしておく (1 時間) 観点別評価を確認する (30 分)	
7	評価基準と評価基準 (次回演習に向けて)	演習：次回演習で扱う単元や内容を教科書から選定する。グループで話し合いながら、単元の評価基準を考えてみる 協議：各グループの評価基準を検討する	配布資料の評価基準例を研究しておく (1.5 時間)	
8	学習指導案について	講義： ・フルバージョンの学習指導案における記述内容と指導三観 ・理科の学習指導案例	WEB 等で理科の学習指導案例を閲覧しておく (1.5 時間)	
9	理科学習指導案作成①	演習及び協議： ・教科書から単元を選定する ・単元目標を指導要領解説を参考に考える ・単元の指導と評価計画を考える	学習指導要領解説より各内容の目標を学んでおくとともに、学習指導案例の流れを確認する (1 時間)	
10	理科学習指導案作成②	演習及び協議： ・前回の演習に続いてシナリオ型等の展開案を話し合いながら計画する	次回講義時までに学習指導案を完成させ提出する (1.5 時間)	
11	理科学習指導案作成③	協議：作成した学習指導案に関して検討を加える	受講者の作成した指導案の考察を踏まえて小レポートを作成する (1 時間)	
12	理科教育における探究について	講義：中高の理科教育における探究の重要性とデュエイ探究の理論 演習：文部科学省探究授業事例	探究の理論について調べ学習をしておく (45 分) 講義をもとに小レポートを作成する (1 時間)	
13	理科における主体的・対話的な学習と構成主義学習理論	講義：構成主義学習理論の概要と羅生門的アプローチ	構成主義教育理論について調べ学習をしておく (1 時間)	
14	理科教育における ICT 活用	講義： ・文部科学省の動画視聴 協議： ・IT 化と DX 化 ・取り入れたい ICT 活用について	協議内容に関して小レポートを作成する (1 時間)	
15	理科 I 講義のまとめと考査	講義全体を振り返り、今後の理科教育の目標について考える 小テストによる学習到達度測定	単位認定用レポートを作成し、期限までに提出する (3 時間)	

関連科目	「理科教育法Ⅱ」, 「理科教育法Ⅲ」, 「理科教育法Ⅳ」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 理科編、理数編		文部科学省 (Web 閲覧可)
	2	中学校学習指導要領解説理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所	東洋館出版 (Web 閲覧可)
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点 (毎時の参加状況と小レポート及び小テスト) : 50% 講義後の最終レポート : 50%			
学生への メッセージ	本科目は集中講義として開講することになるので、一日の受講時間がかかなり多くなりますが、単位認定の前提は全授業での出席と前向きな受講態度とします。学校の教員を真剣に目指す人は受講してください。			
担当者の 研究室等	なし			
備考	講義テキストは初回の講義で頒布しますので、教科書としての中学校学習指導要領解説理科編と高等学校学習指導要領解説理科編・理数編について必ずしも購入する必要はありませんが、適宜必要部分を文部科学省 WEB サイトより PDF を入手しておいてください。			

科目名	理科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Science Teaching II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	既習の理科教育法Ⅰに続く形で理科教育の内容及び指導法の基礎的・基本的事項を学んでいきます。 前半においては、授業を行う教師として留意しておかなければならない諸問題や発問の意味するところ、板書の仕方について学習していきます。 後半では、修得済みの「理科教育法Ⅰ」の基礎的・基本的事項を踏まえ、学習指導案の作成と本講義前半部で取り扱う諸課題等を理解した上で模擬授業(全員)及び模擬授業研究を行います。それらを通じて、生徒の学習意欲を高め、生徒自身が学習の主体となるような指導方法を具体的に考察し、授業展開を工夫する態度を育成します。
到達目標	①理科教育のねらいと、今日の学校を取り巻く諸問題に対する理解を深め、教師として留意することを把握する。 ②理科指導法Ⅰで学んだことをベースとして、中学校理科の授業計画を立案し、学習指導案を作成できるようになる。 ③模擬授業を行い、その授業分析ができるようになる。 ④授業に必要な教材を作成できるようになる。 ⑤研究協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に図ることができる能力を身につける。
授業方法と留意点	この授業では、前半部で講義をベースとしたグループワークや発表などを中心に進め、後半部で中学校理科と高等学校理科の二つの模擬授業を全員が実施し、その都度研究協議によって考察を行います。授業を行う授業者側の受講生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し授業を行い、授業を受ける側の学生とともに研究協議を行い小レポートを課題として事後に提出します。
科目学習の効果(資格)	中学校教諭一種免許(理科) 高等学校教諭一種免許(理科)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	理科等の教科指導上の留意点①	敬語講義： ・教師の言葉の問題(敬語・人権的な配慮) ・LGBTQ ・指導案等でのことばについて	学校における様々な今日的課題について項目を挙げておく(45分)
2	理科等の教科指導上の留意点②	演習：ケースメソッド(理科授業中における事例研究①)	ケースメソッドについて小レポートを作成する(1時間)
3	理科等の教科指導上の留意点③	演習：ケースメソッド(理科授業中における事例研究②)	ケースメソッドについて小レポートを作成する(1時間)
4	発問と板書	講義及び協議： ・発問の事例研究 ・板書とユニバーサルデザインと心のバリアフリー	ユニバーサルデザインの例を事前に調べておく(45分) 物理的バリアフリーと心のバリアフリーの違いを考察する(45分)
5	今日的な理科の学習理論	講義： ・行動主義から認知主義学習理論 ・構成主義学習理論	ブルナーの科学教育の功績について調べる(1時間) 構成主義の学習特徴を整理しておく(30分)
6	ブルナーによる理科の系統主義教育課程とデュイのコアカリキュラム	講義： ・単元の系統例 ・コアカリキュラムにおける理科 ・小学校における生活科	コアカリキュラムやバージニアプランについて下調べを行う(1時間)
7	模擬授業(中学理科)①	演習及び協議： ・中学理科の内容を教科書より選択し、略案を作成する	中学理科模擬授業で扱う単元を学習指導要領解説より選んで授業計画を立案する(2時間) 指導案の略案を完成させる(1時間)
8	模擬授業(中学理科)②	発表及び協議①： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
9	模擬授業(中学理科)③	発表及び協議②： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
10	模擬授業(中学理科)④	発表及び協議③： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
11	模擬授業(高校理科)①	演習及び協議： ・高校理科の内容を教科書より選択し、略案を作成する	模擬授業で扱う高校理科(科学と人間生活)の単元を学習指導要領解説より選び授業計画を立案する(2時間) 指導案の略案を完成させる(1時間)
12	模擬授業(高校理科)②	発表及び協議①： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
13	模擬授業(高校理科)③	発表及び協議②： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
14	模擬授業(高校理科)④	発表及び協議③： ・各自15～30分の模擬授業を行う ・各授業についての考察をする	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる(1.5時間)
15	理科教育法Ⅱのまとめ	協議： ・講義全体を振り返ることで、理科教育の今日的役割とその方向性について考える ・テスト対策	研究協議内容に関して小レポートを作成する(1時間)

関連科目	「理科教育法Ⅰ」、「理科教育法Ⅲ」、「理科教育法Ⅳ」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説理科編		文部科学省(Web閲覧可)
	2	中学校学習指導要領(平成29年告示)解説理科編		文部科学省(Web閲覧可)

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所	東洋館出版 (Web 閲覧可)
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期考査 (50%) 模擬授業をメインとした実習, レポート (模擬授業とその事後レポートについて 50%)			
学生への メッセージ	この科目から模擬授業の実践に入るようになります。教材研究と授業計画研究並びに学習指導案作成に講義外でのかなりの学習が要求されることになります。受講者諸君にはそのことを十分に理解の上、真剣に授業づくりに取り組んでもらいたいと思います。模擬授業の実施に関してはかなりの教材研究と学習指導案等作成に労力が必要となりますが、時間をかけただけ諸君の授業力の向上につながることになります。			
担当者の 研究室等	なし			
備考	講義テキストは初回の講義で配付しますので、教科書としての中学校学習指導要領解説理科編と高等学校学習指導要領解説理科編・理数編について必ずしも購入する必要はありませんが、適宜関係部分を文部科学省 WEB サイトより PDF ファイル等でダウンロードして入手しておいてください。			

科目名	理科教育法Ⅲ	科目名 (英文)	Science Teaching III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
前半に実験の安全指導及び今日的な学習方法としての cooperative learning (協同学習) について講義を中心とした授業を進めていきます。協働・協同・協調の学習理論並びに構成主義の学習理論は世界的にもこれからの生徒の主体的学習を確立しています。この授業の実践編では特に理科教育法Ⅳとのコラボレーション講義を実施します。系統的には理科教育法Ⅲではその中において、cooperative learning (協同学習) の理解や学習方法の習得によって理科教育法Ⅳの模擬授業を立案実施することになり、また理科の授業における導入段階の展開を重視することで、教員採用試験 (短時間模擬授業) に対する対策としても、その展開部に特化した模擬授業の実施を行います。加えて理科の授業では重要となる実験を想定した模擬授業を実施します。

- 到達目標**
- ①理科実験を適切に指導する力を身につける。
  - ②cooperative learning (協同学習) の手法を理解し、構成主義的な授業を考えることができるようになる。
  - ③授業における導入部分の重要性を理解し、効果的な導入を行えるようになる。
  - ④実験を伴う効果的な授業の立案・実施ができるようになる。
  - ⑤他者の授業と自分の授業を的確に評価し、より良い授業に向けて考察できる力を身につける。
  - ⑥研究協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に測れる能力を身につける。

**授業方法と留意点**  
本科目では理科教育法Ⅳとコラボレーションした授業を行った行きます。前半部に関して講義をベースにグループワーク、協議などを中心に進めます。後半には理科教育法ⅠとⅡで身につけたスキルに本科目前半部での知識を生かしながら各自に実験を伴う模擬授業を実施し、また教員採用試験を見越しての導入部分に特化した模擬授業を各人が行うこととなります。授業を行う授業者側の受講生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し授業を行い、授業を受ける側の学生とともに研究協議を行い小レポートを課題として事後に提出します。

**科目学習の効果 (資格)**  
高等学校教諭一種免許 (理科)  
中学校教諭一種免許 (理科)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	理科教育法Ⅳとのコラボレーション講義概要オリエンテーション	講義: 両講義における実践的模擬授業の進め方について。	多くの理科研究授業を模擬的に行うための各自の構想を考えておく (1 時間)
2	理科実験に関する安全指導	講義: 学校における実験の安全性 協議: 体験した実験の危険性について	経験した理科実験について印象に残っているものをピックアップしておく (45 分) 協議をもとに小レポートを作成する (1 時間)
3	今日的教育方法論 (主体的で対話的な深い学び) と理科教育: 協同学習と協調学習の手法	講義: cooperative learning (協同学習) と collaborative learning (協調学習) 演習: 論文講読	講読した論文についての各自考察を小レポートにしあげる (1.5 時間)
4	cooperative learning①	講義: ワールドワイドカフェ 演習: 理科教育に関するワールドワイドカフェディスカッション	協議をもとにテーマに関する考察を小レポートにする (1 時間)
5	cooperative learning②	講義: オリジナルジグソー法と知識構成型ジグソー学習	東京大学知識構成型ジグソー学習について調べを行う (45 分) 協議をもとにテーマに関する考察を小レポートにする (1 時間)
6	cooperative learning③	演習: 高校物理に関する知識構成型ジグソーの実際	運動方程式に関して予習しておく (45 分) 知識構成型ジグソー学習の結果を個人で解答作成する (1 時間)
7	導入部模擬授業の指導略案	演習: 中高の教科書より指導する単元を選び、導入部展開案の作成にとりかかる	中学校及び高等学校学習指導要領解説より指導する内容 (単元) を考え、授業計画を立案する (2 時間) 次回講義時までに指導略案を完成させ提出する (1.5 時間)
8	導入部模擬授業②	演習: 5~10 分の導入部模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5 時間)
9	導入部模擬授業③	演習: 5~10 分の導入部模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5 時間)
10	実験を想定した模擬授業の指導略案作成	演習: 中高の教科書より指導する単元を選び、指導略案の作成にとりかかる	中学校及び高等学校学習指導要領解説より指導する内容 (単元) を考え、授業計画を立案する (2 時間) 次回講義時までに指導略案を完成させ提出する (1.5 時間)
11	実験を想定した模擬授業①	演習: 20~30 分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5 時間)
12	実験を想定した模擬授業②	演習: 20~30 分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5 時間)
13	実験を想定した模擬授業③	演習: 20~30 分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5 時間)
14	実験を想定した模擬授業④	演習: 20~30 分の模擬授業を行う 協議: 行われた授業に関する考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1 時間)
15	理科教育法 III のまとめ	協議: 講義内容及び実施した模擬授業実践に関する考察 小テストによる学習到達度測定	導入部と実験を伴う授業に関する考察を行う。 (1.5 時間)

**関連科目** 理科教育法Ⅰ、理科教育法Ⅱ、理科教育法Ⅳ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	高等学校学習指導要領解説理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)
2	中学校学習指導要領解説 理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)
3			

**参考書**

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所	東洋館出版（Web 閲覧可）
	2			
	3			
評価方法 （基準）	模擬授業（学習指導案、作成した教材・教具）（50%） 平常点（毎時の参加状況及び研究協議での参加態度と小レポート並びに到達度小テスト）：50%			
学生への メッセージ	この科目は理科教育法Ⅳとのコラボレーションにて行います。両科目とも内容の主体は模擬授業の実践とそれに伴う教材研究及び学習指導案の作成となります。模擬授業の準備には講義外でのかなりの学習時間を必要とすることになりますので、よくそのところを承知したうえで精力的に受講し授業づくりに取り組んでもらいたいと思います。時間をかけて研究したことは諸君の授業力の向上に直接関与することになります。			
担当者の 研究室等	なし			
備考	講義部文のテキストは初回講義時に配布します。模擬授業の教材研究や学習指導案の作成にあたっては中学校並びに高等学校学習指導要領解説理科編及び参考図書の『『指導と評価の一体化のための学習評価』に関する参考資料』を必ずしも購入する必要はありませんが、文部科学省 WEB サイトより必要部分を PDF ファイル等でダウンロードしておいてください。			

科目名	理科教育法Ⅳ	科目名 (英文)	Science Teaching IV
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	上藤 伊知郎
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	理科教育法Ⅳでは、模擬授業の発表とその考察を主な内容とします。前半では中学校理科の物理・地学の分野を授業内容として指定し、後半では理科教育法Ⅲで学んだ cooperative learning (協同学習) を用いた模擬授業の発表を行います。
到達目標	①中学校理科における物理と地学の分野で教材研究を実践的に行うことができる能力を身につける。 ②中学校理科の学習計画を立案し学習指導案を作成することができるようになる。 ③協同学習や協調学習の手法を用いた、理科の授業をデザインするための実践的な力を身につける。 ④協同学習等を用いた主体的で対話的な授業を指導する実践的な力を身につける。 ⑤研究協議等で他者との調和のもと積極的に意見を出し、コミュニケーションを適切に測れる能力を身につける。
授業方法と留意点	本科目では理科教育法Ⅲとコラボレーションした授業を行ったいきます。前半部に関して講義をベースにグループワーク、協議などを中心に進めます。 後半には理科教育法ⅠとⅡで身につけたスキルに本科目前半部での知識を生かしながら各自に実験を伴う模擬授業を実施することになります。本科目の全般を通して個人実施とグループ実施 (協同学習) とによる模擬授業を行います。 授業を行う授業者側の受講生は模擬授業の当日までに、教材研究を行った上で学習指導案を作成し授業を行い、授業を受ける側の学生とともに研究協議を行い小レポートを課題として事後に提出します。
科目学習の効果 (資格)	中学校教諭一種免許 (理科) 高等学校教諭一種免許 (理科)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	学習指導案作成 (フルバージョン)	演習:フルバージョンの中学校理科学習指導案を作成する	次回講義時までにフルバージョンの学習指導案を完成させ提出する (2.5時間)
3	中学校理科地学・物理分野模擬授業①	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
4	中学校理科地学・物理分野模擬授業②	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
5	中学校理科地学・物理分野模擬授業③	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
6	中学校理科地学・物理分野模擬授業④	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
7	中学校理科地学・物理分野模擬授業⑤	演習と協議:30分の模擬授業を行い、その授業についての考察を行う (受講者数により実施時間は変更)	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
8	Cooprative Learning の復習	講義:理科教育法Ⅲで学習した協同学習の理論と方法を確認する	理科教育法Ⅲで学んだCooprative Learning (協同学習) と東京大学知識構成型ジグソー学習を復習しておく (1.5時間)
9	協同学習指導案作成 (フルバージョン)	演習:グループで話し合いながら、授業を計画し、準備する (受講者数によりグループ人数を2人~3人とする)	中学または高等学校の校理科内容から授業の単元を選択しておく (1時間) 中学及び高等学校学習指導要領解説より指導する内容 (単元) を考え、協同学習を用いた授業計画を立案する (2時間) 授業の学習指導案フルバージョンを計画・完成させグループで共有する (2時間)
10	協同学習模擬授業 (グループ) ①	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
11	協同学習模擬授業 (グループ) ②	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
12	協同学習模擬授業 (グループ) ③	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
13	協同学習模擬授業 (グループ) ④	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
14	協同学習模擬授業 (グループ) ⑤	演習:グループで50分の模擬授業を行う 協議:その授業についての考察を行う	模擬授業の研究協議について事後学習及び小レポートに考察をまとめる (1.5時間)
15	理科教育法Ⅳのまとめと振り返り	授業全体を振り返り、未来の理科教育の課題と展望について考える。	協同学習を用いた模擬授業に関する各自の考察を小レポートにまとめる (1時間)

関連科目 「理科教育法Ⅰ」、「理科教育法Ⅱ」、「理科教育法Ⅲ」

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 理科編、理数編		文部科学省 (Web 閲覧可)
2	中学校学習指導要領 (平成 29 年告示) 解説理科編		文部科学省 (Web 閲覧可)	
3				



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料	国立教育施策研究所	東洋館出版（Web 閲覧可）
	2			
	3			
評価方法 (基準)	模擬授業（学習指導案、作成した教材・教具）(50%) 平常点（毎時の参加状況及び研究協議での参加態度と小レポート）：50%			
学生への メッセージ	この科目は理科教育法Ⅲとのコラボレーションにて行います。両科目とも内容の主体は模擬授業の実践とそれに伴う教材研究及び学習指導案の作成となります。講義外でのかなりの学習時間を必要とすることになりますので、よくそのところを承知したうえで精力的に受講するようにしてください。時間をかけて授業研究を行ったことが諸君の授業力に直接つながっていきます。			
担当者の 研究室等	なし			
備考	講義部文のテキストは初回講義時に配布します。模擬授業の教材研究や学習指導案の作成にあたっては中学校並びに高等学校学習指導要領解説理科編及び参考図書『『指導と評価の一体化のための学習評価』に関する参考資料』を必ずしも購入する必要はありませんが、文部科学省 WEB サイトより必要部分を PDF ファイル等でダウンロードしておいてください。			

科目名	職業指導 I	科目名 (英文)	Vocational Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	眞鍋 政明
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高校における職業教育や進路指導の全容を理解することがねらいである。 現代日本の産業構造と雇用状況、教育における職業指導の意義、若者を取りまく諸問題、高校における就職指導の実際、キャリア教育と職業指導などのテーマを、講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学ぶ。高校の進路指導をする上で欠かせない内容であるとともに、自らの進路決定をする上で必要な内容も多々含まれる授業である。
到達目標	①キャリア教育（職業指導・進路指導）の目的と方法について理解できる。 ②職業教育の理論、職業指導に必要な実践的な技法が理解できる。 ③社会の変化と生徒の社会的・職業的自立に求められる資質・能力を正しく説明できる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、進路指導、職業教育の実際について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。 毎回の授業では、教科書を中心とした説明に加え、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果（資格）	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	自己紹介および授業の目標や意義について（説明・グループワーク等）	事前：これまで自分が受けてきた職業指導、進路指導、キャリア教育について整理する。（2時間） 事後：配布資料等を確認する（2時間）
2	教員免許についてガイダンス	高等学校農業教員免許取得の意義について（説明・グループワーク等）	事前：学習指導要領総則においてキャリア指導や職業指導に係る箇所を調べる（2時間） 事後：自らの職業についての考えをまとめる（2時間）
3	職業教育・進路指導の歴史の変遷①	日本における職業指導の歴史の変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本の職業指導の歴史の変遷について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
4	職業教育・進路指導の歴史の変遷②	日本における進路指導の歴史の変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本の進路指導の歴史の編成について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
5	キャリア教育の歴史の変遷	日本におけるキャリア教育の歴史の変遷について（説明・グループワーク等）	事前：日本のキャリア教育の歴史の変遷について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
6	進路指導の意義と機能	進路指導の意義と機能について（説明・グループワーク等）	事前：進路指導の意義と機能について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
7	進路指導の組織体制と方法	進路指導の組織体制と方法について（説明・グループワーク等）	事前：進路指導の組織体制と方法について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
8	キャリア教育の意義と機能	キャリア教育の意義と機能について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の意義と機能について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
9	キャリア教育を充実させるための方策	キャリア教育を充実させるための方策について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育を充実させるための方策について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
10	キャリア教育の今後の方向性	キャリア教育の今後の方向性について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の今後の方向性について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
11	キャリア教育の現状	全国調査からみるキャリア教育の現状について（説明・グループワーク等）	事前：キャリア教育の現状について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
12	大学におけるキャリア教育	大学におけるキャリア教育について（説明・グループワーク等）	事前：大学におけるキャリア教育について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
13	コンテンツを活用してのワークショップ	「対立する意見をどうまとめていくか？」（説明・グループワーク等）	事前：STEAM教育について調べる（2時間） 事後：提示するテーマについてレポートを作成する（2時間）
14	職業教育の現状①	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る（学外実習）	事前：府内の職業系専門高校について調べる（2時間） 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する（2時間）
15	職業教育の現状②	大阪府産業教育フェアを視察し、職業系の専門高校の現状について知る（学外実習）	事前：府内の職業系専門高校について調べる（2時間） 事後：視察後の感想等についてレポートを作成する（2時間）

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	進路指導・キャリア教育論	望月由紀	学事出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)			
学生への メッセージ	職業指導の視点から、教員という職業を理解するとともに、自己の成長につなげて欲しい。			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考				

科目名	職業指導Ⅱ	科目名(英文)	Vocational Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	眞鍋 政明
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	農業科教員として職業指導(キャリア形成・進路指導)に関する実践的な知識を得ることがねらいである。高校(特に農業高校)を取り巻く社会の変化と生徒に求められる資質・能力について理解し、職業指導(キャリア形成・進路指導)の実践について講義、グループ討論、意見発表など多様な学習形態で学び、職業指導(キャリア形成・進路指導)に果たす教師の役割について考察する。
到達目標	①職業指導に関する基本的な概念や用語、役割や意義について正しく説明できる。 ②生徒理解に基づくキャリアガイダンス等の素養を身につけ簡単な指導計画の立案ができる。 ③キャリア教育に関わる実践上の課題について理解し教師としての主体的な基礎づくりができる。
授業方法と留意点	高校生のキャリア指導、特に農業高校生の進路指導の実践について、授業者の体験にもとづく具体的・実践的な授業を行う予定である。毎回の授業では、グループ討論、意見発表などを取り入れるとともに、レポートを課し代表的な事例を中心に内容をフィードバックするので、各自の考えと比較し、改めて考える機会として欲しい。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業ガイダンス	授業の目標や意義、PBLについて(説明・グループワーク等)	事前:PBL学習導入のメリットについて調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
2	職業指導を踏まえた教育課程の編成	学習指導要領に基づく教育課程と評価の在り方について(説明・グループワーク等)	事前:学習指導要領のねらいについて調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
3	職業教育の魅力化①	文部科学省における産業教育振興策について①(説明・グループワーク等)	事前:産業教育や専門高校の現状について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
4	職業教育の魅力化②	文部科学省における産業教育振興策について②(説明・グループワーク等)	事前:産業教育や専門高校の課題について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
5	農業教育の持つ教育力①	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について①(説明・グループワーク等)	事前:課題研究について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
6	農業教育の持つ教育力②	課題研究・学校農業クラブ活動等の果たす役割について②(説明・グループワーク等)	事前:学校農業クラブ活動について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
7	農業教育の持つ教育力③	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ①(学外実習)	事前:視察する高校の学校像について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
8	農業教育の持つ教育力④	実際に農業高校を視察し、農業教育・職業指導の成果について学ぶ②(学外実習)	事前:視察する高校の学校像について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
9	農業教育における職業的活動①	知的財産教育、GAP、HACCPの導入による職業的活動の充実について①(説明・グループワーク等)	事前:知的財産教育について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
10	農業教育における職業的活動②	知的財産教育、GAP、HACCPの導入による職業的活動の充実について②(説明・グループワーク等)	事前:GAP、HACCPについて調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
11	高等学校における進路指導の実際①	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について①(説明・グループワーク等)	事前:高校生の就職における現状について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
12	高等学校における進路指導の実際②	人権教育に基づく就職・進学に向けた指導について②(説明・グループワーク等)	事前:高校生の就職指導における課題について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
13	雇用と労働の在り方を探る①	ソーシャルビジネスの創出について①(説明・グループワーク等)	事前:社会起業家について調べる(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
14	雇用と労働の在り方を探る②	ソーシャルビジネスの創出について②(説明・グループワーク等)	事前:ソーシャルビジネスプランについて考える(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)
15	まとめ	半期の授業についてまとめる(説明・グループワーク等)	事前:後期の授業全般について振り返る(2時間) 事後:提示するテーマについてレポートを作成する(2時間)

関連科目			
教科書			
番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			

	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回のレポート(50%)、グループ討論・発表(20%)、期末課題(30%)			
学生への メッセージ	職業指導の視点から、教員という職業を理解するとともに、自己の成長につなげて欲しい。			
担当者の 研究室等				
備考				

科目名	農業科教育法 I	科目名 (英文)	Teaching Methods of Agriculture I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	内山 知二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

**授業概要・目的**  
 農業教育の意味・目標、重要性、可能性等を考え、農業の持つ特徴と教育理念を理解し、高等学校農業科の教員として、必要な知識や素養、資質、技能を身につける。  
 農業教育の発達と歴史的意義をふまえ、高等学校農業科教育の現状と課題、農業科教育の目的・教育課程、学習指導の理論と方法を理解する。そのため、農業教育の本質・教育理念について知り、次いで文部科学省学習指導要領に基づく幼稚園～中学校の教育現場における普通教育としての栽培・飼育教育や高等学校における専門教育としての農業科教育と、それに関わる社会教育的実践の実態を理解する。  
 さらに学習指導に関する一般的な手法や諸課題について理解するとともに、学校現場の農業教育実践の情報などを通じて、農業科の教育上の実践法を習得する。

**到達目標**  
 ①高等学校における農業教育の意義や学習指導要領の内容を正しく理解する。  
 ②高校現場の現状と課題を理解する。  
 ③理論や学習指導法および評価法に関する基本的な知識技能を、教科農業の授業で実践できる。

**授業方法と留意点**  
 基本的に講義形式であるが、情報機器や教材を活用し、演習形式の授業を採り入れる。

**科目学習の効果 (資格)**  
 教員免許 (高等学校 農業)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	農業教育の現状と諸問題	高等学校における農業教育の現状と諸問題	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
3	栽培・飼育学習	幼稚園、小・中学校における栽培・飼育学習、普通教科としての農業教育	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
4	栽培・飼育の実践	社会教育 (生涯教育) における栽培・飼育実践	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
5	農業教育	大学など高等学校における普通教育あるいは専門教育としての農業教育	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
6	高校生の現状	農業を学ぶ高校生の現状	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
7	高校農業科教育の特徴	学習指導要領における高校農業科教育農業科教育の特徴と普通教科との比較	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
8	学習指導要領詳解 －農業と環境、課題研究、総合実習、農業と情報－	学習指導要領における、農業と環境、課題研究、総合実習、農業と情報の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
9	学習指導要領詳解 －作物、野菜、果樹、草花、畜産－	学習指導要領における、作物、野菜、果樹、草花、畜産の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
10	学習指導要領詳解 －栽培と環境、飼養と環境、農業経営、農業機械、植物バイオテク－	学習指導要領における、栽培と環境、飼養と環境、農業経営、農業機械、植物バイオテクの内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
11	学習指導要領詳解 －食品製造、食品化学、食品微生物、食品流通－	学習指導要領における、食品製造、食品化学、食品微生物、食品流通の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
12	学習指導要領詳解 －森林科学、森林経営、林産物利用－	学習指導要領における、森林科学、森林経営、林産物利用の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
13	学習指導要領詳解 －農業土木設計、農業土木施工、造園計画、造園施工管理、造園植栽、測量－	学習指導要領における、農業土木設計、農業土木施工、造園計画、造園施工管理、造園植栽、測量の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
14	学習指導要領詳解 －生物活用、地域資源活用、植物バイオテクノロジー、水循環－	学習指導要領における、生物活用、地域資源活用、植物バイオテクノロジー、水循環の内容	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)
15	授業実践	農業科の授業実践を通じた実習授業の展開と学習指導	課題・レポート (学習ノートの作成と提出、4 時間)

**関連科目**

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 農業編		文部科学省
2				
3				

**評価方法 (基準)**  
 毎時の学習ノートで理解度を評価する。  
**学生への**  
 農業科教育法 I では、学生自身が普段研究している領域にとどまらず、より広範な視点から農業に関する理解を深められる機会にしていきたい。

メッセージ	と考えています。
担当者の 研究室等	
備考	

科目名	農業科教育法Ⅱ	科目名 (英文)	Teaching Methods of Agriculture II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	内山 知二
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	農業科教育法Ⅰで修得した農業教育に関する基礎的知識を基に、農業教員としての基本的資質を養う。また、実際の教壇に立つて授業するための実践的能力も身に付ける。 農業教育を円滑・効果的に行うため、高等学校学習指導要領等に基づく「農業」の目標に沿った教科指導などについて学び、教科の特性の理解と、課題の克服に必要な知識・能力・技能等を学習する。 講義（座学）や実習の授業において、高校農業科の生徒を上手く指導するために必要な理論と技能を知識として理解するとともに、高等学校教科農業の教科書や教材、情報機器を使った学習指導案の作成、模擬授業を実践し、授業実践力を培う。
到達目標	①高等学校における農業教育の意義や学習指導要領の内容を正しく理解する。 ②将来、高等学校農業科の教員として活躍するための理論や学習指導法および評価法に関する基本的な知識技能を身につける。 ③教科農業の授業を実践することができる。
授業方法と留意点	基本的に講義形式であるが、情報機器や教材を活用して演習形式の授業を採り入れる。 農業系高校や農業系短期大学の先輩教師による優れた教育実践の視察をはじめ、農業教育現場の認識を深める。
科目学習の効果（資格）	教員免許（高等学校 農業）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	農業の現状と課題	我が国農業の現状と課題、農業教育の特質－役割・目的・目標－	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
2	教育課程の編成と指導計画	農業科における教育課程の編成と指導計画－農業科の目標と内容構成－	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
3	学習指導案の作成と模擬授業(1)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
4	学習指導案の作成と模擬授業(2)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
5	学習指導案の作成と模擬授業(3)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
6	学習指導案の作成と模擬授業(4)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
7	学習指導案の作成と模擬授業(5)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
8	学習指導案の作成と模擬授業(6)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
9	学習指導案の作成と模擬授業(7)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
10	学習指導案の作成と模擬授業(8)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
11	学習指導案の作成と模擬授業(9)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
12	学習指導案の作成と模擬授業(10)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
13	学習指導案の作成と模擬授業(11)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
14	学習指導案の作成と模擬授業(12)	各科目にわたる指導計画の作成と授業実践	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)
15	まとめ、農業教育に求められるものとその展開	農業に関する様々な指導場面	課題・レポート(学習ノートの作成と提出、4時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	高等学校学習指導要領解説 農業編		文部科学省
	2	高校教科書「農業と環境」	編修：塩谷哲夫ほか	実教出版
	3			

評価方法（基準）	毎時の学習レポートで総合的に評価する。
学生へのメッセージ	農業科教育法Ⅰにおいて習得した内容を実践の場で生かせるようにするため、できるだけ教壇に立つ機会を設けたいと考えています。「教えることは最高の学びになる。」
担当者の研究室等	
備考	



科目名	学校栄養指導論 I	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance I
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。食育基本法や学校給食法を理解しながら、学校における食育推進の在り方や学校給食管理の方法について学修し、栄養教諭の職務内容について考える。また、児童生徒を取り巻く社会環境の変化に伴う食生活の乱れや健康に関して懸念される事項、食料自給率の問題、地産地消の重要性、食文化や郷土料理の継承といった面からも学校給食をどのように生かしていくべきなのかを考える。さらに、児童生徒の食生活に関する実態把握やその指導法など栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	① 児童生徒の食生活に関する課題等に栄養教諭として対応していこうとする意欲を高める。 ② 学校給食法から学校給食の意義や目的を読み取り説明できる。 ③ 学校給食の実施基準を活用して、個人を対象とした栄養食事管理ができる。 ④ 学校給食衛生管理基準に沿った調理業務の指導ができる。 ⑤ 食をめぐる社会的状況や食文化の継承等を視野に入れた学校給食献立を計画することができる。
授業方法と留意点	①パワーポイントによる講義 ②プリントによる講義 ③グループ討論と発表（ループリック） ④演習
科目学習の効果（資格）	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 栄養教諭の職務	オリエンテーション 関連法令から栄養教諭制度について知る。栄養教諭の職務内容について中央教育審議会答申「食に関する指導体制の整備」から読み取る。	事前：食に関する指導体制の整備について熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
2	食育基本法	児童生徒の食生活ならびに栄養に関する課題や社会状況に対応した食に関する指導の必要性、意義について食育基本法から読み解く。	事前：食育基本法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
3	第4次食育推進基本計画	食育推進のために栄養教諭は何をすべきか第4次食育推進基本計画から考える。	事前：第4次食育推進基本計画を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：第4次食育推進基本計画についてまとめる（2時間）。
4	学校給食法	学校給食の意義と目的について学校給食法から読み解く。学校給食の基本計画の設定や調理指導、栄養教諭が行う学校給食全般を理解する。	事前：学校給食法を熟読する（テキスト）（2時間）。 事後：学校給食の意義や目的についてまとめる（2時間）。
5	学校給食の栄養管理（学校給食摂取基準の考え方）	学校給食の栄養管理を学校給食摂取基準から考える。	事前：日本人の食事摂取基準2020と学校給食摂取基準2021を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
6	学校給食の栄養管理（個別対応）	クラス全体の食事管理と個別対応の方法ならびに評価について考える。	事前：個別的な相談指導を必要とする児童生徒の対象者について調べる（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
7	学校給食の衛生管理基準：給食施設及び設備の整理	学校給食衛生管理基準について理解し、学校給食調理場の施設設備をレイアウトする。	事前：学校給食衛生管理基準（施設設備について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
8	学校給食の衛生管理基準：調理過程	献立作成、食材の購入、検収、保管についてまとめる。	事前：学校給食衛生管理基準（献立作成、食材購入、検収、保管について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
9	学校給食の衛生管理基準：演習	調理過程、配送についてまとめ、二次汚染防止のための手立てとして作業工程表作業動線図を作成する。	事前：学校給食衛生管理基準（作業工程表と作業動線図の作成について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：作業動線図・作業工程表を作成する（2時間）。
10	学校給食の衛生管理基準：衛生管理体制	検食や保存食、衛生管理体制について学修する。	事前：学校給食衛生管理基準（衛生管理体制について）を熟読する（プリント）（2時間）。 事後：ワークシート提出（2時間）。
11	学校給食の衛生管理基準：ノロウイルス対応	厚生労働省ノロウイルスに関するQ&Aを理解し、ノロウイルス対策として、様々な場合を想定したマニュアルを作成する。	事前：ノロウイルス食中毒について調べる（2時間）。 事後：学校給食衛生管理基準とノロウイルス対策についてまとめる（2時間）。
12	学校給食の現状	学校給食実施状況調査から、児童生徒の実態を把握するための方法をグループで話し合い発表する。	事前：学校給食実施状況調査から課題点をまとめる（テキスト）（2時間）。 事後：児童の食生活に関するアンケート調査を作成する（2時間）。
13	学校給食における食物アレルギー対応	学校給食における食物アレルギー対応指針から、対応のための体制づくりや準備すべき書類、調理現場での指導、クラスでの対応について考える。	事前：アナフィラキシーについて調べる（2時間）。 事後：食物アレルギー対応マニュアルをまとめる（2時間）。
14	食料の供給状況や食文化の継承と学校給食	食料需給表から日本の食品供給状況について検討する。また、食文化の継承や地産地消について考え、学校給食献立の在り方について考える。	事前：最新の食料需給表を考察し、まとめる（プリント）（2時間）。 事後：地域の食文化や特産物、郷土料理を活かした献立を作成する（2時間）。
15	自然災害と学校給食	自然災害に備えた学校給食について考	事前：自然災害と学校給食についてまとめる（2時

			え、栄養教諭の役割について考える。	間)。 事後:栄養教諭として自然災害にどう向き合うかまとめる(2時間)。
関連科目	学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	四訂栄養教諭論—理論と実際—第2版	金田雅代	建帛社
	2	食に関する指導の手引き—第二次改訂版	文部科学省	東山書房
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	学校栄養指導論Ⅱ	科目名 (英文)	School Health and Nutrition Guidance II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	栄養教諭は、栄養に関する専門性と教職に関する専門性を身につける必要がある。子供の発育や発達、あるいは行動特性や教科等の特性を学びながら、食育の全体計画を作成し、子供の発達段階に応じた系統立った食育の模擬授業を行う。また、学校、家庭、地域と連携し学校給食を生きた教材として活用した食育の推進や、肥満、るい瘦、食物アレルギーといった個別指導の実践につながる取り組みを行い、栄養教諭にとって必要な知識と実践力を修得し、児童生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。
到達目標	①こどもの発達段階が理解でき、発達段階に応じた内容の食育を考えることができる。 ②食に関する指導の全体計画の意義を説明でき、立案の方法がわかる。 ③教科の単元目標に沿った食育指導案を作成し、模擬授業をすることができる。 ④学校、家庭、地域が連携した食育指導を計画することができる。 ⑤学校給食を活用した食育の指導案を作成することができる。 ⑥個別指導の手法に基づいた栄養相談ができる。
授業方法と留意点	①パワーポイント及び配付資料による講義 ②グループワーク ③テーマに沿った指導案の作成と模擬授業を通して意見交換を行い、栄養教諭として行う食に関する指導を具体的に理解し、その技能と方法を学修する。
科目学習の効果 (資格)	栄養教諭1種免許状取得 栄養教諭として必要な資質・能力を把握し、目指す栄養教諭像を明確にできる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 食に関する指導 (指導案)	オリエンテーション。 学習発達理論について知り、小学校中学年における「食べ物の3つの働き」の授業でどう活用していくか考え、グループごとに指導案を作成する。	事前：ピアジェの学習発達理論を読む (プリント) (2時間)。 事後：振り返りシート提出 (2時間)
2	食に関する指導 (模擬授業)	第1回の指導案を基に、グループごとに模擬授業を行う。	事前：指導案・教材を作成する (ワークシート) (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)
3	食行動に関するステージ別指導	食行動に関するステージ別指導理論を知り、この理論に基づく野菜嫌いの子供への給食の時間の指導について考える。	事前：行動科学について調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
4	コミュニケーション技術の コーチング	栄養教諭としてまず、子供とラボールの形成をどう築いていくかをグループで話し合い発表する。	事前：コーチングについて調べる (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
5	食に関する指導の全体計画の 意義	食に関する指導の全体計画の意義について知り、実態に即した食に関する指導の全体計画を作成する。	事前：食に関する指導の全体計画について調べる (テキスト) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
6	学習指導要領について	学習指導要領について知り、そのねらいが「生きる力」であることに気づき、そのねらいに沿った授業とはどのようなものか考える。	事前：学習指導要領総則を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。
7	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (家庭科、技術 家庭科)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。(家庭科、技術家庭)	事前：家庭科、技術家庭の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
8	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (保健体育)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((保健体育)	事前：保健体育の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
9	教科の目標に補完しあえる 食育の指導案 (道徳)	教科の目標を学習指導要領から読み取り、その目標を食育の視点でとらえ、教科と関連を図った食育指導案を考える。((道徳)	事前：道徳の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
10	食育指導の評価の方法	7回～9回で作成した指導案を基に模擬授業を行い、食に関する指導の効果、児童生徒の理解、定着度を評価する方法を考える。	事前：模擬授業の練習ならびに教材作成をする。(3時間) 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
11	給食の時間における食育	給食の時間における食育の特性を理解し、ねらいをもった献立を作成し、指導媒体を活用した給食の時間の指導を行う。	事前：ねらいをもった献立作成と指導媒体の資料収集をする (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
12	総合的な学習の時間における 食育	総合的な学習の時間の目標を知り、食育の単元を構成する。	事前：総合的な学習の時間の学習指導要領を熟読する (プリント) (2時間)。 事後：ワークシート提出 (2時間)。
13	給食だよりの作成と活用方法	給食だよりを作成し発表する。	事前：今月の献立をもとに給食だよりに掲載する資料をまとめる (3時間)。 事後：ルーブリック提出 (1時間)。
14	学校給食の生きた教材の活 用法	地域の食文化や地場産物の活用という視点での家庭や地域との連携の必要性や地域との連携の方法について考える。	事前：地域の地場産物や郷土料理、食文化について調べる (2時間)。 事後：(2時間)。
15	肥満、るい瘦、食物アレルギー 等の個別指導	個々に応じた指導方法について知り、指導資料を作成し、グループ内でローリングプレーを行う。	事前：食品構成の作成法を調べる (2時間)。 事後：レポート提出 (2時間)。

関連科目	学校栄養指導論Ⅰ 栄養教育実習Ⅰ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	食に関する指導の手引き 第二次改	文部科学省	東山書房
	2	四訂栄養教諭論－理論と実際－第2版	金田雅代	建帛社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	筆記試験 70% 学習内容の理解。 レポート 20% テーマに沿った内容で学修したことを基にまとめられている。 学修態度 10% 主体性、実行力、課題発見力、創造力、発信力、傾聴力、規律性。			
学生への メッセージ	授業を通して、栄養教諭が果たす役割りを自覚するとともに、児童生徒の健康教育を担う使命感が高揚していくことを期待しています。			
担当者の 研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879 (直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp			
備考				

科目名	教育原理	科目名 (英文)	Educational Principles
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	谷口 雄一
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>教育は誰もが経験していて、誰でも教育について語る事ができます。しかし、「教育とは一体何だろう?」と問われるとどうでしょうか。答えに困ってしまう人が多いのではないのでしょうか。</p> <p>この授業では、「教育とは一体何だろう?」という問いを念頭に置きながら、教育について歴史的・思想的に考察します。そして、これまでの教育や学校の営みがどのように理解され、変わってきたのかを考えていきます。</p> <p>これらの学習を通して、受講者一人一人が教育について自分なりの考えを深められるようにします。</p> <p>授業担当者は小学校での約15年の教諭経験を有しています。経験を活かした実践的な授業を行いますので、授業を「受ける」立場からではなく、生徒と一緒に「創る」立場からの能動的な学びを期待します。</p>
到達目標	<p>教育の基本概念を歴史的・思想的に理解することや教育の現状と課題について理解することを通して、受講者が教育について自分なりの考えを深めることができることを目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は「教育とは何か?」という本質的な問いについて受講者のみなさん一人一人が考え、自身の教育観を再構築していけるようにします。</p> <p>具体的には、毎回、ペアや小グループ、全体での対話やグループワークなどを通して教育についての学びを進めていきます。</p> <p>そして、毎回の授業の終わりに受講者にコメントペーパーを書いてもらいます。その中からいくつかを次の授業の最初に紹介することで、自分とは異なる他の人の考えも参考にしながら、教育について多面的・多角的に考えることができるように配慮します。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>(1) 高等学校教諭1種免許状 (2) 中学校教諭1種免許状 の取得 (3) 学芸員資格 の取得に必要です。</p> <p>【免許法施行規則に定める科目区分】</p> <p>科目：教育の基礎的理解に関する科目</p> <p>各項目に含める必要事項：教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：教育について考える	本科目の位置づけについて考えるとともに、教育の基本概念を考えることの意味を考える。	(事前) テキストP.3を精読しておく。 (事後) 「教育とは一体何だろう」という問いについて自分の考えをまとめておく。
2	教育の基礎理論①：教育の必要性	なぜ、人間だけが教育を行うのか考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の必要性について自分の考えを整理しておく。
3	教育の基礎理論②：教育の目的	前回の授業をふまえ、「人間が人間になるために」とはどういうことか、教育の目的について考える。	(事前) テキストP.59～63を精読しておく。 (事後) 教育の目的について自分の考えを整理しておく。
4	教育の基礎理論③：子どもの発見	「子ども」という言葉の意味や子どもをめぐる問題について考える。	(事前) テキストP.76～85を精読しておく。 (事後) 子ども観や子どもをめぐる問題について自分の考えを整理しておく。
5	教育の基礎理論④：教師とは何か	教師という職業や、その教育的役割について考える。	(事前) テキストP.69～73を精読しておく。 (事後) 教師の教育的役割について自分の考えを整理しておく。
6	教育の基礎理論⑤：近代の学校の誕生	近代の学校はどのように誕生し、普及してきたのかを概観する。	(事前) テキストP.93～97を精読しておく。 (事後) 近代の学校や学校教育の広がりについて整理しておく。
7	教育の基礎理論⑥：家庭と教育	家庭において子どもはどのように扱われてきたのか、家庭における教育は子どもの成長にどのような影響を与えるのかについて概説する。	(事前) テキストP.86～90を精読しておく。 (事後) 家庭における教育について整理しておく。
8	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その1	「教育とは何か」について、コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの教育思想から考察する。	(事前) コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチの人物像について調べる。 (事後) 4名の教育思想について整理しておく。
9	西洋の教育思想①：コメニウス・ロック・ルソー・ペスタロッチ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第8回で取り上げた4名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
10	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その1	「教育とは何か」について、フレーベル・デューイ・モンテッソーリの教育思想から考察する。	(事前) フレーベル・デューイ・モンテッソーリの人物像について調べる。 (事後) 3名の教育思想について整理しておく。
11	西洋の教育思想②：フレーベル・デューイ・モンテッソーリ その2	前回取り上げた教育思想家4名の中で最も感銘を受けた人物について意見交流することを通して、「教育とは何か」について考察を加える。	(事前) 第10回で取り上げた3名の教育思想家の中から最も感銘を受けた人物1名を取り上げ、「その人物の思想」や「感銘を受けた理由」、「教員になった際にどのように生かすか」等について発表する準備をしておく。 (事後) 授業で取り上げた西洋の教育思想について再度整理しておく。
12	現代の教育理論：20世紀の教育理論	20世紀の教育についての諸理論について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.29～32を精読しておく。 (事後) 授業で取り上げた現代の教育思想について整理しておく。
13	現在の教育課題①：学力問題	現在の教育課題の一つである学力をめぐる問題について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.50～54を精読しておく。 (事後) 学力問題について整理しておく。
14	現在の教育課題②：生涯学習の思想	現在の教育課題の一つである生涯学習について概観し、考察を加える。	(事前) テキストP.147～151を精読しておく。 (事後) 生涯学習の思想について整理しておく。
15	まとめ：今後の教育について考える	教育についてまとめるとともに、今後の教育について考える。	(事前) テキストP.169～178を精読しておく。 (事後) 「どのような教員になりたいのか」について自分の考えをまとめる。

関連科目	教職科目全体と関連がありますので、他の科目の学習内容と関連付けながら考えてみる大切です。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	哲学する教育原理	伊藤潔志 編著	教育情報出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	中学校学習指導要領（平成 29 年告示）	文部科学省	東山書房
	2	高等学校学習指導要領（平成 30 年告示）	文部科学省	東山書房
	3	哲学する学校経営	伊藤潔志 編著	教育情報出版
評価方法 （基準）	<p>毎回の授業の終わりに書いてもらう OPP シート（One Page Portfolio シート）の内容や授業中の学習の様子（60%）や学期末試験の結果（40%）等をもとに総合的に評価します。</p> <p>また、授業に参加するにあたって不適切な態度を取る方に対しては厳正に対処します。教職を志す人間としての自覚を胸に授業に参加してください。</p>			
学生への メッセージ	授業の中でペアや小グループでの話し合い、グループワーク等を適宜取り入れます。受講者の皆さんの積極的な参加を期待しています。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7 号館 4 階（谷口研究室）			
備考	事前・事後学習総時間をおおよそ 60 時間程度とする。			

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版	
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房	

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 橋本研究室
------------	--------------

科目名	教育における情報通信技術の活用	科目名 (英文)	ICT for Education
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期集中	授業担当者	橋本 はる美
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	教育現場における情報通信技術の活用について、その歴史的経緯と今後のあり方について理解し、情報モラルと情報活用能力を活用した指導方法、評価方法などについて学修することで、担当教員に必要となる基礎的知識や資質を養う。また、情報通信技術を用いて模擬授業を行い、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教育現場における情報通信技術の活用と意義を理解し、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに、情報通信技術を活用した教育指導技術の向上を図る。また、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して、授業での情報通信技術の活用や授業準備、学習評価などで必要となる技能について身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して実践的な指導方法を修得する。
科目学習の効果 (資格)	【免許法施行規則に定める科目区分】 科目：道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 各科目に含める必要事項：情報通信技術を活用した教育の理論及び方法

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	情報通信技術の歴史的経緯 教育現場における情報通信技術の活用のあり方	事前：情報通信技術とは何かを調べる (120分) 事後：これまでに受けた授業で情報通信技術を使った例と簡単な説明を考える (120分)
2	教育分野で情報通信技術を活用するための意義と役割	デジタル教材や遠隔授業などの活用事例の紹介 情報セキュリティとデータの活用、校務の活用への推進	事前：情報通信技術を活用した授業事例のメリットと課題を書き出す (120分) 事後：デジタル教材や遠隔授業についてまとめる (120分)
3	情報セキュリティ、情報モラル、情報活用能力	ICT環境と情報セキュリティ 情報モラルの教育 オフィスソフトの活用	事前：大学のICT環境と教育ツールについてまとめる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
4	ICT環境の整備と教育データの活用	学習者の多様性に対応するためのツールや機能の活用 教育データ等を使った指導や学習評価への活用	事前：アクセシビリティについて調べる (120分) 事後：授業で出された課題の取り組み (120分)
5	デジタル教材と遠隔授業の研究	情報通信技術を活用した教材と指導法の作成 遠隔授業への活用	事前：デジタル教材の内容を計画する (120分) 事後：作成したデジタル教材の修正をする (120分)
6	デジタル教材の研究 (グループ)	情報通信技術を活用した教材と指導法の検討	事前：指導法を作成する (120分) 事後：作成した指導法の見直しをする (120分)
7	模擬授業 (グループ)	情報通信技術を活用した指導の実践	事前：模擬授業の練習をする (120分) 事後：模擬授業を振り返る (120分)
8	模擬授業の振り返り	情報通信技術を活用した教材と模擬授業の評価	事前：模擬授業の課題を考える (120分) 事後：模擬授業の振り返りと課題 (120分)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

関連科目	情報リテラシー科目
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂4版 情報モラル&情報セキュリティ	株式会社通ラーニングメディア	FOM出版
2	ICT活用指導力アップ 教育の情報化 教員になるための情報教育入門	梅田恭子他	実教出版
3	ICT活用の理論と実践 DX時代の教師をめざして	稲垣忠・佐藤和紀	北大路書房

評価方法 (基準)	授業中の課題とレポート (60%)、授業中に作成した教材と模擬授業の教材と発表 (40%) をもとに総合して評価する
-----------	--

学生へのメッセージ	各自のITスキルを使って教育にどれだけ活用するかが重要ですので、主体的に学習に取り組んでください。
-----------	---

担当者の研究室等備考	11号館8階 橋本研究室
------------	--------------



科目名	身近な犯罪から自分、家族、まちを守る	科目名 (英文)	Neighborhood Crime Prevention
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中沼 丈晃
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	私は、地域における防犯を研究し、自分自身も、研究室の学生とともに、青パト（青色回転灯をつけた自主防犯パトロールカー）で毎日、子どもの見守り活動を行っている。そうした研究者として、普段一番接する学生に、犯罪の実態を知ってもらい、少しの注意と手間で犯罪から身を守れることをわかってほしくて、この講義を開講することとした。加えて、それほど気負わなくても、防犯ボランティアとして社会貢献できる方法があることも紹介したいと考えている。 学科の学習・教育目標との対応：理工学部 [II]
到達目標	この授業を通じて学生には、自分と家族の身近でどんな犯罪が起きているか知り、どのような対策が必要かわかるようになることが期待される。防犯ボランティアへの参加の動機づけが大きくなればなおよい。
授業方法と留意点	とにかく実際の事件を取り上げて、加害者の視点、被害者の視野、発生した場所・時間の特徴、警察や行政、学校、ボランティアの動きを具体的に説明する。そして、いま推奨されている防犯対策を紹介する。
科目学習の効果 (資格)	各自が自分で、家庭で防犯対策をして、犯罪から身を守るようになってもらうのが第一である。防犯ボランティア参加の動機づけにもなるだろう。職業では、当然、警察官の仕事の視点がわかる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	昨年起きた犯罪はどのような特徴があったのか?	昨年起きた具体的な犯罪例を取り上げて、どのような人・物が、どういう理由でねらわれているのか探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
2	犯罪にはどのような種類があり、どうやって数えるのか?	刑法上は同じ窃盗でも、ひったくり、自転車盗、車上ねらいなどさまざまな手口がある。1件の窃盗でも、起きた数、警察に届けられた数、検挙された数がある。こうした手口の分け方や数の数え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
3	犯罪はなぜ起こるのか? どうやって減らすのか?	悪い人がいるから犯罪が起こるのか、すきがある人がいるから犯罪が起こるのか、犯罪が起きやすい場所・時間があるから犯罪が起こるのか、それぞれの理屈を確かめてみる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
4	大阪の治安はどのくらい悪いのか? どのように防犯対策を進めているのか?	大阪府は、他の都道府県に比べてどのような犯罪が多いのか、人口の多さを考慮するとどうなのか説明する。「オール大阪」で街頭犯罪ワースト1を返上する取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
5	街頭犯罪――ひったくり、自転車盗、車上・部品ねらいを中心に	一番身近な街頭犯罪について、どういう人・物が、どういった状況でねらわれているのか、どういう人が犯罪を行っているのか説明する。ついで、ひったくり防止カバー、シリンダー錠などの防犯対策の効果について紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
6	住宅への空き巣、忍び込み、居空き	泥棒は、空き巣に入る家をどのように物色し、どうやって侵入し、何を盗んでいくのか解説する。最近の防犯住宅、防犯マンションの取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
7	性犯罪――街頭での強制わいせつ、痴漢、公然わいせつ	大阪府は性犯罪が深刻な自治体である。犯罪者は、どんな人・場所をねらって性犯罪に及ぶのか説明する。女性の学生が今日からすべき防犯対策を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
8	子どもをねらった犯罪	子どもに対する犯罪について、過去に大きな社会問題になった殺傷事件から、日常的に起きているわいせつ、声かけ、つきまといまで、実態を具体的に説明する。そして、子どもの安全を守るために各地で行われている取り組みを紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
9	ストーカー、DV (配偶者からの暴力)	ストーカーやDVは、個人間の問題に関わるので、対応の判断が難しい。しかし、大きな事件につながれば、対応の遅さ、まづさが批判されやすい。過去の事件の経緯を紹介して、深刻な問題への展開を防ぐために現在行われている対策を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
10	詐欺――高齢者をねらった振り込め、オレオレ、リフォーム詐欺など	昨年、急激に増え、手口が次々と変わる高齢者をねらった詐欺を取り上げる。背景にどのような組織があるのか、どうして防犯が難しいのか、実例に即して説明する。若い私たちにできる協力も紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)
11	サイバー犯罪――子どもや学生が巻き込まれるネット犯罪	子どもが巻き込まれる出会い系サイトやネットゲームでのなりすまし、大学生も被害を受けている偽サイトでのショッピング詐欺、ネットバンクでのID、パスワード盗難など、身近なサイバー犯罪を取り上げる。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見てみる。(約1時間)

	12	違法ドラッグの実態と対策	違法ドラッグについて、その危険性、販売の実態、取締の方法を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	13	防犯カメラの普及と効果	急速に普及した防犯カメラについて、普及の背景と経緯、技術の進歩、個人情報・プライバシーとの関係、防犯効果の考え方を説明する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	14	防犯ボランティアの活動	近年の犯罪対策の最大の特徴は、民間のボランティア団体の活性化である。地域での子ども見守り隊、青パト活動、学生防犯ボランティアなど、最近の各地、各世代の防犯ボランティアの活動を紹介する。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
	15	まとめ	全体のまとめを通じて、身近な犯罪を未然に防ぐには何が必要か結論を探る。	配布した新聞記事などを読む。確認ペーパーで知識を整理する。自分、自宅、地元の防犯状況を見える。(約1時間)
関連科目	法学部「刑事政策」「経済刑法」「地域防犯政策」			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	期末課題(70%)、講義毎回の確認ペーパー(30%)の合計によって評価する。			
学生へのメッセージ	勉強以前に、自分、家族、まちを身近な犯罪から守るために、ぜひこの講義を受講してほしいと願っている。そして、できるところからでよいので、講義で知った防犯対策をしてもらいたい。警察官志望者には、近年、警察でも人気の仕事になりつつある防犯の実務がわかるという意味で、興味を持ってもらえると思う。			
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 9階 中沼研究室			
備考	講義毎回の課題正解の提示などは Teams を通じて行う。			

科目名	マーケティングと歴史	科目名 (英文)	Marketing and History
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01361a1～JT01365a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングを歴史的に考察することを目的としています。特にマーケティングの発想を踏まえ、呉服商の経営活動について説明していきます。
到達目標	マーケティングと歴史に関する基本的知識を修得し、活用できることを目指します。
授業方法と留意点	講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	マーケティング的発想で社会を見る眼が養えます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	マーケティングについて解説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	製品政策	ヒット商品はどのようにして作られるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	価格政策	価格の設定方法について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	流通チャネル政策	商品はどのような経路をたどって販売されるのかについて考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	販売促進政策	商品のアピールの仕方について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	マーケティングのSTPアプローチ	市場細分化について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、STPアプローチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費行動	消費者の購買意思決定過程について考えます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	マーケティングの歴史的研究と三井越後屋	マーケティングにおける歴史的研究と三井越後屋の商法について説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、三井越後屋に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	呉服商の流通機構	呉服商の流通機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、呉服商の流通機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	越後屋の仕入機構 (1)	三井越後屋の絹の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	越後屋の仕入機構 (2)	三井越後屋の木綿の仕入機構について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、越後屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	いとう松坂屋、大丸屋の仕入機構	いとう松坂屋や大丸屋の仕入機構について、概説していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、いとう松坂屋・大丸屋の仕入機構に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	呉服商から百貨店へ	呉服商から百貨店への変遷について概説します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	百貨店業態の成立	百貨店について、説明していきます。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、百貨店業態に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	まとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングと歴史の総復習をしておきましょう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大規模呉服商の流通革新と進化—三井越後屋における商品仕入れ体制の変遷—	武居 奈緒子	千倉書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	史料が語る三井のあゆみ	三井文庫編	吉川弘文館
2	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房	
3				

評価方法 期末レポート (80%)、中間レポート (20%)

(基準)	
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11 号館 8 階 武居教授室
備考	

科目名	教養刑事法	科目名 (英文)	Introduction to Criminal Law
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小野 晃正
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01361a1～JT01365a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全国的にみて大学生活を通じて学生による犯罪現象が散見される。</li> <li>・たとえば、保護責任者遺棄致死事案（サークル仲間の酩酊学生放置）、あるいは、未成年者誘拐や児童福祉法違反（SNS上での出会い）、職業安定法違反（バイトでの風俗あっせん）、ストーカー行為規制法違反（25通程度のメッセージ送信）、偽造と詐欺（定期券改ざん・闇バイトを通じた各種犯罪への関与）、偽計業務妨害（カンニング・飲食店備品に対する悪戯・バズリを狙う悪質動画作成）の事案など枚挙にいとまがない。</li> <li>・これらの犯罪は、おそらく大学生本人は犯罪だと思って実行したものでないであろう。しかし、こうした犯罪知識を身につけておかなければ知らぬ間に罪人とされ、実名報道により学生本人の将来の芽を摘み取ることになりかねない。</li> <li>・他方、これらの犯罪の被害者になりかねない学生も相当数いるであろう。犯罪被害者になったとき、迅速な対処法が被害を軽減するが、こうした知識を身につける機会が全学生にあまりない。</li> </ul> <p>本講座では、「転ばぬ先の杖」として学生時代に身につけておくべき犯罪とその被害対処法を提供し、全学生に安全な学生生活と社会人となった後も有用な刑事法教育を提供することを目的とする。</p>
---------	--

到達目標	<p>この授業を通じて学生には、</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・刑法の謙抑性、罪刑法定主義、犯罪の成立要件および刑罰制度について説明できる</li> <li>・薬物犯罪をはじめとする学生にとくに身近な犯罪現象の内容について説明できる</li> <li>・犯罪被害者となった場合の対処方法について説明できる</li> </ul> <p>ようになることが期待される。</p>
------	--

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義形式で行う（社会情勢上、その変更が必要な場合は遅滞なく連絡する）。</li> <li>・本講義は、ICTツールとしてMicrosoft社のteamsを用いる。</li> <li>・課題提示や資料配布などはMicrosoft社teamsを通じて行う。</li> <li>・教員からの一方通行的な講義にならないよう、学生との質疑応答を交えつつ、教員と受講者による双方向理解につとめたい。</li> <li>・近時、刑事法の改正が相次いでいるので、最新の六法（有斐閣『ポケット六法』や『判例六法』、または、三省堂『デイリー六法』もしくは『模範小六法』の最新版がのぞましい）を必ず持参すること。</li> </ul>
----------	--

科目学習の効果（資格）	・身近な刑事法の問題を理解できる
-------------	------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 刑法とは何か	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進め方と文献紹介</li> <li>・刑法の意義</li> <li>・刑法の機能</li> <li>・刑法学とは何か</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
2	刑法の基礎	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典学派と近代学派</li> <li>・わが国の刑法思想</li> <li>・刑罰の正当化根拠（なぜ国家による死刑をはじめとする刑罰執行は正当化されるのか）</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
3	刑法の解釈	<ul style="list-style-type: none"> <li>・罪刑法定主義</li> <li>・刑法の法源</li> <li>・刑法の解釈</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
4	犯罪の基本概念	<ul style="list-style-type: none"> <li>・犯罪の成立要件</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
5	薬物犯罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・覚せい剤取締法</li> <li>・大麻取締法</li> <li>・向精神薬取締法</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
6	カンニング行為と偽計業務妨害	<ul style="list-style-type: none"> <li>・阪大入試問題漏洩事件</li> <li>・明治大学替え玉入試事件</li> <li>・京大2次試験問題ヤフー知恵袋漏洩事件</li> <li>・大学入試共通テスト問題漏洩事件</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
7	飲み会と保護責任者遺棄罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・飲み会において生じうる犯罪現象</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
8	定期券の偽造と詐欺罪	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有価証券偽造罪と詐欺罪の関係</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
9	ストーカー行為規制法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ストーカーにならないために</li> <li>・ストーカーの被害者にならないために</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
10	DVとデートDV	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DVの類型</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
11	性犯罪、家出と未成年者誘拐罪および児童福祉法違反	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種性犯罪</li> <li>・家出と各種誘拐罪</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
12	少年犯罪と「特定少年」制度の発足	<ul style="list-style-type: none"> <li>・少年法の厳罰化</li> <li>・20歳未満の実名報道</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
13	犯罪被害者救済①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・告訴と被害届</li> <li>・証拠保全の重要性</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
14	犯罪被害者救済②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・被害者に対する種々の救済制度</li> <li>・被害者の実名報道と被害者バッシング問題</li> </ul>	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）

	15	まとめ	これまでの講義内容の総復習	事前：授業テーマの予習（2時間） 事後：配布レジュメや講義中に紹介した文献などを見直すこと（約2時間）
関連科目	刑事法概論、刑法各論、経済刑法、現代社会と刑事法、刑法応用講義Ⅰ・Ⅱ、刑事訴訟法、刑事訴訟法応用講義、刑事政策			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	入門刑事法（第8版）	三井誠	有斐閣
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	開講時に各種判例・補助教材を紹介する		
	2			
	3			
評価方法 （基準）	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形成的評価を行うため、各回講義後に、Microsoft社 teams を通じて Microsoft forms から課題を配信する。各回の課題の得点を合算して評価対象とする（講義の理解度5%+課題の得点95%）。定期試験は実施しない。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・法律学の学習は予習よりも問題演習を中心とした復習が効果的です。</li> <li>・刑事事件に関心なる人はぜひ受講してください。</li> <li>・新聞、テレビ、ラジオ、ネットなど媒体は問いませんが、刑法に関する面白いネタがたくさん落ちていきますので、なるべくニュースに接するようにしましょう。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館10階 小野教授室			
備考	<p>本講義は、オンデマンド動画配信による授業を数回程度行うことがあります。</p> <p>オンデマンド動画配信による授業の際には、事前に teams の授業チャンネルで告知するとともに、teams アプリより通知をします。</p>			

科目名	現代韓国論	科目名 (英文)	Contemporary Korean Society
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 悟
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	日本社会に生きる者にとって、似通っているようで異なる、また異なっているようで似通っている、そんな存在である韓国。本授業では、日韓関係の変遷を手がかりとし、現代の韓国社会における変化を中長期的な視点から理解することを目指す。
到達目標	本授業を通じて、現代韓国社会についての理解を深めていく。具体的には、次の各項目を目標とする。 ・韓国現代史について、とりわけポスト冷戦時代の日韓関係史を軸として、概観できるようになる。 ・ポスト「バブル経済」時代における日本社会についての理解を踏まえて、ポスト「民主化」の時代における韓国社会についての理解を深める。
授業方法と留意点	1. 韓国現代史の基礎的事実関係を踏まえつつ、基本的には教科書に基づいて授業を進める。 2. 授業は、①講義、②Moodleを通じたレジュメの配信および課題等の提出、という2つの手段を適宜組み合わせで行なう。 3. 授業進捗の調整によって、授業の進行スケジュールに変更が生じる可能性がある。 4. 本授業に関するフィードバックは、必要に応じて授業内で行なうこととする。
科目学習の効果 (資格)	韓国現代史および現代の日韓関係に関する基礎的な理解

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の目指すところ、テキストの内容について概説する。 (「まえがき」「プロローグ」についてはここで取り上げる。)	テキストについて指示するので、次回講義までに入手しておくこと
2	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (1)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
3	第I部 相互信頼から相互不信へ	第1章 盧泰愚来日と天皇訪韓構想 (2)	[事前学習] 配布レジュメの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
4	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
5	第I部 相互信頼から相互不信へ	第2章 慰安婦問題の展開 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
6	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
7	第I部 相互信頼から相互不信へ	第3章 村山談話と靖国問題 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
8	第I部 相互信頼から相互不信へ	第4章 「小春日和」の時代 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
9	第II部 対立激化への展開	第4章 「小春日和」の時代 (2) 第5章 領土問題の相克と定着化 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
10	第II部 対立激化への展開	第5章 領土問題の相克と定着化 (2) 第6章 民主党政権と李明博政権 (1)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
11	第II部 対立激化への展開	第6章 民主党政権と李明博政権 (2)	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
12	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (1)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
13	第II部 対立激化への展開	第7章 外交争点としての「慰安婦」問題 (2)	[事前学習] テキストの関連部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布資料を参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
14	第II部 対立激化への展開	第8章 文在寅政権の転換	[事前学習] テキストの該当部分を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 配布レジュメを参照しながら、テキストを読み返しておくこと (目安時間: 60分)
15	「平成時代の日韓関係」から何が見えるのか	韓国現代史と現代韓国社会 (講義のまとめと補遺)	[事前学習] 提示する資料を読んでおくこと (目安時間: 60分) [事後学習] 提示した資料を参照しながら、テキス

				トを読み返しておくこと（目安時間：60分）
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	平成時代の日韓関係―楽観から悲観への三〇年―	木村幹・田中悟・金容民〔編著〕	ミネルヴァ書房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	韓国愛憎	木村幹	中公新書
	2	日韓歴史認識問題とは何か	木村幹	ミネルヴァ書房
	3			
評価方法 （基準）	定期試験は実施せず、授業内で提示する課題に対する提出物に基づく総合評価（100%）を実施する。 （課題の提示および提出は、Moodleを通じて行なう。）			
学生への メッセージ	韓国語の能力は不要です。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 7号館4階 田中研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のスケジュール・進行形式については、出席者の状況によって調整する可能性もある。</li> <li>・なお、2019年度まで開講していた「現代韓国事情」を履修し、単位を取得済みの者は、本講義を履修することはできない。</li> </ul>			



科目名	役立つ金融知力	科目名 (英文)	Financial Literacy
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大西 史一
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>自分が歩みたい人生の実現を、人生100年にも迫り長期化する老後を、お金の面から支えるには、早くから長期的な資産形成に取り組み、単に「貯める (貯蓄)」だけではなく、貯めたお金を上手に「殖やす (投資)」ことが必要です。また、投資は「自己責任」が原則であり、取引にかかわるリスクやトラブルから自己防衛するための知識も重要です。</p> <p>早ければ社会人になってすぐ、自分で自分の年金 (確定拠出年金) の運用を始めなければなりません。何で、どのように運用するか...決められますか? 若年層の長期的資産形成を促すため、NISA 制度も改正されるなど政府の取り組みも本格化しています。経済的に自立し、将来の夢の実現のためにも、金融に関する知識や情報を正しく理解し、各自の生活設計に合う適切な取引を選択し、実践するスキルや判断力 (=金融リテラシー) を若いうちから身につけておくことが必要です。</p> <p>本講義では、社会人としても知っておくべき金融・経済に関する理解を深めるとともに、資産形成のために必要な基礎知識の習得を目指します。</p>
到達目標	<p>ライフステージの重要な意思決定の場面で、的確な行動やより良い判断へと導くリテラシーを養うことを目標に、金融やその背景となる経済知識について、基礎的な内容から実務の入口までをわかりやすく解説します。</p> <p>具体的には</p> <p>①金融や市場のさまざまな働きを知り、社会や自分との関わりについて理解を深めることができる</p> <p>②金融リテラシーを習得し、自ら主体的に判断し活用していく能力が身につく</p> <p>③自己のライフプランに基づく資金計画を作成し、課題を発見して適切な解決策を考えることができる</p> <p>以上を到達目標とします。</p>
授業方法と留意点	<p>基本的に対面による講義形式で授業を進めます。各回のテーマ毎にレジュメを配布します。</p> <p>授業では、重要と思われるところを積極的に聴き取りメモをとり、「なぜ」と自分の頭で考える訓練をしてください。</p> <p>また、日頃から、経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持ってください。</p> <p>なお課題への参加や提出物は期限を厳守してください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>日々、刻々と変わるマーケットを理解し、中長期の経済トレンドを理解できるようになります。</p> <p>金融商品の基礎知識を取得することにより、少なからず将来の資産形成に役立つことでしょう。</p> <p>また、ファイナンシャルプランナー資格 (民間資格) や、ファイナンシャル・プランニング技能士 (国家資格) の資格取得にも役立ちます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス/金融知力リテラシーの必要性	講義内容と成績評価等について説明した後、これからの時代、「金融リテラシー (知力)」を身につけなければならない必要性について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
2	金融・経済の基礎①	是非とも知っておいていただきたい金融と経済の基本について説明します。また、マーケットの視点で注目度の高い経済統計などの話もします。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
3	金融・経済の基礎②	物価と金利の関係や、金融政策や財政政策など経済と金融のかかわり、そして世界経済・日本経済の実情とその将来を解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
4	ライフプランニング①	ライフプラン上の夢や希望をかなえるには、お金の問題が常に関わります。人生に不可欠な「三大資金」を理解し、ライフプラン実現のために必要な資金計画の大切さを解説します。	自分の夢、今後の人生における最優先課題を考えてみる。
5	ライフプランニング②	ライフイベント表・キャッシュフロー表作成の重要性を解説し、具体的な作成手順を説明します	課題①として、大学卒業後のライフイベントを設定し、キャッシュフロー表を作成してもらいます。(注) 課題内容を変更する可能性もあります。
6	金融商品の基礎/貯蓄型商品	金融商品の特性について説明した後、預貯金などの貯蓄型商品の種類、特徴とリスク、金利について解説します。	課題②として、授業テーマに先行して、株式投資ゲームの参加要項について案内します。
7	リスクとリターン	投資は利益 (リターン) をあげることがを目的とする行為ですが、必ずリスクを伴います。このリスクとリターンの関係や、リスクの低減手法、いわゆるリスクマネジメントについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
8	株式の基礎①	株式投資の魅力とリスクについて説明します。また、実際の取引の仕組みや、株式投資を行う際に留意点などについて解説します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
9	株式の基礎②	株価の要因について説明します。また、株価のファンダメンタルズ分析手法や、株価チャート、テクニカル分析の基礎についても紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
10	債券の基礎①	債券とは何かから始め、多岐にわたる種類や特徴・リスクを説明します。また、利回りや「格付け」についても学びます。	財務省のHPで20年度予算の概要を確認
11	債券の基礎②	債券の利率と利回り、債券価格と金利の関係について学びます。合わせて、現在のわが国の財政構造などの時事問題を理解してもらいます。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
12	投資信託について	皆さんにとって最も身近になる金融商品です。投資信託の仕組みや特長、メリットとリスク、効率的な商品選択を紹介します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
13	外為市場・外貨建て商品につ	外国為替市場の仕組みや取引について	日経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持

		いて	解説した後、代表的な外貨建て商品をリスクも併せて紹介します。	って頂きたい。
	14	証券化商・デリバティブ／セーフティネット	派生商品の概要について紹介します。そのあと、預金者および投資家を保護するための法令等について説明します。	経済や金融に関する新聞記事・報道等に関心を持って頂きたい。
	15	講義のまとめ	これまでの講義を振り返り、ポイントを整理します。定期試験対策としての位置づけでもあります。	必ずレジュメを復習し、理解できるようにしてください。
関連科目	民法、会社法、経済学、国際経済、経営学、経営戦略、会計学 など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	金融経済と資産運用の基礎	日興リサーチセンター	ブイツーソリューション
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 : 60% 課題① キャッシュフロー表の作成 : 25% 課題② 株式投資ゲームの参加 : 10% 講義への取り組み姿勢 : 5% (注) 履修学生が多大会場、課題① キャッシュフロー表の作成を、他の課題に変更する可能性があります。			
学生への メッセージ	長年の実務経験をベースに、より実践的かつ現実的な話を、体験談も踏まえて分かりやすくお伝えしたいと思っています。 皆さんのこれからの時代は、金融・経済の知識、そして金融商品の知識があるのとないのとでは、将来の人生設計が大きく変わる可能性があります。 是非、資産形成について一緒に学んでいきましょう。 なお、授業計画は変更される場合があります			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 3号館 1階 (教務課) 寝屋川キャンパス 7号館 2階 (非常勤講師室)			
備考	オフィスアワー : 授業の前後に対応します。 その他、質問等は メールもしくはMoodleのメッセージを利用してください。 この講義は、SMB C日興証券グループによる「寄附講座」です。			

科目名	SDGs で読み解く淀川流域	科目名 (英文)	The Yodo-gawa river region and SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石田 裕子, 赤澤 春彦, 朝田 康禎, 郭 進, 加嶋 章博, 久保 貞也, 小林 健治, 後藤 和子, 鳥谷部 壤, 中塚 華奈, 増田 知也, 八木 紀一郎
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II◎, R 科 : A◎, A 科 : A◎, M 科 : A1◎, E 科 : B△, C 科 : II◎, L 科 : DP2◎, D 科 : DP1◎, S 科 : DP1◎, J 科 : DP1◎, W 科 : DP1◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01361a1~JT01365a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、琵琶湖の源流域から大阪湾までの淀川流域に着目し、人々の多様な暮らしや経済・文化・環境等について、SDGs の視点から学びを深め、淀川流域の多様性と持続可能な発展を考える教養科目です。本科目は、今、多くの企業からも注目を集めている SDGs について、淀川流域を素材としながら、グローバルに考え行動するという社会人・企業人として必要な教養を身に付けることを目的とします。
到達目標	(1) 大阪をはじめとする関西地域の暮らしと密接な関わりを持つ淀川流域について、いかなる社会的課題が存在するかを、第三者に分かりやすく説明できる。 (2) SDGs について理解を深め、上記 (1) の社会的課題について、SDGs との関連性を説明できる。 (3) 地域のニーズや社会的課題を発見し、本講義で得られた知見を基に、その解決策を検討することができる。
授業方法と留意点	この授業では、摂南大学の近傍を流れる「淀川」の社会・歴史・文化・経済・環境等について、SDGs (2030 年までの世界の目標) との関連性を意識しながら、学部の垣根を越えて、地域の課題を学びます。毎回の授業は、基本的に教科書に沿って行われます。なお、理解促進のために、必要に応じて、レジュメあるいは補足資料を配布します。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の知識が身につく、それを基に地域の社会的課題について討議できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス—淀川流域のいま・過去・未来と SDGs	科目全体のガイダンス (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[序章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
2	巨椋池遊水地化構想による淀川流域の治水と環境保全	将来の淀川流域の洪水対策としてできることは何か? [関連 SDGs 13・6] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 1 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
3	淀川左岸地域を中心とした水辺整備と流域連携活動	水辺を楽しく利用するためにはどうすればいいか? [関連 SDGs 9・17] (担当: 石田裕子)	事前: 教科書[第 2 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
4	淀川流域の洪水対策	淀川上流に新たなダムは必要なのか? [関連 SDGs 7・16] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 4 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
5	些細なことでも豊かになる淀川流域の生活	なぜ人は水辺に集まるのか? [関連 SDG 15] (担当: 小林健治)	事前: 教科書[第 7 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
6	淀川水系にみる文化と観光の経済学	文化と経済の相乗効果とは? [関連 SDGs 3・12] (担当: 後藤和子)	事前: 教科書[第 6 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
7	地域資源としての淀川の記憶	淀川の風景遺産とは何だろうか? [関連 SDG 11] (担当: 加嶋章博)	事前: 教科書[第 8 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
8	淀川流域の名所化と文化遺産	淀川流域の文化遺産をいかに活用すべきか? [関連 SDG 11] (担当: 赤澤春彦)	事前: 教科書[第 9 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
9	淀川流域での学生活動	学生の活動が地域に与える影響とはなにか? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 久保貞也)	事前: 教科書[コラム③p. 154]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
10	所得格差と教育問題	淀川の左岸と右岸とでどう違う? [関連 SDGs 1・4・11] (担当: 八木紀一郎)	事前: 教科書[第 11 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
11	都市農業の歴史的遺産と公益的機能	淀川流域の都市農業の特徴とは? [関連 SDG 2] (担当: 中塚華奈)	事前: 教科書[第 10 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
12	人口移動や通勤流動でみる地域経済	淀川は人の流れや経済にどのような影響を与えるのか? [関連 SDG 5] (担当: 朝田康禎)	事前: 教科書[第 12 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
13	産業連関分析	淀川流域における 3 市 (門真市・寝屋川市・枚方市) の経済・産業構造はどう違うのか? [関連 SDGs 8・9] (担当: 郭進)	事前: 教科書[第 13 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
14	住民が主役の広報戦略	淀川流域の魅力発信するにはどうすればいいか? [関連 SDG 17] (担当: 増田知也)	事前: 教科書[第 14 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の確認
15	プラスチックごみの発生源抑制対策	大阪湾はお魚よりもプラスチックごみのほうが多いって本当? [関連 SDGs 14・12] (担当: 鳥谷部壤)	事前: 教科書[第 15 章]を読んでおくこと 事後: 講義内容の総復習・レポート課題に取り組む

関連科目 摂南大学で開講されている科目のすべて

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SDGs で読み解く淀川流域 近畿の水源地から地球の未来を考えよう	後藤和子・鳥谷部壤 編著	昭和堂
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 第 2 回目～15 回目までの授業内で実施される理解度確認 (クイズ or 簡単な小レポートなど) (いずれも 5 点満点、14 回分で計 70 点) と、期末のレポート (30 点) の合計 100 点満点で評価する。なお、期末のレポートは、最終回の授業時に各担当教員によって提示される課題一覧の中から、

	いずれか1つを選択し、A4で2枚程度のレポート作成に取り組む。
学生へのメッセージ	今、企業や地方自治体からも注目を集め、全世界で取り組んでいるSDGsについて、身近な地域を素材と一緒に考えましょう。就活や社会人となってからも、この経験はきっと役に立つはずです。他学部の教員から、多様な視点を学べるのも魅力です。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館3階 都市環境工学科 石田研究室 寝屋川キャンパス 1号館7階 経済学部 後藤研究室、郭研究室、朝田研究室
備考	SDGsの17の目標とその内容は次の通り。SDG1（貧困をなくそう）、SDG2（飢餓をゼロに）、SDG3（すべての人に健康と福祉を）、SDG4（質の高い教育をみんなに）、SDG5（ジェンダー平等を実現しよう）、SDG6（安全な水とトイレを世界中に）、SDG7（エネルギーをみんなにそしてクリーンに）、SDG8（働きがいも経済成長も）、SDG9（産業と技術革新の基盤をつくろう）、SDG10（人や国の不平等をなくそう）、SDG11（住み続けられるまちづくりを）、SDG12（つくる責任 つかう責任）、SDG13

科目名	データサイエンス実践	科目名 (英文)	Practical Data Science
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	久保 貞也, 朝田 康禎, 植杉 大, 片田 喜章, 橋本 はる美, 牧野 幸志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

**授業概要・目的**  
 これからの社会では実務のさまざまな場面でデータを適切に扱い、分析するデータサイエンスのスキルが重視される。データサイエンスのスキルはどの分野でも重要視されている「情報を扱う力」であり、すべての学生が対象となる。ビジネスの現場では顧客情報の分析による、商品開発やサービスの提案などにおける意思決定プロセスなどでも大きな力を発揮する。これからの進路を決めたり、日常の行動で判断にも役立つものとなる。本科目では理系・文系に関わらず大学生から社会人において役立つデータ収集と分析スキルを基礎から学べる状況を作り、さらに AI を含む実践的な応用についても多方面の事例を通じてわかりやすく学ぶ。

**到達目標**  
 この講義の到達目標は以下の通りである。  
 (1) 現代社会でのデータサイエンスの重要性と限界を説明できる  
 (2) データサイエンスのために必要な EXCEL 等汎用ソフトの基礎的な操作法を身に付けている  
 (3) インターンシップや卒業研究レベルのデータ分析の手順が設計できる

**授業方法と留意点**  
 本科目ではすべての学部学生が興味を持てるように、心理学、経済学、工学、教育学などの多方面の教員によるオムニバス形式で講義、演習を行う。実際に PC を操作してデータ収集、データ分析を行うため、毎回の出席が必要である。

**科目学習の効果 (資格)**  
 社会で役立つ実践的なデータ処理能力、AI を活用する力、卒業研究、調査報告書作成、分析ソフトウェアの操作

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	データサイエンスが必要とされる理由 (オリエンテーション)	開講にあたってのポイント説明、受講生の期待調査、Society 5.0 時代のデータの価値について S科 久保教授	事前の学修進捗度 学修ノートの作成
2	データ活用の最新事例	データサイエンスを学ぶためのハード、ソフト両面の説明、AI を前提とした社会のあり方 S科 久保教授	データサイエンスの事例を調べる 学修ノートの作成
3	データ分析の準備	Excel によるデータ整理、基本統計量からわかる事柄 S科 牧野准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
4	Excel でできるデータ分析	ピボットテーブルの有効活用 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
5	Excel でできる統計分析	データの関係がわかる関数 S科 橋本准教授	Excel の操作に関する復習 学修ノートの作成
6	オープンデータの収集と活用	RESAS (地域経済分析システム) によるオープンデータの分析 W科 植杉教授	RESAS の操作 学修ノートの作成
7	Excel で行える高度な分析	Excel によるオープンデータの研究活動への活用方法 W科 朝田准教授	オープンデータの事例を調べる 学修ノートの作成
8	商品企画につながる分析実習	統計分析ソフトウェア (SPSS) によるデータ整理 S科 牧野准教授	統計学に関する予習・復習 学修ノートの作成
9	優良顧客を見つける方法	SPSS による統計分析の実習 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
10	データから相性を評価する	ビジネスデータ分析の実際 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
11	スマホでできるアンケート調査	GoogleForms の便利な使い方 S科 牧野准教授	GoogleForms について調べる 学修ノートの作成
12	研究につながるデータ分析	実践的な分析手法の活用 S科 牧野准教授	学修ノートの作成
13	ロボティクスで利用されるデータ	ロボットを動かすデータ処理 E科 片田准教授	学修ノートの作成
14	広告効果のデータ分析	FileMaker Pro によるフィールドワークノートづくり S科 久保教授	FileMaker の事例について調べる 学修ノートの作成
15	データサイエンスの知識を今後に活かす	スモールグループディスカッション (ELSI、データの活用、人間中心の新しい社会) S科 久保教授	ELSI について調べる 学修ノートの整理 事後の学修進捗度

**関連科目** データサイエンス展開

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
		1		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業での課題 70%、事前事後の学修進展度(アンケート) 15%、学修ノート 15%、以上を総合して 60%以上を合格とする。なお、無断欠席が 20%以上の場合は成績評価の対象外とするので注意すること。
学生への メッセージ	商品企画や心理テスト、世論調査などわたしたちの普段の生活でデータは分析され、活用されています。みなさんが「自分の専門」プラス「データサイエンス」の力をつけると大きな可能性が拓けます。日常生活から研究活動、ビジネスの現場でも活用できるデータサイエンスを総合大学ならではの環境で学びましょう。 授業への遅刻は実習参加の妨げになるため十分注意してください。
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス 11号館7階 久保教授室、牧野准教授室、11号館8階 橋本准教授室、1号館7階 植杉教授室、朝田准教授室、1号館4階 片田准教授室
備考	

科目名	ジェンダーとダイバーシティ	科目名 (英文)	Gender and Diversity
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	石井 三恵
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には、以下の4点を理解することが期待される。</p> <p>1) グローバル社会では、日本人の従来の常識では予測のつかない疑問点が溢れていることを知り、ジェンダー視点で俯瞰する。  2) 「境界線」も一つの視野では理解できないことから、ジェンダーの基本的理解はもちろん、主な思潮を通して社会を読む。  3) さまざまな差異を理解するためには、ダイバーシティ (多様性) を尊重し、受け入れ、積極的に活かすことが大切であることを事例を通して学ぶ。  4) 日常生活やビジネスの場面でのコミュニケーションの必要性を理解し、アサーティブコミュニケーションの理論を知る。</p> <p>SDGs-5</p>
到達目標	ダイバーシティ理解に欠かせないコミュニケーション手法の一つであるアサーティブネス理論を中心に理解を促進させ、そのスキルを学ぶことによって、さまざまな社会現象に対する発言に活かすことを目標とする。
授業方法と留意点	第一に学問的探究をもち、偏見なく学ぶ姿勢が必要であり、第二に積極的に参画する意識を持つことを求める。
科目学習の効果 (資格)	ダイバーシティマネジメントにおける社員教育の在り方を理解することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ダイバーシティの世界へようこそ ・政策提言へ向けて	・事前学修: ダイバーシティに関して、調べること (1時間) ・事後学修: 身近なダイバーシティに対する気づきに関してレポートを作成すること (3時間)
2	ダイバーシティと境界線	・ウチとソトの感覚	・事前学修: 私たちの周りにおける伝統や習慣について箇条書きにしておくこと (2時間) ・事後学修: SDGs # 5がなぜ日本に問われているのか、その理由について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
3	ジェンダー視点	・フェミニズム×女性学+男性学=人間学 ・ジェンダーギャップ指数 ・シモーン・ド・ボーボワール ・性別役割分業観	・事前学修: フェミニズムの歴史的背景を理解し、近年話題のエコフェミニズムについて調べること (2時間) ・事後学修: 日本が抱える問題 について、具体的な数字を入れてレポートを書くこと (2時間)
4	日本の近代化	・大正期の白権派と女権拡張運動 ・明治の落とし物 ・第5次男女共同参画基本計画	・事前学修: 明治・大正・昭和の歴史年表を作成すること (2時間) ・事後学修: 第五次男女共同参画基本計画を読み、興味関心をもった項目についてレポートを書くこと (2時間)
5	国際統計比較	・ジェンダーギャップ、ジェンダーエンパワーメント指数などのデータから日本をみる	・事前学修: 国際的統計から、日本の置かれた位置を確認し、何が問題であるか考えること (2時間) ・事後学修: 国際的統計から理解できたことに関してレポートを作成すること (2時間)
6	性役割の形成①	・性役割と発達段階における「刷り込み」 ・性自認 ・GIDと SOGI と人権	・事前学修: 性役割を理解し、幼児期から振り返ること (2時間) ・事後学修: テキスト P40~52 と、授業を受けて理解できたことなどをまとめたレポートを作成 (2時間)
7	性役割の形成②	・性自認と家族 ・親役割 ・性的指向	・事前学修: ハラスメントの事例を一つ探し、具体的内容をレポートする 準備をすること (2時間) ・事後学修: 結婚と母性信仰に関して、レポートを作成 (2時間)
8	「らしさ」とセクシャル・ポリティクス	・6名の女性に関するグループワークとプレゼン ・セクシュアリティ	・事前学修: 6名の女性に関するプレゼン (2時間) ・事後学修: 6名の女性から学んだことのレポート作成 (2時間)
9	ワークライフバランスとビジネス組織	・ジェンダーマネジメント ・働き方改革	・事前学修: 日本と世界を比較しながら、女性労働について考えること (2時間) ・事後学修: M字型労働力率曲線の底を上げるための提言レポートを作成すること (2時間)
10	アサーティブコミュニケーション①	・アサーティブとは何か ・世界中でアサーティブネスが用いられる理由	・事前学修: アサーティブネスについて調べること (2時間) ・事後学修: アサーティブネススキルを用いて問題解決事例を考える (2時間)
11	アサーティブコミュニケーション②	・スキルの必要性を理解し、身に付けることを試みる	・事前学修: アサーティブネス理論を実生活に活かす事例を考えること (2時間) ・事後学修: ワークシート#11 (2時間)
12	リプロダクティブ・ヘルス&ライツ	・リプロの正しい意味を理解する ・リプロの歴史と現状の課題を確認する ・DV、デート DV について現状を理解する	・事前学修: リプロの意味と現状を調べる (2時間) ・事後学修: ワークシート#12 (2時間)
13	DV とデート DV	・企業比較から政策提言へ	・事前学修: DV とデート DV に関してレポートを作成 (2時間) ・事後学修: ワークシート#13 (2時間)

	14	プレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>政策提言プレゼンテーション</li> <li>自由討議</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：事例研究した内容をプレゼンテーションできるよう練習すること（2時間）</li> <li>事後学修各プレゼンテーションについての報告書作成（2時間）</li> </ul>
	15	まとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：まとめのワークシート（2時間）</li> <li>事後学修：ダイバーシティ・マネジメントが必要である理由について述べられるようまとめること（2時間）</li> </ul>
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	共に学ぶ女性学	石井三恵	泉文堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ジェンダーで学ぶ社会学	伊藤公男	世界思想社
	2	よくわかるジェンダー・スタディーズ	木村 涼子 他	ミネルヴァ書房
	3	性と法律	角田 由紀子	岩波新書
評価方法 (基準)	グループワーク（20%）、プレゼンテーション（30%）、レポート（50%）を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	みなさんの身近に存在している不思議を解き明かすカギが女性学、フェミニズム、ジェンダー論、そしてダイバーシティにあります。私たちは生まれも育ちも異なることから考え方も異なるように、外国の方にもそれが当てはまり、みな同じ問題を抱えています。社会的弱者と呼ばれる私たちの身近な事例を通して、人としての生きる権利とは何かを考えてみませんか。			
担当者の 研究室等	石井研究室（寝屋川キャンパス、7号館5階）			
備考	予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。ロールプレイ、プレゼンテーション、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 受講生のワークの進捗状況や社会現象の発生に応じて内容が前後することもある。			



科目名	データサイエンス展開	科目名 (英文)	Data Science Applications
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	諏訪 晴彦・石井 三恵・伊藤 謙・後藤 一章・瀬川 智広・横山 喬之・米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	IT・インターネットの利用が日常化し人とのつながりが増えるとともに、デジタル情報やデータの影響を受ける場面が飛躍的に増加している。今後のデジタル駆動社会においては情報化・デジタル化の特徴を理解した上で、生活を豊かにしていく「データリテラシー」を身に付けていることが必要となっている。本科目では、政策、衣食住、ものづくり、イベント広告、まちづくりの広範な分野における数理・データサイエンス・AIとデジタル技術の実践例を通じて、これらが社会や産業、日常生活の基盤になりつつあることを学ぶ。また、高度情報社会において、データを駆使し諸問題を解決する、また価値を創造する人材の素養を涵養する。
到達目標	(1) 数理・データサイエンス・AIが、Society5.0 (データ駆動型社会) やインダストリー4.0の基盤となっていること、それが自らの生活と密接に結びつくことを理解し説明できる。 (2) 数理・データサイエンス・AIが対象とする「データの活用領域」は広範にわたり「社会で活用されているデータ」が社会や日常生活の課題解決に不可欠であることを理解し説明できる。 (3) 数理・データサイエンス・AIは様々な適用領域の知見と組み合わせることにより、価値創出するものであることを理解し説明できる。 (4) 数理・データサイエンス・AIは万能ではなく、その活用への留意事項 (個人情報、データ倫理、AI社会原則等) や、情報のセキュリティ・漏洩などデータを守る上での留意事項の重要性を理解し説明できる。
授業方法と留意点	・産官学のさまざまな分野の講師によるオムニバス形式である (12回分)。 (外部から講師を招聘するため、日程やテーマが変更となることがある。) ・事前学習として、関連動画を視聴 (もしくは資料を精読) し興味や関心、講師への質問をレポートとしてまとめる。 ・事後学修では授業で理解したことをまとめ、到達目標の(1)から(4)の達成度を自己分析・評価する。 ・事前事後学習のレポートはすべて ICT ツールを利用する。
科目学習の効果 (資格)	・AI・データサイエンスの実践を様々な分野の実務家や研究者から学ぶことで、視野を広め、今後の自身のキャリア形成や就職活動に役立てることができる。 ・数理・データサイエンス・AIの関連資格への興味を拡大することができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学人としてのデータサイエンス	本講義の目的と概要 オリエンテーション グループワークの概説	事後学修: レポート (1時間)
2	データ駆動社会	・Society5.0 概論 ・オープンデータ活用 ・デジタルトランスフォーメーション (DX)	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
3	サイバーセキュリティ	サイバー攻撃と防御の最前線、データ駆動やAIによる最先端のセキュリティ技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
4	食サービス×データサイエンス	食品産業におけるデータ分析やデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
5	ものづくり×データサイエンス	ものづくりの設計や製造現場におけるデータサイエンスやAI技術の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
6	イベント×データサイエンス	イベント企画におけるデジタル技術の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
7	数理・データサイエンス・AIを知る	・数理・データサイエンス・AIのメリット・デメリットをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
8	広告×データサイエンス	広告業界における SNS マーケティングなどデジタル技術・データサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
9	言語×データサイエンス	言語とデータ化、テキストマイニングの仕組みと技術を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
10	まちづくり×データサイエンス	地方創生など新たなまちづくりにおけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
11	ヘルスケア×データサイエンス	医薬品開発やヘルスケアにおけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
12	スポーツ×データサイエンス	選手のコンディションや戦況分析などスポーツ科学におけるデータ分析の利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
13	衣料×データサイエンス	顧客のニーズに即応する衣料品開発と製造におけるデータサイエンスの利活用を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
14	政策×データサイエンス	サイバー空間における大規模人口シミュレーション技術を用いた選挙や年金などの制度設計を学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)
15	社会人としてのデータサイエンス	社会人として身につけておくべきDX思考、情報倫理、協働姿勢などをグループワークで学ぶ。	事前学習: 動画視聴/資料精読, 課題レポート (1時間) 事後学修: レポート (1時間)

関連科目 情報系科目すべて  
教科書

	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	事前学習およびグループワーク課題 30%、事後課題レポート 70%で評価する。																
学生への メッセージ	社会で注目されている AI・データサイエンス活用の最前線で活躍している講師陣から学んでください。社会に対する視野を広げることができ、就職活動においても選択肢を増やすことになり有利です。																
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】1号館 4F 諏訪教授室、7号館 3F 石井教授室、1号館 3F 伊藤教授室 米本研究室（7号館 5階）																
備考																	

科目名	コンピュータビジョン入門	科目名 (英文)	Introduction to Computer Vision
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	寺内 睦博, 新居 英志
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	われわれの視覚機能をコンピュータを使って実現する分野がコンピュータビジョンである。外界から入力される画像や映像から物体認識をしたり、状況を理解させたりすることをプログラムで実現するものである。このためにプログラミングの基礎から始めて、各種の画像処理の手法をプログラム作成を通じて学ぶ。さらに機械学習の初歩的な課題に取り組み、その仕組みを知ることを目的とする。
到達目標	プログラミングの基礎スキルを獲得し、それに基づいて各種の画像処理手法や機械学習の仕組みを学び、自分でプログラミングする素養を身につけること。
授業方法と留意点	毎回、パソコンを使用してプログラムを作成します。初歩的なプログラムの作成から始めて、徐々にステップアップします。欠席した場合には自分でフォローアップしないといけないので注意が必要です。
科目学習の効果 (資格)	基本的なプログラムの作成を通してプログラミングを学び、基本情報処理試験の基礎技能を養います。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	python 入門 (1)	演算とリスト	授業内容の予習 課題の完成
3	python 入門 (2)	制御構造と論理演算	授業内容の予習 課題の完成
4	python 入門 (3)	関数	授業内容の予習 課題の完成
5	python 入門 (4)	その他	授業内容の予習 課題の完成
6	OpenCV プラグラミング (1)	画像入力装置と静止画・動画フォーマット デジタル画像と配列	授業内容の予習 課題の完成
7	OpenCV プラグラミング (2)	色空間 濃淡変換	授業内容の予習 課題の完成
8	OpenCV プラグラミング (3)	フィルタ処理	授業内容の予習 課題の完成
9	OpenCV プラグラミング (4)	2値画像処理	授業内容の予習 課題の完成
10	OpenCV プラグラミング (5)	複数画像の利用	授業内容の予習 課題の完成
11	OpenCV プラグラミング (6)	幾何学変換	授業内容の予習 課題の完成
12	OpenCV プラグラミング (7)	距離画像処理	授業内容の予習 課題の完成
13	OpenCV プラグラミング (8)	特徴抽出と機械学習	授業内容の予習 課題の完成
14	機械学習プログラミング (1)	ディープラーニング	授業内容の予習 課題の完成
15	機械学習プログラミング (2)	最終プロジェクト	授業内容の予習 課題の完成

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	OpenCVによる画像処理入門 (改訂第3版)	小枝, 上田, 中村	講談社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 授業内課題 (60%)、プロジェクト課題 (40%)

学生へのメッセージ われわれの視覚情報処理を知ることは、脳のしくみを知ることに繋がります。プログラミングは創造的な活動のひとつです。文系理系に関わらず、興味のある人の参加を待っています。

担当者の研究室等 寺内研究室 (寝屋川キャンパス、11号館10階)、新居研究室 (寝屋川キャンパス、7号館5階)

備考

科目名	SDGs に学ぶ世界の課題	科目名 (英文)	Learning Global Issues from SDGs
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2 年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊藤 謙、大川 謙蔵、大塚 正人、尾山 廣、佐藤 大作、白鳥 武、村瀬 憲昭
ディプロマポリシー (DP)	V 科 : II ◎, R 科 : A ◎, A 科 : A ◎, M 科 : A1 ◎, E 科 : B △, C 科 : II ◎, L 科 : DP2 ◎, D 科 : DP1 ◎, S 科 : DP1 ◎, J 科 : DP1 ◎, W 科 : DP1 ◎		
科目ナンバリング	V 科・R 科・A 科・M 科・E 科・C 科 : TT01461a1~TT01465a1, L 科 : LT01366a1~LT01370a1, D 科・S 科 : IT01371a1~IT01375a1, J 科 : JT01361a1~JT01365a1, W 科 : WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	この科目は、学部の枠を越えた教養応用科目で、大学教養入門・実践のステップアップの講座としての位置づけられています。科目のテーマである SDGs (持続可能な開発目標) とは、国連が定めた 2030 年までに達成を目指す 17 の目標で、わが国でもビジネス界のキーワードのひとつになっています。つまり、この科目は SDGs の全体像を主体的に学ぶ、本格的なアクティブラーニング型教養科目です。反転学習により獲得した基礎知識をグループワーク、ABD と振り返りにより生きた知識として定着させます。さらに、法学、経済学、環境工学、建築学、農学のその分野の第一人者の講義・問題提起から討議を深め、獲得した知識を生きた教養として身に付けることができます。このような流れを通じて、大学生として必要な、SDGs を理解するための教養 (特に、社会、経済、環境等) を身につけ、その知識をもとに考え、自分の意見を持ち、討議ができるようになります。
到達目標	(1) 世界の目標 SDGs (2030 年までの世界の目標) について学び、説明と討議をすることができる。 (2) 現代世界の課題について知り、SDGs との関係の説明をすることができる。 (3) 課題に対して、自ら主体的に取り組むことができる。 (4) 自分やチームの考えが効果的に伝わるプレゼンテーションをすることができる。
授業方法と留意点	ABD 読書法と様々な ICT ツールを活用するなど、アクティブラーニングの手法を駆使します。授業開始時には、事前学習における知識の定着を確認するため、ICT ツールによるクイズ、ミニプレゼンを行い、中盤から後半部で各テーマをとりあげます。学生は解説時にはメモをとり、グループワークにより課題に取り組みます。授業の最後には、振り返りシートに授業のふりかえりをまとめます。また、授業資料の管理状態も評価対象です。
科目学習の効果 (資格)	社会課題を議論するための教養として SDGs (2030 年までの世界の目標) を知る。自分たちが未来を創る主体であると感じられるようになる。ABD による SDGs の主体的学び、各分野における第一人者によるテーマの解説、多様なメンバーとの討論により、自分の考えを持ち、討議ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、授業の進め方	事前アンケート 科目の特徴、どのような力が身につくのかを知る CHAP1 を協働でサマリ作成体験 リレープレゼン 振り返りシート	事後 : CHAP1 を復習して、復習シートを作成する
2	SDGs とは何か①	理解度確認テスト CHAP2 リレープレゼン、対話 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : CHAP2 を学び、ABD サマリを作成する
3	SDGs とは何か②	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
4	SDGs とは何か③	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 : Moodle に掲載の資料を読み、ABD サマリを作成しておくこと
5	気候変動に関する諸問題 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 13 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動とは <a href="https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw">https://www.youtube.com/watch?v=WVLDtd5nviw</a>
6	気候変動に関する諸問題 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 理解度確認テスト、振り返りシート	事前 1 : 目標 14, 15 を学び、ABD サマリを作成する 事前 2 : 下記動画を視聴し、関連する話題に関して説明できるようになっておくこと。 ・気候変動の対策 <a href="https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE">https://www.youtube.com/watch?v=dTF9YoQPzJE</a>
7	日本の食文化 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前 1 : 目標 2, 3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 1 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。
8	日本の食文化 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : CHAP3 を学び、ABD サマリを作成する。 事前 2 : 日本の食文化 2 の動画を視聴し、要点を 300 字程度にまとめる。 事後 : 第 1 回レポート
9	地球共生デザインを考える I : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 1	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、5 (特に 5.1, 5.2)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ABD サマリを作成する。 事前 2 : 【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 A-カナダ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまとめてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えて PPT1 枚にまとめること。
10	地球共生デザインを考える II : 少数民族を巡る地球共生阻害問題群を考える～その 2	理解度確認テスト SDGs リレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前 1 : 目標 : 16, 10 (特に 10.2, 10.3)、4 (特に 4.5, 4.7)、6 (特に 6.3, 6.6)、11 (11.1, 11.2) の ADB サマリを作成する 事前 2 : 前回は使った【資料 S】で相関図の導き方を学び、【地球共生デザイン予習課題書 B-日本のアイヌ】の動画、資料複数から複雑に絡み合った「負の連鎖」を理解し、複数の阻害問題の相互関係を俯瞰し、相関図にまと

				めてみる。その上で阻害問題を解決するプロジェクト提案を考えてPPT1枚にまとめること。																
	11	日本の国際貢献と法整備支援1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前1：目標6、9、13を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事を読み、法制度と法整備の必要性について、の概要を把握しておくこと。 <a href="https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html">https://www.moj.go.jp/housouken/houso_lta_lta.html</a>																
	12	日本の国際貢献と法整備支援2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題解決 振り返りシート	事前1：目標16、11、10を学び、ABDサマリを作成する。 事前2：以下のWeb記事の初めの段落と第三の「私見」を読み、当時の社会状況を理解しておくこと。 <a href="https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf">https://www.moj.go.jp/content/001311759.pdf</a>																
	13	持続可能な企業経営とESG投資1	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP4を学び、ABDサマリを作成する。																
	14	持続可能な企業経営とESG投資2	理解度確認テスト SDGsリレープレゼン、対話 話題提供、課題提示 振り返りシート	事前：CHAP5を学び、ABDサマリを作成する。																
	15	成果発表	理解度確認テスト 全体を通しての学びの整理、共有、 プレゼンテーション、振り返り 事後アンケート	事前：SDGs1-17の復習 事後：第2回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)</td> <td>バウンド</td> <td>技術評論社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	「SDGsの考え方と取り組みが、これ一冊でしっかりわかる教科書」(1680円+税)	バウンド	技術評論社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>理解度確認クイズ(個人:10%)</li> <li>事前・事後学習課題・ABDサマリ(個人:15%)</li> <li>取組み姿勢(チーム:20%)</li> <li>成果発表・プレゼンテーション1回(チーム:10%)</li> <li>振り返りシート(個人:20%)、レポート2回(個人:20%)、授業資料管理(個人:5%)</li> </ul> ※以上の合計で60%以上の学生を合格とする。また、出席率80%未満は成績評価の対象としない。期末試験は実施しない。																			
学生への メッセージ	授業では、摂南大学のすべての学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてSDGs実現のために必要な幅広い教養、コミュニケーション力、ファシリテーション力、学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	<b>【枚方キャンパス】</b> 大塚教授(薬学部1号館5F) <b>【寝屋川キャンパス】</b> 村瀬准教授(1号館7F)、伊藤教授(1号館3F)、尾山教授(理工学部1号館9F)、白鳥准教授(12号館7階)、佐藤准教授(1号館3F)、大川准教授(11号館9F)																			
備考	この科目はアクティブラーニング入学式～キックオフセミナー～大学教養入門～大学教養実践からつながる科目で、教養を身につけながら学習法を修得することを目指しています。期末試験はないので、毎回の提出物と授業中の取り組み姿勢が重要です。																			

科目名	まちづくり入門	科目名 (英文)	introduction to Urban Planning
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	熊谷 樹一郎, 池内 淳子, 伊藤 譲, 稲地 秀介, 上野山 裕士, 加嶋 章博, 久保 貞也, 中塚 華奈, 野長瀬 裕二, 野村 佳子, 増田 知也
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	これからの社会において「まち」の役割は重要になっている。まちを発展、維持していくために行政、団体、民間企業などさまざまな主体が計画を立て、課題を克服する活動が続いている。さらに今後は市民、学生が新たな担い手として期待されている。本講義では文理それぞれの観点から講演者を招き実践的な活動について知るとともに、大学の幅広い学術的知見を活用して摂南大学生が貢献するまちづくりの在り方を学び、検討を行う。
到達目標	(1) まちづくりの課題を多面的に理解できる (2) 大学生が行えるまちづくりの可能性と限界を理解する (3) 主体性と責任を持ってまちづくりに参加する知識と意識を持っている
授業方法と留意点	本授業ではまちづくりに関係する多様な講師によって構成される。行政経験者、民間での実務経験、コンサルティング経験者、および、市民活動の主催や支援、社会貢献の実行者などがそれぞれの専門的知見から「まちづくりとはなにか」を講義する。毎回の授業に予習と復習のための主体的な学びを設定する。
科目学習の効果 (資格)	学生として大学の知識、技術を総動員して地域問題解決に当たる姿勢を理解する。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	大学がまちづくりに関わる意義 国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (1)	オリエンテーション 都市計画とまちづくり 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	事前: シラバスを読み、自分にとっての学修ポイントを検討する 事後: 授業担当者から指示する
2	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (2)	交通とまちづくり 京阪ホールディングス枚方市駅周辺開発室 部長 大浅田 寛 氏 他	授業担当者から指示する
3	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (3)	都心とまちづくり 大阪公立大学大学院工学研究科都市系専攻 嘉名 光市 教授	授業担当者から指示する
4	国や自治体、公益性の強い団体のまちづくり (4)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
5	民間団体が関わるまちづくり (1)	産業とまちづくり 経済学部 野長瀬教授	授業担当者から指示する
6	民間団体が関わるまちづくり (2)	商業とまちづくり 経営学部 久保准教授	授業担当者から指示する
7	民間団体が関わるまちづくり (3)	空き家とまちづくり 理工学部住環境デザイン学科 稲地准教授	授業担当者から指示する
8	民間団体が関わるまちづくり (4)	観光とまちづくり 経済学部 野村教授	授業担当者から指示する
9	民間団体が関わるまちづくり (5)	グループ発表 理工学部都市環境工学科 熊谷教授	授業担当者から指示する
10	市民 (大学生) が関わるまちづくり (1)	まちづくりの担い手としての市民 法学部 増田講師	授業担当者から指示する
11	市民 (大学生) が関わるまちづくり (2)	福祉とまちづくり 現代社会学部 上野山講師	授業担当者から指示する
12	市民 (大学生) が関わるまちづくり (3)	都市農業とまちづくり 農学部 中塚准教授	授業担当者から指示する
13	市民 (大学生) が関わるまちづくり (4)	歴史・文化とまちづくり 理工学部建築学科 加嶋教授	授業担当者から指示する
14	市民 (大学生) が関わるまちづくり (5)	防災とまちづくり 理工学部建築学科 池内教授	授業担当者から指示する
15	大学生がまちづくりに関わる役割	グループ発表 C科 熊谷教授	事前: これまでの講義の振り返り 事後: 振り返りレポート

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	原則として、各回の事後レポートがすべて提出されていることも評価の前提となります。グループワークを通じた発表を含む授業中の課題 (60%)、事後レポートの採点結果 (40%) とした上で、総合評価されます。
学生へのメッセージ	ソーシャル・イノベーションを成立させるためには広い視野と深い洞察が必要となります。受講生による総合大学の社会貢献活動が実践的なものになるように多面的に学修してください。
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス・1号館4階 熊谷教授室



科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship(Introductory)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																																																																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。TOEIC(英語の場合)の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。</li> <li>英語力または現地言語の能力が不十分、現地事情の理解が不十分などの理由で、「理想とするレベルでの相互理解や信頼関係の構築には至らなかった」という挫折体験も得る。挫折体験と、その体験を帰国後の学びに生かすための計画を自身の言葉で説明できる。</li> </ul> <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>																																																																		
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>グローバル・シチズンシップ副専攻課程を履修する学生の履修を想定しているが、そうでない学生が本科目を単独で履修することもできる。</li> <li>年度末にあたる2~3月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。</li> </ul>																																																																		
科目学習の効果(資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td>事前授業①</td><td>留学に向けての動機付け</td><td>なし</td></tr> <tr><td>2</td><td>事前授業②</td><td>参加者間で仲間意識を作る</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>3</td><td>現地実習</td><td>詳細は説明会、事前授業時に提示</td><td>現地講師の指示により</td></tr> <tr><td>4</td><td>事後授業</td><td>留学での学びのふりかえり</td><td>レポート提出</td></tr> <tr><td>5</td><td>成果報告会</td><td>留学での成果を披露</td><td></td></tr> <tr><td>6</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>7</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>8</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>9</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>10</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>11</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>12</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>13</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>14</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>15</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし	2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出	3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により	4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出	5	成果報告会	留学での成果を披露		6				7				8				9				10				11				12				13				14				15			
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	事前授業①	留学に向けての動機付け	なし																																																																
2	事前授業②	参加者間で仲間意識を作る	レポート提出																																																																
3	現地実習	詳細は説明会、事前授業時に提示	現地講師の指示により																																																																
4	事後授業	留学での学びのふりかえり	レポート提出																																																																
5	成果報告会	留学での成果を披露																																																																	
6																																																																			
7																																																																			
8																																																																			
9																																																																			
10																																																																			
11																																																																			
12																																																																			
13																																																																			
14																																																																			
15																																																																			
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr><td>1</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>2</td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr><td>3</td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																																																																		
学生へのメッセージ	参加した学生は多くのごことを得て帰国しています。ある程度まとまった期間海外に行けるのは今のうちかもしれません。新しいチャレンジとして、この機会をぜひ活用してください。																																																																		
担当者の	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																																																																		



研究室等	
備考	

科目名	Topics in Global Citizenship (EMI)	科目名 (英文)	Topics in Global Citizenship (EMI)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期集中	授業担当者	フーオミッド・サジヤト
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

**授業概要・目的**

This course is compulsory for those who are taking the Global Citizenship Minor Program. The main goal of this course is for students to understand the necessary knowledge, skills, and attitudes to become a global citizen. Students are expected to have learned basic concepts of global citizenship in グローバル・シチズンシップ論 (入門). This course discusses several specific topics on SDGs, human rights and equality, war and peace, politics and citizenship, economic justice, global environment, and cultural rights. Students will also be empowered and encouraged to take on the responsibilities of global citizenship. Through a problem posing approach, students will be challenged to rethink about dominant ideologies and how they contradict with the ideas of global citizenship. Additionally, there will be opportunities to engage in discussions with students in a foreign country, which will allow students to learn perspectives from those who have with different cultural values. This course will also be using collaborative online international learning (COIL) to learn together with students in different countries.

- 到達目標**
1. Increase intercultural communicative competency with opportunities to communicate across cultures.
  2. Increase knowledge of both historical and recent global events.
  3. Acquire necessary skills and behaviors to become a global citizen.
  4. Acquire proper attitude to become responsible to the global environment.
  5. Improve problem solving ability to tackle global issues.
  6. Improve ability to communicate about serious issues using English.

**授業方法と留意点**

This course will be taught entirely in English, and the reading materials will also be in English. Students are often required to research for information to expand their knowledge, so that discussions in class will be more informative and in depth. The course will also challenge students to rethink about their inherent ideas and values that are tied to their cultural environment. Additionally, building from the contents students should have learned from グローバル・シチズンシップ論 (入門), students will communicate their ideas with students abroad to expand their knowledge about global citizenship.

\*本科目の履修申請にあたっては以下の事項に留意すること。

- 本格目はグローバル・シチズンシップ副専攻を履修している2年次以上の学生を主な対象としているが、寝屋川キャンパスの2年次以上の学生であれば履修申込が可能である。
- 全て英語で実施される科目なので、履修者には少なくともTOEIC500点程度の英語力をあらかじめ備えていることが期待される。履修申請時には現在所持しているTOEICスコア等、自身の英語力を自己申告する必要があり、グローバル・シチズンシップ副専攻の履修者以外の学生については、履修の可否について選考が行われる場合がある。
- 本科目の開講曜日、時限は、履修登録後に登録済学生の各所属学部での時間割に配慮しつつ調整、決定されるので、平日の5限または6限といった遅い時間帯の開講となる可能性がある。
- そのほか、履修に関する留意事項について不明の点があれば2号館2階グローバル教育センター(旧・国際交流センター)に相談すること。

**科目学習の効果(資格)**

**授業計画**

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Course introduction.	Introduction to course outline and materials	
2	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of global citizenship
3	Global citizenship and Sustainable Development Goals (SDGs)	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of SDGs
4	Human rights and equality	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of human rights
5	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
6	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
7	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University (date might change)	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)
8	War and peace Collaboration with students at Fayetteville State University	Lecture, pair work, group work, Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with

	(date might change)		students abroad (date might change)																
9	Politics and the role of citizens	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of citizens participating in politics 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
10	Economic justice	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of economic justice 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
11	Global environment	Lecture, pair work, group work	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of local environmental issues																
12	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
13	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
14	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
15	Collaboration with Australian and Indonesian students (date might change)	Lecture, pair work, group work Collaborative Online International Learning	1. Assigned reading from textbook or additional materials 2. Research for information and examples of the role of politicians 3. Prepare for online/offline communication with students abroad (date might change)																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論 (入門)																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】</td> <td>Julie Knutson</td> <td>Nomad Press</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Global Citizenship: Engage in the Politics of a Changing World 【※注意 この教科書は大学のブックセンターで取扱いません。担当教員の指示する方法で購入して下さい。不明の際は教員まで連絡して下さい】	Julie Knutson	Nomad Press																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	Attendance and participation: 30% Completion of assignments: 30% Presentations: 40%																		
学生へのメッセージ	Students are encouraged to use English in the classroom to share your ideas with each other.  We will be doing online exchanges with students in different countries in this course. This will be an interesting collaboration, so let's look forward to learn																		
担当者の研究室等	教員室 1 (2号館 2階)																		
備考																			

科目名	グローバル・シチズンシップ海外実習 (応用)	科目名 (英文)	Overseas Study for Global Citizenship (Advanced)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程 (GCMP) の必修科目の一つである。GCMP は、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン (地球市民) の育成を目指す副専攻である。GCMP は、国連が定める持続可能な開発目標 (SDGs) 目標 4.7 「2030 年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目を履修する学生は「グローバル・シチズンシップ海外実習 (入門)」または同等の科目を履修済でなければならない。履修者は、グローバル教育センターが主催する海外派遣プログラムのいずれかに参加し、これまでの副専攻および各学部での学びを生かした応用レベルの活動を行う。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この科目での学びを GCMP の集大成とする成果報告を行い、各学部での卒業研究や進路決定に活用することが期待される。</p> <p>なお、事前に承認された活動 (例: 協定校への長期留学を利用した社会貢献プロジェクト) の成果報告をもって本科目の単位を認定する場合がある。</p>			
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有し、当該の派遣プログラムの主題となる社会課題との関連を説明できる。</li> <li>当該の派遣プログラムの主題となる社会課題について、課題の概要と解決への取り組みを実体験に基づいて説明できる。また、日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通を行い、相互理解と信頼関係を築く。</li> <li>異なる言語、文化が混在するチームで課題に取り組み、必要に応じてリーダーシップをとる経験を得る。</li> <li>副専攻履修の開始時から継続的な訓練を行って身につけた外国語運用能力をさらに向上させる。帰国後の TOEIC (英語の場合) の得点アップなど、客観的指標での成果も得る。</li> <li>挫折や失敗の経験も含めた成果を、副専攻を新たに履修する後輩学生への助言として還元し、自身の卒業研究や進路決定に生かす。</li> </ul> <p>※以上に加え、各派遣先に特化した到達目標を設定する場合がある。</p>			
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前授業、現地派遣、事後授業の 3 つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5 限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合 (アルバイト、旅行等) による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>年度末にあたる 2~3 月に現地派遣される海外派遣プログラムに参加する場合、単位が認定される年度は翌年度となる。</li> </ul>			
科目学習の効果 (資格)				
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間 2 回実施される。( ) 内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の 2~3 月になる場合のスケジュールである。  ・募集説明会: 4 月中旬 (9 月下旬~10 月上旬) ・事前授業 10 回: 6 月中下旬~7 月下旬 (11 月~2 月) ・現地派遣: 2 週間程度 8 月中旬~9 月上旬 (2 月中下旬~3 月下旬) ・事後授業 5 回 (成果報告会含む): 9 月~10 月中旬 (3 月~4 月下旬)  【注意】新型コロナウイルス拡大の	派遣先では、安全と健康を最優先しつつ、団体行動、ルール順守が求められる。応用レベルに相応しい成果報告につなげられるよう、積極的に行動し、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。	事前授業では、応用レベルの参加者に相応しい「地球市民」概念の理解、派遣先の社会事情と課題について自ら学び準備をする姿勢が求められる。SDGs 関連のワークショップ、グローバル教育センターが提供する語学トレーニングのプログラムにおいてもリーダーシップをとることが期待される。  事後授業では、現地地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書 (レポート) および小グループ
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	事前授業評価 30%	(規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合)		
	現地活動評価 40%	(現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合)		
	事後授業評価 30%	(成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)		
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	鎌田講師室 (寝屋川キャンパス 2号館 2階)			
備考				

科目名	大学教養基礎Ⅱ	科目名 (英文)	
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期中	授業担当者	上野山 裕士, 森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	摂南大学のなかでもとくに文系学科における学びについて、対話、グループワーク、プレゼンテーションなどのアクティブ・ラーニング手法を用いて理解を深める。大学教養基礎Ⅱでは、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びを取り上げる。この講義を通じて履修者は、摂南大学における学修方法を体得するとともに、学修者自身の関心事を明確にすることが期待される。
到達目標	①摂南大学、経営学部、農学部（食農ビジネス学科）、現代社会学部における学びの概要を理解し、その特徴を説明することができる。 ②アクティブ・ラーニング手法の体験を通じて、摂南大学における主体的な学びの手法を理解し、実践することができる。 ③自らの学術的な関心事を口頭および文章を用いて表現することができる。
授業方法と留意点	PC・文献・その他の資料を用いた情報収集、グループでの対話、プレゼンテーション、ふりかえりなどのアクティブ・ラーニング手法を積極的に取り入れた授業を実施する。受講生には、それらに主体的に参画することを求める。

科目学習の 効果 (資格)	
------------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方についての説明、グループの決定、本講義における学びの方法について対話的に考える	【事前】 事前配布資料を熟読する 【事後】 本講義における学びの方法を復習する
2	経営学部における学びについて (オンデマンド)	経営学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 経営学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
3	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについて (オンデマンド)	農学部 (食農ビジネス学科) 教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 農学部 (食農ビジネス学科) について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
4	現代社会学部における学びについて (オンデマンド)	現代社会学部教員による学部および講義担当者の専門領域を中心とした学部における学びについての紹介	【事前】 現代社会学部について調べる 【事後】 講義内容のポイント、自身の関心事を整理し、事前学修シートを作成する
5	経営学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
6	経営学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
7	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
8	農学部 (食農ビジネス学科) における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
9	現代社会学部における学びについてグループで考える①	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
10	現代社会学部における学びについてグループで考える②	教員からの話題提供 (問いかけ) とグループでの調査および対話、ミニポスター作成	【事前】 オンデマンド教材での事後学修内容をふりかえる 【事後】 調査および対話内容の整理
11	プレゼンテーションに向けたポスター作成	グループとして学びのテーマを1つ選定し、発表用のポスターを作成する	【事前】 ポスター作成に向けた準備 【事後】 ポスター発表会に向けた準備
12	ポスター発表会、ふりかえり①	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
13	ポスター発表会、ふりかえり②	グループごとに選定したテーマについて発表、教室全体で対話を行い、ここまでの授業のふりかえりを行う	【事前】 成果報告会の準備 【事後】 成果報告会の内容を踏まえたふりかえり
14	学びレポートの作成 (オンデマンド)	グループで取り上げたテーマのなかからさらに学術的関心事を絞り込み、文献等を用いてレポートを作成する	【事前】 レポート作成に向けた情報収集 【事後】 レポート記載内容のふりかえり
15	レポートに対するフィードバック (オンデマンド)	受講生から提出された学びレポートを踏まえた総括的講義	【事前】 各学部における学びの内容の復習 【事後】 授業全体のふりかえり

関連科目	大学教養基礎Ⅰ
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法	グループワークおよびポスター発表会への参画度合い (ピア評価; 15%)、グループで作成するポスター (25%) のほか、個人で作成する事前学
------	---

(基準)	修シート (30%)、学びレポート (20%)、ふりかえりシート (10%) の内容を総合的に評価し、60%以上を合格とする。評価にあたっては、成果物の内容に加えて、ルーブリック表などを用いた担当教員による評価、プロジェクトメンバーによるピア評価を積極的に取り入れる。
学生へのメッセージ	
担当者の研究室等	【寝屋川キャンパス】 3号館3階 上野山研究室 2号館2階 ラーニングセンター
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本講義ではオンデマンド授業と対面授業を実施します。対面授業は、2024年9月3日(火)、4日(水)の1限～5限に開講し、履修者はこの対面授業にすべての時間、出席することが必須となります。</li> <li>・講義の性質上、履修者は、ファシリテーターとしての基礎的な素養を身につけていることが期待されます。</li> <li>・本講義では授業準備やふりかえりなど、事前事後学修に60時間程度取り組んでいただきます。</li> </ul>

科目名	ポジティブ行動支援の基礎・基本	科目名 (英文)	Basic of Positive Behavior Support
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松浦 正典
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的  
平成28年6月に「発達障害者支援法」が一部改正され、「発達障害者の支援は社会的障壁の除去に資すること」を旨として行われなければならないこととされた。言うまでもなく周りの人間の意識こそが最大の障壁となる。この学修を通して、発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮ができるようになることでその障壁を少しでも取り除く原動力になろう。そのためにはまず知ることが大切だ。教職課程を履修している学生だけでなく、興味・関心のあるすべての学生の参加を待っている。

到達目標  
①ポジティブ行動支援の概要と実践事例を理解する  
②応用行動分析理論の考え方を理解し、実際の生活に生かす  
③発達障害のある人やその周辺の人たちの困まっている状況を理解し、適切な支援・配慮について学ぶ  
④「友達や家族の良い行動」に着目し、適切な支援・配慮ができるようになる  
⑤「自分自身の良い行動」に着目し、自己有能感・自己有用感を培う

授業方法と留意点  
①授業は対面式で行う。ICTツールはTeamsを使用する  
②グループワークを取り入れるので積極的に自分の経験や意見を発表すること  
③教科書は特に指定しないが、参考図書は随時紹介する。積極的に活用すること。

科目学習の効果 (資格)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ポジティブな行動支援を学ぶ意義と本授業のガイダンス	ポジティブ行動支援を学ぶ意義を理解する 授業の進め方や評価方法等について知る	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
2	ポジティブな行動支援とは	ポジティブな支援とネガティブな支援の違いについて、実際に学校現場等で行われている指導の事例を基に理解する	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
3	ポジティブな人間関係づくり	同じ場で学ぶ学生同士でできるポジティブ行動支援を考え、演習を行う	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
4	応用行動分析の基礎 1	ポジティブ行動支援の基礎となる応用行動分析の考え方を学ぶ	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
5	応用行動分析の基礎 2	事例を基に、応用行動分析の理論をもとにその支援方法を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
6	コミュニケーションが苦手なこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
7	コミュニケーションが苦手なこだわりの強い生徒へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に自閉スペクトラム症の生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
8	落ち着きがなかったり、不注意で失敗することが多かったりする生徒へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にADHDの生徒について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
9	傷付きやすい人へのポジティブ行動支援	事例を基に、主にいわゆる「繊細さん」について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
10	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
11	保護者と良い関係が結ばなかったと思う人へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、主に愛着障害の人について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
12	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 1	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
13	大人の発達障害へのポジティブ行動支援 2	事例を基に、大人の発達障害について知り、そのポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
14	障害を持つ子の保護者とポジティブ行動支援	障害を持つ子の保護者の話を聴き、自分にできそうなポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)
15	まとめ	この講義全体を振り返り、自分にできるポジティブ行動支援を考える	事前にTeams上に配布した資料を基に授業の概要を知る (2時間) 配布資料と授業内容を基に振り返る (2時間)

関連科目  
心理を扱った科目及び教職科目全般と関連を持つ。ただしこれらの予備知識は必要としない。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書



	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめてのポジティブ行動支援	松山康成	明治図書
	2	保護者と先生のための応用行動分析入門ハンドブック	三田地真実他	金剛出版
	3			
評価方法 (基準)	授業の出席・積極的参加 60% レポート40%			
学生への メッセージ	本講座を履修し、一緒に学修することで、実際の生活に役立つ知識・技能を身につけ、「共に幸せになる幸せ」を実感しましょう。			
担当者の 研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階 松浦研究室			
備考				

科目名	人間関係論 (ファシリテータートレーニング)	科目名 (英文)	Human Relations Approach (Facilitator Training)
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	鎌田 美保
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a1~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	「ラボラトリー方式の体験学習」という人間関係に関わる実習（グループ活動）を行い、その体験から自分自身と他者との関わり、人間関係の持ち方、自分自身について気づき、学ぶ授業です。実習後はその体験をふりかえり、次の学びにどう生かすかを考え、次の実習に生かしていきます。体験から得た学びに関する理論に関する講義（小講義）もあります。
到達目標	・体験を通し、自分自身の人間関係の持ち方、他者への関わり方、自分自身について気づく ・体験から気づいた点を生かし、グループ関係をよりよく保つための働きかけができる
授業方法と留意点	実習（グループ活動）とそのふりかえり、ディスカッション、講義 体験（実習）からの学びが中心ですので、出席と参加度を重視します

科目学習の効果（資格）	
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 体験学習の体験	授業についての説明 体験学習についての説明 ミニ実習	
2	体験学習①	情報誌を使った実習とふりかえり	授業での学びをまとめる
3	体験学習のサイクル	講義	この授業での自身の目標を決める 学んだことをまとめる
4	体験学習②	コミュニケーションに関する実習	体験での学びをまとめる
5	コミュニケーションについて	講義	学んだことをまとめる
6	体験学習③	「聴く」実習	体験での学びをまとめる
7	ジョハリの窓とフィードバックについて	講義	学んだことをまとめる
8	体験学習④	コンセンサス実習① (正解のある課題)	体験での学びをまとめる
9	グループにおける合意形成について	講義	学んだことをまとめる
10	体験学習⑤	コンセンサス実習② (正解のない課題)	体験での学びをまとめる
11	体験学習⑥	POPO (グループを観察する)	体験での学びをまとめる
12	ファシリテーション、リーダーシップについて	講義	学んだことをまとめる
13	体験学習⑦	活動的な実習	体験での学びをまとめる
14	ふりかえり	これまでの授業で学んだことをグループごとにふりかえる	ミニレポート
15	まとめ	授業全体のまとめ、ふりかえり 今後はどう生かすか	

関連科目	
------	--

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	人間関係トレーニング	津村俊充・山口真人編	ナカニシヤ出版
2	プロセスエデュケーション	津村俊充	金子書房
3			

評価方法（基準）	実習参加態度（30%）、課題（20%）、期末レポート（50%）
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	さまざまな活動を通し、自分自身について、これからの生き方について考えるきっかけになる授業だと思います。自ら学び、学び方を学ぶ授業です。いつもと違う自分を試してみたい、何かチャレンジしてみたいという人にはおすすめです。
-----------	--

担当者の研究室等	教員室2（寝屋川キャンパス2号館2階）
----------	---------------------

備考	
----	--

科目名	大学教養入門	科目名 (英文)	Introduction to Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	坂口 有崇, 加野 佑弥, 中澤 芽衣, 松本 恭幸
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1357a1, W科: WKY1348a1		

授業概要・目的	本科目は学部の枠を越えた教養入門科目です。本科目の目的は、大学生としての教養を身につけるスタートラインに立つことにあり、自らが主体的に知識を獲得し、対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得することです。授業では教養の入門書を用いて ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や協働学習の習慣を身につけるとともに、チームワーク能力、コミュニケーション能力等を身につけることを目指します。
到達目標	(1)大学生に必要な教養の基礎知識を身につけている。 (2)ABDによる読書法を身につけている。 (3)チームワーク能力を身につけ、対話を通じた協働学習をすることができる。 (4)SDGs と UNAI について基礎的な知識を身につけている。 (5)読書が好きで、意義を理解して読書習慣を身につけている。 (6)コミュニケーション能力を身につけ、自分の考えを相手に伝え、相手の考えを理解することができる。 (7)自主的、計画的に学ぶ学習習慣を身につけている。
授業方法と留意点	授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術を修得します。教養の入門書として一般書を教材として、ABD (アクティブ・ブック・ダイアログ) 読書法や ICT ツールを活用して、読書、対話、発表等の協働学習による学びを体験します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を一方的に伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることが特徴です。したがって、諸君が積極的に参加することが大切です。
科目学習の効果 (資格)	大学生に必要な教養の基礎知識、ABD 法等のアクティブ・ラーニングによる協働学習の方法、自主学習の習慣などが身につく。学習における ICT ツールの活用方法を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 『おとなの教養』序章 私たちはどこから来て、何処へ行くのか	アイスブレイク 事前アンケート 本科目で、どのような力が身につくのか 「教養とは何か?」、理解度確認クイズ、振り返り ABD の体験	事前学習: 『おとなの教養』 序章を読む(1.5時間以上)
2	教養入門: 第一章 宗教	教科書の紹介、概要 チーム作り、授業の約束事 ABD による学習の進め方の説明 ABD 法に挑戦「第一章 宗教」 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第一章を読む(1.5時間以上)
3	教養入門: 第三章 人類の旅程	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読む(1.5時間以上)
4	教養入門: 第四章 人間と病気	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
5	教養入門: 第五章 経済	解説 協働学習、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第五章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
6	教養入門: 中間成果発表	ポスター作成の説明 プレゼン、質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習: 第1回レポート(0.5時間以上)
7	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDGs の概要 SDG s とは何か 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDGs とは何か、指定した資料を調べる(1.5時間以上)
8	世界を知る教養: 国連サステイナブルディベロップメントゴールズ	SDG s を考える ワールドカフェ方式対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: SDG s とは何か、図書館、ネット等で調べる。自分の意見を持つ。(1.5時間以上)
9	世界を知る教養: 国連アカデミックインパクト	国連の役割と歴史 本学の取り組み 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: UNAI とは何かを調べる(1.0時間以上) 事後学習: 第2回レポート(0.5時間以上)
10	自分を知る教養: 岸見著『アドラー性格を変える心理学』序章 「性格は変わらない」は本当か? 第一章 虚栄心・嫉妬・憎しみ	教科書の紹介、はじめに 解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 『アドラー性格を変える心理学』序章・第一章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
11	自分を知る教養: 第二章 控え目・不安・臆病	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第二章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
12	自分を知る教養: 第三章 快活・かたくな・気分屋	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り	事前学習: 教科書 第三章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
13	自分を知る教養: 第四章 怒り・悲しみ・羞恥心	解説 協働学習、プレゼン、対話 理解度確認クイズ、振り返り 中間発表テーマの決定	事前学習: 教科書 第四章を読み事前学習シートを作成する(1.5時間以上)
14	自分を知る教養: 中間成果発表	ポスター作成 発表・質疑応答 振り返り	事前学習: 中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案(1時間以上) 事後学習: 第3回レポート

	15	大学教養入門：まとめ	グループワーク「教養とは何か？」 事後アンケート	(0.5時間以上) 事前学習：中間発表の下調べ、図書館の探索、ポスターの案 (1.5時間以上)
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	おとなの教養	池上彰	NHK 出版
	2	アドラー性格を変える心理学	岸見一郎	NHK 出版
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み・ディスカッション 15%</li> <li>・プレゼン相互評価・グループポスター 15%</li> <li>・レポート 15%</li> <li>・振り返りシート・個人ポスター・メモ 20%</li> <li>・クイズ 15%</li> <li>・事前学習シート 15%</li> <li>・ファイリング 5%</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、原則として出席率80%以上の学生を合格者の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	この科目は摂南大学独自の教養科目です。授業では、すべての学部、学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸 (7号館5F)、加野 佑弥 (7号館5F)、中澤芽衣 (3号館3F)、松本恭幸 (3号館3F)			
備考	この科目は、入学式～キックオフセミナーからつながる科目です。教養を身につけながら学習法を身につけることを目指しています。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけることもできます。			

科目名	大学教養実践	科目名 (英文)	Practical Learning of Liberal Arts
学部	学部共通	学科	
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	新居 英志, 加野 佑弥, 坂口 有芸, 森 亜貴, 米本 涼
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TKY1458a1, L科: LKY1360a1, D科・S科: IKY1367a1, J科: JKY1369a1, W科: WKY1348a1		

**授業概要・目的**  
この科目は、チームで協働して読書を行い、プレゼンテーションと対話を通じて、学びを深める形式で学ぶ学部の枠を越えた教養実践科目です。前期開講の大学教養入門のステップアップの講座としての位置づけです。  
本科目の目的は、大学生として必要な教養として、文学、社会学や経済学の入門的知識を身につけ、その知識をもとに協働学習により社会課題の解決を体験します。そして、知識としての教養を実社会での実践にむすびつけることを目指します。

- 到達目標**
- (1) 大学生として必要な教養レベルを身につけ、実践的に討議することができる。
  - (2) ABDによる読書法の基礎（要約、プレゼンテーション、対話）を身に付けている。
  - (3) 自分が知りたいと思うことのテーマ設定ができる。
  - (4) チームワーク能力やリーダーシップを身に付けている。
  - (5) わかりやすいプレゼンテーションを行うことができる。
  - (6) テーマにそった対話（感想、質疑応答）を行うことができる。
  - (7) 自主学習の習慣を身に付けている。

**授業方法と留意点**  
授業では教養を学ぶ過程で、自ら主体的に、仲間と対話を通して理解を深め、表現するための技術等を修得します。大学生として必要な教養を身につけ、身につけた教養、知識をもとに、社会課題の解決策を協働学習により検討します。この科目では、これまでの授業とは異なり、教員が知識を伝えるのではなく、チームの一員として協働学習により自ら知識や考え方を身につけることにあるので、諸君が積極的に参加することが大切です。

**科目学習の効果 (資格)**  
大学生に必要な教養の知識が身につく、それを元に社会課題について討議できる。 ABD や QFT 等の協働学習の方法が身につく。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 私たちはいま、どこにいるのか？	アイスブレイク 事前アンケート 授業のルール 解説 (教科書、ABD とは) 協働学習 (p. 18-47: 要約, プレゼン, 対話), 振り返りシート	『おとなの教養2』序章を読み, 事前学習シートを作成する。
2	私たちはいま、どこにいるのか？ 第一章「AI とビッグデータ」	チーム分け, 役割分担, 確認試験 解説 (振り返りシート) 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第一章を読み, 事前学習シートを作成する。
3	私たちはいま、どこにいるのか？ 第二章「キャッシュレス社会と仮想通貨」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。
4	私たちはいま、どこにいるのか？ 第三章「想像の共同体」	解説 (事前学習シート), 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 投票と表彰, 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。 ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度)
5	私たちはいま、どこにいるのか？ 中間発表1回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	教科書第四章～第六章を読み, 事前学習シートを作成する。 事後学習: 第1回レポート
6	説明力を鍛えるヒント: 第一章「間違いだらけの数学観」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	『数学的思考法』第一章を読み, 事前学習シートを作成する。
7	説明力を鍛えるヒント: 第二章「試行錯誤という思考法」	QFT (質問づくり) 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第二章を読み, 事前学習シートを作成する。
8	説明力を鍛えるヒント: 第三章「数学的思考のヒント」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第三章を読み, 事前学習シートを作成する。
9	説明力を鍛えるヒント: 第四章「論理的な説明の鍵」	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点を説明 協働学習 (要約・プレゼン・対話) 振り返りシート	教科書第四章を読み, 事前学習シートを作成する。
10	説明力を鍛えるヒント 中間発表2回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答, 評価 振り返りシート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度) 事後学習: 第2回レポート
11	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	『星の王子さま』1~10章を読み, 事前学習シート (要約, 感想) を作成する (2時間程度)
12	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 要約・プレゼン・対話の要点の説明 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 11~20章を読み, 事前学習シートを作成する
13	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話) 振り返りシート	教科書 21~27章を読み, 事前学習シートを作成する
14	教養として文学作品に触れる: 『星の王子さま』	解説, 確認試験 協働学習 (要約, プレゼン, 対話)	教科書あとがきを読み, 事前学習シートを作成する

			QFT (中間発表のテーマ出し) 振り返りシート																	
	15	教養として文学作品に触れる：中間発表3回目、振り返り	ポスター作成 発表・質疑応答、評価 振り返りシート 事後アンケート	ポスター・プレゼンの準備を行う (2時間程度)  事後学習：第3回レポート																
関連科目	摂南大学で開講されている科目のすべて																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>おとなの教養2</td> <td>池上彰</td> <td>NHK出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>星の王子さま</td> <td>サン＝テグジュペリ</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>数学的思考法—説明力を鍛えるヒント</td> <td>芳沢 光雄</td> <td>講談社現代新書</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版	2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫	3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	おとなの教養2	池上彰	NHK出版																	
2	星の王子さま	サン＝テグジュペリ	新潮文庫																	
3	数学的思考法—説明力を鍛えるヒント	芳沢 光雄	講談社現代新書																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業への取り組み 15%</li> <li>・プレゼン 15%</li> <li>・レポート 20%</li> <li>・振り返りシート 15%</li> <li>・クイズ 15%</li> <li>・事前学習シート 15%</li> <li>・ファイリング 5%</li> </ul> <p>以上の評価点の合計で60%以上を合格とする。期末試験は実施しない。 なお、成績評価の対象は原則として出席率80%以上の学生とする。</p>																			
学生への メッセージ	この授業では、すべての学部の学生が、学部・学科の垣根を越えたグループをつくり協働学習を行います。この授業を履修することで、大学生としてふさわしい教養の基礎、コミュニケーション力、ファシリテーション力、と学習方法が身に付き、さらに学部、学科を超えたたくさんの友人をつくることもできるでしょう。																			
担当者の 研究室等	【寝屋川キャンパス】 坂口有芸(7号館5F)，新居英志(7号館5F)，森亜貴(2号館2Fラーニングセンター)．加野佑弥(7号館5階)，米本研究室(7号館5階)																			
備考	この科目は前期の大学教養入門と同じスタイルの教養を学びながら学習法を身につけることを期待した科目です。また、学部や学科を超えた多くの友人を見つけてください。この授業は原則的に対面で実施します。やむを得ず、遠隔授業やハイブリッドで実施する場合も顔が見えることを出席の条件とします。																			

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山岡 亮太
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういった経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聞き理解を深めます。特に苦手な学生は予習・復習を確実にを行い、疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと(目安:30分)・実力テストを復習しておくこと(目安:30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと(目安:2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。
担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	津村 忠・森 亜貴
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にし疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)
学生へのメッセージ	数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得していきましょう。
担当者の研究室等備考	寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構



科目名	就職実践基礎	科目名 (英文)	Practical Math for Employment Exams
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	津村 忠
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	社会人に必要とされる基礎学力の修得を目指し総合的に学習します。基礎学力の中でも数的能力・言語能力は社会人として仕事をする上で必須のもので、早めに取り組むことを推奨します。この授業では、数的能力・言語能力を幅広く扱いますが、特に日常生活・仕事での活用頻度が高く、かつ採用試験での高いハードルとなる「数的能力の強化」をメインに取り組みます。講師は広告・出版業界や教育業界での実務経験を持ち、実務で数学を活用してきました。そういう経験も活かして、社会で使える数的能力を身につけていきます。
到達目標	数的能力について、社会人に求められる最低限のレベルに達すること。 数的思考を活用する必要性や面白さを体感すること。
授業方法と留意点	基礎数学をメインに学習します。授業は実践形式で、様々な問題にチャレンジした上で解説を聴講し理解を深めます。採用試験 (SPI や玉手箱等の総合適性検査) 対応力をつけるために、予習・復習を確実にを行い疑問を残さないよう心がけてください。
科目学習の効果 (資格)	社会で必要とされる数的能力・言語能力を獲得する。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション・実力テスト	講座の目的・意義の確認、実力テスト	シラバスを熟読しておくこと (目安: 30分)・実力テストを復習しておくこと (目安: 30分)
2	数的思考①	割合の活用① 方程式立式・割合計算の基礎	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
3	数的思考②	割合の活用② 濃度算・仕事算・損益算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
4	数的思考③	速度算	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
5	数的思考④	集合	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
6	数的思考⑤	場合の数と確率①	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
7	数的思考⑥	場合の数と確率②	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
8	中間テスト	中間テスト	今まで学習した問題全てを事前に復習
9	資料解釈①	言語理解 (文章読解) 表・資料の読み取り① 基礎問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
10	資料解釈②	表・資料の読み取り② 応用問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
11	資料解釈③	表・資料の読み取り③ 実践問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
12	論理推論①	命題・順序・位置関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
13	論理推論②	金銭問題・内訳・平均・対応関係	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
14	論理推論③	濃度と密度・複数選択・整数問題	事前にテキストの問題を読んでおくこと・講義で取り扱った問題の復習
15	総復習	今までの問題の復習	全ての範囲を事前に勉強しておくこと (目安: 2.5時間)

関連科目 コミュニケーション能力開発、数的能力開発

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	厳選! 数学的リテラシー問題集	PS 出版事業部	PS 出版事業部
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 小テスト (30%)、中間テスト (20%)、期末テスト (40%)、SmartSPI (10%)

学生へのメッセージ 数的能力を社会で活かすことができるようになってもらえればと思います。同時に学ぶ楽しさも体感してください。また、受講する以上は、講義に集中し、毎回復習して着実に知識・能力を習得して行ってください。

担当者の研究室等備考 寝屋川キャンパス 7号館3階 全学教育機構

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1004a0		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立 1 次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論である。現代理工学の多くは線形代数を基本単語として記述されているため、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	基礎知識を身につけ、与えられた課題に対して応用できる、次のような基礎的能力の習得を目標とする。 (1) 行列の計算方法を理解し、具体的に計算ができる。 (2) ベクトルの内積・外積を理解し、具体的に求めることができる。 (3) 連立 1 次方程式と行列との関係を理解し、連立 1 次方程式を掃き出し法を用いて解くことができる。 (4) 逆行列を掃き出し法を用いて求めることができる。 (5) 空間における直線や平面の方程式を理解し、具体的に求めることができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業では、テーマに掲げた内容をできるだけ平易に説明する。 期末試験の出題内容は、教科書の演習問題やレポート課題のレベルの内容とする。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	これから学ぶ理工学関連の科目の基礎となる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列の定義(1)</td> <td>・和、スカラー倍</td> <td>第 1 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列の定義(2)</td> <td>・積の定義・転置行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>正方行列(1)</td> <td>・単位行列・正則行列の定義</td> <td>第 1 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>正方行列(2)</td> <td>・正則行列の性質</td> <td>第 1 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2 次正方行列</td> <td>・逆行列の計算</td> <td>第 1 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>いろいろな行列</td> <td>・対称行列・交代行列・ベキ零行列</td> <td>第 1 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連立 1 次方程式(1)</td> <td>・消去法</td> <td>第 2 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連立 1 次方程式(2)</td> <td>・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数</td> <td>第 2 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立 1 次方程式(3)</td> <td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td> <td>第 2 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立 1 次方程式(4)</td> <td>・基本解・特殊解</td> <td>第 2 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立 1 次方程式(5)</td> <td>・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件</td> <td>第 2 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>空間のベクトル(1)</td> <td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td> <td>第 3 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>空間のベクトル(2)</td> <td>・内積・距離</td> <td>第 3 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>空間のベクトル(3)</td> <td>・外積・スカラー 3 重積</td> <td>第 3 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>空間のベクトル(4)</td> <td>・直線の方程式・平面の方程式</td> <td>第 3 章の間、演習問題、レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第 1 章の間、演習問題、レポート	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第 1 章の間、演習問題、レポート	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第 1 章の間、演習問題、レポート	4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第 1 章の間、演習問題、レポート	5	2 次正方行列	・逆行列の計算	第 1 章の間、演習問題、レポート	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第 1 章の間、演習問題、レポート	7	連立 1 次方程式(1)	・消去法	第 2 章の間、演習問題、レポート	8	連立 1 次方程式(2)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	第 2 章の間、演習問題、レポート	9	連立 1 次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第 2 章の間、演習問題、レポート	10	連立 1 次方程式(4)	・基本解・特殊解	第 2 章の間、演習問題、レポート	11	連立 1 次方程式(5)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	第 2 章の間、演習問題、レポート	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第 3 章の間、演習問題、レポート	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第 3 章の間、演習問題、レポート	14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー 3 重積	第 3 章の間、演習問題、レポート	15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第 3 章の間、演習問題、レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第 1 章の間、演習問題、レポート																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第 1 章の間、演習問題、レポート																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第 1 章の間、演習問題、レポート																																																																
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第 1 章の間、演習問題、レポート																																																																
5	2 次正方行列	・逆行列の計算	第 1 章の間、演習問題、レポート																																																																
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第 1 章の間、演習問題、レポート																																																																
7	連立 1 次方程式(1)	・消去法	第 2 章の間、演習問題、レポート																																																																
8	連立 1 次方程式(2)	・連立 1 次方程式の行列表示・基本変形・階数	第 2 章の間、演習問題、レポート																																																																
9	連立 1 次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第 2 章の間、演習問題、レポート																																																																
10	連立 1 次方程式(4)	・基本解・特殊解	第 2 章の間、演習問題、レポート																																																																
11	連立 1 次方程式(5)	・同次連立 1 次方程式・正則行列となる条件	第 2 章の間、演習問題、レポート																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第 3 章の間、演習問題、レポート																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第 3 章の間、演習問題、レポート																																																																
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー 3 重積	第 3 章の間、演習問題、レポート																																																																
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第 3 章の間、演習問題、レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められる： 微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	小テスト・課題演習で 30%、期末試験 70%で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業は講義中心となりますが、積極的な質問を歓迎します。いっしょにがんばりましょう。																																																																		
担当者の研究室等	5号館 1階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は各々毎回 1 時間以上かけること。																																																																		

科目名	線形代数 I	科目名 (英文)	Linear Algebra I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	高橋 甫宗
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1004a0		

授業概要・目的	線形代数は、幾何ベクトルや連立1次方程式の取り扱い方を一般化してできた理論で、理工系学生に欠くことのできない数学的教養である。																																																																		
到達目標	(1) 行列の計算ができる。 (2) 基本変形で連立1次方程式を解くことができる。 (3) 基本変形で逆行列を求めることができる。 (4) ベクトルの内積・外積を理解する。																																																																		
授業方法と留意点	授業は原則対面授業で行う。 授業は前半60分程度が板書による講義、後半30分程度を演習にあてる。																																																																		
科目学習の効果 (資格)																																																																			
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列の定義(1)</td> <td>・和、スカラー倍</td> <td>第1章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列の定義(2)</td> <td>・積の定義・転置行列</td> <td>第1章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>正方行列(1)</td> <td>・単位行列・正則行列の定義</td> <td>第1章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>正方行列(2)</td> <td>・正則行列の性質</td> <td>第1章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>2次正方行列</td> <td>・逆行列の計算</td> <td>第1章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>いろいろな行列</td> <td>・対称行列・交代行列・ベキ零行列</td> <td>第1章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>連立1次方程式(1)</td> <td>・消去法</td> <td>第2章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>連立1次方程式(2)</td> <td>・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数</td> <td>第2章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>連立1次方程式(3)</td> <td>・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方</td> <td>第2章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>連立1次方程式(4)</td> <td>・基本解・特殊解</td> <td>第2章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>連立1次方程式(5)</td> <td>・同次連立1次方程式・正則行列となる条件</td> <td>第2章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>空間のベクトル(1)</td> <td>・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍</td> <td>第3章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>空間のベクトル(2)</td> <td>・内積・距離</td> <td>第3章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>空間のベクトル(3)</td> <td>・外積・スカラー3重積</td> <td>第3章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>空間のベクトル(4)</td> <td>・直線の方程式・平面の方程式</td> <td>第3章の間, 演習問題 レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間, 演習問題 レポート	2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間, 演習問題 レポート	3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間, 演習問題 レポート	4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間, 演習問題 レポート	5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間, 演習問題 レポート	6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第1章の間, 演習問題 レポート	7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間, 演習問題 レポート	8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間, 演習問題 レポート	9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間, 演習問題 レポート	10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間, 演習問題 レポート	11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間, 演習問題 レポート	12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間, 演習問題 レポート	13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間, 演習問題 レポート	14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間, 演習問題 レポート	15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間, 演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列の定義(1)	・和、スカラー倍	第1章の間, 演習問題 レポート																																																																
2	行列の定義(2)	・積の定義・転置行列	第1章の間, 演習問題 レポート																																																																
3	正方行列(1)	・単位行列・正則行列の定義	第1章の間, 演習問題 レポート																																																																
4	正方行列(2)	・正則行列の性質	第1章の間, 演習問題 レポート																																																																
5	2次正方行列	・逆行列の計算	第1章の間, 演習問題 レポート																																																																
6	いろいろな行列	・対称行列・交代行列・ベキ零行列	第1章の間, 演習問題 レポート																																																																
7	連立1次方程式(1)	・消去法	第2章の間, 演習問題 レポート																																																																
8	連立1次方程式(2)	・連立1次方程式の行列表示・基本変形・階数	第2章の間, 演習問題 レポート																																																																
9	連立1次方程式(3)	・基本変形の正則行列表示・掃き出し法による逆行列の求め方	第2章の間, 演習問題 レポート																																																																
10	連立1次方程式(4)	・基本解・特殊解	第2章の間, 演習問題 レポート																																																																
11	連立1次方程式(5)	・同次連立1次方程式・正則行列となる条件	第2章の間, 演習問題 レポート																																																																
12	空間のベクトル(1)	・空間のベクトルの定義・和とスカラー倍	第3章の間, 演習問題 レポート																																																																
13	空間のベクトル(2)	・内積・距離	第3章の間, 演習問題 レポート																																																																
14	空間のベクトル(3)	・外積・スカラー3重積	第3章の間, 演習問題 レポート																																																																
15	空間のベクトル(4)	・直線の方程式・平面の方程式	第3章の間, 演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数 I の知識とスキルを前提にして授業が進められる： 微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数 I を履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習・レポート (30%)、期末テスト (70%) で評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。いかなる質問も大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	数学研究室 (5号館1階)																																																																		
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。予習として、教科書の当該単元ページの定理をノートに写し、意味を考えること。課題は採点し、適宜解説する。(状況により、変更あり)																																																																		

科目名	線形代数 II	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	イ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2005a0		

授業概要・目的	行列式の計算ができ、行列の固有値と固有ベクトルが求められ、それらを行列の対角化へ応用できるようになることが本講義の目的である。
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の三角化と対角化ができる。
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。 (1) 演習問題は授業で説明した内容から出題する。 (2) 期末試験の出題内容は授業中の演習問題レベルとする。
科目学習の効果 (資格)	工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学の講義は線形代数 II の知識とスキルを前提にして授業が進められるため、それらの科目を受講する予定の場合は線形代数 II を履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	行列式 (1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第 4 章の間、演習問題 レポート
2	行列式 (2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第 4 章の間、演習問題 レポート
3	行列式 (3)	・2 次正方行列の行列式・3 次正方行列の行列式	第 4 章の間、演習問題 レポート
4	行列式 (4)	・行列式の余因子展開	第 4 章の間、演習問題 レポート
5	行列式 (5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第 4 章の間、演習問題 レポート
6	行列式 (6)	・余因子行列・逆行列	第 4 章の間、演習問題 レポート
7	行列式 (7)	・クラメールの公式	第 4 章の間、演習問題 レポート
8	固有値と固有ベクトル (1)	・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値, 固有ベクトルの計算 (1)	第 5 章の間、演習問題 レポート
9	固有値と固有ベクトル (2)	・固有値, 固有ベクトルの計算 (2)	第 5 章の間、演習問題 レポート
10	固有値と固有ベクトル (3)	・正方行列の三角化	第 5 章の間、演習問題 レポート
11	固有値と固有ベクトル (4)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケリーの定理	第 5 章の間、演習問題 レポート
12	固有値と固有ベクトル (5)	・正方行列の対角化	第 6 章の間、演習問題 レポート
13	固有値と固有ベクトル (6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	第 6 章の間、演習問題 レポート
14	固有値と固有ベクトル (7)	・2 次形式への応用・2 次形式の符号	第 6 章の間、演習問題 レポート
15	固有値と固有ベクトル (8)	・2 次曲線、曲面の例	第 6 章の間、演習問題 レポート

関連科目 線形代数 I、工業数学 I、工業数学 II、統計学、代数学、幾何学 II、解析学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	線形代数の基礎講義	島田伸一 廣島文生	共立出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	レポート課題 30%、期末試験 70%の割合で判定し評価する。
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。どのような質問も大歓迎です。Teams によるリアルタイムでの質問時間も設けております。大学の数学は簡単ではありませんが、最終目標をいつも頭において勉強してください。
担当者の研究室等	5 号館 1 階 数学研究室
備考	事前時御学習は各々毎回 1.5 時間以上かけること。

科目名	線形代数Ⅱ	科目名 (英文)	Linear Algebra II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2005a0		

授業概要・目的	行列式の計算、行列の固有値と固有ベクトルの求め方、および行列の対角化について理解することが本講義の目的である。																																																																		
到達目標	(1) 行列式の計算ができる。 (2) 行列の固有値と固有ベクトルを求めることができる。 (3) 行列の三角化と対角化について理解し、対角化可能であるか判定できる。 (4) 実対称行列を直交行列により対角化できる。																																																																		
授業方法と留意点	授業ではテーマに掲げた内容を出来るだけ平易に説明する。 線形代数Ⅱで紹介しなくてはならない内容は多く、授業時間中に演習時間を多くは割けないため、授業理解のためのレポートを事後学習課題として課す。 期末試験の出題内容は、教科書の演習問題やレポート問題のレベルの内容とする。 課題の提出と返却に Moodle を利用するので、Moodle のコースへの登録を忘れず行うこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	構造力学Ⅰ、Ⅱなどの基礎となる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>行列式(1)</td> <td>・置換の定義・置換の積・置換の符号</td> <td>第4章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>行列式(2)</td> <td>・行列式の定義・多重線形性・交代性</td> <td>第4章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>行列式(3)</td> <td>・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式</td> <td>第4章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>行列式(4)</td> <td>・行列式の余因子展開</td> <td>第4章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>行列式(5)</td> <td>・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件</td> <td>第4章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式(6)</td> <td>・余因子行列・逆行列</td> <td>第4章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式(7)</td> <td>・クラメールの公式</td> <td>第4章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>固有値と固有ベクトル(1)</td> <td>・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値,固有ベクトルの計算(1)</td> <td>第5章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>固有値と固有ベクトル(2)</td> <td>・固有値,固有ベクトルの計算(2)</td> <td>第5章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>固有値と固有ベクトル(3)</td> <td>・正方行列の3角化</td> <td>第5章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>固有値と固有ベクトル(4)</td> <td>・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケリーの定理</td> <td>第5章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>固有値と固有ベクトル(5)</td> <td>・正方行列の対角化</td> <td>第6章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>固有値と固有ベクトル(6)</td> <td>・実対称行列の対角化 ・直交行列</td> <td>第6章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>固有値と固有ベクトル(7)</td> <td>・2次形式への応用・2次形式の符号</td> <td>第6章の間、演習問題 レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>固有値と固有ベクトル(8)</td> <td>・2次曲線、曲面の例</td> <td>第6章の間、演習問題 レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間、演習問題 レポート	2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間、演習問題 レポート	3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間、演習問題 レポート	4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間、演習問題 レポート	5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間、演習問題 レポート	6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間、演習問題 レポート	7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間、演習問題 レポート	8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値,固有ベクトルの計算(1)	第5章の間、演習問題 レポート	9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値,固有ベクトルの計算(2)	第5章の間、演習問題 レポート	10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間、演習問題 レポート	11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケリーの定理	第5章の間、演習問題 レポート	12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間、演習問題 レポート	13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	第6章の間、演習問題 レポート	14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間、演習問題 レポート	15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線、曲面の例	第6章の間、演習問題 レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	行列式(1)	・置換の定義・置換の積・置換の符号	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
2	行列式(2)	・行列式の定義・多重線形性・交代性	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
3	行列式(3)	・2次正方行列の行列式・3次正方行列の行列式	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
4	行列式(4)	・行列式の余因子展開	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
5	行列式(5)	・行列の積と行列式・逆行列をもつ条件	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
6	行列式(6)	・余因子行列・逆行列	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
7	行列式(7)	・クラメールの公式	第4章の間、演習問題 レポート																																																																
8	固有値と固有ベクトル(1)	・固有多項式 ・固有方程式 ・固有値,固有ベクトルの計算(1)	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
9	固有値と固有ベクトル(2)	・固有値,固有ベクトルの計算(2)	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
10	固有値と固有ベクトル(3)	・正方行列の3角化	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
11	固有値と固有ベクトル(4)	・フロベニウスの定理 ・ハミルトン・ケリーの定理	第5章の間、演習問題 レポート																																																																
12	固有値と固有ベクトル(5)	・正方行列の対角化	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
13	固有値と固有ベクトル(6)	・実対称行列の対角化 ・直交行列	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
14	固有値と固有ベクトル(7)	・2次形式への応用・2次形式の符号	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
15	固有値と固有ベクトル(8)	・2次曲線、曲面の例	第6章の間、演習問題 レポート																																																																
関連科目	以下の科目の講義は線形代数Ⅱの知識とスキルを前提にして授業が進められる： 工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学 上記科目を受講する予定の学生は線形代数Ⅱを履修すること。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>線形代数の基礎講義</td> <td>島田伸一・廣島文生</td> <td>共立出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	線形代数の基礎講義	島田伸一・廣島文生	共立出版																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	課題レポート30%、期末試験70%で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	疑問に思ったことがあれば遠慮なく質問してください。どのような質問でも大歓迎です。大学の数学は簡単ではありませんが些細なことにこだわらずに最終目標をいつも頭において勉強してください。																																																																		
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は各々毎回1.5時間以上かけること。																																																																		

科目名	工業数学 I	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2006a0		

授業概要・目的	工学の分野では、法則は微分方程式で定式化され、解は積分で表現される場合が多い。また積分は種々の物理量の計算に用いられる。この講義では、まずはじめにベクトルの内積・外積等について復習及び工学への応用について学習するとともに、幾何学的な感覚を養う。そして、微分に関する話題を復習しながら、速度、加速度、典型的な物理現象に触れる。また、積分については重心・慣性モーメントを中心にその定義の物理的意味と計算技法を学ぶ。このように、物理の言葉が数学にどのように翻訳されるかを学び、数学の計算から物理現象を理解できるのだという、ささやかな経験を積むことを目標とする。																																																																		
到達目標	微積分及び線形代数の主要な計算を実行できる。 専門基礎で用いられる数学的表現が理解できる。																																																																		
授業方法と留意点	理解の促進と達成の度合いをみるため演習問題を配布する。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、工業数学 II 及び諸々の専門科目の習得に引き継がれる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>関数のグラフ</td> <td>・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>最大値、最小値の計算</td> <td>・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>関数の積分</td> <td>・種々の関数の積分の計算法</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>ベクトル(1)</td> <td>・ベクトルの内積の図形的意味</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>ベクトル(2)</td> <td>・ベクトルの外積の図形的意味</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>行列式の計算</td> <td>・種々の行列式の計算方法</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>行列式の応用</td> <td>・平行 6 面体の体積の計算</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>一次独立、一次従属</td> <td>・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>速度・加速度(1)</td> <td>・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>速度・加速度(2)</td> <td>・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>ベクトルを用いた物理量(1)</td> <td>・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ベクトルを用いた物理量(2)</td> <td>・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>重積分の計算(1)</td> <td>・重積分の逐次積分法</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>重積分の計算(2)</td> <td>・ヤコビ行列を用いた変数変換</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>重心と慣性モーメント</td> <td>・重積分を用いた定義とその物理的意味</td> <td>講義中に配布する演習問題プリント</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	講義中に配布する演習問題プリント	2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	講義中に配布する演習問題プリント	3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算法	講義中に配布する演習問題プリント	4	ベクトル(1)	・ベクトルの内積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント	5	ベクトル(2)	・ベクトルの外積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント	6	行列式の計算	・種々の行列式の計算方法	講義中に配布する演習問題プリント	7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	講義中に配布する演習問題プリント	8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	講義中に配布する演習問題プリント	9	速度・加速度(1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	講義中に配布する演習問題プリント	10	速度・加速度(2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	講義中に配布する演習問題プリント	11	ベクトルを用いた物理量(1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	講義中に配布する演習問題プリント	12	ベクトルを用いた物理量(2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	講義中に配布する演習問題プリント	13	重積分の計算(1)	・重積分の逐次積分法	講義中に配布する演習問題プリント	14	重積分の計算(2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	講義中に配布する演習問題プリント	15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	講義中に配布する演習問題プリント
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	関数のグラフ	・微分の図形的意味、増減凹凸表、最大最小値の計算	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
2	最大値、最小値の計算	・微分を用いた最大最小値の計算及び工学への応用	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
3	関数の積分	・種々の関数の積分の計算法	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
4	ベクトル(1)	・ベクトルの内積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
5	ベクトル(2)	・ベクトルの外積の図形的意味	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
6	行列式の計算	・種々の行列式の計算方法	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
7	行列式の応用	・平行 6 面体の体積の計算	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
8	一次独立、一次従属	・ベクトルの一次独立、一次従属性の判定	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
9	速度・加速度(1)	・微分・積分を用いた速度、加速度の定義、運動方程式の記述	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
10	速度・加速度(2)	・ポテンシャル、エネルギー保存則、単振動と三角関数	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
11	ベクトルを用いた物理量(1)	・直線上の運動、投げ上げ、斜方投射への応用	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
12	ベクトルを用いた物理量(2)	・外積を用いた、角運動量と力のモーメントの記述	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
13	重積分の計算(1)	・重積分の逐次積分法	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
14	重積分の計算(2)	・ヤコビ行列を用いた変数変換	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
15	重心と慣性モーメント	・重積分を用いた定義とその物理的意味	講義中に配布する演習問題プリント																																																																
関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>工業数学の基礎(2024 年度版) 配布予定</td> <td></td> <td>摂南大学 基礎理工学機構編</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	工業数学の基礎(2024 年度版) 配布予定		摂南大学 基礎理工学機構編	2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	工業数学の基礎(2024 年度版) 配布予定		摂南大学 基礎理工学機構編																																																																
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	演習・小テスト 40%および期末試験 60%で成績評価を行う。																																																																		
学生へのメッセージ	5 号館 1 階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽にください。																																																																		
担当者の研究室等	5 号館 1 階 数学教室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回 1.5 時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	工業数学Ⅱ	科目名 (英文)	Applied Mathematics for Engineers II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	小泉 耕蔵
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2007a0		

授業概要・目的	工学の分野では微分方程式はもっとも頻繁に使われている数学の1つである。講義の前半は、1階の常微分方程式の解法及び工学・自然現象への応用について学習する。そして講義の後半では2階の定数係数常微分方程式の解法・応用、及び微分方程式の数値的な解法について学習する。
到達目標	変数分離系などの微分方程式を解くことができる。 線形微分方程式を理解して解くことができる。 専門分野で出てくる微分方程式で解くことができる。
授業方法と留意点	比較的平易な内容に限定し容易に理解出来るものであるため、確実に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。 理解の促進と達成の度合いをみるため、演習問題を配布する。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は、諸々の専門科目の習得に引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	微分方程式の解	・微分方程式とは何か、原始関数(不定積分)と微分方程式	講義中に配布する演習問題プリント
2	1階常微分方程式(1)	・変数分離形1階微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
3	1階常微分方程式(2)	・定数変化法による1階線形微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
4	1階常微分方程式(3)	・微分方程式を用いた運動方程式の記述	講義中に配布する演習問題プリント
5	1階常微分方程式(4)	・空気抵抗中の運動など物理への応用	講義中に配布する演習問題プリント
6	2階定数線形微分方程式(1)	・基本解の導出	講義中に配布する演習問題プリント
7	2階定数線形微分方程式(2)	・基本解・解の表示	講義中に配布する演習問題プリント
8	2階定数線形微分方程式(3)	・定数変化法による定数係数線形微分方程式の一般解について	講義中に配布する演習問題プリント
9	2階定数線形微分方程式(4)	・未定係数法(1) $y''+ay'+by=(\text{多項式})$ の解法	講義中に配布する演習問題プリント
10	2階定数線形微分方程式(5)	・未定係数法(2) $y''+ay'+by=(\text{指数関数})$ の解法	講義中に配布する演習問題プリント
11	2階定数線形微分方程式(6)	・未定係数法(3) $y''+ay'+by=(\text{三角関数})$ の解法	講義中に配布する演習問題プリント
12	2階定数線形微分方程式の応用(2)	・強制振動など物理への応用	講義中に配布する演習問題プリント
13	数値計算(1)	・差分を用いた微分の記述、オイラー法による微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
14	数値計算(2)	・ルンゲ・クッタ法による微分方程式の解法	講義中に配布する演習問題プリント
15	総合演習	・応用問題	講義中に配布する演習問題プリント

関連科目	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める。 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II, 工業数学 I
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微分方程式の基礎(2023年度改定新版)「(教科書は配布予定)」		摂南大学 基礎理工学機構編
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	演習・小テスト40%および期末試験60%で成績評価を行う。
-----------	-------------------------------

学生へのメッセージ	5号館1階に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
-----------	--

担当者の研究室等	5号館1階 数学教室
----------	------------

備考	事前事後学習は、毎回1.5時間以上かけること。 小テスト、演習問題等は、適宜講義中に解説する。
----	--

科目名	代数学	科目名 (英文)	Algebra
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2008a0		

授業概要・目的	最近の電子社会の発展に伴い、「群」、「環」、「体」と言った抽象代数の知識の必要性が増している。抽象代数学においては、単純な公理から驚くほどの豊富な理論が展開される。そのなかにあつて、「群」は最も基本的な代数的構造であり、自然現象のなかに現れる「対称性」を記述するのに重要な概念である。この講義では、代数的構造がどのようにして捉えられ、記述されるか、その方法を学ぶことを目的とする。
到達目標	「群」の定義を理解し、部分群、剰余類、正規部分群、商群、準同型定理について説明できる。
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める：線形代数 I、線形代数 II、微積分 I。 授業日の 2 日前を目安に Moodle のコースに講義録を上げていきます。講義録の pdf ファイルをダウンロードして、手元の端末でファイルを開いて読めるようにする。講義録を予習して授業に臨むこと。(可能なら印刷して、書き込んだり落書きしたりしながら、予習するのがベストだと思う)。Moodle のコースには演習問題も用意しています。問題演習を積極的にを行う予定です。授業は講義録と演習問題のファイルを手元において受講すること。講義録の配布と課題の出題・提出は Moodle を経由して行う予定。
科目学習の効果 (資格)	代数的構造がどのようにして捉えられ、記述される方法がわかる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	集合	・集合 ・集合の間の関係 ・論理記号など	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 1
	2	同値関係と商集合	・同値関係 ・同値類、類別 ・商集合	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 2
	3	写像	・全射、単射、全単射 ・逆写像	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 3
	4	群の定義と例 (1)	・2項演算 ・群の定義、加法群、乗法群 ・群の乗積表	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 4 (前半)
	5	群の定義と例 (2)	・群の例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 4 (後半)
	6	群と対称性への入門 (2 面体群で遊ぶ)	・2 面体群 ・生成元と基本関係式	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 5
	7	部分群	・部分群の定義 ・部分群の例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 6 (前半)
	8	部分群と剰余類	・左剰余類、右剰余類 ・ラグランジュの定理 ・剰余の同値律	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 6 (後半)
	9	要素の位数	・群の要素の位数 ・巡回群	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 7
	10	正規部分群と剰余群 (商群) (1)	・正規部分群の定義と例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 8 (前半)
	11	正規部分群と剰余群 (商群) (2)	・正規部分群による剰余類 ・剰余群 (商群) とその例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題 8 (後半)
	12	群の準同型写像 (1)	・群準同型写像、群準同型 ・群準同型の例 ・群同型写像、群同型 ・群同型の例	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題
	13	群の準同型写像 (2)	・群準同型写像の核 ・群準同型写像の核と正規部分群	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題
	14	群の準同型定理	・準同型定理	・講義の予習 ・講義の復習 ・演習問題
	15	群の同型定理	・準同型定理とその応用	・講義の予習 ・講義の復習

関連科目 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	代数的構造	遠山 啓	ちくま学芸文庫
	2	現代数学序説	松坂和夫	ちくま学芸文庫
	3	代数学 1 群論入門	雪江明彦	日本評論社



評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。
学生への メッセージ	毎回2時間以上の事前・事後学習が必要だろう。こまめに考え、調べ、質問して、疑問点を溜めないように心がけること。レポート課題は採点して返却時に解説する。講義録、演習問題の配布やレポート課題の出題・提出はMoodleを経由して行う予定。「数学」教員を目指す学生は覚悟をして受講してほしい。
担当者の 研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	

科目名	幾何学 I	科目名 (英文)	Geometry I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小林 俊公
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2009a0		

授業概要・目的	幾何学は、公理と公準から正しい推論により導かれる命題の体系として確立された最初の学問である。三角形、四辺形、円などの基本的な図形の性質を学ぶとともに、古典幾何の形成をたどりながら、論理的に述べられた文章を理解し、論理的に考え、論理的に記述することができるようになることを目的とする。																																																																		
到達目標	(1) 命題に関する基本的な事柄について理解している。 (2) 命題の基本的な証明方法を使うことができる。 (3) 線分、角、三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な事柄について理解している。 (4) 平行線の公理について理解している。 (5) 三角形、四辺形、円などの図形に関する基本的な命題を、定義や公理を用いて証明することができる。																																																																		
授業方法と留意点	授業は講義形式です。講義内容の理解の確認として、ほぼ毎回、課題があります。ですので、課題レポートには十分時間をかけて取り組むことを心掛けてください。配付するプリントには、課題レポートの問題も含めて、練習問題をたくさん載せています。問題を解くことにより、論理的な文章を書く練習を積んでください。課題の提出と返却に Moodle を利用します。Moodle のコースへの登録を忘れず行ってください。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	数学における論理を平面幾何を通じて学ぶことは、内容の異なる代数学や解析学の理解にもつながる。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>推論と証明(1)</td> <td>命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>推論と証明(2)</td> <td>命題の逆、対偶、必要十分条件について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>線分と角の合同</td> <td>合同の概念、線分と角の合同について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>三角形の合同定理</td> <td>3つの、三角形の合同定理について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>いろいろな角</td> <td>いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>三角不等式</td> <td>三角形の内角と外角、三角不等式について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>線分の midpoint</td> <td>直角三角形の合同定理、線分の midpoint、角の二等分線について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>平行線の公理</td> <td>平行線の公理、三角形の内角の和について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四辺形</td> <td>いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>中点連結定理</td> <td>中点連結定理、n 等分点列の存在について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>三角形の相似</td> <td>線分の内分と外分、三角形の相似について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>三平方の定理</td> <td>三平方の定理、中線定理、円、円の接線について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>三角形の五心(1)</td> <td>重心、外心、垂心について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>三角形の五心(2)</td> <td>内心、傍心について</td> <td>課題レポート</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>複素数平面</td> <td>複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について</td> <td>課題レポート</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	推論と証明(1)	命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について	課題レポート	2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件について	課題レポート	3	線分と角の合同	合同の概念、線分と角の合同について	課題レポート	4	三角形の合同定理	3つの、三角形の合同定理について	課題レポート	5	いろいろな角	いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について	課題レポート	6	三角不等式	三角形の内角と外角、三角不等式について	課題レポート	7	線分の midpoint	直角三角形の合同定理、線分の midpoint、角の二等分線について	課題レポート	8	平行線の公理	平行線の公理、三角形の内角の和について	課題レポート	9	四辺形	いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について	課題レポート	10	中点連結定理	中点連結定理、n 等分点列の存在について	課題レポート	11	三角形の相似	線分の内分と外分、三角形の相似について	課題レポート	12	三平方の定理	三平方の定理、中線定理、円、円の接線について	課題レポート	13	三角形の五心(1)	重心、外心、垂心について	課題レポート	14	三角形の五心(2)	内心、傍心について	課題レポート	15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について	課題レポート
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	推論と証明(1)	命題、三段論法や背理法などの命題の証明方法について	課題レポート																																																																
2	推論と証明(2)	命題の逆、対偶、必要十分条件について	課題レポート																																																																
3	線分と角の合同	合同の概念、線分と角の合同について	課題レポート																																																																
4	三角形の合同定理	3つの、三角形の合同定理について	課題レポート																																																																
5	いろいろな角	いろいろな角の定義、直角の存在、垂線の存在について	課題レポート																																																																
6	三角不等式	三角形の内角と外角、三角不等式について	課題レポート																																																																
7	線分の midpoint	直角三角形の合同定理、線分の midpoint、角の二等分線について	課題レポート																																																																
8	平行線の公理	平行線の公理、三角形の内角の和について	課題レポート																																																																
9	四辺形	いろいろな四辺形、平行四辺形の性質、長方形の存在について	課題レポート																																																																
10	中点連結定理	中点連結定理、n 等分点列の存在について	課題レポート																																																																
11	三角形の相似	線分の内分と外分、三角形の相似について	課題レポート																																																																
12	三平方の定理	三平方の定理、中線定理、円、円の接線について	課題レポート																																																																
13	三角形の五心(1)	重心、外心、垂心について	課題レポート																																																																
14	三角形の五心(2)	内心、傍心について	課題レポート																																																																
15	複素数平面	複素数による図形表示、ド・モアブルの定理について	課題レポート																																																																
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II など。																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>幾何入門</td> <td>砂田利一</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>幾何への誘い</td> <td>小平邦彦</td> <td>岩波書店</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>幾何のおもしろさ</td> <td>小平邦彦</td> <td>岩波書店</td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	幾何入門	砂田利一	岩波書店	2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店	3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	幾何入門	砂田利一	岩波書店																																																																
2	幾何への誘い	小平邦彦	岩波書店																																																																
3	幾何のおもしろさ	小平邦彦	岩波書店																																																																
評価方法 (基準)	課題レポート 30%、定期テスト 70% の割合で判定し評価する。																																																																		
学生へのメッセージ	授業の中でわからないことがあれば遠慮なく質問してください。また、ほぼ毎回の課題レポートでは、授業内容の理解を確認する問題を出題します。難しいものもあるかもしれませんが、いろいろ考えること自体に意義があります。じっくり取り組むことで次の回での課題レポートの解説がより分かります。このように課題レポートは授業内容を理解する上で重要です。できるだけ欠かさず提出してください。																																																																		
担当者の研究室等	5号館 1階 数学研究室																																																																		
備考	事前事後学習は、毎回 1.5 時間以上かけること。課題レポートは採点して返却し、適宜講義中に解説する。																																																																		

科目名	幾何学 II	科目名 (英文)	Geometry II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2010a0		

授業概要・目的	微分幾何学の見地から、日常によくみる曲面、曲線がいかに分類されているのか、その理解を目標とする。			
到達目標	基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する： (1) 二次曲線の焦点・準線・極形式を理解する (2) 曲線と曲面に関する基本的な事項を理解する			
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II			
科目学習の効果 (資格)	教職科目なので教員の資格を得るためには取る事が望ましい。空間の理解に役に立ち、線形代数・微積分のみごとな応用を見る事ができる。			
授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	二次曲線 (1)	放物線、グラフ、標準形、準線、焦点、極形式	演習問題 (1 時間)
	2	二次曲線 (2)	楕円、標準形、準線、焦点、極形式	演習問題 (1 時間)
	3	二次曲線 (3)	楕円の焦点の性質、接線 (接空間)、パラメータ表示、面積	演習問題 (1 時間)
	4	二次曲線 (4)	双曲線、標準形、準線、焦点、極形式	演習問題 (1 時間)
	5	二次曲線 (5)	座標軸の回転と固有値、固有値による 2 次曲線の分類	演習問題 (1 時間)
	6	平面の曲線 (1)	弧長、曲率	演習問題 (1 時間)
	7	平面の曲線 (2)	曲率円	演習問題 (1 時間)
	8	空間内の曲線	曲率と振率、Frenet-Serret の公式	演習問題 (1 時間)
	9	中間試験	第 1-5 回の内容の中間試験、及び解答解説	演習問題 (1 時間)
	10	空間内の曲面 (1)	陰関数表示、パラメータ表示、接平面	演習問題 (1 時間)
	11	空間内の曲面 (2)	曲面積分、曲面積、重心	演習問題 (1 時間)
	12	空間内の曲面 (3)	第一基本形式	演習問題 (1 時間)
	13	空間内の曲面 (4)	第二基本形式、平均曲率、ガウス曲率 (1)	演習問題 (1 時間)
	14	空間内の曲面 (5)	第二基本形式、平均曲率、ガウス曲率 (2)	演習問題 (1 時間)
	15	空間内の曲面 (6)	測地線、Gauss-Bonnet の定理	演習問題 (1 時間)
関連科目	微積分 I・II、線形代数 I・II、幾何学 I、解析学、代数学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	曲線と曲面 (改訂版) -微分幾何的アプローチ	梅原雅顕, 山田光太郎	裳華房
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	二次曲線に関しては高校の数学 C の参考書多数		
	2	曲線と曲面の微分幾何	小林昭七	9784785310912
	3			
評価方法 (基準)	レポート課題 20%、中間試験 30%、期末試験 50%で判定し評価する。			
学生へのメッセージ	5 号館 1 階に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。			
担当者の研究室等	5 号館 1 階 数学研究室			
備考	事前事後学習は毎回 1 時間以上かけること。レポート課題は毎回採点して返却し、解答解説を行う。			

科目名	解析学	科目名 (英文)	Analysis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	友枝 恭子
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2011a0		

授業概要・目的	微積分学の厳密な展開を目標にする。理工学部初年度の微積分では計算技法の習得に主眼がおかれ、その基礎となる実数についての理解は直感にたよっている。この授業では、実数を厳密に構成しそれに基づいて連続、収束の概念の明確な理解をめざす。そして連続関数、微分可能関数のもつ重要な性質の理解、また関数の集合が与えられたときの関数族としてもつ性質についての理解を目標にする。
到達目標	関数の収束概念、各点収束と一様収束の違いを理解する。微分方程式や積分方程式などの解の存在定理および解の定性的性質を示すために一様収束の概念がどのように有効に働いているのかを理解し、数理工学に現れる諸問題の数値計算や近似計算ができる。
授業方法と留意点	授業は以下の科目を履修していることを前提にして進める： 線形代数 I、線形代数 II、微積分 I、微積分 II 授業では、課題レポートの問題も含めた授業に関するプリントを配付する。 講義を基本とし理解度をみるため適宜演習をおこなう。
科目学習の効果 (資格)	数学教職免許取得に不可欠。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	実数の構成と性質 (1)	論証の用語, 和集合, 共通部分 有理数と実数	課題レポート
2	実数の構成と性質 (2)	無限集合, 濃度の比較, 有理数の可算性と実数の非可算性	課題レポート
3	実数の構成と性質 (3)	実数の連続性, 実数の作る集合の性質 限・下限, 上極限・下極限, 数列の極限, $e-N$ 論法	課題レポート
4	実数の構成と性質 (4)	コーシー列, 実数の完備性, ボルツァーノ・ワイエルシュトラスの定理	課題レポート
5	関数の性質 (1)	関数の定義, 関数の極限, 関数の連続性と $\epsilon-\delta$ 論法,	課題レポート
6	関数の性質 (2)	中間値の定理, 最大値・最小値の存在	課題レポート
7	連続関数	逆関数の定義, 合成関数の連続性, 一様連続性, リップシッツ・ヘルダー連続性	課題レポート
8	微分と積分 (1)	微分係数の定義, 導関数の定義 微分可能な関数の作る空間	課題レポート
9	微分と積分 (2)	リーマン積分可能性と定積分, 微積分の基本定理	課題レポート
10	平均値の定理とテイラー展開 (1)	ロルの定理, コーシーの平均値の定理, 有限増分の公式	課題レポート
11	平均値の定理とテイラー展開 (2)	べき級数の収束と収束半径 多項式近似定理	課題レポート
12	関数列	数列の収束と関数列の収束 一様収束と各点収束,	課題レポート
13	関数空間	関数の作る空間, ノルム区間と完備性, アスコリ・アルツェラの定理,	課題レポート
14	関数方程式と関数空間 (1)	関数方程式と関数空間 縮小写像の原理と不動点定理	課題レポート
15	関数方程式と関数空間 (2)	色々な関数方程式と解の存在	課題レポート

関連科目 微積分 I・II, 線形代数 I・II, 力学, 物理学など。特に微積分 I・II の修得は不可欠。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	適宜プリント教材を配布する。		
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題レポート 40%、定期テスト (期末) 60% で判定し評価する。 課題レポートは毎回採点して返却する。
学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問してください。いつでも親切に答えるようにしています。また、スチューデントアワー (月金の 5 限目) には 5 号館 1 階準備室に数学教員がいますので数学、自然科学に関するどんな質問でも気楽においで下さい。
担当者の研究室等	5 号館 1 階 数学研究室
備考	事前事後学習は、毎回 1.5 時間以上かけること。

科目名	統計学	科目名 (英文)	Statistics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中津 了勇
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2012a0		

授業概要・目的	統計学は現在の理工学において非常に重要かつ強力な道具になっている。 この講義では、統計学の基本的な考え方を紹介し、皆さんの将来に役立てることを目的とする。
到達目標	到達目標: 1. データ整理の基礎的な統計量を求めることができる。 2. 確率の基本的性質の理解。 3. 確率分布の平均、分散、標準偏差を求めることができる。 4. 2項分布など離散型の確率分布に関する計算ができる。 5. 正規分布など連続型の確率分布に関する計算ができる。 6. 統計的推定の考え方の理解と応用ができる。 7. 仮説検定や区間推定の基本的な技法の理解と応用ができる。
授業方法と留意点	データから母集団分布の特性を推論する統計的推測の基本的な考え方を学ぶ。そのため、確率の基本的な諸概念から出発して、ランダムな現象を記述する確率分布モデルの学習して、正規母集団の場合の仮説検定や区間推定の基礎的な技法を習得する。各回の講義は2時間以上の事前・事後学習を前提として進める。また、講義内容を理解するにあたり、以下の科目を履修していることが強く望まれる：微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II。 なお、レポート課題の出題・提出はMoodleを経由して行う予定。
科目学習の効果 (資格)	統計的推測の考え方を理解して、仮説検定や区間推定の方法が実践できる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	データの整理 1	・講義の進め方 ・母集団と標本、無作為抽出 ・標本平均、標本分散、標本標準偏差 ・度数分布とヒストグラム	・講義録の予習・復習 ・第1回演習問題
	2	データの整理 2	・2変量データと散布図 ・標本共分散、相関係数	・講義録の予習・復習 ・第2回演習問題
	3	事象の確率	・全事象、積事象、和事象 ・事象の確率 ・条件付き確率 ・事象の独立性	・講義録の予習・復習 ・第3回演習問題
	4	離散型確率変数とその確率分布	・確率分布と確率変数 ・離散型確率変数の平均と分散 ・離散型確率変数の独立性	・講義録の予習・復習 ・第4回演習問題
	5	2項分布	・2項分布の定義 ・2項分布の平均と分散	・講義録の予習・復習 ・第5回演習問題
	6	連続型確率変数とその確率分布	・連続型確率変数, ・確率分布と確率密度関数 ・確率分布関数	・講義録の予習・復習 ・第6回演習問題
	7	正規分布	・正規分布の定義 ・正規分布の平均と分散 ・標準正規分布と標準化 ・正規分布の確率計算	・講義録の予習・復習 ・第7回演習問題
	8	標本平均と独立同分布確率変数	・同時密度関数と周辺密度関数 ・連続型確率変数の独立性 ・標本平均の平均と分散	・講義録の予習・復習 ・第8回演習問題
	9	独立確率変数の和の分布	・2項分布と正規分布の再生性 ・正規分布に従う独立同分布確率変数の標本平均	・講義録の予習・復習 ・第9回演習問題
	10	統計的推測の考え方	・母集団特性値の推定量と点推定 ・推定量の不偏性と一致性 ・大数の弱法則	・講義録の予習・復習 ・第10回演習問題
	11	鉱山で金を掘る。そして、別の鉱山でも金を掘る。	・仮説検定の考え方 ・母数の帰無仮説と検定統計量 ・検定の有意水準と棄却域	・講義録の予習・復習 ・第11回演習問題
	12	検定の過誤と検定力	・対立仮説と第2種の過誤 ・第2種の過誤と検定力	・講義録の予習・復習 ・第12回演習問題
	13	再び、鉱山で金を掘る。	・区間推定の考え方 ・仮説検定と区間推定 ・信頼区間	・講義録の予習・復習 ・第13回演習問題
	14	そのサイコロは公平か？	・2項分布の中心極限定理 ・正規分布による近似	・講義録の予習・復習 ・第14回演習問題
	15	正規母集団の統計的推測	・母数の推定量の独立性 ・検定統計量と正規分布に関連する確率分布(カイ2乗分布、t分布、F分布)の紹介	・講義の復習

関連科目 微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II.

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	理工系のやさしい統計学 (仮題)	中津了勇	学術図書出版
	2			
	3			

参考書

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。
学生への メッセージ	各回の講義は2時間以上の事前・事後学習を前提として進める。講義内容を理解するにあたり、以下の科目の学習内容を習得していることが強く望まれる：微積分 I, 微積分 II, 線形代数 I, 線形代数 II。
担当者の 研究室等	5号館1階数学研究室
備考	レポート課題の出題・提出はMoodleを経由して行う予定。

科目名	物理学基礎演習	科目名 (英文)	Exercises in Fundamental Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東谷 篤志, 前田 純一郎
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1013a0		

授業概要・目的	物理学は自然現象を理解する上で極めて重要な基礎科目であり、現代の科学技術の基礎をなしている。本講義では身近な自然現象を物理学の法則から導き出す力を身につけることを目的として、さまざまな物理現象・科学技術との関連性について講述する。とくに環境科学に密接に関係する熱力学、電磁気学および波の基本的原理や法則を講述し、現象を定量的に取り扱う方法について概説する。
到達目標	熱・電磁気・波に関する基本的な物理を理解し、以下のことを目標とする。 熱：熱力学第一法則を用いて熱効率を計算できる。 電磁気：クーロン力・静電ポテンシャルを計算できる。 波：数学的に波を記述できる。
授業方法と留意点	授業の前半に板書を行い、その後、講義を参考に演習問題に取り組む。分からないところは、その場で質問を行うこと。
科目学習の効果 (資格)	理工学部において必要不可欠な物理の理解に役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	気体の状態方程式	「熱力学」の紹介。ボイルの法則、シャルルの法則から、気体の状態方程式を学ぶ。	予習・復習課題 1
	2	温度と熱	温度と熱の概念を気体の分子運動論から理解する。	予習・復習課題 2
	3	仕事と熱と内部エネルギー	物理学でいう仕事の概念、熱の概念、内部エネルギーの概念を修得する。	予習・復習課題 3
	4	熱力学第一法則	熱現象に関わるエネルギー保存則を理解する。	予習・復習課題 4
	5	様々な状態変化	等温変化、定圧変化、定積変化、断熱変化を知る。カルノーサイクルを学び、第2種永久機関の是非を問う。	予習・復習課題 5
	6	クーロン力	「電磁気学」の紹介。質量に対する万有引力と比して、荷電粒子にかかるクーロン力を理解する。	予習・復習課題 6
	7	電場	電場中に置かれた荷電粒子にかかる力を求め、電場と電気力線の概念を学ぶ。	予習・復習課題 7
	8	電気的位置エネルギー	力学的位置エネルギーと電気的位置エネルギーとの比較をもとに、等電位線の概念を理解する。	予習・復習課題 8
	9	電子の流れと抵抗とジュール熱	電流、抵抗、オームの法則を学ぶ。また、電気回路での合成抵抗やジュール熱を習得。	予習・復習課題 9
	10	コンデンサー	コンデンサー容量、コンデンサーを含む回路における合成容量や静電エネルギーを習得。	予習・復習課題 10
	11	電流と磁場	電流のつくる磁場、磁場中の電子に働くローレンツ力を学ぶ。	予習・復習課題 11
	12	波	波の性質と数学的表現の仕方を理解する。	予習・復習課題 12
	13	波の伝播と位相速度	位相とは何か、また位相速度とは何か、波が空間を伝播していく様子を音波を例に挙げて説明する。	予習・復習課題 13
	14	波の様々な現象	重ね合わせの原理をもとに、波が干渉したり、折れ曲がったりする現象を学ぶ。	予習・復習課題 14
	15	音波	音波のうなりと気柱振動を学ぶ。	予習・復習課題 15

関連科目	微積分 I, 線形代数 I, 基礎力学演習, 物理学実験
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮 秀樹, 上村 洸	森北出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学基礎	原 康夫	学術図書出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	評価は課題提出と講義内で行う期末試験で行う。 期末試験 60%, 課題提出 40%
学生へのメッセージ	物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、身近な物理現象の原因を突き止めてみましょう。困ったときやわからないときには、担当教員や学習支援センターを遠慮なくたずねてください。
担当者の研究室等	1号館2階 放射光物性研究室(東谷) 8号館2階 物理準備室(前田)
備考	この科目は、講義と演習の二つからなる。

	<p>講義終了後には演習課題のプリントを配布するので、講義終了後には1時間以上かけて講義の復習と課題問題を解いておくこと。しておくこと。 また、演習授業終了後には授業中に行った演習問題を再度復習しておくこと(0.5h以上)。 課題は、適宜講義中に解説する。</p>
--	--



科目名	物理学	科目名 (英文)	Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	前田 純一郎
ディプロマポリシー (DP)	B⑩		
科目ナンバリング	TDR1014a0		

授業概要・目的	物理学は力学とともに理工系大学教育において、極めて重要な基礎科目である。授業はさまざまな電磁気的な現象を基本原理、基本原則から丁寧に講義する。物理学IIでは「電磁気学」を軸として、「力学」と関連した物理学の基礎を総合的に学ぶ。 SDGs-9
到達目標	電磁気に関わる基礎的現象を説明できる。諸法則を用いて電磁気に関わる物理量を計算できる。具体的には 1. 点電荷のつくる電場・電位の計算ができて、電気力線・等電位面が描ける 2. 簡単な電気回路の解析ができる 3. 基本的な形状の電流が作る磁場が描ける 4. 電磁誘導の法則にもとづいて誘導電流・誘導電圧が求められる
授業方法と留意点	前半はスライドを使った解説を注意深く批判的に聴き、途中、Moodle を利用したクイズに回答する。後半は課題プリントに取り組み、指定時間内にオンラインで提出する。翌日以降、添削された課題プリントを見て、不十分だった部分を次の講義までに直す。 この物理学 II には、学籍番号の奇数と偶数で分割したイ組とロ組があるので注意してください。
科目学習の効果 (資格)	理工系専門科目において必要不可欠な工学の基礎であり、専門で出てくる物理量の意味や相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	数学的準備: 時間変化と位置ベクトル, 速度ベクトル, 加速度ベクトル	時間とともに変化する位置ベクトルから、その動きの速度ベクトルが求まる。速度ベクトルという概念を習得する。さらに速度の時間変化を追うことで、加速度ベクトルの概念を習得する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
2	運動の法則と運動方程式	力学の基礎となる運動の第1～第3法則を学び、運動方程式のたて方およびその解き方について理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
3	仕事と運動エネルギーと位置エネルギー	空間と力との関係から、エネルギーという新たな量を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
4	クーロン力	質量による万有引力と対比して、荷電粒子にかかるクーロン力を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
5	電場	電場中に置かれた荷電粒子にかかる力を求め、電場と電気力線の概念を学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
6	電気的位置エネルギー	力学的位置エネルギーと電気的位置エネルギーとの対比。等電位線の概念を学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
7	導体中での電子の運動と電気抵抗	電気抵抗の原因は自由電子と金属イオンとの衝突であることを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
8	電気回路で発生するジュール熱	電気回路において電気的位置エネルギーがジュール熱に変換されることを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
9	コンデンサー	コンデンサーの機能を習得する。静電容量、コンデンサーを含む回路における静電エネルギーを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
10	電流が作る磁場	磁石だけでなく電流も磁場をつくることを学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
11	ビオ・サバールの法則	任意の電流が作る磁場を表すビオ・サバールの法則を学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
12	磁場中の電流に働く力	磁場中の電流に力が働くことを学ぶ。電荷が電場及び磁場中で受けるローレンツ力を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
13	電磁誘導	回路を貫く磁束の時間変化によって生じる電磁誘導現象を学ぶ	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
14	自己誘導と磁性体	コイルに生じる自己誘導現象を調べ、コイルを特徴づけるインダクタンスを定義する。また、磁石の起源について学ぶ。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)
15	電磁波と交流	電場及び磁場の空間的・時間的振動である電磁波の性質を学ぶ。周波数による電磁波の分類について学習するとともに、電磁波の発生原理を理解する。	スライド・課題プリントの復習 (1時間以上)

関連科目 物理学 I、力学 I、力学 II、物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理 第2版	潮秀樹、上村洸	森北出版
2				
3				

評価方法 (基準) 定期試験 70%、毎回の課題プリント 30% の割合で総合的に評価する。

学生へのメッセージ	この授業内容は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもたずに授業にのぞんでください。
担当者の研究室等	8号館2階 物理準備室
備考	模範解答は配布しません。 Moodle内のクイズにすべて正答していることが期末試験受験の前提条件です。 質問・相談時間：火曜14:20～14:50。 事前・事後学習総時間20時間以上。

科目名	基礎力学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	X
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1015a0		

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は理工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。また、力学は日常的な現象を定量的に知ることができる学問であり、ものづくりには欠かせない。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方を学ぶ。
到達目標	数学・自然科学系授業科目及び情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につける。 具体的には、物体の運動方程式を組み立て、運動方程式を解き、物体の運動を理解することを目標とする。
授業方法と留意点	授業前半は板書で演習内容の講義を行う。その後、講義をもとに演習問題に取り組む。授業後半では、発表者が演習問題の解答を板書する。分からないところは、その場で質問すること。
科目学習の効果 (資格)	力学の基礎を身につけ、簡単な構造計算ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理で使用する単位についても説明する。	予習・復習課題1 単位について
2	数学的準備 (1)	ベクトルの基礎と三角関数について学ぶ。	予習・復習課題2 スカラー量とベクトル量
3	数学的準備 (2)	ベクトルの取り扱いと三角関数の計算について学ぶ。	予習・復習課題3 三角関数の計算
4	数学的準備 (3)	ベクトルの合成・分解と簡単な微分積分について学ぶ。	予習・復習課題4 ベクトル量の和と差
5	重力と重心	重力・重心について学ぶ。	予習・復習課題5 質量と重量の違い
6	さまざまな力と力のモーメント (1)	垂直抗力・回転の力について学ぶ。	予習・復習課題6 ベクトル量としての力
7	さまざまな力と力のモーメント (2)	摩擦力・力のモーメントについて学ぶ。	予習・復習課題7 ベクトル量としての力のモーメント
8	力・力のモーメントのつり合い (1)	力・力のモーメントのつり合い式について学ぶ。	予習・復習課題8 つり合いの条件を求める (物体が移動しないための条件)
9	力・力のモーメントのつり合い (2)	力・力のモーメントのつり合い式の解法を学ぶ。	予習・復習課題9 つり合いの条件を求める。 (物体が回転しないための条件)
10	位置・速度・加速度と角度・角速度	位置・速度・加速度と角度・角速度について学ぶ。	予習・復習課題10 位置の時間変化と角度の時間変化
11	運動の3法則と円運動	慣性の法則・ニュートンの運動方程式および円運動について学ぶ。	予習・復習課題11 運動方程式を導く1
12	運動の3法則と単振動	ニュートンの運動方程式と単振動について学ぶ。	予習・復習課題12 運動方程式を導く2
13	エネルギー	仕事とエネルギーについて学ぶ。	予習・復習課題13 エネルギーがスカラー量であることを理解する
14	運動量・力積・衝突	力積・運動量と衝突について学ぶ。	予習・復習課題14 運動量がベクトル量であることを理解する。
15	まとめ	1-14回目までの力学の内容について理解を深めるために、復讐を行う。	課題 (まとめ)

関連科目	微積分 I, 線形代数 I, 物理学基礎演習, 物理学実験
------	-------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村洗著	森北出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	演習発表と期末試験で評価する。 期末試験 60%, 演習発表 40%
学生へのメッセージ	物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、身近な現象を理解しましょう。
担当者の研究室等	1号館2階 放射光物性研究室
備考	教科書や授業当日の配布されるプリントを1時間以上かけて丁寧に読み、復習を行うこと。加えて、理解出来なかった点を確認し、次の授業にて質問すること。さらに、0.5時間以上、次回の講義の予習を行うこと。 課題は適宜講義で解説を行う。

科目名	基礎力学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	Y
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	小早川 昔離野
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1015a0		

授業概要・目的	現代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は理工学の基盤となる科目であり、理工学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。また、力学は日常的な現象を定量的に知ることができる学問であり、ものづくりには欠かせない。基礎力学演習では、日常において経験している力学現象の表し方を学ぶ。
到達目標	数学・自然科学系授業科目及び情報技術の基礎の学習により、専門知識の理解をより深めるための教養を身につける。 具体的には、物体の運動方程式を組み立て、運動方程式を解き、物体の運動を理解することを目標とする。
授業方法と留意点	演習課題提供型の授業を実施する。授業 1/2, 演習 1/2 で行う。演習では学生による板書 (回答) と担当教員による板書 (解説) を行い、他の学生は各自の回答を自己採点する。課題を最後までできらめずに考え、自身で回答すること。教科書・参考書等も参照し、分からない点は担当教員に質問すること。
科目学習の効果 (資格)	力学の基礎を身につけ、簡単な構造計算ができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	力学と自然現象	自然科学とは何だろうかを身近な例をとって分かりやすく説明する。また、物理で使用する単位についても説明する。	予習・復習課題 1 単位について
2	数学的準備 (1)	ベクトルの基礎と三角関数について学ぶ。	予習・復習課題 2 スカラー量とベクトル量
3	数学的準備 (2)	ベクトルの取り扱いと三角関数の計算について学ぶ。	予習・復習課題 3 三角関数の計算
4	数学的準備 (3)	ベクトルの合成・分解と簡単な微分積分について学ぶ。	予習・復習課題 4 ベクトル量の和と差
5	重力と重心	重力・重心について学ぶ。	予習・復習課題 5 質量と重量の違い
6	さまざまな力と力のモーメント (1)	垂直抗力・回転の力について学ぶ。	予習・復習課題 6 ベクトル量としての力
7	さまざまな力と力のモーメント (2)	摩擦力・力のモーメントについて学ぶ。	予習・復習課題 7 ベクトル量としての力のモーメント
8	力と力のモーメントのつり合い (1)	力と力のモーメントのつり合い式について学ぶ。	予習・復習課題 8 つり合いの条件を求める (物体が移動しないための条件)
9	力と力のモーメントのつり合い (2)	力と力のモーメントのつり合い式の解法を学ぶ。	予習・復習課題 9 つり合いの条件を求める。 (物体が回転しないための条件)
10	位置・速度・加速度と角度・角速度	位置・速度・加速度と角度・角速度について学ぶ。	予習・復習課題 10 位置の時間変化と角度の時間変化
11	運動の 3 法則と円運動	慣性の法則・ニュートンの運動方程式および円運動について学ぶ。	予習・復習課題 11 運動方程式を導く 1
12	運動の 3 法則と単振動	ニュートンの運動方程式と単振動について学ぶ。	予習・復習課題 12 運動方程式を導く 2
13	エネルギー	仕事とエネルギーについて学ぶ。	予習・復習課題 13 エネルギーがスカラー量であることを理解する
14	運動量・力積・衝突	力積・運動量と衝突について学ぶ。	予習・復習課題 14 運動量がベクトル量であることを理解する。
15	まとめ	1-14 回目までの力学の内容について理解を深めるために、復讐を行う。	課題 (まとめ)

関連科目 微積分 I, 線形代数 I, 物理学基礎演習, 物理学実験

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 評価は発表点と期末試験で行う。期末試験 60%, 演習発表点 40%

学生へのメッセージ 物理は試験問題と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業を通して、身近な現象を理解しましょう。

担当者の研究室等 8号館2階 物理準備室

備考

科目名	力学	科目名 (英文)	Mechanics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	長島 健
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1016a0		

授業概要・目的	近代の科学技術の基礎には物理学があり、さらにその基礎には力学がある。力学は工学の基盤となる科目であり、学部専門科目を理解する上で必要不可欠である。「力学Ⅱ」では、剛体の力学について学ぶ。
到達目標	剛体の運動を記述するための物理量および方程式について説明できる。さらに剛体の運動を回転の運動方程式をもとに調べることができる。
授業方法と留意点	主として配布する資料 (プリント) を用いて授業を進める。毎回小テストを行なうが、小テストは友達と相談したり、教科書を参照してもよいので、最後まであきらめずに考えて解くこと。小テストは採点后返却し、正答率の低かった問題を中心に解説する。 なおビデオ等で予習をし授業時間に履修者が課題の解説をする、いわゆる反転授業を実施する場がある。
科目学習の効果 (資格)	工学の基礎として、専門に出てくる物理量の意味や色々な物理量の相互関係の理解に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	力学および数学の復習	質点の力学および微分・積分を復習する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
2	力のモーメントの基礎	剛体の運動の特徴である回転運動を扱うために必要な力のモーメントの考え方を学ぶ。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
3	様々な力のモーメントの表し方	モーメントの腕およびベクトルの外積を用いた力のモーメントの表し方を学習する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
4	力のモーメントのつりあい	シーソー、天秤のつりあいを力のモーメントを用いて表す方法を学習する。つりあいの条件を求める方法を習得する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
5	重心とその運動	重心の意味を理解し、剛体の重心の求め方、そして重心の運動を理解する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
6	様々な形状の剛体の重心	様々な形状の剛体の重心の求め方を習得する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
7	回転運動の運動方程式、慣性モーメントの基礎	慣性モーメントについて定性的に理解する。さらに角加速度を導入し、回転運動の運動方程式を学ぶ。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
8	前半のまとめ	中間確認テストを実施し、問題の解説をする。	確認テストの復習 (1時間以上)
9	慣性モーメント(1)	棒状の慣性モーメントの求め方を習得する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
10	慣性モーメント(2)	板状の慣性モーメントの求め方を習得する。慣性モーメントの計算に便利な平板の定理を理解する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
11	慣性モーメント(3)	円盤状の慣性モーメントの求め方を習得する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
12	平行軸の定理	慣性モーメントの計算に便利な平行軸の定理を学ぶ。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
13	剛体の平面運動	剛体の一般的な運動を並進及び回転運動の運動方程式を用いて調べる方法を習得する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
14	角運動量、回転運動の運動エネルギー	剛体の回転運動の状態を表す角運動量と回転運動の運動エネルギーを学ぶ。これらを利用して剛体の運動を調べる方法を習得する。	自主学習 (配布プリント及び小テスト復習) を1時間以上
15	全体の力学のまとめ	剛体の力学の応用例を解説しながら、これまでに講義で述べた重要事項を復習する。	-----

関連科目	微積分Ⅰ、線形代数Ⅰ、力学Ⅰ、物理学実験
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹、上村洸	森北出版
	2	基礎物理学 (上)	川村康文	ソフトバンククリエイティブ
	3			

評価方法 (基準)	中間確認テスト、期末試験、小テストにより評価する。総合評価を期末試験 65%、小テスト及び中間確認テスト 35%の割合で算出する。
-----------	---

学生へのメッセージ	数学や物理は単に「試験問題」と考えると難しく思われがちですが、自然現象や経験をもとに考えると難しくありません。この授業は、中学や高校における「試験用の物理」とは全く異なる「専門につながる基礎」なので、苦手意識をもちずに授業にのぞんでください。
-----------	---

担当者の研究室等	8号館2階 長島研究室
----------	-------------

備考	
----	--

科目名	化学	科目名 (英文)	General Chemistry
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田中 龍一郎
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR2017a0		

**授業概要・目的**  
都市インフラならびにライフサイエンスアセスメント技術者の育成において、自然科学の基礎力はその礎となる重要な素養のひとつである。基礎化学を取り扱う本授業のねらいは、その基本的な法則、原理、公式を理解し、それらの内容と身近な現象やさまざまな素材の特徴（性質）を結びつけられる想像力と客観的な判断力を修得するところにある。  
尚、本科目は、科学的な視点で情報化社会を構築するさまざまな物事について、これらをモデル化し、新たなモデル創造へと繋げるための育成プログラムの端緒に位置づけられる。  
SDGs-3, 4, 7, 9, 13

- 到達目標**
- (1) 物質の分類について説明出来る。
  - (2) 原子の構成、種類、原子量について説明出来る。
  - (3) 周期律とは何か、周期表の構成を説明出来る。
  - (4) イオン結合、共有結合、結合の極性等の特徴について事例を上げ、説明出来る。
  - (5) イオン結晶をはじめとする種々の結晶や半導体の性質について説明出来る。
  - (6) 種々の典型元素について説明出来る。
  - (7) 錯体、遷移元素について説明出来る。
  - (8) 物質の三態、相転移、相平衡について説明出来る。
  - (9) 理想気体の状態式をはじめ、混合気体の分圧などについて説明出来る。
  - (10) 種々の溶液の濃度計算が出来、その性質等について説明、物性を予想出来る。

**授業方法と留意点**  
講義環境を鑑み、対面講義を原則として状況に応じオンライン (Stream によるオリジナルビデオ視聴と課題提供による授業) も取り入れ実施する。講義は指定教科書に沿ってすすめ、講義内容に沿った資料の提供 (Teams) と課題 (Forms) を適宜併用する。  
【方法と留意点】「授業概要、目的」を理解し、毎回の授業を大切にしてください。15回の講義で化学基礎の広範な範囲 (一部に物理化学を含む) を網羅しますから、これらを全て聴講しただけでは到達目標の達成は必ずかしいと思います。そのため必ず冒頭で実施する基礎力確認テスト (簡単な分数計算や対数計算、元素記号の知識) で8割以上の得点能力を獲得した上での受講が必須です。その上で、毎回の受講前に指定の教科書の対応頁を一読し、キーワードを書き出し、不明な点を確認しておいてください (予習)。次に対面あるいはビデオ視聴による講義に臨み、配布した資料の穴埋めを行いながら、これを完成させて下さい。また関連知識を確認するクイズ (Forms) も実施します。再び完成した資料を参考に、章末の問題演習を行い、正しい理解を深めてください (復習)。  
【フィードバックの実施 (演習は実施回の翌週講義時、小テスト実施の翌週に当たる第6回、第11回を予定)】 毎回の講義で、それらに関する解説として模範回答を例示し、偏差値、誤回答の傾向なども分析し、適時フィードバックを行います。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 化学とその対象-物質	【イントロダクション】 物質とは何か、その性質と分類について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(60min) 復習：基礎力確認テストを自己採点して、素養を再確認する。配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。(60min)
2	原子の構造	原子の構成、種類、原子量などについて解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(120min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
3	周期律・周期表	周期律とは何か、周期表について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
4	化学結合 (4. 1~4. 4) *以下の番号は指定教科書の章に対応	イオン結合、共有結合、結合の極性等について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
5	化学結合 (4. 5~4. 7) 及び小括 (1)	混成軌道、配位結合について解説する。第1-5回内容の小テスト(1)を実施。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
6	結晶の化学 (5. 1~5. 3)	小テスト (1) の解説及びフィードバック。イオン結晶、金属結晶および共有結合性結晶について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
7	結晶の化学 (5. 4~5. 5) と半導体	分子性結晶と半導体の性質について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
8	典型元素の化学	種々の典型元素の特徴について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
9	遷移元素の化学	錯体、遷移元素の特徴について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズに PC あるいはスマホから回答	予習：教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習：配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。

			し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	(150min)
	10	物質の状態(8.1~8.2)及び小括(2)	物質の三態、相転移について概説する。第6-9回内容の小テスト(2)を実施。	予習:教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習:配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
	11	物質の状態(8.3~8.4)	小テスト(2)の解説及びフィードバック。物質の三態、相転移、相平衡について解説する。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズにPCあるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習:教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習:配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
	12	気体の性質	理想気体の状態式をはじめ、実在気体や混合気体の分圧などについて解説する。気体の性質等についての演習と解説をおこなう。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズにPCあるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習:教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習:配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
	13	溶液の性質(10.1~3)	理想気体の状態式をはじめ、実在気体や溶液の濃度や性質等について解説し、物質の状態変化を考える。同講義の小括ごとに準備した理解確認クイズにPCあるいはスマホから回答し、結果は次回以降の講義等でフィードバックする。	予習:教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習:配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
	14	溶液の性質(10.4.1~4.5)	溶液の濃度や性質等について解説し、演習を通じて物質の状態変化を考える。	予習:教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習:配布資料を参照し、講義内容を整理し、理解を深める。章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
	15	総括と環境化学	第1-14回内容の総括とまとめ小テストを行い、自らを取り巻く環境(化学)を考える。	予習:教科書の該当ページを読んでおく。(150min) 復習:章末の演習問題を解いて理解を深める。(150min)
関連科目	有機化学、無機化学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新版 大学の化学への招待	井上 亨、川田 知 他	三共出版
	2	<ノートPCあるいはスマホ必携> *摂南大アカウントを要す		
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	到達目標の修得確認小テスト(全3回、15%-10%-25%)と授業態度(Formsによる指定時間のクイズ回答の返信をもって視聴=受講確認とする。これら全11~12回の正答数、課題提出などを総合的に評価;50%する)。100点満点中、60点以上を合格とする。なお、「到達目標」に示す10項目の基礎知識が上記採点法で達成出来ない(60%未満の達成度)、あるいはリモートの場合の未連絡の不受講などで評価エビデンスの不足により判定が出来ない場合は本単位を取得できない(欠格条件)。尚、達成度と本学の成績評価分類は以下			
学生へのメッセージ	身の回りにある物や身近で起こっている現象が「化学」の原理、作用等に起因していることを理解して欲しい。			
担当者の研究室等	枚方学舎1号館5階 生命融合化学分野研究室			
備考	事前事後学習は授業計画に記載のとおり。			

科目名	生物学	科目名 (英文)	Biology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	尾崎 清和
ディプロマポリシー (DP)	B②		
科目ナンバリング	TDR2018a0		

授業概要・目的	人体の構造、機能および病気とともに、ヒトを含む生物の多様性、分類および生態系に関して概説する。社会人として知っておくべき生物学的な常識を身につけることを目的とする。
到達目標	人体の構造や機能に関する知識を得ることができるとともに、生物の多様性や生態系に関する基礎的な知識も同時に取得できる。
授業方法と留意点	対面で実施します。
科目学習の効果 (資格)	一般教養の充実。生物・医学関連に関する記事あるいは専門書を読む際の助けとなるような知識の向上をめざす。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション 生物、生態系とは	授業中のルール説明・試験方法について 生物や生態系の基礎知識を問う ビデオ「人体ミクロの大冒険 プロローグ」	—————
2	細胞	細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
3	DNA	DNA、タンパク合成、細胞の増殖に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
4	神経細胞	神経細胞に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
5	神経系	神経系、脳に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
6	生命誕生	生殖系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
7	ホルモンと自律神経	自律神経と内分泌系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
8	習熟度試験前半	講義前半の習熟度試験	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
9	血液、免疫	血液、免疫系に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
10	腎臓	腎臓に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
11	筋肉と脂肪	骨格系、脂肪に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
12	骨	骨に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
13	肝臓、消化器	肝臓と消化器に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
14	癌	腫瘍に関する基礎知識	該当する項目について教科書をもとに予習・復習を行うこと
15	習熟度試験後半	講義後半の習熟度試験	—————

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ニューステージ新生物図表	浜島書店編集部	浜島書店
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の小テストを50%、習熟度試験を50%で評価する。 新型コロナウイルスの感染状況により変更がある場合、別途、連絡する。
学生へのメッセージ	社会人としての一般教養の幅を拡げる授業です。次週に小テストを実施するので十分に復習してください。
担当者の研究室等	枚方・薬学部1号館3階尾崎教授室
備考	事後学習60分、授業日の授業前に小試験対策の事前学習30分が必要です。



科目名	物理学実験	科目名 (英文)	Experiments in Physics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	神嶋 修, 大上 雅史, 山崎 篤志
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1020a0		

授業概要・目的	この実験科目は、自然科学の基本である「物理学」を、実際の測定やデータ解析を通して理解し、さらに物理現象をより深く観察・認識する科目である。様々な装置を操作して、一連の基本的実験および計測手段を学ぶ。 SDGs グローバル指標との対応：SDGs-9
到達目標	以下の項目を習得し、説明できるようになる。 1) 国際単位系 (SI) 2) 各テーマの物理的内容 3) 計測機器の取り扱い法 4) 物理量の測定方法 5) 誤差の考え方と取り扱い方
授業方法と留意点	初回ガイダンスは、履修申請者全員が実験を始めるにあたって安全管理等の大切な注意事項を習得します。ガイダンスを無断欠席した場合、この科目を履修することができませんので注意するように。
科目学習の効果 (資格)	この科目では、事実・現象・測定等の実体験をとおして、すじ道を立てて考える科学的な思考法を養う。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	物理学実験に向けて	「実験」に関するガイダンス、および有効数字、誤差についての講義を行う。技術者・研究者の行動規範、倫理を身につける。	――
	2	サールの装置によるヤング率の測定	サールの装置を用いて、2本の針金(真ちゅう線・ピアノ線)のヤング率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	3	熱の仕事当量 J の測定	電流の発熱作用により、熱量計の中の水の温度上昇から熱の仕事当量 J を求める。	事前報告書およびレポート課題
	4	電子の比電荷の測定	電子が磁場内で円運動する状態を観察し、電子の比電荷 $e/m$ の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	5	分光実験	分光計を用いて、葉緑素の光吸収スペクトルを求める。	事前報告書およびレポート課題
	6	プランク定数の測定	光電効果の現象を通して、光量子の概念を理解し、プランク定数 $h$ の値を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	7	ボルダの振り子による重力加速度の測定	ボルダの振り子を用いて、当実験室での重力加速度の値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	8	直流回路と交流回路	簡単な直流回路と交流回路を通じて、その動作原理を理解し、未知の抵抗の抵抗値を求める。	事前報告書およびレポート課題
	9	低温の世界	低温では物質の性質が劇的に変化する。液体窒素温度でみられる様々な低温現象を実験・観察する。	事前報告書およびレポート課題
	10	光の回折の実験	レーザーと回折格子を用いて、回折格子の間隔と回折角との関係を調べ、光の回折、干渉現象を理解する。	事前報告書およびレポート課題
	11	ねじれ振り子による剛性率の測定	ねじれ振り子の周期、金属製円環のサイズ、ピアノ線の直径等を測定し、これらの測定結果からピアノ線の剛性率を求める。	事前報告書およびレポート課題
	12	コールラウシュブリッジによる電解質溶液の抵抗測定	コールラウシュブリッジを用い、電気伝導率が既知の電解質溶液から容器定数を求め、未知の電解質溶液の電気伝導率を測定する。	事前報告書およびレポート課題
	13	電磁波の実験	電磁波に関する種々の基本的測定から、電磁波の周波数や偏向特性を調べる。	事前報告書およびレポート課題
	14	レンズの焦点距離の測定	凸レンズおよび凹レンズの焦点距離の測定法を学び、レンズの特性を理解する。	事前報告書およびレポート課題
	15	速度と加速度	ストロボ撮影により、自由落下現象を観察し、速度と加速度を理解し、重力加速度を求める。	事前報告書およびレポート課題

関連科目 理工学基礎実験, 基礎力学演習, 力学 I・II, 物理学 I・II,

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	物理学実験	基礎理工学機構	
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい基礎物理	潮秀樹, 上村 洗	森北出版
	2	第3版 物理学基礎	原 康夫	学術図書出版
	3			

評価方法 (基準)	1)実験は講義と異なり、全て出席を前提とする。 2)レポートの提出がない場合、実験をしていないものとみなすので必ず提出すること。 3)レポート(60%)、実験態度(40%)の割合で評価する。
学生への メッセージ	実験は自然科学の基本です。この物理学実験でおおいに物理学を実体験して下さい。
担当者の 研究室等	8号館2階 光物性研究室
備考	第1回ガイダンスのお知らせが9月初旬に掲示されます。受講希望者は第1回授業開始時までに、物理学実験室(8号館2階)掲示板または学科掲示板(12号館1階)を確認すること。この第1回ガイダンスは、実験を行うための安全講習ですので、履修希望者は必ず出席すること。やむを得ない事情により欠席した場合をのぞき、第1回ガイダンスの欠席者は履修不可となりますので特に注意するように。 この実験授業は、毎回レポート提出が課せられている。 自らが行う実験の事前学習として、 1.5時間以上をかけて教科書を読み、1)実

科目名	情報リテラシー I	科目名 (英文)	Information Literacy I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	妹尾 史郎
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1022a0		

授業概要・目的	コンピュータと情報通信ネットワークを利用するために必要な基礎的知識と技術を習得する。Windows システムをベースとして、オフィスアプリケーションの基本操作の習得と、電子メールやインターネットの利用技術、さらには数値データの収集・分析に必要な基礎技法を習得する。
到達目標	理工学に関連する情報処理の重要性を認識する。コンピュータの基本操作を習得し、理工学の学習・研究においてコンピュータを有効活用できるようにする。
授業方法と留意点	Word, Excel および PowerPoint を取り上げ、とくに数学的に考察する能力の向上を図ったデータ収集と分析に関する演習課題を提示し、演習を行う。また、コンピュータと情報通信ネットワークの基礎知識を習得するための資料を配付する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポート (国家資格) や Microsoft オフィススペシャリスト (民間資格) の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	利用システムの概説	・演習室の概要とシステム ・授業計画と受講留意事項の説明	情報処理室の利用手引きに目を通しておく。
2	Windows システム	・Windows の基本操作	ファイル操作と文字入力に慣れる。 (1 章全般)
3	電子文書の作成	・Word の基本操作, レイアウト ・ファイル入出力	Word の起動・終了, 文書ファイルの読込・保存方法を理解する。 (2.1~2.4 の演習課題)
4	電子文書の作成	・罫線と表作成 ・オブジェクト (図) の挿入	罫線の引き方, 表と図の作成方法を整理しておく。 (2.5~2.7 の演習課題)
5	表計算入門	・Excel の基本操作 ・セルの概念	Excel 起動・終了, 表計算ファイルの読込・保存方法を理解する。 (3.1~3.3 の演習課題)
6	表計算とグラフ	・グラフの作成 ・簡単なデータベース	セルの相対参照と絶対参照の違いを整理する。 (3.4~3.5 の演習課題)
7	表計算と関数	・数学関数 ・統計関数	利用する数学関数の使い方を理解する。 (3.6 の演習課題)
8	演習	・表計算のまとめ ・理工学系レポート作成の基本	レポート作成要領を理解する
9	電子メール	・電子メールの配信の仕組み ・課題のメール送信	添付ファイルの送信方法を理解する。 (4.1, 4.2 の練習)
10	ネット技術と情報検索	・情報検索の方法 ・HTML 入門	インターネットの仕組みを理解する。 (4.3 と 5.1 の練習)
11	演習	・情報検索と HTML レポートのまとめ方	レポートのまとめ方を整理する。 (演習課題配布)
12	プレゼンテーションソフト入門	・PowerPoint の基本操作	PowerPoint の起動・終了, ファイルの読込・保存を理解する。 (6 章全般)
13	プレゼンテーション資料の作成	・効果的なデータ提示 (ヒストグラム等) ・資料の作成方法	Word 文書の作成との違いを理解する。 (6 章全般)
14	テクニカル・プレゼンテーション 総合演習 (1)	・プレゼンテーション資料の作成演習 ・発表の仕方	総合演習課題
15	総合演習 (2)	・演習課題とレポート作成	総合演習課題

関連科目	-
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Office2019 で学ぶコンピュータリテラシー	小野目如快	実教出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の演習や小テスト (30%) と、演習レポート (70%) で評価する。
学生へのメッセージ	学業を遂行していく上で必須となる情報処理の基本技術を身に着けることができます。毎回実施する演習課題を着実にこなしていくことが重要です。
担当者の研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む。 提出物に対するフィードバックを適宜行う。

科目名	情報リテラシーⅡ	科目名 (英文)	Information Literacy II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	妹尾 史郎, 日浦 明大
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1023a0		

授業概要・目的	デジタル駆動社会への構造変化が加速する中、社会や日常生活における種々の問題解決、課題発見にデータを活用し、データから新たな価値を創造し、効果的に「伝えたい事」や「伝えるべき事」を伝えられる人材の育成が重要となっています。本講義では、科学技術分野や産業における数値・データサイエンス・AI の利活用においてとりわけ重要となる、データの処理と分析のための種々の数学的処理技法を活用し、「情報伝達技術」という観点から「動画の編集」や「デザイン」の基礎的な技術の実習・演習を行い、動画を使用した効果的なプレゼンテーション技術の基礎を身に付けることを目標とします。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>デジタル駆動社会におけるデジタルデータとデータサイエンスの社会的・技術的背景、データの効用と価値の理解する</li> <li>理工学分野で必要となる数値データの処理方法と基本的分析方法の習得し、実務に応用できる基礎的能力を有する</li> <li>プレゼンテーションに必要な映像制作 (CM 的映像の作り方) や平 (紙) 面デザインの基礎技術と考え方を修得する</li> </ul>
授業方法と留意点	授業内では、データの集計・分析能力、AI などの利活用方法、情報伝達に関する演習 (課題) を行う。 本科目は、グループワーク、プレゼンテーション等を通してアクティブラーニング方式で実施する。
科目学習の効果 (資格)	IT パスポートや基本情報処理技術者 (ともに国家資格) の試験に役立つほか、プレゼンテーション (自分の考えを他者に伝える作業) に必要な考え方の修得と映像や平面デザインといった様々なメディアの特性を学びディレクション能力を身に付ける。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	データの意味	<ul style="list-style-type: none"> <li>データの種類と特徴</li> <li>Excel を使ったデータの集計</li> </ul>	課題に対して考察して提出
3	データの編集 1	<ul style="list-style-type: none"> <li>ヒストグラムを使ったデータ</li> <li>Excel を使ったヒストグラムの作成</li> </ul>	課題に対して考察して提出
4	データの編集 2	<ul style="list-style-type: none"> <li>分布の代表値 (平均値・中央値・最頻値)</li> <li>分布の広がり (分散・標準偏差)</li> <li>Excel を使った基本統計量の算出</li> </ul>	課題に対して考察して提出
5	データの編集 3	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規分布</li> <li>Excel を使った事象の発生確率の算出</li> </ul>	課題に対して考察して提出
6	データによる説明	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ・AI 利活用の最新動向</li> <li>AI の活用事例紹介</li> <li>Excel を使って示したデータの説明</li> </ul>	課題に対して考察して提出
7	データの標準化	<ul style="list-style-type: none"> <li>分布が異なるデータどうしの比較</li> <li>Excel を使ったデータの標準化</li> </ul>	課題に対して考察して提出
8	相関分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>相関係数</li> <li>Excel を使った散布図の作成、相関係数の算出</li> </ul>	課題に対して考察して提出
9	単回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>単回帰分析</li> <li>Excel を使った回帰直線の作成、数値の推定</li> </ul>	課題に対して考察して提出
10	データ・AI 利活用における留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>個人情報保護および情報セキュリティ</li> <li>Excel を使ったデータの匿名化、保護</li> </ul>	課題に対して考察して提出
11	動画制作の構成を学ぶ	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画制作は「設計図」が肝心</li> <li>構成の基本「起承転結」</li> <li>5W1H+1H の活用</li> </ul>	課題に対して考察して提出
12	効果的なシナリオの作り方	<ul style="list-style-type: none"> <li>種々のメディアで共通する情報伝達手法</li> </ul>	課題に対して考察して提出
13	より効果的なプレゼンのポイント	<ul style="list-style-type: none"> <li>5つの評価項目 (伝達度、印象度、独自性、構成力、必然性) に従って考える</li> </ul>	課題に対して考察して提出
14	最終課題発表	<ul style="list-style-type: none"> <li>動画課題を口頭・上映で発表</li> <li>他の学生の発表を評価・採点して提出する</li> </ul>	発表された課題 (作品) を審査基準に基づいて評価する
15	総合演習	<ul style="list-style-type: none"> <li>結果発表→結果を考察</li> <li>比較・分析することの重要性</li> </ul>	結果を受けて自己分析と全講義を通して学んだことを考察して提出

関連科目	情報リテラシーⅠ
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	演習テキストおよび資料を毎回配布する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて関連書籍 (アスキー出版, インプレス出版等) を各自用意するとよい		
	2			
	3			

評価方法 (基準)	毎回の課題や小テスト、課題提出 (45%)、作品制作と演習レポート (55%) で評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	上位学年次の学習や研究に役立つ課題や制作に取り組む際の考え方や発想法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<p>【事前学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回30分をかけて内容を理解する。</p> <p>【事後学習】事前事後学習課題欄に示した内容について、毎回1時間かけて、教科書以外の資料や実際のCM・広告物に目を向ける。出来るだけ視覚的資料にあたること。</p> <p>提出課題等はすべて返却し、また、コメントを付したり、授業で講評したりする。解き直しや異なるアプローチについて自身で再考察することが重要である。</p>

科目名	住環境倫理	科目名 (英文)	Ethics of Residential Environment
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	浅見 雅之
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR3023a0		

授業概要・目的	多発する大災害から派生する諸問題や、地球環境保全の問題、人口減少社会の問題、市民参画社会における地域づくり、ネットワーク社会がもたらす問題、専門分化の進んだ技術社会における諸問題など、様々な社会問題について知ることを通じ、住環境デザインの周辺に存在する倫理課題に取り組みます。 講義を通じて、現在に適合した倫理観を養い、自ら行動するための判断基準・マインドセットを手に入れることを目的とします。
到達目標	私達を取り巻くさまざまな社会問題に対し、多様な価値基準を参考に、単なる主観ではない自分の考えを手に入れ、それを文章化できる能力が身に付く。 価値判断の難しい悩みに直面した時、その問題を解決へと導くためのマインドセットが身に付く。 社会人として自立・自律的に行動するための、自分なりの価値判断基準が身に付く。
授業方法と留意点	倫理観は、自らが考え、養うものであることから、身近なところから課題を抽出し、何が倫理として問題であるのか、自分ならどうするかを考察する時間を重視し、各回の講義の時間内でショートレポートの提出を求めます。また、最終の授業後に、まとめの課題レポートの提出を求めます。授業の目的に即し、学生の理解度に応じて、講義の内容を変更しながら進めることがあります。 必要に応じて、学生が仲間と共に学ぶためのワークショップを行うなど、議論の深まる参加型の授業を進めます。 必要に応じて、社会経験の豊かなゲスト講師を招いて、その職務経験をお聞きしながら、住環境倫理の課題を考える回を設けることがあります。
科目学習の効果 (資格)	進路決定に役立つような、住環境デザイン分野の様々な実務内容を学ぶことができます。 建築士試験の職業倫理に関する問題回答、就職試験、面接に役立つとともに、文章力も身につきます。 実務の上で、迷ったり悩んだりした際に、問題を解決に導けるマインドセットを身につけることができます。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	住環境倫理が目指すもの	講義内容・授業の進め方・評価基準等の説明を行います。 「課題解決のマインドセット」について講義し、この授業の目的についての理解を深めます。	倫理とは何かについて考えてくること。
2	都市景観と住環境倫理	景観保全の考え方について事例を通じて学び、景観は誰のために守られるべきかについて倫理的な観点から考えます。	景観保全の実例を探し、その景観が保全されることのメリット・デメリットについて考えて来ること。	
3	歴史的建造物保存と住環境倫理	歴史的建造物保存の考え方について事例を通じて学び、価値ある歴史的建造物が残されない理由、残される理由について、倫理的な観点から考えます。	歴史的建造物の保存が問題になった事例を探し、その建造物が残らなかった理由、残された理由について考えてくること。	
4	市民参画社会と住環境倫理	まちづくりや建築設計における市民参加の手法について学び、現代社会において市民参加が重要である理由について、倫理的な観点から考えます。	まちづくりや建築設計における市民参加の実例を探し、市民参加がどのようにそのプロジェクトに役立ったかを考えてくること。	
5	災害復興と住環境倫理	東日本大震災を題材に、大災害がどのように社会の矛盾を顕在化させるかについて学び、復興まちづくりがどのように行われるべきかを、倫理的な観点から考えます。	大災害からの復興まちづくりの事例を探し、それがうまくいった理由・うまくいかなかった理由について考えてくること。	
6	環境共生と住環境倫理	サステナブルデザイン・サステナブル開発の考え方について学び、「環境にやさしい」ことがなぜ重要なのかについて、倫理的な観点から考えます。	地球にやさしいデザインの実例を探し、それが社会にどう役に立っているかを考えてくること。	
7	人口減少社会と住環境倫理	わが国における人口減少のメカニズム・現状について学び、人口が減る社会にあって、私達がどんな態度をとればよいかについて、倫理的な観点から考えます。	日本の人口減少の様子がよく分かる資料を探し、人口減少を止めることができるかどうかについて考えてくること。	
8	よりよいものを作るための作法	学生相互、技術者相互の正しい批評のあり方が、お互いがよりよい成果を出すために重要であることを学び、実践してみます。	批評と批判とはどう違うか、正しい批評とはどんなことかについて考えてくること。	
9	限界集落と住環境倫理	限界集落の実情について学び、集落は維持・存続されるべきか、集落をなくして町に集まって住むべきかについて、倫理的な観点から考えます。	限界集落の再生の実例を探し、集落を存続させようという熱意がどこから生まれるかについて考えてくること。	
10	ニュータウンと住環境倫理	ニュータウンの成り立ちと、オールドニュータウンの実情について学び、ニュータウンという住環境開発の手法は有効な手法だったのかについて、倫理的な観点から考えます。	オールドニュータウンの再生事例を探し、ニュータウンの再生がうまくいくには何が必要なのかについて考えてくること。	
11	リノベーションと住環境倫理	自力施工による建築リノベーションが目目されている現状について学び、自力施工によってもたらされるものについて、倫理的な観点から考えます。	自力施工により建築リノベーションの実例を探し、自力施工にはどんなメリット・デメリットがあるかについて考えてくること。	
12	建築デザインと住環境倫理	建築の発注者・利用者・設計者の関係について学び、建築デザインは誰のものか、建築のデザインはどんなプロセスで行われるべきかについて倫理的な観点から学びます。	自分の好きな建築物について、そのデザインが誰の意図によって成り立っているかについて取材するか、考えてくること。	
13	高齢化社会と住環境倫理	高齢化社会の現状や、福祉住環境の整備の実例について学び、高齢期の住まいを	身近なお年寄りや対話するなど、高齢者の住生活上の困難や、生活上の工夫について取材して来るこ	

			どのように選ぶべきか、どのようにつくるべきかを、倫理的な観点から考えます。	と。
	14	建築法規と住環境倫理	複雑で難解なことで有名な建築法規は、いったいどのように社会に役に立っているのかを学び、建築法規を守るべき理由について、倫理的な思考から考えます。	学んだ建築の法規のうち、どうしてそんなルールになっているのか気になるものを選び、その理由について考えてくること。
	15	住環境倫理演習	“これまで学んだ住環境倫理の題材を使ったグループ演習により、実社会における様々な課題に直面した場合、私達はどのような態度でいるべきか、倫理的な態度とはどんな態度なのかについて考えます。また、最終レポート課題を出題し、解説を行います。”	
関連科目	設計演習、建築環境工学			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	BE KOBE 震災から20年、できたこと、できなかったこと	BE KOBE プロジェクト	ポプラ社
	2	地方創生大全	木下斉	東洋経済新報社
	3	ふるさとを元気にする仕事	山崎亮	筑摩書房
評価方法 (基準)	各回の課題(ミニレポート)評価50%、最終レポート課題50%として評価します。			
学生への メッセージ	住環境デザインを学び、建築の専門家になる皆さんは、専門家の倫理とはどういうものであり、専門家の責任がどういうものであるかの全体像を、感覚的に把握しておく必要があります。特に覚えなければならないことがあるわけではなく、自分なりの判断基準を手に入れるために、自分の考えを深めることに重点を置いて授業を進めます。			
担当者の 研究室等	非常勤講師室(7号館2階) または 12号館7階稲地准教授室			
備考	考えることの楽しさを体感しましょう。 授業の内容についての質問などは、以下のメールアドレスに送ってください。 asami.masayuki@me.com 事前事後学習は概ね1.5時間程度おこない、各回授業内容を確実に定着させることを心がけて下さい。 興味を持った内容について、本を読んだり、ネットで調べて深掘りすることをすすめます。			

科目名	建築法規	科目名 (英文)	Building Code
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	澤田 範夫
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR3024a0		

授業概要・目的	人が安全に住める住宅、人々が集まって安心して暮らせるまち、そのためにはルールが必要です。そのルールとして、法律はどのような役割をもっているのでしょうか。世の中の出来事、身の回りの街の風景の中に、それを学習していきましょう。私は、長年の行政経験とその後の民間確認検査機関において、住宅やまちづくりの現場に接してきました。学生の皆さんに、常に今、現場で何が起きているかを伝えながら、一緒に法律の必要性を考えます。建築法規は何のために存在し、現状はどうなっているのか。住環境デザインに必要な不可欠な建築法規の基本を学び、将来の建築士資格取得の基礎をつくります。
到達目標	学生の皆さんが、建築基準法を中心に建築士法、都市計画法及びその他関連法規の要点を理解するとともに、法律の目的、読み方を習得し、住環境デザインと法令の関わりを意識できるようになることを目標にします。特に建築士受験科目であることに留意して、法律と施行令との関係など実践的な理解を深め、今後の建築士受験に際して、建築法規の勉強にスムーズの取組める能力を養います。
授業方法と留意点	まず、現場の実態について解説し、法令集により建築基準法のポイントを講義します。そして、参考教科書を使い、よりわかりやすく解説し、例題で確認します。授業の最後には、必要に応じ知識の定着のため小テストを行い、その回答を解説します。予習は必要ありません。授業の内容をしっかりと理解し、定着させていきましょう。
科目学習の効果 (資格)	建築法規は「建築士」の受験には不可欠な科目です。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 授業の進め方 建築基準法の概要	自己紹介し、授業の進め方について説明する。 建築法規の導入の歴史を概観し、建築基準法の概要を解説する。	住環境デザインにおいて建築法規は必須の教養です。 身の回りの事象について、法律でどのように規制されているのか、できているのか考えてみましょう。
2	法文の構成 用語の定義 建築士法	法文の構成や法令用語について解説する。 併せて、建築の資格法である建築士法について確認する。	法律と施行令の関係、基礎的な用語の定義、法律の構成を復習しましょう。 早く条文を探せるように、法律の目次構成を確認してください。
3	建築基準法 集団規定 1 (建築物と道路)	集団規定のうち、建築物と道路の関係について解説する。 併せて、建築物の定義について確認する。	建築基準法で出来た道路について、自分の住む地域の道路で確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
4	建築基準法 集団規定 2 (用途地域と都市計画制限)	集団規定のうち、用途地域と都市計画制限について解説する。 併せて、都市計画法の手続等について確認する。	身の回りの住宅地について、行政のホームページで都市計画情報を確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
5	建築基準法 集団規定 3 (建蔽率と容積率)	集団規定のうち、建蔽率と容積率について解説する。 併せて、都市計画法の手続等について確認する。	自分が住む家の建蔽率と容積率を計算してみましょう。 授業で紹介された事例をヒントに、身の回りで気が付いたことがあれば写真とコメントでレポートしてください。
6	建築基準法 集団規定 4 (斜線制限、日影規制等)	集団規定のうち、斜線制限や日影規制について解説する。 併せて、天空率について確認する。	自分が住むまちのマンションの高さ制限について計算してみましょう。 気が付いた事例があれば、写真とコメントでレポートしてください。
7	建築基準法 集団規定 5 (高さ、外壁後退、建築協定等)	集団規定のうち、高さや外壁後退等について解説する。 併せて、地区計画や建築協定について確認する。	自分の家の外壁の位置について調べてみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
8	建築基準法 単体規定 1 (採光、換気、天井の高さ)	単体規定のうち、採光、換気等について解説する。 併せて、居室の天井高さについて確認する。	自分の家の居室の採光、換気について確認してみましょう。 身の回りで気が付いた事例があれば、写真・コメントでレポートしてください。
9	建築基準法 集団規定のおさらい 中間テスト	集団規定について補足し、前半7回の授業を再確認する。 併せて、中間テストを行う。	建築士試験と同様、法令集は持ち込み可能です。テストで間違ったところは、解答で必ず復習してください。
10	建築基準法 単体規定 2 (防火区画、内装制限等)	単体規定のうち、防火規定、内装制限等について解説する。 併せて、防火地域、準防火地域の制限について確認する。	マンションや大学等の特殊建築物について、防火区画等を確認してみましょう。 授業で紹介された事案等で、類似事例をみつけたら、写真とコメントでレポートしてください。
11	建築基準法 単体規定 3 (廊下、階段、避難規定)	単体規定のうち、廊下、階段等の避難規定について解説する。 併せて、排煙や非常用照明について確認する。	マンションや大学等の廊下、階段、出口などを確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
12	建築基準法 単体規定 4 (敷地の安全、構造規定)	単体規定のうち、敷地や構造の安全に関する規定を解説する。 併せて、ブロック塀について確認する。	身近なまちのブロック塀を見て、基準に適合しているか確認してみよう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。
13	建築基準法 制度規定 1 (確認申請、検査、定期報告)	確認申請や定期報告等、建築基準法の手続規定について解説する。 併せて、手続に関与する建築士等のあり方について確認する。	実家の建物について、建築確認済証、検査済証があるか確認してみよう。なければ学校やビル、マンションのエレベータについて、定期検査報告済証があるか確認してみよう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポートしてください。



	14	建築基準法 制度規定 2 (仮設建築物、工作物等)	確認申請や定期報告等、建築基準法の手 続規定について解説する。 併せて、前半 7 回の重点項目を復習す る。	建築現場において「建築基準法による確認済」の表 示板を確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポー トしてください。
	15	建築基準法 制度規定 3 (その他関連法規)	住環境に関するその他の法律について 解説する。 併せて、15 回の授業のポイントについ て復習する。	住宅やマンションのチラシの中に書いてある内容 を確認してみましょう。 気が付いたことがあれば、写真とコメントでレポー トしてください。
関連科目	建築計画、建築設計など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基本建築基準法関係法令集 2024 年版	建築資料研究社/日建学院	建築資料研究社
	2	図説建築法規	小嶋和平	学芸出版社
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	小テスト 15%、中間テスト 30%、定期試験 40%、レポート 15%の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	建築法規は、人々が安全・安心で、快適に暮らしていくための知恵の集大成です。 建築物にまつわる事件に感心を持ち、自分の住む家や近所の建物や街をあらためて観察してみましょう。 授業で学んだ事例を身の回りでみかけたら、写真にコメントをつけて積極的にレポートを送ってください。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	講義に係る予習は不要。授業後は、学習した条文、参考書の部分、小テストを復習する (1.5 時間程度) 併せて、授業で紹介された事案について、身の回りで同様の事例がないか観察する。 気が付いたことがあれば、写真にコメントをつけてまとめておくといい。 尚、授業時間外での質問等についてはメールで対応するので、授業で通知されたメールアドレスに送信するといいい。			

科目名	住環境デザイン概論	科目名 (英文)	Introduction to Residential Environment Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 神 愛, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR1025a0		

授業概要・目的	住環境デザインを学ぶ導入として、住環境デザインの潮流を大づかみに把握し、住環境の諸要素とその性状を理解することによって、住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得することを目的とする。オムニバス形式の中で、建築設計や都市計画の実務経験を持つ教員が、建築やまち・都市がどのように創られているかについて実践的な授業を行う回がある。
到達目標	学生は住環境デザインの基本的考え方、技術の基礎を習得することができる。
授業方法と留意点	ICTツールを使用または活用する。オムニバス形式の講義中心授業である。場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義の内容に沿った課題を出題するので、毎回、期限までに提出すること。担当者によっては、講義時間内に小テストを行う場合があるので、注意すること。提出された課題や小テストの中で誤解や不正解の多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。
科目学習の効果 (資格)	住環境デザインにかかわる基礎的知識を身につける。 一級建築士、二級建築士、木造建築士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーター、2級建築施工管理技士など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	(イントロダクション) 地域と景観	地域に居住・生活する人間と景観との関係を、日本の伝統的コミュニティ、生業、景観保護の事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
2	自然の力をかりる環境技術と建築デザイン	自然の力をかりる古来の住宅から、最新の科学によって環境技術をデザインに融合させた現代・未来の建築例を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
3	人の感覚と住生活環境	住空間で五感を考慮する意味について考える。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
4	生活におけるおい・かおり	住空間におけるおい対策、かおりの活用をはじめと感覚に基づく環境デザインについて学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
5	住環境とパッシブデザイン	住環境におけるパッシブデザインの実例を建築家の作品を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
6	スマートウェルネス空間デザイン	SDGs、society5.0 時代における環境建築のあり方を考えるに当たり、ZEB (ゼロエネルギー建築)、健康配慮、知的生産性向上と、それに有効な人中心の環境設計の考え方について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
7	地球共生デザインから考えるモノとコトのデザイン	社会問題や環境問題、人と生態系の両方に「コト」と「モノ」両方からアプローチする地球共生デザインの在り方を実践例を通して考える。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
8	映画の中の住環境	様々な映画に見る日本・世界・未来の住環境デザイン、そこから現代生活環境との違いについて考えてみる。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
9	家族の変化と住まい	家族の変化と住要求の関係、時代の変化による世帯構造及び住まいの変容について学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
10	高齢者のための生活空間	高齢者の外出行動、生活環境の広がりと、求められる支援の仕組みについて事例を通して学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
11	学びと遊びの環境デザイン	発達段階にある子どもたちが多くの時間を過ごす学校の新しいデザイン事例を知り、人と空間との密接な関係を学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間) ・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)
12	環境配慮型デザインプロセス 1	伝統的住まいにおける気候風土に適した熱環境制御の作法から、環境に配慮したデザインプロセスを学ぶ。	・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)

				<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）</li> </ul>
	13	環境配慮型デザインプロセス2	環境配慮型デザインプロセスを省エネルギーの観点から現代建築に応用した例を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1 時間）</li> <li>・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）</li> </ul>
	14	野生動物との共存のデザイン	近年増加する獣害問題及び野生動物と人間が共存するための方策を、具体的事例を通して学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1 時間）</li> <li>・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）</li> </ul>
	15	住環境デザインと ICT	住環境デザインで用いられる空間情報技術（VR・AR・AI・GIS・BIM・デジファブなど）の活用事例を通して、仕組みと基礎知識を学ぶ。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課題・復習：授業範囲を復習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1 時間）</li> </ul>
関連科目	学科教育に関わる全ての専門科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の課題(10 点満点)を集計し、100 点満点に換算の上、評価する。			
学生への メッセージ	住環境デザインというものを大づかみに把握し、そのなかから興味ある領域を見出すように努力してほしい。			
担当者の 研究室等	住環境デザイン学科共通準備室 12 号館 7 階 樋口教授室、山根講師室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、 12 号館 6 階 坂本教授室			
備考	場合によって、担当教員の順番を入れ替えることがある。講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回 2 時間程度を目安とする。			

科目名	プロダクトデザイン論	科目名 (英文)	Product Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	稲地 秀介
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR2027a0		

授業概要・目的  
デザインとは問題解決プロセスを「計画」と「実行」の2段階に分け、前者の部分という。今日、我々が当然と思っているこの「計画」+「実行」というプロセスは近代の産業革命（工業化）とともに発明されたものであり、高々二百年程度の歴史しかない。とはいっても、この短い期間の中で、その方法論は多様な広がりを見せ、次々と新しいデザインを提出しつづけてきた。しかし、21世紀に入り、大量生産・大量消費の工業社会は行き詰まり、我々は社会そのものを作り変えるという新しい問題に直面した。これまでとは異なる方向へと「デザイン」の拡張が求められている。本授業では、このような新たに21世紀に求められる「デザイン方法」の基礎を今日のテーマ事例の考察を通して学ぶことを目的としている。

SDGs=4、9、11、12

到達目標  
・今日的なデザイン方法に関する基礎的知識を習得する  
・答えのない問題解決に向けた議論の構えを習得する。

授業方法と留意点  
・動画やTeamsなどの情報メディアや教育ツールを用いた授業とする場合がある。  
・学外見学やゲスト講師によるレクチャーを行う場合がある。  
・講義は授業計画に沿って行うが、学生の理解度および興味に合わせてフレキシブルに計画内容を修正しながら実施する。

科目学習の効果（資格）  
なし

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	デザインとは？	・授業概要の説明 ・アートとデザインはどう違うのか？	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
2	「デザイン方法」の概念整理	ジョン・クリス・ジョーンズの Design Methods を起点に古典的なデザイン方法論を概観し、デザイン方法発展の大きなフレームを理解する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
3	問題発見と調査分析①(プロダクトデザイン：調査・分析・評価)	プロダクトデザインの典型的なデザイン方法を事例に、問題発見から解決までの大まかなプロセスを知る。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
4	問題発見と調査分析②(プロダクトデザイン：脱・市場ニーズ主義への道程)	従来のマスコプロダクトデザインの抱える課題、次世代のプロダクトデザイン方法の展開について考察する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
5	インクルーシブ・デザイン (ユーザーとデザイナーの対等な関係が作る新しい可能性)	デザインによる排除は、市場原理等に加速されて社会的排除につながる可能性を孕んでいる。いくつかの事例からユーザーとデザイナーが対等な関係性の中でデザイン (参加型デザイン) することが生み出す可能性について考察する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
6	情報のデザイン ( InfoGraphics 、 UserInterface 、 UserExperience )	情報を視覚的に分かり易く伝えることに加えて、今日では美しく快適なユーザーと機器との相互的な情報交換体験をデザインすることが求められている。いくつかの事例から情報デザインの展開 (社会的要求と技術的応答) と今後の展望について考察する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
7	コミュニティー・デザイン (社会を持続可能な構造へと変える担い手は誰か?)	工芸家ウィリアム・モリスは、職人の手による壁紙に新しいデザインの世界を広げただけでなく、新しい工芸運動の一部として職人らの新しい生活環境を整えるという社会活動家としての側面もありました。ここでは、生活環境を維持し新しい生活文化として発展させてきた事例の学習を通して、現代的なコミュニティーデザインの在り方について考察します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
8	レジリエンス・デザイン (復旧なのか復興なのか? 生活か制度か? 誰がきめるのか?)	災害が多発する日本において、住環境のレジリエンスは大変重要な意味をもちます。阪神淡路大震災、東日本大震災の復興過程におけるいくつかの事例から、レジリエンス・デザインの方法と可能性について考察します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
9	アルゴリズムック・デザイン (モデル化による予測可能性と創造性)	近年、コンピュータの急速な発達によって、大規模なデータを取り扱うことができるようになり、従来では実行不可であった複雑なモデルを用いた予測・評価ができるようになりました。これは、我々が新しい創造のツールを手にしたといえます。このようなツールは新しいデザイン方法の発明に大きく貢献しています。いくつかのアルゴリズムック・デザイン手法の事例を通して、コンピュータを使ったデザイン方法について考察します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
10	学術研究のデザイン (既知の海と未知の海の泳ぎ方)	我々の日常生活から遠い存在であるように見える学術研究は、タイムラグがあ	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。

			るものの、実際には日常のさまざまな技術や判断を支えています。幾つかの事例を通して、学術研究の作法や構造の基礎を理解し、論理的に組み立て、議論するロジカルシンキングの基礎力を養うことを行います。	を整理する。
	11	デザイン方法の事例①(学外講師ショート・レクチャー)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	12	デザイン方法の事例①(分析・考察)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	13	デザイン方法の事例②(レクチャー)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	14	デザイン方法の事例②(学外講師ショート・レクチャー)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	15	講義のまとめ	学外講師レクチャーで学習したことをグループでまとめて発表します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
関連科目	インテリアデザイン演習、設計演習、デザイン方法演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「デザイン学概論」	石田 亨	共立出版
	2	「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 認知科学者のデザイン原論	D. A. ノーマン	新曜社
	3	コミュニティデザインの時代 - 自分たちで「まち」をつくる	山崎 亮	中央公論新社
評価方法(基準)	課題レポート(20%)、授業内ミニテスト(80%)のみで成績評価を行う。			
学生へのメッセージ	教科書は指定しないが、講義時に必要な資料を配布する予定。グループワークで評価を行うことがあるため提出物などに注意すること。			
担当者の研究室等	12号館7階 稲地准教授室			
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とし全15回で計60時間程度を行うこと。			

科目名	図形科学	科目名 (英文)	Graphics Science
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	榊 愛
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR1027a0		

授業概要・目的	図形の数学的な理解を基礎として、図形を読み解く力を養い、投影法に関する理解を深める。さらに、定規などを用いた演習を通して図形表現の基本的な技術を修得し、図形の幾何学的な特徴を理解するとともに空間把握力を培う。また3次元CADを用いて、コンピュータ上で3次元図形を表現するしくみと技術を学ぶ。
到達目標	学科の学習・教育目標との対応：住環境デザインに関わる基礎的知識・技術者倫理（専門コア群共通系の学習） 3次元空間にあるもの（建物や家具など）を2次元平面（紙やパソコンの画面など）に表現するための知識と技術を修得できる。
授業方法と留意点	1) 理解を深めるために、講義と演習を組み合わせる進行します。 2) ICTツールを活用します。詳細は第1回授業で説明します。 3) 一部の授業では、コンピュータを用いて授業を実施します。詳細は第1回授業で説明します。 4) 課題・理解度確認テストは、授業内で解説します。自己採点によって理解度を確認することで理解を深めます。

科目学習の 効果 (資格)	CAD利用技術者検定、建築CAD検定、CGエンジニア検定など。
------------------	---------------------------------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション 図形科学の概要 平面について	授業内容、持ち物、評価基準などについて説明する。 建築で使われる主な平面図形の幾何学的特徴を説明する。	配布プリントをよく読んで理解を深め、身の回りで活用されている平面図形の特徴について考察する。 (1.5時間)
2	立体	建築で使われる主な立体・空間曲線・曲面の幾何学的特徴を説明する。	配布プリントをよく読んで理解を深め、身の回りで活用されている立体図形の特徴について考察する。 (1.5時間)	
3	立体から平面へ：正投影	投影の分類について説明する。 さらに正投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形の三面図を描く。	配布プリントをよく読んで理解を深め、正投影図の課題を完成させる。(1.5時間)	
4	立体から平面へ：軸測投影	軸測投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形のアイソメ図を描く。	配布プリントをよく読んで理解を深め、アイソメ図の課題を完成させる。(1.5時間)	
5	立体から平面へ：標高投影	標高投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な地形図を描く。	配布プリントをよく読んで理解を深め、地形図の課題を完成させる。(1.5時間)	
6	立体から平面へ：斜投影	斜投影のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形のミラタリ図を描く。	配布プリントをよく読んで理解を深め、ミラタリ図の課題を完成させる。(1.5時間)	
7	立体から平面へ：透視投影 (1)	透視投影のうち2消点法のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、簡単な立体図形の透視図を描く。	配布プリントをよく読んで理解を深め、2消点パースの課題を完成させる。(1.5時間)	
8	立体から平面へ：透視投影 (2)	建築物の透視図を描く。	配布プリントをよく読んで理解を深め、建築物の2消点パースの課題を完成させる。(1.5時間)	
9	立体から平面へ：透視投影 (3)	透視投影のうち1消点法のしくみ、利用場面、作図方法について説明し、内観透視図を描く。	配布プリントをよく読んで理解を深め、インテリア1消点パースの課題を完成させる。(1.5時間)	
10	立体から平面へ：陰影	光線と陰影について説明し、作図する。	配布プリントをよく読んで理解を深め、陰影の課題を完成させる。(1.5時間)	
11	3DCADを用いた図形表現 (1)	CADの基本について説明する。 3DCADの基本操作について説明する。	配布プリントをよく読んで理解を深め、基本操作課題を完成させる。(1.5時間)	
12	3DCADを用いた図形表現 (2)	3DCADを用いた立体図形の作成・編集操作について説明する。	配布プリントをよく読んで理解を深め、3Dモデル作成課題を完成させる。(1.5時間)	
13	3DCADを用いた図形表現 (3)	3DCADを用いて、簡単な建物を作る方法について説明する。	配布プリントをよく読んで理解を深め、建物3Dモデル作成課題を完成させる。(1.5時間)	
14	3DCADを用いた図形表現 (4)	3DCADを用いて作成した図を効果的にプレゼンテーションする方法について説明する。	配布プリントをよく読んで理解を深め、建物プレゼンテーション課題を完成させる。(1.5時間)	
15	最終課題・理解度確認テスト	これまでの内容を踏まえた最終課題・理解度確認テストを実施し、解説する。	配布プリント・教科書をよく読んで復習しておく。 解説をふまえて再度課題をブラッシュアップする。 (1.5時間)	

関連科目	基礎設計演習、空間表現演習、設計演習など。
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サクサク学ぶ AutoCAD・SketchUp・Photoshop・Illustrator	榊 愛・風戸拓大・高橋 彰・松本 崇・牧尾晴喜	学芸出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしく学ぶ建築製図	松下希和, 長沖充, 照内創	エクスナレッジ
2	実用図学	阿部 浩和他	共立出版	
3				

評価方法 (基準)	小課題 (30%)、理解度確認テスト (50%)、最終課題 (20%) で評価する。
学生への	自分の思い描く空間を表現するための基礎が身につきます。積極的に取り組んでください。

メッセージ	
担当者の研究室等	12号館 7階 榊准教授室
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。

科目名	居住安全計画	科目名 (英文)	Planning for Safe Living
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	生田 英輔
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR2031a0		

授業概要・目的	建築設計や生活の質を考える場合、快適性・利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では、地震などの自然災害のみならず火災などの日常災害も対象として、そのメカニズムと防災・安全対策について講じ、建築や地域の設計・計画に応用させることを目的とする。
到達目標	建築設計・都市計画及び居住者の生活の質を考える場合、快適性、利便性に加えて安全性は欠くことのできない重要な要素のひとつである。本講義では、地震などの自然災害のみならず火災などの日常災害を対象としてそのメカニズムと防災・安全対策について講じ、建築・都市の設計・計画において、各種災害に対応できる計画手法を会得する。 このような観点から、以下の能力を身につけることを目標とする。 1. 住宅・建築物及び都市の居住空間における防災・安全の問題について説明できること。 2. 社会と災害・事故のメカニズムとの関係性を説明できること。 3. 生活者の視点での安全な居住空間を計画できること。
授業方法と留意点	各種の災害について、その発生メカニズムと被害の実態および対策について講義形式で解説する。資料を配付したり、写真や映像を用いてわかりやすく説明する。疑問点については授業時間内に積極的に質問すること。提出された課題に対してはフィードバックを行う。
科目学習の効果 (資格)	地域・都市計画や設計の演習において、防災・安全の視点を取り入れて取り組むことが可能となる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概論	講義の進め方、学習の意義について述べる。	事前学習は「近年の災害」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
2	地震災害1)	地震のメカニズム、地盤と震害	事前学習は「地震のメカニズム、地盤と震害」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
3	地震災害2)	建物被害、耐震	事前学習は「建物被害、耐震」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
4	地震災害3)	地震火災、津波、避難行動	事前学習は「地震火災、津波、避難行動」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
5	地震災害4)	人的被害、室内被害	事前学習は「人的被害、室内被害」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
6	地震災害5)	復旧、復興	事前学習は「復旧、復興」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
7	水害1)	高潮、風害、豪雨	事前学習は「高潮、風害、豪雨」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
8	水害2)	都市水害、避難	事前学習は「都市水害、避難」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内



				容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
	9	崩壊災害	斜面崩壊、土砂災害	事前学習は「斜面崩壊、土砂災害」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
	10	雪氷災害	雪害、耐雪住宅	事前学習は「雪害、耐雪住宅」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
	11	平常時火災1)	出火、延焼	事前学習は「出火、延焼」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
	12	平常時火災2)	防火計画、避難	事前学習は「防火計画、避難」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
	13	日常生活事故1)	日常災害、建築災害	事前学習は「日常災害、建築災害」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
	14	日常生活事故2)	住宅内事故、高齢者対応	事前学習は「住宅内事故、高齢者対応」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
	15	犯罪	環境防犯設計	事前学習は「環境防犯設計」の講義資料を学習し講義に臨むこと。加えて、関連する書籍、WEBサイト等を学習すること。国内外で突発的に災害や事故が発生した際は報道情報を参照すること。事前学習には2時間を要する。事後学習は講義資料を整理、確認した上で、近年の災害事例と関連づけて講義内容を理解すること。事後学習には2時間を要する。
関連科目	設計演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験では各種災害のメカニズムや被害および防災・安全対策について正しい理解がなされているかを評価する。授業期間中に課すレポート課題では、近年の災害被害とその対策について正しい理解がなされているかを評価する。 評価の比重はまとめ(定期試験)70%、授業期間中に課すレポート課題30%とする。			
学生への メッセージ	積極的に質問すること。質問には学内メールを利用すること。 国内外の災害事例の報道情報や記録を参照し、災害への理解と深め、将来的には対策を立案できるよう努力すること。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	講義に係る予復習は、毎回2時間程度を目安とする。			

科目名	都市環境計画	科目名 (英文)	Urban Environmental Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧・川田 隆之・谷口 浩一郎
ディプロマポリシー(DP)	D②		
科目ナンバリング	TDR2030a0		

授業概要・目的	本講義では、2年次「住環境設備」までに学んだ基礎的な知識や考え方をベースに、建築が抱える地球環境や都市環境等の諸問題との関係性を学んだ上で、空調設備、電気設備に関する技術や省エネルギー手法などを幅広く講述する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築が抱える地球環境・都市環境等の諸問題との関係を説明でき、改善例を提示できる。</li> <li>・空調設備に関する専門知識を知り、実務に応用できる技術の基礎を修得する。</li> <li>・都市や建物レベルの電気設備の基礎的知識を習得する。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業形態は講義中心であるが、原則として毎回、小演習を課す。 授業中、講義の要点をノートに取ることを。ノートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	建築環境・設備系の設計・施工等、実務に応用できる基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境問題と建築設備2 (都市環境問題)	都市環境の定義や諸問題、およびヒートアイランド現象について講述する。	ヒートアイランドについて各自調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
3	環境問題と建築設備3 (省エネルギーとパッシブデザイン)	環境配慮型デザインプロセスに基づく都市・建築のパッシブデザイン手法について事例を交えて講述する。	身近なパッシブデザインについて調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
4	空調設備1 (現代空調設備の傾向)	現代の空調設備に関する概説、基礎的な住環境設備の知識・理解度の確認	参考書「第3章 空気調和設備」について予習・復習のこと
5	空調設備2 (熱源機器)	高効率、モジュール型等、最新熱源機器について (事例を交えて)	参考書「第3章 空気調和設備」の熱源機器を予習・復習のこと。
6	空調設備3 (空調機)	空気調和機二次側設備について (事例を交えて)、最近の多種多様な直膨パッケージエアコンの紹介	参考書「第3章 空気調和設備」の空調機器を予習・復習のこと。
7	空調設備4 (配管の全体システム)	主要空調機器に付帯するポンプと配管、全体システムについて (事例を交えて)	参考書「第3章 空気調和設備」の配管設備を予習・復習のこと。
8	空調設備5 (ダクトの全体システム、換気設備)	ダクトと送風機について (事例を交えて)、換気設備の重要性について (事例や失敗談を交えて)	参考書「第3章 空気調和設備」のダクト設備を予習・復習のこと。
9	空調設備6 (産業用空調)	産業用空調の概説、加湿と除湿についての応用、クリーンルームの概説・事例	参考書「第3章 空気調和設備」の産業用空調を予習・復習のこと。
10	電気設備1 (電気設備の基礎)	電圧、電流、抵抗、オームの法則、直流と交流の違い、配線方式 (単相3線式、3相3線式、3相4線式)、絶縁、接地の必要性について講述する。	教科書を読み、予習しておくこと。講義終了後、配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。講義後、小演習を実施して解説する。
11	電気設備2 (発電配電設備)	電気の流れ、発電所の仕組み、送電線、変電所、最近の停電事例、電力会社から家庭やビルへの受電方式について一部動画を交えて講術する。	電気の流れについて、各自調べて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
12	電気設備3 (ビルの電気設備)	ビルの電気設備 (受電方式、受変電設備、蓄電池、自家発、幹線設備、動力設備、照明コンセント設備、防災設備等) について講述する。また、実際の建築工事、電気設備について紹介する。	ビルを構成する電気設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
13	電気設備4 (日本のエネルギー事情と電気設備の省エネルギー・リニューアブル)	日本のエネルギー事情、電気設備の省エネルギーとリニューアブル事例紹介、再生可能エネルギーについて講述する。	電気設備の省エネルギー、再生可能エネルギーについて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
14	電気設備5 (電気設備に関わる仕事と資格、図面の紹介)	電気設備に関わる仕事と資格について講述し、電気設備の図面例、施工写真の紹介する。	電気設備に関わる仕事、関連法規、資格について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返 (整理) して復習すること。
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う。	講義内容全般にわたって復習しておくこと。

関連科目 住環境工学A、住環境工学B、住環境設備、環境設備計画B、環境工学演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜紹介する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新建築設備工学 (改訂2版)	田中俊六監修	井上書院
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回行う小演習 40%、まとめテスト 60%で総合的に評価する
学生への	遠慮なく積極的に質問すること

メッセージ	
担当者の研究室等	12号館 7階 大橋研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・講義に係る予習・復習は、合計で60時間（各回4時間）を目安とする</li><li>・非常勤講師への授業時間外の質問はメールにて受け付ける（メールアドレスは授業内で提示する）</li></ul>

科目名	住環境工学A	科目名 (英文)	Environmental Engineering for Living A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR1033a0		

授業概要・目的	屋内空間の熱・空気環境を安全で健康、しかも快適な状態に保つため、環境の状態を把握する能力や、人と環境との関係を理解できる能力を修得することを旨とし、熱・空気環境に関する基礎的知識について学ぶ。人が感じる暑さ寒さの指標や、壁や窓を通して屋外と屋内を行き来する熱に対する考え方、屋内空気の清浄度に関する基準や適切な換気の方法、湿気と結露とその対策方法、環境デザインと省エネの両立などについて取り上げる。
到達目標	建築環境工学における熱環境・空気環境に関する基礎的知識を修得すること。
授業方法と留意点	身近な現象と教科書の知識とを繋げて理解するように心掛けること。授業進行は、その点に留意して進行するほか、確認のための小テストや演習問題を実施する。 授業の形式 (講義)
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	住環境と熱・空気	環境構造の中の住環境、外界の気象、環境と人の関係、住環境工学と省エネ	教科書をよく読んで復習すること。講義中は要点をノートにとること。
2	空気環境と室内空気質	空気汚染物質、シックビル症候群	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
3	必要換気量と換気方式	換気回数、必要換気量、機械換気の換気方式	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
4	重力換気と風力換気、臭気対策	自然換気の利用と計算、臭気対策の基本的考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
5	人体の熱平衡	人体の熱収支、顕熱と潜熱	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
6	伝熱の基礎と温熱四要素	伝熱3態 (伝導、対流、放射)、温熱四要素 (温度、湿度、気流、放射)	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
7	人体に関わる温熱環境指標	作用温度、有効温度、PMV などの指標の特徴	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
8	日照と日射	日射と熱環境、太陽位置	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
9	建物と日射	日影の考え方、建物と日射量の関係	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
10	建物の熱性能①	建物における熱伝導、熱伝達、熱放射の計算	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
11	建物の熱性能②	熱貫流の計算と、壁体内の温度分布	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
12	建物の熱性能③	換気による熱負荷、熱容量の考え方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
13	湿り空気線図	湿気概念、湿り空気線図の使い方	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
14	湿気と結露	壁体内の結露、結露対策	教科書とノートによる予復習を十分に行うこと。講義中は要点をノートにとること。
15	講義のまとめ	講義のまとめと補足	試験に備えて、教科書の復習とノートを整理しておくこと。

関連科目 住環境工学B 環境工学演習 住環境設備 環境設備計画 AB スタジオ

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	図説建築環境	松原斎樹他	学芸出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	環境工学教科書	環境工学教科書研究会	彰国社
2	図説テキスト 建築環境工学	加藤信介他	彰国社
3	生活環境学	岩田利枝他	井上書院

評価方法 (基準)	定期試験 (60%) と演習問題類 (40%) の総合評価
学生へのメッセージ	教科書を初回から必ず持参すること 積極的な質問など、前向きな取組みを期待する
担当者の研究室等	12号館7階 竹村講師室
備考	講義に係る予復習は、毎回1時間30分程度を目安とする

科目名	住環境工学B	科目名 (英文)	Environmental Engineering for Living B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	樋口 祥明
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2034a0		

授業概要・目的	建築空間の光環境と音環境について、人間の生理的・心理的反応と物理条件に着目しながら、建築計画や環境計画において知っておくべき基礎的要件と設計・計画に応用するための解析法や評価法についての知識を学ぶ。光環境については、太陽の動きと日照・日影の問題、人工照明による照明設計手法など、音環境については、音の伝搬等の基本特性、騒音の評価と防止、音響計画の手法について学ぶ。
到達目標	1. 光環境に関する各種要素の概要・特徴を説明することができる (知識) 2. 光環境に関する各種要素の物理・化学的な構成を説明することができる (知識) 3. 光環境に関する知識を活用し、室内外の環境を評価できる (技術) 4. 音環境に関する各種要素の概要・特徴を説明することができる (知識) 5. 音環境に関する各種要素の物理・化学的な構成を説明することができる (知識) 6. 音環境に関する知識を活用し、室内外の環境を評価できる (技術) 7. 住環境に関する実現象をモデル化し評価した上で、都市・建築のサステナブル環境、省エネルギー・健康配慮建築の設計・施工などのものづくりに活用できる (技術) 8. 住環境に関する新しい情報や知識を取得する意欲を持ちつづけることができる (態度)
授業方法と留意点	授業テーマに関して、日頃から問題意識を持って生活することが望ましい。 毎回、課題を出すので、教科書、参考書、ネットで調べるなどして、自主的に学習してください。 必ず、期日までに課題を提出すること。後日、正解およびコメントを示します。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、インテリアプランナー、建築設備士

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	住環境工学の概略	住環境工学を学ぶ意味、環境4要素等について講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	2	日照・日影・日射	太陽からのエネルギー、太陽の動き、日影の検討、日射との関係について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	3	光環境の基本①	照明の基本的な考え方：目の構造・視覚・測光量について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	4	光環境の基本②	照度、輝度等測光量の考え方について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	5	採光と照明①	自然採光手段、採光量の評価について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	6	採光と照明②	照明器具と照明計画について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	7	色彩	色の概要、色彩計画について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	8	光環境への配慮	光環境に配慮した計画についてグループ討議・課題提出	講義の復習とともに、生活環境における光に関する課題と対策の事前検討を行う (復習60分、事前検討60分)
	9	音環境の基礎	音波とは、音の物理量、レベル表示について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	10	聴覚	音感覚、音の伝搬 (距離減衰、回折等) について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	11	音の性質①	音の反射・吸収・透過、室内の音場、残響について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	12	音の性質②	吸音と吸音材料、遮音と遮音材料について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	13	音響計画	音響障害と防止策、最適残響時間、室形状、材料の検討について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	14	騒音評価	騒音レベル・基準と騒音対策、環境振動について、予習状況の確認・講義・課題提出	教科書の講義部分を読んで予習・復習をする (予習・30分、復習90分)
	15	音環境への配慮 環境設計事例	音環境配慮の計画についてグループ討議 環境配慮設計の事例に関する講義・課題提出	講義の復習とともに、生活環境における音に関する課題と対策の事前検討を行う (復習60分、事前検討60分)、試験の準備をすること

関連科目 住環境工学A、環境工学演習、住環境材料学、住環境設備

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書 第三版	日本建築学会	彰国社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築・環境音響学	前川純一ほか	共立出版
	2	大学課程 建築環境工学	伊藤克三ほか	オーム社
	3	見る・使う・学ぶ 環境建築設計論	日本建築学会編	技報堂出版

評価方法 (基準)	毎回の課題提出 45%、および定期試験 55%により評価する
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容に沿って、予習復習を心がけてください。</li> <li>・講義の途中でも疑問の点があれば積極的に発信してください。</li> <li>・スマートフォン、関数電卓等、定規類を手元に用意しておいてください。</li> </ul>
担当者の 研究室等	12号館7階 樋口教授室
備考	講義に関する予習・復習は、毎回2時間程度を目安とします。予習・復習の要点は講義中またはT e a m sで連絡しますので確認するようにしてください。

科目名	住環境設備A	科目名 (英文)	Building Services A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久, 大橋 巧
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2033a0		

授業概要・目的	建築環境設備には空気調和設備、給排水衛生設備、電気設備などがある。近年の建築や都市に関わる環境問題を背景として、講義では建築設備を広く住環境全般からとらえ直し、建築設備の基礎的な知識や考え方の修得を目的とする。
到達目標	建築設備工学に関する基礎的知識の修得およびその知識を説明できる
授業方法と留意点	原則として毎回、小演習を課す 授業中、講義の要点をノートに取る。ノートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概論 (教科書 第1章)	建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題	教科書を読んで予習しておく。
2	空気調和設備 (1) (教科書 第3章 1.2.)	空気調和の概要 空気調和方式の種類と特徴	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
3	空気調和設備 (2) (教科書 第3章 3.4.)	空気調和設備の計画 冷暖房負荷計算法	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
4	空気調和設備 (3) (教科書 第3章 5.6.)	湿り空気線図と空気調和プロセス 空気調和機	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
5	空気調和設備 (4) (教科書 第3章 7.8.)	冷温熱源機器 熱搬送機器	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
6	空気調和設備 (5) (教科書 第3章 9.10.13.)	配管設備の計画・設計 ダクト設備の計画・設計 換気・排煙設備	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
7	建築設備の見学	学内の設備機械室・屋上等に設置してある建築設備を見学する。	1~6回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
8	前半講義のまとめテストと解説	前半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	1~7回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
9	給水設備	給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
10	排水・通気設備	排水の考え方と通気設備の必要性	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
11	衛生器具・排水処理設備	衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
12	消火・防災設備 (1)	消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
13	消火・防災設備 (2)	特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
14	電気・搬送設備	電気・搬送設備の概要と基礎知識	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
15	後半講義のまとめテストと解説	後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。

関連科目	住環境工学A、住環境工学B、環境工学演習、環境設備計画A、環境設備計画B、スタジオ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新 建築設備工学 (改訂2版)	田中俊六監修	井上書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の小演習 40%、まとめテスト 60%を総合的に評価する
学生へのメッセージ	教科書を持参すること 遠慮なく質問すること
担当者の研究室等	12号館7階 大橋研究室、竹村研究室
備考	予習復習は配布資料、教科書についての通読をこれに当てること (計60時間)

科目名	住環境設備B	科目名 (英文)	Building Services B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧, 担当者未定, 松下 直幹
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR3034a0		

授業概要・目的	本講義は3年次前期の「環境設備計画A」に引き続き、衛生設備に関する技術の習得、および今後の脱炭素社会における環境配慮建築、環境共生建築を考える上で欠かせない、空調設備のコミッショニング技術や環境関連技術の基礎を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生設備に関する専門知識を知り、実務に応用できる技術の基礎を修得する。</li> <li>空調自動制御とコミッショニングに関する専門知識を知り、実務に応用できる技術の基礎を修得する。</li> <li>エネルギーと建築・都市設備の関係を知り、脱炭素社会において必要な環境配慮技術の基礎を修得する。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業形態は講義中心であるが、原則として毎回、小演習を課す。 授業中、講義の要点をノートに取ることを求めることがある。 第1～5回の給排水衛生設備の講義に関しては、建築設備分野の第一線で活躍するゲスト実務者によるレクチャーを予定している。
科目学習の効果 (資格)	建築環境・設備系の設計・施工等、実務に応用できる基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	給排水衛生設備 1 (給排水衛生設備概要・給水設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>給排水衛生設備の概要</li> <li>各種給水方式について</li> <li>給水汚染の原因と対策</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
2	給排水衛生設備 2 (給湯設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種給湯方式と給湯機器</li> <li>給湯設備の安全対策</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
3	給排水衛生設備 3 (排水通気設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種排水通気方式</li> <li>トラップの種類と機能、破封原因と対策</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
4	給排水衛生設備 4 (衛生器具・排水処理・雨水利用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種衛生器具と節水対策</li> <li>浄化槽、排水再利用設備、雨水利用設備</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
5	給排水衛生設備 5 (消火設備・ガス設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火設備の種類</li> <li>屋内消火栓設備、スプリンクラー設備</li> <li>ガスの種類と安全装置</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
6	空調設備とコミッショニング 1 (省エネルギーと空調自動制御の概要)	建物の省エネを推進する上で必要となる空調自動制御の概要を講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
7	空調設備とコミッショニング 2 (空調自動制御の基本)	空調用熱源・空調機の装置の概要説明と自動制御の基本動作について講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
8	空調設備とコミッショニング 3 (空調自動制御による省エネルギー手法)	空調用熱源・空調機の制御による基本的な省エネ手法について講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
9	空調設備とコミッショニング 4 (コミッショニングプロセスの概要)	省エネルギー性能の検証プロセスである「コミッショニングプロセス」の概要、実施する意義、必要な技術などを実施事例を交えながら講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
10	エネルギーと建築・都市設備 1 (エネルギーとは)	エネルギー資源と安全保障、エネルギー消費の副産物、エネルギーの捉え方について	参考書「第1章 概論」について予習・復習のこと
11	エネルギーと建築・都市設備 2 (都市のインフラ)	都市のインフラ整備、非常時のインフラ機能、都市のエネルギー供給システム、地域冷暖房システムについて	参考書「第1章 概論」について予習・復習のこと
12	エネルギーと建築・都市設備 3 (建築・都市の環境整備)	建築・都市の営みに起因する環境負荷、環境評価について	参考書「第1章 概論」について予習・復習のこと
13	エネルギーと建築・都市設備 4 (省エネルギーとアクティブデザイン)	最新のアクティブデザイン手法について事例を交えて講述する。	住環境設備を振り返り、設備に関する予習をしておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
14	エネルギーと建築・都市設備 5 (省エネルギーとマネジメント)	都市スケールの大学キャンパスをテーマに、省エネルギーマネジメント手法について講述する。	住環境設備を振り返り、設備に関する予習をしておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う。	講義内容全般にわたって復習しておくこと

関連科目	住環境設備 A、住環境工学 A、住環境設備、環境設備計画 A、環境工学演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜紹介する		
	2			
	3			



参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新建築設備工学（改訂2版）	田中俊六監修	井上書院
	2	空気調和・衛生設備の知識	空気調和・衛生工学会	オーム社
	3			
評価方法 (基準)	毎回行う小演習 40%、まとめテスト 60%で総合的に評価する			
学生への メッセージ	積極的な質問など、前向きな取組みを期待する			
担当者の 研究室等	12号館7階 大橋研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に係る予習・復習は、合計で60時間（各回4時間）を目安とする</li> <li>・非常勤講師への授業時間外の質問はメールにて受け付ける（メールアドレスは授業内で提示する）</li> </ul>			

科目名	住環境材料学	科目名 (英文)	Housing Materials
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	柳橋 邦生
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2037a0		

授業概要・目的	建築物を構成する建築材料には、身近な天然材料やその加工品、複雑な工程で作られる工業製品など様々なものが使われています。それぞれの材料が受け持つ機能（構造的な安全性、快適性、景観融和性など）や、その地域の文化・歴史を伝承する役割も担うものもあり、この授業では住環境を構築する材料に関する基礎知識を習得していただきます。対象とする建築材料は、木材、鋼材、コンクリートといった構造材料から、石材、ガラス、粘土焼成材料、左官材料などの仕上げ材とし、その基本的な物性、力学的性質や耐久性、部位別の要求性能について説明した上で、適材適所な使い方について考えていただきます。
到達目標	建築を設計・施工・運用する際に必要となる適切な材料選択のための基礎知識を習得するほか、材料的な側面からの建築物の要求性能を理解し、活用できることを目標とします。
授業方法と留意点	原則、Teams を用いたオンライン形式の授業となります。 ただし、初回（第1回）は教室での対面講義、最終回（第15回）は演習形式とします。
科目学習の効果（資格）	一級建築士、二級建築士の指定科目（建築材料2単位）

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	建築材料・概論	本講義に関するガイダンス 建築材料の種類と使われ方	事前：自室の建材を調べる 事後：建築材料の分類に関する設問
2	木材（1）	木質材料の種類と特徴、力学的性能	事前：木造建築物の検索 事後：木質材料の性質に関する設問
3	木材（2）	木質材料の組織と加工法、規格	事前：製材の JAS 表記の事例検索 事後：集成材の JAS 表記の事例検索
4	コンクリート（1）	コンクリートの概要、構成材料	事前：コンクリート建築物の検索 事後：混和材料に関する設問
5	コンクリート（2）	コンクリートの性質、調合、種類	事前：受入検査における試験項目に関する設問 事後：コンクリートのひびわれ対策に関する設問
6	コンクリート（3）	コンクリートの規格、製造、施工	事前：生コン発注時の指定項目に関する設問 事後：プレキャストコンクリート・プレストレストコンクリートに関する設問
7	鋼材（1）	鋼材の概要、種類と特徴	事前：鋼構造建築物の検索 事後：鋼材の成分や性質に関する設問
8	鋼材（2）	鋼材の規格、非鉄金属	事前：鋼材の腐食に関する設問 事後：建築用の鋼材の種類に関する設問
9	焼成品	鋼材の規格、非鉄金属	事前：タイルやレンガを使用した建築物の検索 事後：焼成品に関する設問
10	ガラス・石材	タイル、レンガ、瓦の概要	事前：ガラスや石材を使用した建築物の検索 事後：ガラス・石材に関する設問
11	左官材料・ボード類	モルタルや漆喰、セメント系ボードや石膏ボードの概要	事前：左官材料に関する設問 事後：ボード類に関する設問
12	プラスチック・塗料	熱硬化性プラスチックや熱可塑性プラスチック、塗料の概要	事前：プラスチックに関する設問 事後：塗料に関する設問
13	機能別材料	床材やクロス、天井材、防水材料、防火・耐火材料、断熱材、吸音材の概要	事前：床・壁・天井の仕上げ材に関する設問 事後：防水・防火・耐熱・耐火・防音・吸音材料に関する設問 (総合演習の準備)
14	建築材料と環境	建築材料と資源循環、CO2削減	事前：環境に配慮して建築材料を選ぶ際のキーワード抽出 事後：講義の聴講を通じて得られた気づきを短文で記述 (総合演習の準備)
15	総合演習（グループワーク）	10 班程度のグループに別れ、リフォームの際の材料選定について討論	事前：総合演習の準備としてリフォーム事例の事前調査（グループワークに反映） 事後：グループワークを通じて得られた気づきを短文で記述

関連科目	建築構造学・構法に関する科目一般
------	------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 図説やさしい建築材料	松本 進	学芸出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	レポート(45%)と期末試験(55%)。
学生へのメッセージ	基本的に教科書に沿って授業を行います。必要に応じて補足資料を用意します。各回の講義終了後に使用した講義資料は参照できるように Teams のフォルダーに保存しますので、復習用に活用してください。
担当者の研究室等	初回と最終回を除いてオンライン形式の講義ですので、普段は不在です。Teams 以外で連絡を取りたい場合は、12 号館 6 階の住環境デザイン学科 共通準備室に相談してください。
備考	事前・事後学習はネット検索や教科書や講義資料の確認により、60～90 分程度かけて学習すること。

授業計画の順序や内容は必要に応じて変更することがあります。

科目名	構造デザイン論	科目名 (英文)	Structural Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	白鳥 武
ディプロマポリシー (DP)	D⑩		
科目ナンバリング	TDR2038a0		

授業概要・目的	我々人類の建築行為における構造デザインの変遷を理解し、構造デザインについての基礎知識・能力と実践的な応用力の核となる要素への理解を取得する。将来、建築設計、構造設計、設備設計、現場技術者、ハウスメーカー、建築材料の分野など、活躍の場は幅広いが、どの分野に進むにしても、基本となる知識が含まれているので、それらを習得する。その時代時代のニーズや持続可能な住環境のために、人類はどのように広さ、長さ、高さを求めて新しい材料やそれを取り巻く技術革新に取り組んできたのか、その成功例だけでなく失敗例も含めて考えていく。建築設計及び木質構法開発研究に従事した実務経験を持つ教員が、構造デザインを多角的な視野で紐解いていく。
到達目標	建築構造デザインの源流と本質を理解する。広さ、長さ、高さを克服するための構造デザインの基礎、構造システムを理解する。材料の利用・生産方法から構造システムが生まれる歴史の変遷等の多様な要素を理解し、これからの新しい材料・求められる構造デザインについても、どの様に活用すべきかを適切に考えられ、構造デザインとはどうあるべきか、その創造性につながる基礎力を養う。
授業方法と留意点	授業は教科書、スライド (PPT)、板書を使い講義形式、及び学生 2 名～3 名程度でグループを作り、教科書の内容を分担して、まとめ、解りやすく発表を行う参加形式とする。また発表内容に対して質疑応答が設けられ、理解度や応用力への確認を行う。 授業内容の範囲・順序は進捗状況により変動する為、変更がある場合は教員の指示に従うこと。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	日本の木造と木構法、その他 II 鉄の歴史	古典的材料の鉄～近代的構造材料の鉄鋼	事前: 教員 PPT や教科書の該当部分を読むこと。 1-3 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
3	コンクリートの歴史	古典的～近代的構造材料のコンクリートの変遷	事前: 該当部分を読むこと。 1-4 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
4	構造システム前史	広さ、長さ、高さへの挑戦	事前: 該当部分を読むこと。 1-5 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
5	第 2 章 構造システムのタイプ (その 1)	抵抗系別の構造システムその 1	事前: 該当部分を読むこと。 2-1～2-3 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
6	構造システムのタイプ (その 2)	抵抗系別の構造システムその 2	事前: 該当部分を読むこと。 2-4～2-6 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
7	第 3 章 「広さ」を可能にする構造デザイン	大スパン建築の変遷	事前: 該当部分を読むこと。 3-1 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
8	大スパン建築の種類と構造システム (その 1)	トラス、スペースフレーム、アーチ、ドーム	事前: 該当部分を読むこと。 3-2-1～3-2-3 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
9	大スパン建築の種類と構造システム (その 2)	シェル、テンション構造と膜構造、ハイブリッド、その他	事前: 該当部分を読むこと。 3-2-4～3-2-6 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
10	大スパン建築の設計	大スパン建築の実例紹介	事前: 該当部分を読むこと。 3-3 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
11	第 4 章 「長さ」を可能にする構造デザイン	橋の変遷	事前: 該当部分を読むこと。 4-1 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
12	橋の種類と構造システム	橋の形式と適用スパン、橋の構成と主要な部位、石橋～斜張橋等	事前: 該当部分を読むこと。 4-2 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
13	橋の設計	橋の設計事例紹介	事前: 該当部分を読むこと。 4-3 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
14	第 5 章 「高さ」を可能にする構造デザイン	塔の変遷、塔の種類と構造システム、塔の設計	事前: 該当部分を読むこと。 5-1～5-3 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。
15	高層ビルと超高層ビル	高層ビルの変遷、高層ビルの種類と構造システム、実例	事前: 該当部分を読むこと。 5-4～5-6 事後: ミニテスト (MOODLE) を受けること。

関連科目	構造力学入門、構造力学 I、II、建築一般構造学
------	--------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	[広さ][長さ][高さ]の構造デザイン	坪井善昭、等編著	株式会社建築技術
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名

	1	建築構造のしくみ 第二版 力の流れとかたち	川口 衛 他	彰国社
	2	図説テキスト 建築構造 - 構造システムを理解する - 第二版	建築構造システム研究会編	彰国社
	3	Structures. Seventh Edition	Daniel L. Schodek, Martin Bechthold	Pearson Education, Inc.
評価方法 (基準)	①授業内容確認課題 20% (グループ別または個別ミニテスト) ②グループ課題 50% (PPTを利用してグループ毎に教科書指定範囲を読み解いてまとめ、発表・提出、その後自身の発表に関する応用問題へのグループ解答を含む) ③最終課題 30% (個別レポート) 計 100% ※各課題の評価配分は進捗状況、内容変更などに伴う難易度等により変動することがあります。			
学生への メッセージ	構造デザインは本来楽しいものです。建築の可能性を広げてくれる重要な学びです。計算ではなく、様々な構造システムの原理と特性を創造豊かに考えてみましょう。我々人類の歴史と共に、一歩ずつ歩んできた材料の発見と使い方としての構法、そしてその失敗を重ねて導いた新しい構造システムを理解しましょう。そして最後、たくさん他発表を聞いて、各自の「構造デザインとは何か」という問いに持論を確立しましょう。			
担当者の 研究室等	12号館7階 白鳥 武 准教授 教員室			
備考	講義に係る予復習は、毎回90分程度を目安とします。 必ず授業の流れ・進行状況に沿って、該当する教科書を読み、確認ミニテストを含め90分以上費やすこと。積重ねが重要です。 ①理解度確認として、授業内から出題する課題は毎回グループ毎発表内容や教科書をもとにしたミニテストをMOODLEにて出題し、正答が後日MOODLEにて確認できるようにしているので採点結果を確認すること。 ②ミニ課題はPPTによる班別内容発表直後に、事前に伝えられた評価ポイントを基準に評価します。(オンラインでは通信障害が発生す			

科目名	ランドスケープデザイン論	科目名 (英文)	Landscape Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	下村 泰彦, 稲地 秀介
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2039a0		

授業概要・目的	本講義は、都市圏や自然地域における各種の緑地空間を対象としたランドスケープデザインを理解するための基本となる知識と理論、デザイン手法と技術を学ぶことによって、一連のランドスケープデザイン・プロセスの習得と豊かな発想力を養うことを目標とする。
到達目標	(1) ランドスケープデザインの基本的な計画プロセスとデザイン手法を説明できる。 (2) 植栽デザインの考え方や緑化材料の基本的事項を説明できる。 (3) 景観デザインや空間デザインの基本的考え方を説明できる。 (4) 緑地空間における問題点や課題を抽出でき、その解決方法を総合的に表現できる。
授業方法と留意点	講義内容に応じたプリントを配布する。授業方法はプロジェクターを主とし、板書で補足する。プリントは資料であるので、授業内容をしっかりとメモすること。学外での見学を実施する予定である。講義日について、2024年6月1日(土)に、学外視察日を予定している。この現地視察は、講義3回分として実施する。したがって、教室での講義回数は、12回となる。教室での講義実施日は、第1回目の講義時に伝える。学外講師によるレクチャーを開催する場合がある。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ランドスケープデザインの基本的アプローチ	ランドスケープデザインの概念的枠組みおよび基礎的事項について概説する。人間行動、自然的要素、時間軸の関係性について考える。	事前：ランドスケープデザインの概念的枠組みや基本的事項について予習する。 事後：講義後には、配布資料を用いて理解を深める。 (合わせて90分程度)
2	西洋庭園様式の変遷と庭園デザイン (1) 古代～中世の庭園	西洋庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・屋上緑化の起源 ・中庭式庭園、パティオ	事前：西洋庭園について学習しておく。 事後：講義後は、庭園デザインについて復習するとともに、そこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。 (合わせて90分程度)
3	西洋庭園様式の変遷と庭園デザイン (2) ルネサンス以降の庭園	西洋庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・幾何学式庭園と自然風景式庭園のデザイン ・水を使ったデザイン	事前：西洋庭園について学習しておく。 事後：講義後は、庭園デザインについて復習するとともに、そこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。 (合わせて90分程度)
4	日本庭園様式の変遷と庭園デザイン (1) 奈良時代～鎌倉時代の庭園	日本庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・環境心理学の応用 (錯視)、サーキュレーション ・自然修景手法と植栽樹木	事前：日本庭園について学習しておく。 事後：講義後は、庭園デザインについて復習するとともに、そこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。 (合わせて90分程度)
5	日本庭園様式の変遷と庭園デザイン (2) 室町時代以降の庭園	日本庭園の変遷について説明するとともに、各時代の庭園デザインを読み解く。 ・遠近法、借景等のデザイン ・自然修景手法と植栽樹木	事前：日本庭園について学習しておく。 事後：講義後は、庭園デザインについて復習するとともに、そこに用いられていたデザイン手法を整理することによって、現在のデザインに応用できるよう習得する。 (合わせて90分程度)
6	ランドスケープデザインの計画・設計プロセス(1) ・公園緑地・オープンスペースの計画・設計プロセス	ランドスケープ・デザインにおける計画・設計の枠組みを説明する。	事前：講義前には、ランドスケープ・デザインにおける計画・設計の枠組みを学習しておく。 事後：講義後は、都市空間や居住空間、都市公園等におけるデザイン・プロセスについて復習する。(合わせて90分程度)
7	ランドスケープデザインの計画・設計プロセス(2) ・敷地分析と敷地計画手法	ランドスケープデザインの計画・設計プロセスにおける敷地分析と敷地計画手法を解説する。	事前：ランドスケープデザインの計画・設計プロセスにおける敷地分析と敷地計画手法を予習する。 事後：復習の際は、今後の計画。設計に応用できるようにまとめる。 (合わせて90分程度)
8	都市空間の現地視察・1 (学外見学)	都市空間に実際に出向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。	事前：調査対象地区の概要を事前に調査しておく。 事後：視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。 (合わせて90分程度)
9	都市空間の現地視察・2 (学外見学)	都市空間に実際に出向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。	事前：調査対象地区の概要を事前に調査しておく。 事後：視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。 (合わせて90分程度)
10	都市空間の現地視察・3 (学外見学)	都市空間に実際に出向き、対象地域が保有する履歴を把握するとともに、空間配置や植栽デザインなど、トータルなランドスケープデザインについて概観し、解説する。	事前：調査対象地区の概要を事前に調査しておく。 事後：視察後には空間構成やデザイン等についてまとめる。 (合わせて90分程度)
11	ランドスケープデザインの計画・設計プロセス(3) ・植栽計画手法	都市景観形成を「緑」から考える。 ・植栽樹木の特性や樹種選定の方法、配植方法といった植栽デザイン (planting design) の基本的考え方について説明する。	事前：ランドスケープデザインに関わる植栽計画について予習する。 事後：復習では、配布資料を用いて、計画・設計時に応用できるように学習すること。 (合わせて90分程度)

	12	ランドスケープデザインの計画・設計プロセス(4) ・公園づくりの視点・現況分析	ランドスケープ・デザインに関わる都市公園づくりの視点や、現況分析の手法について説明する。	事前：都市公園について予習しておく。 事後：講義終了後には、配布資料を用いて、公園づくりの視点や、現況分析の手法について理解を深める。 (合わせて90分程度)																
	13	都市景観形成と植栽デザイン(1) ・緑景観のデザイン	都市景観形成に関わる緑景観のデザイン手法について概説する。	事前：緑景観について予習しておく。 事後：講義終了後には、配布資料を用いて、緑景観形成手法について復習し、応用できるようにする。 (合わせて90分程度)																
	14	都市景観形成と植栽デザイン(2) ・樹木特性に応じた植栽計画	都市景観形成に関わる樹木特性に応じた植栽計画手法を概説する	事前：植栽計画手法を予習しておく。 事後：講義終了後には、樹木特性に応じた植栽計画手法を応用できるようにまとめる。(合わせて90分程度)																
	15	ランドスケープデザインの意義と今日的課題	講義の総まとめとして、ランドスケープデザインに関する主として建築分野での意義や必要性を述べるとともに、今日的な課題について説明する。	事前：ランドスケープデザインに関する現代の課題を整理しておく。 事後：講義終了後には、ランドスケープデザインの今日的課題を復習する。 (合わせて90分程度)																
関連科目	設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ、地域・都市計画学、建築デザイン論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>景観の構造—ランドスケープとしての日本の空間</td> <td>樋口忠彦</td> <td>技報堂出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>街並みの美学</td> <td>芦原義信</td> <td>岩波現代文庫</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>都市・まちづくり学入門</td> <td>日本都市計画学会関西支部 新 しい都市計画教程研究会編 久 隆浩、下村泰彦 他</td> <td>学芸出版社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	景観の構造—ランドスケープとしての日本の空間	樋口忠彦	技報堂出版	2	街並みの美学	芦原義信	岩波現代文庫	3	都市・まちづくり学入門	日本都市計画学会関西支部 新 しい都市計画教程研究会編 久 隆浩、下村泰彦 他	学芸出版社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	景観の構造—ランドスケープとしての日本の空間	樋口忠彦	技報堂出版																	
2	街並みの美学	芦原義信	岩波現代文庫																	
3	都市・まちづくり学入門	日本都市計画学会関西支部 新 しい都市計画教程研究会編 久 隆浩、下村泰彦 他	学芸出版社																	
評価方法 (基準)	<p>学期末のレポート課題(80%)、授業期間中における小レポート(20%)で到達度を評価する。</p> <p>A：到達目標項目について、特に優れた成績(90%以上)で達成している。</p> <p>B：到達目標項目について、優れた成績(80%以上90%未満)で達成している。</p> <p>C：到達目標項目について、概ね妥当な成績(70%以上80%未満)で達成している。</p> <p>D：到達目標項目について、合格に必要な最低限度(60%以上70%未満)を満たして達成している。</p> <p>E：上記以外(40%以上60%未満)</p> <p>F：上記以外(40%未満)</p>																			
学生への メッセージ	都市空間を構成する「ランドスケープデザイン」についての理念や考え方の理解を深める講義である。建築計画・設計の範疇を超えて敷地全体や周辺地域に配慮したトータルなデザインプロセスや手法について学修できるとともに、植栽デザイン・修景手法の基本的な考え方も修得できる。																			
担当者の 研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室																			
備考	事前事後学習は配布資料について約1時間30分間程度をこれに当てること。 また、講義内容を踏まえ、都市内における各種オープンスペースに出向き、人間行動を観察し、人間のアクティビティと施設・樹木の空間配置やデザインとの関わりについて考察してもらいたい。																			

科目名	構造力学 I	科目名 (英文)	Structural Mechanics I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西野 孝仁
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2040a0		

授業概要・目的	この授業では、建築の構造設計の基礎となる構造力学を初めて学ぶ学生を対象に、建築物にかかる力の基本的な考え方（釣り合い、モーメント、反力）と表現を学び、さらに静定構造部材（梁、ラーメン、トラス）に生じる反力と応力について、基礎的な知識の講義を行う。
到達目標	構造的に安全な建物を設計するためには、建物に加わる応力計算の手法を学ぶ必要がある。構造力学 I では構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を把握することが第 1 義である。様々な演習問題を解くことによって、これをイメージで理解できるようになる事が目標である。 構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、よって、この授業では構造力学の基礎がためとなるものである。
授業方法と留意点	板書および配付プリント等を用いて講義する。講義は復習、解説、練習、小テストで構成される。原則として電卓を持参すること。配布プリント、返却する小テストはファイルしておくこと。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義の進め方・学習の意義について説明する。続いて、構造力学を学ぶ上での基礎知識を説明する。	高校の理数系教科書に一通り目を通しておくこと。本講義の見直し。
2	力の性質	力の表現、力のつり合い・合成と分解	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
3	支点反力 (1)	片持ち梁と単純梁の支点反力の求め方を解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
4	支点反力 (2)	門型ラーメンと 3 ヒンジラーメンの支点反力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
5	応力 (1)	片持ち梁と単純梁の応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
6	応力 (2)	門型ラーメンの応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
7	中間試験	第 1 回～第 6 回の講義内容から出題	第 1 回～第 6 回の内容を良く復習しておくこと。
8	中間試験の解説および応力分布 (1)	片持ち梁と単純梁に集中荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	中間試験内容と本講義内容の見直し。
9	応力分布 (2)	片持ち梁と単純梁に集中曲げモーメントが作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
10	応力分布 (3)	片持ち梁と単純梁に等分布荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
11	応力分布 (4)	門型ラーメンに集中荷重が作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
12	応力分布 (5)	門型ラーメンに集中曲げモーメントが作用した場合の応力分布の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
13	トラスの解法 (1)	節点法による応力の求め方を解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
14	トラスの解法 (2)	切断法による応力の求め方を、解説、練習問題、小テストにより学習する。	前回講義内容の復習と本講義内容の見直し。
15	総まとめ	講義内容全体の復習を行う	講義全体の内容を良く復習しておくこと。

関連科目	建築一般構造学、構造力学 II
------	-----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解レクチャー 構造力学	浅野清昭	学芸出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 やさしい構造力学	浅野清昭	学芸出版
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点 (小テストと授業態度を重視する) ----- 25% 中間試験 ----- 25% 期末試験 ----- 50%
-----------	--

学生へのメッセージ	毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。 特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時間の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の講義で行う小テストの解説は、次週の講義で行います。
----	------------------------------



講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度が目安となります。

科目名	構造力学Ⅱ	科目名 (英文)	Structural Mechanics II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	西野 孝仁
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2041a0		

授業概要・目的	本講義は構造力学Ⅰで学んだ、構造体に外力が作用した時の各部材に生じる力の大きさと性質を踏まえ、部材の断面強度の検定の手法や、静定・不静定の骨組みの変形について考え方と計算法を学び、応力解析のための基礎的知識を付与する。 構造力学は、建築士の資格を取得するために必須の科目であり、本講義はその基礎がためとなるものである。
到達目標	不静定問題は力のつり合いだけでは解けず、変形を理解する必要がある。若干の数学計算が必要であるが、イメージで考え、解くプロセスを身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	板書および配布プリント等を用いて講義する。講義は復習、解説、練習、小テストで構成される。原則として電卓を持参すること。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	概論	講義の進め方・学習の意義について説明する。構造力学Ⅰの総復習を行う。	構造力学Ⅰの復習しておくこと。
2	断面の性質	図心、重心、断面1次2次モーメント、断面係数等について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
3	応力度 (1)	軸方向応力度・せん断応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
4	応力度 (2)	曲げ応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
5	応力度 (3)	組み合わせ応力度の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
6	部材の変形	単純梁・片持ち梁・はね出しはりといった様々な構造物の変形について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
7	中間試験	第1回～第6回から出題	第1回～第6回の内容を良く復習しておくこと。
8	不静定構造物の応力 (1)	不静定構造物の応力を、変形を利用して求める方法について学習する	中間試験の見直しと今回講義内容の復習
9	不静定構造物の応力 (2)	不静定構造物の応力を、固定モーメント法を利用して求める方法について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
10	不静定構造物の応力 (3)	不静定構造物の応力を、たわみ角法を利用して求める方法について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
11	不静定構造物の応力 (4)	多層ラーメンの地震時応力の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
12	座屈問題	座屈荷重の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
13	崩壊荷重 (1)	全塑性曲げモーメントの求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
14	崩壊荷重 (2)	仮想仕事の原理を用いた崩壊荷重の求め方について学習する	前回小テストの見直しと今回講義内容の復習
15	総まとめ	講義内容全体の復習を行う	講義全体の内容を良く復習しておくこと。

関連科目	建築一般構造学、構造力学Ⅰ
------	---------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図解レクチャー 構造力学	浅野清昭	学芸出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	やさしい構造力学	浅野清昭	学芸出版社
2				
3				

評価方法 (基準)	平常点 : 25% 中間試験 : 25% 期末試験 : 50%
-----------	---------------------------------------

学生へのメッセージ	毎回の授業と演習の積み重ねが大切です。分かりやすい説明を心がけますが、理解しにくい点については必ず質問をして不明な点を後に残さないよう心がけてください。 特に、構造力学は実際に手を動かし計算して身につく点が多いです。限られた時間数の中で、できるだけ多くの時間を演習課題解答に充てたいと考えていますが、どうしても足りない分がありますので、各自復習することが求められます。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の講義で行う小テストの解説は次回の講義で行います。 講義に係る予復習は、毎回1時間30分間程度が目安となります。
----	---

科目名	建築一般構造学	科目名 (英文)	Introduction to Architectural Structure Methods
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	西野 孝仁
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR1042a0		

授業概要・目的	建築構造・施工の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力の習得。 1. 建築構造の分類別特性の理解：どのような条件で特定の構造種別を採用すべきかの基本理解。 2. 建築物の躯体構造から仕上げまでの全体構成に関する仕組みの理解。 3. 構造設計法の概略と、これに関連する法規の概略の習得。 以上が授業の概要・目的である。
到達目標	建築構造・施工の専門的技術の基礎的能力及び実践的な応用力を身につける ① 木構造・鉄骨造・鉄筋コンクリート造、その他構造の特性が理解できる ② 各構法の基本図面が理解できる
授業方法と留意点	プレゼンテーション・ツールを用いた講義です。授業の後半は小テストに取り組んでいただきます。
科目学習の効果 (資格)	1級建築士、2級建築士、インテリアデザイナー、施工監理士等の一般的な構造学知識

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	建築構造のあらまし	建築構造の歴史的発達、なりたち、分類、および建築物に働く力について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
2	木構造 (1)	木材の材料特性と、木構造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
3	木構造 (2)	在来工法と枠組壁工法について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
4	木構造 (3)	壁量計算方法について講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。 電卓を持参すること。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
5	鉄骨構造 (1)	鋼材の材料特性と鉄骨造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
6	鉄骨構造 (2)	部材の接合形式および設計上の留意点についてパワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
7	鉄骨構造 (3)	各部の構造形式および設計上の留意点についてパワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。また中間試験に向けて、これまでの講義内容を見直しておくこと。
8	中間試験	これまでの講義内容について、理解度をチェックします。	事前にこれまでの講義内容を復習しておくこと。事後は、試験の内容を見直しておくこと。
9	鉄筋コンクリート構造 (1)	コンクリートの材料特性と鉄筋コンクリート構造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
10	鉄筋コンクリート構造 (2)	各部の構造形式と設計上の留意点について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
11	鉄筋コンクリート構造 (3)	鉄筋の配筋計画と設計上の留意点について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
12	鉄骨鉄筋コンクリート構造	鉄骨鉄筋コンクリート構造の特徴について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	指定された教科書、または既に持っている教科書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後：出題課題に30分真摯に向き合って取り組むこと。次回の授業始めに提出のこと。【課題12】
13	壁式構造と補強コンクリートブロック造	壁式構造と補強コンクリートブロック造について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
14	プレストレスト コンクリート造	プレストレスト コンクリート造について、パワーポイントを用いて講義した後、小テストによって理解度をチェックしていただきます。	事前に教科書、参考書等の当該部分を読み込んでおくこと。事後は、その日の小テストの内容を見直しておくこと。
15	期末試験	9回～15回目までの内容について、試験を行う。	中間試験後の講義内容全体を見直しておくこと。

関連科目	構造力学Ⅰ、構造力学Ⅱ、構造デザイン概論等			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	図説 やさしい建築一般構造	今村仁美 他	学芸出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新建築構造入門	青木博文 他	実教出版
	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点：25% 中間試験：25% 期末試験：50%			
学生への メッセージ	構造は建物の安全性が担保される必要があります。そのためには計算が必要となりますが、本講義ではなるべく計算を行わないで、各構造の特性や設計上の留意点を理解できるように配慮します。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の講義で取り組んでいただく小テストは、採点のうえ次週の講義で返却し、解説を行います。 講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度が目安となります。			

科目名	住宅生産学	科目名 (英文)	Housing Construction Methods
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	吉田 文久
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR3043a0		

授業概要・目的	建築物がどのようにつくられているのかを学習する。講義では、地盤調査などの施工前の準備から、施工後の維持管理に至るまでの一連の業務フローを、工事現場の実例を示しながら分かりやすく説明する。建築工事においては、構造規定や法令などの規定や取り決めが数多くあり、それらの背景や理由についても分かりやすく解説する。
到達目標	住宅をはじめとする建築物が、工場や工事現場でどのように作られているのかを理解できる。また、建築で使用する材料がどのように作られ、どのように供給されているのかを理解できる。構造規定や法令など、建築施工に関わる規定について理解できる。本講義を受ければ、二級建築士の学科試験レベルの知識を習得できる。
授業方法と留意点	教科書を用いた講義中心の授業形式とし、毎回レジュメプリントを配布する。講義時間内に質疑応答時間を設ける。講義後に演習課題を出す。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士 一級建築施工管理技士 技術士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 建築施工とは 住宅産業の歴史の変遷	講義全体の概要説明を行う。 日本と海外における住宅産業の歴史の変遷について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
2	工事契約 積算 施工計画	工事契約、積算、施工計画について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
3	施工管理 地盤調査	施工管理、地盤調査について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
4	測量 仮設工事	測量、仮設工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
5	土工事	土工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
6	基礎工事	基礎工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
7	鉄筋コンクリート工事 (1)	鉄筋工事、型枠工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
8	鉄筋コンクリート工事 (2)	コンクリート工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
9	鉄骨工事 (1)	溶接工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
10	鉄骨工事 (2)	高力ボルト工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
11	コンクリートブロック工事 木工事	コンクリートブロック工事、木造住宅の木工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
12	防水工事 屋根工事 左官工事 タイル工事	左記工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
13	張り石工事 塗装工事 建具工事 ガラス工事	左記工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
14	内装・断熱工事 ユニット工事 設備工事	左記工事について講義する。	講義後に演習課題を出すので、期日までに提出すること。次回講義内容について、教科書を事前に読んでおくこと。(1時間)
15	維持管理 習得状況確認テスト	維持管理について講義する。 習得状況確認テストを実施する。	講義の後半で、習得状況確認テストを行うので、事前に全講義の内容を復習しておくこと。 (3時間)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	改訂版 図説 やさしい建築施工	松本進・臼井博史	学芸出版社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	毎回講義後に実施する「演習課題」20%、第15回授業で実施する「習得状況確認テスト」80%の割合で総合的に評価を行います。		
学生への メッセージ	教科書を用いた講義中心の授業ですが、工事現場や工場製作の実例を示しながら分かりやすく解説します。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室		
備考	授業時間外での質問等はTeamsのチャットで受けます。		

科目名	住生活学	科目名 (英文)	Housing Lifestyle Theory
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR1044a0		

授業概要・目的	住まいは私たちの暮らしや社会生活の基盤であることを踏まえ、住居の計画・設計の基盤になる考え方とその主要なポイントについて、文化、社会、歴史の文脈の中で理解する。さらに、住生活と住空間、また住環境との相互の対応関係について、その基本的構造を理解する。
到達目標	日本を中心に、様々な住宅の成り立ちやその基本的な特徴、住様式について理解をし、今後の住居デザインのあり方を考える力を養う。また、地球環境や住環境保全についての問題意識が高まる中、住宅計画や住宅管理の上でもどのような工夫がなされているかについても理解を深める。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>○パワーポイントを用いた講義とし、授業の書き込み用プリントを配布する。</li> <li>○毎回授業後に Teams により小テストを実施し、授業の理解度を確認する。</li> <li>○講義の中盤 (第8回) では、暮らしや住生活と住空間、住環境との相互関係について理解を深めるため、大阪の都市住宅に関する展示施設の見学等の学外授業を行う。</li> <li>○授業の中ほどでチェックテスト【1】を、最後の授業でチェックテスト【2】を行う予定である。</li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士を受験するには、必要な科目である。
--------------	------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業のガイダンス、日本の住まいの変遷 (1) 原始時代～中世の住まい	授業のガイダンスと住生活を学ぶ意義の説明の後、原始時代から中世までの日本の住まいの発展について解説する。	事前：シラバスを読んで内容を確認する (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
2	日本の住まいの変遷 (2) 近世～現代の住まい	近世から現代の日本の住まいについて、近代以前の住宅様式と住生活を概観し、近世以降の欧米の建築及び生活様式の流入を経て、住生活の近代化の進展と現代の状況を解説する。	事前：自宅や大学周辺で伝統的な住宅を探し建築年代や様式について考える (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
3	世界の多様な住まい (1)	世界の住まいについて、北米、南米、アフリカ、アジア等の多様な住宅を概観し、文化や気候風土と住宅様式・住生活の関係を解説する。	事前：海外旅行で行ってみたい外国を1つ想定し、その国の住宅について調べる (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
4	世界の多様な住まい (2)	世界の住まいについて、北米、欧州、アジア等を中心に、住まいの近代化と都市住宅の発展の状況を概観し、その課題を解説する。	事前：モダニズム建築について調べる (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
5	快適な室内環境 (1) 熱・湿度・光	快適な室内環境の整備に向けて、熱環境や光環境の要素を概説し、その調節について具体的な方法をあげて解説する。	事前：こちよい住まいの条件について、視覚、聴覚、嗅覚といった感覚機能を基に考える (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
6	快適な室内環境 (2) 音・空気・水	快適な室内環境の整備に向けて、音・空気・水の環境の要素を解説し、その調節について具体的な方法をあげて解説する。	事前：「シックハウス症候群」について調べる (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
7	前半講義の総括と確認	前半講義の総括とチェックテスト【1】を実施する。	事前：講義前半 (第1～6回) の資料を読んで、要点を整理・確認する (60分) 事後：総括のポイントを復習する (30分)
8	大阪の都市住宅史を学ぶ学外授業	暮らしや住生活と住空間、住環境との相互関係について理解を深めるため、大阪の都市住宅に関する展示施設の見学等を実施する。	事前：「大阪長屋」について調べる (30分) 事後：見学内容を振り替わり、課題 (レポート) に取り組む (60分)
9	住まいと家族生活 (1) 「家族」の変化と住まい、子どもの生活空間	家族の変化と住要求の関係、また時代の変化による世帯構造と住まいの変容について解説する。それらを踏まえ、子ども部屋の変遷と現状、及び発達段階に応じた子どもの生活空間の整備について解説する。	事前：自分が思う「理想の子ども部屋」の条件について考える (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
10	住まいと家族生活 (2) 高齢者の生活空間	高齢者が置かれている社会状況及び高齢者の心身の特性を踏まえ、高齢者の生活空間と高齢者向け住宅・施設の整備について解説する。	事前：身の回り的高齢者の住まい・生活を振り返り「住みづらさ」があるかどうか考える (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
11	住まいと社会 (1) 日本の住宅問題と住宅政策	日本の住宅事情の変化、現代の都市居住における問題点について概説し、居住水準の状況及び住宅政策の展開について解説する。	事前：「バス住宅」「木賃住宅」について調べる (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
12	住まいと社会 (2) 住まいの選択と管理	住宅の分類、住宅選択の要因と取得の流れ、住宅の管理行為、集合住宅と戸建て住宅における管理の進め方について解説する。	事前：「注文住宅」「建売住宅」について調べる (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
13	住空間の形態と構成 (1) 空間の認識と構成	現代の間取りの特徴について概説し、ゾーニングや動線計画等の空間構成の考え方について解説する。	事前：不動産のチラシやネット広告などを探し、新築住宅と中古住宅の間取りの違いについて考える (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
14	住空間の形態と構成 (2) 多様な空間構成	住宅のアクセス方式や廊下、水回り空間の配置等の工夫による多様な空間構成や住宅の形式について解説する。	事前：「リビングアクセス」について調べる (30分) 事後：講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
15	講義の総括と確認	講義の総括とチェックテスト【2】を実施する。	事前：講義後半 (第8回以降) の資料を読んで、要点を整理・確認する

関連科目	福祉住環境学、地域・都市計画学、コミュニティプランニング、住環境マネジメント、サステイナブルデザイン演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	私たちの住居学	中根芳一編著	理工学社
	2	住まい方から住空間をデザインする	林知子他	彰国社
	3			
評価方法 (基準)	日常の取り組み(小テスト等) 30%、チェックテスト【1】(マークシート) 30%、チェックテスト【2】(マークシート+記述形式) 40%で、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	住まいは私たちの生活を守り、次世代を育てる場であると同時に、社会とつながる基盤でもあります。授業を通じて、住まいの持つ様々な側面や問題に意識を持ってもらえればと思います。			
担当者の 研究室等	12号館7階 山根講師室			
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。 小テストは毎回返却するので復習に活用すること。 チェックテスト【1】は採点后、返却する。チェックテスト【2】は返却しない。			



科目名	住環境管理学	科目名 (英文)	Management of Residential Environment
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二・山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	E⑥		
科目ナンバリング	TDR2044a0		

授業概要・目的	住環境デザインにおいては、集合住宅・住宅地等一定の空間スケールにおいて、居住者が共有・共用する空間の整備や管理が重要な鍵となる。コミュニティプランニングは、集合住宅・住宅地等コミュニティの計画及び管理について、背景と意義、制度、計画・整備・再生手法、居住の実態について学び、そこから導かれる課題について考察する。また、コミュニティの持続的な発展には居住者の主体的な関わりが不可欠であることから、まちづくりや地域環境改善等コミュニティを核とする様々な取組についての理解を深める。 本講義は、コミュニティの形成過程と計画手法、コミュニティベースの集合住宅及び住宅地に関わる基礎知識、計画・整備手法に関する知識を習得し、持続可能な住環境整備を可能とするコミュニティプランニングの計画技術を身につけることを目的とする。
到達目標	○住環境整備及び管理に関する基礎的知識を習得し、コミュニティが果たす役割について理解できるようになる。 ○コミュニティベースの集合住宅及び住宅地について、基本理念、計画手法、法制度を理解し、計画技術についての基礎的知識を得ることができる。 ○住民主体で展開されるコミュニティ醸成・再生やまちづくりの進め方に関する基礎的知識を習得できる。
授業方法と留意点	○パワーポイント、配付資料等を用いて講義を進める。 ○講義の中盤 (第8回) ではコミュニティプランニング事例見学として、ニュータウン、エリアマネジメントによる住宅地整備等の事例見学を行う。 ○毎回授業中に小テストを実施し、事前学習で課した課題取組状況と、前回までの授業の理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	本科目は、一級・二級建築士受験資格指定科目 (その他) となっている。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、コミュニティの定義 日本の伝統的コミュニティ 1	○講義の目的・内容と進め方、方針、評価及びコミュニティの定義について解説する。 ○白川郷合掌造集落の大屋根葺きを事例に日本の伝統的コミュニティを体感する。	事前：シラバスを読んで内容を確認する (30分) 事後：白川郷合掌集落について調べておく (60分)
2	日本の伝統的コミュニティ 2	前回に引き続き、白川郷合掌造集落の大屋根葺きを事例に日本の伝統的コミュニティを解説する。	事前：前回聴講内容について要点をまとめる (30分) 事後：聴講内容に関する課題について調査する (60分)
3	近代市民コミュニティと空間計画	近代市民コミュニティを焦点とする空間計画の形成過程、建築空間における仕掛けを解説する。	事前：コミュニティの定義について確認しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
4	コミュニティの場としての住宅地	講義における住宅地についての定義及び住宅地の多様性について解説する。	事前：自分の周りの住宅地を見学しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
5	近隣住区論	住宅地計画において世界中で活用されている「近隣住区理論」について解説する。	事前：近隣住区について、調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
6	住宅地におけるコミュニティベースの計画 1 住宅地の構成と手法	コミュニティ形成・醸成に関する住宅地の全体構成、空間構成手法について解説する。	事前：自分の周りの住宅地を見学しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
7	住宅地におけるコミュニティベースの計画 2 街区と建築の配置	住宅地の街区形成と建築の配置の考え方とコミュニティ形成との関係について解説する。	事前：自分の周りの住宅地を見学しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
8	コミュニティプランニング事例見学	コミュニティベースの計画による集合住宅、住宅地 (ニュータウン) の見学を行う。	事前：見学先の配布資料を読んで内容を確認する (30分) 事後：見学内容をまとめ、レポートを作成する (60分以上)
9	住環境管理の考え方とコミュニティ	住環境管理の背景と意味、課題を解説し、住環境管理におけるコミュニティの意義について考える。	事前：「住環境」「コモンスペース」について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
10	集合住宅の管理とコミュニティ	集合住宅入居者の共同管理と入居者・地域コミュニティとの関係について解説する。	事前：マンション管理について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
11	集合住宅におけるコミュニティベースの計画 1 コーポラティブ住宅	コーポラティブ住宅の定義と建築計画について概説し、計画事例を解説する。	事前：コーポラティブ住宅について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
12	集合住宅におけるコミュニティベースの計画 2 コレクティブ住宅	コレクティブ住宅の定義と建築計画について概説し、計画事例を解説する。	事前：コレクティブ住宅について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
13	住宅地の管理・計画とコミュニティ 1 エリアマネジメント・日本型HOA	コミュニティによる住宅地管理や、地域環境改善・まちづくりの取組について解説する。	事前：エリアマネジメントについて調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
14	住宅地の管理・計画とコミュニティ 2 地区計画	住民主体で策定される都市計画である「地区計画」の基本内容とその利用法を解説する。	事前：地区計画について、調べておく (30分). 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
15	講義の総括と重要事項の確認	講義後半の習熟度の確認、講義全体のまとめを行う。	事前：講義後半 (第9回以降) の資料を読んで、要点を整理・確認しておくこと (60分以上)

関連科目 福祉住環境学, 地域・都市計画学, サステナブルデザイン演習, 建築法規, 住環境マネジメント

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初学者の建築講座 建築不動産	齊藤広子他	株式会社 市ヶ谷出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新建築学大系 20 住宅地計画	土肥博至・御船哲	彰国社
	2	集合住宅地 (建築計画・設計シリーズ 33)	小泉信一編	市ヶ谷出版社
	3	住環境マネジメント：住宅地の価値をつくる	齊藤広子	学芸出版社
評価方法 (基準)	各講義での課題・小テスト：40%，事例見学レポート：10%，まとめテスト：50%			
学生への メッセージ	集合住宅・住宅地では、これまで居住者のコミュニティを形成・醸成する多種多様な工夫・仕掛けが提案されてきました。コミュニティ形成の理論とともに、多くの事例を紹介しますので、インターネット検索や土曜・休日などの現地見学に積極的に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	12号館6階・坂本教授室，12号館7階・山根講師室			
備考	○まとめテストについては、MS Teams 等で解答例を提示する。 ○課題の未提出が3回以上の場合、成績評価しない。			

科目名	集合住宅管理学	科目名 (英文)	Management of Collective Housing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	E②		
科目ナンバリング	TDR3045a0		

授業概要・目的	住宅の中に占める集合住宅の割合は増加しており、徐々に経年化が進んだものも増えている。これらの集合住宅は重要な住宅ストックであり、適切に維持管理し、建物の資産価値とともに居住性を向上させることは、重要な課題である。集合住宅は、1棟丸ごと大家が所有している賃貸タイプと、各住戸を区分所有者が所有する分譲タイプがあるが、後者はその所有形態の複雑さから特別な管理方法が必要である。集合住宅の所有方法と管理方法、それを取り巻く法制度について学び、賃貸住宅と分譲住宅について比較しながら学ぶ。
到達目標	・集合住宅の建築物としての特徴を理解したうえで、管理についての建築的側面、法制度の面、生活上の工夫などの基礎的知識を身につける。
授業方法と留意点	・パワーポイント、資料プリント等を用いて講義を行う。 ・講義の途中中で、集合住宅の大規模修繕工事の見学等の体験型授業を行う。 ・毎回授業中に小テストを実施し、事前学習で課した課題取組状況と、前回までの授業の理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、マンション管理士、宅地建物取引士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	住まいとまちの仕組みを知る (2) 集合住宅の歴史と現状	日本における集合住宅の歴史、年代ごとの特徴的な事例、現状、現在の課題	事前: 同潤会アパートについて調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
3	住まいとまちの仕組みを知る (3) 都市の現状と課題	密集市街地の現状と課題・対策、オールドニュータウンの現状と課題・対策、コミュニティの希薄化	事前: オールドニュータウンについて調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
4	住まいとまちのマネジメントを実践する (1) 住まいの購入・賃貸借	住宅選びの過程と情報、購入の契約、契約の解除と瑕疵担保、賃貸住宅の種類と当事者、賃貸人・賃借人の義務、様々な賃貸方式	事前: 不動産チラシ等で住んでみたい家を探す (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
5	住まいとまちのマネジメントを実践する (2) 戸建て住宅の維持管理と売却・利活用	戸建て住宅の手入れ、維持管理の周期と方法、売却・リバースモーゲージ等の資産活用の方法	事前: リバースモーゲージについて調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
6	住まいとまちのマネジメントを実践する (3) 分譲マンションの所有の仕組みと共同管理	マンションの所有形態、専有部分と共用部分、区分所有法と管理組合、管理運営組織の仕組み、管理費・修繕積立金、管理業務の委託	事前: マンションの専有部分と共用部分について調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
7	前半講義の総括と確認	前半講義の総括とチェックテスト【1】を実施する	事前: マンション標準管理規約について調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
8	住まいとまちのマネジメントを実践する (4) 分譲マンションの維持管理	計画修繕の概念と長期修繕計画、大規模修繕の内容・周期及び進め方、工事監理の事例	事前: 大規模修繕の工事内容について調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
9	住環境マネジメントの体験授業	分譲マンションの大規模修繕工事見学、建物維持保全に係る研修施設見学、住宅地マネジメント事例見学の体験授業	事前: 見学先の概要について調べる (30分) 事後: 体験内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
10	住まいとまちのマネジメントを実践する (5) 分譲マンションの再生手法	建替えのプロセスと決議の手続き、合意形成困難の要因、マンション建替え円滑化法、建替え事例、解消制度の概要と事例、リノベーション事例	事前: マンション建替え事例について調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
11	公的賃貸住宅のマネジメントと団地再生	公的賃貸住宅の管理システム、維持管理の進め方、更新・再生手法、今後の整備の方向性	事前: ライフサイクルコストについて調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
12	民間賃貸住宅のマネジメント	民間賃貸住宅の管理システム、維持管理の進め方、管理をめぐる法整備、原状回復などのトラブルと解決方法	事前: 原状回復について調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
13	住宅地のマネジメント、空き家の利活用とまちづくり	エリアマネジメント・HOA等による住宅地マネジメントの仕組み、空き家問題と発生要因、空き家発生予防と利活用の仕組み、まちの再生と活性化	事前: エリアマネジメントについて調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
14	住環境マネジメントを支える政策とマンパワー	長寿命化対策、中古住宅流通促進、マンション管理適正化等住まいのマネジメント施策、住環境マネジメントに関わる専門家	事前: 自分が住む自治体の分譲マンション施策について調べる (30分) 事後: 講義内容を確認・理解し、課題 (小テスト) に取り組む (60分)
15	講義の総括と確認	講義の総括とチェックテスト【2】を実施する	事前: 講義の資料を読んで、要点を整理・確認する (60分)

関連科目	住生活学、地域・都市計画学、コミュニティプランニング、福祉住環境学、サステナブルデザイン演習
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップアップで学ぶマンション管理	齊藤広子	彰国社

	2	図解住居学6 住まいの管理	一棟宏子・平田陽子・齊藤広子・ 松原小夜子・馬場昌子・藤田忍・ 梶浦恒男	彰国社
	3			
評価方法 (基準)	日常の取り組み(小テスト等)30%、チェックテスト【1】(マークシート・記述)30点、チェックテスト【2】(マークシート・記述)40%で、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	今すでに存在する住まいや町をより暮らしやすく、将来にわたって大事にしたいと思える場所にするためにはどうすれば良いかを学ぶ授業です。フィールドは近くにあります。皆さんが住む町や通学途中で見かける集合住宅、住宅団地など、身近な住まいや住環境を観察してみてください。良い所や魅力を発見すると同時に、気になる所、困りごとがありそうな所も探してください。それが学びの第一歩になります。			
担当者の 研究室等	12号館7階 山根講師室			
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。 小テストは毎回返却するので復習に活用すること。			

科目名	住居計画学	科目名 (英文)	Planning Theory of Dwelling Settlement
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2046a0		

授業概要・目的	現在、日本は超高齢社会となっており、高齢者がQOLを保ちながら、安心して住み続けられる住まいの整備が急務である。また、障がい者の自立と社会参加を支える基盤となる住環境の整備も、重要な課題となっている。 本講では、この社会に生きる誰もが健やかで安全に暮らせる住環境実現に向けて、高齢者・障がい者の住まいや施設、また福祉のまちづくりについて理解を深め、住環境整備の実践において必要となる知識及び技能を習得することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・障がい者の視点から、福祉住環境整備の意義や理論的背景、社会における取組状況の基礎的部分を理解・実践できる。</li> <li>・高齢者・障がい者の住環境の現状と課題を認識し、生活改善に向けた住環境整備手法について基礎的部分を理解・実践できる。</li> <li>・高齢者住宅や福祉施設の種類や変遷を理解し、計画及び設計手法について基礎的部分を理解・実践できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント、資料プリント等を用いて講義を行う。</li> <li>・授業時に小テストを実施し、事前学習で課した課題取組状況と、前回までの授業の理解度を確認することがある。</li> <li>・講義の後半（第12回～第14回）では、高齢者を想定したリフォームプラン作成課題に取り組み、簡単な製図を行う。</li> <li>・学外見学や学外ゲスト講師を招くなどを行うことがある。</li> </ul> ※上記資料プリント等の配布および小テストにはTeamsを用いる。初回授業開始までに、必ず本授業のTeamに参加しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉住環境コーディネーター（建築や住環境などに関する法令・制度や整備の部分のみ）</li> <li>・一級建築士、二級建築士</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	福祉住環境の理念・意義	福祉住環境の理念・意義、バリアフリーとユニバーサルデザイン (担当: 山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
2	高齢者・障がい者等の住宅・住環境	高齢者・障がい者等を取り巻く住宅・住環境の現状と課題 (担当: 山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
3	住宅におけるバリアフリー整備	バリアフリー整備の手法、住宅設備・用具の活用、整備に係る制度 (担当: 山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
4	住宅におけるユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインによる住宅計画、実例 (担当: 山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
5	高齢者施設・住宅の整備	高齢者施設の種類、制度的背景、実例 (担当: 山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
6	障がい者施設・住宅の整備	障がい者施設及び共生型住宅の種類、制度的背景、実例 (担当: 山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
7	福祉のまちづくりの展開	福祉まちづくりの計画と制度 (担当: 山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
8	高齢者住宅の設計手法	高齢者住宅の設計手法 (担当: 稲地)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回): 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
9	バリアフリー改修の設計手法	バリアフリー改修の設計手法 (担当: 稲地)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく

				事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
10	高齢者・障がい者の住宅事例（1）	高齢者・障がい者の住宅の新築事例（担当：稲地）		事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
11	高齢者・障がい者の住宅事例（2）	高齢者・障がい者の住宅の改修事例（担当：稲地）		事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
12	高齢者住宅の計画（1）	リフォームプラン作成（1）エスキース（担当：稲地）		事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
13	高齢者住宅の計画（2）	リフォームプラン作成（2）製図（担当：稲地）		事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
14	高齢者住宅の計画（3）	リフォームプランのプレゼンテーション、講評（担当：稲地）		事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
15	福祉住環境整備体験授業	高齢者体験、バリアフリー整備モデル施設の見学等の体験型授業（担当：稲地、山根）		事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します																
関連科目	設計演習 II、建築計画学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン</td> <td>野村歡 編、上田瑞昌 他 著</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ユニバーサルデザインの教科書 第3版</td> <td>中川聰 監修</td> <td>日経BP社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン	野村歡 編、上田瑞昌 他 著	彰国社	2	ユニバーサルデザインの教科書 第3版	中川聰 監修	日経BP社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン	野村歡 編、上田瑞昌 他 著	彰国社																	
2	ユニバーサルデザインの教科書 第3版	中川聰 監修	日経BP社																	
3																				
評価方法（基準）	毎回授業時に行う小テスト（20%）、課題（リフォームプランの作成・プレゼンテーション）（40%）、習熟度チェック（40%）																			
学生へのメッセージ	本講義で展開される知見は、住み継ぎ続けられる社会環境づくりの担い手になるために必要な素養の一つです。あくまでも導入部分であり、興味に沿って更に展開することが望まれます。																			
担当者の研究室等	山根講師室（12号館7階） 稲地准教授室（12号館7階）																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に関連した小テスト・課題等は、理解を深められるよう授業内で紹介・解説する。</li> <li>・事前・事後学習は概ね各回1時間半程度を目安として行うこと。</li> </ul>																			

科目名	建築計画学	科目名 (英文)	Architectural Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久富 敏明
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2047a0		

授業概要・目的	建築計画の基礎的な知識と応用力の修得を目的とする。建築設計製図演習と本科目の講義内容を関連付けることが出来るように授業を進行する。建築計画および設計についての知識と技能と合わせて住環境デザインの考え方を修得する。
到達目標	建築計画の基本的知識として単位空間および寸法・規模・動線を理解し、専門用語を習得する。その上で、独立住宅、集合住宅、教育施設、図書館、美術館、など主要なビルディングタイプに関する建築計画と設計について理解し、問題解決への応用力を習得する。併せて現代社会の要求とそれを解決する手法をも習得する。
授業方法と留意点	授業の形式は講義である。教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせ適宜理解度のチェック (小テスト) を行う。授業方法は、プロジェクター、板書、また必要に応じて ICT ツール、を利用する。教科書、配布済プリントは必ず持参すること。授業に教科書を各自持つてくることが履修条件です。
科目学習の効果 (資格)	1 級建築士 (2 級建築士、木造建築士) の資格試験に関連する内容

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	建築計画の基本 I	講義全体の概説、建築計画の基礎知識	事前に教科書 P.7 から P.14 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
2	建築計画の基本 II	建築の各部および単位空間の計画	事前に教科書 P15 から P.22 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
3	各種建築物の計画 I	小学校の計画	事前に教科書 P.53 から P.64 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
4	各種建築物の計画 II	幼稚園・保育所の計画	事前に教科書 P.65 から P.72 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
5	各種建築物の計画 III	図書館の計画	事前に教科書 P.73 から P.86 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
6	各種建築物の計画 IV	美術館の計画	事前に教科書 P.87 から P.98 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
7	各種建築物の計画 V	劇場の計画	事前に教科書 P.99 から P.108 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
8	各種建築物の計画 VI	事務所の計画	事前に教科書 P.109 から P.116 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
9	各種建築物の計画 VII	ホテルの計画	事前に教科書 P.117 から P.124 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
10	各種建築物の計画 VIII	病院・診療所の計画	事前に教科書 P.125 から P.132 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
11	各種建築物の計画 IX	商業建築の計画	事前に教科書 P.133 から P.140 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
12	各種建築物の計画 X	各種建築物 (コミュニティ施設、駐車駐輪施設、など) の計画	事前に教科書 P.141 から P.152 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
13	人と地球にやさしい建築計画 I	高齢者・障害者に配慮した建築計画	事前に教科書 P.153 から P.164 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
14	人と地球にやさしい建築計画 II	地球環境に配慮した建築計画	事前に教科書 P.165 から P.174 を読み、要点を理解する (1.5 時間)
15	人と地球にやさしい建築計画 III	建築計画の今後 (複合建築、災害復興、など)	事前に教科書 P.175 から P.184 を読み、要点を理解する (1.5 時間)

関連科目	設計演習 II、設計演習 III、建築デザイン論、建築法規
------	-------------------------------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	改訂版 図説 やさしい建築計画	深水浩	学芸出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	第 4 版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善
2			
3			

評価方法 (基準)	講義時間内に行なう修得理解度テスト (小テスト) を 5 回行い、その合計点で評価する。各回 20 点 (5 回実施) 100%。 授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施する。 修得理解度テスト (小テスト) 実施日に欠席した場合は、教務課が発行する欠席届を提出すること。 欠席届の提出を受けて、レポートなどで対応する。 その際の評価は、修得理解度テスト (小テスト) の評価基準と同等にはならないことに留意して履修登録すること。
-----------	---

学生へのメッセージ	本科目で習得した知識を設計演習 II、設計演習 III、設計演習 IV (旧カリ) に活用してください。
-----------	--

担当者の研究室等	12 号館 7 階 久富教授室
----------	-----------------

備考	5 回の修得理解度テストの解説をテスト終了後に行い理解を深める。 授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。 予習復習は配布資料、教科書の通読、関連図書の検索も含め約 1 時間 30 分間程度とする。
----	---

科目名	地域・都市計画学	科目名 (英文)	Urban and Regional Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR3046a0		

授業概要・目的	日本の都市計画で策定される諸要素(土地利用, 交通施設, 公園緑地, 生活施設), 市街地整備事業について, それぞれ策定する意義と制度の内容について講義する。また, 近隣住区理論, 地区計画といった住環境を計画する上での計画論, 制度を取り上げ解説する。
到達目標	○都市計画の様々な分野の計画の基本的理論・事項を理解することができる。 ○地域計画を検討する上での姿勢, 必要な要素を身につけることができる。
授業方法と留意点	○講義を中心とした授業ですが, ICTツールを活用します。各回における重要事項については, 課題・レポートを課します。 ○特定の教科書は指定せず, 毎回の内容に該当する資料を配付します。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士・二級建築士・木造建築士など。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス 地域・都市計画とは何か	講義の方針, 概要, スケジュール及び地域・都市計画で検討される諸要素を概説する。	事前: シラバスを読んでおくこと (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
2	近代都市計画の系譜	近代都市(住宅地)計画の成立過程について, 英国と日本の事例を通して解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
3	土地利用計画 1 都市計画区域・区域区分	都市計画における土地利用の意味と都市計画区域, 区域区分について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
4	土地利用計画 2 地域地区制・用途地域	土地利用計画の根幹をなす「地域地区制」と「用途地域」について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
5	土地利用計画 3 建築の形態規制	建築物の形態規制 (主に斜線規制) とその緩和措置 (公開空地他) について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
6	都市交通計画 1 都市における交通とその特性	都市における交通の特性, 都市交通を把握する調査, 公共輸送について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
7	都市交通計画 2 都市内街路計画	都市内街路の機能と道路ネットワークの基本的な考え方について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
8	都市交通計画 3 歩車共存の空間システム	歩行者・自動車の交通空間システム及び歩車共存道路について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
9	都市における施設立地とコンパクトシティ	都市における施設立地と新たな考え方 (コンパクトシティ) について, 視覚資料を用いて解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
10	公園緑地計画 1 都市における公園・緑地の機能	都市における公園・緑地の機能及び生産緑地・田園住居地域について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
11	公園緑地計画 2 都市公園・都市緑地の種類と特性	都市公園 (住区・都市基幹公園), 都市緑地の種類とその特性について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
12	公園緑地計画 3 都市公園の配置システム	都市における公園配置の基本的な考え方について解説する。加えて最近の公園緑地の配置の傾向について概説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
13	市街地整備事業 1 土地区画整理事業の仕組み	日本の市街地整備事業の概要と種類, 土地区画整理事業の目的と特性, 事業上の考慮事項を解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
14	市街地整備事業 2 ○土地区画整理事業の課題 ○市街地再開発事業	○土地区画整理事業の有する課題について解説する。 ○市街地再開発の目的, 事業上の特性について解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)
15	○本講義のまとめ ○近年の都市計画課題と手法の解説	○本講義の要点をまとめる, ○社会経済状況, 都市の実態に対応した都市計画・政策制度の適用経緯と効果について聴講資料を基に解説する。	事前: 当日講義の重要用語を調べておく (30分) 事後: 配付資料の要点 (要記入部分) を復習しておくこと (60分)

関連科目	一級建築士などの資格試験に出題される範囲が一部含まれている。 関連授業科目: 福祉住環境計画, コミュニティプランニング, 建築計画学, サスティナブルデザイン演習, 建築法規
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	都市計画 シリーズ (建築工学) 7	荻島哲編著	朝倉書店
2	新・都市計画概論 改訂2版	加藤晃・竹内 伝史	共立出版社	
3	都市計画とまちづくりがわかる本 第二版	伊藤雅春・小林郁雄他	彰国社	



評価方法 (基準)	○講義内の課題+小テスト(20%)・レポート(10%)・定期試験(70%)で評価します。 ○講義内の課題・小テスト・レポートが4回以上未提出の場合は、成績評価しません。
学生への メッセージ	都市計画・地域計画の専門的講義になりますので、理解のできない点等は授業中及び時間外に積極的に質問するようにして下さい。
担当者の 研究室等	1 2号館 6階 坂本教授室
備考	

科目名	近代デザイン史	科目名 (英文)	History of Modern Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	川勝 真一
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2047a0		

授業概要・目的	近代デザインの歴史的展開を各時代を代表する展覧会を読み取りながら、社会背景や同時代の芸術運動などと合わせて実的に理解する。
到達目標	近代デザインの歴史について、教師や友人と十分語り合えるようになる。現代デザインについての主体的な興味を育む。
授業方法と留意点	関連作品の静止画や動画の資料を活用した講義を行う。授業毎に取り上げた年代のデザイン事例の一つを取り上げ紹介する小レポートを提出。近代デザインに関する本を読み、基礎知識を備えて授業に臨むこと。
科目学習の効果 (資格)	近代デザインの歴史を実際の作品や運動を通じて理解し、実践にも役立つ知識と思考力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション:近代とはいかなる意味で「近代」なのか	近代デザイン史は「近代」という時代区分におけるデザインの歴史を学びます。近代デザインの始まりは、一般的には19世紀後半とされていますが、それはなぜなのでしょう。そもそもこの近代というとはいかなる意味で、他の古代や中世、近世、さらには現代と区別されるのでしょうか。14世紀ルネサンスまで遡りつつ、なぜ19世紀後半に近代デザインが生まれたとされるのかを探ります。	19世紀からの歴史を復習しておく。
2	産業革命後の社会とデザイン:「ロンドン万博」(1851)	1851年に開催された史上初の万国博覧会ロンドン万博に注目し、産業革命によってもたらされた工業化が、デザインや建築、そして社会にどのような影響を与えたかを検討する。具体的にはメインパビリオンとして建設され人気を博したクリスタルパレス、そして労働者階級のためのモデルハウスを掘り下げる。また日本におけるデザインという考え方が、博覧会の中でどのように発展していったかをみる。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
3	近代デザインの萌芽:「アーツ・アンド・クラフツ展示協会第一回展」(1888)	近代デザインの父と呼ばれるウィリアム・モリス。なぜ彼はそう呼ばれるのだろうか。彼の仲間たちによるアーツ・アンド・クラフツ運動について学ぶ。その思想的背景になったラファエロ前派やラスキンにも触れつつ、その後の各地での近代デザイン運動を生み出した原動力を探る。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
4	伝統からの分離とアールヌーボー:「分離派建築展」(1898)、「パリ万博(1900)」ほか	イギリスで興隆したアーツ・アンド・クラフツ運動がヨーロッパ大陸に伝播すると、各地で旧来的な芸術観にとらわれない活動を標榜するグループが誕生する。こうした伝統からの分離運動は、相互に影響を与えながら、のちにアールヌーボーと呼ばれる優美な曲線の特徴とするスタイルを生み出す。統合を目指し活躍しました。世紀末に活発になった過去からの分離を目指すデザイン運動に着目します。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
5	工業社会の造形理念を求めて:「ドイツ工作連盟展ケルン」(1914)	工業化が遅れていたドイツでは、1910、20年代にかけて国を挙げてのデザイン改良運動が生まれます。実用性や機械生産をベースとしたものづくりの可能性と、それに相応しい造形原理を探りました。第一次世界大戦後に花開くモダニズムに向かう考え方の変遷に迫る。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
6	アヴァンギャルドの時代:「bauhaus exhibition 1923」(1923)	未来派からロシア構成主義、デ・ステイルといった第一次世界大戦後の前衛的な芸術・デザイン運動に着目し、それらがどのような背景から生まれ、影響を与えたかを明らかにする。そして1919年に設立されたバウハウスの中で、どのように造形・デザイン理論が組み立てられたかを示す。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
7	モダニズムの成立:「ヴァイゼンホフ・ジートルング」(1927)、「The Dwelling in Our Time」(1931)	第一次世界大戦後、荒廃したヨーロッパでは新しい生活様式、そして建設技術を前提としたジートルング(集合住宅)が目される。合理的で機能的、純粋な幾何学形態を持つモダニズム建築が生まれ、各地に展開した。その原動力となった住宅展を読み解く。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
8	装飾の復権アール・デコ:「近代装飾美術・産業美術展覧会」	1925年にパリで開催された「近代装飾美術・産業美術展覧会」では、幾何学を	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。

		会」(1925)	ベースとした新しい装飾表現が目目される。禁欲的なモダニズムのデザインが社会主義的イデオロギーを背景に展開する傍らで、大衆に受け入れられ、世界的に流行するアール・デコについて学ぶ。	成する。
	9	イズムからスタイルへ：「近代建築：国際展」(1932)	1932年にニューヨークのMOMA(近代美術館)で、はじめての建築展が開催される。企画したフィリップ・ジョンソンらは、ヨーロッパで展開していたモダニズム建築を取り上げ、その社会的背景やイズムよりも、形式的な特徴、スタイルとして解釈し、それを書籍として流通させることで、大きな影響を与えた。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
	10	人間工学とグッド・デザイン：「Organic Design in Home Furnishings」(1941)、「Good Design」(1950~1955)	第二次世界大戦後の高度成長は、本格的な消費社会の到来をもたらした。その中でデザインは産業デザインとして生活のあらゆる分野に浸透する。その中で生まれてきたGood Designという考え方を紹介する。また戦争中に発展した人間工学をベースとした有機的な形状を持つミッドセンチュリーのデザインについて紹介する。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
	11	近代主義へのカウンター：「すべては建築である」(1963/1970)、「Living City」(1963)、「建築家なしの建築」(1964)。	社会全体で近代社会に対する異議申し立てが行われた時代。デザイン分野で展開したモダニズムへのカウンター的動向を探ります。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
	12	環境化する建築と空間：「空間から環境へ」(1967)、大阪万博1970(1970)	モダニズムの乗り越えを目指す動きは、空間という概念から、光や音、匂いなどの身体を取り巻くさまざまな要素を統合した環境への注目に向かう。1970年の大阪万博が目指したものの、戦後の日本の一つの到達点を探る。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
	13	ポストモダンのデザイン：「The 1980 Venice Architecture Biennale」(1980)、「Deconstructivist Architecture」(1988)	1970年代後半から90年頃にかけて、いき過ぎて近代化への反省から、地域性や歴史性が復権する。モダンの次、ポストモダンと呼ばれる思想状況と並行して生まれたポストモダニズムの建築やその展開を探る。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
	14	ポストモダン以降のデザイン：「Memphis」(1981)、「Droog」(1993)、「Mutant Materials in Contemporary Design」(1995)	建築分野でのポストモダニズムの動きに呼応して、デザイン分野でもモダニズムとは異なる美学や思想からのデザインが誕生する。また樹脂などの新しい素材がこれまでにないデザイン表現を可能にしていく。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。
	15	社会化するデザインと問いとしてのデザイン	00年代以降の建築、デザインの大きな流れを紹介し、現代におけるデザインの状況を把握します。	関連事項の予習。授業後、授業内で紹介した事例と同時代のデザイン事例を紹介する小レポートの作成する。

関連科目 各建築史、インテリアデザイン論、インテリアデザイン演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	近代デザインの美学	高安 啓介	みすず書房
	2	世界デザイン史	阿部公正 (監修)	美術出版社
	3	デザインの歴史	暮沢剛巳 (他)	学芸出版社

評価方法 (基準) 最終回に実施するテスト (100%)

学生へのメッセージ 生活・環境・産業といった様々な側面で、デザインは私たちの生活の重要な部分を形づくっている。そのようなデザイン思想と実践の歴史に興味のある学生を歓迎します。

担当者の研究室等 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室

備考 講義の予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする。

科目名	日本建築史	科目名 (英文)	Japanese Architectural History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	李 暉
ディプロマポリシー (DP)	E⑩		
科目ナンバリング	TDR2048a0		

授業概要・目的	現在及び将来の住文化を考えるためには、その背景にある建築と都市の歴史に対する理解が不可欠です。この講義では日本における建築の歴史的展開、都市の形成と住環境の変遷について解説し、それらの基礎的知識の取得と包括的な理解を目指します。建築や都市に対する歴史的理解は、住宅を含む建築一般、都市の設計・施工のあらゆる段階で必要となります。それは、ゆるぎない規範を提示する場合もあれば、新たな可能性を示唆する場合もあります。講義の内容は、設計関連授業はもちろん、広範な領域の授業の基礎的知識としても重要です。
到達目標	グローバル化が進行する現代社会にあつては、外国の建物に精通しているだけでなく、むしろ日本建築の特徴や歴史を踏まえて、世界の人々とコミュニケーションができる建築専門家が求められます。社会に出るとたいへん多忙になるので、学生時代の今、しかも京都、奈良、大阪、兵庫、滋賀など、日本の国宝、世界遺産が集中している摂南大学の地の利を生かして、教科書に載っている有名な建築をその目で確かめて下さい。
授業方法と留意点	講義では補足資料を配布し、視覚的な把握を目指します。
科目学習の効果 (資格)	1級建築士・2級建築士の資格取得試験の基礎問題に出題される。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	先史時代の建築	先史時代の住居、古墳時代の前方後円墳などについて学ぶ。	縄文集落や弥生集落の遺跡について調べ、可能であれば見学に行ってください。住まい方と形態に想像をめぐらしましょう。
2	古代の建築 1	神社建築について、神社の様式と、伊勢神宮と出雲大社について学ぶ。	神社に行つて、本殿の建物について調査し、可能であれば見学してください。流造 (ながれづくり) や春日造 (かすがづくり) などの神社建築の様式を確認しましょう。
3	古代の建築 2	仏教建築の伝来について学ぶ。法隆寺など飛鳥時代の寺院建築と伽藍配置を知る。	奈良の寺院や大阪の四天王寺などを調査し、可能であれば見学してください。金堂や塔などをよく見学し、建物の配置の違いも理解してください。また、復元についても留意してください。
4	古代の建築 3	奈良時代と平安時代の寺院建築的特徴について学ぶ。	奈良や京都などの寺院を調査し、可能であれば見学してください。神社建築との相違点を確認してみましょう。
5	古代の建築 4	古代都城である藤原京、平城京、平安京と宮殿建築について学ぶ。	古代都城の計画思想や宮殿建築について調べ、できれば考古発掘調査の現場説明会に参加してみてください。時代劇ドラマなどを観ることも有効です。
6	中世の建築 1	大仏様の成立とその特徴について学ぶ。	奈良や京都にある寺院を調査し、可能であれば見学に行ってください。柱や梁、組み物などに注目してみましょう。
7	中世の建築 2	和様、禅宗様、折衷様のちがいとその寺院建築について学ぶ。	奈良や京都にある寺院を調査し、可能であれば見学に行ってください。柱や梁、組み物などに注目してみましょう。
8	中世の建築 3	寝殿造から書院造が成立する過程について学ぶ。	京都などにある書院造の部屋のある建築物を調査し、可能であれば見学に行ってください。座敷飾りについて理解しましょう。
9	近世の建築 1	城郭について、安土城、大坂城、姫路城などを通して学ぶ。	城のある街にて城郭建築を調査し、可能であれば見学してください。建物だけではなく、郭にも着目してみましょう。
10	近世の建築 2	茶室と数寄屋建築、武士の住宅の変遷と特徴について学ぶ。	各地に残る武家屋敷を調査し、可能であれば見学してください。
11	近世の建築 3	民家の地方性が風土と生業の関係からよくあらわれる農家の特徴について学ぶ。	各地に残る農家を調査し、可能であれば見学してください。
12	近世の建築 4	江戸・京都の都市の成立と町家について学ぶ。近世の寺社建築について学ぶ。	関西の町並み保存地区を調査し、可能であれば見学してください (奈良今井町、大阪富田林など)。
13	近代の建築 1	西洋建築の導入と展開について学ぶ。擬洋風建築の派生と様式建築の展開について学ぶ。	様式建築 (神戸居留地、大阪市中央図書館、公会堂、日本銀行大阪支店、泉布観など) を見学しましょう。
14	近代の建築 2	明治以降の住宅について、生活の洋風化と和式生活の残存を考慮しつつ学ぶ。	イケフェス (生きた建築ミュージアム フェスティバル) などを活用して近現代の建築を見学しましょう。
15	近代の建築 3	近代住宅の見学 (予定)	大正から昭和初期の生活を記した小説などを読んでみましょう。

関連科目	近代デザイン史			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本建築史図集 新訂第三版	日本建築学会	彰国社
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	日本建築の歴史	矢ヶ崎善太郎編著	学芸出版社
	2	日本建築史序説	太田博太郎	彰国社
	3	古建築辞典	武井豊治	理工学社
評価方法	毎回授業後小テスト 80%、期末試験 20% で評価します。			

(基準)	ただし、4回以上欠席の場合、評価対象としないので、ご注意ください。
学生へのメッセージ	講義で取り上げられた建物は、休日や旅行の時に、現地で実物を見学するようにしてください。
担当者の研究室等	12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とする 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」

科目名	西洋建築史	科目名 (英文)	History of European Architecture
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	南 智子
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2049a0		

授業概要・目的	紀元前に始まる古代ギリシアから 19 世紀までの西洋建築史を時代様式ごとに概説し、ヨーロッパ建築がどのような考えの元に、どのように造られてきたのかを学んでいただきます。 教科書に沿って、最初に西洋建築史および様式の成り立ちを解説した後、10 の様式別に時代順にそれぞれの特徴と変遷を説明します。また、西洋建築の特徴である建築書の影響について主な建築書の内容とともに解説します。最後に各様式で学習したことの復習を兼ねながら、「古代」「中世」「近世」の建築について 1 つのテーマを設定して、どのような考えの元に建築が生まれたのかを深めて考える授業としたいと思います。
到達目標	①各様式と主要作品、主要建築家の特徴を理解し、建築の専門用語の知識を身に付けてもらうことを目標とします。こうした知識が、実際に建築を見たり、建築関連の著作を読むときに理解の幅と奥行を広げてくれると思います。 ②様式というある一定の期間に見られる建築の形が、どのような考えと影響の元に生まれたのかを知り、それについて考えることで、建築をただ眺めるのではなく、計画や造形の意図を読み取る力を身につけてください。
授業方法と留意点	教科書をベースにしながら、建物の作品画像 (写真、図面) などを PPT で見てもらいながら、様式や作品の特徴を説明します。 予習として教科書の該当箇所を読んでくること、また、高校レベルの世界史の知識が必要なので、必要に応じて学習していただくをお願いします。また毎回、復習のために演習問題 1 問を出しますので、必ず教科書を読んで解答してください。次回授業の前日までに提出を求めます。
科目学習の効果 (資格)	設計のために建築に関する著作や資料を見たり、読んだりする時に、この授業で得た知識が内容理解のために役立つと考えます。日本の建築は近代以降、西洋の建築文化の影響の元で展開してきました。特に西洋建築の計画や形を表現する際に使われる言葉について、その歴史的背景を踏まえて理解することは、現代の建築を考える上で必要であると思います。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	授業内容と課題の説明／西洋建築史と様式の成り立ち	ギリシア建築から 19 世紀までの西洋の代表的な作品写真を見ながら、社会的な出来事とともに「古代」「中世」「近世」の区分と各様式の特徴を概観します。また「時代様式」という考え方の成立を説明します。	教科書 P8～14 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
2	ギリシア建築	ギリシア神殿の特徴と制作方法であるシュンメトリアとオーダーを中心に学びます。代表的なギリシア神殿の特徴をアルカイック期、古典期、ヘレニズム期ごとに解説します。	教科書 P16～23 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
3	ローマ建築	「強・用・美」を備えるローマ建築について、構法、ビルディングタイプ、オーダーの使用を、代表的作品を見ながら学びます。	教科書 P24～31 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
4	初期中世建築 (初期キリスト教建築とプレ・ロマネスク)	対象期間はキリスト教会堂建築の誕生から 10 世紀まで。代表的な教会を例に、バシリカ式と集中式という 2 つのタイプにキリスト教会建築の基本的な特徴を見ていきます。	教科書 P34～41 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
5	ビザンティン建築	東ローマ帝国で独自に展開した建造物をビザンティン建築といいます。5 世紀末から帝国が崩壊する 1453 年までの代表的な教会堂建築を例に、教会堂のドームの構法と平面プランの特徴と変遷を中心に学びます。	教科書 P42～47 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
6	ロマネスク建築	初期中世のバシリカ式教会堂から展開し、教会堂全体を石造化してヴォールトをかけることで新たな形式へと変化したロマネスク建築。11、12 世紀のロマネスク建築の特徴を地方的特色も合わせながら代表的建築を例に学びます。	教科書 P48～57 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
7	ゴシック建築	ロマネスク建築の構造や形態を基本に、12 世紀後半からヨーロッパの都市に求められる大聖堂として開花したゴシック建築。空間に光を求めることが新たな形式を生んだこの様式を代表的作品を例に学びます。	教科書 P58～67 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
8	ルネサンス建築 1	「古代」の再生を目指し、古代ローマ建築に模範を求めて 15 世紀初頭に生まれたルネサンス建築は、「古典主義様式」として「近世」のヨーロッパ建築の模範となりました。その「再生」の方法とはどのようなものだったのでしょうか。イタリアのルネサンスについて代表的建築家の作品と考え方を見ていきます。	教科書 P70～77 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
9	ルネサンス建築 2、バロック建築 1	ルネサンス建築のフランス、スペイン、ドイツ、イギリスでの展開を見ていきます。16 世紀末から現れるバロック建築については、ルネサンス建築同様「古代」の再生を目指しながら、カトリックのプロバガンダや絶対王政の権威の象徴として生み出されたこの様式の代表的作品を、誕生の背景やルネサンス建築との違いを考えながら見ていきます。	教科書 P78～87 を予習 1 時間 復習：演習問題 1 問解答 1.5 時間
10	バロック建築 2	イタリアにおける都市空間とバロック	教科書 P74、75、84～93 を予習 1 時間

			建築について考えます。また、ルネサンス、バロックの時代を通して建設されたサン・ピエトロ大聖堂について説明します。 フランス、イギリス、スペイン、ドイツでのバロック建築の展開をそれぞれの特徴を踏まえてみていきます。	復習：演習問題1問解答 1.5時間																
11	新古典主義建築		18世紀後半に現れる新古典主義建築は、バロック建築の過剰な装飾を否定する態度と啓蒙主義の理性重視の思考が重なり、単純で簡素な建築の理想を古代建築に求めました。代表的作品を例に「古代」の形の再現とその背後にある近代的な思考を見ていきます。	教科書 P94～101 を予習 1時間 復習：演習問題1問解答 1.5時間																
12	歴史主義建築		中世建築の考古学的調査に基づき、ゴシック建築を理想として再現する動きが19世紀に現れます。また、ロマネスク、ルネサンス、バロックなどの過去の様式を再発見する動きもこの世紀に登場しました。それぞれの建築の特徴を代表的作品を例に学びます。	教科書 P102～109 を予習 1時間 復習：演習問題1問解答 1.5時間																
13	ヨーロッパ建築と建築書、<古代の建築>ウィトルーウィウス『建築書』のシュンメトリア		過去の建築を知る手がかりを与えてくれる建築書は、ヨーロッパ建築の変遷において大きな役割を果たしました。古代から19世紀の間に著された建築書の概要とその影響について学びます。特に古代のウィトルーウィウス『建築書』については、シュンメトリアに関する記述を読みながら、古代建築とルネサンス以降の建築が用いた比例とオーダーについて考えます。	教科書 P16, 17, 24, 25, 32, 68, 110 を予習 1時間 復習：演習問題1問解答 1.5時間																
14	<近世の建築>「古典主義」の意味		古典主義という言葉が指す建築とはどのような建築のことなのでしょうか。「古典」「古典主義」とは建築史においてどのような意味をもっているのかを考えます。	教科書 P14, 70～101 を予習 2時間 復習：演習問題1問解答 1.5時間																
15	<中世の建築>霊性の表現ーロマネスクとゴシック		神の神秘性や聖性を尺度(数)や幾何図形に込め、光で表現することを考えたキリスト教の会堂。ロマネスク建築とゴシック建築を見ながら象徴空間としての建築、目に見えない霊性の表現について考えます。	教科書 P48, 49, 58, 59 を予習 1時間																
関連科目	近代デザイン論、各設計演習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>カラー版図説 西洋建築の歴史</td> <td>西田雅嗣 編著</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	カラー版図説 西洋建築の歴史	西田雅嗣 編著	学芸出版社	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	カラー版図説 西洋建築の歴史	西田雅嗣 編著	学芸出版社																	
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	毎回の授業内容に関する演習問題(80%)、期末テスト(20%)によって評価します。																			
学生へのメッセージ	過去、現代に関わらずできるだけたくさんの方の建物を見て、それがどのような発想で造られたのかを知り、考えることは、建築計画や設計を行うための力となることでしょう。ただ、西洋の過去の建築は、現代とは随分と異なる考え方をベースにしているので、正しく見るための知識が必要です。ここで学んで、まずは西洋の建築を見るために基本となる知識を身に付けてください。																			
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	教科書を元に授業を進めますが、すべての内容を講義時間中に説明することは難しいため、授業ではポイントをピックアップして説明します。そのため、必ず事前に事前事後学習課題欄に示したページを予習してください。																			

科目名	インテリアデザイン論	科目名 (英文)	Theory of Interior Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子
ディプロマポリシー (DP)	E⑥		
科目ナンバリング	TDR2050a0		

授業概要・目的	窓の外を室内からみれば、建築外部に緑があるのか？高速道路があるのか？によって内部の雰囲気は全く違ってくるように、立地や建築の在り方がインテリアデザインに関わるのが必然である。また、建築を外から見れば、窓から内部が見え、インテリアデザインは建築の外観に関わるものになる。さらに、家具のデザイナーが建築を創り、建築のデザイナーが家具をつくることは珍しいことではない。つまりインテリアと建築を切り離して考えるのではなく、住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアデザインを捉える。こうした観点から、多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのような空間デザインがありうるかを提案するための基礎知識を獲得することを目指す。インテリアデザインや建築設計の実務経験を持つ教員が、内部空間、外部空間、家具のデザインがどのように創られているかについて実践的な授業を行う。
到達目標	家具・インテリア・建築をはじめ生活文化・住環境デザイン全般に関連する歴史および基礎的技術を修得・活用できる。
授業方法と留意点	毎回、スライドおよび動画を用いて、講義中心の授業である。学生からの質問をはじめ、クイズ形式やディスカッションなどを行う回もある。プリント配布や Teams のファイルにアップロードされた資料を活用する。毎回、A41 枚の授業まとめを兼ねたレポートを提出する。提出されたレポートの中で誤解や不正解が多かった点は授業内で解説する。
科目学習の効果 (資格)	インテリアコーディネーター インテリアプランナー 2級建築士 1級建築士 福祉住環境コーディネーター 商業施設士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	インテリアデザイン論の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
2	インテリアエレメントについて	インテリアエレメントの概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
3	インテリアエレメント 床・壁・天井	インテリアエレメント 床・壁・天井について、プリント、映像によって講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
4	インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段	インテリアエレメント 開口部・巾木・回り縁・階段について、プリント、映像によって講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
5	インテリアエレメント 家具	インテリアエレメント 家具について、プリント、映像によって講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
6	インテリアエレメント 照明	インテリアエレメント 照明について、プリント、映像によって講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
7	現代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー	海外のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 エットーレ・ソットサス・Jr、コンスタンチン・グルッチッチなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
8	現代のインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー	日本のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 倉俣史郎、吉岡徳仁など	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> <li>「課題・復習：次回の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと (1 時間)」</li> <li>その他、さまざまな空間体験と記録 (スケッチ、メモ、実測) を適時心がけること</li> </ul>
9	近代のインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 西欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 シャルロット・ペリアン、トーマス・ヘ	<ul style="list-style-type: none"> <li>「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと (1 時間)」</li> </ul>



		リット・リートフェルト、アイリーン・グレイなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「課題・復習：次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）」</li> <li>・その他、さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測）を適時心がけること</li> </ul>
10	現代までのインテリア・建築デザイン 海外のデザイナー 北欧	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 アルヴァ・アアルト、アルネ・ヤコブセン、ハンス・J・ヴェグナーなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1時間）」</li> <li>・「課題・復習：次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）」</li> <li>・その他、さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測）を適時心がけること</li> </ul>
11	現代までのインテリア・建築デザイン 日本のデザイナー	近代のインテリア・建築デザイナーについて、プリント、映像によって講義 柳宗理、剣持勇、イサム・ノグチなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1時間）」</li> <li>・「課題・復習：次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）」</li> <li>・その他、さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測）を適時心がけること</li> </ul>
12	インテリア計画とデザインのプロセス	インテリア計画とデザインのプロセスについて、プリント、映像によって講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1時間）」</li> <li>・「課題・復習：次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）」</li> <li>・その他、さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測）を適時心がけること</li> </ul>
13	インテリア計画と工法のプロセス	インテリア計画と工法のプロセスについて、プリント、映像によって講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1時間）」</li> <li>・「課題・復習：次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）」</li> <li>・その他、さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測）を適時心がけること</li> </ul>
14	インテリア・建築デザインと表現方法	インテリア・建築デザインと表現方法について、プリント、映像によって講義	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1時間）」</li> <li>・「課題・復習：次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）」</li> <li>・その他、さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測）を適時心がけること</li> </ul>
15	まとめと試験	これまでの講義のまとめと試験	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「予習：毎回授業の最初に授業内容に係る確認を行うので、事前配布資料等を調べて整理しておくこと（1時間）」</li> <li>・「課題・復習：次の授業範囲を予習し、専門用語の意味等を理解し、まとめておくこと（1時間）」</li> <li>・その他、さまざまな空間体験と記録（スケッチ、メモ、実測）を適時心がけること</li> </ul>

関連科目 インテリアデザイン演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ 近代デザイン史 西洋建築史など

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法（基準） 授業内の講義メモなど提出物 30% 試験 70% なお、試験は15回目の授業内で行います。

学生へのメッセージ インテリアデザインに関する基礎知識を獲得する最良の方法は、実際の空間デザインを体験しておくことです。日頃から、商業施設、公共施設、住宅など、自発的にさまざまな空間の体験を心がけてください。

担当者の研究室等 12号館7階 川上教授室

備考 展覧会やインテリアデザインの実物を見学することがある。  
インテリアデザイン、空間デザイン、建築業界から専門家を招くことがある。  
講義に係る予習・復習などの学習時間は、毎回2時間程度を目安とする。  
提出された課題や小テストの中で誤解や不正解が多かった点は授業内で解説する。理解できない時は疑問点を質問してほしい。

科目名	建築空間論	科目名 (英文)	Theory of Architectural Space
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久富 敏明
ディプロマポリシー(DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR1053a0		

授業概要・目的	住環境デザインは深く生活文化に根ざしたものであり、そのなかで建築デザインが身体スケールに対する理解を元に、家具デザイン、インテリアデザインからまちづくり、都市計画、ランドスケープデザイン、環境芸術、など分野横断的な社会活動であることを理解する。
到達目標	建築デザイン入門講座として、専門用語とその意味を習得する。住環境デザイン及び建築デザインに関連する知識を元に、計画し実践する能力を習得する。
授業方法と留意点	授業の形式は講義中心である。教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせて適宜理解度のチェックを行う。授業方法は、ICT ツール、または、プロジェクター、板書を利用する。教科書、配布プリントは必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	1級建築士 (2級建築士、木造建築士) の資格試験に関連する内容

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 住環境デザインと建築デザインの関係	建築を自然と地域に開くことの意義について	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
2	地域主義の建築と批判的地域主義の建築	気候風土と建築の関係 生業の地域性と住環境デザイン	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
3	考現学と建築デザイン	考古学と民族学から考現学へ ふるまいと建築デザイン	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
4	自然発生的建築の多様性 I	精神世界の投影、風土と住形式の不確定性、シンボルの多義性、防御と結束の表明、風と対話する家型、他	事前に教科書 P.8 から P.19 を読み、要点を理解する (1.5時間)
5	自然発生的建築の多様性 II	集落の歴史的持続性、集住の特異性、形式の持続性、地中の家の原初的形態 倉に貯蔵される記憶	事前に教科書 P.20 から P.28 を読み、要点を理解する (1.5時間)
6	近代建築の成り立ち	近代建築のつくり方 近代建築によって出来るようになったこと	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
7	近代建築の多義性 I	コルビュジェとミースにみる建築デザインの法則性	事前に教科書 P.29 から P.39 を読み、要点を理解する (1.5時間)
8	近代建築の多義性 II	ライトとカーンにみる建築デザインと自然の関係	事前に教科書 P.39 から P.48 を読み、要点を理解する (1.5時間)
9	空間と架構デザイン	素材と技術の発展と建築デザインの関係 石造、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造から 3D プリンターへ	事前に教科書 P.69 から P.88 を読み、要点を理解する (1.5時間)
10	現代建築への展開 I	ピアノにみる建築技術と環境デザインの関係	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
11	現代建築への展開 II	フォスターにみる建築技術と環境デザインの関係	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
12	日本の歴史的建築構成の意味	時間軸から見た素材、構法 日本の伝統的建築物に見られる空間性	事前に教科書 P.49 から P.68 を読み、要点を理解する (1.5時間)
13	ランドスケープデザインと建築空間の連関	水・光・風・におい・音と建築デザイン	事前に教科書 P.89 から P.108 を読み、要点を理解する (1.5時間)
14	建築デザインと環境芸術	環境芸術の成立と建築デザイン 美術館建築の歴史との関係	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
15	建築デザインが必要とされる場所	大規模災害時の避難所生活 拡張する公共空間のつかい方	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)

関連科目 設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、建築計画学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築概論	本多友常、安原盛彦、大氏正嗣、佐々木葉二、柏木浩一	学芸出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 講義時間内に行なう修得理解度テスト (小テスト) を 5 回行い、その合計点で評価する。各回 20 点 (5 回実施) 100%。授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施する。修得理解度テスト (小テスト) 実施日に欠席した場合は、教務課が発行する欠席届を提出すること。欠席届の提出を受けて、レポートなどで対応する。その際の評価は、修得理解度テスト (小テスト) の評価基準と同等にはならないことに留意して履修登録すること。

学生へのメッセージ 教科書は必ず入手してください。本講義で習得した知識を設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ (旧カリ) で活用してください。

担当者の研究室等 12 号館 7 階 久富教授室

備考 各回の授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もある。予習復習は配布資料、教科書の通読、関連図書の検索も含め約 1 時間 30 分間程度とする。

科目名	空間表現演習 A	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	榊 愛・風戸 拓大・金澤 千佳子・高橋 彰・牧尾 晴喜
ディプロマポリシー (DP)	F⑩		
科目ナンバリング	TDR1052a0		

授業概要・目的	CADやグラフィック系ソフトなどの基本操作を学習し、建物の図面・パースを作成する演習を行う。最終課題として店舗の設計に取り組み、実践力を養う。 コンピュータを用いた空間表現に関する基礎的な技術を修得することを目的とする。
到達目標	自分が思い描く建築空間を、CAD・グラフィックソフトを用いて的確に表現できるようになる。
授業方法と留意点	1) 授業中に課題を与えながら、演習を中心として進める。授業の進行に差し支えるため、やむを得ず遅刻、欠席した場合は次の授業までに授業内容を学習して理解しておくこと。 2) ICTツールを活用する。詳細は第1回授業で説明する。 3) コンピュータを利用する。詳細は第1回授業で説明する。 4) 課題解説は授業内に行い、フィードバックする。 ※第1回授業までの準備作業を Teams にて周知する。必ず確認して準備の上、出席すること。
科目学習の効果 (資格)	CAD 利用技術者試験、建築 CAD 検定、CG エンジニア検定など。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 【課題 A】2DCAD の基礎	授業内容、進め方、評価基準に関する説明、2DCAD の概要、基本操作、基本設定、基本コマンド (作成、ハッチング、印刷、保存など)	配布資料をよく読んで理解を深め、作成に関する課題を完成させる (2 時間)
2	【課題 A】2DCAD の基礎 2	基本コマンド (修正、文字記入、寸法記入など)	配布資料をよく読んで理解を深め、修正に関する課題を完成させる (2 時間)
3	【課題 A】2DCAD の基礎 3	基本コマンド (スタイル設定、ラスタ、レイアウト、エクスポート、3DCAD 連携など)	配布資料をよく読んで理解を深め、仕上げに関する課題を完成させる (2 時間)
4	【課題 B】CAD による製図基礎 1	家具 上面図・側面図・断面図を作成	配布資料をよく読んで理解を深め、図面を完成させる (2 時間)
5	【課題 B】CAD による製図基礎 2	家具 3D モデリング、アイソメ図を作成	配布資料をよく読んで理解を深め、3D モデルを完成させる (2 時間)
6	【課題 B】CAD による製図 1	住宅建築 平面図・断面図・立面図の模写	配布資料をよく読んで理解を深め、図面を完成させる (2 時間)
7	【課題 B】CAD による製図 2	住宅建築 3D モデリング	配布資料をよく読んで理解を深め、3D モデルを完成させる (2 時間)
8	【課題 C】プレゼン基礎 1	住宅建築 プレゼン 画像処理の基本操作・インテリアパース作成	配布資料をよく読んで理解を深め、インテリアパースを完成させる (2 時間)
9	【課題 C】プレゼン基礎 2	住宅建築 プレゼン ドローイングソフトの基本操作・レイアウトの基礎・図面の装飾	配布資料をよく読んで理解を深め、ドローイングソフトの基本操作を習得する (2 時間)
10	【課題 C】プレゼン基礎 3	住宅建築 プレゼン ドローイングの基礎・ダイアグラムの作成・プレゼン図面の作成	配布資料をよく読んで理解を深め、プレゼン図面を完成させる (2 時間)
11	【課題 D】CAD による設計 1 (店舗リノベーション)	店舗建築 リノベーション前 (躯体部分) の平面図、断面図の模写・3D モデリング、エスキース	配布資料をよく読んで理解を深め、リノベーション前の図面と 3D モデルを完成させる (2 時間)
12	【課題 D】CAD による設計 2 (店舗リノベーション)	店舗建築 リノベーション後 (設計部分) の平面図、断面図の作成・エスキース	配布資料をよく読んで理解を深め、リノベーション後の図面を完成させる (2 時間)
13	【課題 D】CAD による設計 3 (店舗リノベーション)	店舗建築 リノベーション後 (設計部分) の 3D モデリング・インテリアパースの作成・エスキース	配布資料をよく読んで理解を深め、リノベーション後の 3D モデルを完成させる (2 時間)
14	【課題 D】CAD による設計 4 (店舗リノベーション)	店舗建築 ダイアグラム・平面図・断面図・インテリアパースを用いたプレゼンボードの作成・エスキース	配布資料をよく読んで理解を深め、プレゼンボードを完成させる (2 時間)
15	【課題 D】CAD による設計 5・講評会 (店舗リノベーション)	店舗建築 プレゼンボードの仕上げ、講評会	講評会でのコメントや意見を振り返り、プレゼンボードをブラッシュアップする (2 時間)

関連科目 図形科学、空間表現演習 B、設計演習など。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サクサク学ぶ AutoCAD・SketchUp・Photoshop・Illustrator	榊 愛・風戸拓大・高橋 彰・松本 崇・牧尾晴喜	学芸出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	デザインの学校 これからはじめる AutoCAD の本	稲葉 幸行	技術評論社
2	はじめて学ぶ AutoCAD LT 作図・操作ガイド	鈴木 孝子	ソーテック社	
3	図解 建築プレゼンのグラフィックデザイン	坂牛 卓他	鹿島出版会	

評価方法 (基準)	小課題 (30%)、最終課題 (70%) で評価する。
学生への	より良い作品ができるよう、向上心を持って集中して取り組んでください。

メッセージ	
担当者の 研究室等	12号館 7階 榑准教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	講義に係る予復習は、毎回2時間程度を目安とする

科目名	空間表現演習 B	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Presentation B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	榑 愛・風戸 拓大・金澤 千佳子・高橋 彰・牧尾 晴喜・安福 健祐
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2053a0		

授業概要・目的	コンピュータグラフィクス、画像処理ソフト、GIS、BIM など、さまざまなソフトを用いて空間表現に関する演習を行う。最終課題として公共施設に併設されたギャラリーの設計に取り組み、実践力を養う コンピュータを用いた空間表現の高度な技術を修得することを目的とする。
到達目標	都市、建築、インテリアなどの空間を、コンピュータを用いて的確に、効果的に表現できるようになる。
授業方法と留意点	1) 授業中に課題を与えながら、演習を中心として進めます。授業の進行に差し支えるため、やむを得ず遅刻、欠席した場合は次の授業までに授業内容を学習して理解しておくこと。 2) コンピュータを利用します。詳細は第1回授業で説明します。 3) ICT ツールを使用します。詳細は第1回授業で説明します。 4) 提出された課題は、授業内で解説してフィードバックします。
科目学習の効果 (資格)	CAD 利用技術者試験、建築 CAD 検定、BIM 利用技術者試験、CG エンジニア検定など。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 【課題 A】プレゼン応用 1	住宅建築 平面図の装飾とプレゼンテーション	配布資料をよく読んで理解を深め、平面図を完成させる (2 時間)
2	【課題 A】プレゼン応用 2	住宅建築 断面図の装飾とプレゼンテーション	配布資料をよく読んで理解を深め、断面図を完成させる (2 時間)
3	【課題 A】プレゼン応用 3	住宅建築 プレゼンテーションボードのデザイン	配布資料をよく読んで理解を深め、プレゼンテーションボードのデザインを完成させる (2 時間)
4	【課題 A】プレゼン応用 4	住宅建築 プレゼンテーションボードの作成	配布資料をよく読んで理解を深め、プレゼンテーションボードを完成させる (2 時間)
5	【課題 B】写真合成による建築シミュレーション 1	テーマに関連するレクチャー、透視図に関する復習、フォトリアリスティックな 3DCG レンダリングや AR/VR の仕組みに関する解説と演習	配布資料をよく読んで理解を深め、透視図に関する復習をしておく。(2 時間)
6	【課題 B】写真合成による建築シミュレーション 2	透視図の仕組みを応用した、既存の個人住宅の 3D モデルと敷地写真の正確な写真合成による外観パース作成の作成	配布資料をよく読んで理解を深め、写真合成の操作について復習する。(2 時間)
7	【課題 B】写真合成による建築シミュレーション 3	透視図の仕組みを応用した、オリジナルの家具や建築の 3D モデルと敷地写真の正確な写真合成による外観パース作成の作成	配布資料をよく読んで理解を深め、オリジナルの外観パースを完成させる。(2 時間)
8	【課題 B】写真合成による建築シミュレーション 4	透視図の仕組みを応用した、不可能図形と変身立体のモデリングとオリジナルデザインの検討	配布資料をよく読んで理解を深め、オリジナルの変身立体を完成させる。(2 時間)
9	【課題 C】GIS を用いた建築周辺環境の分析と可視化 1	公共施設建設敷地におけるアメダス観測データを用いた気象情報に関わる主題図の作成	配布資料をよく読んで理解を深め、作成した主題図を用いて周辺環境を考察する。(2 時間)
10	【課題 C】GIS を用いた建築周辺環境の分析と可視化 2	公共施設建設敷地における公共交通へのアクセシビリティに関する分析と主題図の作成	配布資料をよく読んで理解を深め、作成した主題図を用いて周辺環境を考察する。(2 時間)
11	【課題 C】GIS を用いた建築周辺環境の分析と可視化 3	公共施設建設敷地における人口に関する分析と主題図の作成	配布資料をよく読んで理解を深め、作成した主題図を用いて周辺環境を考察する。(2 時間)
12	【課題 D】BIM による建築設計 1	公共施設のモデル入力 (1 階)、オープンギャラリーのエスキース	配布資料をよく読んで理解を深め、モデル入力を完成させる (2 時間)
13	【課題 D】BIM による建築設計 2	公共施設のモデル入力 (2 階以上)、平面図・立面図・断面図の作成、オープンギャラリーのエスキース	配布資料をよく読んで理解を深め、モデル入力を完成させる (2 時間)
14	【課題 D】BIM による建築設計 3	オープンギャラリーのモデル入力、平面図・断面図の作成、図面チェック、内観パースの作成	配布資料をよく読んで理解を深め、モデル入力を完成させる (2 時間)
15	【課題 D】BIM による建築設計 4	公共施設に併設したオープンギャラリーのプレゼンテーションボードの作成、講評会	講評会に備えて作品を仕上げておく。講評会でのコメントや意見を振り返り、作品をブラッシュアップする (2 時間)

関連科目	図形科学、空間表現演習 A、設計演習など。
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	サクサク学ぶ AutoCAD・SketchUp・Photoshop・Illustrator	榑 愛・風戸拓大・高橋 彰・松本 崇・牧尾晴喜	学芸出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	実用図学	阿部 浩和他	共立出版
2	まちの課題・資源を可視化する QGIS 活用ガイドブック	半井 真明	学芸出版社	
3				

評価方法 (基準)	小課題 (30%)、最終課題 (70%) で評価する。
学生への メッセージ	より良い作品ができるよう、向上心を持って集中して取り組んでください。
担当者の 研究室等	12号館 7階 榊准教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室
備考	講義に係る予復習は、毎回2時間程度を目安とする。

科目名	造形演習	科目名 (英文)	Exercises in Formative Art and Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介, 国谷 隆志, 三宅 砂織
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR1054a0		

授業概要・目的	平面と立体の3つの基礎課題を通して、ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うことを目的とする。平面基礎：鉛筆デッサンによる表現課題を通して基礎的な観察力、立体把握力、表現力を養う。立体基礎：加工の容易な素材を使った立体構成物の製作課題を通して基礎的な工作力、発想力、立体構成力、表現力を養う。最後に作品を展示し、講評会を行う。以上の指導は非常勤講師の実務経験を活かして行われる。
到達目標	ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力として次の事項を獲得することを到達目標とする。 ・平面基礎：対象の観察する方法や概念を知る。立体把握の方法や概念を知る。これらの情報を的確に表現する方法を体験とおして知る。 ・立体基礎：立体構成とそれが与える意味や役割の関係性について知る。 ・グループワークデザインの体験を通して、デザイン作業におけるコミュニケーションの重要性を体験とおして知る。
授業方法と留意点	屋内外において個人製作課題とグループ製作課題に取り組む。課題の製作必要時間には個人差があり、必ずしも授業時間内に収まらない場合がある。不足分は授業外での自主的作業によって各自が補うこととする。クロッキー帳や鉛筆などの画材、カッターなどの工具は各自が授業内容および課題の進み具合から判断して、持参することとする。【注意事項】1回目授業のガイダンスで教室をアナウンスします。必ず出席してください。
科目学習の効果 (資格)	空間設計・プロダクト設計をする上で必要となる基礎的なデザイン能力を養える。

	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業の内容と進め方について説明および担当する非常勤講師の紹介を行う。クロッキー帳と鉛筆を持参すること。	各課題に必要な画材や用具を準備すること。
2	デッサン1：観察と描写	生花などをモチーフとして、デッサンの最も重要な要素である「観察」と「描写」について学ぶ	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
3	デッサン2：基礎形体	レンガ(直方体)とコップ(円柱)など比較的簡単な形の物をモチーフとして、物の形を捉え方・描き方について学ぶ	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
4	デッサン3：空間表現	複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。このテーマは2週連続で1つの課題を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
5	デッサン4：空間表現	複数の物で構成したモチーフを描くことを通して、手前と奥など空間的な関係の描き方について学ぶ。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
6	風から生まれる形1	環境と呼应する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
7	風から生まれる形2	環境と呼应する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
8	風から生まれる形3	環境と呼应する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
9	風から生まれる形4	環境と呼应する造形課題として、風を受けて形を変化させたり、動いたりするオブジェであるモビールの制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
10	光から生まれる形1	環境と呼应する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。このテーマは4週連続で1つの課題制作を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
11	光から生まれる形2	環境と呼应する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
12	光から生まれる形3	環境と呼应する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
13	光から生まれる形4	環境と呼应する造形課題として、光による空間づくりをグループワークを通して制作する。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
14	講評会展示準備	講評会の為の展示準備を行う。	課題を進める上で参考となる資料などを収集すること。	
15	講評会	作品の講評を行う。	事前にプレゼンテーション資料などを準備すること。	

関連科目	インテリアデザイン演習、各種の設計演習、デザイン方法演習
------	------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	制作過程における評価 50%、完成作品評価 50%		
学生への メッセージ	ものづくりに進むための基礎的な造形力・表現力を養うという意味で大変重要な演習と考えます。積極的な姿勢で演習に臨んで下さい。		
担当者の 研究室等	演習に関する相談や問い合わせについて、演習日は 12 号館 5 階のデザイン準備室へ、その他の日は 12 号館 7 階稲地准教授室まで		
備考	演習を受講するためには、ガイダンス時に配布する資料にある画材を事前に用意する必要があります。 演習に係る予復習は、毎回 1 時間 30 分間程度を目安とし、全 15 回において計 60 時間程度行うことが望まれる。		



科目名	基礎設計演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Architectural Planning and Drawing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二, 円満宇 洋介, 田所 克庸, 田中 郁恵, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR1055a0		

授業概要・目的	パース・スケッチ・トレース・模型作成など様々な課題を通して住環境デザインの基礎的な考え方、図面表現、立体表現の基礎技術を習得します。
到達目標	建築分野の専門家として仕事をこなしていく上での基本となる設計の基礎技術を身につけます。
授業方法と留意点	製図室における演習、全体の講義、グループごとの説明、個人に対するアドバイスが適宜、行われます。授業時には必要な製図用具、画材を必ず準備して臨んでください。提出日時は時間厳守です。作業の進行状況によって授業終了後も引き続き各自で課題に取り組んでもらうことがあります。
科目学習の効果 (資格)	建築設計製図・模型制作の基礎を身につけます。 一級建築士、二級建築士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	一点パース「インテリア」の描き方	一点パースの描き方の説明と室内空間による練習	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
3	アイソメと二点パース (外観) の描き方	二点パースによる建物の描き方と添景 (植物、テクスチャー、ガラス窓) の描き方と練習	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
4	線の練習・文字のレタリング	製図用具の基本的説明、建築図面における線の描き方の練習	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
5	寝屋川キャンパス内のスケッチ	建築図面におけるスケッチの描き方の練習及び講評	講評をよく聞いて、各自でスケッチの練習をすること (90分を目安とします)。
6	木造住宅図面の模写 I	木造住宅模写の描き方の説明。 練習 (題材を3つとし、それぞれグループに分かれて作業)	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
7	木造住宅図面の模写 II	平面図の模写	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
8	木造住宅図面の模写 III	断面・立面図の模写	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
9	木造住宅図面の模写 IV	配置図の模写	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
10	木造住宅図面の模写 V	全体のブラッシュアップ。製作物の提出、講評	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
11	木造住宅の模型製作 I	図面模写した住宅の模型製作 対象作品の写真紹介、模型の作り方についての説明	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
12	木造住宅の模型製作 II	模型製作	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
13	木造住宅の模型製作 III	模型製作	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
14	木造住宅の模型製作 IV	模型製作	配布された資料・図面を十分読んでおくこと (30分以上)。 授業時間外練習は、60分程度を目安とします。
15	木造住宅の模型製作 V	木造住宅模型の製作、提出、講評	提出日時の厳守。提出時間を守るように前もって作業スケジュールをよく考えておくこと。事前の作業は90分以上を目安とします。

関連科目	造形演習、建築計画学、図形科学、設計演習 I、設計演習 III、空間表現演習 I、空間表現演習 II、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	8つの主要提出物(90%)、毎回の受講態度・質問への呼応など(10%)を加味して評価します。ただし、無断欠席が4回以上ある場合には成績評価しません。
学生への メッセージ	住環境の設計を学ぶスタートです。基本ルール等をしっかりと学び、以後の設計演習の表現に応用できるように心がけてください。授業が始まる前に、製図用具や資料などを準備して、すぐに作業にかかれるようにして、授業に臨んでください。
担当者の 研究室等	12号館6階 坂本教授室 12号館7階 山根講師室、 12号館5階 住環境デザイン学科準備室2
備考	製図用具が必要ですので、指定された用具を購入すること。 提出された課題については、随時講評を行います。 製図室での飲食は、厳禁です。

科目名	設計演習 I	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	川上 比奈子, 阿曾 実実, 稲垣 和江, 今井 俊夫, 河内 尚子, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 松本 光素, 山下 喜明
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2056a0		

授業概要・目的	基礎設計演習に続いて図面による建築表現を学ぶ。次いで、小規模でシンプルな空間の設計課題に取り組む。敷地周辺の環境などから設計の手がかりをつかみ、空間をつくっていく方法を習得する。さらに、緑・水・光・熱・風など自然の力を活用する環境技術と空間デザインの融合について考えを深め、持続可能な住宅として設計提案する。 実務経験を持つ教員が、住宅建築や環境工学、建築設備について実践的な授業を行う。
到達目標	住宅デザインの基礎として比較的小規模なプログラムの建築空間構成およびその図面（敷地図・配置図・平面図・断面図）および模型表現ができる。住宅建築と自然環境の関係を調査・分析し、デザインに生かす方法を身に付けることができる。
授業方法と留意点	対面を基本としつつ、ICTを活用する。コロナ感染予防からオンラインで行う場合がある。その場合は TEAMS を活用し、課題提出やエスキース等を行う。いずれにしても、配布資料「受講ルール」に従うこと。 少人数ごとに教員の指導を受け、図面、模型などをとおして提案する。課題に関連する講義および図面（敷地図・配置図・平面図・断面図）、模型などを制作する実習。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会では設計の主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。 毎回の課題は、次の週にエスキースチェックとしてフィードバックする。最終提出物に関しては発表、講評、総評によってフィードバックする。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士の試験を受験するには必要不可欠な科目である。インテリアコーディネーター、インテリアプランナー、福祉住環境コーディネーター、2級建築施工管理技士、商業施設士などの資格取得にも効果大きい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	事例研究のまとめ、各種図面および模型の理解と製図法、模型作成法の修得	第一課題のまとめと発表 I 第二課題について説明する。	配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間)
3	第二課題: 自室と周辺的环境を考える	第一課題のまとめと発表 II 第二課題進め方についてグループディスカッション。周辺環境分析結果資料作成。	配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間)
4	同上	第二課題のまとめと発表 I 第三課題について説明する。	配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間)
5	第三課題: 住宅の設計	エスキース 1、敷地調査・作図方法、平面図・断面図の説明と作成。	提出時間を守るように前もって作業スケジュールを考えておく。 配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。
6	同上	エスキース 2、スタディ模型、敷地模型の作り方、立面図の説明と作成。	課題に関連する資料の収集 (1 時間) 配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。
7	同上	エスキース 3、軸組構造と小屋組み図の考え方・模型の作り方の説明。	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと (1 時間) 配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
8	同上	エスキース 4、日影検討とスケッチアップ活用法。平面図・立面図を作成。	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと (1 時間) 配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
9	同上	エスキース 5、プレゼンテーションスキル説明。断面図の作成。	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと (1 時間) 配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと
10	中間講評会	中間提出とグループごとの講評	要求された図面、模型などをまとめて発表できるようにしておくこと (1 時間) 自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるようにしておくこと (1 時間) 配布された資料および図面をよく見ておくこと (0.5 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2 時間) 授業終了後も作業を続けることがある。

				課題を各自ですすめておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと																
	11	同上	エスキース 6、構造計画と屋根組	中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと (1時間) 自分の考えをスケッチやスタディ模型で 伝えられるようにしておくこと (1時間) 配布され た資料および図面をよく見ておくこと (0.5時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2時間) 授業終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと 授業終了後も作業を続けることがある。																
	12	同上	エスキース 7、 敷地図兼屋根伏図の説明と作成。	自分の考えを図面、スケッチやスタディ模型で伝え られるようにしておくこと (1時間) 配布された資料 および図面をよく見ておくこと (0.5時間) 授業 終了後も作業を続けることがある。 課題を各自ですすめておくこと (2時間) 授業終了後も作業を続けることがある。																
	13	同上	エスキース 8	自分の考えを図面、スケッチや模型で伝えられるよ うにしておくこと (1時間) 配布された資料および 図面をよく見ておくこと (0.5時間) 授業終了後も 作業を続けることがある。 課題提出にむけてを各自ですすめておくこと (2時 間以上) 授業終了後も作業を続けることがある。																
	14	同上	作品提出	課題提出にむけて図面・模型・ダイアグラムの作成 を各自ですすめておくこと (2時間以上) 作品提出日時の厳守																
	15	最終講評会	選抜作品の発表による講評会および総 評	作品について説明できるように準備しておくこと (2時間以上) 講評や総評を得て、自身および学友の学びを振り返 ること (0.5時間)																
関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習、構造系講義、環境工学系講義、住宅系講義など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>初めての建築製図</td> <td>“建築のテキスト”編集委員会</td> <td>学芸出版社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>コンパクト建築設計資料集成</td> <td>日本建築学会</td> <td>丸善株式会社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ヤマダの木構造 (建築知識の本)</td> <td>山田 憲明</td> <td>X-Knowledge 社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社	2	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善株式会社	3	ヤマダの木構造 (建築知識の本)	山田 憲明	X-Knowledge 社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社																	
2	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会	丸善株式会社																	
3	ヤマダの木構造 (建築知識の本)	山田 憲明	X-Knowledge 社																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	提出物 60%、日常の実習進行度 40%																			
学生への メッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施する。 [スケッチブック名: CROQUIS white maruman ssl 表紙色ページ] を必ず購入しておくこと。 講評会はフォーマルなものです。その意識で臨んでください。 住宅空間の豊かさ、多様性を知るために、日頃から様々な建築や空間デザインに積極的に触れ得おいてください。																			
担当者の 研究室等	12号館 7階 川上教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、樋口教授室 12号館 6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館 5階 デザイン準備室 1																			
備考	学外で調査、見学を行うことがある。 学外から講師を招聘して講評会を開催することがある。 演習に係る予復習は、毎回 1時間 30分間程度を目安とする。 毎回の課題は、次の週にエスキースチェックとしてフィードバックする。最終提出物に関しては発表、講評、総評によってフィードバックする。																			

科目名	設計演習Ⅱ	科目名(英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	稲地 秀介, 大橋 巧, 川崎 修平, 中村 重陽, 足田 さつき, 久富 敏明, 星田 逸郎, 森下 大右
ディプロマポリシー(DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2057a0		

授業概要・目的	比較的公共性の高い性格の小規模建築の計画・設計の課題を通して、敷地分析力(地域特性の調査理解)、施設計画力(想定される使われ方、機能と空間構成)や空間設計力(空間創造、表現)を養うことを目的とする。なお、本演習授業の指導は実務経験者によって行われる。 SDGs-11
到達目標	比較的公共性の高い性格の小規模建築の計画・設計に必要な基礎的事項①敷地分析、②施設計画、③空間設計手法を理解し、これに基づいた設計計画案を作成し、簡単なプレゼンテーションによって伝えることができる。
授業方法と留意点	課題に基づき、皆さんが事前に作業したエスキース案に対して、授業中に教員がコメントする方法で演習が進みます。エスキース案の制作改善作業や製図作業や模型制作作業を行わないと評価することが出来ませんので、必ず事前作業してから演習に出席して下さい。事前作業が余りにも不完全な場合には履修停止にする場合があります。また、優秀作品は、他大学(京都府立大学、奈良女子大学、大阪市立大学など)との合同講評会への出品を予定している。本授業は、対面授業形式での実施を予定しています。但し、新型コロナウイルス等の感染症拡大により対面授業が実施できない場合には Teams を使った遠隔授業となる場合があります。
科目学習の効果(資格)	一級建築士試験、二級建築士試験、木造建築士試験を受験するには必要不可欠な科目である。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	第一課題(公共施設の設計)	敷地調査および情報整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
3	同上	エスキースチェック(平面図)	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
4	同上	エスキースチェック(平面図・断面図)	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。
5	同上	中間提出とグループごとの講評(配置図・平面図・断面図・スタディー模型)	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。
6	同上	エスキースチェック(配置図・平面図・断面図・プレゼン模型)	図面、模型の作成を行うこと。
7	同上	エスキースチェック(配置図・平面図・断面図・プレゼン模型・パース)	図面、模型の作成を行うこと。
8	講評会および第二課題(共同住宅の設計)の説明	作品提出、及び講評(配置図・平面図・断面図・模型・パース)	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。次の課題に関連する資料の収集、敷地見学をすること。
9	第二課題(共同住宅の設計)	敷地調査結果の整理、施設機能の理解や事例収集	クロッキー帳などに敷地情報などを整理し、施設機能の理解や事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
10	同上	エスキースチェック(平面図)	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。
11	同上	エスキースチェック(平面図・断面図)	事例収集を行い、複数の計画案を検討する。中間提出に向けてプレゼンテーション資料を作成する。
12	同上	中間提出とグループごとの講評(配置図・平面図・断面図・スタディー模型)	講評を受けて、案の改善を検討するとともに、提出に向けて図面、模型の作成を行うこと。
13	同上	エスキースチェック(配置図・平面図・断面図・スタディー模型)	図面、模型の作成を行うこと。
14	同上	エスキースチェック(配置図・平面図・断面図・プレゼン模型)	図面、模型の作成を行うこと。
15	講評会	作品提出、及び講評(配置図・平面図・断面図・プレゼン模型・パース)	作品提出日時の厳守。作品について説明できるように準備しておくこと。

関連科目	建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅲ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会編	丸善
2	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社	
3	ステップ・バイ・ステップ	川北健雄 花田佳明他	彰国社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	眼を養い手を練れ(2) 集まって住もう	居住空間デザイン講師室	彰国社
2	眼を養い手を練れー官脇塾住宅設計塾	官脇塾講師室	彰国社	
3	集住体を設計する(住環境の計画シリーズ)	住環境の計画編集委員会編	彰国社	

評価方法(基準)	各回授業での作業内容についての評価 20%、成果物評価 80%
----------	---------------------------------

学生へのメッセージ	日々の積み重ね以外に建築設計能力を向上させる方法はありません。天からアイデアが降ってきたり、朝起きたら図面が出来ていたりすることはないのです。突拍子もないことや、奇抜な形の空間をつくるのが設計ではありません。「使いやすい」、「多くの人に愛され」、「何十年も使い続けられる」ような建築をつくるのが真の建築設計です。そのような建築を設計するためには、あなたは日々なにをすべきか?を考えてみてください。
-----------	--

担当者の研究室等	・12号館7階 稲地准教授室 ・非常勤講師への質問等は上記の専任教員を通して可能である。
----------	---

備考	・各課題の講評会には外部講師を招き、講評して頂く場合があります。 ・演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする。
----	---

科目名	設計演習Ⅲ	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing III
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久富 敏明, 稲地 秀介, 川上 比奈子, 寒野 誠規, 榊 愛, 坂本 淳二, 中村 文紀, 樋口 祥明, 山田 義浩
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3058a0		

授業概要・目的	学校などの地域施設的设计課題に取り組む。地域環境やコミュニティに視野をひろげ、企画のための調査、計画の組み立て作業を課題に取り入れて、構想力、計画力を養う。 SDGs-11
到達目標	住環境デザインの基礎として比較的大規模で複雑なプログラムの建築空間構成およびその図面表現ができる。
授業方法と留意点	少人数ごとに教員の指導を受け、案をつくりまとめていく。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。少人数のグループ指導に対して、履修人数の制限を行う場合がありますので、第1回授業の出席が必要になります(教務課の発行する欠席届を提出する場合は除く)。履修にあたっては、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱで学んだ設計製図に対する理解と作図、また空間設計演習で学んだBIM (ArchiCAD) の操作と大型プリンターの印刷ができることが必要です。また、BIMの操作を行うパソコン(ノート型が望ましい)を各自で準備してください。
科目学習の効果(資格)	1級建築士(2級建築士、木造建築士)の資格試験に関連する内容

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス及び設計課題の説明 第1課題:親水公園と環境建築の設計	設計演習Ⅲの目標、授業の進め方の説明。 第1課題の説明。	課題書を再読し理解を深める。敷地見学を行い、調査結果のレポートを作成する(1.5時間以上)
2	第1課題:親水公園と環境建築の設計	計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション(敷地図・敷地調査レポート)	根拠も含めて計画案について説明する資料の作成(1.5時間以上)
3	第1課題:親水公園と環境建築の設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるように制作する(1.5時間以上)
4	第1課題:親水公園と環境建築の設計	中間提出とグループ講評(敷地配置図・平面図・断面図・スタディ模型)	中間提出後の修正案(図面・模型)を制作(1.5時間以上)
5	第1課題:親水公園と環境建築の設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	要求された図面・模型などの制作(1.5時間以上)
6	第1課題:親水公園と環境建築の設計 第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	第1課題の作品提出と講評会(敷地配置図・平面図・断面図・立面図・模型) 第2課題の説明	課題書を再読し理解を深める。敷地見学を行い、調査結果のレポートを作成する(1.5時間以上)
7	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	調査結果の報告とグループディスカッションおよびエスキース(敷地図・敷地調査レポート)	根拠も含めて計画案について説明する資料の作成(1.5時間以上)
8	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	根拠も含めて計画案について説明する資料の作成(1.5時間以上)
9	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるように制作する(1.5時間以上)
10	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるように制作する(1.5時間以上)
11	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	中間提出とグループ講評(敷地配置図・平面図・断面図・スタディ模型)	中間提出後の修正案(図面・模型)を制作(1.5時間以上)
12	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	要求された図面・模型などの制作(1.5時間以上)
13	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	要求された図面・模型などの制作(1.5時間以上)
14	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	作品提出(敷地配置図・平面図・断面図・立面図・ダイアグラム・パース・模型)	提出後の指摘事項について修正案を作成する。講評会発表の資料作成(1.5時間)
15	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	講評会(敷地配置図・平面図・断面図・立面図・ダイアグラム・パース・模型)	事前準備として発表用資料を作成すること(1.5時間以上)。講評会のレポートを作成し提出する(0.5時間程度)

関連科目	建築デザイン論(旧カリ:建築空間論)、建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	第4版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善
2	ステップ・バイ・ステップ	川北、花田、三上、倉知、水島	彰国社	
3	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築概論	本多友常、他	学芸出版社
2	改訂 図説やさしい建築計画	深水浩	学芸出版社	
3				

評価方法(基準)	提出物60%、日常の実習に対する取組み40% 提出物については、2つある課題の両方とも課題書に記載された全ての提出物を提出期限までに提出完了することが必要です。いずれかのひとつの課題のみの提出では合格にはなりません。出席については教務課が発行する欠席届を提出できる場合を除いて全回出席が必要です。 パース、ダイアグラム(アクソメ図)、模型の完成か未完成かの評価は難しいですが、担当教員の判断によることを了解した上で履修すること。
----------	--

学生へのメッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。 スケッチブックを準備すること。
担当者の研究室等	12号館6階 坂本教授室 12号館7階 稲地准教授室、榑准教授室、久富教授室、川上教授室、樋口教授室
備考	2つの課題ごとにグループ指導教員以外の広い視野からの批評を受けるために複数の教員参加の講評会を行う。 演習に係る予復習は、毎回3時間以上とする。 課題内容により、敷地周辺調査のための学外視察や招聘講師による講評会、学外講評階などを実施する場合がある。

科目名	設計演習Ⅳ	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing IV
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	久富 敏明, 稲地 秀介, 川上 比奈子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3061a0		

授業概要・目的	規模の比較的大きい公共施設の計画設計を通して基礎設計演習から設計演習Ⅲまでに学習した敷地分析手法、施設計画・提案手法、空間設計手法などの基礎的技術や知識の定着と「計画全体をまとめる力」および「プレゼンテーション力」を養うことを目的とする。 SDGs-11
到達目標	規模の比較的大きい公共施設の計画設計に必要な「敷地分析力」、「施設計画・提案力」、「空間設計力」などの基礎的技術や知識を理解・修得した上で、それらにもとづいた設計計画案の作成とプレゼンテーションによって他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	課題にもとづく事前学習 (エスキース・図面制作、模型製作など) 結果に対して教員が指導する。事前学習が余りにも不完全な場合には履修停止にする場合がある。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士、インテリアコーディネーター、インテリアプランナーの資格試験に関連する内容

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	第1課題	ポートフォリオにまとめる作品の資料収集1	課題に関連する資料を収集すること (1.5時間以上)
3	第1課題	ポートフォリオにまとめる作品の資料収集2	課題に関連する資料を収集すること (1.5時間以上)
4	第1課題	イラストレーターとフォトショップの基礎演習1	ポートフォリオ資料を制作すること (1.5時間以上)
5	第1課題	イラストレーターとフォトショップの基礎演習2	ポートフォリオ資料を制作すること (1.5時間以上)
6	第1課題	イラストレーターとフォトショップの基礎演習3	ポートフォリオ資料を制作すること (1.5時間以上)
7	第1課題	イラストレーターとフォトショップの基礎演習4	ポートフォリオ資料を制作すること (1.5時間以上)
8	第1課題 (ポートフォリオ) 講評会および第2課題 (公共施設) の説明	提出、講評会 (ポートフォリオ)	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと、講評者コメントなど改善すべき点を整理すること (1.5時間以上)
9	第2課題 (公共施設)	敷地調査および施設機能の学習や事例収集の仕方を学習および計画課題の抽出	クロッキー帖などに敷地情報などを整理する。複数の計画案を参考事例として施設機能の理解や表現方法などを学習すること (1.5時間以上)
10	第2課題 (公共施設)	エスキースチェック (配置計画・平面図・断面図)	参考事例収集を行い、複数の計画案を検討すること (1.5時間以上)
11	第2課題 (公共施設)	エスキースチェック (配置計画・平面図・断面図・スタディ模型)	複数の計画案の検討、およびプレゼンテーション資料を制作すること (1.5時間以上)
12	第2課題 (公共施設)	中間提出とグループ講評 (配置計画・平面図・断面図・スタディ模型)	講評の結果を受けて、計画案の改善を検討。図面・模型を制作すること (1.5時間以上)
13	第2課題 (公共施設)	エスキースチェック (配置計画・平面図・断面図・スタディ模型)	図面・模型を制作すること (1.5時間以上)
14	第2課題 (公共施設)	エスキースチェック (配置計画・平面図・断面図・スタディ模型)	図面・模型の制作およびプレゼンテーション資料を作成すること (1.5時間以上)
15	第2課題 (公共施設) 講評会	提出、講評会 (配置計画・平面図・断面図・ダイアグラム・パース・模型)	プレゼンテーションの練習を十分行っておくこと、講評者コメントなど改善すべき点を整理すること (1.5時間以上)

関連科目 建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、空間表現演習A、空間表現演習B

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	第4版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善
2	ステップ・バイ・ステップ	川北、花田、三上、倉知、水島	彰国社
3	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 各回授業での作業内容についての評価20%、成果物評価80%  
提出物については、課題書に記載された全ての提出物を提出期限までに提出完了すること。

学生へのメッセージ より高い建築設計能力を身につけるためには、自己流にこだわるのではなく、これまでの授業科目で習得してきた知見を元に、更に多くの知識をインプットすることが必要です。そのために、専門誌を読み込むことと建築見学をとおして建築設計の知見を増やし技能を身につけましょう。建築に求められる「用・強・美」を設計することを基本として、少し先の未来をつくりだすことを目標とします。そのような建築設計を実現するために、インプットを重ねることを日課にしてください。

担当者の研究室等 12号館7階 久富教授室、川上教授室、稲地准教授室

備考 本演習の目的に沿った学生参加可能な建築設計競技がある場合には、上記課題を変更し競技への参加になる場合がある。  
担当教員毎に異なるグループ課題を選択する場合がある。  
演習に係る予習復習は、毎回1時間30分以上とする。  
課題内容により、敷地周辺調査のための学外視察や招聘講師による講評会、学外講評会などを実施する場合がある。



科目名	インテリアデザイン演習	科目名 (英文)	Exercises in Planning and Drawing of Interior Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	川上 比奈子, 西山 広志, 松本 直也, 吉本 光絵
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2059a0		

授業概要・目的	住環境の中で、身体に近い建築空間としてインテリアを捉え、多様で複雑な現代の諸問題を解決し、生活をより豊かにするためには、どのようなデザインがありうるか、その可能性を模索し、具体的に提案できるようになることを目標とする。内部だけを考えるのではなく、外部空間が内部に与える影響、また、逆に内部空間が外部に与える影響を念頭に設計課題に取り組む。企画のための調査、計画の組み立て、模型・CGのプレゼンテーション作業を課題に取り入れて、構想力、計画力、表現力を養う。 実務経験を持つ教員が、住宅や商業空間のデザインについて実際の思想・知識・技術に関する実践的な授業を行う。
到達目標	①インテリアデザインの基礎として比較的小規模で簡単なプログラムの空間構成およびその図面表現（平面図・断面図・展開図・天井伏せ図・什器詳細図）ができる。②商業空間のリノベーションを通して、より複雑な構成の空間デザインに関する知識・技術・思想を身につけることができる。
授業方法と留意点	学生がディスカッション、プレゼンテーションによって自発的に図面、模型などをとおして空間デザインを提案する。課題に関連する講義とともに少人数ごとに教員の指導を受け、図面、模型などを制作する演習。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。とくに講評会ではデザインの主旨、内容を分かりやすく説明できるように留意してほしい。 毎回の課題は、次の週にエスキースチェックとしてフィードバックする。最終提出物に関しては発表、講評、総評によってフィードバックする。対面を基本としつつ、ICTを活用する。コロナ感染予防からオンラインで行う場合がある。その場合はTEAMSを活用し、課題提出やエスキース等を行う。いずれにしても、配布資料「受講ルール」に従うこと。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター、福祉住環境コーディネーター、商業施設士

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス及び設計課題の説明	インテリアデザイン演習の目標、授業の進め方の説明。 住空間のインテリアデザインの課題説明。	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
2	住空間のインテリアリフォーム・デザイン	住空間のインテリアデザイン計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション エスキース図面表現（平面図・断面図・展開図）作業	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
3	同上	エスキースチェック：アイデアおよび図面表現（平面図・断面図・展開図） 模型制作	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
4	同上	住空間のインテリアデザイン計画案 エスキース作業：図面表現のブラッシュアップと模型制作	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題を提出に向けて図面・模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
5	提出・講評会	平面図・断面図・模型を提出・展示・発表し、外来講師から客観的な講評を受ける	予習：課題を提出・講評に向けて図面・模型によって各自ですすめておくこと。作品について説明できるように準備しておくこと（2時間以上） 復習：講評や総評を得て、自身および学友の学びを振り返ること（0.5時間）
6	商業空間のインテリアリノベーションデザイン	商業空間のインテリアリノベーションデザイン課題について説明	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
7	同上	商業空間のインテリアデザイン計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション エスキース図面表現（平面図・断面図・展開図）作業	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
8	同上	エスキースチェック：アイデアおよび図面表現（平面図・断面図・展開図） と模型制作	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
9	同上	エスキースチェック：アイデアおよび図面表現（平面図・断面図・展開図） と模型制作	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
10	同上	エスキースチェック：アイデアおよび図面表現（平面図・断面図・展開図・什器詳細図）と模型制作	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって各自ですすめておくこと（1時間）
11	同上	エスキースチェック：アイデアおよび図面表現（平面図・断面図・展開図・什器詳細図）と模型制作	予習：配布された資料および図面をよく見ておくこと（0.5時間） 復習：課題をエスキースやスタディ模型によって中間提出できるように各自ですすめておくこと（1時間）
12	同上	平面図・断面図・スタディ模型中間提出とグループ講評	予習：課題を中間提出・講評に向けて図面・模型によって各自ですすめておくこと。作品について説明できるように準備しておくこと（2時間以上） 復習：講評や総評を得て、自身および学友の学びを振り返ること（0.5時間）
13	同上	エスキースチェック：アイデアおよび図面表現（平面図・断面図・展開図・什器	予習：中間提出後の修正案を示せるようにしておくこと（1時間）

			詳細図)と模型制作	復習:課題をエスキースやスタディ模型によって中間提出できるように各自ですすめておくこと(1時間)																
	14	同上	平面図・断面図・模型・什器詳細図・コンセプト・ダイアグラムの完成に向けてプレゼンテーション作業	予習:中間提出後の修正案をブラッシュアップしておくこと(1時間) 復習:課題を最終提出できるように各自ですすめておくこと(1時間)																
	15	提出・公開講評会	作品提出及び発表、講評、展示し、外来講師から客観的な講評を受ける	作品提出日時の厳守。 予習:課題を提出・講評に向けて図面・模型によって各自ですすめておくこと。作品について説明できるように準備しておくこと(2時間以上) 復習:講評や総評を得て、自身および学友の学びを振り返ること(0.5時間)																
関連科目	図形科学、空間表現演習Ⅰ、Ⅱ、基礎設計演習 設計演習Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ プロダクトデザイン演習、 インテリアデザイン論など																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	提出物70%、日常の実習進行度30%																			
学生へのメッセージ	<p>第一回目の授業から、設計演習Ⅰでみなさんがデザインした住宅のインテリア模型を作成します。提出した図面と模型を用意してください。厚さ5ミリのスチレンボード(A2くらいあれば十分です)</p> <p>なお、毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施します。 [スケッチブック名:CROQUIS white maruman ssl 表紙色ページ]を必ず用意しておいてください。</p> <p>講評会はフォーマルなものです。その意識で臨んでください。 住宅空間、商業空間の豊かさ、多様性を知るために、日頃から様々な建築や空間デザ</p>																			
担当者の研究室等	12号館7階 川上教授室 12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館5階 デザイン準備室1																			
備考	<p>展覧会やインテリアデザインの実物を学外で見学することがある。</p> <p>講評会において外来講師を迎える。</p> <p>演習に係る予復習は、毎回1時間30分間程度を目安とする。</p> <p>毎回の課題は、次の週にエスキースチェックとしてフィードバックする。最終提出物に関しては発表、講評、総評によってフィードバックする。</p>																			

科目名	環境工学演習	科目名 (英文)	Exercises in Environmental Engineering
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	竹村 明久、大橋 巧、樋口 祥明
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3060a0		

授業概要・目的	住環境工学A、住環境工学Bで学んだ知識を基に、機器を使った測定や具体的な計算などの演習を通して、光環境、音環境、熱環境、空気環境に関する予測や評価の手法を修得する。住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につける。
到達目標	建築士資格試験を受ける際の計算問題などの解法や、実務の測定技術・計算技術などの基礎を修得・活用できることを目標とする。
授業方法と留意点	各々の環境分野について計算・演習問題などの課題を出す。 住環境工学A、住環境工学Bで学習した内容を教科書で毎回復習して課題提出すること。

科目学習の 効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士
------------------	-------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	音の基本単位と騒音の実測	音の基本単位を復習し、騒音測定機器の取扱いを修得した後に、実際の環境の騒音測定をする。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
2	残響時間および透過損失の計算	残響時間と透過損失を理解し、その計算式を、ある空間に適用する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
3	音・熱環境の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
4	CO2の計測と換気量の計算	換気と空気質の関係について復習し、教室内外のCO2を測定して、換気量の推定を行う。	教科書の該当箇所を自宅学習すること
5	空気環境・設備の総合問題	一級建築士、二級建築士などの問題から選抜した複合問題を解答する。	以前の講義で学習した内容を復習して出席すること
6	温熱環境の測定と評価 (1)	熱環境分野で使用する測定器の原理、使用方法を説明し、温熱環境指標 (SET*など) を解説する。後半では、計測器に慣れることを目的に、室内の気温、湿度、MRT (グローブ温度)、気流の測定を行う。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分)。演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
7	温熱環境の測定と評価 (2)	建物内外敷か所にて温熱環境を測定し、温熱環境指標 (SET*など) による環境評価および考察を行う。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分)。演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
8	クールスポットの提案 冷暖房熱負荷計算 (1)	前回の計測結果を踏まえ、温熱環境に配慮したクールスポットの提案を行う。後半では手計算による冷暖房熱負荷計算法を解説する。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分)。演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
9	冷暖房熱負荷計算 (2)	例題を示し、冷暖房熱負荷計算の演習を行う。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分)。演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
10	冷暖房熱負荷計算 (3)	前回の計算結果を踏まえ、外皮条件の違いによる負荷の多寡を評価する。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分)。演習中は重要な点をノートに取り、あとで読み返すこと。
11	日影図の作成・検討	日影図等の基礎理解のために日影図等を作成し、日影時間等の評価を行う。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分) 演習中は重要な点をノートにとること
12	照度の計算	明るさ評価の基本となる水平面照度、鉛直面照度の算定を行う。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分) 演習中は重要な点をノートにとること
13	照度の計測	教室等の照度分布について異なる条件での測定を行い、照度計の取り扱いとともに、空間の光環境評価方法を習得する。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分) 演習中は重要な点をノートにとること
14	照明設計の基礎演習	光束法に基づいて、照明器具の必要個数算定を行い、配置計画を行う。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分) 演習中は重要な点をノートにとること
15	光環境の総合問題	実際の建物を想定もしくは体感した上で、環境の総合的な設計に関する意見をまとめる。	講義内容の予習・復習をする (予習・30分、復習90分) 演習中は重要な点をノートにとること

関連科目	住環境工学A、住環境工学B、住環境設備、環境設備計画A、環境設備計画B、スタジオ
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	環境工学教科書	日本建築学会	彰国社
2	図説建築環境	松原斎樹他	学芸出版社	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	生活環境学	岩田利枝他	井上書院
2	最新建築設備工学 (改訂2版)	田中俊六監修	井上書院	
3				

評価方法 (基準)	毎回の課題の評価点の合計点で評価する (100%)。期末試験は行わない。
-----------	--------------------------------------

学生への	教科書、電卓、三角定規一式、A4レポート用紙を毎回持参すること。
------	----------------------------------

メッセージ	
担当者の研究室等	12号館7階 大橋准教授室 12号館7階 樋口教授室 12号館7階 竹村准教授室
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・講義に係る予復習は、毎回2時間程度を目安とする</li><li>・環境の総合的な設計について考える上で、実際の建物での体感（見学）をする場合がある。</li></ul>

科目名	環境計画演習	科目名 (英文)	Exercises in Environmental Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久, 大橋 巧, 樋口 祥明
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3065a0		

授業概要・目的	原則として、以下の(A)、(B)、(C)の3グループに分かれて実施するが、第7回と14回の講評会(または見学会)は合同で行う。 (A) 環境配慮技術を理解し、建築設計に応用できる基礎的能力と、シミュレーション等によるエネルギー評価手法を学ぶ。 (B) SDGs、Society5.0、健康配慮、知的生産性向上等の社会背景を踏まえて、環境工学の知識を社会課題解決に活かす手法について学び、自ら考える力をつける。 (C) 環境に対する人の心理生理反応を把握することを目指し、空気環境を中心とした心理評価や生理量測定手法を修得する。
到達目標	住環境への理解を深め、問題点解決の手法と建築計画時における予測手法を身につけ、卒業研究を行うための基礎知識と測定技術・計算技術などを修得・活用できることを目標とする。
授業方法と留意点	手法の説明や問題演習、実験の実施と、データ処理、そして発表に至るまで、総合的に取組む。 住環境工学A及び住環境工学Bの講義内容について復習して臨むこと。
科目学習の効果(資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価1 (B) 温熱・空気環境評価① (C) においの心理評価①	(A) 最大負荷計算 (B) エクセルを活用した各種環境評価手法① (C) 心理評価における実験者、被験者の注意点の整理	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
3	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価2 (B) 温熱・空気環境評価② (C) においの心理評価②	(A) 窓ガラスの性能評価1 (B) エクセルを活用した各種環境評価手法② (C) 心理評価データの分析	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
4	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価3 (B) 温熱・空気環境評価③ (C) 心理評価手法の比較①	(A) 窓ガラスの性能評価2 (B) 流体解析ツール① (C) 評定尺度法とME法の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
5	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価4 (B) 温熱・空気環境評価④ (C) 心理評価手法の比較②	(A) ルーバーの最適設計1 (B) 流体解析ツール② (C) 実験データを基にした評価手法の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
6	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価5 (B) 光環境評価① (C) これまでの演習に関する復習①	(A) ルーバーの最適設計2 (B) 照度分布による評価 (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説	講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。
7	前半のテーマの発表(講評会)または見学会	演習内容について研究発表スタイルにまとめて発表する。また、講評を受けて今後の課題を見出す。	プレゼンテーションの準備、見学先の事前調査
8	(A) 環境配慮型外皮設計とその評価6 (B) 光環境評価② (C) 生理反応測定による室内環境評価	(A) エアフローウィンドウの性能評価 (B) 輝度分布による評価 (C) 生理量測定による室内環境評価について	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
9	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価1 (B) 作図・解析ツールの連動技術 (C) 生理量測定と心理評価の比較①	(A) 昼光利用による照明制御のエネルギー評価1 (B) Rhinoceros&grasshopperの活用 (C) 生理量測定手法の概要と、測定時の注意点	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
10	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価2 (B) 健康配慮・行動経済学と居住環境計画 (C) 生理量測定と心理評価の比較②	(A) 昼光利用による照明制御のエネルギー評価2 (B) 健康配慮・行動経済学応用の事例紹介と討議 (C) 生理量測定結果と心理評価の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
11	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価3 (B) 環境配慮に対する社会動向の調査 (C) 生理量測定によるストレスの把握①	(A) 窓面積の違いによる空調への影響評価 (B) 環境配慮に対する社会動向の事前調査結果の発表と討議 (C) ストレス測定手法の概要と、測定時の注意点	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。
12	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価4 (B) 環境配慮居住環境計画① (C) 生理量測定によるストレスの把握②	(A) 外断熱、高气密の評価1 (B) 居住環境計画研究室を題材にした改修計画の事前調査 (C) ストレスに関する生理量と心理評価の比較	講義内容の予習・復習 演習中は重要な点をノートにとること。

	13	(A) 環境配慮型設備デザインとその評価5 (B) 環境配慮居住環境計画② (C) これまでの演習に関する復習②	(A) 外断熱、高気密の評価2 (B) 居住環境計画研究室を題材にした改修計画の討議 (C) これまでの演習課題に関する演習問題と解説	講義内容の予習・復習 これまでの配布資料やノートをよく読むこと。																
	14	後半のテーマの発表（講評会）または見学会	学習した内容について各自が発表する。講評を受けて今後の課題を見出す。	プレゼンテーションの準備、見学先の事前調査																
	15	総まとめ	演習課題で得られた成果を整理し、苦手箇所などのフォローアップを行う。	これまでの配布資料やノートをよく読むこと。																
関連科目	住環境工学A、住環境工学B、住環境設備（住環境設備A）、環境設備計画A（都市環境計画）、環境設備計画B（住環境設備B）、環境工学演習																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>環境工学教科書第二版</td> <td>日本建築学会</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>生活環境学</td> <td>岩田利枝他</td> <td>井上書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>最新建築設備工学(改訂2版)</td> <td>田中俊六監修</td> <td>井上書院</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	環境工学教科書第二版	日本建築学会	彰国社	2	生活環境学	岩田利枝他	井上書院	3	最新建築設備工学(改訂2版)	田中俊六監修	井上書院
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	環境工学教科書第二版	日本建築学会	彰国社																	
2	生活環境学	岩田利枝他	井上書院																	
3	最新建築設備工学(改訂2版)	田中俊六監修	井上書院																	
評価方法 (基準)	毎回の演習課題の提出物で100%評価する																			
学生への メッセージ	積極的な質問など、前向きな取組みを期待します。継続的に進行するので欠席しないこと 住環境工学A、住環境工学B等の講義で使用した教科書も適宜使用する 教科書、A4レポート用紙、関数電卓、必要に応じて製図用三角定規などを持参すること																			
担当者の 研究室等	12号館7階の樋口教授室、大橋准教授室、竹村准教授室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に係る予復習は、毎回2時間程度を目安とする</li> <li>・演習は、講義時間内に解説を行うなどしてフィードバックし、理解を深める</li> </ul>																			

科目名	構造デザイン演習	科目名 (英文)	Exercises in Structural Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	白鳥 武
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3066a0		

授業概要・目的	建築構造の役割を理解し、材料学と密接に関わる建築構造デザインについての基礎知識、実践的な応用力を身につけることを目的とする。そこで敢えて木造に特化した演習課題を行う。木材の樹種、強度、節の影響、剛性、靱性を理解し、木構法開発の実務経験者である本教員が開発した「楔一長押耐力壁」も含めて未活用木材の利用に対する考え方も盛り込み、持続可能な建築材料と工法、伝統構法（石場立て等）からの温故知新な構造的観点も含めて、我々のこれからの木造建築構造がどうあるべきか、実際に耐力壁を自らデザインし、加工し、そのせん断実験結果を通して構造デザインの理解を深める。
到達目標	建築構造デザインのエッセンスを木構造を通して理解する。デザイン学、材料学、構造力学との相互に密接な関係を理解し、木構造システムの「抑えどころ」を理解し活用できることを到達目標とする。
授業方法と留意点	教科書を良く読み、理解に努めて授業に臨むこと。教科書、スライド (PPT) を駆使した授業は教員からの一方通行ではなく、個人及びグループで教科書を分担し発表する。その発表に対して教員が実務での例や補足を加えて理解を促す形式を取る。 考案・デザイン・作成した木造耐力壁の模型を実際にせん断実験を行う演習をする。 その後、その耐力壁の性能を評価し、実験レポートを提出する。進捗度により、耐力壁の作成タイミングは変動する。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、木造建築士、構造設計士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	構造デザインとは？ 入門編 木構造の基礎知識	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。(分担部分を決定しそのページ数を理解しやすいように読み進めておくこと。以下同様)
2	基本編 地盤①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
3	基本編 軸組①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
4	基本編 耐力壁①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
5	基本編 水平構面①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
6	基本編 接合部①	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
7	木造耐力壁実験 I	この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインを用意しておくこと。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
8	木造耐力壁実験 II	この日までに加力実験用の耐力壁壁模型のデザインの修正案を用意しておくこと。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
9	実践編 地盤・基礎②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習 (耐力壁模型用の材料採り) を後半に行う。石場立てについても考えていく。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
10	実践編 軸組②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習 (耐力壁模型用の材料採り II) を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
11	実践編 耐力壁②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習 (耐力壁模型用の加工) を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
12	実践編 水平構面②	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習 (耐力壁模型用の加工 II) を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
13	実験 III	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習 (耐力壁加力実験) を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
14	実験 IV	ヤマベの木構造を利用して講義を前半に行い、演習 (耐力壁加力実験 II) を後半に行う。	授業で行う内容を事前に読み進めておくこと。分担部分の PPT 発表資料を作成すること。
15	まとめ	実験の結果がどのように実際の構造実験現場で活用されるのかを見ていきます。	最終課題 (実験レポート) 提出

関連科目 構造力学、住環境材料学 I、建築一般構造学、設計演習 I、構造デザイン論

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヤマベの木構造 増補改訂版	山辺豊彦	X-Knowledge 社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ヤマダの木構造 (建築知識の本)	山田 憲明	X-Knowledge 社
2	世界で一番やさしい木構造 増補改訂カラー版 (エクスマレッジムック 世界で一番やさしい建築シリーズ 3) ムック	山辺豊彦	X-Knowledge 社	
3	木による空間構造へのアプローチ—木で可能な 15 の基本架構の構造デザイン	今川 憲英 (著), 岡田 章 (著)	建築技術; 新訂版 (1997/4/1)	

評価方法 (基準)	①授業内課題・ミニ演習 40% (教科書をまとめ、グループ毎発表) ②授業外課題・ミニ演習 40% (実験用試験体のデザインと試験体加工) ③最終課題 20% (実験ⅠⅠ 木造耐力壁加力実験とそのまとめレポート) 計100%
学生への メッセージ	教科書・参考書をじっくり読んで、木構造の世界を楽しんでください。 教科書は①ヤマベの木構造 増補改訂版を購入すること。②参考書はいずれかの1冊をできれば購入・読破してください。特に木造住宅の構造や設計に興味がある人は教科書ヤマベを一通り読むことは非常に有益ですし、ヤマダ(注意:紛らわしいので間違えないように)の参考書#1はおすすめです。ぜひこの機会に木構造に関してしっかりと意識を高めてほしいと思います。 木は日本における素晴らしい持続可能な建築構造材料の一つですから。
担当者の 研究室等	12号館7階 白鳥 武 准教授 教員室
備考	教科書を読んで、課題に90分以上費やすこと。コツコツと積み重ねが重要です。 ①授業内課題・ミニ演習:「教科書をよく理解し、重要ポイントを整理して発表できているか」で評価します。 ②授業外課題・ミニ演習 「実験用試験体のデザインと試験体加工」では「授業で学んだ耐力壁に求められる構造特性を理解して、各自重要と考える要素を取り入れてデザインし、加工に繋げて、制作に至っているか」を加味して評価します。枠のみの試験体+3体を提出すること。



科目名	空間情報演習	科目名 (英文)	Exercises in Spatial Information
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	榊 愛
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3067a0		

授業概要・目的	地理情報システム (GIS) を用いて、建物やまちに関わる空間情報の表現・分析に関する演習を行う。 空間情報を収集して、定量的に分析・視覚的に表現することで、より良い住環境デザインのでがかりを発見することを目的とする。
到達目標	GIS の基礎を理解し、地図を用いた情報可視化手法を修得・活用できる。 住環境に関わる空間情報をわかりやすく人に伝えることができる。
授業方法と留意点	授業中に課題を与えながら、演習を中心としてアクティブラーニング形式で進める。 授業で配布した資料を毎回持参すること。 授業の進行に差し支えるため、遅刻、欠席をしないこと。

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	GIS の基礎	GIS の歴史、しくみ、事例の紹介、基本操作	GIS の利用事例・研究事例を調べる (1 時間)
2	空間情報の収集とベースマップの作成 (1)	寝屋川市の住宅地図を用いた表示操作・建物情報の閲覧・建物の検索・建物の分布特性に関する考察	配布資料をよく読んで理解を深め、GIS の基本操作を復習しておく (1 時間)
3	空間情報の収集とベースマップの作成 (2)	寝屋川市の統計データの読み込み、考察	配布資料をよく読んで理解を深め、統計データに関する課題を完成させる (1 時間)
4	空間情報の収集とベースマップの作成 (3)	寝屋川市における生活利便施設・商業施設等の分布の把握、考察	配布資料をよく読んで理解を深め、施設のマッピングに関する課題を完成させる (1 時間)
5	空間情報の収集とベースマップの作成 (4)	寝屋川市における生活利便施設・商業施設等の立地分析	配布資料をよく読んで理解を深め、寝屋川市のベースマップを完成させる (1 時間)
6	フィールドワーク (1)	フィールドワーク 事前学習	配布資料をよく読んで理解を深め、フィールドワーク対象地について下調べをしておく (1 時間)
7	フィールドワーク (2)	フィールドワーク 前半	フィールドワークで入手した情報・写真を整理する (1 時間)
8	フィールドワーク (3)	フィールドワーク 後半	フィールドワークで入手した情報・写真を整理する (1 時間)
9	GIS プロジェクト (1)	GIS を用いて取り組みたい研究テーマを探し、研究計画をたてる	これまでの授業内容を振り返り、学生同士でディスカッションしておく (1 時間)
10	GIS プロジェクト (2)	研究テーマに関連する空間情報を収集する	必要な空間情報について、学生同士でディスカッションしておく (1 時間)
11	GIS プロジェクト (3)	収集した空間情報を GIS に入力する	空間情報の入力を完成させる (1 時間)
12	GIS プロジェクト (4)	空間情報をもとに主題図を作成して可視化する	主題図を完成させる (1 時間)
13	GIS プロジェクト (5)	主題図をもとに考察・分析する	学生同士でディスカッションしておく (1 時間)
14	GIS プロジェクト (6)	プレゼンテーション資料を作成する	プレゼンテーション資料を完成させておく (1 時間)
15	まとめ・発表	レポート発表・講評会	学生同士で発表練習をしておく (1 時間)

関連科目	住生活学、住生活演習、地域・都市計画学、空間表現演習、卒業研究
------	---------------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	[オープンデータ+QGIS]統計・防災・環境情報がひと目でわかる地図の作り方	朝日 孝輔等	技術評論社
	2			
	3			

評価方法 (基準)	演習への取り組み (20%)、課題 (80%) で評価する。
-----------	--------------------------------

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	1 2号館 7階 榊准教授室
----------	----------------

備考	住生活演習で取り組む課題と関連したテーマを扱うため、原則住生活演習を履修すること。 事前事後学習は毎回概ね 1 時間程度です。
----	--

科目名	住生活演習	科目名 (英文)	Exercises in Housing Lifestyle
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3068a0		

授業概要・目的	住宅や建築物を設計したり、あるいは地域計画を行う際に、予め、その住宅の居住者や地域の利用者の声を聞くことが重要である。本科目は、地域づくりや建物づくりを行う際に、その地域がどのような地域であり、居住者がどのような要求をもっているかを知るための方法について演習を通じて学ぶことを目的とする。
到達目標	住民要求や地域の状況を把握するための各種調査手法を学ぶ。そのうえで、実際にテーマを定めて調査し、集計・分析を行い、報告をするという一連の調査研究の流れを身につけ活用できることを目標とする。
授業方法と留意点	基本的にグループによる自発的演習を行う。演習開始時に大枠の調査課題を設定し、グループ毎に調査企画～調査～結果の集計・分析～結果の報告（プレゼンテーション）を受講生が主体的に進める。加えてプリントやパワーポイントを用いた講義と、実際に現場に出るフィールドワークを取り混ぜて実施する。
科目学習の効果（資格）	社会調査の基礎、ワークショップの進め方等を学ぶことで、企画調査や住民参加型の設計・計画づくりに役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	講義のガイダンス、社会調査の歴史、背景など	事前：シラバスを読んでおくこと（30分） 配布したプリントを基に、社会調査について復習する（30分）。
2	社会調査・アンケート調査を知る（1）	社会調査・アンケート調査の種類について	事前：配布した資料を読んでおくこと（30分） 事後：各種調査の事例を探索すること（30分）
3	社会調査・アンケート調査を知る（2）	調査情報の発掘（1）寝屋川市の統計データを調べる	事前：寝屋川市 HP の統計情報から必要なデータをダウンロードしておくこと（30分） 事後：政府統計窓口 HP より寝屋川市データを探索すること（30分）
4	社会調査・アンケート調査を知る（3）	調査情報の発掘（2）既存研究を調べる	事前：配布した資料を読んでおくこと（30分） 事後：寝屋川市に関する既往研究を探索すること（30分）
5	社会調査・アンケート調査を知る（4）	企画・設計、サンプリング	事前：配布した資料を読んでおくこと（30分） 事後：寝屋川市に関する既往研究を探索すること（30分）
6	調査票の作成（1）	質問調査用紙の作成（1）質問仮説の設定、対象地の選定	事前：アンケート調査票事例を探索すること（30分） 事後：議論した結果を整理しておくこと（30分）
7	調査票の作成（2）	質問調査用紙の作成（2）項目案の作成	事前：類似するアンケート調査票事例を探索すること（30分） 事後：議論した結果を整理しておくこと（30分）
8	調査票の作成（3）	質問調査用紙の作成（3）質問文、選択肢の作成	事前：類似するアンケート調査票事例を探索すること（30分） 事後：議論した結果を整理しておくこと（30分）
9	フィールドワーク（1）	調査に取り組む（1）アンケート調査票の配布・回収	事前：アンケート配布・回収の方法についてよく自習しておくこと（30分） 事後：実施した配布・回収方法について復習しておくこと（30分）
10	フィールドワーク（2）	調査に取り組む（2）アンケート調査票の配布・回収	事前：アンケート配布・回収の方法についてよく自習しておくこと（30分） 事後：実施した配布・回収方法について復習しておくこと（30分）
11	報告会の準備（1）	調査の集計・分析 1 調査票データの入力	事前：調査票の選択肢、回答形式を確認しておくこと（30分） 事後：入力したデータと調査票データを照合すること（30分）
12	報告会の準備（2）	調査の集計・分析 2 統計量の算出と検定	事前：前回配布資料の統計量を調べておくこと（30分） 事後：算出した統計量と検定方法について復習しておくこと（30分）
13	報告会の準備（3）	調査の集計・分析 3 集計結果の図式化と考察	事前：各種の統計グラフを調べておくこと（30分） 事後：議論した結果を整理しておくこと（30分）
14	調査研究の報告会（1）	プレゼンテーション資料の作成	事前：PowerPoint によるプレゼンテーション事例を探索すること（30分） 事後：議論した結果を整理しておくこと（30分）
15	調査研究の報告会（2）	これまでの調査研究の報告と講評会	事前：報告会のための資料の準備を行う（60分）

関連科目 地域・都市計画学、住環境管理学、空間情報演習、集合住宅管理学、卒業研究

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	まちの見方・調べ方	西村幸夫他	朝倉書店
2				
3				

評価方法 (基準)	演習への取り組み (20%)、報告課題 (80%) で評価する。
学生への メッセージ	
担当者の 研究室等	1 2号館 6階 坂本教授室 1 2号館 7階 山根研究室
備考	○事前事後学習は毎回概ね1時間行うこと。

科目名	古典文学から学ぶ	科目名 (英文)	Classic Literature
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1401a2		

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行ったうえで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。																																																																		
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。現代の我々との対比により、違いだけでなく、共感も得ること。																																																																		
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントによる講義。理解度を確かめる復習テストを不定期に行います。理解できていない箇所は必ず見直しましょう。授業後、配布資料を必ず読んでおくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の目的、方法の説明</td> <td>『百人一首』を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作品としての『百人一首』1</td> <td>『百人一首』の成立と謎</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>作品としての『百人一首』2</td> <td>江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>作品としての『百人一首』3</td> <td>『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>四季歌を読む 春1</td> <td>春の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>四季歌を読む 春2</td> <td>桜の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>四季歌を読む 夏</td> <td>夏の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>四季歌を読む 秋1</td> <td>秋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四季歌を読む 秋2</td> <td>秋の月の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>四季歌を読む 冬</td> <td>冬の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>恋歌1</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>恋歌2</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>恋歌3</td> <td>歌枕を用いた恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>雑歌</td> <td>友情や人生をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業の総括</td> <td>『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む	2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む	3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む	4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む	5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む	6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む	7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む	8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む	9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む	10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む	11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む	14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む																																																																
2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む																																																																
3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む																																																																
4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む																																																																
5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む																																																																
関連科目	日本語読解																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>百人一首 王朝和歌から中世和歌へ</td> <td>井上宗雄</td> <td>笠間書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																																																																
2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢・復習テスト 30%、レポート 70%																																																																		
学生へのメッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事後に配布資料を約1時間程度通読する。 「質問はメールにて対応する」																																																																		

科目名	日本語読解	科目名 (英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	イ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1403a2		

授業概要・目的	<p>文章を読むことは好きだろうか。大学で何を学ぶにせよ、「論文などの難解な文章を理解する」「長い文章から重要な事項をピックアップする」力は大学生生活に必須である。</p> <p>また、人の心の動きが表現された文学作品を読解することは、他者の気持ちを類推するトレーニングにもなり、今後の社会生活にも役立つことだろう。</p> <p>文章を読むことによって、語彙力や表現力も磨かれ、自分の考えを伝える力も向上する。</p> <p>この授業では、日本語の文法の基本を学ぶ。また、様々なジャンルの文章を読むことによって、語彙力や表現力の向上を目指す。最終的には、評論文や論文などの論理的な文章を正しく読解し、要約できるようにする。さらに、読解力を養成することで思考力を獲得し、自己の考えを文章化することにつなげることを目標とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>日本語の文法の基本を学び、新聞記事や論説文について正確な読解を行う</li> <li>論文など論理的な文章を読解する能力を身につける</li> <li>さまざまなジャンルの文章にふれ、語彙や表現を学ぶ</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>授業では、まず文法や語彙についての小テストを行う。</p> <p>その後、受講者が各自でやや長い文章を読み、問題に解答する。</p> <p>その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読しておくこと。</p> <p>受講者の理解度を確認するため、課題を作成させることもある。期末テストに向けて復習を怠らないこと。</p>
科目学習の効果 (資格)	大学の授業・社会人になってから必要な読解能力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	対比構造を読み解く	長文の対比構造を読解する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
2	具体例と言い換え表現を読み解く	比喩表現を読解する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
3	文の構造について学ぶ/指示語の内容をつかむ	文の構造に注目し、文中に述べられている複数の事柄の関係を読解する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
4	要点をおさえて文章を読む/喩を読み解く	やや長い文章を要点を押さえて読解する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
5	文意を正確につかむ	文や文章の組み立てに注目しながら長文の内容を正しく読解し、正誤を見分けられる。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
6	接続詞・指示語/漢字・語彙を的確に使用した文章をつくる	接続詞や指示語に注意しながら、文章を整序する練習を行う。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
7	文と文の関係、論理展開をまなぶ	本文を構成する文と文の関係や、論理展開に注意しながら、文中の空欄補充を行う。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
8	エッセイを読み解く	人文科学分野の文章を読み、内容を把握する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
9	小説文を読み解く	人文科学分野の長い文章を読み、内容を把握する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
10	要旨把握 (1) エッセイ	作者の体験に基づく文章を読み、要旨を把握する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
11	要旨把握 (2) エッセイ	作者の体験に基づく文章を読み、要旨を把握する。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
12	要旨把握 (3) 文化論	比較文化論の小論文を読む	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
13	要旨把握 (4) 社説	文化論の内容を正確に理解し、要旨をまとめる。	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでおく。 事後学習: 日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
14	要旨把握 (5) 論説	社会時事問題についての文章を読み、要	事前学習: 配布するプリントを次回までに読んでお

			旨をまとめて内容の正誤をたず。	く。 事後学習：日本語表現・漢字・読解スキルの不足点を確認する。
	15	本講義のまとめ	第一回から第十四回までの理解度を確認するまとめの講義を行う。	本講義で学んだことを今後活かすため、各自定期試験に向け復習する。
関連科目	文章表現法			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	到達度確認テスト 80% レポート 20%			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能動的な態度で授業に臨むこと。</li> <li>・遅刻しないこと。</li> <li>・私語は厳禁とする。</li> <li>・幅広い関心を持って、日頃から読書に親しむようにしよう。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	授業では、まず受講者が各自で文章を読み、その後、教員による解説を行う。新しい教材に入る前にプリントを配布するので、必ず熟読してくること。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する			

科目名	日本語読解	科目名 (英文)	Japanese Reading
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	ロ
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1403a2		

授業概要・目的	<p>日々、何を読んでいますか？ また、日々、何をしていますか？ 何を学ぶにせよ、また学生であれ社会人であれ、「文章を読む」ということを避けて通るわけにはいきません。仲間内でだけ通じる会話や話し言葉でなく、書き言葉を通じてしか手に入らないものがあります。それをぜひ身につけてほしいと願っています。さまざまなジャンルの文章を素材として語句や表現を学び、自分なりの感想を持ちそれを発信する、というトレーニングを積んでみましょう。</p> <p>語句の知識を増やして定着させること、表現に着目した読解トレーニングを積むこと、読解した内容に対して自分なりの考えを表現できること。この三つの力を磨くことを目標とします。</p>
到達目標	<p>【目標1】 語句・ことわざ・四字熟語・敬語などの知識を身に付けること。</p> <p>【目標2】 さまざまな文章に触れ、執筆者の気持ちを想像しながら読み解くこと。</p> <p>【目標3】 文章を読んで感じたことを文章化する経験値を積み、他者に伝わる論理的な文章を書く力を養うこと。</p>
授業方法と留意点	<p>◇毎回、素材となる文章を配布し、プリント形式で読解授業を進め、随時、語句チェックを通じて語彙力を磨きます。また最後にその日の授業を振り返って文章にまとめることを必須とします。</p> <p>◇授業中に随時課題を提示しますので、それらに取り組みすることで積極的な取り組みをあなたに要求します。友人の回答の引き写しなど、課題に取り組む態度に不備のある場合は、出席と認めません。</p> <p>◇毎回提出する小レポートから、随時取り上げて公開添削し、表現の弱点をみがいていきます。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>「日本語文章能力検定」などの公的資格もありますが、自分のことばに自覚的である感性を養うことが何よりの学習効果です。文章を味読し、自分の考えを文章化し、他者に発信するトレーニングは、積極的に取り組むことで、日々のレポート作成や、就職活動のための種々の文章作成の下地作りにもなるでしょう。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	エッセイ (1)	叙情的な作品に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
2	エッセイ (2)	軽妙洒落な作品に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
3	エッセイ (3)	空想的な作品に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
4	文語的な文章 (1)	古典の作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
5	文語的な文章 (2)	古典を踏まえた古典作品を読み、発想の広がりに触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
6	文語的な文章 (3)	古典を踏まえた現代の作品を読み、発想の広がりに触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
7	小説 (1)	近代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
8	小説 (2)	現代の有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
9	小説 (3)	翻訳された有名作品の一部を読み、梗概や時代背景に触れる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
10	実用的な文章 (1)	手紙文を「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
11	実用的な文章 (2)	ビジネス文書を「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
12	実用的な文章 (3)	説明文を「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
13	韻文 (1)	身近な歌の歌詞を作品として「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間を持ちましょう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましょう。
14	韻文 (2)	短歌を身近なものとして「読解」してみる。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着

				を図る時間をもちましよう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましよう。
	15	韻文 (3)	俳句を身近なものとして「読解」してみよう。	授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間をもちましよう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましよう。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>◇講義ごとに小レポートを提出することで、出席とみなしますが、出席とみなせない回答状況のものについては、次回の課題で告知します。</p> <p>◇最終成績は、最終レポートの結果5割と、毎回の小レポートの回答状況5割とを合わせて判断します。</p> <p>◇原則として、出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p>			
学生への メッセージ	「文章を読むのはキライ」という気持ちを捨てて講義に臨んで下さい。私があなたに求めているのは「今までの知識の積み重ね」ではなく、「自分のことばに自覚的になること、自分のことばで考えること」です。正解のない世界で「自分の答え」を手探りしてみましよう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>◇提出された小レポートは、適宜抜粋して紹介していきます。</p> <p>◇事後学習として、授業後1時間程度、学習した語句を書いて覚えたり、曖昧な語句は辞書を調べ直したりして、記憶の定着を図る時間をもちましよう。また関連する資料を探してさらに理解を深めましよう。</p> <p>◇毎週水曜は3限からの授業なので、お昼休みは非常勤講師室に在室しています。</p>			



科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	A B
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	段階的に文章執筆のメソッドを習得し、最終的に1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行う。教科書は必ず用意して授業に臨むこと。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現問題のプリントを行う。このプリントのまとめをテストとして実施し、成績評価に取り入れるため、遅刻をしないこと。 講義の進捗状況によって、シラバスに記載した順番が前後することもある。
科目学習の効果 (資格)	レポート・論文の作成に必要な文章スキルを身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 文章の書き方1 文章表現の基礎を学ぶ	本講義に臨むための基本姿勢 講義 文章表現の基礎	授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
2	文章の書き方2 文章表現の基礎を学ぶ	講義 文章表現の基礎	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
3	事実の記述と意見の記述	講義 事実を述べる文章と意見を述べる文章の 違い。論理的に説明する方法	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
4	【課題1】 客観的事実に基づき説明する	【課題作成】 1週間以内に指示に従い課題を書いて 提出する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
5	構成	講義 レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
6	要約①	講義 要旨を要約するコツを学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
7	要約②	講義 要旨を要約するコツを学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
8	文章を引用する	講義 文章を引用する方法を学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
9	図表の引用	講義 図表などのデータを引用する方法を学 ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
10	意見を述べる	講義 論理的考察に基づき意見を述べる	教科書 意見の述べ方を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む 課題2を見直す等に 約半時間
11	【課題2】 文章を引用して論理的な文 章を書く	【課題作成】 1週間以内に指示に従い課題を書いて 提出する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
12	【課題3】資料(文章と図表) を引用して見解を述べる	【課題作成】 1週間以内に指示に従い課題を書いて 提出する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
13	レポートの書き方	講義 引用の作法を確認	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する

			レポート執筆の基本を学ぶ	各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
	14	小テストの実施	これまで行った小テストの内容を確認 する	全回配布分のプリントを確認・見直す等に 約半時間
	15	日本語表現まとめのテスト	総括	各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
関連科目	ゼミ、卒業研究など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセ ンター編	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全三回の課題の合計点により評価する。 (評価の割合は基本的に1回目20%、2回目40%、3回目40%の予定) 課題を一度でも提出しない場合は不合格となるので 注意してください。			
学生への メッセージ	読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておく。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	総学習時間の目安は60時間。 課題は基本的に担当教員が赤入れ採点し、不得意箇所などを各自にフィードバックします。			

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	CD
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題1】説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第1回～第3回の内容の復習を行うこと（1時間）
5	フィードバック	課題1のフィードバック	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
6	構成	レポートの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	要約	要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：課題1を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	データに基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題2】論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第5回～第10回の復習を行うこと（1時間）
12	フィードバック	課題2のフィードバック	事前学習課題：課題2を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
13	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1時間）
15	レポートの講評	レポートのフィードバック	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		

科目名	日本語表現	科目名 (英文)	Japanese Representation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E F
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1404a2		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	テキストに即して知識を整理したのち、各自取り組んだ課題（毎回の課題&中間課題2回&最終課題の全3種類）を提出していただきます。その中から適宜取り上げてコメントを加え、受講者と共有しながらフィードバックして授業を進めていきます。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・はじめに ・文章の書き方1	レポート・論文の基本事項	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
2	・文章の書き方2	わかりやすい文章の書き方	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
3	・事実と意見	事実と意見の書き分け	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
4	・課題①-1 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
5	・課題①-2 説明文	課題①を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。（所要時間の目安は1時間）
6	・構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
7	・要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
8	・文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間） ※この回から対面に変更。
9	・図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
10	・意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
11	・課題②-1 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
12	・課題②-2 論説文	課題②を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。（所要時間の目安は1時間）
13	・レポートの書き方1	レポートの体裁について学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
14	・レポートの書き方2	レポートの作成の注意点を教える	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は1時間）
15	・最終課題レポート	まとめのレポートを作成する	当日のレポート作成に備えて、テキストを読み直して注意点を確認しておく。（所要時間の目安は1時間）

関連科目	すべての授業の日本語による課題作成
------	-------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		「大学生の日本語文章表現」	摂南大学教育イノベーションセンター編
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	課題2回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への	学生として、社会人として、他人に自分の考えていることを伝えるには、友人とのラインのやり取りのようなわけにはいきません。自分の文章を

メッセージ	胸を張って他人に提示できるように、実際に手を動かしてトレーニングを重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	◇事前事後学習の総時間の目安は15時間。 ◇提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	人間力と心理	科目名 (英文)	Human Capability and Psychology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山根 倫也
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1405a2		

授業概要・目的	<p>本講義では、記憶のメカニズムや学習理論、人間の発達や集団の働きなど、心理学の基礎的な理論を学ぶことを通して、私たちがどのように物事をとらえて感じているのかを理解し、他者を理解する上で役立つ考え方やコミュニケーション法を身につけ、自己理解や他者理解、良好な人間関係の形成に活かすことを目的とする。</p> <p>これにより、現在の人間関係と今後の新たな人間関係の変化に柔軟に対応できるような人間力、他者と関わる上での心のあり方やマナーなどの態度が、より向上することを期待している。</p>
到達目標	<p>自分自身がどのように物事をとらえているのかを知ることに加えて、他者がどのように物事をとらえているのかを推察しようとする意識を身につけること、さらには自分と他者との物事のとりえ方の違いを受け入れ、他者に共感的に寄り添える力を高めて、よりよい人間関係を形成できる力を身につけることを目指す。</p>
授業方法と留意点	<p>講義中心の授業形式ですが、折に触れ学生同士のディスカッションやワークの時間を作りたいと思います。講義全体の内容や評価については、第1回でお伝えします。講義の終わりには小テストや簡単なレポートを課す場合があります。また、講義資料を Teams に提示します。各自ダウンロードして学習を進めてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>自己理解と他者理解、現在と今後の人間関係の形成に活かすことができる。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	本講義では、心理学の歴史や研究方法を概観し、心理学がどのような学問なのかについて学ぶ。	教科書(第1章)を一読しておくことが望ましい。
2	記憶について	本講義では、記憶の種類やメカニズムについて学ぶ。	教科書(第12章)を一読しておくことが望ましい。
3	学習について	本講義では、学習における条件づけや、日常生活における学習の応用について学ぶ。	教科書(第13章)を一読しておくことが望ましい。
4	乳児期から児童期の発達について	本講義では、乳児期から児童期における発達や、それらの時期における課題や関係性について学ぶ。	教科書(第3,4章)を一読しておくことが望ましい。
5	青年期から老年期の発達について	本講義では、青年期から成熟期における発達や、それらの時期における問題や葛藤について学ぶ。	教科書(第3,4章)を一読しておくことが望ましい。
6	動機づけについて	本講義では、動機づけのメカニズムや欲求、葛藤について学ぶ。	教科書(第5章)を一読しておくことが望ましい。
7	性格について	本講義では、性格の種類や形成要因について学ぶ。	教科書(第6章)を一読しておくことが望ましい。
8	自己について	本講義では、自己に対する評価や、対人関係における自己に関する理論について学ぶ。	自分とはどんな人間か、またどんな人間関係の中にあるのか振り返っておくことが望まれる。
9	他者について	本講義では、他者に対する評価や判断、推論に関する理論について学ぶ。	教科書(第17章)を一読しておくことが望ましい。
10	集団について	本講義では、人間社会における集団のメカニズムや働きについて学ぶ。	教科書(第18章)を一読しておくことが望ましい。
11	ストレスについて	本講義では、日常生活におけるストレスとその対処法について学ぶ。	教科書(第8章)を一読しておくことが望ましい。
12	発達障害・精神疾患について	本講義では、自閉症スペクトラムやADHDなどの発達障害や、うつ病や強迫性障害などの精神疾患について学ぶ。	発達障害や精神疾患について、日本でどのようなイメージを持たれているか調べておくことが望ましい。
13	心理療法について	本講義では、カウンセリングや心理療法の理論や技法について学ぶ。	教科書(第9章)を一読しておくことが望ましい。
14	共感・傾聴について	本講義では、心理学における共感や傾聴の在り方について学ぶ。	教科書(第9章)を一読しておくことが望ましい。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを行い、要点を振り返り、講義内容の定着を図る。	全講義のプリントもしくは教科書で扱った章を復習しておくことが望ましい。

関連科目 臨床心理学、発達心理学、社会心理学

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	はじめて出会う心理学 第3版	長谷川寿一 他	有斐閣アルマ
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	心理学	無藤隆 他	有斐閣
2	社会心理学	池田謙一 他	有斐閣	
3	臨床心理学	丹野義彦 他	有斐閣	

評価方法 (基準) 定期試験 70%、課題 30% (課題には小テスト、レポートを含む)  
 定期試験が実施できない場合は、7月に入ってから、Teams に課題を提示する。各自ダウンロードして、課題を完成させる。その課題の得点を成績評価に用いる (100%)。課題の提出は、Teams で提出するものとする。

学生へのメッセージ 心理学は、幅広い学問です。この講義では特に基礎的な内容を扱いますが、講義内で出てくる専門用語や理論をただ覚えるのではなく、自分の日常生活においてどう関連しているか、またどのように活かすことが出来るか考えながら講義に臨んで欲しいと思います。心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きて

	いく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。
担当者の研究室等	11号館6階 経営学部非常勤講師室
備考	<p>講義時間外における質問は、講義前後の非常勤講師室、講義後の教室で時間の許す限りとします（メールでも可）。</p> <p>事前事後学習では、教科書や講義資料のほか、参考図書やインターネットなどを幅広く活用し、講義内容の予習復習含め、関心のあるトピックを自主的に学習することが望まれます。毎回の講義ごとに1時間以上かけると、講義の内容をより明確に理解することができ、定期試験の点数も取りやすくなると思います。</p>



科目名	心理と社会	科目名 (英文)	Psychology and Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	越川 陽介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1406a2		

授業概要・目的	本講義では、社会的変化を心理学的な視点で把握した上で、それらが個人や集団にどのような影響を及ぼすのかについて学びます。さらに、そのような社会的変化に対して、私たちがどのように生きていけばいいのかといった視点から、自分で考えられる力、他人との関係の中でうまく生きていく力を高めることを目的とします。
到達目標	この講義を通じて学生には、社会的変化を自分とは関係の無いことと思わずに、自分にも関係のあることとして捉えられるようになること、さらに、本講義で学ぶ内容を、ただ“知る”だけではなく、自分で“考える”ことで、複雑・多様化する社会の中で生きていく力を高めることが身につくことが期待されます。
授業方法と留意点	本授業は講義形式の授業を行います。各授業においてテーマを設定しており、そのテーマについてパワーポイントによる講義資料を用いて授業を行います。また、授業の最後にはその日の授業内容の定着度を測る小テストを行います。授業時に紹介する参考文献を参照し知識の定着を目指すことが望ましいです。
科目学習の効果 (資格)	自分自身で考える力を高め、複雑・多様化する社会の中で生きられる力を高めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	心理学とは？ 講義内容と定期試験の説明	本講義では、最近の社会的変化を考える前に、心理学とはどのようなものなのかを概観し、日常生活でどのように活かされているのかについて学ぶ。	心理学とは、どのようなものなのかを事前に調べ、自分なりの考えを持っておくことが望ましい(1時間)。
2	新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス	本講義では、危機的状況下で生じる人間の反応について学ぶ。	災害時などに生じる心の反応の特徴について調べてくることが望ましい(2時間)。
3	未病とメンタルヘルス	本講義では、メンタルヘルスにおける健康と病気の間の未病について学ぶ。	未病とメンタルヘルスについて調べることが望ましい(2時間)。
4	メンタルヘルスの未病のための不安との付き合い方	本講義では、見通しの立たない社会を過ごすための方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2時間)。
5	睡眠とメンタルヘルス 1	本講義では、睡眠に関する知識について学ぶ。	1週間の睡眠状況についてメモしておくことが望ましい(2時間)。
6	睡眠とメンタルヘルス 2	本講義では、睡眠障害と、薬物を使わない睡眠の改善方法について学ぶ。	授業内で紹介するワークを実際に行い、体験したことをまとめておくことが望ましい(2時間)。
7	組織と個人の心 1	本講義では、組織に生じる問題について精神的側面からの解釈の方法について学ぶ。	自分が所属する組織で困ったことなどを確認することが望ましい(2時間)。
8	組織と個人の心 2	本講義では、アセスメントツールを用いて組織のアセスメント方法について学ぶ。	自分が所属する組織で生じた問題について整理しておくことが望ましい(2時間)。
9	モンスターペアレントやクレマーについて	本講義では、モンスターペアレントやクレマーの心理や社会的背景について学ぶ。	モンスターペアレントやクレマーの心理について事前に考えておくことが望ましい(2時間)。
10	セクシャル・マイノリティについて	本講義では、セクシャルマイノリティの歴史や背景、今後について学ぶ。	自分がセクシャルマイノリティであるとしたら、自分の周りにセクシャルマイノリティの人がいたら、という視点で考えておくことが望ましい(2時間)。
11	高齢者の発達と介護について	本講義では、高齢者の発達と介護について学ぶ。	介護に関する問題について事前に調べておくことが望ましい(2時間)。
12	SNS (ソーシャルネットワークサービス) について	本講義では、近年発展が続いている SNS について学ぶ。	SNS のメリットとデメリット、自分が SNS についてどのように感じているかを事前に考えておくことが望ましい(2時間)。
13	ロボット (AI) の増加や機械化について	本講義では、人とロボットの関係、今後の働き方について学ぶ。	ロボット (AI) の増加や機械化によるメリットとデメリットを事前に考えておくことが望ましい(2時間)。
14	オンラインコミュニケーションについて	本講義では、テレワークなどのオンラインで行われるコミュニケーションについて学ぶ。	オンラインコミュニケーションのメリットとデメリットを調べておくことが望ましい(2時間)。
15	講義全体のまとめ	本講義では、これまでの全講義のまとめを目的としたテストを行う	全講義のプリントを復習しておくことが望ましい(2時間)。

関連科目 臨床心理学、社会心理学、コミュニケーション学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 出席が 8 割以上の者を評価の対象とする。その上で、定期試験 40%、毎回の小テスト 30%、授業態度としての授業への反応状況 30%の配分で総合的に評価を行う。

学生へのメッセージ 心理学は、自己理解や他者理解を中心として、日常生活を営む上においても役立つ学問で、知れば知るほど自分の世界が広がるものです。本講義を通して、今後生きていく上で、一つでも役立つ知識や経験を得られることができればよいと思います。

担当者の 11 号館 6 階 経営学部非常勤講師室

研究室等	
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・質問は、メールにてお願いします。</li><li>・小テストは全ての問題が満点になるまで回答できる様に設定する予定です。満点を目指す中でその回の授業を復習できる様にしております。</li></ul>

科目名	実践の思想	科目名 (英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2407a2		

**授業概要・目的**

この授業では、先人たちが培ってきたものづくりを支えている日本の思想を知り、科学技術のこれからを考えます。産業革命後の科学技術の急速な進歩は、ひとを過大な労働から解放し、民主的な社会をつくりだすのに貢献しました。しかし、豊かさの飽くなき追求は、地球の平均気温の上昇とこれに伴う異常気象の多発を生み、人類の生の条件を脅かすまでになっています。そうしたなか、地球温暖化対策の国際合意であるパリ協定は、自然と調和した技術へのシフトを促す追い風となっています。

現在、戦争がハイテク化し、日本の家電製品に使われる部品が軍事用ドローンに転用されるなど、人を幸せにするための技術が破壊をもたらす事態も報道されています。技術は、価値中立的な人工物ではなく、社会のありかたによって、脅威にもなりうるのです。

古来から近世に至る日本社会では、ひとと自然との調和を目指し、生命を慈しむ考え方が主流でした。古代から近世にかけての土木技術や建築は、日本列島の気候や地形、自然環境を生かすようにして発展した例と言えるでしょう。そうすると、古代から現代にいたる自然観を知ることも、これからの科学技術のあり方を考えるうえで、一つのヒントになりそうです。

ここでは、私たちの社会のなかで技術と技術者のあり方を支えてきた思想について、学んでいきましょう。

**到達目標**

日本社会における自然観・技術観を理解し、共生社会を目指す持続可能な技術のあり方を考えることができる。

**授業方法と留意点**

講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。

**科目学習の効果 (資格)**

日本の思想から、現代のSDGsに通じる自然との共生を学ぶ。  
日本社会における技術観・自然観を学び、これらを技術全体の歴史のなかに置くことで、日本が生み出した技術の特徴を知ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
1	はじめに：技術は戦争によって発展したか？	授業説明と導入。科学技術が民主主義と平和の構築に貢献することを知る。	予習	高校の地理または歴史を復習しておくこと。SDGsについて調べ、「土木学会倫理綱領」を読んでおく。
2	日本史のなかの技術と思想：古代から中世へ	技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。	予習	古代から近世にかけての世界史・日本史、高校地理を復習しておく。
3	日本史のなかの技術と思想：近世から近代へ	技術という視点から見た日本の歴史を学ぶ。	予習	近代までの日本の歴史を見ておく。
4	日本史のなかの技術と思想：公害問題と科学技術	4大公害訴訟、汚染者負担の原則、環境アセスメントについて学ぶ。	予習	4大公害訴訟について調べる。
5	日本の風土が生んだ思想：日本の伝統建築と里山	日本建築と里山で培われてきた共生の思想を学ぶ。	予習	西岡常一『木に学べ』（小学館文庫）を読んでおく。
6	日本の宗教と自然観：神道	神道の自然観と共同体形成に果たした役割を学ぶ。	予習	映画『もののけ姫』（スタジオジブリ、1997）または『千と千尋の神隠し』（スタジオジブリ、2001）を観ておく。
7	日本の宗教と自然観：仏教	仏教の歴史と自然観を学ぶ。	予習	『歎異抄』現代語訳（長久寺のサイト <a href="http://www.yamadera.info/seiten/c2/tannisho_j.htm">http://www.yamadera.info/seiten/c2/tannisho_j.htm</a> ）を読んでおく。
8	日本の組織倫理を支える思想：『論語』と朱子学の伝統	日本の組織倫理のルーツとなった儒学の影響を知る。	予習	『論語』の抜粋を読んでおく。
9	日本の組織倫理を支える思想：武士道と町衆の思想	江戸期の多様な思想を知る。	予習	戦国時代から江戸時代の歴史を復習しておく。
10	日本の思想：福沢諭吉と文明開化	荻生徂徠と福沢諭吉の思想を知る。	予習	青空文庫にある福沢諭吉『学問のすゝめ』（ <a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000296/files/47061_29420.html</a> ）を読んでおく。
11	日本の環境思想：南方熊楠と田中正造	日本社会における共生の思想を知る。	予習	青空文庫にある南方熊楠『神社合祀に関する意見』（ <a href="http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html">http://www.aozora.gr.jp/cards/000093/card525.html</a> ）と、テキストにある南方熊楠『トーマスと命名』を読んでおく。
12	日本の自然観：和辻哲郎『風土』	自然環境と文化との関係を考察する。	予習	高校地理の気候について復習しておく。日本建築の特徴を調べる。
13	生活文化と思想：茶道と禅	岡倉天心『茶の本』を読み、茶道と禅が生活文化にもたらした影響を知る。	予習	岡倉天心『茶の本』の抜粋を読んでおく。
14	日本の美意識と民芸：九鬼周造と柳宗悦	自然と調和した美とものづくりを支える思想を知る。	予習	青空文庫にある柳宗悦『工藝の道』（ <a href="https://www.aozora.gr.jp/cards/001520/files/54957_54058.html">https://www.aozora.gr.jp/cards/001520/files/54957_54058.html</a> ）を読んでおく。
15	まとめ：持続可能な社会と科学技術	環境アセスメントを手がかりに市民感覚を持った技術者のあり方を考える。	予習	日本技術士会「技術者倫理綱領」および日本土木学会「倫理綱領」を読むこと。

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	技術士倫理綱領の解説	公益社団法人 日本技術士会	<a href="http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf">http://www.engineer.or.jp/c_topics/000/attached/attach_25_3.pdf</a>
2	土木学会倫理綱領	公益社団法人 日本土木学会	<a href="http://www.jsce.or.jp/rules/rinnri.shtml">http://www.jsce.or.jp/rules/rinnri.shtml</a>
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	工学の歴史	三輪修三	ちくま学芸文庫
	2	ものづくりの科学史	橋本毅彦	講談社学術文庫
	3	技術の街道をゆく	畑村洋太郎	岩波新書
評価方法 (基準)	<p>定期試験 60%、提出物 20%、平常点 20%の割合で総合的に評価する。</p> <p>提出物については、提出後、評価基準について説明し、全体的な講評を行う。なお、一定の基準に満たない場合は再提出を命じることがある。</p> <p>平常点については、グループディスカッションへの参加度および毎回提出するミニレポートで評価する。</p> <p>なお、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p> <p>授業中に一時退出した場合、受講態度の評価の対象とせず、欠席として扱う。</p>			
学生への メッセージ	<p>日本社会における技術の位置づけと技術に携わる人々のあり方にも触れていきますので、技術に携わる者としての考えを深めるように。</p> <p>遅刻、途中退出はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>予習・復習にそれぞれ1時間を当てること。また、指定された文献には必ず目を通し、自主学習には20時間以上かけること。</p> <p>質問などがある場合は、授業後、または非常勤講師室で対応します（水曜日 12:45～13:10）。</p>			

科目名	実践の思想	科目名 (英文)	Ideas for Practice
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	山口 尚
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2407a2		

授業概要・目的	<p>働くことは人生の時間の大半を占める、と言っても決して過言ではない。本講義のテーマは「仕事と人生」であり、日本人の人生観の源流を振り返ることを通じて、専門技術者を志す学生が身につけておくべき職業倫理を学ぶ。具体的には、日本思想史にあらわれる〈生き方の思想〉を学ぶことを通じて、「仕事とは何か」の理解を深めることを目指す。本講義で学ぶことによって、「天」や「道」の思想を知ることができるとともに、社会へ出て働くことに向けた心構えが鍛えられるだろう。</p> <p>職業あるいは仕事を、たんに生きるための手段としてではなく、人生の最も大事な部分を形作る本質的な要素として理解できるような視点—このような視点を鍛え上げることを講義全体の目標とする。</p>																																																																		
到達目標	<p>以下の項目の理解を到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 東洋思想と職業倫理</li> <li>2. 日本思想と職業倫理</li> <li>3. 民芸および〈ものづくり〉にかんする倫理</li> <li>4. 職業と人生の本質的な関係</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>ノート講義形式。講義内容の理解を問うコメントカードや小テストなどによって授業態度を評価する。なお、小テストおよびコメントカードについては、提出した次の回にリアクションや解答をフィードバックする。</p> <p>授業の予習・復習はそれぞれ1時間程度行うこと。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>日本 (広くは東洋) の伝統的な職業観と思想に触れることから、現代の技術者が身につけるべきことは何か、見習うべきことは何かという問いに対して自主的に取り組めるようになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>講義の説明</td> <td>事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>準備 (1)</td> <td>古代中国の思想と職業倫理</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>準備 (2)</td> <td>古代インドの思想と職業倫理</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>古代日本の思想 (1)</td> <td>神道と仏教伝来—〈働くこと〉と世界</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>古代日本の思想 (2)</td> <td>仏教の伝播—〈働くこと〉と〈学ぶこと〉</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>中世日本の思想 (1)</td> <td>日本仏教 (1) —〈働くこと〉と他力</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>中世日本の思想 (2)</td> <td>日本仏教 (2) —〈働くこと〉と自力</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>近世日本の思想 (1)</td> <td>朱子学—〈働くこと〉と「孝」</td> <td>予習 林羅山および中江藤樹について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>近世の日本の思想 (2)</td> <td>古学と古文辞学—〈働くこと〉と伝統</td> <td>予習 伊藤仁斎および荻生徂徠について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>近世の日本の思想 (3)</td> <td>国学—〈働くこと〉と惟神の道</td> <td>予習 賀茂真淵および本居宣長について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>近代の日本の思想 (1)</td> <td>福沢諭吉—〈働くこと〉と役立つこと</td> <td>予習 福沢諭吉について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>近代の日本の思想 (2)</td> <td>柳宗悦—〈働くこと〉と民芸</td> <td>予習 柳宗悦について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>近代の日本の思想 (3)</td> <td>西田幾多郎—〈働くこと〉と自我</td> <td>予習 西田幾多郎について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>近代の日本の思想 (4)</td> <td>和辻哲郎—〈働くこと〉と倫理</td> <td>予習 和辻哲郎について調べる (1時間以上)</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>まとめ</td> <td>講義のふりかえり</td> <td>事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解 (1時間以上)	2	準備 (1)	古代中国の思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	3	準備 (2)	古代インドの思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	4	古代日本の思想 (1)	神道と仏教伝来—〈働くこと〉と世界	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	5	古代日本の思想 (2)	仏教の伝播—〈働くこと〉と〈学ぶこと〉	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	6	中世日本の思想 (1)	日本仏教 (1) —〈働くこと〉と他力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	7	中世日本の思想 (2)	日本仏教 (2) —〈働くこと〉と自力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)	8	近世日本の思想 (1)	朱子学—〈働くこと〉と「孝」	予習 林羅山および中江藤樹について調べる (1時間以上)	9	近世の日本の思想 (2)	古学と古文辞学—〈働くこと〉と伝統	予習 伊藤仁斎および荻生徂徠について調べる (1時間以上)	10	近世の日本の思想 (3)	国学—〈働くこと〉と惟神の道	予習 賀茂真淵および本居宣長について調べる (1時間以上)	11	近代の日本の思想 (1)	福沢諭吉—〈働くこと〉と役立つこと	予習 福沢諭吉について調べる (1時間以上)	12	近代の日本の思想 (2)	柳宗悦—〈働くこと〉と民芸	予習 柳宗悦について調べる (1時間以上)	13	近代の日本の思想 (3)	西田幾多郎—〈働くこと〉と自我	予習 西田幾多郎について調べる (1時間以上)	14	近代の日本の思想 (4)	和辻哲郎—〈働くこと〉と倫理	予習 和辻哲郎について調べる (1時間以上)	15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	講義の説明	事後学習 講義ノートの復習および配布資料の読解 (1時間以上)																																																																
2	準備 (1)	古代中国の思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
3	準備 (2)	古代インドの思想と職業倫理	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
4	古代日本の思想 (1)	神道と仏教伝来—〈働くこと〉と世界	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
5	古代日本の思想 (2)	仏教の伝播—〈働くこと〉と〈学ぶこと〉	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
6	中世日本の思想 (1)	日本仏教 (1) —〈働くこと〉と他力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
7	中世日本の思想 (2)	日本仏教 (2) —〈働くこと〉と自力	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
8	近世日本の思想 (1)	朱子学—〈働くこと〉と「孝」	予習 林羅山および中江藤樹について調べる (1時間以上)																																																																
9	近世の日本の思想 (2)	古学と古文辞学—〈働くこと〉と伝統	予習 伊藤仁斎および荻生徂徠について調べる (1時間以上)																																																																
10	近世の日本の思想 (3)	国学—〈働くこと〉と惟神の道	予習 賀茂真淵および本居宣長について調べる (1時間以上)																																																																
11	近代の日本の思想 (1)	福沢諭吉—〈働くこと〉と役立つこと	予習 福沢諭吉について調べる (1時間以上)																																																																
12	近代の日本の思想 (2)	柳宗悦—〈働くこと〉と民芸	予習 柳宗悦について調べる (1時間以上)																																																																
13	近代の日本の思想 (3)	西田幾多郎—〈働くこと〉と自我	予習 西田幾多郎について調べる (1時間以上)																																																																
14	近代の日本の思想 (4)	和辻哲郎—〈働くこと〉と倫理	予習 和辻哲郎について調べる (1時間以上)																																																																
15	まとめ	講義のふりかえり	事後学習 講義ノートの復習 (1時間以上)																																																																
関連科目																																																																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。評価の仕方は次のとおり。</p> <p>最終レポート60%、授業態度40%の割合で採点する。なお、授業態度とは、講義内容の理解を問うために配布するコメントカードへの記述内容と小テストへの解答内容を指す。</p>																																																																		
学生へのメッセージ	<p>日本の伝統的な「ものの見方」と「立ち居振る舞い方」に触れ、現代社会を主体的に生きていくためのヒントを発見してください。私語、携帯電話の使用等で講義を妨害する行為を行った者は、授業態度評価をゼロとする。大学生にふさわしい態度で講義に臨むことを求めます。また、漫然と講義を受けるだけでなく、シラバスを参照し授業の予習・復習を行ないましょう (それぞれ1時間程度)。</p>																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	<p>予習 (事前学習)・事後学習には、毎回十分に時間をかけること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p>																																																																		

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	柿本 佳美
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2408a2		

授業概要・目的	<p>この授業では、現代の社会を支える考え方のルーツとなっている哲学・思想の学説から、ものごとを多角的に捉える視点を学びます。人間は、これまで便利さや快適さを求めて技術を発展させてきました。新型コロナの感染拡大のなかで IT 技術が必要不可欠なインフラになったことが示すように、人間の生活を根底から変える出来事が発生したとき、人間は、技術の力で新たな世界を切り開こうとします。しかし、近年の戦争から見えてくるのは、ひとを幸福にするための技術がひとの生存を脅かす技術にもなりうるという現実です。技術は、ひとを隷属状態から解放し民主的な社会をつくるのに貢献してきたのですが、社会のありようによって人類への脅威にもなります。哲学は、存在とは何か、なかでも自己と世界の存在について、根源的に問う知の営みです。古代ギリシャの人々は、圧倒的な自然の力に驚くとともに自然の変化を観察し、すべてのものに共通する原理は何かと考えました。これは、「わたし」とは何か、「よき生」とは何かという問いに発展します。人間社会のなかで科学技術が発達しようとも、人間は、有限な存在でありほかのひととともに生きる存在であることは変わりません。だからこそ、長い時間のなかで哲学が議論し続けてきた問いは、今なお私たちにとってもアクチュアルな問いであり続けるのです。ここでは、私たちの身近な問題と重ね合わせながら、「よく生きる」こととはどういうことなのか、技術は社会のありかたとどのように関わっているのか、考えていきましょう。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・哲学の歴史と学説を知り、事象について多様な見方が成立することを知る。</li> <li>・哲学の思考形式を理解し、論理的に思考できる。</li> <li>・毎回のミニレポート課題を通じて、短時間で自分の考えをまとめることができる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<p>講義形式で進めますが、人数によってはディスカッションも取り入れます。毎回提出するミニレポートについては授業で全体的なコメントを行います。授業最後に提示するミニレポートのテーマは次回の授業内容に関わるものですので、ミニレポートを提出したあとも自分で考え、できれば関連する文献を読んでみてください。</p>
科目学習の効果 (資格)	<p>哲学史を学ぶことで哲学の思考形式に慣れ、思考の多様性を知り、物事について多角的に把握する視点を身につける。</p>

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	はじめに:戦争のなかの科学技術	授業説明と導入。ひととのつながり、技術と思想の関係について、考える。	予習 中学校・高校で学んだ世界史の流れをざっと復習しておく。
	2	哲学のはじまり:タレスとデモクリトス	古代ギリシャの自然観と社会のあり方について知る。	予習 「原子論」の歴史について調べる。
	3	「知への愛」とは何か:『饗宴』と『ソクラテスの弁明』から見えてくること	「知る」とはどのようなことなのか、考えてみよう。	予習 アテナイとスパルタ、できれば古代ギリシャの都市におけるアゴラと神殿の場所についても、調べておく。
	4	自然には目的があるか?:アリストテレス『自然学』	プラトンのイデア論と対比しながら、なぜアリストテレスの自然科学が 1000 年以上支配的だったのか、考える。	予習 アレクサンドロス大王について調べる。
	5	宇宙の秩序のなかにある人間にとって運命とは:ストア主義	ストア主義の自然観を理解し、自然の秩序のなかにある人間の自由とは何か、考える。	予習 古代ローマの歴史を復習し、ローマ期の都市計画について調べておく。
	6	宗教のなかの自然:ユダヤ教・キリスト教・イスラム教	宗教のなかで培われた人間観と自然観を理解する。	予習 イエルサレムにあるユダヤ教・キリスト教・イスラム教の聖地を調べる。
	7	現在でしか生きられない人間にとっての未来とは:アウグスティヌス『告白』	アウグスティヌスの時間論から、現在の人間の期待としての未来という視点を理解する。	予習 プラトンのイデア論を復習しておく。
	8	近代自然科学の方法と哲学:デカルト『方法序説』	数学者デカルトが見出した自然科学の方法とデカルトが目指した真理探求から、自然科学のあり方を考える。	予習 「科学革命」という言葉を調べておく。
	9	神即自然とモノド:スピノザとライブニッツ	スピノザの神即自然とライブニッツのモノドから、世界を一つの有機的な全体とみる思想を知る。	予習:17 世紀オランダの歴史を調べ、フェルメールの絵(「天文学者」「地理学者」)を見て、描かれた情報を探しておく。
	10	経験だけが人間の知識をつくる:ロックとヒューム	人間の知をめぐる経験論と大陸合理論の違いを理解する。	予習 イングランドとスコットランドの違いについて調べておく。
	11	人はなぜ戦争をするのか?:カント『永遠平和のために』を読む	カントの尊厳と永遠平和の定義について理解する。	予習 18 世紀のヨーロッパの政情について調べておく。
	12	人間の疎外とは何か:マルクス『経済学哲学草稿』	産業革命により消費社会が実現したが、これにより人間を自分自身と自然からの疎外が誕生したことを理解する。	予習 産業革命について調べておく。
	13	人間は自ら本質をつくる存在である:フランス実存主義	実存主義における自由の概念がエンバワメントに関わることを理解する。	予習 キルケゴールとユーゲン・シュティール様式の建築について調べておく。
	14	思考の停止が危険な理由とは:アレント『イエルサレムのアイヒマン』	自律的に考えることが必要なのはなぜか、考える。	予習 20 世紀初めから第二次世界大戦までの歴史について調べておく。
	15	まとめ:持続可能な社会と科学技術	ひとの「善き生」を目指す科学技術のあり方を考える。	予習 日本技術士会『技術士倫理綱領』くおよみ、技術者の説明責任について考えておくこと。

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td>反哲学入門</td> <td>木田元</td> <td>新潮文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	反哲学入門	木田元	新潮文庫	2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1	反哲学入門	木田元	新潮文庫													
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1											
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
1																	

	2			
	3			
評価方法 (基準)	定期試験 60%、提出物 (2 回) 20%、ミニレポート (毎回提出) 20% の割合で総合的に評価する。			
学生への メッセージ	<p>抽象的で難解だと考えられがちな哲学ですが、人間の知の営みである以上、私たちの日常生活にも何らかの接点があります。できるだけ具体的な事例を通じて説明しますので、わからない点については質問してください。</p> <p>こんなふうと考えたらどうだろう? という質問も歓迎します。</p> <p>なお、遅刻、途中退席はしないこと。私語、スマートフォンの使用等、授業態度が悪い場合、当日のミニレポート・受講態度に関する点をゼロとし、退室を命じることがあります。</p>			
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (水曜日 12:45~13:10)			
備考	<p>予習・復習にはそれぞれ 1 時間を当てること。指定された文献は必ず読むこと。自主学習には 30 時間以上かけるように。</p> <p>中間課題 (試験前の学習を含みます) については再提出となることがあります。その場合には訂正して提出すること。</p> <p>課題やレポートについては、内容を振り返り、再度考察するようにしてください。</p>			

科目名	哲学から学ぶ	科目名 (英文)	Philosophy
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森本 誠一
ディプロマポリシー (DP)	A⑩		
科目ナンバリング	THU2408a2		

授業概要・目的	<p>古代ギリシア時代の哲学者アリストテレスが万学の祖と呼ばれているように、哲学はあらゆる学問の根源にあるものです。たとえば、古典力学の創始者とされるニュートンが生きた時代に科学者ということばはなく、当時、彼は自然哲学者と呼ばれていました。現在、私たちが使っている科学ということばが登場するのは19世紀に入ってからで、英国の哲学者ウィリアム・ヒューウェルが「科学者 (scientist)」ということばを造語として使ったのきっかけだとされています。</p> <p>また、哲学はものごとの原因を探り、それを根本から問い直し、考える学問です。自然現象、社会現象、政治、経済、人間関係、あるいはコミュニケーションの背後にどのような原理が働いていてどのような原因があるのかを探ることもまた哲学の考察する対象です。</p> <p>この授業では根源的な学問としての哲学の深みに触れながら、私たちの生活、文化、社会を見つめ直し、ものごとの〈本質〉を見極めるために必要な知識や態度を身につけることを目指します。</p>
---------	---

到達目標	<p>この授業を履修することで、受講生は次のことができるようになります。</p> <p>(1) 社会の課題、問題を自ら発見できる  (2) 世の中で当たり前だとされていることを疑って批判的に考えられる  (3) ものごと、対象を複数の視点から眺め、考察できる</p>
------	---

授業方法と留意点	<p>この授業は講義形式ですが、受講生との対話を通じて授業は進められます。授業を受けるにあたって膨大な資料を読んだり多くのことを暗記したりする必要はありませんが、たんに授業に出席するだけでなく教員からの問いかけに積極的に応答することが求められます。</p> <p>成績評価の対象となる授業内課題 (リフレクション課題) は原則として毎週提出し、次の授業の冒頭で提出された内容をスクリーンに映しながら口頭でフィードバックが行われます。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	導入	この授業で何を学ぶのか、授業の全体像を把握します。授業の進め方、成績評価の方法、基準についても確認します。	<p>事前学習：シラバスをしっかりと読んでから授業に出席すること。また、授業に出席するにあたっては、シラバスを印刷して持参するか情報端末で見られる状態しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習する</p>
	2	哲学的に考える	ものごとを哲学的に考えるとはどういうことなのか。世の中にはいろいろな意見があるでしょうが、そうした意見のひとつとして、今回は「常識にとらわれないこと」について考えます。そもそも常識とは何なのか、そしてそれにとらわれないとはどういうことなのか、社会のなかにある具体的な事例をもとに学修します。	<p>事前学習：「タレス」「始源 (アルケー)」について図書館の参考資料 (『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など) で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。</p>
	3	哲学のはじまり	世界で最初の哲学者はタレスであると言われていました。哲学のはじまりは、世界を説明するのに神話ではなく自然の観察によって得られた知見を用いたことにあるとされています。  今回の授業では、ものごとをしっかりと観察することの大切さを学修します。	<p>事前学習：「タレス」「始源 (アルケー)」について図書館の参考資料 (『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など) で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。</p>
	4	認識論	私たちが何かを認識するというのはどういうことなのか。また、私たちが何かを認識する前にそれを知覚するというのはどういうことなのでしょう。そもそも私たちは本当に対象そのものを知覚したり認識したりできているのでしょうか。  たとえば、私が見ている黒板の緑色とあなたが見ている黒板の緑色が同じように見え同じように経験されているとい	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>



		うのを私たちはどのようにして確かめることができるでしょう。真正面から見たときのホワイトボードの白さとほぼ真横から同じホワイトボードを見たときの白さは同じでしょうか。もし対象を見	
5	知識論	<p>そもそも知識とは何でしょう。私たちの経験から何らかの知識が生み出されるのだとするならば、私たちはそれをどのようにして人に伝え、どのようにして記録し、どのようにして後世に伝えているのでしょうか。ことばを話し、絵を描き、音楽を歌い、踊りを踊ることもコミュニケーションの手段であり、知識や情報を伝達する手段です。</p> <p>インターネットや SNS はそうした知識や情報のネットワークを広げシステム化していく速度を飛躍的に伸ばしましたし、大規模言語モデル (LLM) を基礎とした対話型 AI の登場はさらにそれを加速化させると考えら</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
6	正義とは何か？	<p>私たちの社会ではさまざまな〈正義感〉がぶつかりあっています。ある者が正義と呼ぶものを別の者が不正義と呼び、対立することがしばしばあります。いったい正義とは何なのでしょう。今回の授業では、アリストテレスの『ニコマコス倫理学』、ジョン・ロールズの『正義論』を手がかりに、正義の基本的な概念について学修します。</p>	<p>事前学習：「正義」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された</p>
7	中庸の徳について	<p>主要な徳のひとつにかぞえられる勇氣は、その気質が強すぎると向こう見ずや無鉄砲となり、徳ではなくなってしまいます。逆にその気質が弱すぎると、今度は臆病となり、やはりこれも徳ではなくなってしまいます。勇氣という徳は、向こう見ずと臆病とのあいだ、すなわち中庸にこそあり、その他の徳も同様に、過剰なものや不足しているものとの中庸にあるというのがアリストテレスの徳についての考え方です。</p> <p>このことは私たちの生活のなかからも実感できるかもしれません。今回の授業では、アリストテレス『ニコマコス倫理学』を手がかりに、中</p>	<p>事前学習：「中庸の徳」について図書館の参考資料（『岩波 哲学・思想事典』や平凡社の『哲学事典』など）で調べてから授業に出席すること。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出され</p>
8	中間のふり返り	<p>これまでの授業をふり返り、各回のテーマがどのようにつながっていたのかを再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどについて質問する時間も設けます。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
9	幸福論	<p>あなたにとって幸福とは何でしょう。あなたはどんなときに幸福を感じるでしょうか。</p> <p>ところで、私たちは誰しも幸福になる権利や資格があるのでしょうか。もしそうだとすると、私たちは同じ社会あるいは同じ地球上に暮らす不幸な人たちに対してどのような義務や責任を負っているのでしょうか。</p> <p>この授業では、以上のようなことを手がかりに幸福論について学修します。</p>	<p>事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p> <p>事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)</p>
10	生の短さについて	<p>セネカ『生の短さについて』を手がかりに生の短さについて考えます。</p>	<p>事前学習：セネカ『生の短さについて』を読んでから授業に出席しましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)</p>

				事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
11	古典に触れる	世に古典と言われるものは、長い歴史を経て現在まで受け継がれたものであり、散逸せずに残っているという意味で一定の価値があると言えるでしょう。今回の授業では、パスカルの『パンセ』をはじめとして、古典とされる作品の一節一節に目を通しながら、その深みに触れます。この作業を通じて人文知のあり方をあらためて考えます。		事前学習：パスカル『パンセ』に目を通し、好きな一節を書き留めておきましょう(授業の中で紹介してもらいます)。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
12	ブッダの思想	今回の授業では東洋の思想に目を向けます。ソクラテスとブッダはちょうど同じ頃に生きていたとされています。ブッダの思想はどのようなものなのか、古代ギリシア時代の哲学者の思想と比較しながら学修します。		事前学習：ブッダの思想について調べておきましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
13	科学と哲学	科学(と翻訳されるものになっている英語の science)ということばが作られたのは、19世紀になってからのことでした。それまで現在で言うところの科学者は、自然哲学者などと呼ばれていました。私たちは、科学的なものこそ信用でき非科学的なものは信用できないといったような評価を下すことがしばしばありますが、このとき私たちは「科学的」あるいは「非科学的」ということでどのようなことを考えているのでしょうか。  今回の授業では「科学とは何か」「科学的であるとはどういうことなのか」について学修します。そのなかで文系・		事前学習：科学と哲学の関わりについて調べておきましょう。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
14	現代社会の諸問題	これまで学修してきたことを手がかりに、現代社会の諸問題について考察します。その上で、私たちがいま古人の教えから何を学ぶことができるのか考えます。		事前学習：授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)
15	まとめ、全体のふり返り	これまでの授業をふり返りながら、各回の授業が全体としてどのようにつながっていたのかを確認します。また、成績評価の方法・基準についても再確認します。これまでの授業でよく分からなかったことなどを質問する時間も設けます。		事前学習：これまでの授業をふり返り、不明な点などを書き出しておくこと。授業のテーマについて図書館やインターネットで調べてから授業に出席すること。日々新聞にも目を通し、授業のテーマと関連する記事をスクラップすること。また、現実社会の問題についてこれまで学修してきたことがどのように活かせるのか考えてみましょう。(90分)  事後学習：授業後は講義ノートを整理するなどして、授業で学修したことが定着するようしっかり復習すること。また、授業中に出示された課題や指示にしたがって調査すること。(90分)

関連科目

実践の思想

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	授業内課題 (リフレクション課題) 15%、中間レポート 30%、期末レポート 55%で評価する。ただし、出席率が 80%未満の場合には原則として成績評価の対象としない。
学生への メッセージ	決して堅苦しい雰囲気の授業ではありませんので、肩の力を抜いて授業に参加してもらえればと思います。授業では時事問題についてみなさんによく尋ねます。世界では日々いろいろなことが起こっています。世界に関心をもち目を向けることが哲学を始める第一歩です。この授業を通じてニュースを毎日確認する習慣を身につけてもらえればと思います。
担当者の 研究室等	この科目の履修上の相談については、授業の前後もしくはメールにて受け付けます。  7号館2階 非常勤講師室  メールアドレス : xmorimse[*]edu.setsunan.ac.jp ([*]を半角の@に置き換え)
備考	授業内課題 (リフレクションシート)、授業に関連する課題調査、中間レポートについては、必要に応じて授業内あるいはポータルサイトを通じてフィードバックがある。

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	織田 康孝
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2409a2		

授業概要・目的	現在、世界は非常に複雑な情勢となっており、日々新たな出来事が起きている。連日、テレビや新聞等でそれらを見聞きすることが多いと思うが、私たちは本当にそれらを理解できているだろうか。また、理解はしているがある一方からの考えで理解しているのではないだろうか。過去があるからこそ今があるというように、現代起っている出来事には必ず原因、つまり歴史がある。 そこで、本講義では、現代に起っている出来事を理解するため、また、それらを様々な角度からみる目を養うために近代日本の歴史、とりわけ、近代日本が行った戦争を事例としてその軌跡を辿っていく。そのうえで、近年の地域間紛争や民族紛争、国際紛争について、その要因と国際社会に与える影響について考える。受講生がそれぞれ解決の糸口を多角的に検討できるようになることを本講義の目的とする。
到達目標	本講義を通じて、近代日本が辿った歴史の基礎知識を身につけることはもちろんのこと、様々な視点から物事を考える能力を養うことが可能となる。加えて、これら歴史上の事象と、現代の国際社会において紛争、飢餓、経済、人種、宗教を起因として発生する様々な問題の背景にある諸条件とを比較検討することによって、現代社会が持つ問題の特質について考察する。
授業方法と留意点	本講義では、教科書等は必要なく、レジュメを配布いたします。また、講義内においてその回に関連する参考書を適宜紹介していきます。講義の最後には、小レポート (200 字程度) を提出してもらいます。小レポートの提出が講義への出席となり、その内容が授業態度の評価基準となります。講義後に提出して頂いたレポートに関しましては、その中からいくつかをピックアップし、次週の授業の冒頭にてコメントします。なお、事前学習の際は、参考書に挙げている『詳説日本史：日本史 B』および『詳説世界史：世界史 B』にて学修してください。
科目学習の効果 (資格)	歴史を論理的に考えることで、現在起っている事象をも論理的に理解できるようになり、かつ、講義後における 200 字程度の小レポートを提出することにより学習したことおよび自らの思考をアウトプット出来る能力を養うことができよう。また、講義で学ぶ多様な立場や価値観、視角を理解することで、現代社会に発生している民族間対立や宗教間対立について、知見に基づき客観的に分析することができるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	はじめに	歴史とは何かを考える。授業の方針・全体計画・評価方法について説明する。	みなさんにとって歴史とは何かを考えてください。
2	近代日本の誕生	王政復古や戊辰戦争を通じて近代日本の誕生を考える。	予習として、王政復古や戊辰戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
3	近代日本と軍事	徴兵制などを通じて日本が軍事大国となる原点を辿る。	予習として、徴兵制に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
4	日本と清国	「朝鮮」をめぐる日本と清国の関係をみていく。	予習として、日清戦争以前の日本と清国との関係に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
5	日清戦争	山県有朋の「主権線」・「利益線」などを通じて日清戦争がなぜ起こったのか、また、下関条約による領土拡大を考える。さらに、日清戦争の裏で行われていた魚釣諸島領有問題についてもみていく。	予習として、日清戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
6	日露戦争	三国干渉や日英同盟を通じて日露戦争を考える。また、ポーツマス条約をみることで現在に繋がるロシアとの領土問題について考える。さらに、本戦争と竹島の関係についてもみていく。	予習として、日露戦争に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
7	第一次世界大戦①	民族自決、ワシントン体制を軸に第一次世界大戦が世界に与えた衝撃を考える。	予習として、第一次世界大戦勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
8	第一次世界大戦②	帝国国防方針および総力戦体制論をキーワードに第一次世界大戦が日本に与えた衝撃を考える。	予習として、帝国国防方針と総力戦体制論に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
9	満洲事変	満洲事変とはなにか、また、同事変の目的はいかなるものであったのか。	予習として、満洲事変に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
10	日本の植民地統治	傀儡をキーワードに日本の植民地政策の特質を捉える。	予習として、満洲国や汪兆銘政権に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
11	日中戦争からアジア・太平洋戦争開戦	日中戦争解決の糸口はどこにあるのか？当時の為政者は何を考えていたのかをみていく。	予習として、日中戦争勃発経緯やアジア・太平洋戦争勃発経緯に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
12	「大東亜共栄圏」構想の形成と展開	「大東亜共栄圏」構想の起源を辿り、同構想がいかに展開したのか、また、日本の各占領地にいかに波及したのかを考える。	予習として、「大東亜共栄圏」に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
13	大東亜会議	大東亜会議とはなにか、また、なにを目的に開催されたのかを考える。	予習として、大東亜会議・重光葵に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
14	帝国日本の解体	帝国日本は単に戦争に負けたから解体したのか。東南アジア占領や「独立」問題などを絡めて帝国日本の解体を考える。また、帝国日本解体後の問題となる日本領土についても考えていく。	予習として、東条英機内閣・小磯国昭内閣・鈴木貫太郎内閣に関して教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。
15	現代日本を取り巻く諸問題	東北アジアの領土問題 (竹島=独島、尖閣=釣魚諸島問題、北方四島) など現代日本を取り巻く諸問題に関して考える。	予習として、東北アジアの領土問題について教科書程度の意味を調べておく。 今回の授業の重要な点を復習しておく。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	詳説日本史：日本史B	笹山晴生ほか	山川出版社
	2	詳説世界史：世界史B	木村靖二ほか	山川出版社
	3			
評価方法 (基準)	試験80%、小レポート(授業態度)20%			
学生への メッセージ	<p>授業タイトルにもあるように「歴史に学ぶ」ことは非常に大切なことです。周知の通り、過去があるから今があります！現代で起こっている事象には必ず歴史があり、それらを理解するためには歴史をみる必要があります。</p> <p>高校生までの暗記科目としての歴史ではなく、歴史をさまざまな角度からみることを、考えることで今私たちが生きている現代をみる目も変わってくるはずです。悲しい事に、現在では、ロシアとウクライナの間で戦争が勃発しています。今後戦争被害が拡大しないよう我われ一人一人が考え、少しでもいい方向に向かえるよう行動していきまし</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>予習・復習にあてる総時間の目安は60時間程度とします。なお、授業での質問等がある場合は、メールにてご連絡ください。</p> <p>なお、提出いただいた小レポートの内容については次回の授業内において解説を行います。</p>			

科目名	歴史に学ぶ	科目名 (英文)	History
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	村上 司樹
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2409a2		

授業概要・目的	私が専門とするヨーロッパの歴史を、皆さんが専門とする理工系の学問(機械・建築・化学)から、見直してみようという講義です。慣れないことだが自分の視野を広げるためのチャレンジという点では、理工学部の皆さんが文系学問を学ぶのは同じように、私にとっても一種のチャレンジです。なお歴史(の学び)とは、年代や事件の、単なる暗記ではありません(もちろん知識は、ないより、あった方がいいですが)。本質的には、昔を知ることで、今を知る。つまり異文化理解です(異文化理解≒自文化理解)。大学は、知性や教養を磨くには、このうえなくすばらしい場。ただ、それも自分しだい。せっかく受講するのなら、単位以上の何かを手に入れてほしいと思います。
到達目標	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。

授業方法と留意点	教科書は使わない。プリントを配布し、パワーポイントを使って講義する。単位を取る方法は2つ。第1は、こつこつ授業に出てノートを取り(プリントにメモして)、毎回のレスポンス・ペーパーで点数を稼ぐ方法。第2は、一発勝負の、レポートにすべてを賭ける方法。(この授業では出席を取らないから)第2の方法にも可能性はある、が、全15回の授業内容に匹敵するレポートの材料を集めるには、それなりの本を何冊も、自分で読まなければならない(なお、ネットからのコピペは、やめたほうがいい。大学教員にはすぐに見抜かれるし、カンニング扱いで得点は0点、下手すれば学期の全単位剥奪...危険さわからない)。つまらない結論だが、第1の方法が、もっとも簡単かつ安全だろう。王道とは、そんなものである。急がば回れ。Festina lente(ゆっくり急げ)。
----------	---

科目学習の効果(資格)	歴史という視点からヨーロッパとは何か説明できるようになる。歴史的視野をもって、現在を見たり、未来を考えたりできるようになる。具体的・論理的な考え方、語り方を身につける。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	歴史を学ぶにあたって	歴史は異文化理解／手で食べる文化は劣っている？／知らないうちは否定から入るな	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
2	歴史を学ぶにあたって	なぜ昔は恋愛結婚がめずらしかったのか？／乳幼児のおよそ半分が死んでしまう／戦争と出産は命がけの仕事	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
3	歴史を学ぶにあたって	政略結婚にも親心／就活や通勤がない世界／家は職場、家族はチーム	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
4	歴史を学ぶにあたって	結婚は仕事／恋愛結婚させるのは「言語道断、残忍な親」／Love is blind(恋は盲目)	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
5	歴史を学ぶにあたって	「長靴をはいた猫」は結婚できない男の夢／男尊女卑になる社会構造／それでも、勝ち負けははっきりした結婚(または人生)などない	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
6	機械・建築・自然学から見る西洋史	現在の機械工学・建築学・化学は、近代ヨーロッパで確立した／近代の機械、例えばエンジン／近代の建築、例えば鉄筋コンクリート	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
7	機械・建築・自然学から見る西洋史	近代の化学、例えば原子説や周期表／しかし、近代に突然始まったわけではない／「タコツボ化」とか「専門バカ」に陥らないために	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
8	機械から見た古代	すべての機械の母、水車／現代のエンジンにも使われている仕組み／ポンプもネジも自動ドアも、古代の時点で発明されていた	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
9	機械から見た古代	発明だけで世の中(歴史や社会)は変わらない／発明には向いていたが、普及には向いていなかった古代社会／民主政治と奴隷制度のセット	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
10	機械から見た古代	「学校」の語源は「余暇」／史上もっとも奴隷制度が発展した社会／水車(水力機械)が普及したのは次の時代、中世	プリントの読み返しと先読み
11	建築から見た中世	古代には石造建築も発展していた／しかし、古代の終わりと共に、いったん消滅する／ある種の「文明崩壊後の世界」、中世	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
12	建築から見た中世	中世ヨーロッパの城も、最初は木造だった／社会が変わると、建築も変わる／石造建築を守ったキリスト教	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
13	建築から見た中世	古代を超えた石造建築、中世の大聖堂／大聖堂建築が挑戦した。明るさと高さのジレンマ／大聖堂を通して、建築家のステータスが上がった	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
14	自然学から見た近世	自然の研究は、もともと宗教や魔術と一体だった／眼鏡を生んだキリスト教への信仰／唯一神が世界を創ったから自然には法則があるのだ、という確信	プリントの読み返しと先読み／レスポンス・ペーパー
15	自然学から見た近世	宇宙の研究を発展させたのは星占い／化学・医学と一体だった錬金術／近世の哲学が、科学を宗教・魔術から切り離れた	プリントの読み返し／レスポンス・ペーパー

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	レスポンス・ペーパー (50%)、レポート (50%)。レポートは授業内容から出題 (だから、授業のプリントとノートがあれば書ける問題で、あらかじめ文献を読む必要はない)。授業に出ているだけでは1点も付けない (出席点はない) が、やる気がある人には最大限チャンスを与える (この点は、これまでの受講生にも定評がある)。			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習時間の目安は計60時間。			

科目名	健康論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2410a2		

授業概要・目的	現代社会において、生活の質 (QOL) を高めるためには、健康であることがまず重要になる。健康であるためには自分の身体を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識が必要となる。 本授業では、健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
到達目標	健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行います。 必要な箇所を自らのノートに記入してください。 もしくは、授業資料を印刷して、書き込んでください。
科目学習の効果 (資格)	この講義を受講することにより、健康な身体づくりのための方法と知識を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会と健康	・現代日本における健康問題と国の施策について知る。	・授業資料にて確認をすること
3	生活習慣病と3大疾病、心の健康①	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
4	生活習慣病と3大疾病、心の健康②	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
5	身体のしくみ①	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
6	身体のしくみ②	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
7	健康と運動	・運動処方と実践の方法を理解する。 ・生涯スポーツについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
8	食事と栄養	・5大栄養素と食事の選び方について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
9	食事と現代社会	・食品添加物、サプリメントについて知る。 ・食物アレルギーとアナフラキシーショックの対応について学ぶ。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
10	嗜好品と薬物	・喫煙、飲酒、カフェインについて理解する。 ・薬物について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
11	ドーピングについて	・ドーピングについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
12	運動指導について	・コーチング方法について	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
13	緊急時の応急手当てや対応について	・緊急時の応急手当てについて理解する。 ・水難事故などの対応について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
14	まとめ①	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
15	まとめ②	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験：60% 受講態度、提出物等：40% 合計点が60点以上で合格
-----------	---

学生へのメッセージ	健康に過ごすための基礎的な知識と理解を深めるための授業です。 様々な観点から健康なからだをつくるためには何が必要かを学んでいきましょう。
-----------	---



担当者の 研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、30時間を目安とします。

科目名	健康論	科目名 (英文)	Theory of Health
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2410a2		

授業概要・目的	人生 100 年時代といわれる現代社会において、豊かで健康な生活を送ることが重要であるとされています。スポーツと健康についての知識を身につけ、正しい情報を選択し実践していくことが重要です。本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を図るための知識を学びます。
到達目標	①現代社会における健康問題について理解することができる。 ②健康に関する情報において取捨選択する力を養い、健康に対して自らの考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。 ④身近な社会問題について主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式で授業を行う。 議題についてディスカッションを行ったり、自らの意見を発表する機会を設ける。
科目学習の効果 (資格)	健康の維持・増進に関する知識が身につく、受講者が自らの健康を管理できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点、課題・評価などについての説明する。	なし
2	現代社会と健康問題	健康の定義と平均寿命・健康寿命などの現代社会が抱える健康問題について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
3	運動習慣が体に及ぼす影響	体を動かすことによる健康に対する効果や意義などを学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
4	生活習慣病①	現代社会における生活習慣病について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
5	生活習慣病②	現代における生活習慣病のそれぞれの症状や予防方法について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
6	食事と健康	健康な食生活を形成するための基礎知識を学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
7	睡眠と健康	睡眠が身体に及ぼす影響について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
8	健康づくりのための運動基準	健康づくりに対して国が定めた制度、運動基準について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
9	自身の健康チェック (適切な体重と食生活)	適切な体重について理解する。 健康に良い食生活について考える。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
10	計画的なスポーツ実践	運動・スポーツにおけるトレーニングの原理・原則について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
11	体力の定義 体力と健康の関係	体力と健康との関係について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
12	有酸素運動の効果と実践	有酸素トレーニングが健康に及ぼす効果について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
13	スポーツと社会①	スポーツが社会に与える影響 (社会貢献や経済効果) について考える。 (講義・グループディスカッション)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
14	スポーツと社会②	スポーツが社会に与える影響 (社会貢献や経済効果) について、グループでまとめて発表する。 (発表)	事前: 発表準備をする (1 時間以上) 事後: 他者の発表した内容をまとめる (1 時間以上)
15	スポーツと健康のまとめ	授業のまとめ 持続可能な社会の実現のためにスポーツと健康がどのように関わることができるかを考える。(レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: スポーツと健康の講義で学んだことを復習し、実践する。

関連科目	スポーツ科学実習 I・II 生涯スポーツ実習
------	---------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業態度、小レポート 50%、レポート 30%、グループワーク、発表内容など 20%の割合で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	質問等がある場合はメールにてご連絡下さい。 また、直接話したい場合には総合体育館内にある竹澤研究室あるいはスポーツ振興センターにお越しください。		
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階		
備考	授業の進捗や理解度によって授業テーマの順序を入れ替える、または変更する場合があります。 学習効果を高めるため、時事問題を授業内容に加えることがあります。 初めのガイダンスには必ず出席すること。 欠席を 4 回以上した際の単位取得は認めない。		

科目名	スポーツ科学実習 I	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤、今浦 千信
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH1411a2		

**授業概要・目的**  
生涯を通じて明るく活力のある生活を営むために、スポーツ・身体運動は極めて重要な役割を果たす。本科目では、スポーツ活動を通じて基礎的な運動技術の修得を目指し、規律・規範を重んじる心を修養し、スポーツの楽しさを理解することを目的としている。  
本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。  
SDGs-3、4、5

**到達目標**  
この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。(DP1)

**授業方法と留意点**  
実技形式で行う。  
開講種目は、以下のとおりである。  
・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)  
・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)  
※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。  
※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。  
※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

**科目学習の効果 (資格)**  
基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・履修上の注意やコース種目分け	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・体力測定①	・屋外種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
3	・体力測定②	・屋内種目	事前：運動を行い体力測定に備える (30分) 事後：自身の体力についての振り返り (30分)
4	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
5	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

**関連科目**  
生涯スポーツ実習、スポーツと健康、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクスサイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法 (基準)**  
対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%  
※ なお活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

**学生へのメッセージ**  
授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)  
実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)

担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ（コースに適したもの）を準備する

科目名	スポーツ科学実習Ⅱ	科目名 (英文)	Practicum in Sports Science II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤、今浦 千信
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH1412a2		

授業概要・目的	本科目では、スポーツ科学実習Ⅰで培った基礎的な技術を応用し、高度なスポーツ技術の獲得を目指す。またスポーツを通じてさらなる人間力の向上を目指し、自らの生活行動の中にスポーツ・身体運動を実践する能力を育成することを目的としている。 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。

授業方法と留意点	実技形式で行う。 開講種目は、以下のとおりである。 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど) ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど) ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。
----------	--

科目学習の効果 (資格)	基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。
--------------	--------------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する (30分) 事後：本実習の理解を深める (30分)
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく (30分) 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る (30分)
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
4	・基本技術 (基礎編1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
5	・基本技術 (基礎編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
6	・基本技術 (応用編1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
7	・基本技術 (応用編2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：内容の振り返り (30分)
15	・ゲーム ・2次ガイダンス等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・2次ガイダンス等を行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 (30分) 事後：全授業の総括 (30分)

関連科目	生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズの実論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの実論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の実論と実際
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25% ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。
学生への	授業1回目 (ガイダンス) は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要)

メッセージ	実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)を準備する

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 潤, 河瀬 泰治, 瀬川 智広, 横山 喬之
ディプロマポリシー (DP)	A⑩		
科目ナンバリング	TPH2413a2		

授業概要・目的	<p>スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。</p> <p>本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。</p> <p>SDGs-3, 4, 5</p>																																																																		
到達目標	<p>この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。</p>																																																																		
授業方法及び留意点	<p>実技形式で行う。</p> <p>開講種目は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)</li> <li>・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)</li> </ul> <p>※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。</p> <p>※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。</p> <p>※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。</p>																																																																		
科目学習の効果 (資格)	<p>基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>・ガイダンス</td> <td>・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)</td> <td>事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>・種目の概要 ・基礎知識について</td> <td>・種目の概要、基礎知識の説明</td> <td>事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム</td> <td>・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム</td> <td>・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム</td> <td>事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>・ゲーム</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>・ゲーム ・授業アンケート等</td> <td>・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う</td> <td>事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める	2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る	3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り	4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り	8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り	15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める																																																																
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る																																																																
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り																																																																
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り																																																																
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り																																																																
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括																																																																
関連科目	<p>生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際</p>																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	<p>対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%</p> <p>※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。</p>																																																																		



学生への メッセージ	授業1回目(ガイダンス)は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	近藤 潤, 河瀬 泰治, 瀬川 智広
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2413a2		

**授業概要・目的**  
 スポーツの基礎知識をベースに、より応用的な内容に発展させ、スポーツライフ形成の大切さを学ぶ。スポーツ活動の楽しさや身体活動の重要性を自覚するとともに、生涯スポーツ参加への意識向上と自信を深めることを目的とする。  
 本科目担当者は、学内外において性別や年代を問わず、一般的な指導から専門的な指導の実務経験を有し、基本から応用まで幅広い指導を学生に提供する。  
 SDGs-3、4、5

**到達目標**  
 この授業を通じて学生には、①健康・体力の維持増進、②技能を向上させることができる、③スポーツのルールやマナーを理解することができる、④コミュニケーション能力やリーダーシップ、リーダーを支援する能力を培うことができるようになることが期待される。

**授業方法と留意点**  
 実技形式で行う。  
 開講種目は、以下のとおりである。  
 ・屋内種目 (バドミントン、バレーボール、バスケットボール、卓球、ニュースポーツなど)  
 ・屋外種目 (サッカー、ミニサッカー、ソフトボール、テニス、タグラグビー、ニュースポーツなど)  
 ※1 各種目の人数が多過ぎる場合や少な過ぎる場合は、他の種目に移動もしくは開講しないことがある。  
 ※2 第1回目の授業はガイダンスの他、各種目のコース分けを行なうので必ず出席すること。  
 ※3 悪天候の場合は、授業計画とは異なる内容になる場合がある。

**科目学習の効果 (資格)**  
 基礎体力の養成、健康の保持・増進および運動技術を修得できる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・ガイダンス	・ガイダンス (履修上の注意やコース種目分け)	事前：授業概要・目的などを学習する 事後：本実習の理解を深める
2	・種目の概要 ・基礎知識について	・種目の概要、基礎知識の説明	事前：基礎知識を学習しておく 事後：新しく学んだ基礎知識について振り返る
3	・基本技術 (導入編) ・簡易ゲーム	・種目におけるルール・マナーの説明 ・種目の導入につながる運動 ・簡易ゲーム	事前：ルールについて学習しておく 事後：内容の振り返り
4	・基本技術 (基礎編 1) ・簡易ゲーム	・体力・技術の向上に必要な基礎運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
5	・基本技術 (基礎編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
6	・基本技術 (応用編 1) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
7	・基本技術 (応用編 2) ・簡易ゲーム	・体力の向上に必要な基礎運動 ・基礎技術を応用した運動 ・簡易ゲーム	事前：基礎・応用技術に関する情報収集をする 事後：内容の振り返り
8	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
9	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
10	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
11	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
12	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
13	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
14	・ゲーム	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：内容の振り返り
15	・ゲーム ・授業アンケート等	・ゲームを計画し、協調性、リーダーシップ、チームワークを育む ・授業の振り返りのためにアンケートを行う	事前：ルール・技術等の確認と健康管理 事後：全授業の総括

**関連科目**  
 生涯スポーツ実習、健康論、スポーツ科学概論、保健論、スポーツ指導者入門、スポーツ文化論、スポーツプログラミング、発育発達論、ヘルスエクササイズ理論と実際、スポーツ教育学、スポーツの歴史、スポーツトレーニングの基礎、フィットネストレーニングの理論と実際、スポーツ医学の基礎、体力測定とスポーツ相談、スポーツ栄養学、スポーツ医学の理論と実際

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
 対面授業：活動点50%、技能点25%、態度点25%  
 ※ なお、活動点とは授業への参加意欲とする。態度点とは積極性・集中度を示し、授業態度が悪い場合は減点する。

学生への メッセージ	授業1回目(ガイダンス)は、総合体育館2階アリーナに集合してください。(更衣不要) 実習の際は、必ず健康保険証を持参してください。(コピー不可)
担当者の 研究室等	総合体育館 1F 体育館事務室
備考	トレーニングウェア、スポーツシューズ(コースに適したもの)

科目名	生涯スポーツ実習	科目名 (英文)	Lifetime Sports
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期集中	授業担当者	近藤 潤
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2413a2		

**授業概要・目的**  
 ゴルフというスポーツを通して生涯スポーツへの参加意識向上と自信を深めることを目的とする。  
 短期間の練習で最後に実際にコースに出てラウンドするという、ハードスケジュールではあるが、コースでラウンドする経験は、テレビなどで見るだけのゴルフとは違う楽しさや、難しさを体験できる。  
 また、社会人になってもコミュニケーションツールとしてゴルフをするための基礎となる。  
 ゴルフを通じて、打つ技術だけではなく、人と人とのコミュニケーションや社会人としてのルール・マナーを身につける。  
 SDGs-3, 4, 5

**到達目標**  
 ①健康の保持増進ができる  
 ②運動技能を向上させることができる  
 ③競技ルール、ラウンドマナーを理解することができる  
 ④学生相互のコミュニケーション能力やリーダーシップを培うことができる  
 学科の学習・教育目標との対応：[A]  
 (DP1)

**授業方法と留意点**  
 事前ガイダンス (90分) と集中授業4日間 (午前、午後、最終日は午後のみ) 合わせて5日間で行う。  
 日程は、事前ガイダンス (詳細はポータルで連絡)、9月9日 (月) ~12日 (木)  
 5日間すべて受講できること。  
 事前の申し込みが受け付けられることが必要。  
 申込用紙は履修ガイダンス時に配布。

**科目学習の効果 (資格)**  
 ゴルフを実践する最低限の打球技術、ルール、マナーを習得できる。  
 ゴルフを通じて人と人のコミュニケーションを図ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	事前ガイダンス	目的、内容、準備について ゴルフの概要	事後：ゴルフの概要を確認 (1時間)
2	ゴルフの基礎知識	ゴルフのルール、マナーについて	事前：ルールの再確認 (1時間) 事後：授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
3	ゴルフの基礎技術 (1)	グリップ、スウィング	事前：午前中のルール・マナーについて確認 (1時間) 事後：技術の反復練習 タオルスイングなど 授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
4	ゴルフの基礎技術 (2)	打球練習場での練習 アイアン	事前：前日の技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
5	ゴルフの基礎技術 (3)	アプローチ、パター練習	事前：前日の技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：技術の反復練習 ルールの再確認 (1時間)
6	ゴルフの応用技術 (1)	打球練習場での練習 ドライバー	事前：前日までの技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：技術の反復練習 ルールの再確認 (1時間)
7	ゴルフの応用技術 (2)	ミニラウンド	事前：前日までの技術練習のポイント再確認 (1時間) 事後：ラウンド時のルール・マナーの再確認 授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
8	ゴルフの実践	ラウンド (9H)	事前：ラウンドのイメージトレーニング (1時間) 事後：授業内容を実習ノートにまとめる (1時間)
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

**関連科目** スポーツ科学実習 I, II

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法 (基準)** 活動点 (態度点含む) 50%、技能点25%および実習ノート25%を総合評価する。

**学生へのメッセージ**  
 履修までの質問は、総合体育館のスポーツ振興センター事務室に来てください。  
 事前ガイダンスは7月に行う予定です。ガイダンスの連絡はポータルを通して行います。

**担当者の研究室等** 総合体育館1階

**備考** ラウンド時の服装は襟付きポロシャツ、スラックス (半ズボンの場合はハイソックス着用)、運動靴 (スパイク類は禁止)

	<p>ゴルフクラブは大学が用意しますが、ラウンド用のボール、ゴルフ用手袋は各自で用意してください。シューズは運動に適したものかスニーカーで大丈夫です。</p> <p>雨天でも行いますので、着替えは多めに準備することと、体育館内でも行うことがあるので体育館シューズも用意してください。</p> <p>本学東グラウンドに移動する際は、交通量の多い公道を横断する必要があります。事故防止のため、また自動車・バイクや近隣住人の迷惑にな</p>
--	---

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	加藤 恭子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	映画を通して、英語の文がどのような構成要素から成り立っているのか。また、各構成要素と修飾要素との関係はどのようになっているのかを明確に把握することにより、実際のコミュニケーションの場において、意味の通る英文を正確に作りだせるようにする。身近な日常生活においてよく使われる言い回しや表現を通して、語彙や基本文法を確認しながら、英語の4技能を向上させる。
到達目標	聴解力の訓練を中心に、コミュニケーションに役立つ語彙力の増強や、基礎文法の徹底理解を目標とする文章の内容を正しく理解し、伝えたいことを正確に表現する技能を身につける。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。授業の予習が課題となります。 また、毎回授業の最後にクイズをします。 ペアワーク・グループワークも行う。 携帯電話の使用、私語など授業に積極的に参加していない場合は減点対象となります。
科目学習の効果 (資格)	語彙力、読解力、聴解力、英文作成能力の養成。 TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、評価方法、学習方法についての説明	シラバスの確認 教科書の入手  単語学習範囲：0001-0035
2	Unit 1: 二人の男子	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 1	事前学習：Unit 1 の予習 事後学習：Unit 1 の復習  単語学習範囲：0036-0070
3	Unit 1: 二人の男子	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 2	事前学習：Unit 1 の予習 事後学習：Unit 1 の復習  単語学習範囲：0071-0105
4	Unit 2: ウィル SPAT に入会	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 3	事前学習：Unit 2 の予習 事後学習：Unit 2 の復習  単語学習範囲：0106-0140
5	Unit 2: ウィル SPAT に入会	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 4	事前学習：Unit 3 の予習 事後学習：Unit 2 の復習  単語学習範囲：0141-0175
6	Unit 3: 支えが要るんだ	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 5	事前学習：Unit 3 の予習 事後学習：Unit 3 の復習  単語学習範囲：0176-0210
7	Unit 3: 支えが要るんだ	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 6	事前学習：Unit 3 の予習 事後学習：Unit 3 の復習  単語学習範囲：0211-0245
8	Unit 3: 支えが要るんだ	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 7	事前学習：Unit 3 の予習 事後学習：Unit 3 の復習  単語学習範囲：0246-0280
9	Unit 4: ウィルとマーカスの奇妙な友情	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 8	事前学習：Unit 4 の予習 事後学習：Unit 4 の復習  単語学習範囲：0281-0315
10	Unit 4: ウィルとマーカスの奇妙な友情	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 9	事前学習：Unit 4 の予習 事後学習：Unit 4 の復習  単語学習範囲：0316-0350
11	Unit 4: ウィルとマーカスの奇妙な友情	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 10	事前学習：Unit 4 の予習 事後学習：Unit 4 の復習  単語学習範囲：0351-0385
12	Unit 5: マーカスを変身させよう	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 11	事前学習：Unit 5 の予習 事後学習：Unit 5 の復習  単語学習範囲：0386-0420
13	Unit 5: マーカスを変身させよう	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 12	事前学習：Unit 5 の予習 事後学習：Unit 5 の復習  単語学習範囲：0421-0438
14	Unit 5: マーカスを変身させよう	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 13	事前学習：Unit 5 の予習 事後学習：Unit 5 の復習
15	Review	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 14	事前学習：これまでのまとめ 事後学習：Unit 5 の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	About a Boy	Peter Hedges / Chris Weitz & Paul Weitz	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- TOEIC Test		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>共通試験(統一英語単語テスト) 20%、 e-learning 20% 定期試験 30%、 提出物(授業後のクイズ) 20%、 予習課題 10%</p> <p>上記の割合で総合的に評価する。</p> <p>また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>語学の習得には日々の努力と継続が必要です。 授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。 辞書を活用して、必ず予習しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階(非常勤講師室)			
備考	<p>事前・事後学習には毎回1時間以上かけること。 単語の意味はあらかじめ調べてくること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。</p>			

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	まずは、基礎文法を徹底させ、読解力を向上させる。英文を読んで楽しむ。毎回の単語テストにより単語力をつけるが、その際、間違った音で覚えないように、発音にも注意を払っていく。また TOEIC 形式のリスニング問題や映画などの映像教材を用いて楽しみながらリスニング力の向上にもつなげる
到達目標	基礎英文法を理解できるようになる。語彙力、読解力の向上。TOEIC Part 1, 2 の問題が解けるリスニング力が養成される。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストは NO 1~NO 4 3 8 の範囲を毎回約 4 0 単語ずつ 1 1 回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	基礎英文法の徹底理解。語彙力読解力の向上。リスニング力の養成。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス Unit 1	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 テキストを少し学習する	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1~40
2	Unit 1 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト1	単語テストの予習 NO 41~80 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
3	Unit 1 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト2	単語テストの予習 NO 81~120 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
4	Unit 2 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト3	単語テストの予習 NO121~160 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
5	Unit 2 基礎文法の確認	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト4	単語テストの予習 NO161~200 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
6	これまでの授業の復習と、発展的学習	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト5	単語テストの予習 NO 201~240 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
7	Unit 3 読解の方法	基礎文法、語彙、リスニングの学習 単語テスト6	単語テストの予習 NO 241~280 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
8	Unit 3 読解の方法	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト7	単語テストの予習 NO 281~320 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
9	Unit 4 読解の方法	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト8	単語テストの予習 NO 321~360 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
10	Unit 4 読解の方法	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト9	単語テストの予習 NO 361~400 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
11	これまでの授業の復習と、発展的学習	語彙、読解、文法、Listening の練習 単語テスト10	単語テストの予習 NO 401~438 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
12	Unit 5 語彙と発音	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
13	Unit 5 語彙と発音	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
14	これまでの授業の復習と、発展的学習	語彙、読解、文法、Listening の練習	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
15	総まとめ	総復習	重要項目、フレーズの整理、総復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Mystery Break	Irene Iwasaki 他	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition		成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	共通試験 (統一英語単語テスト) 20%、e-learning 20% 臨時試験 40%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、
-----------	--

学生へのメッセージ	*連絡や課題は Teams から行いますので、必ず登録してください。 ・各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。 ・毎回小テストをします ・e-learning 教材と、テキストの音声をダウンロードして自宅学習を行いましょ。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。 教員への連絡は teams のチャットで。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---



科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備しておくこと。
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、成績の説明をする。また簡単な英語のドリルをする。	テキストを購入して、さっと目を通しておくこと。
2	Unit 1	be 動詞 単語テスト (001-044)	テキストの予習 単語テストの準備
3	Unit 1	be 動詞 単語テスト (045-088)	テキストの予習 単語テストの準備
4	Unit 2	一般動詞 (1) 単語テスト (089-132)	テキストの予習 単語テストの準備
5	Unit 2	一般動詞 (1) 単語テスト (133-176)	テキストの予習 単語テストの準備
6	Unit 3	一般動詞 (2) 単語テスト (177-220)	テキストの予習 単語テストの準備
7	Unit 3	一般動詞 (2) 単語テスト (221-264)	テキストの予習 単語テストの準備
8	Unit 4	人称代名詞 単語テスト (265-308)	テキストの予習 単語テストの準備
9	Unit 4	人称代名詞 単語テスト (309-352)	テキストの予習 単語テストの準備
10	Unit 5	疑問文 単語テスト (353-396)	テキストの予習 単語テストの準備
11	Unit 5	疑問文 単語テスト (397-438)	テキストの予習 単語テストの準備
12	Unit 6	過去形	テキストの予習
13	Unit 6	過去形	テキストの予習
14	Unit 7	現在完了形 (1)	テキストの予習
15	Unit 7	現在完了形 (1) 総まとめ	テキストの予習

関連科目	基礎英語 11a
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Living Grammar -New Edition-	山本厚子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	統一英語単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 定期試験（授業参加度を含む） 60% を総合して評価する。授業参加度とは、授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を指す。また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	英単語は、毎日平均30分は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	基礎英文法を十分に理解した上で、語彙の増強と共に作文力や読解力を向上させる。
到達目標	基本的な英文法を、語彙や語順問題、簡単な英文の内容把握、英作文を通して確実にする。また日常生活やビジネスでの場面で使える会話表現に慣れる。
授業方法と留意点	必ず事前学習をしておくこと。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。 3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 教科書の各 Unit を学習した後、小テストを行います。 英単語学習範囲：(p.2～p.79) No.0001～0438
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明	シラバスを確認し、教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Resellers-Good or Bad?	Unit 1 を通して、be 動詞について学ぶ	単語学習：0001～0042 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
3	Unit 2 About Earphones	Unit 2 を通して、一般動詞について学ぶ	単語学習：0043～0084 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
4	Unit 3 Cash Registers	Unit 3 を通して、名詞・代名詞について学ぶ	単語学習：0085～0126 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
5	Unit 4 Funny Happenings During Online Lessons	Unit 4 を通して、過去形について学ぶ	単語学習：0127～0168 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
6	Unit 5 Loose-Fitting Clothing	Unit 5 を通して、進行形について学ぶ	単語学習：0169～0212 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
7	Unit 6 Shrinkflation	Unit 6 を通して、Wh 疑問文について学ぶ	単語学習：0213～0256 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
8	Unit 7 Living in the Countryside	Unit 7 を通して、前置詞について学ぶ	単語学習：0257～0301 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
9	Unit 8 Hanging Out in Streets and Parks	Unit 8 を通して、接続詞について学ぶ	単語学習：0302～0347 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
10	Unit 9 Plant Burgers Are Popular in America	Unit 8 を通して、現在完了形について学ぶ	単語学習：0348～0392 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
11	Unit 10 South Korean Culture Is Popular Worldwide	Unit 9 を通して、未来表現について学ぶ	単語学習：0393～0415 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
12	Unit 11 Doxing	Unit 10 を通して、助動詞について学ぶ	単語学習：0416～0438 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
13	Unit 12 Fast Movies	Unit12 を通して、受動態について学ぶ	単語学習：指示された範囲 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
14	Unit 13 Do you Need a Dislike Button on Social Media?	Unit 13 を通して、形容詞・副詞について学ぶ	単語学習：指示された範囲 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習
15	Unit 14 Ramen Subscription	Unit 14 を通して、不定詞・動名詞について学ぶ	単語学習：指示された範囲 事前学習：教科書の予習 (単語を確認しておく) 事後学習：課題 (授業内で配布)・復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Trend Scope	Jonathan Lynch 他	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法	全学共通英語課題 (English Central) 20%
------	--------------------------------

(基準)	統一英語単語テスト 20% 授業への参加、貢献（小テスト、質問に対する発言、定期試験等） 60% *原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生へのメッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。このクラスでは基礎的な英文法、英会話を学び、アウトプットの機会を増やす事で実践で役立つ英語を身に付けましょう。
担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室（7号館 2階）にて対応する。 授業計画は進度によって変わる場合がある。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	基礎英文法を十分に理解した上で、語彙の増強と共に作文力や読解力を向上させる。
到達目標	基本的な英文法を、語彙や語順問題、簡単な英文の内容把握、英作文を通して確実にする。また日常生活やビジネスでの場面で使える会話表現に慣れる。
授業方法と留意点	必ず事前学習をしておくこと。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題は、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。教科書の各 Unit を学習した後、小テストを行います。英単語学習範囲：(p.2～p.79) No.0001～0438
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Pre-Unit	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明 英語の基本語順を確認する	教科書の Pre-Unit を読み、英語の基本語順を確認しておくこと
2	Unit 1 Welcome to the "Big Apple" 現在形	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	単語学習：0001～0042 教科書の予習 (単語を確認しておく)
3	Unit 1 Welcome to the "Big Apple" 現在形	お礼を伝える 動詞の現在形を理解する 自己紹介をする	単語学習：0043～0084 教科書の予習と復習 (Exercises をする)
4	Unit 2 : What's the Boss Like? 代名詞	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	単語学習：0085～0126 教科書の予習と復習
5	Unit 2 : What's the Boss Like? 代名詞	感想を述べる 代名詞の使い方に慣れる 友人を紹介する	単語学習：0127～0168 教科書の予習と復習
6	Unit 3: Masa's First Day on the Job 前置詞	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	単語学習：0169～0212 教科書の予習と復習
7	Unit 3: Masa's First Day on the Job 前置詞	勤務時間についてたずねる 前置詞の使い方に慣れる 行動予定について書く	単語学習：0213～0256 教科書の予習と復習
8	Unit 4: Summer Fun 過去形	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある1日を振り返る	単語学習：0257～0301 教科書の予習と復習
9	Unit 4: Summer Fun 過去形	週末にしたことを述べる 動詞の過去形を理解する ある1日を振り返る	単語学習：0302～0347 教科書の予習と復習
10	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 加算名詞・不可算名詞	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学に必要な物について書く	単語学習：0348～0392 教科書の予習と復習
11	Unit 5: Hotel Guest Satisfaction 加算名詞・不可算名詞	相手を励ます 可算名詞・不可算名詞を理解する 大学に必要な物について書く	単語学習：0393～0415 教科書の予習と復習
12	Unit 6: Brainstorming 進行形	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	単語学習：0416～0438 教科書の予習と復習
13	Unit 6: Brainstorming 進行形	これからすることを提案する 進行形の使い方に慣れる 健康状態について書く	単語学習：指示された範囲 教科書の予習と復習
14	Unit 7: Glad to Be of Service WH 疑問詞	助けを求める WH 疑問文の使い方に慣れる 好きな人物を紹介する	単語学習：指示された範囲 教科書の予習と復習
15	Unit 7: Glad to Be of Service WH 疑問詞 全体のまとめ	助けを求める WH 疑問文の使い方に慣れる 好きな人物を紹介する	単語学習：指示された範囲 教科書の学習範囲の復習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Missions! Basic	Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	共通試験(統一英語単語テスト) 20% e-learning 20% 定期テスト 30% 授業への参加、貢献(小テスト・課題・質問に対しての発言等) 30% *原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室(7号館2階)にて対応する。 授業計画は進度によって変わる場合がある。

科目名	基礎英語 I a	科目名 (英文)	Basic English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1414c2		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	今まで持っている英文法力及び語彙の更なる強化を目指し、積極的に授業で学んだ内容を活用し今後 TOEICブリッジなど資格試験など必要な場面で英文を日本語に訳さず内容を理解出来るようになる事を目標とします。
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果(資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検や TOEIC 等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEIC テストに有効な単語力

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業方法、提出物、評価方法についての説明	次回の第一回単語テスト範囲、1-40 番まで勉強する事。
2	Unit1 My Hometown 故郷を紹介しよう	be 動詞	教科書 p. 1-6、次回の第二回単語テスト範囲、41-80 番まで勉強する事。
3	Unit2 Hobbies 趣味もいろいろ	一般動詞	教科書 p. 7-12、次回の第三回単語テスト範囲、81-120 番まで勉強する事。
4	Unit3 Shopping 買い物に行くならどこ？	名詞、代名詞	教科書 p. 13-18、次回の第四回単語テスト範囲、121-160 番まで勉強する事。
5	Unit4 Nature Quiz クイズに挑戦	Wh 疑問文	教科書 p. 19-24、次回の第五回単語テスト範囲、161-200 番まで勉強する事。
6	Unit5 Dream House 理想的な住まいとは？	前置詞	教科書 p. 25-30、次回の第六回単語テスト範囲、201-240 番まで勉強する事。
7	Unit6 Food 好きな食べ物は何!?	接続詞	教科書 p. 31-36、次回の第七回単語テスト範囲、241-280 番まで勉強する事。
8	Unit 7 First Date デートは最初が肝心	過去形	教科書 p. 37-42、次回の第八回単語テスト範囲、281-320 番まで勉強する事。
9	Unit8 Detective Story 探偵は真実を求める	進行形	教科書 p. 43-48、次回の第九回単語テスト範囲、321-360 番まで勉強する事。
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十回単語テスト範囲、361-400 番まで勉強する事。
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十一回単語テスト範囲、401-438 番まで勉強する事。
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
15	総合復習	定期試験対策	

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷悟志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法(基準)	定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度 5%)の合計 60%に e-learning 学習進捗度(20%)、共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%) を足して総合評価します。統一単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。進行状況により授業内容が変わる場合があります。今後の社会情勢及び授業形態の変化に伴い、評価方法が変更になる場合があります。
----------	---

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れてしまいます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	毎回の授業のための資料及びテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポート準備、宿題などに要する事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げ、それらの総時間はおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問などは出講時に非常勤講師室にて対応する。
----	--

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前課題：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 : A Day on a Film Set	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。 単語#0439-0480	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
3	Unit 1 : A Day on a Film Set	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 1 を学習する。 単語#0481-0522	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
4	Unit 2 : Jobray the Artist	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。 単語#0523-0565	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
5	Unit 2 : Jobray the Artist	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 2 を学習する。 単語#0566-0609	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
6	Unit 3 : Horseback Library	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。 単語#0610-0653	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
7	Unit 3 : Horseback Library	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 3 を学習する。 単語#0654-0698	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
8	Review Test	Unit 1-3 授業内配布資料	事前学習：テスト勉強 (2時間)
9	Unit 4 : Arctic Football	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。 単語#0699-0741	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
10	Unit 4 : Arctic Football	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 4 を学習する。 単語#0742-0781	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
11	Unit 5 : Transformer Boy	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。 単語#0782-0821	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
12	Unit 5 : Transformer Boy	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 5 を学習する。 単語#0822-0862	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
13	Unit 6 : Volunteer Hairdresser	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
14	Unit 6 : Volunteer Hairdresser	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
15	総まとめ	Unit 4-6 授業内配布資料	事前課題：Unit4-6 復習

関連科目	基礎英語 II b																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Global Gate &lt;Intermediate&gt;</td> <td>和田あずさ 他</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Global Gate <Intermediate>	和田あずさ 他	成美堂	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	Global Gate <Intermediate>	和田あずさ 他	成美堂														
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	統一英語単語テスト 20% e-Learning 20%																

	定期テスト、Review Test、授業態度、課題等 60%
学生へのメッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。語彙、英文法、読解、英作文の学習を通し基礎能力の定着を図りましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	統一単語テストの範囲 (#0439-0862)



科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	英文読解を中心に進めていく授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、より多くの語彙力、文法力、作文力をつけていくことを目的とする。 教科書は海外からのインバウンドの訪問が増えているなかで、現代の日本に関する様々なトピックを外国人に説明する、また自分の国への関心を深めることを目的としている。実践的な「おもてなし英語」を習得してもらいたい。
到達目標	まじめに学習することで基礎読解力や語彙力がつく。また TOEIC 受験に必要な読解力が向上する。
授業方法と留意点	語学の授業であるため、学生主導で進めて行く。訳出、練習問題、音読、すべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してもらいたい。授業の2回目からの単語テストは平常点評価に加えられるので、毎回準備すること。また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1 Ramen 日本国内外でのラーメン人気について	第1回目 単語テスト 教科書 pp. 8-9	当該ユニットの予習 単語学習範囲 0439-0481
3	Unit 1 Ramen 日本のラーメン事情を報告するメール	第2回目 単語テスト 教科書 pp. 10-11	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0482-0524
4	Unit 2 Animal Cafe 日本のアニマルカフェの現状について	第3回目 単語テスト 教科書 12-13 Unit1の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0525-0567
5	unit 2 Animal Cafe アニマルカフェに行った留学生の報告メール	第4回目 単語テスト 教科書 pp. 14-15	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0568-0610
6	Unit 3 Stand-up Eatery 「立ち食い」の歴史と現在の特徴について	第5回目 単語テスト 教科書 pp. 16-17 Unit2の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0611-0653
7	Unit 3 Stand-up Eatery 実際に立ち食いに行った外人の報告メール	第6回目 単語テスト 教科書 pp. 18-19	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0654-0696
8	Unit 4 Convenience Store 全国的に広がるコンビニと地域的な特徴	第7回目 単語テスト 教科書 pp. 20-21 Unit 3の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0697-0739
9	Unit 4 Convenience Store コンビニが扱う商品の特徴とそこで働く人の最近の傾向	第8回目 単語テスト 教科書 pp. 22-23	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0740-0782
10	Unit 5 Japanese Fast-Food, Gyudon 牛丼の歴史とインバウンドに合わせる最近の傾向	第9回目 単語テスト 教科書 pp. 24-25 Unit 4の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0783-0825
11	Unit 5 Japanese Fast-Food Gyudon 牛丼好きの外人の報告メール	第10回目 単語テスト 教科書 pp. 26-27	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 0826-0862
12	Unit 6 Japanese Spa スーパー銭湯と温泉の違いやその楽しみ方	教科書 pp. 28-29 Unit 5の小テスト	当該ユニットの予習 復習
13	Unit 6 Japanese Spa スーパー銭湯で楽しんだ1日の報告メール	教科書 pp. 30-31	当該ユニットの予習 復習
14	Unit 7 Flour Dishes 日本人が好きな粉物と外人に合わせる工夫	教科書 pp. 32-33 Unit 6の小テスト	当該ユニットの予習 復習
15	Unit 7 Flour Dishes 初めて知った「粉物文化」経験の報告メール	教科書 pp. 34-35	当該ユニットの予習 復習 前期末テストの準備

関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Glances of Japan	坂部俊行 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 20%、定期テスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。詳しくは第 1 回目の授業で説明する。			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。</li> <li>・授業計画は進度によって変わる場合がある。</li> <li>・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。</li> <li>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</li> <li>・小テスト等は授業中にフィードバックする。</li> </ul>			

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。特に、資格 (TOEIC、英検など) 取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるため、毎回の授業で取り組みます。聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。資格取得に向けて前向きに受験してください。また授業担当者がアメリカで経験したことを写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識を習得し、TOEIC 380 点を目標にする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に戻り、学習して欲しい。テキスト、辞書、ノートは毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、TOEICの説明、英語クロスワードパズルなど	授業の進め方、評価方法、企業が要求するスコアなどを説明	教科書の予習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 439-479
2	自己紹介についての文章を通して名詞の学習 (固有名詞、複数形など)	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 480-520
3	家族、ペットについての文章を通して動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 521-561
4	趣味についての文章を通して主語+動詞~の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 562-602
5	大学生活についての文章を通して人称代名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 603-643
6	食物についての文章を通して疑問詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 644-684
7	コンサートについての文章を通して How+形容詞、副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 685-725
8	中間試験	試験後、答え合わせを行い弱点を復習	教科書の予習復習、英単語の暗記 726-766
9	道案内についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 767-807
10	日本文化についての文章を通して助動詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 808-842
11	ジェスチャーについての文章を通して前置詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記英単語の暗記 843-862
12	観光案内についての文章を通して時制の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記の復習
13	ネットショッピングについての文章を通して進行形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記の復習
14	E-mail についての文章を通して数字の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記の復習
15	9-14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目 その他英語科目全般

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power - Up English ISBN-13: 978-4523176244	JACET リスニング研究会	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 担当教員の評価 60% (定期試験 40%、小テスト 20%)、e-learning 20%、統一英語単語テスト 20%で全体の評価を行う。

学生へのメッセージ 英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。

担当者の研究室等 7号館 2階 非常勤講師室

備考 単語試験は「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition」から出題される範囲を受験すること。単語番号 439-862 までの範囲で期末に試験が行われます。事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること。英単語は e-learning 学習など、意味、発音、綴りを確認し、毎日 1 時間は学習すること。

	毎週の小テストは時間内で答え合わせ、返却を行います。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
--	--

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」、実践英語の基礎固めをする。 プリント教材において文法項目等を学習し、英文を理解する力をつけ、TOEIC 等にも対応できる力を養う。 インターネット上の音声教材も利用し、口頭で瞬間英作ができるようにする																																																																		
到達目標	基礎英語力を身につける 口頭で短い文を瞬間に言えるようになる TOEIC の問題に慣れる																																																																		
授業方法と留意点	プリント教材を利用する 単語テストは NO 439 から NO 862 の範囲を一週につき約 40 個ずつ合計 11 回のテストをする。テキストの内容確認の臨時テストも各章の終わりに行う。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>オリエンテーション</td> <td>・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める</td> <td>単語テストの予習 NO 439～ NO 470</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>Unit 1 基礎文法の確認</td> <td>演習と解説 単語テスト 1</td> <td>単語テストの予習 NO 471～ NO 510 当該ユニットの予習 復習</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td> <td>演習と解説、発展問題 単語テスト 2</td> <td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 511～ NO550</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>これまでの授業内容の確認</td> <td>臨時試験、復習</td> <td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 551～ NO590</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>Unit 2 基礎文法の確認</td> <td>演習と解説 単語テスト 3</td> <td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 591～ NO630</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>Unit 3 基礎文法の確認</td> <td>演習と解説 単語テスト 4</td> <td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 631～ NO670</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td> <td>演習と解説 単語テスト 5</td> <td>課題：授業中に指示する 単語テストの予習 NO 671～ NO710</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>これまでの学習内容の確認</td> <td>臨時試験、復習</td> <td>課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 711～ NO750</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>Unit 4 読解の方法</td> <td>演習と解説 単語テスト 6</td> <td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO751～ NO 790</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>Unit 5 読解の方法</td> <td>演習と解説 単語テスト 7</td> <td>当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 791～ NO 830</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>これまでの授業の復習と、発展的学習</td> <td>演習と解説 単語テスト 8</td> <td>課題：単語テストの予習 NO 831～ NO 862</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>これまでの学習内容の確認</td> <td>臨時試験、復習、単語テスト 9</td> <td>課題：授業で指示する</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>Unit 6 英語の語彙</td> <td>演習と解説 単語テスト 10</td> <td>当該ユニットの予習 復習</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>Unit 7 英語の語彙</td> <td>演習と解説</td> <td>当該ユニットの予習 復習</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>これまでの学習内容の確認</td> <td>総復習</td> <td>課題：授業で指示する</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める	単語テストの予習 NO 439～ NO 470	2	Unit 1 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 471～ NO 510 当該ユニットの予習 復習	3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト 2	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 511～ NO550	4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 551～ NO590	5	Unit 2 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 3	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 591～ NO630	6	Unit 3 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 4	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 631～ NO670	7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 5	課題：授業中に指示する 単語テストの予習 NO 671～ NO710	8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 711～ NO750	9	Unit 4 読解の方法	演習と解説 単語テスト 6	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO751～ NO 790	10	Unit 5 読解の方法	演習と解説 単語テスト 7	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 791～ NO 830	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 8	課題：単語テストの予習 NO 831～ NO 862	12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習、単語テスト 9	課題：授業で指示する	13	Unit 6 英語の語彙	演習と解説 単語テスト 10	当該ユニットの予習 復習	14	Unit 7 英語の語彙	演習と解説	当該ユニットの予習 復習	15	これまでの学習内容の確認	総復習	課題：授業で指示する
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・教科書 Unit 1 を少し進める	単語テストの予習 NO 439～ NO 470																																																																
2	Unit 1 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 471～ NO 510 当該ユニットの予習 復習																																																																
3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト 2	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 511～ NO550																																																																
4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 551～ NO590																																																																
5	Unit 2 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 3	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 591～ NO630																																																																
6	Unit 3 基礎文法の確認	演習と解説 単語テスト 4	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 631～ NO670																																																																
7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 5	課題：授業中に指示する 単語テストの予習 NO 671～ NO710																																																																
8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 711～ NO750																																																																
9	Unit 4 読解の方法	演習と解説 単語テスト 6	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO751～ NO 790																																																																
10	Unit 5 読解の方法	演習と解説 単語テスト 7	当該ユニットの予習 復習 単語テストの予習 NO 791～ NO 830																																																																
11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト 8	課題：単語テストの予習 NO 831～ NO 862																																																																
12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習、単語テスト 9	課題：授業で指示する																																																																
13	Unit 6 英語の語彙	演習と解説 単語テスト 10	当該ユニットの予習 復習																																																																
14	Unit 7 英語の語彙	演習と解説	当該ユニットの予習 復習																																																																
15	これまでの学習内容の確認	総復習	課題：授業で指示する																																																																
関連科目	他の英語関連科目																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>プリント教材配布</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition</td> <td></td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	プリント教材配布			2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition		成美堂	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	プリント教材配布																																																																		
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition		成美堂																																																																
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%、E-learning 20% 臨時試験 40%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10% の割合で総合的に評価する																																																																		
学生へのメッセージ	*連絡や課題は Teams から行いますので、必ず登録してください。 ・毎回小テストを行います 各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材をしっかりと学習してください。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。 教員への連絡は teams のチャットで行ってください																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事前事後学習 (それぞれ約 1 時間) 以外に、毎日単語、15 分、リスニング 15 分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。																																																																		

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

**授業概要・目的**  
The purpose of this class is for students to improve their English communication skills. Students will study and use language to express a variety of situations in daily life, such as: hobbies and interests, personal appearance, personality, health, entertainment, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このクラスの目的は、英語のコミュニケーション能力を向上させることである。日常生活における様々な状況、例えば、趣味や興味、身だしなみ、性格、健康、娯楽などを表現するための言葉を学習し、使用します。コース終了時には、上記のトピックについて基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが望ましい。

**到達目標**  
会話能力 Up と英語を話す自信が上がる。

**授業方法と留意点**  
Conversational pair work, dialogue practice and small group work will be emphasized. In addition to the textbook, a variety of conversational prints will be used for conversational practice. As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities in which they will use English. Participation will have a large impact on students' grades. Vocabulary, grammar and listening will also be covered. 会話ペアワーク、対話練習、少人数グループワークが重視される。テキストに加え、様々な会話プリントを使用し、会話練習を行う。コミュニケーションのクラスなので、英語を使うコミュニケーション活動には積極的に参加することが求められる。参加することが成績に大きく影響する。また、語彙、文法、リスニングもカバーする。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション, その他	オリエンテーション, その他	今週は準備不要です。
2	Unit 1 Interests and sports	自由時間活動を表す単語, 現在形	教科書ページ 6-8 単語 439-471
3	Unit 1 Interests and sports	運動に関する単語, 現在形	教科書ページ 9-11 単語 472-505
4	Unit 2 Personalities and appearance	性格を表す単語, What...like?	教科書ページ 16-18 単語 506-538
5	Unit 2 Personalities and appearance	外見を表す単語, What...look like?	教科書ページ 19-21 単語 539-572
6	Unit 3 Weather, seasons, hobbies	運動に関する単語, 現在形	教科書ページ 26-28 単語 573-605
7	Unit 3 Weather, seasons, hobbies	趣味に関する単語, would like + 不定詞	教科書ページ 29-31 単語 606-639
8	Review of units 1-3, special topic	Review of units 1-3, special topic	単語 640-672
9	Unit 4 Home and household chores	家にある物の名前, how much / many	教科書ページ 36-38 単語 673-706
10	Unit 4 Home and household chores	家事を表す単語, 句動詞	教科書ページ 39-41 単語 707-739
11	Unit 5 Body and health	身体の部位を表す単語, 命令文	教科書ページ 46-48 単語 740-773
12	Unit 5 Body and health	健康的な生活習慣	教科書ページ 49-51 単語 774-806
13	Unit 6 TV shows and television	テレビ番組の種類, 動名詞または不定詞	教科書ページ 56-58 単語 807-840
14	Unit 6 TV shows and television	テレビ番組に関する単語, 現在進行形	教科書ページ 59-61 単語 841-862
15	Review of units 4-6, special topic	Review of units 4-6, special topic	今週は準備不要です。

**関連科目**  
他の英語に関連する科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Four Corners 2, second edition	Jack Richards	Cambridge University
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
統一英語単語テスト 20%, e-learning 学習の進捗度 20%, 中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況(授業での呼応状況など) 25%。

**学生へのメッセージ**  
良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。5 回欠席した場合、本コースの合格は極めて難しくなります。

**担当者の研究室等**  
7 号館 2 階 非常勤講師室

**備考**  
事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回 1.5 時間以上かけて取り組む。

科目名	基礎英語 I b	科目名 (英文)	Basic English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1415c2		

授業概要・目的	長文を通し、基礎読解力・語彙力を向上させ、英作文や現代英語などを学びます。
到達目標	基礎読解力を身につける
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいきます。 小テストは各Unit終了時に行います。 予習、復習、課題をしっかりと行い、ただ出席するだけではなく積極的に授業に参加しましょう。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明	シラバスの確認 テキストに目を通しておく Students should study the content of the day's lesson The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0439~0474
	2	Unit 1 Getting To Know You	Talking About Yourself	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the lesson, complete the exercises The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0475~0510
	3	Unit 1 Getting To Know You	Classmate Conversation Interview, Introducing Communication Crossword Activity	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the Unit, Prepare for Quiz The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0511~0546
	4	Unit 2 Food & Drink	Unit 1 小テスト Favorite Foods	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the lesson, complete the exercises The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0547~0582
	5	Unit 2 Food & Drink	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the Unit, Prepare for Quiz The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0583~0618
	6	Unit 3 Your Neighborhood	Unit 2 小テスト Talking About Where You Live, Neighbors, City, Town	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the lesson, complete the exercises The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0619~0654
	7	Unit 3 Your Neighborhood	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the Unit, Prepare for Quiz The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0655~0690
	8	Unit 4 Daily Routines	Unit 3 小テスト Talking About Your Schedule	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the lesson, complete the exercises The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0691~0727
	9	Unit 4 Daily Routines	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the Unit, Prepare for Quiz The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0728~0764
	10	Unit 5 Entertainment	Unit 4 小テスト Talking About Movies, TV, Games, etc.	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後：Review the lesson, complete the exercises The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0765~0800
	11	Unit 5 Entertainment	Classmate Conversation Interview,	事前：本文を読み、分からない単語、フレーズを調

			Communication Crossword Activity	べておく。 事後:Review the Unit, Prepare for Quiz and Spring Midterm Test The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0801~0836
	12	Unit 6 Friends & Dating	Unit 5 小テスト Spring Midterm Test (Units 1 - 5) Talking About Friends & Relationships	事前:本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後:Review the lesson, complete the exercises The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 0837~0862
	13	Unit 6 Friends & Dating	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前:本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後:Review the Unit, Prepare for Quiz
	14	Unit 7 Fashion & Style	Unit 6 小テスト Talking About Clothes, Accessories, Shopping, etc.	事前:本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後:Review the lesson, complete the exercises, Prepare for Quiz
	15	Unit 7 Fashion & Style	Unit 7 小テスト Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前:本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後:Review the lesson
関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% E-learning 20% 定期試験 30% 小テスト 20% Class Participation and enthusiasm 授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%			
学生への メッセージ	This class will help you with English conversation regarding everyday activities (i.e. daily routines, school life, travel, friends, etc.).			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング 15分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。			



科目名	基礎英語 II a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恭子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	映画を通して、英語の文がどのような構成要素から成り立っているのか。また、各構成要素と修飾要素との関係はどのようになっているのかを明確に把握することにより、実際のコミュニケーションの場において、意味の通る英文を正確に作りだせるようにする。身近な日常生活においてよく使われる言い回しや表現を通して、語彙や基本文法を確認しながら、英語の4技能を向上させる。
到達目標	聴解力の訓練を中心に、コミュニケーションに役立つ語彙力の増強や、基礎文法の徹底理解を目標とする文章の内容を正しく理解し、伝えたいことを正確に表現する技能を身につける。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。授業の予習が課題となります。 また、毎回授業の最後にクイズをします。 ペアワーク・グループワークも行う。 携帯電話の使用、私語など授業に積極的に参加していない場合は減点対象となります。
科目学習の効果 (資格)	語彙力、読解力、聴解力、英文作成能力の養成。 TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業内容、評価方法、学習方法についての説明	シラバスの確認 教科書の入手
2	Unit 6: 初めての本物のクリスマス	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 1	事前学習: Unit 6 の予習 事後学習: Unit 6 の復習  単語学習範囲: 0863-0913
3	Unit 6: 初めての本物のクリスマス	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 2	事前学習: Unit 6 の予習 事後学習: Unit 6 の復習  単語学習範囲: 0914-0963
4	Unit 7: ふたりが同時に恋をした	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 3	事前学習: Unit 7 の予習 事後学習: Unit 7 の復習  単語学習範囲: 0964-1013
5	Unit 7: ふたりが同時に恋をした	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 4	事前学習: Unit 7 の予習 事後学習: Unit 7 の復習  単語学習範囲: 1014-1063
6	Unit 7: ふたりが同時に恋をした	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 5	事前学習: Unit 7 の予習 事後学習: Unit 7 の復習 10  単語学習範囲: 1064-1113
7	Unit 8: 「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 6	事前学習: Unit 8 の予習 事後学習: Unit 8 の復習  単語学習範囲: 1114-1163
8	Unit 8: 「ウソ」と「半端なホント」と「ホントのホント」	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 7	事前学習: Unit 8 の予習 事後学習: Unit 8 の復習  単語学習範囲: 1164-1200
9	Unit 9: お母さんへの贈り物	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 8	事前学習: Unit 9 の予習 事後学習: Unit 9 の復習
10	Unit 9: お母さんへの贈り物	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 9	事前学習: Unit 9 の予習 事後学習: Unit 9 の復習
11	Unit 9: お母さんへの贈り物	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 10	事前学習: Unit 9 の予習 事後学習: Unit 9 の復習
12	Unit 10: 人は孤島ではない	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 11	事前学習: Unit 10 の予習 事後学習: Unit 10 の復習
13	Unit 10: 人は孤島ではない	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 12	事前学習: Unit 10 の予習 事後学習: Unit 10 の復習
14	Unit 10: 人は孤島ではない	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 クイズ 13	事前学習: Unit 10 の予習 事後学習: Unit 10 の復習
15	Review	語彙、リスニング、文法、リーディング、ライティングの学習 ペアワーク・グループワーク クイズ 14	事前学習: これまでのまとめ 事後学習: Unit 10 の復習

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	About a Boy	Peter Hedges / Chris Weitz &	松柏社

			Paul Weitz	
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- TOEIC Test		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>共通試験 (統一英語単語テスト) 20%、  e-learning 20%  定期試験 30%、  提出物 (授業後のクイズ) 20%、  予習課題 10%</p> <p>上記の割合で総合的に評価する。</p> <p>また、原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>語学の習得には日々の努力と継続が必要です。  授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。  辞書を活用して、必ず予習しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2階 (非常勤講師室)			
備考	<p>事前・事後学習には毎回 1 時間以上かけること。  単語の意味はあらかじめ調べてくること。  質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。  小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。</p>			

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	内容を楽しめるようなリーディングテキストを通して基礎文法力、読解力、語彙力をつけ、英語の基礎固めをする。 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。TOEIC Bridge、TOEIC のリスニング問題を用いてリスニング力も高める。
到達目標	基礎英文法の徹底。 基礎英単語を習得し、読解力を向上させる TOEIC Part 3, 4 が理解できるリスニング力を養成する
授業方法と留意点	教科書に沿って進むが、随時プリント教材で補足する。 単語は NO 863 ~ NO 1200 の範囲を各自学習すること。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席するだけでなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	基礎英文法の徹底、語彙力、読解力、リスニング力の向上。TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 863 ~ NO900
2	Unit 6 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO901 ~ NO940
3	Unit 6 英文構造	演習と解説、発展問題 単語テスト2	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO941 ~ NO980
4	Unit 7 英文構造	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO981 ~ NO1020
5	Unit 7 英文構造	演習と解説、発展問題 単語テスト4	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO1021 ~ NO1060
6	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 1061 ~ NO1100
7	Unit 8 英文内容把握	演習と解説、発展問題 単語テスト6	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO1101 ~ NO1140
8	Unit 8 英文内容把握	演習と解説 単語テスト7	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 1141 ~ NO1180
9	Unit 9 英文内容把握	演習と解説、発展問題 単語テスト8	該当UNITの予習、復習 単語予習 NO 1181 ~ NO1200
10	Unit 9 英文内容把握	演習と解説 単語テスト9	該当UNITの予習、復習
11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト10	該当UNITの予習、復習
12	Unit 10 リスニング対策	演習と解説	該当UNITの予習、復習
13	Unit 10 リスニング対策	演習と解説、発展問題	該当UNITの予習、復習
14	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説	該当UNITの予習、復習
15	これまでの学習内容の確認	総復習	課題：授業で指示する

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Mystery Break	Irene Iwasaki 他	Cengage Learning
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	大学共通 (TOEIC Bridge 20%、e-learning 10% 統一英語単語テスト10%) 臨時テスト 40%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表) の割合で評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	・毎回小テストをします。 ・各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning 教材と、テキスト付属 CD 使って自宅学習を行きましょう。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。 連絡は全て teams から行いますので、まず最初に teams に登録してください。 教員への連絡は teams のチャットから行ってください
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。 教員への連絡は teams のチャット、もしくはメールを利用してください。
----	---

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	大江 麻里子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	徹底した基礎英文法（5文型、時制など）、ごく簡単な読解、語彙力を身に付ける。
到達目標	基本的な文法を確認しながら、それをふまえて、様々な英作や読解問題などをこなせるようにする。 基礎英文法の徹底理解
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。また、毎回単語のテストを行いますので、しっかり準備してくること。
科目学習の効果（資格）	基礎英文法の習得 基本的な英作や読解の方法を学ぶ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 8	現在完了形（2） 単語テスト（863-897）	テキストの予習 単語テストの準備
3	Unit 8	現在完了形（2） 単語テスト（898-931）	テキストの予習 単語テストの準備
4	Unit 9	進行形 単語テスト（932-965）	テキストの予習 単語テストの準備
5	Unit 9	進行形 単語テスト（966-999）	テキストの予習 単語テストの準備
6	Unit 10	未来表現 単語テスト（1000-1033）	テキストの予習 単語テストの準備
7	Unit 10	未来表現 単語テスト（1034-1067）	テキストの予習 単語テストの準備
8	Unit 11	助動詞（1） 単語テスト（1068-1101）	テキストの予習 単語テストの準備
9	Unit 11	助動詞（1） 単語テスト（1102-1135）	テキストの予習 単語テストの準備
10	Unit 12	助動詞（2） 単語テスト（1136-1169）	テキストの予習 単語テストの準備
11	Unit 12	助動詞（2） 単語テスト（1170-1200）	テキストの予習 単語テストの準備
12	Unit 13	接続詞（1）	テキストの予習
13	Unit 13	接続詞（1）	テキストの予習
14	Unit 14	受動態	テキストの復習
15	Unit 14	受動態	テキストの復習

関連科目	基礎英語Ⅰa
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Living Grammar -New Edition-	山本厚子	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	西谷恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準）	CASEC 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 学習の進捗度 10% 定期試験および授業参加度 60% を総合して評価する。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
----------	---

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	英単語は、毎日平均30分は学習すること。 返却物がある場合は、授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	金原 真由美
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	演習型の授業を行う。4技能の習得を目指した教科書を用いる。 語彙を増強し、長めの英文を読むことに慣れ内容把握力を付ける。また、リスニング練習を通して語られていることを正確に掴む力を付ける。 取り上げられているトピックは、日本や海外における現在の姿や出来事を、その遠い歴史や文化を紐解くことで分かって来る人間の考えやありようである。私たちは新しい知識として興味深く読み、自分の考えの幅を広げることが出来る。
到達目標	やや高度な単語とまとまった意味のフレーズを習得し、文法の力を駆使して筆者の意図を正確に掴みとるだけでなく、簡単な英語での応答や応用リスニングを通して4技能を高めることを目標とする。
授業方法と留意点	予習をしていることが大変重要である。していないと口頭での発言回数が減ることになります。ノートを多くとることも重要である。予習の段階で分からなかった箇所は授業内で分かるようにして帰る努力をすること。 毎回、授業の始めに TOEIC の単語集を用いて単語テスト (5分) を行う。TOEIC 単語学習 : NO. 0863-1200 (p.156-211) e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Lesson 1 を始める	授業の進め方、評価方法、出欠の扱いなどを説明 小テスト (語彙、フレーズなど)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
2	1 Miracle Cure, or just a Lemon?	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 1) 0863-897
3	2 Stolen Goods	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 2) 0898-931
4	3 Okinawa Ink	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 3) 0932-967
5	4 No More Tears	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 4) 0968-1002
6	5 The Way of the Pub	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 5) 1003-1037
7	6 Whodunnit	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 6) 1038-1072
8	授業後、中間テスト	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング) 中間テスト (前半の学習内容の確認)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 7) 1073-1107 中間テスト勉強
9	7 Checkpoint Charlie and the Berlin Wall	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 8) 1108-1142
10	8 Queen Victoria's "Gift"	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 9) 1143-1172
11	9 Two Scottish Heritages	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく) 単語学習 : 10) 1173-1200 (終了)
12	10 Do You Believe in Magic?	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
13	11 That Sinking Feeling	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
14	12 Famous street Artist's Joke and Gesture	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)
15	13 Lost in Space-Almost	英文読解 Exercises (英問英答、語彙、TorF、リスニング)	教科書の予習 (Exercises をする、辞書を引き長文の内容を掴んでおく)

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Everyday History	Jim Knudsen	南雲堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	e-learning (English Central) 10% 統一英語単語テスト 10% CASEC 20% 授業への参加、貢献（問いに対する発言、小テスト、中間・まとめテスト、授業態度等も含む） 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。		
学生への メッセージ	授業には毎回辞書を持参すること。 予習がしてあることを前提に授業をするので、必ず予習しておくこと。語彙力、読解力、聴解力をアップさせることに重点を置きます。		
担当者の 研究室等	非常勤講師室 (7 号館 2 階)		
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。 テストに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。		

科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東野 厚子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	基礎英文法を十分に理解した上で、語彙の増強と共に作文力や読解力を向上させる。
到達目標	基本的な英文法を、語彙や語順問題、簡単な英文の内容把握、英作文を通して確実にする。また日常生活やビジネスでの場面で使える会話表現に慣れる。
授業方法と留意点	必ず事前学習をしておくこと。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。 教科書の各 Unit ごとに小テストを行います。 英単語学習範囲：(p.156～p.211) No.0863～1200
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	nit 8: Socializing with Co-Workers 動名詞・不定詞	パーティーに誘う 動名詞・不定詞を理解する 好きなこと・嫌いなことをについて書く	単語学習：0909-0951 教科書の予習・復習
3	Unit 9: Vacation Spots 未来形	相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	単語学習：0952-0991 教科書の予習・復習
4	Unit 9: Vacation Spots 未来形	相手に約束する 未来形の使い方に慣れる 未来の自分について書く	単語学習：0992-1033 教科書の予習・復習
5	Unit 10: Sports Talk 比較級・最上級	好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	単語学習：1034～1054 教科書の予習・復習
6	Unit 10: Sports Talk 比較級・最上級	好みを伝える 比較級・最上級を理解する 自分の価値観について書く	単語学習：1055～1074 教科書の予習・復習
7	Unit 11: Tour Day 助動詞	同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	単語学習：1075-1095 教科書の予習・復習
8	Unit 11: Tour Day 助動詞	同僚に確認する 助動詞の使い方に慣れる 大学の規則について書く	単語学習：1096-1116 教科書の予習・復習
9	Unit 12: Party Time! 現在完了形	喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	単語学習：1117-1137 教科書の予習・復習
10	Unit 12: Party Time! 現在完了形	喜びを伝える 現在完了形を理解する 最近したことについて書く	単語学習：1138-1158 教科書の予習・復習
11	Unit 13: Office Meeting 関係詞	滞在先の感想をたずねる 関係詞を理解する 尊敬する人物について書く	単語学習：1159～1179 教科書の予習・復習
12	Unit 13: Office Meeting 関係詞	滞在先の感想をたずねる 関係詞を理解する 尊敬する人物について書く	単語学習：1180～1200 教科書の予習・復習
13	Unit 14: A Bit of History 受動態	観光名所を案内する 受動態を理解する 通っている大学について書く	単語学習：指定された箇所 教科書の予習・復習
14	Unit 14: A Bit of History 受動態	観光名所を案内する 受動態を理解する 通っている大学について書く	単語学習：指定された箇所 教科書の予習・復習
15	全体のまとめ	Unit8-14 の文法・単語の復習 音読練習	単語学習：指定された箇所 文法と単語の復習 指示された箇所の音読練習

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	English Missions! Basic	Robert Hickling 他	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂	
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	共通試験 (CASEC 試験 20%、統一英語単語テスト 10%) 30% e-learning 学習 10% 定期試験 30% 授業への参加、貢献 (小テスト、課題、質問に対しての発言等) 30% *原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 e-learning 教材を積極的に利用するなどして、学習の習慣づけができるよう心がけてください。 学内で実施される TOEIC IP 試験を受験し、学習成果の確認をしましょう。
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。



科目名	基礎英語Ⅱ a	科目名 (英文)	Basic English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1416c2		

授業概要・目的	中学から高校にかけて学んだ文法事項の復習をはじめ、更なる文法力及び語彙力の養成、実戦形式の資格、検定練習を通し四択問題など独自の出題形式に慣れ、解答を導く知識の養成をはかる。授業のみならず家庭での予習、復習をきちんとし授業内容がよりわかるように各自、努力しよう。特に文法事項や用語等の知識は受験時に思い出せなければ役に立たないので、すぐ出てくるまで繰り返し覚えて身につけよう。
到達目標	今まで持っている英文法力の更なる強化を目指し、必要な場面で学んだ事がすぐ出てくるようにしよう！
授業方法と留意点	毎週、授業時に単語帳から単語テストを行う予定。簡単な文法問題中心のテキストを用い、進度に沿って課題提出を随時行うので理由のない限り出席を心がけてもらいたい。文法はルールを繰り返し覚えれば必ず身につきます。授業中に出てきた新しい単語も毎日少しずつ覚える習慣をつけよう。英語が苦手な人も余り意識せず、向上心を持ってこれからがんばろう！
科目学習の効果 (資格)	高校までの基本的英文法の復習及び英検やTOEIC等の検定・資格試験にも役立つ知識の養成。 TOEICテストに有効な単語力

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーションと前期の復習	授業方法、提出物、評価方法についての説明と復習	次回の第一回単語テスト範囲、863-894番を勉強する事。
2	Unit9 Career 経歴を話そう	現在完了形	教科書 p.49-54、次回の第二回単語テスト範囲、895-926番を勉強する事。
3	Unit10 Parties パーティへ行こう！	未来表現	教科書 p.55-60、次回の第三回単語テスト範囲、927-958番を勉強する事。
4	Unit11 Rules and Regulations ルールにもお国柄	助動詞	教科書 p.61-66、次回の第四回単語テスト範囲、959-989番を勉強する事。
5	Unit12 Invention and Discovery 発明、発見にはひらめきが大切	受動態	教科書 p.67-72、次回の第五回単語テスト範囲、990-1021番を勉強する事。
6	Unit13 Movie Reviews 映画評論	形容詞、副詞	教科書 p.73-78、次回の第六回単語テスト範囲、1022-1053番を勉強する事。
7	Unit14 World Records 世界記録もさまざま	比較級、最上級	教科書 p.79-84、次回の第七回単語テスト範囲、1054-1085番を勉強する事。
8	Unit15 Future Dream 将来の夢を語ろう	不定詞、動名詞	教科書 p.85-89、次回の第八回「単語テスト範囲、1086-1117番を勉強する事。
9	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第九回単語テスト範囲、1118-1149番を勉強する事。
10	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十回単語テスト範囲、1150-1175番を勉強する事。
11	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十一回単語テスト範囲、1176-1200番を勉強する事。
12	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十二回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
13	資格、検定などの問題、若しくはリスニング練習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十三回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
14	資格、検定などの問題またはリスニング演習	授業の進度によって内容を決め、プリントを用意する	次回の第十四回単語テスト範囲(詳細は追って指示する)を勉強する事。
15	総合復習	定期試験対策	—————

関連科目	基礎英語Ⅰ a
------	---------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	English Ace	山本厚子、大須賀直子、真野千佳子、岡本京子、Benedict Rowlett	成美堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test 学校語彙で学ぶ TOEIC テスト (単語集)	西谷悟志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	定期試験(40%)、提出物(10%)、単語小テスト(5%)、平常点(授業態度など5%)の合計60%にe-learning学習進捗度(10%)、共通試験30%(TOEIC Bridge20%、統一英語単語テスト10%)を足して総合評価します。TOEIC Bridgeおよび統一英語単語テストを受験しなかった人は評価に大きく影響します。また、日頃の授業態度も重視します(なお、授業態度とは投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性を指す)。進行状況により授業内容が変わる場合があります。今後の社会情勢及び授業形態
-----------	---

学生へのメッセージ	「明るく、元気で、感動と発見を与える授業に！」私語をせず、マナーを守り、積極的に参加してクラス全体が一つになる様に、各自協力してもらいたい。また折角、授業中に学んだことを暗記したままではすぐに忘れてしまいます。例えば英語で書かれた看板のメッセージ等を見ただけで指示が読めるように授業外で繰り返し学習するのが英語上達への早道です。教える側も学ぶ側も仲良く、楽しく、実りある半期になる事を祈る！
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前、事後学習には毎回1時間以上取り組み、課題に1回当たり1時間程度かけて仕上げる事。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。 (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、注意事項の説明	事前課題：シラバスの確認。教科書に目を通しておく。
2	Unit 7 : Truths About Common Illnesses	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。 単語#1201-1240	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
3	Unit 7 : Truths About Common Illnesses	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。 単語#1241-1280	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
4	Unit 8 : Shona Faces Her Fears	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。 単語#1281-1320	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
5	Unit 8 : Shona Faces Her Fears	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。 単語#1321-1360	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
6	Unit 9 : Alternative Shopping : Vintage Markets	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。 単語#1361-1400	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
7	Unit 9 : Alternative Shopping : Vintage Markets	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。 単語#1401-1440	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
8	Review Test	Unit 7-9 授業内配布資料	事前学習：テスト勉強 (2時間)
9	Unit 10 : Can a Computer Write a Musical?	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。 単語#1441-1480	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
10	Unit 10 : Can a Computer Write a Musical?	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。 単語#1481-1500	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
11	Unit 11 : Reaching for the Stars	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
12	Unit 11 : Reaching for the Stars	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
13	Unit 12 : Bionic Hand	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
14	Unit 12 : Bionic Hand	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前課題：該当 Unit の語彙、フレーズを学習しておく (30分) 事後学習：復習、課題 (1時間)
15	総まとめ	Unit 10-12 授業内配布資料	事前課題：Unit10-12 復習

関連科目	基礎英語Ⅰb
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Global Gate <Intermediate>	和田あずさ 他	成美堂
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準)	CASEC 20% 統一英語単語テスト 10%
----------	----------------------------

	e-Learning 10% 定期テスト、Review Test、授業態度、課題等 60%
学生への メッセージ	皆さんが社会に旅立つ頃には世界はさらに多様化が進み、海外で働くことや英語を話す同僚と仕事をする機会が増えるでしょう。語彙、英文法、読解、英作文の学習を通し基礎能力の定着を図りましょう。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	統一英語単語テストの範囲 (#1201-1500)

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	英文読解を中心に進めていく授業である。高校までに学んできたことを復習しながら、より多くの語彙力、文法力、作文力をつけていくことを目的とする。 教科書は海外からのインバウンドの訪問者が増えているなかで、現代の日本に関する様々なトピックを外国人に説明する、また自分の国へ関心を深めることを目的としている。実践的な「おもてなし英語」を習得してもらいたい。
到達目標	まじめに学習することで基礎読解力や語彙力がつく。また TOEIC 受験に必要な読解力が向上する。
授業方法と留意点	語学の授業であるため、学生主導で進めて行く。訳出、練習問題、音読、すべて学生に指名するので、予習をして積極的に参加してもらいたい。授業の2回目からの単語テストは平常点評価に加えられるので、毎回準備すること。また、辞書は必ず持参すること。教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 8 Karaoke 気晴らしのため実際にカラオケに行った外人の報告メール	第1回目 単語テスト 教科書 pp. 38-39	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1201-1231
3	Unit 9 Seating Charges at Japanese Restaurants 海外からの訪問者が驚く「お通し」について	第2回目 単語テスト 教科書 pp. 40-41 Unit 8 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1232-1262
4	Unit 9 Seating Charges at Japanese Restaurants お通しを経験したアメリカ人の驚きと感想	第3回目 単語テスト 教科書 pp. 42-43	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1263-1293
5	Unit 10 Second-Hand Stores 日本のリサイクル店の説明とその長所	第4回目 単語テスト 教科書 pp. 44-45 Unit 9 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1294-1324
6	Unit 10 Second-Hand Stores 日本で新しい住居に引っ越した外人が利用したリサイクル店を報告	第5回目 単語テスト 教科書 pp. 46-47	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1325-1355
7	Unit 11 Kawaii Culture 世界で人気の日本の「かわいい文化」の説明	第6回目 単語テスト 教科書 pp. 48-49 Unit 10 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1356-1386
8	Unit 11 Kawaii Culture 日本の本物の「かわいい店」を体験した外人の報告メール	第7回目 単語テスト 教科書 pp. 50-51	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1387-1417
9	Unit 12 Soba 昼食に好まれる蕎麦の歴史とメニューや蕎麦店の現状	第8回目 単語テスト 教科書 pp. 52-53 Unit 11 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1418-1448
10	Unit 12 Soba 自宅近くにできた蕎麦店をアメリカにいる友人に知らせるメール	第9回目 単語テスト 教科書 pp. 54-55	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1449-1479
11	Unit 13 Bento 世界に発信される日本のお弁当について	第10回目 単語テスト 教科書 pp. 56-57 Unit 12 の小テスト	当該ユニットの予習 復習 単語学習範囲 1480-1500
12	Unit 13 Bento 学食に飽きた留学生が作り出したお弁当の報告メール	教科書 pp. 58-59	当該ユニットの予習 復習
13	Unit 14 Shrine 日本固有の宗教である神道の歴史とお詣りの方法	教科書 pp. 60-61 Unit 13 の小テスト	当該ユニットの予習 復習
14	Unit 14 Shrine 教科書 pp. 62-63	教科書 pp. 62-63	当該ユニットの予習 復習

		英文でのおせち料理の説明 と初詣について		
	15	進度調整と後期の復習	まとめと復習	復習 期末テストの準備
関連科目	他の英語関連科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Glances of Japan	坂部俊行 他	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>共通試験 30% (TOEIC20%、統一英語単語テスト10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、定期試験 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。</p> <p>授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。</p> <p>原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p> <p>詳しくは第 1 回目の授業で説明する。</p>			
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。</li> <li>・授業計画は進度によって変わる場合がある。</li> <li>・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。</li> <li>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</li> <li>・小テスト等は授業中にフィードバックする。</li> </ul>			

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	英語力向上にはこれまでの中学高校レベルの復習も欠かすことはできません。特に、資格 (TOEIC、英検など) 取得には読み書き、英文法のみならず、リスニングにも重点を置く必要があるため、毎回の授業で取り組みます。聴解力がつくのを実感できますが、前向きに学習することが大前提です。資格取得に向けて前向きに受験してください。また授業担当者がアメリカで経験したことを写真で紹介することもあります。
到達目標	基礎的なリスニング力、語彙力、文法知識を習得し、TOEIC 450 点を目標とする。英語資格試験に積極的に挑戦すること。
授業方法と留意点	読解、文法問題集、ディクテーションなどを多用し、語彙の習得、文法力向上、聴解力向上を図る。中高で英語に苦手意識を持った学生も初心に帰り、学習して欲しい。テキスト、辞書、ノートは毎回持参すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点向上が期待できるので積極的に受験して欲しい。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	機内放送についての文章を通して、天候や時の表現の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1231-1260
3	空港で放送される文章を通して接続詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1261-1290
4	ホテルで使われる文章を通して不定詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1291-1320
5	レストランで使われる文章を通して形容詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1321-1350
6	買い物で使われる文章を通して頻度を表す副詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1351-1380
7	野球についての文章を通して比較級の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1381-1410
8	中間試験	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1411-1440
9	ミュージカル鑑賞についての文章を通して完了形の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1441-1470
10	旅行案内についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の暗記 1471-1500
11	問題解決についての文章を通して受動態の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の復習
12	体調不良についての文章を通して分詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の復習
13	電話の会話についての文章を通して動名詞の学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の復習
14	別れの手紙の文章を通してセンスグループの学習	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	教科書の予習復習 (今週、次週のユニット)、クロスワードパズルの暗記、英単語の復習
15	9-14 回の復習とまとめ	読解、文法、リスニング演習問題形式を通して	期末試験の準備

関連科目	他の全ての英語科目
------	-----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Forerunner to Power - Up English	JACET リスニング研究会	南雲堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition	西谷恒志	成美堂
2				
3				

評価方法 (基準)	担当教員の評価 60% (定期試験 40%, 小テスト 20%)、e-learning 10%、統一英語単語テスト 10%、CASEC 20%で全体の評価を行う。
-----------	---

学生へのメッセージ	英語習得には普段の努力が大切である、通学時にスマートフォン、ラジオ番組、コンピューターなどを積極的に活用し学習すること。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	単語試験は「The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test Revised Edition」から出題される範囲を受験すること。 単語番号 1201-1500 までの範囲で期末に試験が行われます。 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること。 英単語は e-learning 学習など、意味、発音、綴りを確認し、毎日1時間は学習すること。 毎週の小テストは時間内で答え合わせ、返却を行います。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」
----	---

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English I Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	英文を「聞いて」「読んで」さらなるリスニング力、読解力、語彙・文法力をつけ、実践英語の基礎固めをする。 TOEIC等で高得点がとれるようなリスニング力、読解力、語彙・文法力、をつけることを目標とする 毎回授業の始めに TOEIC のための単語テストを行う。
到達目標	基礎読解力が身につく 基礎英単語を習得する 口頭で短い英文を瞬時に言えるようになる TOEIC で高得点をとることができる。
授業方法と留意点	プリント教材とインターネット上の音声教材を使用する 単語テストは NO 1201～ NO 1500 の範囲を 毎回 30 単語ずつ合計 10 回のテストをする。またテキストの各章が終わるごとに臨時試験を行い、知識の定着をはかる。 ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められる。携帯の使用や、私語、居眠り等が認められた場合は減点となるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・Unit 8 英文構造	該当UNITの予習、復習 (約1時間) 単語テストの予習 NO 1201～NO1230
	2	Unit 9 英文構造	演習と解説 単語テスト1	該当UNITの予習 復習 (約1時間) 単語テストの予習 NO1231～NO 1260
	3	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説、発展問題 単語テスト2	課題：授業で指示する (約1時間)
	4	これまでの授業内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO1261～NO 1290 (約1時間)
	5	Unit 10 英文内容把握	演習と解説 単語テスト3	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1291～NO1320 (約1時間)
	6	Unit 11 英文内容把握	演習と解説 単語テスト4	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1321～NO1350 (約1時間)
	7	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト5	課題：授業で指示する (約1時間)
	8	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する 単語テストの予習 NO 1351～NO1380 (約1時間)
	9	Unit 12 リスニング対策	演習と解説 単語テスト6	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1381～NO1410 (約1時間)
	10	Unit 13 リスニング対策	演習と解説 単語テスト7	該当UNITの予習、復習 単語テストの予習 NO 1411～NO1440 (約1時間)
	11	これまでの授業の復習と、発展的学習	演習と解説 単語テスト8	課題：単語テストの予習 NO 1441～NO1470 (約1時間)
	12	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習 単語テスト9	課題：単語テストの予習 NO 1471～NO1500 (約1時間)
	13	Unit 14 さらに語彙力アップ	単語テスト10、演習と解説	該当UNITの予習、復習 (約1時間)
	14	総合演習	演習と解説	該当UNITの予習、復習 (約1時間)
15	これまでの学習内容の確認	臨時試験、復習	課題：授業で指示する (約1時間)	

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	プリント教材配布		
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	TOEIC 20%、小テスト 40%、e-learning10%、共通単語テスト (統一英語単語テスト) 10% 課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表) の割合で評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	・毎回小テストをします。 ・teamsにより連絡しますので必ず登録してください 各自の予習 (単語、フレーズ調べ) が不可欠です ・e-learning教材を使って自宅学習を行いましょ。地道な努力により、英語力は必ず伸びます、がんばりましょ。 教員への連絡は teams のチャットで行ってください。
-----------	--

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング 15分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 教員への連絡は Teams のチャットもしくは学内メールで。
----	---

まずは Teams に登録してください。



科目名	基礎英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

**授業概要・目的**  
The purpose of this class is for students to improve their English communication skills. Students will study and use language to express a variety of situations in daily life, such as: shopping, cities, jobs, food, movies, music, etc. Upon the completion of the course, students should have the basic knowledge or ability to talk about the above topics in basic daily conversation. このクラスの目的は、生徒が英語のコミュニケーション能力を向上させることです。日常生活における様々な状況、例えば、買い物、都市、仕事、食べ物、映画、音楽などを表現するための言語を学習し、使用することになります。コース終了時には、上記のトピックについて基本的な日常会話ができる基礎知識または能力を身につけていることが望ましい。

**到達目標**  
Increase your conversational ability and confidence in speaking English. 会話能力 Up と英語を話す自信が上がる。

**授業方法と留意点**  
Conversational pair work, dialogue practice and small group work will be emphasized. In addition to the textbook, a variety of conversational prints will be used for conversational practice. As this is a communication class, students are expected to actively participate in communication activities in which they will use English. Participation will have a large impact on students' grades. Vocabulary, grammar and listening will also be covered. 会話ペアワーク、対話練習、少人数グループワークが重視される。テキストに加え、様々な会話プリントを使用し、会話練習を行う。コミュニケーションのクラスなので、英語を使うコミュニケーション活動には積極的に参加することが求められる。参加することが成績に大きく影響する。また、語彙、文法、リスニングもカバーする。

**科目学習の効果 (資格)**

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション, その他	オリエンテーション, その他	今週は準備不要です。
2	Unit 7 Opposites, describing clothes	反対語, 比較形容詞	教科書ページ 66-68 単語 863-888
3	Unit 7 Opposites, describing clothes	衣服を表す反対語, enough and too	教科書ページ 69-71 単語 889-914
4	Unit 8 Sightseeing and cities	おすすめと可能性, should and can	教科書ページ 76-78 単語 915-940
5	Unit 8 Sightseeing and cities	最上級の形容詞	教科書ページ 79-81 単語 941-966
6	Unit 9 Careers and personalities	be 動詞の過去形	教科書ページ 86-88 単語 967-992
7	Unit 9 Careers and personalities	過去形, 性格を表す形容詞	教科書ページ 89-91 単語 993-1018
8	Review of unit 7-9. Special topic	ユニット7-9の復習 特別トピック	単語 1019-1044
9	Unit 10 Restaurants and food	メニューにある料理, articles "a" and "the"	教科書ページ 96-98 単語 1045-1070
10	Unit 10 Restaurants and food	食べ物の種類, 現在完了形	教科書ページ 99-101 単語 1071-1096
11	Unit 11 Movies and music	映画の種類, so, too, neither	教科書ページ 106-108 単語 1097-1122
12	Unit 11 Movies and music	音楽の種類, 限定詞	教科書ページ 109-111 単語 1123-1148
13	Unit 12 Personal goals and milestones	個人的な目的, 目的不定詞	教科書ページ 116-118 単語 1149-1174
14	Unit 12 Personal goals and milestones	予想と可能性, マイルストーン	教科書ページ 119-121 単語 1175-1200
15	9-12 ユニットの復習。特別トピック	9-12 ユニットの復習。特別トピック	今週は準備不要です。

**関連科目**  
他の英語に関連する科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Four Corners 2, second edition	Jack Richards	Cambridge University
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
TOEIC Bridge テスト 20%, e-learning 学習の進捗度 10%, 統一英語単語テスト 10%, 中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況 (授業での呼応状況など) 25%。

**学生へのメッセージ**  
良い成績を取るためには、参加することと良い授業態度が大切です。5回の欠席で合格することは困難である。

**担当者の研究室等**  
7号館2階 非常勤講師室

**備考**  
事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む。

科目名	基礎英語 II b	科目名 (英文)	Basic English IIB
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ジェフリー ベル
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN1417c2		

授業概要・目的	長文を通し、基礎読解力・語彙力を向上させ、英作文や現代英語などを学びます。
到達目標	基礎読解力を身につける
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいきます。 小テストは各Unit終了時に行います。 予習、復習、課題をしっかりと行い、ただ出席するだけでなく積極的に授業に参加しましょう。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意すること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC の得点アップ、英検におけるレベルアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 8 University Life	授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 Talking About School Life	シラバスの確認 テキストに目を通しておく 事後: Review the lesson, complete the exercises The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- Words 1201~1500 p.214~261
2	Unit 8 University Life	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Quiz
3	Unit 9 Shopping	Unit 8 小テスト Talking About Clothes & Grocery Shopping	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the lesson, complete the exercises
4	Unit 9 Shopping	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Quiz
5	Unit 10 Travel	Unit 9 小テスト Talking About Domestic & International Travel	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the lesson, complete the exercises
6	Unit 10 Travel	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Quiz and Unit 6 - 10 Test
7	Unit 11 Summer Vacation	Unit 10 小テスト Unit 6 - 10 Test Talking About Your Summer	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the lesson, complete the exercises
8	Unit 11 Summer Vacation	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Quiz
9	Unit 12 Family & Home	Unit 11 小テスト Talking About Your Family & Home Life	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the lesson, complete the exercises
10	Unit 12 Family & Home	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Quiz
11	Unit 13 Eating Out	Unit 12 小テスト Talking About Going Out To Eat in Restaurants	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the lesson, complete the exercises
12	Unit 13 Eating Out	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Quiz
13	Unit 14 Work	Unit 13 小テスト Talking About Part-Time Jobs and Future Careers	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the lesson, complete the exercises
14	Unit 14 Work	Classmate Conversation Interview, Communication Crossword Activity	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Quiz
15	Unit 15 Marriage & Family Life	Unit 14 小テスト Talking About Relationships, Getting Married & Starting A Family	事前: 本文を読み、分からない単語、フレーズを調べておく。 事後: Review the Unit, Prepare for Final Test (Units 11 - 15)

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The English Gym	Jon Charles	Oak Hills Press
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test- Revised Edition		成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	casec 20% 統一英語単語テスト 10% E-learning 10% 定期試験 30% 小テスト 20% 授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%			
学生への メッセージ	This class will help you with English conversation regarding everyday activities (i.e. daily routines, school life, travel, friends, etc.).			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。 授業計画は進度によって変わる場合がある。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	本授業ではTOEIC対策に特化した演習を行います。TOEICの出題形式や傾向を把握し、着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、リスニング、文法、リーディングセクションを演習形式で学習します。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEICの点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEICスコア350点以上 (TOEIC Bridge 130点以上) を獲得できるようになる。</li> <li>語彙や文法の知識を定着させる。</li> <li>素早く正確な読解、リスニングができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。</li> <li>テキスト、電子辞書、ノートを持ってきてください。</li> <li>積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。</li> <li>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</li> <li>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。(原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</li> <li>①から③が続く場合、単位を認めない。</li> </ul> </li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	TOEIC等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: College life 1 品詞 TOEICの紹介	授業の進め方、評価の方法などの説明 TOEICの内容	授業の進め方、評価方法の確認 Unit 1のGrammar, Reading sectionの予習、復習
2	Unit 2: Colleege life 2 自動詞、他動詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲1-40 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit 3: Hobbies 5文型	単語単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲41-81 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 4: Romance 現在、過去形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲82-122 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 5: Transportation 未来形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲123-163 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 6: Business 進行形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲164-204 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 7: Society 完了形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習： 単語テストの準備：範囲205-245 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	単語テスト これまでの学習範囲より中間テスト	事前学習： 単語テストの準備：範囲246-286、中間テストの準備
9	Unit 8: Health 助動詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲287-327 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 9: The environment 受動態	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲328-368 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 10: Medicine 不定詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲369-409 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 11: Finance 分詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲410-438 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	Unit 12: Shopping 動名詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：総復習 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認

	14	TOEIC ミニテスト リーディング	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：総復習 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認																
	15	テキスト U1~10 までの復習	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末テストの準備																
関連科目	他の英語関連科目全般																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Power-up English Pre-intermediate</td> <td>JACET リスニング研究会</td> <td>南雲堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)</td> <td>西谷恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Power-up English Pre-intermediate	JACET リスニング研究会	南雲堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	Power-up English Pre-intermediate	JACET リスニング研究会	南雲堂																	
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷恒志	成美堂																	
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通試験(統一英語単語テスト): 20%</li> <li>・e-learning: 20%</li> <li>・教員評価: 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%)</li> </ul> <p>注意: 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>																			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。</li> </ul>																			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																			
備考	事前事後の学習として毎回1.5時間以上かけること。																			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 永里子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	TOEIC 350 点 (TOEIC Bridge 130 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容 (日常生活、学校生活など) の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	2	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0001-0044
	3	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0045-0092
	4	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0093-0134
	5	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0135-0179
	6	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0180-0223
	7	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0224-0270
	8	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0271-0318
	9	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0319-0363
	10	Unit 5 What's on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0364-0407
	11	Unit 5 What's on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0408-0438
	12	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	13	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	14	Review 1	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	15	Review 2	Unit1~6の復習 文法、語彙の復習	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には1時間以上かけること。
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山 照彦 / LiveABC editors	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト(20%) e-learning 学習の進捗度(20%) 定期試験(30%) 小テスト、授業中の態度(課題の提出)(30%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	TOEIC に役立つ語彙や文法の知識を付け、リスニング問題で耳を鍛えましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上をかけること			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。 TOEIC に慣れて、高得点を目指せるようになることが目標である。
到達目標	TOEIC350 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO1～NO 438 の範囲を毎回40単語ずつ10回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、およびTOEIC形式のプレテスト	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・TOEIC プレテスト	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1～40
2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする Be動詞 単語テスト1	単語テストの予習 NO 41～80 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習 一般動詞1 単語テスト2	単語テストの予習 NO 81～120 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 一般動詞2 単語テスト3	単語テストの予習 NO121～160 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 進行形 単語テスト4	単語テストの予習 NO161～200 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 未来形 単語テスト5	単語テストの予習 NO 201～240 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 助動詞 単語テスト6	単語テストの予習 NO 241～280 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
8	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 名詞 単語テスト7	単語テストの予習 NO 281～320 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
9	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 冠詞 単語テスト8	単語テストの予習 NO 321～360 復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
10	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 代名詞 単語テスト9	単語テストの予習 NO 361～400 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
11	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 前置詞 単語テスト10	V単語テストの予習 NO 400～438 該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
12	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 形容詞	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
13	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 副詞	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
14	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 比較	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
15	総まとめ TOEIC形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		プリント教材配布	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-		成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、臨時試験 40%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など) 10%、e-learning20%の割合で評価する。
学生への	*連絡や課題は Teams から行いますので、必ず登録してください。



メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回小テストをします。</li> <li>各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。</li> <li>・辞書は毎回必携のこと</li> <li>・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行いましょ</li> </ul> <p>う</p> <p>教員への連絡は Teams のチャットから行ってください</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<p>事前事後学習（それぞれ約1時間）以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p> <p>小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。</p>

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(DP1) (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前学習：教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Occupations	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#001-042
3	Unit 1 Occupations	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#043-0084
4	Unit 2 At the Dinner Table	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0085-0126
5	Unit 2 At the Dinner Table	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0127-0168
6	Unit 3 Sports	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0169-0212
7	Unit 3 Sports	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前学習：テキスト p.33 の練習問題を行い、p.34 の Reading Passage の事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0213-0256
8	Review Test	Unit 1-3 授業内配布資料	テスト勉強：Unit1-3 までの復習(2時間)
9	Unit 4 Health	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前学習：テキスト p.37 の練習問題を行い、p.38 の Reading Passage の事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0257-0301
10	Unit 4 Health	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0302-0347
11	Unit 5 What's on your playlist?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0348-0392
12	Unit 5 What's on your playlist?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0393-0438
13	Unit 6 At the movies	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：テキスト p.53 の練習問題を行い、p.54 の Reading Passage の事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
14	Unit 6 At the movies	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
15	総まとめ	Unit 3-6 授業内配布資料課題	事前学習：Unit3-6 までの復習(2時間)

関連科目									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Live Escalate Book 2 : Trekking</td> <td>角山照彦</td> <td>成美堂</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂						

	2	The 1500 Core Vocabulary for t-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 定期試験・授業態度・課題・小テスト等 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	英語を使いこなす事ができれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。			
担当者の 研究室等 備考	7号館 2階 非常勤講師室			

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	Practical English is a course written for Japanese students seeking to improve their English skills. It is designed for active communication with many fun tasks and exercises and features various speaking, listening, reading, and writing activities.
到達目標	Participation in this course will improve the four primary skills: speaking, listening, reading, and writing.
授業方法と留意点	Individual, pair, and group work activities will form the core of each lesson.
科目学習の効果 (資格)	Students who complete the course will have the language skills and confidence to push to the next level in their English development.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1: Speaking About Yourself	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	Students should: (1) Preview the unit for the next class (45 mins) (2) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0001-0040
	2	Unit 1: Speaking About Yourself	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0041-0080
	3	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0081-0121
	4	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0122-0162
	5	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0163-0202
	6	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0203-0243
	7	Review Units 1-3	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0244-0284
	8	Unit 4: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0285-0325
	9	Unit 4: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0326-0366
	10	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0367-0407
	11	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0408-0438
	12	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	13	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	14	Review Units 4-6	テキスト実践、解説	Students should review the unit from the last lesson (45 mins)
15	Course review and evaluation. Feedback	これまでの項目を総復習		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	NAN' UN-DO
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		SEIBIDO
	2			
	3			
評価方法 (基準)	E-learning, 20%、TOEIC Bridge, 20%、final exam, 20%; coursework and quizzes, 40%.			
学生への メッセージ	This course will most benefit students who participate enthusiastically in activities, preview and review lessons and complete their homework assignments.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語入門	科目名 (英文)	Introduction to Practical English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2418c2		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い文章を読めるようにする。同時に、より多くの語彙力、文法力、リスニング力をつけていくことを目的とする。 教科書は最新かつ身近で興味深いテーマが数多くとりあげられているので、楽しみながら精読することで、英語力の向上を目指していく。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組むことで、英語を正しく読む力がつく。また、TOEICやTOEIC Bridge 受験のための必要な読解力の向上がはかれる。
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かさずことなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は英検やTOEIC, TOEIC Bridge 等のテストに必ず役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Resellers-Good or Bad? インターネットでの転売について	語彙、本文精読、内容把握 第1回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0001-0045
3	Unit 1: Resellers-Good or Bad? インターネットでの転売について	本文要約、文法問題、リスニング 第2回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0046-0090
4	Unit 2: About Earphones イヤホン着用の長所短所と進化	語彙、本文精読、内容把握 Unit 1 単語テスト 第3回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0091-0135
5	Unit 2: About Earphones イヤホン着用の長所短所と進化	本文要約、文法問題、リスニング 第4回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0136-0180
6	Unit 3: Cash Registers 買い物での支払い方法の選択肢について	語彙、本文精読、内容把握 Unit 2 単語テスト 第5回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0181-0225
7	Unit 3: Cash Registers 買い物での支払い方法の選択肢について	本文要約、文法問題、リスニング 第6回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0226-0270
8	Unit 4: Funny Happenings During Online Lessons コロナ時のオンライン授業での様々なエピソード	語彙、本文精読、内容把握 Unit 3t 単語テスト 第7回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0271-0315
9	Unit 4: Funny Happenings During Online Lessons コロナ時のオンライン授業での様々なエピソード	本文要約、文法問題、リスニング 第8回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0316-0360
10	Unit 5: Loose-Fitting Clothing 変化するファッションと最近の流行	語彙、本文精読、内容把握 Unit4 単語テスト 第9回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0361-0405
11	Unit 5: Loose-Fitting Clothing 変化するファッションと最近の流行	本文要約、文法問題、リスニング 第10回単語テスト	復習、の予習 単語学習範囲: 0406-0438
12	Unit 6: Shrinkflation サイズを縮小することで価格上昇を防ぐ対策	語彙、本文精読、内容把握 Unit 5 単語テスト	復習、予習
13	Unit 6: Shrinkflation サイズを縮小することで価格上昇を防ぐ対策	本文要約、文法問題、リスニング	復習、予習
14	Unit 7: Living in the Countryside 最近メディアでとりあげら	語彙、本文精読、内容把握 Unit 6 単語テスト	復習、予習

	れる田舎暮らしについて		
15	Unit 7: Living in the Countryside 最近メディアで取り上げられる田舎暮らしについて	本文要約、文法問題、リスニング	定期試験（前期末）の準備
関連科目	他の英語科目		
教科書	番号	書籍名	著者名
	1	Trend Scope	Jonathan Lynch/Kotaro Shitori
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志
	3		
参考書	番号	書籍名	著者名
	1		
	2		
	3		
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%, e-learning 20% 定期テスト 30% 平常点 30 点(小テストと授業態度) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第 1 回目の授業で説明する。		
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。		
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。</li> <li>・授業計画は進度によって変わる場合がある。</li> <li>・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。</li> <li>・質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</li> <li>・小テストは必ず返却しフィードバックします。</li> </ul>		

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	TOEIC のスコアを上げることに特化した授業を行う。 TOEIC L&R テスト対策の教科書と、大学指定の単語集を用い、各問題解答のための対策を演習によって身に付ける。
到達目標	TOEIC350以上のスコアを獲得することを目標とする。
授業方法と留意点	毎回、授業外で自分で学習した単語帳のなかの単語のテストを行う。 教科書の各章のテーマ（話題状況）とターゲットの文法事項を頭におきながら、TOEIC のパートごとに出题形式を学び、それを身に付けるために練習問題に解答してゆく。Reading Section の解答の際は、毎回適応する時間を計って練習することで、本番には全問解答することができるように準備する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC L&R test 350 点以上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション Unit 1 Eating Out	授業内容の詳しい解説 テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	2	Unit 2 Travel	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0439-0480 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	3	Unit 3 Amusement	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0481-0522 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	4	Unit 4 Meetings	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0523-0565 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	5	Unit 5 Personnel	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0566-0609 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	6	Unit 6 Shopping	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0610-0653 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	7	Unit 7 Advertisement	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0654-0698 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	8	Unit 8 Daily Life	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0699-0741 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	9	Unit 9 Office Work	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0742-0781 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	10	Unit 10 Business	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0782-0821 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	11	Unit 11 Traffic	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0822-0862 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	12	Unit 12 Finance and Banking	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	13	Unit 13 Media	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	14	Unit 14 Health and Welfare	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
	15	Review	語彙・文法事項の総復習	今学期の既習範囲の復習

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名



	1	Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test : Level 2	北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト20%) e-learning 学習の進捗度 20% 期末試験 25% 授業中の小テスト 15% 受講態度(積極性) 20%			
学生への メッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業の事前・事後学習は、全体でおおよそ30時間とする。授業中に実施される小テストは、翌週の授業内で返却され、フィードバックされる。質問等は、授業内か授業終了後に教室で、または出講時に非常勤講師室で対応する。			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサヒ ロンガス
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3] を目標とし、自分に関連する情報 (個人情報・家族情報)、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。指定の単語集も、授業外の時間で学習し、毎回「小テスト」を受けることで、自分の学習の度合いを確認する。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	講義概要 Unit 1 Smartphone Addiction スマホ依存って病気だったの？	講義概要 リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク
2	Unit 2 Congestion at the Cafeteria 学生食堂の混雑を解決したい！	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：460-500 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
3	Unit 3 Infectious Diseases 予防は最高の薬！	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：501-541 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
4	Unit 4 Universal Design ユニバーサルデザインって何？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：542-582 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
5	Unit 5 Column 1 Word Search (Units1-4)	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：583-623 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
6	Unit 6 Student Stress ストレスと上手く付き合おう！	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：624-664 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
7	Unit 7 Black Baito ブラックバイトってどういうもの？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：665-695 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
8	Unit 8 Older Drivers 大丈夫？ 高齢者ドライバー	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：696-736 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
9	Unit 9 Plastic Waste 減らそう！ プラスチックごみ	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：737-777 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
10	Unit 10 Column 2 Crossword Puzzle (Units 6-9)	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：778-818 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
11	Unit 11 Overtourism インバウンド旅行で観光公害？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：819-862 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
12	Unit 12 Esports e スポーツの人気を高めるには？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
13	Unit 13 Sleep Deprivation 睡眠不足は寝だめで解消！？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
14	Unit 14 AI 人工知能と共存できるか？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
15	学期の復習	学期の復習	学期中の Warm up の単語の意味を把握しておくこと。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (成美堂)	西谷 恒志	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20%(統一英語単語テスト 20%)、定期試験 30%、小テスト 10%、授業態度 20%(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など)、e-learning20%の割合で総合的に評価する。 (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映する。)			
学生への メッセージ	<p>会話力、TOEICの単語力やテクニックを、リーディング、ライティング、リスニング、グループワークでのディスカッションによって身に付けます。</p> <p>英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。</p> <p>当然のことではありますが、教科書はご自身のものを持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。</p> <p>授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：460-500
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：501-541
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：542-582
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：583-623
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：624-664
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：665-695
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：696-736
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：737-777
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：778-818
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：819-862
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (成美堂)		

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%, e-learning20%, 授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 60% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行い、TOEIC で評価される英語力の向上を目指す。
到達目標	TOEIC 350点以上の実力 (TOEIC Bridgel30点)
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらおうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No. 0439-0481 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	読解、文法、語彙 動詞の形 1	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No. 00482-0524 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	読解、文法、語彙 動詞の形 2	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No. 0525-0567 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No. 00568-0610 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No. 0611-0653 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Review	前半の復習	単語小テスト No. 0654-0696 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No. 00697-0739 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No. 0740-0782 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No. 0783-0825 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No. 0826-0862 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度 (発表など) 10%、e-learning 20% の割合で総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	このクラスは海外旅行、海外研修、ビジネスシーン、海外出張など、実際のシチュエーションで役立つ英語の運用能力を高めることを目的とする。そのため、日常生活、ビジネスに関わる基本語彙・表現の理解、習得に重点が置かれる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とする。すなわち自分自身や家族、友人などにかかわる身近な事柄に関して英語で説明したり、書き表すことができる。また商業施設、公共交通機関の利用、医療、住居、気象、求職活動など、生活に関わる必須情報で英語で表現されたものを聴解、読解することができる。
授業方法と留意点	演習形式の授業を行う。あらかじめ指定された箇所に関する発話、発表を行うものとする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			指定箇所の予習
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 439-480
2	Restaurants	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 481-520
3	Restaurants	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 521-560
4	Offices	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 561-600
5	Offices	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 601-640
6	Daily Life	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 641-680
7	Daily Life	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 681-720
8	Personnel	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 721-760
9	Personnel	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 761-800
10	Shopping	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 801-840
11	Shopping	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 841-862
12	Finances	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
13	Finances	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
14	Transportation	リスニング スピーキング	指定箇所の予習

	15	Transportation	スピーキング リーディング	指定箇所の予習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC L&R TEST (初級編)	角山 照彦 / Simon Capper / 遠藤 利昌	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト...20% e-learning 学習の進捗度...20% 定期試験...40% 授業内での発表...20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。			



科目名	実践英語初級	科目名 (英文)	Practical English for Beginners
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片岡 晴美
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2419c2		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 この授業では、TOEIC教材を学習し、スコアアップを目的とします。TOEICとは、Test of English for International Communication (国際コミュニケーション英語能力テスト) という英語によるコミュニケーション (意思疎通) とビジネス能力を測定するための試験のことです。ただ単に英語を学ぶだけでなく、他人と英語で上手くやり取りしながら、仕事を行えるようになるのを目指します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容 (日常生活、学校生活など) の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。  ※3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  ※当科目の教科書は、オンライン教材「ChenkLink」を使用するため、必ず「新品」を購入し、「教科書固有番号」を使用できるようにしておくこと。 ※教科書を全く持参しない場合は、成績から40点減点となります。  ※2回目の授業までに、自分のスマホに教科書の音声データをダウンロードしておいて下さい。(やり方が分からなければ、Googleで検索すること。)  ・授業時には、教科書とノート以外に、①充電したスマホ、②イヤホン、③辞書 (=紙の辞書でも、電子辞書でも、どちらでも良いです) を持参すること。 ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。 ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。 ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等 TOEIC Bridge Score: 130 (TOEIC Score: 350相当, CASEC: 445) を目標とします。
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要及び評価方法の説明	教科書の予習 ※2回目の授業までに、自分のスマホに教科書の音声データをダウンロードしておいて下さい。(やり方が分からなければ、Googleで検索すること。) 聴き読み English Central Listening Marathon (目安: 各30分~1時間)
2	Unit 1: Travel Steps 1 - 2 (前半)	テキスト実践、解説、発表 品詞①: 名詞 (可算名詞・不可算名詞)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 439-480 聴き読み English Central Listening Marathon (目安: 各30分~1時間)
3	Unit 1: Travel Step 3 (後半)	小テスト No. 1 (単語: 439-480) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 481-520 聴き読み English Central Listening Marathon (目安: 各30分~1時間)
4	Unit 2: Dining Out Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 2 (単語: 481-520) テキスト実践、解説、発表 品詞②: 形容詞 (名詞修飾、補語)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 521-560 聴き読み English Central Listening Marathon (目安: 各30分~1時間)
5	Unit 2: Dining Out Step 3 (後半)	小テスト No. 3 (単語: 521-560) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 561-600 聴き読み English Central Listening Marathon (目安: 各30分~1時間)
6	Unit 3: Media Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 4 (単語: 561-600) テキスト実践、解説、発表 品詞③: 副詞 (動詞・形容詞修飾)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 601-640 聴き読み English Central Listening Marathon (目安: 各30分~1時間)
7	Unit 3: Media Step 3 (後半)	小テスト No. 5 (単語: 601-640) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 641-680 聴き読み

			English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
8	Unit 4: Entertainment Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 6 (単語: 641-680) テキスト実践、解説、発表 時制 (現在・過去・未来・現在進行形)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 681-720 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
9	Unit 4: Entertainment Step 3 (後半)	小テスト No. 7 (単語: 681-720) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 721-760 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
10	Unit 5: Purchasing Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 8 (単語: 721-760) テキスト実践、解説、発表 3単現のs (修飾語句を伴う主語)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 761-800 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
11	Unit 5: Purchasing Step 3 (後半)	小テスト No. 9 (単語: 761-800) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 801-862 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
12	Unit 6: Clients Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 10 (単語: 801-862) テキスト実践、解説、発表 能動態・受動態 (感情を表す表現)	教科書の予習・復習 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
13	Unit 6: Clients Step 3 (後半)	テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
14	Unit 7: Recruiting Steps 1 - 3	テキスト実践、解説、発表 動詞の後ろの動名詞・不定詞 (前置詞の 後ろの動名詞、定型表現) TOEIC Mini Test Final due: Listening Marathon	教科書の復習 聴き読み English Central (目安:各30分~1時間)
15	Review: Units 1-7	これまでの項目を総復習 TOEIC Mini Test	定期試験に向け、Units 1-7の復習・確認を、教科書の音声データを使って行う (聴き読み方式) (目安:1時間以上)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST: PRE-INTERMEDIATE [レベル別 TOEIC L&R テスト実力養成コース: 準中級編]	溝口優美子 / 柳田真知子 著 早川幸治 / 番場直之 シリーズ 監修	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- [学校語彙で学ぶTOEICテスト【単語集】 -改訂新版-]	西谷恒志 編著	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法  
(基準)

共通試験 (統一英語単語テスト): 20%  
定期試験: 30%、  
小テスト: 10%  
課題レポート (宿題やListening Marathonなど): 10%、  
授業態度 (授業中に投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など): 10%  
e-learning (English Central): 20%  
の割合で総合的に評価する。

※原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

※e-learning (English Central)  
[前期前半 (学習期)]

学生への  
メッセージ

英語の4技能5領域 [Reading, Listening, Writing, Speaking (やり取り・発表)] を育成する学習活動を行います。  
英語を使うことを楽しみましょう。

担当者の  
研究室等

非常勤講師室 (7号館2階)

備考

1. 共通試験 (統一英語単語テスト) と e-learning (English Central) は、成績に組み込まれます。
2. e-learning (English Central) は、前期前半学習期限が5/31です。計画的に学習しましょう。

3. TOEIC 対策に、学内のラーニングセンター（2号館2階）を、積極的にご利用下さい。

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	本授業では前期に引き続き、TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、より着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、U11~20 までの問題を解きます。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 150 点以上) を獲得できるようになる。</li> <li>語彙や文法の知識を定着させる。</li> <li>前期よりも素早く正確な読解、リスニングができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。</li> <li>テキスト、電子辞書、ノートを持ってきてください。</li> <li>積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。</li> <li>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</li> <li>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。(原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</li> <li>①から③が続く場合、単位を認めない。</li> </ul> </li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	授業の進め方、評価方法の確認
	2	Unit 13 : Careers 形容詞、副詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 863-900</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	3	Unit 14 : Art 名詞、代名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 901-930</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	4	Unit 15 : Culture 前置詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 931-960</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	5	Unit 16: Population 接続詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 961-990</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	6	Unit 17 : Disasters 否定文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 991-1020</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	7	Unit 18 : Travel 名詞構文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1021-1050</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備</li> </ul>
	8	中間テスト	これまでの学習範囲より中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1051-1080</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	9	Unit 19 : Sports 比較 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1081-1110</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	10	Unit 20 : Life 比較 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1111-1140</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	11	Unit 21 : Entertainment 関係詞 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1141-1170</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	12	Unit 22 : Language 関係詞 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1171-1200</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	13	Unit 23 : Science 仮定法 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く</li> </ul>
	14	Unit 24 : Technology 仮定法 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後学習：長文、文法事項を確認</li> </ul>

	15	Unit 19-24 のリスニング、 文法、長文などを見直し	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	・事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末 テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English Pre-intermediate	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通試験 (CASEC) : 20%</li> <li>・共通試験 (統一英語単語テスト) : 10%</li> <li>・e-learning : 10%</li> <li>・教員評価 : 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%)</li> </ul> <p>注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。海外旅行や留学に行くこともお勧めです。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎週、事前事後学習に 60分を費やすこと。			

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 永里子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	TOEIC 450 点以上の実力をつけることを到達目標とする。 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出ししたりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC、英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	2	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0863-0908
	3	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0909-0951
	4	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0952-0991
	5	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0972-1012
	6	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1013-1054
	7	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1055-1095
	8	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1096-1137
	9	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1138-1179
	10	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1180-1200
	11	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	12	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	13	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	14	Review 2	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 テキストの後半を振り返る。
	15	Review	Unit 7～12 の復習	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には1時間以上かけること。
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山 照彦 / LiveABC editors	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト(10%) CASEC 試験(20%) e-learning の進捗度(10%) 定期試験(30%) 小テスト、授業中の態度(課題の提出)(30%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	TOEIC に役立つ語彙や文法を身につけ、リスニング問題で耳を鍛えましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。実際のTOEICテストに慣れ、高得点を目指すことを目標とする。
到達目標	TOEIC 500点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO 863～NO 1200の範囲を各自学習すること。また、テキストの内容も各章ごとに確認のための臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 896～928
3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 929～962
4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 不定詞1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 963～996
5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、動名詞	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 997～1030
6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、現在完了1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1031～1064
7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、現在完了2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1065～1098
8	文法問題対策	語彙、読解、文法 文型1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1099～1132
9	文法問題対策	語彙、読解、文法、 文型2	復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1133～1166
10	文法問題対策	語彙、読解、文法 文型3	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 1167～1200
11	文法問題対策	語彙、読解、文法、 関係代名詞1 単語テスト11	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習
12	読解問題対策	語彙、読解、文法、 関係代名詞2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
13	読解問題対策	語彙、読解、文法のまとめ	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
14	読解問題対策	語彙、読解、文法のまとめ	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
15	総まとめ TOEIC形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

関連科目 他の英語関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		プリント教材配布	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 大学共通 (TOEIC Bridge 20%、e-learning 10%、統一英語単語テスト10%) 臨時テスト 40%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表) の割合で評価する。

学生へのメッセージ  
 ・毎回テストをします。  
 各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。  
 ・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。  
 ★連絡は全て teams から行いますので、まず最初に teams に入ってください。  
 教員への連絡も teams のチャットから行ってください

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考 事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング 15分の学習をすること。  
 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」  
 提出物等は授業中にフィードバックする。



科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(DP1) (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前学習：教科書に目を通しておく。
2	Unit 7 Technology in Daily Life	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#0863-0908
3	Unit 7 Technology in Daily Life	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#0909-0951
4	Unit 8 Social Network	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#0952-0991
5	Unit 8 Social Network	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#0992-1033
6	Unit 9 Looking on the Bright Side	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#1034-1074
7	Unit 9 Looking on the Bright Side	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#1075-1116
8	Review Test	Unit 7-9 授業内配布資料	テスト勉強：Unit 7-9までの復習 (2時間)
9	Unit 10 Love Affairs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#1117-1158
10	Unit 10 Love Affairs	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間) 単語学習#1159-1200
11	Unit 11 Storytelling	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
12	Unit 11 Storytelling	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
13	Unit 12 The Power of Words	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
14	Unit 12 The Power of Words	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
15	総まとめ	Unit 10-12 授業内配布資料課題	事前学習：Unit 10-12 までの復習 (2時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for t-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	CASEC 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 学習の進捗度 10% 定期試験・授業態度・課題・小テスト等 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	英語を使いこなす事ができれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	Practical English is a course written for Japanese students seeking to improve their English skills. It is designed for active communication with many fun tasks and exercises and features various speaking, listening, reading, and writing activities.
到達目標	Participation in this course will improve the four primary skills: speaking, listening, reading, and writing.
授業方法と留意点	Individual, pair, and group work activities will form the core of each lesson.
科目学習の効果 (資格)	Students who complete the course will have the language skills and confidence to push to the next level in their English development.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 7: Tell Me About Your Family	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	Students should: (1) Preview the unit for the next class (45 mins) (2) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0001-0040
	2	Unit 7: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0041-0080
	3	Unit 8: Communication	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0081-0121
	4	Unit 8: Communication	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0122-0162
	5	Unit 9: How Are You Feeling?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0163-0202
	6	Unit 9: How Are You Feeling?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0203-0243
	7	Review Units 7-9	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0244-0284
	8	Unit 10: Memories	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0285-0325
	9	Unit 10: Memories	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0326-0366
	10	Unit 11: Talking About Health	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0367-0407
	11	Unit 11: Talking About Health	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0408-0438
	12	Unit 12: Mindset?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	13	Unit 12: Mindset?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	14	Review Units 10-12	テキスト実践、解説	Students should review the unit from the last lesson (45 mins)
15	Course review and evaluation. Feedback	これまでの項目を総復習		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	NAN' UN-DO
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		SEIBIDO
	2			
	3			
評価方法 (基準)	E-learning, 20%、TOEIC Bridge, 20%、final exam, 20%; coursework and quizzes, 40%.			
学生への メッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い文章を読めるようにする。同時により多くの語彙力、文法力、リスニング力をつけていくことを目標とする。 教科書は最新かつ身近で興味深いテーマが数多くとりあげられているので、楽しみながら精読することで、英語力の向上を目指していく。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組むことで、英語を正しく読む力がつく。また、TOEIC や TOEIC Bridge 受験のために必要な読解力の向上がはかれる。
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かさずことなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は英検や TOEIC 等のテストに必ず役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: Hanging Out in Streets and Parks コロナ後も店ではなく、公園などの屋外で友達と会う若者について	語彙、本文精読、内容把握	予習
	2	Unit 8: Hanging Out in Streets and Parks コロナ後も店ではなく、公園などの屋外で友達と会う若者について	要約、文法問題、リスニング 第1回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0863-0896 小テスト準備
	3	Unit 9: Plant Burgers Are Popular in America 肉の食べ過ぎを防ぐために開発された植物ベースのバーガーの特徴	語彙、本文精読、内容把握 Unit 8 単語テスト 第2回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0897-0930
	4	Unit 9: Plant Burgers Are Popular in America 肉の食べ過ぎを防ぐために開発された植物ベースのバーガーの特徴	要約、文法問題、リスニング 第3回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0931-0965 小テスト準備
	5	Unit 10: South Korean Culture Is Popular Worldwide 世界的に人気な韓国文化の紹介	語彙、本文精読、内容把握 Unit 9 単語テスト 第4回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0966-0999
	6	Unit 10: South Korean Culture Is Popular Worldwide 世界的に人気な韓国文化の紹介	要約、文法問題、リスニング 第5回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1000-1034 小テスト準備
	7	Unit 11: Doxing インターネットの危険の一つである個人情報の公開について	語彙、本文精読、内容把握 Unit10 単語テスト 第6回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1035-1068
	8	Unit 11: Doxing インターネットの危険の一つである個人情報の公開について	要約、文法問題、リスニング 第7回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1069-1102 小テスト準備
	9	Unit 12: Fast Movies i いろんな事情でテレビや映画を見れない若者のツールについて	語彙、本文精読、内容把握 Unit 11 単語テスト 第8回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1103-1136
	10	Unit 12: Fast Movies いろんな事情でテレビや映画を見れない若者のツールについて	要約、文法問題、リスニング 第9回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1137-1170 小テスト準備
11	Unit 13: Do We Need a "Dislike" Button on Social	語彙、本文精読、内容把握 Unit 12 単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1171-1200	

	Media? 「嫌い」ボタンが押されることでの弊害とその対応	第10回単語テスト																	
12	Unit 13: Do We Need a "Dislike" Button on Social Media? 「嫌い」ボタンが押されることでの弊害とその対応	要約、文法問題、リスニング	復習、予習 小テスト準備																
13	Unit 14: Ramen Subscription 一ヶ月 7,000 円でのラーメンのサブスクを例にその長所短所について	語彙、本文精読、内容把握 Unit 13 小テスト	復習、予習																
14	Unit 14: Ramen Subscription 一ヶ月 7,000 円でのラーメンのサブスクを例にその長所短所について	要約、文法問題、リスニング	復習、予習 小テスト準備																
15	進度調整と後期の復習	後期学習内容の復習	期末テストの準備																
関連科目	他の英語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Trend Scope</td> <td>Jonathan Lynch/Kotaro Shitori</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Trend Scope	Jonathan Lynch/Kotaro Shitori	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Trend Scope	Jonathan Lynch/Kotaro Shitori	成美堂																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>共通試験 30% (TOEIC20%、統一英語単語テスト10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、後期まとめのテスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。</p>																		
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。																		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。</li> <li>授業計画は進度によって変わる場合がある。</li> <li>事前事後の学習のため、毎回平均1時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</li> <li>小テスト等は授業中にフィードバックする。</li> </ul>																		

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	TOEIC 450点以上の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。
到達目標	TOEIC450点以上の実力 (TOEIC Bridge 150点)
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1201-1230 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1231-1260 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1261-1290 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1291-1320 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1321-1350 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1351-1380 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1381-1410 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1411-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1441-1470 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1471-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550	David E. Bramley / 中井弘一	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	e-learning (English Central) 10% 統一英語単語テスト 10% CASEC 20% 授業への参加、貢献 (問いに対する発言、単語小テスト、中間・期末テスト、授業態度等も含む) 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 毎回の小テストに関して採点評価し、合格点に満たなければ再提出してもらいます。
----	---

科目名	実践英語中級	科目名 (英文)	Practical English for Intermediates
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2420c2		

授業概要・目的	最新の科学的トピックを扱った英文を題材として、リーディングやリスニングの能力を磨く。また、さまざまなテーマについて自分の意見を持ち、それを英語で述べたり書いたりすることで、スピーキングやライティングの訓練を積む。具体的には、TOEIC550 点以上をねらえる総合的英語力を身につける。
到達目標	TOEIC550 点以上の得点を取れる英語力を習得する。
授業方法と留意点	教科書に従って、リーディング、リスニング、文法などの演習を行う。 各ユニットの終わりには、自分の意見を英語で述べたり書いたりする。 毎回授業の初めに、前回範囲の理解を問う小テストを実施する。 問題演習や和訳などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。  ※毎授業、必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業進め方・評価方法についての説明	シラバスとテキストに目を通しておく
2	Unit 1: Extinct No More: Can We Bring Back Mammoths? (絶滅させない:マンモスを生き返らせることはできるか)	単語テスト: 1201-1220 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
3	Unit 2 : That Sinking Feeling: Cities Returning to the Sea (沈んだ気持ち: 海に戻っていく街)	単語テスト: 1221-1240 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
4	Unit 3 : The Meat Problem: Solutions from the Lab (肉の消費問題: 解決策を求めて)	単語テスト: 1241-1260 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
5	Unit 4: The Science of Size: Why Aren't Land Mammals Bigger? (大きさの科学: 陸生哺乳動物が大きくなる理由)	単語テスト: 1261-1280 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
6	Unit 5 : Helping the Deaf: The Teen Who Translates Sign Language (聴覚障がい者への支援: AI で手話を翻訳する)	単語テスト: 1281-1300 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
7	Unit 6 : Feline Truths: How to Make Your Cat Love You (猫に関する真実: 猫に愛される秘訣)	単語テスト: 1301-1320 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
8	Unit 7 : Mind Control: Does Hypnosis Really Work? (マインドコントロール: 催眠術は本当に効くのか)	単語テスト: 1321-1340 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
9	Unit 8: Science for All: The Rise of Citizen Scientists (すべての人に科学を: 市民科学者の登場)	単語テスト: 1341-1360 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
10	Unit 9 : Real After All: NASA's Growing Interest in UFOs (UFO の真相: UFO への関心が高まる NASA)	単語テスト: 1361-1380 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
11	Unit 10 : Hard Gardening: Growing Plants on the Moon (過酷な農業: 月の土で植物を育てる)	単語テスト: 1381-1400 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
12	Unit 11 : Seeds of Life: Hayabusa's Great Discovery (生命の種: はやぶさの大発見)	単語テスト: 1401-1420 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
13	Unit 12 : Unlimited Resources: The Prospect of Mining Space (無限の資源: 宇宙採掘の展望)	単語テスト: 1421-1440 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
14	Unit 13 : An Itchy Problem: The Science of Mosquito Bites (かゆみの問題: 蚊に刺されの科学)	単語テスト: 1441-1460 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
15	Unit 14 : Goodbye Diets? The Exercise Pill (ダイエットはもう必要なし?: エクササイズ・ピル)	単語テスト: 1461-1500 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)



関連科目	実践英語入門、実践英語初級			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Inspirations	Dave Rear	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>小テスト+授業への積極的な参加度 (30%)          定期試験 (30%)          統一英語単語テスト (10%)          CASEC (20%)          e-learning (10%)</p> <p>※授業への積極的な参加度としては、投げかける質問に対する回答や、ノートを取っているかなどを評価します。授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど)は教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	英語基礎会話 a	科目名 (英文)	Basic English Conversation a
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3422c2		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、「英語を話せるようになりたい」と思っている皆さんが、場面や状況に応じて自分のことを英語で説明する力を養成することを目標とします。実際の場面を想定したダイアログ練習を通して、英語での円滑なコミュニケーション能力を高めることを目指します。世界各地の都市や地域の映像を視聴して日本以外の地域への興味を高め、英会話を学ぶモチベーションの向上につながることも期待できます。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得し、会話を身につける。 TOEICや英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。発音やロールプレイに積極的に取り組んでください。指名された受講者は発表するなどの機会があります。次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1週間につき90分程度をかけること。 教科書は1回目の授業から使用する予定です。教科書販売期間中に早めに購入してください。 1回目の授業から英和辞書（電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの）も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種課題やテストについての説明） ウォーミングアップ：英語の基礎知識の確認・自分の課題点を知る	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）
2	Spain: The sights and sounds of Spain (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
3	Spain: The sights and sounds of Spain (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (At the Airport)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
4	China: Pandas young and old, filmed in zoos and in the wilds of China (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
5	China: Pandas young and old, filmed in zoos and in the wilds of China (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (From the Airport)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
6	Peru: A tour of some of the most stunning places in Peru (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
7	Peru: A tour of some of the most stunning places in Peru (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (At the Hotel)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
8	Tokyo: A portrait of life in modern Tokyo (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
9	Tokyo: A portrait of life in modern Tokyo (2)	Tokyo: A portrait of life in modern Tokyo (2) スピーキング演習：会話ロールプレイ (Describing Tokyo)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
10	New York City: A tour of one of the world's most exciting cities (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
11	New York City: A tour of one of the world's most exciting cities (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (Getting Directions)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
12	Antarctica: The natural wonders of the Earth's coldest, driest, and windiest continent (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
13	Antarctica: The natural wonders of the Earth's coldest, driest, and windiest continent (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (Health Problems)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
14	会話ロールプレイの総復習	At the Airport / From the Airport / At the Hotel / Describing a City / Getting Directions / Health Problems	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
15	まとめテスト実施	（終了後）テストの解説	まとめテストの復習 60分程度

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Globe Trotters: Practical English with Video	Carmella Lieske	センゲージラーニング
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度（アクティビティへの積極的な参加、投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など）... 40%</li> <li>・小テスト（授業内で実施スケジュールを伝える/答えは毎回返却する）... 15%</li> <li>・期末まとめテスト... 45%</li> </ul> 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。 原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。 その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講			

科目名	英語基礎会話 b	科目名 (英文)	Basic English Conversation b
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3423c2		

授業概要・目的	2年次までに身に着いた英語力を基に英語によるコミュニケーションの楽しさを体験し、自主的に英語学習できるようになることを目指す。
到達目標	学生生活や衣食など、身近で日常的なテーマについて、簡潔な英語を使ってコミュニケーションをとることができる。
授業方法と留意点	身近な話題についての会話文を理解し、繰り返し言う練習を行い、自分のものにする。 ペアまたはグループで会話文を練習し、さらに自分たちで会話を展開する練習をする。 授業内外の課題には積極的に取り組むことが求められる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。	シラバスを確認し、教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Electronic Devices	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
3	Unit 2 Health and Fitness	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
4	Unit 3 On the Phone	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
5	Unit 4 Household Chores	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
6	Unit 5 Environment Protection	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
7	Unit 6 Bargaining for Fun	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
8	Review Test	Unit 1-6	事前学習：テスト勉強 (2 時間)
9	Unit 7 Affinity	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
10	Unit 8 Culture Shock	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
11	Unit 9 School Activities	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
12	Unit 10 Asking for Directions	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
13	Unit 11 Tourist Spots	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
14	Unit 12 Studying Abroad	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1 時間) 事後学習：復習・課題 (1 時間)
15	総まとめ	Unit 7-12	事前学習：Unit 7-12 復習

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book3: Summit	角山 照彦 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	出席が 80%未満の場合、原則として成績評価の対象外となります。 Review Test 20% 定期試験 30% 課題 20% 小テスト 20% 授業態度 (授業への取り組みには、指名された時の応答、発言・発表の積極性をはじめ学習態度が重視されます) 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	親しみやすい話題で、どんどん英語で話してみましよう。積極的な参加を期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	日本の政治	科目名 (英文)	Japanese Politics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	森 康一
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02425a2		

授業概要・目的	この授業では、国会・内閣・選挙制度・政党といった政治制度を形成する要素を日本を中心に世界の主要国とも比較しながら概説するとともに、明治から戦後までの日本の政治史の重要なトピックを取り上げる。 それにより、現在に至る社会がどのように形成されてきたのか、戦前と戦後ではどういった点が違うのかを有権者たる学生の皆さんが理解し、これからの日本政治を考えるための材料を幅広く提供する。
到達目標	この授業を通じて学生には、明治以降の日本が歩んで来た政治史や、他国との比較において日本の政治制度を理解することにより、国際人としての基本的素養を身につけること、また日常生活で政治に関する新聞記事などをしっかりと理解できるようにすることが期待される。
授業方法と留意点	プリントと板書により講義形式で授業を進めます。自分のまとめノートを作るつもりで、よく講義を聞いて下さい。 また、小テストはMoodle より行うので、受講する学生はMoodleの当授業コース「【後期金曜1限・理工学部】日本の政治 (担当：森康一)」を検索の上、登録しておいて下さい。他学部開講の同名講義と間違えないように登録すること。 自己登録キー：1206
科目学習の効果 (資格)	公務員試験や就職活動において、日本の政治史や政治学の内容が一般教養として問われる。 また、有権者として政治参加する際に、政治制度等の情報について知っておくことが必要である。 この授業によって、上記に際して必要な基本的な政治的知識を得られる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	「日本の政治」講義について ○第1部 政治制度論 政治制度と選挙制度①	講義の内容全般について  日本の政治制度の基本原理について	幕末から現代までの日本史を、高校の教科書等であらかじめ読み直しておく  日本国憲法における天皇の位置付けについて調べておく (約1時間30分)
2	日本の政治制度・選挙制度②	日本の国会のしくみや機能、立法過程について	日本の国会のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第2回) を見直しておく (約1時間)
3	日本の政治制度・選挙制度③	日本の内閣・裁判所について	日本の議院内閣制のしくみについて調べておく (約30分) レジュメ (第3回) を見直しておく (約1時間)
4	日本の政治制度・選挙制度④	日本の選挙制度について	「小選挙区比例代表並立制」について調べておく (約30分) レジュメ (第4回) を見直しておく (約1時間)
5	政党	政党制の分類と、日本やその他の国の政党制について	アメリカ、イギリスにはどんな政党があるのか調べておく (約30分) レジュメ (第5回) を見直しておく (約1時間)
6	○第2部 日本政治史 明治国家の建設	中央集権体制の確立と日本「国民」の形成について	廃藩置県について調べておく (30分) レジュメ (第6回) を見直しておく (約1時間)
7	初期の外交と政府批判の噴出	明治初期の外交関係と土族の反乱・自由民権運動について	自由民権運動について調べておく (30分) レジュメ (第7回) を見直しておく (約1時間)
8	明治憲法体制の成立	大日本帝国憲法の制定と条約改正について	幕末の不平等条約の内容について調べておく (30分) レジュメ (第8回) を見直しておく (約1時間)
9	議会政治の定着	初期議会と日清戦争、およびその後の藩閥-政党関係について	日清戦争・下関条約について調べておく (30分) レジュメ (第9回) を見直しておく (約1時間)
10	桂園時代	日露戦争およびその後の藩閥-政党関係について	日露戦争・ポーツマス条約について調べておく (30分) レジュメ (第10回) を見直しておく (約1時間)
11	国際協調と政党内閣	大正デモクラシーおよび政党内閣の時代について	「憲政の常道」について調べておく (30分) レジュメ (第11回) を見直しておく (約1時間)
12	軍部の台頭と日中戦争	満州事変以降の国内政治・国際関係について	満州事変以降の内閣の変遷について調べておく (30分) レジュメ (第12回) を見直しておく (約1時間)
13	太平洋戦争	日米戦争について	太平洋戦争直前の日米交渉について調べておく (30分) レジュメ (第13回) を見直しておく (約1時間)
14	戦後の民主化と講和	戦後の改革と独立回復、55年体制の成立について	戦後初期の政党について調べておく (30分) レジュメ (第14回) を見直しておく (約1時間)
15	まとめ	講義のまとめと試験について	レジュメ・ノートを整理し、期末レポートの準備をする (4時間)

関連科目 政治学、政治史関連の科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	政治学	加藤秀治郎	芦書房
	2	戦後政治史	石川 真澄、山口 二郎	岩波書店
	3	日本政治史	坂野 潤治	有斐閣

<p>評価方法 (基準)</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原則として、「公欠を除く欠席が3回以下」(出席率80%以上)の学生のみを成績評価の対象とします。</li> <li>・成績評価は <ul style="list-style-type: none"> <li>○平常点20%：小テスト×2回(第6回・第11回の授業日にMoodleから実施。当該日の任意の時間に受験可能。各回10点満点)</li> <li>○期末試験80%：論述式。5問出題し、そのうち2問を選択してもらいます。各問40点満点。 の合計点によって評価を行います。</li> </ul> </li> <li>・期末試験において持ち込みは認めません。</li> </ul>
<p>学生への メッセージ</p>	<p>高校の日本史教科書等で明治以降の部分を熟読しておいて下さい。 日々起こる政治的な出来事を、政治制度や政治史の知識をベースにとらえていくようにしましょう。</p>
<p>担当者の 研究室等</p>	<p>寝屋川キャンパス11号館5階 法学部資料室(法学部非常勤講師室)</p>
<p>備考</p>	

科目名	現代と地理学	科目名 (英文)	Geography in Modern Age
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 広之
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02426a2		

授業概要・目的	本授業では、地理学の入門的な内容についてお話しします。地理学は社会を、地域や空間などをキーワードとして、捉えていく学問です。人文地理学で扱うテーマは多岐にわたっており、学生の皆さん自身の興味ある分野について、地理学的な視点から考えられる力を身につけることを目指します。
到達目標	地理学の入門的な知識が身につく、社会の諸現象に対して地理学的な視点から説明できる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに講義形式で行います。授業時に、理解度を確保するための小課題に取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さんの興味のある現象について、地理学的な視点で考えることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：地理学とは？	地理学の学び方や授業の進め方等について紹介します。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
2	地理情報について	地図の歴史、GISについて学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
3	地理学の歴史	地理学の歴史と主要な理論について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
4	都市における地理学的現象	都市における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
5	農村における地理学的現象	農村の構造や課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
6	産業の地理学	産業構造の変化による様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
7	環境利用における地理学的現象	資源利用と景観について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
8	環境問題と地理学	環境問題について、様々なスケールからその影響について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
9	ジェンダーと都市	ジェンダーに関する空間的な現状について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
10	観光と地理学	観光について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
11	災害と地理学	災害について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
12	住宅をめぐる地理学的現象	現代住宅における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
13	過疎/ニュータウン、郊外の現在	ニュータウンなどの郊外地域の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
14	空き家と住宅をめぐる諸課題	空き家問題や郊外住宅の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
15	地理学の課題	・これまでの授業を踏まえた上で今後の地理学の課題について検討します。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法 (基準)	期末レポート試験 (30点)、授業ごとの小課題 (70点) にて評価します。																
学生への																	



メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	法学入門	科目名 (英文)	Jurisprudence
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02427a2		

授業概要・目的	私たちは社会の中で生きており、社会の構成メンバーの利害を調整し、また、秩序を維持するためのルール（規範）が法です。法を学ぶことは社会の仕組みを知るだけでなく、自分の身を守ることもつながります。この講義では、法の基本的な知識と考え方を学ぶこととしており、特に、基本的な法である憲法と民法を中心に説明します。
到達目標	この授業を通じて学生には、次の目標を達成することが期待されます。 ① 法学の基本的な考え方を理解し、法令の読み方を身に付ける ② 憲法の理念を理解し、そこで規定されている人権や統治に対する考え方についての知識を身に付ける ③ 民法の基本事項を理解する
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようになってください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。理解度を確認するために、授業の中で小テストを実施します。タイミング等については、授業の中でお伝えします。
科目学習の効果 (資格)	法律的な考え方が身につくことで、社会をより深く理解できるようになります。また、公務員試験、教員採用試験、各種資格試験を目指す人にとって参考になると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	法とは何か	法を学ぶことの意味、法とは何か、法源、法律の学び方	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
2	法令の読み方と解釈	法令及び条文の構成、法令用語の基礎知識、法令解釈の方法	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第2回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
3	憲法とは何か	憲法とは、近代的な憲法の発展、日本国憲法の概要と特徴	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
4	人権と法 (I)	人権の歴史、基本的人権の一般原則、人権の体系、人権の保障範囲、基本的人権の制限、人権を享有する主体、法の下での平等	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
5	人権と法 (II)	自由権の内容と種類、精神的自由権、経済的自由権、人身 (身体) の自由	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
6	人権と法 (III)	社会権、受益権、参政権、幸福追求権及び新しい人権	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第6回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
7	国家と法	国民主権、三権分立、国会、内閣、裁判所、地方自治、憲法の保障	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
8	平和と法	日本国憲法と平和主義、憲法9条の法的性格と解釈	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第8回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
9	民法の概要・財産法 (I)	民法の概要、財産法の概要、権利と義務、	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
10	財産法 (II)	法律行為、権利能力・意思能力・行為能力、	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
11	財産法 (III)	代理、時効、契約	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
12	財産法 (IV)	物権、所有権、不法行為、事務管理、不当利得、債務の担保	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) 第12回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
13	家族法 (I)	家族法の概要、親族、夫婦、親子関係、未成年者と父母の親権、親族間の扶養義務	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
14	家族法 (II)	相続、相続人と相続分、遺言	配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間)
15	裁判制度/まとめ	裁判所の役割と機能、事件の種類と裁判の流れ、裁判例と判例/まとめ	授業での配付資料を読み直して、ノートを整理すること (約3時間) これまでの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること。(約3時間)

関連科目	憲法、民法、労働法、刑法など
------	----------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法入門	伊藤正己	有斐閣
	2	民法法入門	野村豊弘	有斐閣
	3	民法	我妻榮	勁草書房

評価方法	期末試験の点数 (60%) と小テストの点数 (40%) の合計点で評価します。
------	--

(基準)	
学生へのメッセージ	学生時代には、いろいろなことに興味を持ち、専門分野以外の勉強をすることも、将来何かの役に立つと思います。法の世界もその一つです。授業が進めば新たな世界が見えてくると思います。
担当者の研究室等	11号館10階 團野研究室
備考	講義の内容は、憲法と民法を中心とする基本的なものであり、初学者を対象としていますので、復習に重点を置いていただくようお願いします。特に、講義はレジュメに書いていない事柄も少なからず含まれますので、講義内容のノートを取るようになしてください。 また、資格試験のために法律を勉強しようと考えている方は、ご自分に合った参考書(入門書)を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読むことを心掛けると、理解が進むと思われます。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	團野 正浩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02428a2		

授業概要・目的	憲法は、国家の最高法規として、国家組織を規定し、国のあり方を提示しています。 憲法を学ぶことは、私たちの人権はどのようなメカニズムで守られているのかについて理解を深めたり、社会や経済が変化していく中で日本はどうあるべきかを考える契機になったりします。 この授業では、日本国憲法の成り立ち、基本的考え方、憲法をめぐる様々な議論に関して学習するとともに、個別事例 (判例) の検討を通じて重要事項への理解を深めることとしています。
到達目標	この授業を通じて学生は次の目標を達成することを目指します。 ① 憲法の成り立ちや基本的な理念を理解できること ② 憲法をめぐる様々な論点を理解し、自分なりの見解を持つこと
授業方法と留意点	原則として、対面方式による講義を行います。決まった教科書は使用しませんので、出席者は、基本的にノートを取るようになしてください。授業の中でレジュメを配付する場合がありますが、これはノートを整理する助けとするために配付するものです。 理解度を確認するために、授業の中で小テストを実施します。タイミング等については、授業の中でお伝えします。
科目学習の効果 (資格)	憲法の知識を身につけることで、社会における様々な問題をより深く理解できるようになります。 また、公務員試験、教員採用試験、各種資格試験を目指す人にとって参考になると考えられます。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	憲法の意義	憲法の意義、日本国憲法の成立、憲法の解釈適用など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
2	国民主権	国民主権、三権分立、選挙制度など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
3	平和主義	平和主義の意義、憲法9条の解釈と運用など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) 第3回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
4	基本的人権の保障	人権の歴史、人権の種類、人権の主体、人権保障の限界など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
5	包括的基本権	個人の尊重、法の下での平等、幸福追求権など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
6	精神的自由権 (I)	思想・良心の自由、信教の自由	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
7	精神的自由権 (II)	表現の自由、学問・教育の自由	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) 第7回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
8	経済的自由権	職業選択の自由、居住・移転の自由など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
9	身体的自由権	適正手続の保障など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
10	社会権・受益権・参政権	社会権の内容、受益権の内容、参政権の内容など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) 第10回までの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること (約3時間)
11	統治機構 (国会)	国会の地位、国会議員など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
12	統治機構 (内閣)	行政権と内閣、議院内閣制など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
13	統治機構 (裁判所)	司法権の意義、裁判所の組織など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
14	統治機構 (財政)	財政民主主義、租税法律主義など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間)
15	統治機構 (地方自治)	地方自治の意義など	配付資料を見直すとともに、ノートを整理すること (約3時間) これまでの講義内容を配付資料及びノートから見直し、理解を確実にすること。(約3時間)

関連科目	法学入門
------	------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法入門	伊藤正己	有斐閣
	2	憲法	辻村みよ子	日本評論社
	3			

評価方法 (基準)	小テスト (40点) と定期試験 (60点) の得点合計で評価します。
-----------	-------------------------------------

学生へのメッセージ	日本国憲法の知識は社会に出た際に有益なものです。この機会に基本事項を学んでおくことで、皆さんの進路や社会との関わり方が広がると思いますので、ぜひ積極的な学習をお願いします。
-----------	--

担当者の	11号館10階 團野研究室
------	---------------

研究室等	
備考	講義はレジュメに書いていない事柄も少なからず含まれますので、講義内容のノートを必ずとるとともに、復習を欠かさずに行ってください。 講義の内容は基本事項が中心ですが、将来目指す進路によってはもっと深い知識が必要な場合もあります。その場合、ご自分に合った入門書を適宜選んで、講義内容に相当するところを講義の前後に読み、予習・復習を心がけるようにして下さい。

科目名	日本国憲法	科目名 (英文)	Japanese Constitution
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	浮田 徹
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02428a2		

授業概要・目的	法律の基本法である日本国憲法について大まかに理解し、社会における様々な問題に対する視点をを得ることを目的とします。 憲法の人権と統治機構の項目をそれぞれ扱います。 人権条項については各条文の解説を判例を交えながら行います。統治機構の部分については国家の仕組みについて学びます。
到達目標	社会における様々な問題を憲法の視点から分析し理解できるようにします。 「宗教の問題」「インターネット上の表現」「いわゆる LGBT の問題」など人権分野だけでなく、昨今の政治問題についても理解し整理できることを目的とします。
授業方法と留意点	講義形式で行います。講義に必要なものはレジュメ、ノート、教科書です。 レジュメは事前に moodle から入手、印刷して持参してください。  ※moodle の利用方法につき (1)moodle とは 摂南大学の採用する ICT ツールです。大学のポータルサイトなどにリンクがあります。 (2)moodle の登録方法につき 講義には自分で登録する必要があります。 ログインし、「ナビゲーション」のところに「コース」をクリック、「コースを検索する」から 「24 理工憲法」と入力して検索し「2024 日本国憲法(理工)」をクリック。 登録キー「24vr」を入力して登録  という段取りです。初回に説明はします。

科目学習の効果 (資格)	各種公的資格試験に役立ちます。
--------------	-----------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	憲法の意味・歴史と現在の憲法規定の概要	予習：教科書の 1、2 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
2	人権総論 1	憲法の人権規定の基本原則である「個人の尊重」と、プライバシー権・自己決定権などについて学びます。	予習：教科書の 8、9 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
3	人権総論 2	法の下での平等について学びます。	予習：教科書の 10、11、12 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
4	思想・良心の自由	精神的自由の基盤となる内心領域の自由について学びます。	予習：教科書の 16 を読んでおく (10 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
5	信教の自由・政教分離	宗教に関する権利、国家と宗教の関係について学びます。	予習：教科書の 17、18 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
6	表現の自由 1	表現の自由の価値とその制限について学びます。	予習：教科書の 19、20 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
7	表現の自由 2	インターネット上の表現について学びます。	予習：教科書の 20、21、22 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
8	経済的自由・財産権の保障	経済活動に関する日本国憲法の規定について学びます。	予習：教科書の 26-28 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
9	社会権 1	生存権・教育を受ける権利について学びます。	予習：教科書の 29、24 を読んでおく (20 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
10	社会権 2	労働に関する権利について学びます。	予習：教科書の 30 を読んでおく (10 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
11	適正手続の保障	法定手続・刑事手続についての原則と権利について学びます。	予習：教科書の 13-15 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
12	国会と内閣：議院内閣制	民主主義の仕組みと、国会・内閣の関係性について学びます。	予習：教科書の 32-35 を読んでおく (40 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
13	裁判所の役割	国家における裁判所の役割について学びます。	予習：教科書の 37-40 を読んでおく (40 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
14	平和主義	憲法 9 条の規定と平和主義について学びます。	予習：教科書の 45 を読んでおく (10 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)
15	地方自治・最高法規・憲法改正	地方自治のシステム、憲法の最高法規性、改正手続について学びます。	予習：教科書の 36、43、44 を読んでおく (30 分) 復習・学習：講義ノートふり返し、課題ペーパーのある場合はそれも行う (60 分)

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	憲法の時間 [第 2 版]	井上典之編	有斐閣

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	中間テスト (30 点) と定期試験 (70 点) の得点合計で評価します			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	11 号館 9 階浮田准教授室			
備考	中間テストの実施日は授業中に連絡します 中間テストの追試験・再試験は行いませんので、注意してください			

科目名	マクロ経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥西 達也
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02429a2		

授業概要・目的	この授業は、受講生が経済学のごく初歩的な知識を身につけ、新聞などの経済記事のある程度理解できるようになることを目指す。経済とは何か、経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、新聞やネット上の経済記事で目にする基本的な経済用語、経済の大まかなしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に説明していく。また、戦後から現在に至る世界経済史のマクロ的な振り返りを通して、現日本の経済状況を理解することをも目指す。
到達目標	経済の大まかなしくみがある程度理解できるようになる。 現代経済の流れや経済問題がある程度理解できるようになる。 新聞やネット上の経済記事の内容がある程度理解できるようになる。
授業方法と留意点	・対面授業で行なう。対面授業に参加するように。 ・万一遠隔授業となった場合は授業資料配信型のオンライン授業とする。 ・使用するオンラインツールはWebFolderである。授業資料ではできる限り平明な解説文と図説チャートなどの静止画をメインにしたものを用いる(必要な場合には音声、動画を交える)。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。	事前学習として「経済」とは何か、「経済学」とはいかなる学問かについて、自分なりの見解を簡単にまとめておく。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	2	経済と経済学	①誰のための経済か。そもそも経済とは？資本とは？資本主義とは？ ②様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：2対象の違い、視座の違い。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	3	市場の種類としくみⅠ 生産物市場①	需要・供給・価格調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	4	市場の種類としくみⅡ 生産物市場②	需要・供給・数量調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	5	市場の種類としくみⅢ 労働市場①	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	6	市場の種類としくみⅣ 労働市場②	労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	7	市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場	資金調達と株式市場。株価の決定。株式会社のしくみ。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	8	市場の種類としくみⅥ 貨幣市場	貨幣の需要・供給と利率。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	9	GDPと経済成長率	ストックとフロー、付加価値、三面等価、名目と実質の経済成長率など	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	10	為替変動	外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	11	国際分業と貿易	自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	12	インフレとデフレ	どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	13	中央銀行と金融緩和	価格政策と数量政策。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。



	14	政府の役割	有効需要政策と乗数効果。 租税政策と所得再分配。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	15	世界経済と日本 まとめと復習	経済のグローバル化とリージョナル化。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学入門 (マクロ編)	ティモシー・テイラー	かんき出版
	2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版
	3	入門経済学	J. スティグリッツ	東洋経済新報社
評価方法 (基準)	定期試験 (筆記試験) 70%、小テスト・提出物などが 30%。			
学生への メッセージ	日々、経済記事に注意を向け、関心あるトピックについて (自分なりに) 書籍やネットを使って掘り下げて調べる習慣をつけてほしい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	チェックシート(小テスト)、提示された課題への取り組みなどを通して、自身の理解不足の箇所を把握し、自主的に調べ知識を深める、あるいは新たな気づきを得ることが肝要である。とりわけ重要な事項で理解の不足が目立つ場合には、折に触れ授業で言及しましたチェックシートや課題で問う、などのフィードバックを図る。質問等については基本的に授業終了後に対応する。			

科目名	マクロ経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Macroeconomics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	A⑩		
科目ナンバリング	TSO2429a2		

**授業概要・目的**  
マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。毎日の新聞・ニュースを見ると、国民所得のこと、設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことなど、マクロ経済に関するトピックがいろいろ出てきます。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです（もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります）。この講義は、マクロ経済学の基礎理論に基づいてマクロ経済の動向を考察できるようになることを目的としています。これは、経済活動に関わる社会人として、必要な知識であると担当者は考えています。  
使用テキストは、日本の事例を使った解説を展開しています。講義では、できる限り図表やグラフを用いた解説を行います。初歩的な数学も用いることもあります。

**到達目標**  
経済学部での学習に必要なマクロ経済学の基礎知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べるができるようになることを目標としています。

**授業方法と留意点**  
講義資料は毎回配布しますが、Teams および Web Folder にもアップします。基本的にテキストや講義資料に従って講義を進めますが、講義中に調べ物などを実施して、履修者の皆さんが「手を動かす」時間を取るようにしたいと思います。なお、講義中の私語、スマートフォンなどの操作、イヤホンで音楽などを聴くことを禁止します（常識の範囲内ですが）。スマートフォンを操作する必要があるときは、指示します。  
原則として毎回、練習問題を出題します。練習問題は次回講義開始時まで提出する宿題と位置付けていますが、講義中に解答していただく場合もあります。後述のように、練習問題は成績評価の対象となります。また、練習問題の解答の際には、Microsoft Forms を利用します。  
練習問題の解説は、提出締め切り後に、復習を兼ねて行います。  
その他、重要な連絡事項は、ポータルサイトの「お知らせ登録」で周知します。

**科目学習の効果（資格）**  
現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験（事務職）や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁、市役所の専門試験については、この講義内容では十分ではありません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マクロ経済学とは	マクロ経済学の概観、マクロ経済循環について	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
2	GDP とは何だろうか	マクロ経済の基本項目である GDP (国内総生産) とその関連事項について (教科書第1章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
3	消費と貯蓄	表裏一体の関係にある消費と貯蓄について (教科書第2章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
4	設備投資と在庫投資	企業の購入である設備投資や在庫投資について (教科書第3章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
5	金融と株価	貯蓄と投資をつなぐ存在である金融について (教科書第4章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
6	貨幣の需要と供給（1）	貨幣の役割について (教科書第5章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
7	貨幣の需要と供給（2）	貨幣の需要や供給がどのような要因で起こるのかについて (教科書第5章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
8	乗数理論と IS-LM（1）	一国全体の需要である総需要の変化が国民生活に及ぼす影響について (教科書第6章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
9	乗数理論と IS-LM（2）	総需要の状況をあらわす IS-LM モデルに基づく、財政・金融政策の効果について (教科書第6章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
10	経済政策の必要性	財政・金融政策の限界と最近の金融政策について (教科書第7章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
11	財政赤字と国債	財政支出拡大の問題点について (教科書第8章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
12	インフレとデフレ	インフレとデフレが発生する要因について (教科書第9章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
13	失業	失業についての考え方と日本の失業について (教科書第10章)	講義内容の復習・練習問題（120分） 次回講義内容の予習（60分）
14	経済成長理論／オープン・マクロ経済学	①経済成長のメカニズムについて (教科書第11章) ②外国の要素を考慮したオープン・マクロ経済学について (教科書第12章)	講義内容の復習・練習問題（120分） これまでの講義内容の復習（120分）
15	確認テスト	確認テスト（成績評価の対象）	これまでの講義内容の復習（120分）

**関連科目**

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	有斐閣アルマ マクロ経済学入門（第6版）	福田慎一・照山博司	有斐閣
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法（基準）**  
練習問題（50%）、確認テスト（50%）で評価します。

**学生への**  
疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。

メッセージ	なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室
備考	15回目の確認テスト実施時に、教室を変更する可能性があります。

科目名	企業経営	科目名 (英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	花木 完爾
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02430a2		

授業概要・目的	本講義の目的は、経営学の各分野の基本的な知識を習得し、それらの知識に基づいて企業の活動を分析する能力を習得することである。本講義では、教員による講義と演習を通じて、経営学の基本的な内容について学習する。
到達目標	①企業論、経営戦略論、経営組織論の基礎的な内容を説明できる。(DP 2) ②経営理論に基づいて企業の活動を分析できる。
授業方法と留意点	授業の前半は、パワーポイントもしくはレジュメによる解説を行う。後半は、学習内容に関連した演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	中小企業診断士、公認会計士、公務員試験、大学院試験

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	経営学から何を学ぶか	本講義のガイダンスと企業の役割について学習する。	事前：シラバスと教科書の第1章を読んでおくことを事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	企業のかたち	企業の形態と分類について学習する。	事前：教科書の第2章、第3章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	株式会社の統治の仕組み	株式会社の所有と経営の関係について学習する。	事前：教科書の第4章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	経営理論の歴史 (1)	産業革命が生み出した作業管理手法の必要性について学習する。	事前：教科書の第5章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	経営理論の歴史 (2)	フレデリック・テイラーの生み出した科学的管理法について学習する。	事前：教科書の第6章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	経営理論の歴史 (3)	1920年代の古典的、新古典的経営理論 (フォード、ファヨール、メイヨー) について学習する。	事前：教科書の第7章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	経営理論の歴史 (4)	1930年代バーナードの近代的組織論について学習する。	事前：教科書の第11章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	経営組織論 (1)	組織とはなにか、学習する。	事前：教科書の第12章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	経営組織論 (2)	基本的な組織形態とさまざまな組織形態について学習する。	事前：教科書の第13章、第14章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	経営戦略論 (1)	1960年代チャンドラー、アンソフの経営戦略論について学習する。	事前：教科書の第15章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	経営戦略論 (2)	1980年代マイケル・ポーターの競争戦略論について学習する。	事前：教科書の第15章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	人事管理とリーダーシップ論	人事管理の歴史と人的資源管理について学習する。	事前：教科書の第16章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	マーケティング論	マーケティングの誕生から基礎理論までを学習する。	事前：教科書の第17章を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	生産管理論	現代の作業管理のあり方について歴史的に学習する。	事前：教科書の第4部第2章2節を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	日本的経営論	日本での経営方式の強み、弱みについて学習する。	事前：教科書の第4部第2章2・3節を読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

関連科目	日本経営史、外国経営史、経営戦略論、経営組織論
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	テキスト経営学	井原久光	ミネルヴァ書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	各講義後に実施する小テスト40%、期末レポート60%で評価する。
-----------	----------------------------------

学生へのメッセージ	予習・復習を行い、問題演習に積極的に取り組んで欲しい。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	
----------	--

備考	①小テストは、講義終了後から次回の講義の前日23時までに回答しなければならない。 ②講義資料は配布しないので各自で印刷して持参すること。講義資料の保存場所は初回の講義で説明する。 ③授業に関する質問はメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。
----	---

科目名	企業経営	科目名 (英文)	Corporate Management / Business Management
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	洪 性奉
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TSO2430a2		

授業概要・目的	この授業は、経営学を初めて学ぶ学生を対象に、経営戦略論、多国籍企業論、異文化経営、国際マーケティングなど、主なトピックスを取り上げ、その基礎知識の習得とともに、現代企業経営の課題を発見し、解決方法を模索する力を身につけることを目指す。さらに、受講生の国際性の涵養および実社会への応用を期待する。 受講生は、単なる基礎理論の習得だけではなく、疑問を持つことが非常に大切であることを認識し「あなたならどう考えるか」「あなたが経営者となったらどうアクションをとるか」などの実践的な経営感覚と課題解決能力が身につける。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業経営における諸理論の知識が身につく (DP2)。</li> <li>・経営者の視点から企業や業界の競争環境が正しく理解できる。</li> <li>・受講生は経営学に興味を持ち、自ら発見した問題又はその解決へのプロセス、基本フレームワークが有効に活用できる (DP3)。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義資料 (レジュメ、ワークシート) は教室で配布する。各講義資料は Moodle から事前入手可能。</li> <li>・講義の後にはワークシートを作成・提出し、次回にフィードバックを行う。</li> <li>・本授業は、講義中心であるが、質疑応答など学生同士のグループディスカッションが多いため受講生の積極的な授業参加を重視する。</li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	講義の進め方、成績評価、注意点などについて説明する。	事前：シラバスと講義資料を事前に読んでおくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
2	企業の本質	企業が存在する理由としてローナルド・コースの企業の本質と取引コストについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
3	企業を取り巻く外部環境	PEST および PESTEL モデルを使いマクロ環境分析について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
4	バリューチェーンの分析と再構築	企業の事業活動における価値連鎖を正しく理解し、近年、さまざまなビジネスモデルとバリューチェーンについて学ぶ。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
5	業界が儲かるかを分析する	業界の収益性に影響を与える要因を探し、その業界の収益性を分析するフレームワークについて、事例を使い演習を行う。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
6	自動車メーカーが共存できる理由	状況に応じて、自社が取るべき戦略の方向性を定めるフレームワークについて、M・E. ポーターの3つの基本戦略を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
7	ブルーオーシャン戦略とフレームワーク	事業の差別化と低コスト化は両立できるかについて、ブルーオーシャン戦略のアクションマトリックスを使い実践的考察を目指す。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
8	商業が生産を規定するシステム	大量仕入れ (生産)・大量販売など、国際分業の生産体制について、事例を使い考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
9	下請け企業の新たな道	世界的ファウンドリー企業 TSMC を事例に半導体産業について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
10	国際ビジネスにおける半導体産業	半導体産業におけるファブレス (fabless)、ファウンドリー (foundry) について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
11	まわり道の方が効率が良い	ロジスティクス (調達や物流) 業界におけるさまざまな競争戦略について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
12	身近なグローバル化	国際ビジネスと競争、市場のグローバル化、生産のグローバル化について理解する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
13	多国籍企業の参入形態	多国籍企業の参入形態と市場参入決定プロセスに影響を与える要因について考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
14	シリコンバレー企業と成長戦略	近年、シリコンバレーの新たな事業形態および成長戦略について事例を取り上げ考察する。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)
15	講義のまとめ	学習内容のまとめと補足。	事前：講義に関連する内容およびキーワードを事前に調べておくこと (1時間) 事後：講義資料を読み返しておくこと (1時間)

関連科目	競争戦略論、経営戦略論、グローバル経営論
------	----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	
-----	--

	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	戦略経営論—競争力とグローバリゼーション	マイケル A. ヒット、ロバート E. ホスキソン、R. デュエーン・アイ ルランド	セнгеージラーニング
	2	競争の戦略	マイケル・E. ポーター	ダイヤモンド社
	3	国際ビジネス 1—グローバル化と国による違い—	チャールズ・W・L・ヒル	楽工社
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・成績評価の方法：中間レポート 30%、期末レポート 40%、ワークシート 30%で評価する。</li> <li>・評価基準：授業で設定した課題への到達度を総合的に評価する。</li> <li>・中間レポートと期末レポートは授業内容への理解度ををはかる。執筆要領に従うこと。詳細は、受講生の理解度に応じて授業中に提示する。</li> <li>・その他、ワークシートの提出および積極的な発表やクラスへの貢献度を重視する。</li> </ul>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業の進行状況および受講生の理解度に応じて内容が変更する場合がある。</li> <li>・授業に関する質問は、授業の後やメールで対応する。メールアドレスは講義資料に記載する。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	洪 研究室（相談時は事前に連絡ください）			
備考				

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	野々村 元希
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02431a2		

授業概要・目的	われわれの生きる社会は、どのようなしくみによって成り立っているのか。そこにはどのような問題があり、それはなぜ生じているのか。本講義では、受講生自らがこれらの問いに向き合えるようになるために、社会学の基本的なものの見方について概説する。前半では、社会学の関心や着眼点、ならびに基礎的な概念について解説する。後半では、それらを踏まえつつ、家族、労働、医療、福祉、教育、階層といった諸領域に関する社会的知見を紹介し、現代社会の動向を多角的にとらえることを試みる。
到達目標	受講生は社会的な発想とデータの解釈にもとづき、現代社会のさまざまな社会現象・社会問題について、一歩深い水準から考察できるようになることが期待される。
授業方法と留意点	講義形式の授業を行う。授業は教員の作成した配布資料にもとづいて進められる。
科目学習の効果 (資格)	日々の個人的な経験を、社会構造やその歴史的変化との関連において把握する能力を身につけることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	講義への導入	授業の流れについて理解する。
2	社会学とは何か	社会学の対象と研究枠組み	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
3	社会学の基礎知識 (1)	社会化、地位と役割	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
4	社会学の基礎知識 (2)	逸脱行動	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
5	社会学の基礎知識 (3)	意図せざる結果①：予言の自己成就	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
6	社会学の基礎知識 (4)	意図せざる結果②：潜在的機能	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
7	家族・労働の社会学 (1)	近代家族とその変容	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
8	家族・労働の社会学 (2)	結婚、少子化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
9	家族・労働の社会学 (3)	共働き家族	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
10	医療・福祉の社会学 (1)	医療化	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
11	医療・福祉の社会学 (2)	監視のテクノロジー	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
12	医療・福祉の社会学 (2)	福祉国家	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
13	教育・階層の社会学 (1)	階級と階層、格差と貧困	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
14	教育・階層の社会学 (2)	学歴	レジュメや紹介した文献を読んで復習する (1 時間)。
15	総括	講義のまとめ	授業全体を振り返る。

関連科目	社会学 (社会学 I)、社会学 II
------	--------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎社会学講義—社会的分析の基本枠組	小林久高	学文社
2				
3				

評価方法 (基準)	コメント (10%) : 授業内容に関するコメントを授業後に求める。 期末試験 (90%) : 授業内容に関する筆記試験を行う。
-----------	---

学生へのメッセージ	授業内容に興味があり、「これは楽しめそうだ」という人が参加してください。 社会学や哲学の本を読んだり、社会のさまざまな事柄について考えたりすることが好きな学生の参加を期待します。
-----------	--

担当者の研究室等	
----------	--

備考	毎回の 1.5 時間以上の自宅学習を行い授業に参加すること。  教員のメールアドレスは下記の通り。 motoki.nonomura@edu.setsunan.ac.jp
----	---

科目名	社会の仕組み	科目名 (英文)	Structure of Society
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 裕久
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02431a2		

授業概要・目的	<p>この「社会の仕組み」の授業では、「社会学」や「文化人類学」を学問的基礎と位置づけ、それらの多種多様な枠組みや論題の中から、身近なトピックを選び出し、課題として検討する。</p> <p>上述の学問は「社会科学」の一部を成すが、主専攻が理工系学問分野である受講生のために、「受講生の専攻に傾斜させた理工学部的な視点」から社会の仕組みを講じる。理工学部の受講生にもわかりやすい授業を行いたい。</p> <p>授業の具体的な内容は授業テーマや全体の計画を参照いただきたいが、社会や文化における諸事象を各回のトピックとして取り上げ、講義をすすめてゆく。授業は1回から3回程度で完結するオムニバス形式で行う。これらの諸課題の学習(受講とその後の復習など)を通じて、諸項目の社会的かつ文化的な意味づけを理解させながら、社会全体へとつながる豊かな視点も養成できればと考えている。</p> <p>2度の小テスト[原則的に非公開]と定期試験により評価を行い、到達度を点数化して表す。</p>																																																																
到達目標	この科目の履修によって、授業テーマに挙げた課題に関し、社会科学(具体的には社会学や文化人類学)の認識として、適宜、客観的な説明が行えるようになる。このことは大学生としての教養の養成のみならず、社会人としての素養を身につけることがらに直結している。																																																																
授業方法と留意点	<p>講義形式が中心。授業内容に即した映像を副次的に教材として利用することがある。また、回答が用意されていない問題については、PBL(Problem-based Learning)を取り入れ、問題解決の方向性を探る。</p> <p>基本的には、積極的にノートをとることが肝要。授業中の私語と携帯電話の使用は厳禁である。自筆ノートが毎回2ページほどずつ蓄積されるが、例年、そのノートを持ち込んで定期試験をおこなっている。</p> <p>授業の内容を毎年変更しているため、昨年度のノートは意味を成さない点は、受講前に認識しておくべきである。</p>																																																																
科目学習の効果(資格)	工学諸分野と協同すべき社会や文化の諸課題をめぐり、枠組みや考え方に則して問題を理解し、その解決方法を具体的に検討することができる。																																																																
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>イントロダクション・授業の進め方・用語の考え方</td> <td>座学としての受講の仕方、授業の進め方、ならびに社会の意味等について検討し、認識を深める。</td> <td>社会について認識を深める。総論的な学習方法については備考欄を参照のこと。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>社会とは何か</td> <td>人間を社会的存在として検討し、その考え方や応用に触れる。</td> <td>日頃認識しない社会について説明できる。また受講生自身が社会的存在であることを認識し、説明できる。</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>文化とは何か?</td> <td>文化の意味と概念について検討する。</td> <td>文化の持つ意味について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>人種や民族の概念(1)</td> <td>人種に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。</td> <td>人種の概念についてその構構性の認識に至ること。</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>人種や民族の概念(2)+小テスト/変動あり</td> <td>民族に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。</td> <td>民族に関する概念について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>家族・親族とは何か(1)</td> <td>家族をめぐる諸概念について検討する。</td> <td>家族の形態や概念について一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>家族・親族とは何か(2)</td> <td>親族をめぐる諸概念について検討する。</td> <td>親族の特質や概念について一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>病気と障がい(1)</td> <td>病気という概念について具体的に検討する。</td> <td>病気と障がいとの連関や社会との関係性について一定の説明をすることができる。</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>病気と障がい(2)</td> <td>障がいという概念について具体的に検討する。</td> <td>障がいと社会との関係性について一定の説明をすることができる。</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>地域社会と生活様式(1)</td> <td>エネルギーが絡む地域社会のありさまと私たちの生活様式について検討する。</td> <td>地域社会とエネルギーの関係性について説明できること。</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>地域社会と生活様式(2)</td> <td>生活様式と倫理について検討する。</td> <td>社会倫理やそれをめぐる考え方等について一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>地域社会と生活様式(3)+小テスト(2)/変動あり</td> <td>生活様式と倫理について引き続き検討する。</td> <td>倫理と生活様式の結びつきについて一定の説明ができること。</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>科学技術と社会(1)</td> <td>過去の発明や今日的な科学技術の相関について検討する。</td> <td>科学技術論の展開について社会科学的な立場から一定の意見や回答を提示できる。</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>科学技術と社会(2)</td> <td>科学技術と社会との連携について検討する。</td> <td>科学技術と私たちの日常生活の強い連携について考えることができる。</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>科学技術と社会(3)</td> <td>科学技術と社会問題の生成について検討する。</td> <td>社会問題が科学技術によって産み出される例があることについて考え至ることができる。</td> </tr> </tbody> </table>	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	イントロダクション・授業の進め方・用語の考え方	座学としての受講の仕方、授業の進め方、ならびに社会の意味等について検討し、認識を深める。	社会について認識を深める。総論的な学習方法については備考欄を参照のこと。	2	社会とは何か	人間を社会的存在として検討し、その考え方や応用に触れる。	日頃認識しない社会について説明できる。また受講生自身が社会的存在であることを認識し、説明できる。	3	文化とは何か?	文化の意味と概念について検討する。	文化の持つ意味について説明できること。	4	人種や民族の概念(1)	人種に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	人種の概念についてその構構性の認識に至ること。	5	人種や民族の概念(2)+小テスト/変動あり	民族に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	民族に関する概念について説明できること。	6	家族・親族とは何か(1)	家族をめぐる諸概念について検討する。	家族の形態や概念について一定の説明ができること。	7	家族・親族とは何か(2)	親族をめぐる諸概念について検討する。	親族の特質や概念について一定の説明ができること。	8	病気と障がい(1)	病気という概念について具体的に検討する。	病気と障がいとの連関や社会との関係性について一定の説明をすることができる。	9	病気と障がい(2)	障がいという概念について具体的に検討する。	障がいと社会との関係性について一定の説明をすることができる。	10	地域社会と生活様式(1)	エネルギーが絡む地域社会のありさまと私たちの生活様式について検討する。	地域社会とエネルギーの関係性について説明できること。	11	地域社会と生活様式(2)	生活様式と倫理について検討する。	社会倫理やそれをめぐる考え方等について一定の説明ができること。	12	地域社会と生活様式(3)+小テスト(2)/変動あり	生活様式と倫理について引き続き検討する。	倫理と生活様式の結びつきについて一定の説明ができること。	13	科学技術と社会(1)	過去の発明や今日的な科学技術の相関について検討する。	科学技術論の展開について社会科学的な立場から一定の意見や回答を提示できる。	14	科学技術と社会(2)	科学技術と社会との連携について検討する。	科学技術と私たちの日常生活の強い連携について考えることができる。	15	科学技術と社会(3)	科学技術と社会問題の生成について検討する。	社会問題が科学技術によって産み出される例があることについて考え至ることができる。
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																														
1	イントロダクション・授業の進め方・用語の考え方	座学としての受講の仕方、授業の進め方、ならびに社会の意味等について検討し、認識を深める。	社会について認識を深める。総論的な学習方法については備考欄を参照のこと。																																																														
2	社会とは何か	人間を社会的存在として検討し、その考え方や応用に触れる。	日頃認識しない社会について説明できる。また受講生自身が社会的存在であることを認識し、説明できる。																																																														
3	文化とは何か?	文化の意味と概念について検討する。	文化の持つ意味について説明できること。																																																														
4	人種や民族の概念(1)	人種に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	人種の概念についてその構構性の認識に至ること。																																																														
5	人種や民族の概念(2)+小テスト/変動あり	民族に関する諸概念について学び、認識を新たにさせる。	民族に関する概念について説明できること。																																																														
6	家族・親族とは何か(1)	家族をめぐる諸概念について検討する。	家族の形態や概念について一定の説明ができること。																																																														
7	家族・親族とは何か(2)	親族をめぐる諸概念について検討する。	親族の特質や概念について一定の説明ができること。																																																														
8	病気と障がい(1)	病気という概念について具体的に検討する。	病気と障がいとの連関や社会との関係性について一定の説明をすることができる。																																																														
9	病気と障がい(2)	障がいという概念について具体的に検討する。	障がいと社会との関係性について一定の説明をすることができる。																																																														
10	地域社会と生活様式(1)	エネルギーが絡む地域社会のありさまと私たちの生活様式について検討する。	地域社会とエネルギーの関係性について説明できること。																																																														
11	地域社会と生活様式(2)	生活様式と倫理について検討する。	社会倫理やそれをめぐる考え方等について一定の説明ができること。																																																														
12	地域社会と生活様式(3)+小テスト(2)/変動あり	生活様式と倫理について引き続き検討する。	倫理と生活様式の結びつきについて一定の説明ができること。																																																														
13	科学技術と社会(1)	過去の発明や今日的な科学技術の相関について検討する。	科学技術論の展開について社会科学的な立場から一定の意見や回答を提示できる。																																																														
14	科学技術と社会(2)	科学技術と社会との連携について検討する。	科学技術と私たちの日常生活の強い連携について考えることができる。																																																														
15	科学技術と社会(3)	科学技術と社会問題の生成について検討する。	社会問題が科学技術によって産み出される例があることについて考え至ることができる。																																																														
関連科目	なし。																																																																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>使用しない。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	使用しない。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	使用しない。																																																																
2																																																																	
3																																																																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>授業中に適宜、告知する。</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	授業中に適宜、告知する。			2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																														
1	授業中に適宜、告知する。																																																																
2																																																																	
3																																																																	
評価方法(基準)	授業中の小テスト[25点]×2回。定期試験[50点]50%。小テストは必ず受験すること。小テストの結果は個々には公にしない。原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。																																																																
学生への	受講生は授業の内容の中に、自分の将来に役立つ知識を見出すことに努めること。																																																																



メッセージ	<p>授業中にパワーポイントのスライドを流すため、積極的にノートを取ることが肝要。</p> <p>基本的に授業時間内のスマホの利用は厳禁する。電源をオフにしてから入室すること。</p>
担当者の研究室等	
備考	<p>事前事後の学修の時間について下に記す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 事前事後学修には、毎回最低 30 分以上かけ、根拠が明確なウェブサイトの情報だけでなく、できるだけ文献(授業中に告知した参考書を含む)を渉猟すること。</li> <li>2) 期末の定期試験の準備を含め、自主学修には最低でも合計 7 時間はかけること。</li> <li>3) 授業中に付随する英(単)語を示すことがあるが、それは術語であるため、その概念を捕捉するために数分でも時間をかけ、意味内容を把握するように努めること。</li> </ol>

科目名	マーケティング	科目名 (英文)	Marketing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	武居 奈緒子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02432a2		

授業概要・目的	この講義では、マーケティングの基礎知識や基本的な分析枠組みについて理解を深めることを目的としています。製品政策、価格政策、流通政策、販売促進政策の展開過程を学習していきます。
到達目標	マーケティングの基礎知識を学習し、現実のマーケティング現象を理解できるようになる。
授業方法と留意点	『消費行動』のテキストは、新版を準備して下さい。 講義形式、出席率80%以上を成績評価の対象とする。
科目学習の効果 (資格)	

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	マーケティングの全体について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
2	マーケティングとは何か	マーケティングとは何かについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・マネジメントに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
3	製品政策	製品の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
4	価格政策	価格の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、価格政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
5	流通チャネル政策	流通の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、流通チャネル政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
6	販売促進政策	販売促進の基本的な知識について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、販売促進政策に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
7	消費者の購買意思決定過程	消費者の購買意思決定過程について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費者の購買意思決定過程に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
8	消費パターンと消費行動の歴史の変遷	消費行動の歴史の変遷過程について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、消費行動の歴史の変遷に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
9	マーケティング・リサーチ	マーケティング・リサーチの基礎について説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング・リサーチに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
10	市場細分化戦略	市場細分化戦略について、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、市場細分化に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
11	製品ライフサイクル戦略	製品ライフサイクルについて、説明します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、製品ライフサイクルに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
12	競争の戦略 (1)	競争の基本戦略、企業の地位別戦略について、学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、競争戦略や企業の地位別戦略に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
13	競争の戦略 (2)	SWOT分析、バリューチェーン分析について学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、SWOT分析やバリューチェーン分析に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
14	グローバル・マーケティング	グローバル・マーケティングについて学習します。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、グローバル・マーケティングに関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)
15	講義のまとめ	全体のまとめをします。	あらかじめ授業の下調べをしておきましょう。事後学習として、文献や新聞で、マーケティング全般に関連する内容を読みましよう。(所要時間1時間)

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	消費行動 新版	武居 奈緒子	晃洋書房
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	期末レポート (80%)、中間レポート (20%)		
学生への メッセージ			
担当者の 研究室等	11号館8階 武居教授室		
備考			

科目名	産業社会と知的財産	科目名 (英文)	Industrial Society and Intellectual Property
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	林 正浩
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02433a2		

授業概要・目的	<p>近年、知的財産の戦略的な創造と活用が企業経営の機能として占める意義がますます高まっています。効率的な企画・開発プロセスにより高収益体質のビジネスモデルを作り上げるためには、知的財産を成長戦略の軸として活用することが必要不可欠となっています。知的財産（特許権）を企業成長戦略に必要な武器として今後創出し、活用するために必要な基本的な知識と戦略、法的背景について事例を通じて学びます。(D P 2)</p> <p>【SDGS-9】(産業と技術革新の基盤をつくろう)</p> <p>【担当教員実務経歴】</p> <p>①地域金融機関 (本店営業部ベンチャー企業向け融資審査役)</p> <p>②新日本監査法人 (ベンチャー等、事業会社の無形資産価値評価: 資産査定業務)</p> <p>③ベンチャー投資財団 (株式会社公開準備企業における特許等無形資産の戦略的管理指導)</p> <p>④静岡大学 (知的財産本部副本部長 研究シーズ、特許等の出願、管理に係る業務)</p>
到達目標	企業での開発業務等において、技術者として必要な基本的で且つ実践的な知的財産に関する知識を事例等を通じて習得し、企業等が求めている戦略的且つ挑戦意欲があり、開発を経営的視点で広く捉えられる人材の育成を目指します。(D P 2)
授業方法と留意点	毎回、当該授業内容に関する「講義資料」は Teams のチャンネル「日付」のファイルに、授業回の前週金曜日に格納しておきますので、自身で印刷の上、授業に参加して下さい。資料は1週間で入れ替えます。 毎回、講義内容に関する質問 (小レポート) を講義終了時に提出してもらいます。 毎回授業の最終で提示する予習項目について事前に調べてきてもらいます。
科目学習の効果 (資格)	研究者、技術者であっても企業の研究開発 (知的資産) の戦略的活用ノウハウ (D P 3) 社会生活、企業活動における遵守すべき知的資産の管理ノウハウ (D P 5)

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	講座ガイダンス 知的財産の基礎	講座ガイダンス (勉強方法・評価方法) 企業における知的財産の活用事例 小レポート設問による授業内容の再確認。	<事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)
2	特許権等知的財産権の種類と特徴	「発明」の概念と法的解釈。 小レポート設問による授業内容の再確認。	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
3	企業における知財戦略	特許出願リスクとライセンスの基本的考え方 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
4	ニーズ志向での知財戦略	プロパテント政策による知財ニーズの捉え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
5	ビジネスモデル特許と営業秘密	不正競争防止法に対応する知財の考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
6	職務発明と知財権の法的効力	独占禁止法と知財権の法的効力の関係を理解する。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
7	知財権調査の考え方	知財権調査の仕組みと活用方法。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
8	知財価値評価	知的財産権の価値評価とその活用について理解する。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
9	知財ファイナンス・特許侵害の判断基準	知財高次活用の考え方と侵害に対する基本的対応。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
10	特許侵害訴訟	侵害行為に対抗するための基本的考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
11	ライセンス契約の考え方	ライセンス手法と法的権利との関係。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
12	商標権の制約・契約実務	商標権の活用とその成立のための考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。
13	国際ライセンス条約・標準規格の考え方	国際ライセンス手法と国際標準化戦略の基本的考え方 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前> 次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習 (30分)。 <事後> Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習 (30分)。

	14	知財管理 Case by Case	各国・地域における知財法の考え方。 小レポート設問による授業内容の再確認	<事前>次回授業の予習項目についてネットや新聞等を活用した事前学習（30分）。 <事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
	15	アニメ著作権における事業活動	著作権による事業戦略事例 小レポート設問による授業内容の再確認	<事後>Teams 録画聴講による授業内容の再確認と事例等の検索・学習（30分）。
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	知的創造活動と知的財産	工業所有権情報・研修館	工業所有権情報・研修館
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>①毎回の小レポートに対する回答評価（評価割合：50%） 授業内容のお復習いとして設定してある設問について、授業から学んだ手法を用いた自身の考え方を評価します。また小レポート内の「設問2」（授業内容に関する質問および要望）について、積極的に質問または提案した場合、予習項目について事前に調べてきた場合は加点評価とします。 なお、当該質問や要望については、次回授業時に解説文を付けて一覧表にして学習者全員に資料配付します。</p> <p>②期末試験（評価割合：50%） 知的財産権の基本的な戦略的考え方</p>			
学生への メッセージ	我々の消費生活における身の回りの製品・商品には多々、知的資産が活用されています。これら知的資産を戦略的に活用・管理する手法が、企業単位だけではなく、国の施策としても重要視されてきています。 社会人としてこれら戦略的思考を身に付けると共に、学生時代とは異なる著作物やデータの法令に則った取扱いの重要性を認識してください。			
担当者の 研究室等	11号館7階 林研究室			
備考	工業所有権情報・研修館のサイトのうち、「知的財産人材の育成」のカテゴリーより、「知的創造活動と知的財産」のテキストをダウンロード（無料）し、学習に役立ててください。 毎回の講義資料は Teams にアップしますので、当該週の金曜日までに各自ダウンロードしておいて下さい。期末定期試験の際に、講義資料（紙ベース）での持ち込みは可です。毎週金曜日に次週講義資料と入れ替えますので、承知しておいて下さい。			

科目名	国際理解概論	科目名 (英文)	International Cooperation
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	中西 功
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02434a2		

授業概要・目的	グローバル化により人・物・金・情報が国境を越えて高速で動くようになり、世界での出来事が我々の日々の生活に直接影響を及ぼすようになった。新型コロナウイルスが短期間で世界的に蔓延して、さまざまな分野に大きな影響を及ぼしたことは記憶に新しい。グローバルに経済的な合理性を追求することで社会が大きく発展した一方で、その反動として環境破壊や人や地域での格差や断絶を生み、各地で突如異常気象や地域紛争が勃発し不安定さを生みだしている。授業では、このような VUCA (先行きが不透明で、将来の予測が難しい) の時代に、現在世界で起きていることを正しく理解し、それを自分の問題としてどのように対応してゆくべきかを考える。米州、欧州、中国・アジア、日本の4極を政治・経済・社会・技術の4つの視点で整理することで、我々をとりまく大きな環境の変化を理解する。さらに、それらの環境に変化に対応する先進的な企業の取り組み事例を学ぶことで、より具体的な仕事や行動のレベルでの理解をはかる。そのうえで、自分自身の生活や日常に関連づけて、今後の将来の方向性、進路、キャリア、取り組むべき学習について考える。
到達目標	論理的に物事を整理して理解するためいくつかのフレームワークを利用しながら習得する。 習得したフレームワークを活用して、自分自身の将来の方向性、将来ビジョンの設定、これからの学習への取り組み案を作成する。(期末試験として小論文にまとめる)
授業方法と留意点	講義形式を原則とするが、随時対話を取り入れ、学生が主体的に授業に参加して、議論をつうじて理解を深めることを目指す。Teams のチャット機能を利用して、授業時間中にも随時学生からの発信を受取り授業に反映させる。
科目学習の効果 (資格)	物事を論理的に考え、発信できる能力を身につける。 自分自身の将来の方向性、進路、キャリア、学習についての示唆を得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	世界情勢を整理するための PEST 分析	世界情勢を理解するために、政治 (P)・経済 (E)・社会 (S)・技術 (T) の切り口で整理するフレームワーク PEST 分析を学ぶ。	講義の復習・課題作成 次回のキーワード「一帯一路」について事前に調べておく (1.5時間)
3	①中国 一帯一路構想	超大国を目指す中国の「一帯一路構想」の政治的思惑を学び、日本ははじめ世界へ及ぼす影響について考える。	講義の復習・課題作成 トランプ前大統領がとった主な政策を確認しておく (1.5時間)
4	②米国 新自由主義がもたらした分断社会	経済優先の新自由主義がもたらした深刻な社会の分断と経済・技術・軍事で追い上げる中国との摩擦について考える。	講義の復習・課題作成 次回のテーマの英国の EU 離脱について、基礎的な事項を確認しておく (1.5時間)
5	③欧州 英国の EU 離脱と離脱後の EU	英国の離脱と格差が広がる EU 各国が抱える問題に加えロシアのウクライナ侵攻の影響を理解し、地域の統合と分離のメリットとデメリットについて考える。	講義の復習・課題作成 次回のテーマ「岸田首相の新しい資本主義」について、基礎的な事項を確認しておく (1.5時間)
6	④日本 成長と分配の好循環を目指す新しい資本主義	岸田首相の提唱する「新しい資本主義」をアベノミクスと比較しながら考える。	講義の復習・課題作成 SDG's という言葉を事前に調べておく (1時間)
7	(E) 経済 米中覇権争いと自由貿易	米国を経済的に急激に追い上げる中国と政治的に激しい覇権争いに発展し、東アジアでも緊張を高めている。「経済安保」ということについて考える。	講義の復習・課題作成 (1時間)
8	(S) 社会 少子高齢化、超長寿命社会の到来	日本を筆頭に、先進国では少子高齢化が急激に進み、政治・経済・社会に大きな影響を及ぼし始めている。人生 100 年時代に向けた課題について考える。	講義の復習・課題作成 次回のテーマのデジタル化について、AI・ロボットの日常への普及が及ぼす影響を調べておく (1.5時間)
9	(T) 技術 加速するデジタル化 (DX) と脱炭素化	DX (デジタルトランスフォーメーション) と脱炭素化による産業構造や社会への影響を学ぶ。そのうえで自分のこれからの職業や働き方というものについて考える。	講義の復習・課題作成 (1時間)
10	企業研究① 企業活動を定性的に理解する	ネットを使って企業の業績やビジョン・戦略の調査の仕方と簡単な分析の手法を学び、いい会社 (就職先として、取引先として) について考える。	講義の復習・課題作成 自分が関心を持っている企業の有価証券報告書をダウンロードして、学んだ手法で分析をしてみる (1.5時間)
11	企業研究② 企業活動を定量的に理解する	企業の決算資料から、企業の取り組みについて読み解く。有価証券報告書の簡単な読み方を学び、いい会社について数字で考える。	講義の復習・課題作成 ネットで自分が関心を持っている企業の戦略、ビジョンを調べてみる (1.5時間)
12	企業研究③ 日本の製造業のグローバル化への取り組みを理解する (自動車)	トヨタ自動車などを事例に、日本の製造業の発展の歴史を理解したうえで、これからの脱炭素社会に向けた取り組みについて考える。	講義の復習・課題作成 ネットで自分が関心を持っている企業の戦略、ビジョンを調べてみる (1.5時間)
13	企業研究④ 日本の製造業のグローバル化への取り組みを理解する (電機、製薬、建設、他)	自動車産業の発展の歴史と比較しながら、他の産業についての理解を深める。これからの新しい社会に向けた各業界の新しい取り組みについて考える。	講義の復習 (1時間) *期末試験の小論文の準備
14	企業研究⑤ M&A によるグローバル化 (海外への投資、海外から日本への投資)	外国企業を買収した日本企業、買収された日本企業について理解したうえで、グローバル化における M&A という方法について考える。	講義の復習 (1時間) SWOT 分析について自分で練習する *期末試験の小論文の準備
15	グローバルに考え、ローカル	いままでの学びを振り返り、自分自身の	講義の復習 (1時間)

		に行動する	SWOT 分析を行い、自分自身としての職業観とこれからの時代を生き抜くための学びを考える。	* 期末試験の諸論文の準備
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の講義修了時に提出を求める課題 50%、定期試験 (論文) の点数 50% 両方で評価します。 *毎回の講義修了後に講義での気づきや、次回の講義の準備となるコメントを簡単に記入していただき、Teams で提出していただきます。			
学生への メッセージ	授業では積極的な発言・発信を期待しています。(Teams のチャット機能も併用する予定)			
担当者の 研究室等	非常勤講師ですので研究室はありません。授業内に質疑の時間を設けます。 オンライン授業の場合は、随時チャット機能やメールを利用した質問を受け付けます。			
備考	テキストはありませんが、重要なキーワードについては、ネット等で事前に簡単に調べて予習をしておいてください。 Teams で提出いただいた気づきやコメントは、Teams でフィードバックいたします。			

科目名	インターンシップ I	科目名 (英文)	Internship I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA2441a2		

授業概要・目的	<p>主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じる事が期待される。 前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義 (演習を含む) であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果 (資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>・組織の形態を知る</li> <li>・ビジネスへの理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること (0.5 時間)</li> </ul>
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・産業の分類を知る</li> <li>・業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること (0.5 時間)</li> </ul>
4	企業研究を志望動機に結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>・志望動機を組み立て方について考える</li> <li>・企業研究を志望動機に結び付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：自身の興味のある企業について調べること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること (0.5 時間)</li> </ul>
5	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人としての心構えを知る</li> <li>・身だしなみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：配付されたテキストを精読すること (0.5 時間)</li> </ul>
6	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文書でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること (0.5 時間)</li> </ul>
7	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> <li>・口頭でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：マナーの大切さを再度考えること (0.5 時間)</li> </ul>
8	履歴書・エントリーシートについて考える①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エントリーシートとは何かを知る</li> <li>・エントリーシートを書くための前準備を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：エントリーシートを書く準備をしておくこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること (0.5 時間)</li> </ul>
9	履歴書・エントリーシートについて考える②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターンシップ用の履歴書を記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること (0.5 時間)</li> </ul>
10	グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える</li> <li>・実際にグループディスカッションに取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：グループディスカッション時の自身の行動を振り返る (0.5 時間)</li> </ul>
11	グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：グループ内の自分の役割を考えること (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：自グループ及び他グループの発表を振り返ること (0.5 時間)</li> </ul>
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前訪問のマナーと準備について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べる (0.5 時間)</li> <li>・事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること (0.5 時間)</li> </ul>
13	課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・インターン先を調べて、インターンシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること</li> </ul>



	②	ップで何を学びたいかをプレゼンテーション	(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)																
	14	課題のプレゼンテーション ③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション ・事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修：プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)																
	15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する ・事前学修：インターンシップ I で学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修：インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)																
関連科目	キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	平常点(各回のミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す																		
学生への メッセージ	<p>インターンシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)</p> <p>インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある</p>																		
担当者の 研究室等	水野講師室(7号館3階)																		
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジュメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。</p>																		

科目名	インターンシップⅡ	科目名 (英文)	Internship II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA3442a2		

授業概要・目的	インターンシップの目的は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に社会における仕事の役割、仕事の成果、仕事に対する責任と充実感を肌で感じることである。
到達目標	インターンシップ先での実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択肢や可能性について主体的に考えることができる。講義での学び、経験を通じて、職業観を涵養し、それを他者に伝えることができる。
授業方法と留意点	「事前学修→インターンシップ実習→事後学修」という流れで実施するので、必ず日程を確認しておくこと。 実習中は、大学の代表、そして実習先の一員としての意識を持って参加すること。 事前学修・事後学修はすべてスーツ着用のこと。 受講態度や規則等を著しく逸脱し、注意しても改善が見られない場合は、実習参加を許可しない場合もあることを理解しておく。 Covid-19の影響により、実習が中止になることもある。
科目学習の効果 (資格)	就職活動や将来を考えるうえでの貴重な出会いや気づきを得ることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	直前学修② 6月22日(土) 4限目(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学習: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
3	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
4	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
5	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
6	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
7	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
8	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(1.5時間)
9	体験報告書の作成・提出・指導	・報告書提出/ゼミ教員 ・インターンシップ担当教員における報告書のチェックと指導 (担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 事前学修②の通りに報告書を作成するが、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(2時間)
10	事後学修① 9月14日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
11	事後学修② 9月14日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学修: 個人発表用のレジュメを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(1.5時間)
12	事後学修③ 9月28日(土) 3限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
13	事後学修④ 9月28日(土) 4限目(予定)	・体験報告会に向けたプレゼン指導及び個人発表	・事前学習: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(1.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(1.5時間)
14	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限目(予定)	・インターンシップを振り返る (実習記録簿の提出)	・事前学習: 実習記録簿を見直してこること(1時間)
15	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限目(予定)	・インターンシップを振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返ること(1時間)

関連科目	インターンシップⅠ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	企業による報告書 (20%)、体験報告書など提出物 (40%)、発表を含む授業態度 (投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、グループワークの参加姿勢など) (40%) を総合的に評価する。			
学生への メッセージ	「インターンシップ I」を必ず履修すること。			
担当者の 研究室等	水野講師室 (7号館 3階)			
備考	<p>教科書・・・必要に応じてレジユメを配布する。 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示する。</p> <p>なお、振り返りの課題 (体験報告書、報告プレゼンテーションのためのスライド作成など) は3時間以上かけて仕上げること。 事前事後学修に出席する際は、必ずスーツを着用してくること。</p>			

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1443a2		

授業概要・目的	私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦労はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を言語と非言語によって正確に伝達することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要である。また、他者から発せられるメッセージを読解するにも、同様のスキルが求められる。この授業では、社会生活において不可欠な言語・非言語の伝達と読解能力を一段高いレベルで習得し、それに伴う思考力の習得と向上をめざす。
到達目標	社会生活に求められる基本的なコミュニケーションの仕組みと理論をまなび、実践を目指す。特に、大学生・社会人として不足のない意思伝達と他者理解能力を習得することを目指す。就職活動に必要な自己表現方法をマスターし、ひいては社会人に相応しい会話・ふるまい・他者理解ができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	提示の資料内容に関する講義をおこないます。
科目学習の効果 (資格)	文章の読解・文章の作成・対話 (コミュニケーション) といった日本語能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	コミュニケーションとは何かをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
2	コミュニケーションとは何か	コミュニケーションのバリエーションをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
3	コンテキストとは何か	コミュニケーション理解の文脈をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
4	コミュニケーションコンピテンス	対人能力の種類をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
5	言葉の機能	言葉が果たす役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
6	ノイズについて	コミュニケーションを妨害する要素をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
7	言語とは何か	言葉を獲得するプロセスをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
8	言語コミュニケーションの特性①	言葉の特性についてまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
9	言語コミュニケーションの特性②	言葉の特性についてまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
10	非言語コミュニケーション①	言葉以外のコミュニケーションツールをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
11	非言語コミュニケーション②	非言語の役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
12	非言語コミュニケーション③	身振り・化粧・服装の意味をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
13	表情のコミュニケーション	表情の理路をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
14	流行・世論について	流行発生と流布、世論の役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
15	レポート課題の提示と説明	前期の総括	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	レポート 90%、毎回の簡単な課題 10%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	コミュニケーションの仕組みに関心をもって下さい。積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	コミュニケーション I	科目名 (英文)	Communication I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1443a2		

授業概要・目的	私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にさして苦労はないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を言語と非言語によって正確に伝達することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要である。また、他者から発せられるメッセージを読解するにも、同様のスキルが求められる。この授業では、社会生活において不可欠な言語・非言語の伝達と読解能力を一段高いレベルで習得し、それに伴う思考力の習得と向上をめざす。
到達目標	社会生活に求められる基本的なコミュニケーションの仕組みと理論をまなび、実践を目指す。特に、大学生・社会人として不足のない意思伝達と他者理解能力を習得することを目指す。就職活動に必要な自己表現方法をマスターし、ひいては社会人に相応しい会話・ふるまい・他者理解ができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	提示の資料内容に関する講義をおこないます。
科目学習の効果 (資格)	文章の読解・文章の作成・対話 (コミュニケーション) といった日本語能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	コミュニケーションとは何かをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
2	コミュニケーションとは何か	コミュニケーションのバリエーションをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
3	コンテキストとは何か	コミュニケーション理解の文脈をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
4	コミュニケーションコンピテンス	対人能力の種類をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
5	言葉の機能	言葉が果たす役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
6	ノイズについて	コミュニケーションを妨害する要素をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
7	言語とは何か	言葉を獲得するプロセスをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
8	言語コミュニケーションの特性①	言葉の特性についてまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
9	言語コミュニケーションの特性②	言葉の特性についてまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
10	非言語コミュニケーション①	言葉以外のコミュニケーションツールをまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
11	非言語コミュニケーション②	非言語の役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
12	非言語コミュニケーション③	身振り・化粧・服装の意味をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
13	表情のコミュニケーション	表情の理路をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
14	流行・世論について	流行発生と流布、世論の役割をまなぶ	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
15	レポート課題の提示と説明	前期の総括	毎回の授業時に指示します。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目	特になし。
------	-------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	レポート 90%、毎回の簡単な課題 10%の割合で評価する。
学生へのメッセージ	コミュニケーションの仕組みに関心をもって下さい。積極的な参加を期待します。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する

科目名	コミュニケーションⅡ	科目名 (英文)	Communication II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1444a2		

授業概要・目的	私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にはさして苦労はしないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を言語と非言語によって正確に伝達することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要である。また、他者から発せられるメッセージを読解するにも、同様のスキルが求められる。この授業では、社会生活において不可欠な言語・非言語の伝達と読解能力を一段高いレベルで習得し、それに伴う思考力の習得と向上を目指す。
到達目標	社会生活に求められる基本的なコミュニケーションの仕組みと理論を学び、実践を目指す。特に、大学生・社会人として不足のない意思伝達と他者理解能力を習得することを目指す。就職活動に必要な自己表現方法をマスターし、ひいては、社会人にふさわしい会話・ふるまい・他者理解ができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。
科目学習の効果 (資格)	文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	コミュニケーションについてまなぶ	基本事項の説明	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	2	認識のメカニズム	認知認識のメカニズムを学ぶ。	認識の構造について確認すること。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	3	聴くと聞く	ヒアリングの回路を学ぶ。	「きく」ことの働きを確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	4	人を動かすコミュニケーション①	説得について学ぶ。	説得の技術を確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	5	人を動かすコミュニケーション②	動機付けについて学ぶ。	説得の技術を確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	6	対人コミュニケーション①	階層理論を学ぶ。	小規模コミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	7	対人コミュニケーション②	人間関係発展のプロセスを学ぶ。	中規模のコミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	8	小集団のコミュニケーション	複数人内のコミュニケーションを学ぶ	大規模コミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	9	組織のコミュニケーション	上下関係のコミュニケーションを学ぶ	トップダウンの構造を理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	10	自己とコミュニケーション	自己操作を学ぶ。	印象操作について理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	11	うわさのコミュニケーション	うわさの効用を学ぶ。	うわさの構造を理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	12	マスメディアの影響	マスメディアの功罪を学ぶ	メディアの功罪を考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	13	広告のコミュニケーション	広告の効能を学ぶ	広告の役割を考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	14	異文化間コミュニケーション①	異文化間のコミュニケーションを学ぶ。	他文化とは何かを考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	15	異文化間コミュニケーション②	後期総括	他文化と自文化の間でどうあるべきかを考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 授業態度 (提出物) 10%、レポート90%。  
毎回 400 字程度のかんたんな課題の提出を求めます。

学生へのメッセージ 意欲的な参加を求めます。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	コミュニケーションⅡ	科目名(英文)	Communication II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1444a2		

授業概要・目的	私たちは日本語を母語としているため、読み・書き・会話にはさして苦労はしないと考えがちである。だが実際は、自己の意思や思考を言語と非言語によって正確に伝達することは必ずしも容易ではない。そのためには一定の技術と知識が必要である。また、他者から発せられるメッセージを読解するにも、同様のスキルが求められる。この授業では、社会生活において不可欠な言語・非言語の伝達と読解能力を一段高いレベルで習得し、それに伴う思考力の習得と向上を目指す。
到達目標	社会生活に求められる基本的なコミュニケーションの仕組みと理論を学び、実践を目指す。特に、大学生・社会人として不足のない意思伝達と他者理解能力を習得することを目指す。就職活動に必要な自己表現方法をマスターし、ひいては、社会人にふさわしい会話・ふるまい・他者理解ができるようになることを目指す。
授業方法と留意点	積極的な参加を求めます。
科目学習の効果(資格)	文章の読解・作成・対話(コミュニケーション)といった、日本語能力の向上。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	コミュニケーションについてまなぶ	基本事項の説明	コミュニケーションとはどのような現象かを考えてください。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	2	認識のメカニズム	認知認識のメカニズムを学ぶ。	認識の構造について確認すること。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	3	聴くと聞く	ヒアリングの回路を学ぶ。	「きく」ことの働きを確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	4	人を動かすコミュニケーション①	説得について学ぶ。	説得の技術を確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	5	人を動かすコミュニケーション②	動機付けについて学ぶ。	説得の技術を確認する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	6	対人コミュニケーション①	階層理論を学ぶ。	小規模コミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	7	対人コミュニケーション②	人間関係発展のプロセスを学ぶ。	中規模のコミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	8	小集団のコミュニケーション	複数人内のコミュニケーションを学ぶ	大規模コミュニケーションについて理解を深める。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	9	組織のコミュニケーション	上下関係のコミュニケーションを学ぶ	トップダウンの構造を理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	10	自己とコミュニケーション	自己操作を学ぶ。	印象操作について理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	11	うわさのコミュニケーション	うわさの効用を学ぶ。	うわさの構造を理解する。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	12	マスメディアの影響	マスメディアの功罪を学ぶ	メディアの功罪を考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	13	広告のコミュニケーション	広告の効能を学ぶ	広告の役割を考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	14	異文化間コミュニケーション①	異文化間のコミュニケーションを学ぶ。	他文化とは何かを考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。
	15	異文化間コミュニケーション②	後期総括	他文化と自文化の間でどうあるべきかを考える。事前・事後学習には、毎回1時間以上かけること。

関連科目 国語学、言語学、日本語学、社会学、コミュニケーション論、コミュニケーションIなど

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法(基準) 授業態度(提出物)10%、レポート90%。毎回400字程度のかんたんな課題の提出を求めます。

学生へのメッセージ 意欲的な参加を求めます。

担当者の研究室等 7号館2階 非常勤講師室

備考

科目名	技術英語	科目名 (英文)	Engineering English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	キアン チュウ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3450c2		

授業概要・目的	身近な科学技術に関するトピックを英語で読むことによりインプットし、ライティングによって自身の理解度、アイデアをアウトプット発信するため、リーディングスキルとライティングスキルを学習します。
到達目標	正確な英語文法力、語彙力を習得し、さらに応用性のあるリーディングスキル、ライティングスキルを習得し、学習者自身の専門分野トピックを英語で発信できるようになる。
授業方法と留意点	テキスト内容の読解を基本に演習型授業を行うので、テーマについての問題意識をもって参加すること。授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。毎回の授業では、予習や復習内容に関する小テストなどを行い、知識や理解の定着を図りながら進める。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。

科目学習の効果 (資格)	TOEIC・英検等
--------------	-----------

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	UNIT 1 No Car, Happy Life? Carless Cities in Spain	Reading Writing	Unit 1の予習
	2	UNIT 2 Science Fiction Is Not Fiction: Building Down and Building Underwater	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	3	UNIT 3 Save Summer Heat for Winter: Air Conditioning Past and Future	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	4	UNIT 4 Are You Ready for Cultured Meat?	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	5	UNIT 5 Good News: Ozone Hole Is Recovering	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	6	UNIT 6 Lost Wallet: Will You Ever Get it Back?	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	7	UNIT 7 I Am a Cyborg: How Machines Are Meshing with Humans	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	8	UNIT 8 Wireless Power Revolution: Smart Pills and Wireless Power Transmission	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	9	UNIT 9 The Simple, Free Solution to Myopia? Just Go Outside!	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	10	UNIT 10 Why Do Zebras Have Stripes?	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	11	UNIT 11 Placebo Effect Is Real: Fake Treatment Do Cure Patient	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	12	UNIT 12 How Smart Are Crows? They Even Enjoy Skiing!	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	13	UNIT 13 Fake Scientific Evidence: Can We Distinguish Science and Pseudoscience?	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	14	UNIT 14 Pizza, Milk and Nursing Food: All 3D-Printed	Reading Writing	前回の復習・新ユニットの予習
	15	定期試験		これまでの復習・新ユニットの予習

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新研究から読む世界のおもしろ科学 Our Science	田中 博晃 / 山西 博之 / Bill Benfield 共著	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition- 学校語彙で学ぶ TOEIC テ スト (単語集) 改訂新版	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			



	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度 50% レポート 30% 期末テスト 20%			
学生への メッセージ	Please take advantage of your sensei and university resources!			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	科学英語	科目名 (英文)	Scientific English
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	加藤 恭子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3451c2		

授業概要・目的	理系分野では、開発した技術や研究成果を英語で発信してグローバル化している産業社会においては、情報をリアルタイムで手に入れたり、素早く発信したりしていく英語力が必要である。この授業では興味深いトピックを取り上げた英文のリーディングを中心に、理系分野で役立つ基本的な英語や専門的な英語を学んでいく。また今まで学んだ文法を確認しながら語彙・語法を習得し、資料の読み取りにも挑戦する。
到達目標	先端技術分野においてどのような研究がなされ、どのような製品が開発されているのかの情報を理解するのに必要な英語基礎力を養い、グローバルに活躍することができる技術者として様々な状況に対応できる英語能力を身につける。
授業方法と留意点	テキストにそってすすめていきます。 必ずテキストの予習をし、辞書を持って授業に臨むこと。授業の予習が課題となります。指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。また、毎回授業の最後にクイズをします。 演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となります。 スマホなどの電子機器の不適切な使用、私語など授業に積極的に参加していない場合は減点対象となります。
科目学習の効果 (資格)	専門英語の理解と TOEIC や英検など資格試験の得点アップにつながる。語彙力、構文に基づいた英語読解力・聴解力・表現力・運用能力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Orientation	授業内容についての説明、英語の4スキルに関する導入と準備をする。	事前に教科書の内容に目を通しておくこと。
2	Unit 8: Free Fall テーマに応じたリーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
3	Unit 8: Free Fall テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニングの練習。ペアワーク・ディスカッション	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
4	unit 9: The Hidden Lives of Leaves テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
5	unit 9: The Hidden Lives of Leaves テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニングの練習。ペアワーク・ディスカッション	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
6	unit 10: Getting the Shot テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
7	unit 10: Getting the Shot テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニングの練習。ペアワーク・ディスカッション	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
8	Unit 11: Attack of the Germs テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
9	Unit 11: Attack of the Germs テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニングの練習。ペアワーク・ディスカッション	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
10	Unit 12: Just Like the Earth? テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
11	Unit 12: Just Like the Earth? テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニングの練習。ペアワーク・ディスカッション	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
12	unit 13: The Skin You're In テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
13	unit 13: The Skin You're In テーマに応じた語彙・文法、	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技	教科書の授業範囲の予習と復習。

		リーディング・リスニングの練習。ペアワーク・ディスカッション	術の英文を読み解く。	
	14	Unit 14: Weirdest Wonders テーマに応じた語彙・文法、リーディング・リスニング・ライティングの練習。	専門用語、文法、様々なジャンルの文書を通して語彙・語法を学習し、最先端技術の英文を読み解く。	教科書の授業範囲の予習と復習。
	15	Review	各ユニットの復習とまとめ。	前期の内容の総復習
関連科目	全英語科目、専門科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Frontiers	Keiko Hattori / Toshio Hidaka / Yayoi Yamashita / Kana Matsuda / Judy Noguchi	CENGAGE Learning
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test --Revised Edition--		成美堂
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>以下の割合で総合的に評価する</p> <p>定期試験：40%  提出物（授業後のクイズ）：30%、  予習課題：20%、  ペアワーク・グループワーク 10%</p> <p>また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。</p>			
学生への メッセージ	<p>語学の習得には日々の努力と継続が必要です。授業中に出される指示に従い、積極的に参加してください。  辞書を活用して、必ず予習しておくこと。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	<p>事前・事後学習には毎回1時間以上かけること。  単語の意味はあらかじめ調べてくること。  質問等は Teams、メールのほか、出講時に非常勤講師室にて対応する。  クイズ、提出物等は授業中に適宜フィードバックを行う。  その他の質問等は非常勤講師室・学内メールにて対応する。</p>			

科目名	産業技術史	科目名 (英文)	History of Industrial Technology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	照元 弘行
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3452a2		

授業概要・目的	様々な産業で用いられる技術を「産業技術」という。この「産業技術」は、どのような経路をたどりながら、何を原動力として発展してきたかという問題について考える。本講義では、様々な「産業技術」の変遷を体系的に捉え、地球規模での産業技術の役割について考え、これまでに築かれてきた技術を学習・理解することで、今後、独創的な技術を生み出していく手がかりを提供する。
到達目標	幅広い教養と地球的視野をもった技術者になるための基礎を身につけることである。具体的には、それぞれの産業技術の歴史を学習・理解することで、技術者として幅広い教養を、また、情報社会の世界情勢や地球環境問題を学ぶことで、物事を地球的視点から多面的に捉える能力と素養を身につけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	講義の資料・レポートなどは全て「moodle」を利用して入手してください。レポートの提出も同様です。産業技術をできるだけわかりやすく理解してもらうために、可能な限りできるだけ多くの資料と視聴覚教材を用いて解説する予定である。
科目学習の効果 (資格)	現在の産業技術社会は、膨大な情報と知識の専門化が進んでおり、この産業技術の世界を系統的に学ぶ機会は、一般教養科目を学ぶ以外の時期には少なくなる傾向にあり、他分野の知識の吸収には、自分自身で常に努力していく必要がある。それゆえ、できるだけ早い時期に産業技術の源を学んでおくことは、多くの分野に興味をもつための一助になると考えている。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	製鉄・鉄鋼産業の技術史①: たたら製鉄の技術	金属材料の基礎について学ぶ。伝統の日本製鉄法「たたら」について学ぶ。	課題レポート提出②
3	製鉄・鉄鋼産業の技術史②: 近代製鋼法の技術	製鉄・鉄鋼産業の技術発展史とその公害・環境対策について学ぶ。	課題レポート提出③
4	製鉄・鉄鋼産業の技術史③: 高炉の技術	製鉄所のシンボルである高炉について学ぶ。	課題レポート提出④
5	製鉄・鉄鋼産業の技術史④: 新素材の技術	国産技術で育てた画期的な次世代の鉄「超鉄鋼」、「超電導材料」などについて学ぶ。	課題レポート提出⑤
6	自動車産業の歴史①: 自動車産業のあけぼの	国産自動車トヨタ AA 型の開発を事例にして、日本の自動車産業を学ぶ。	課題レポート提出⑥
7	自動車産業の歴史②: 自動車産業の基礎技術	自動車産業の生産技術およびエンジン、ブレーキ、タイヤなどの基本技術を学ぶ。	課題レポート提出⑦
8	自動車産業の歴史③: 低公害自動車「CVCC エンジン」の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、低公害エンジン「CVCC」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑧
9	自動車産業の歴史④: ハイブリッドカー・電気自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、「ハイブリッドカー」、「電気自動車」を事例にして学ぶ。	課題レポート提出⑨
10	自動車産業の歴史⑤: 燃料電池自動車の技術	自動車産業の公害・環境問題について学ぶ。ここでは、燃料電池の技術と「究極のエコカー」である燃料電池自動車について学ぶ。	課題レポート提出⑩
11	鉄道産業の歴史①: 高速鉄道のかかえる社会的問題	国と地方の問題から「新幹線問題」について学ぶ。	課題レポート提出⑪
12	鉄道産業の歴史②: 新幹線の技術	高速鉄道「新幹線」の開発の歴史とその主要技術について学ぶ。新幹線を作る様々な技術(町工場がもつアナログ的な技術)を学ぶ。	課題レポート提出⑫
13	鉄道産業の歴史③: リニアモーターカーの技術	未来の高速鉄道「リニアモーターカー」について学ぶ。また、これからの鉄道の公害・環境対策技術、安全対策技術について学ぶ。	課題レポート提出⑬
14	公害・環境対策の技術史	産業競争力強化の重要な柱の1つである「ISO14001」の認証取得の事例を解説する。	課題レポート提出⑭
15	世界の産業技術	産業技術の未来への取り組みについて、子どもたちへの活動を通して考える。	課題レポート提出⑮

関連科目 産業技術史は、多面的で複合的な科目であることから、大学において、できるだけ数多くの科目を習得すれば、必ず役立つと思います。

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	各授業毎の課題レポート(全15枚)を100点配分で評価する。なお、評価の基準は、すべての課題レポートを提出し、それぞれのレポートの内容について、題意把握・内容理解、論理構成・考察力、表現・文字の正確さなどから総合的に評価し、60点以上を合格とする。なお、課題レポートのフィードバックは、「moodle」を利用する予定である。上記に加えて後期末試験を100点配分を実施し、60点以上を合格とする。最終評価は、レポートが50%、後期末試験が50%配分の100点満点で総合評価し、60点以上を合格とする。			
学生への メッセージ	各授業毎の課題レポートは、全て期限内に提出してください。レポートの作成においては、レポート課題の理解、課題に沿った解答、内容の正確な理解、専門用語の正確な理解、論理的でわかりやすい展開、自分なりの視点で課題を考察、独創性の芽が感じられる内容を書けるように整理し、文章にまとめる力をつけてください。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	講義のキーワードとして、「特許」、「公害・環境問題」、「アナログ的な技術・デジタル的な技術」などを示しておく。 事前事後学習時間は、毎講義当たり、レポート作成、予習、復習の学習時間として2時間程度である。			

科目名	科学技術教養V1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湯浅 恵造, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 見坂 武彦, 島田 幸祐, 瀬溝 人生, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 西矢 芳昭, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3455a2		

授業概要・目的	本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、バイオエネルギー生産などのバイオテクノロジー、環境リスクがヒトに与える影響の評価など、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、製薬企業や化学メーカーで商品開発等に実務経験を有する教員が、その経験を活かしてバイオテクノロジー応用、薬剤開発に関する教育も行う。
到達目標	(1) 病気・くすり、醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品などに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子 (船越)	我々が持つ DNA は日常生活で頻繁に「傷 (変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
3	認知症～その原因と治療法 (宮崎)	我が国は超高齢化社会へと進行し続け、2025 年には高齢者の 5 人に 1 人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立が見つけなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ (尾山)	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染 (インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
5	薬物乱用と依存性薬物 (居場)	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存性という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
6	ミトコンドリアと病気 (井尻)	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
7	くすりとタンパク質のかたち (中嶋)	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつである X 線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
8	機能性糖質 (大橋)	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
9	不妊のしくみ (西村)	日本人夫婦 (カップル) は 10 組のうち 1 組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
10	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義

		ー (西矢)	用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	後に配布資料を復習する (1 時間)。
	11	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響およびバイオエネルギー技術 (松尾)	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。また、21 世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から、また、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
	12	機能性食品などの新しい食品の形態 (青笹)	食品の一次機能 (栄養素)、二次機能 (味、触感など) および三次機能 (生体機能の調節などの新規機能) について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
	13	担当: 新任教員、内容: 未定		予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
	14	遺伝子組換え植物とその将来 (長田)	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。
	15	感染症とその予防 (見坂)	感染症をめぐる日本と外国の今日の問題、法令上の感染症の分類、病原体の管理、感染症の発生动向、予防接種について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1 時間)。

関連科目

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準) 講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。講義メモを含む課題未提出の場合は欠席 1 日とする。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ 本講義では病気やくすりについて、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は生物・薬・エネルギー・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。

担当者の研究室等 1 号館 8 階 松尾、青笹、見坂、長田、大橋研究室  
1 号館 9 階 尾山、西矢、西村、中嶋、宮崎、湯浅、船越、井尻、居場研究室

備考 欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理する (遅刻 2 回で欠席 1 回とみなす)。

科目名	科学技術教養A1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy A1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3459a2		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどの様に考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、Moodleに掲載あるいは各講義時に配布する。 TeamsやMoodle等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	環境共生の建築物	太陽・風の有効利用、CASBEEの考え方	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	商業の建築	商業施設、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	交通の建築	陸・海・空の交通にかかわる建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築の歴史	歴史的建築から建築における多様な「技術」について理解を深める	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	快適な温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築をつくる	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書・資料等は、授業で配布あるいはMoodleに掲載予定		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が80%以上の履修者を成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ 授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。

担当者の研究室等 8号館3階・各授業担当者の研究室

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる(出席率80%以上を成績評価の対象/30分以上の遅刻は欠席扱いとする/遅刻は2回で欠席1回とみなす)。事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以内



上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養M1	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 周之, 植田 芳昭, 小田 靖久, 海津 浩一, 寒川 哲夫, 諏訪 晴彦, 洞出 光洋, 堀江 昌朗, 南 久, 三宅 修吾, 山崎 達志, 渡邊 陽介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3461a2		

授業概要・目的	<p>機械工学とは“ヒトが活動する上での効率化と合理化, 自動化を図る機械”の原理, 性能, 製作, 利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は, 機械力学, 材料力学, 熱力学, 流体力学の4力学を基軸とし, その応用分野は多岐にわたる。</p> <p>本講義は, 機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより, 機械工学の全体像を俯瞰しつつ, 履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り, 機械工学と実社会への関わりを理解することができる。</li> <li>・機械工学と他分野の関わりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各テーマごとにその歴史, 基本原理, 最先端の話題を提供する。</li> <li>・Web上で配布するテキスト(PDF)に目を通し, ポイントをまとめておく。</li> <li>・講義前に課題を配布し, スライド資料を用いた講義を行う。(60分)</li> <li>・講義メモと課題を作成し, 指示に従って提出する。(30分)</li> </ul> <p>・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。</p> <p>・切り替える日時や受講方法の連絡にはTeamsを使うので, 注意しておくこと。</p>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工学科の基本的な知識を俯瞰的に知ることが出来る。</li> <li>・機械工学と他分野との関わりに気づき, 受講者の興味や知識の幅を広げることができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の歩みと機械の歴史</li> <li>・ものづくりの原点</li> <li>・科学技術と機械工学</li> <li>・これからの社会への機械工学の役割</li> </ul>	M1 テキスト第1章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
2	いろいろな機械材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属材料</li> <li>・高強度・機能性材料</li> <li>・新素材と高度産業社会</li> </ul>	M1 テキスト第3~5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
3	道具と機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ</li> <li>・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具</li> </ul>	M1 テキスト第2章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
4	空間を移動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術</li> <li>・深海に潜る原理と深海艇の機械技術</li> <li>・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術</li> </ul>	M2 テキスト第6~8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
5	精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もの大きさと精密さ</li> <li>・精密・超精密加工の発展</li> <li>・超精密加工の応用事例</li> <li>・超精密加工と超精密工作機械</li> </ul>	M1 テキスト第7章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
6	ものづくりの科学と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶かして作る</li> <li>・変形させて作る</li> <li>・削って作る</li> <li>・積み上げて作る</li> <li>・工場を科学する</li> </ul>	M1 テキスト第6, 8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
7	作業を補助する機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の作業と機械</li> <li>・移動と運搬の補助</li> <li>・動力源・移動のためのメカニズム</li> <li>・力を伝えるための仕組みと手段</li> <li>・シャフトとベアリング</li> </ul>	M1 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
8	機械をかしこくする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の操作と知能化技術</li> <li>・知能化のための機械設計</li> <li>・パワーアシストスーツ</li> <li>・人工知能技術</li> </ul>	M1 テキスト第11章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
9	ミクロの機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型化への取り組み</li> <li>・小さくなることで変わる物理特性</li> <li>・半導体製造技術</li> <li>・マイクロロボット</li> </ul>	M1 テキスト第12~14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
10	流れを利用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動力と流体機械</li> <li>・流体機械の歴史</li> <li>・発電のための流体機械</li> <li>・自然エネルギーの利用</li> </ul>	M2 テキスト第2・3章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
11	陸上を移動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンと機械工学</li> <li>・動力機械としてのエンジン</li> <li>・熱エネルギー</li> <li>・旅客輸送と貨物輸送</li> </ul>	M2 テキスト第4・5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
12	計測する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度量衡と政治</li> <li>・もの大きさと精密さ</li> <li>・センサで測る</li> <li>・センシング技術</li> </ul>	M2 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
13	制御する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御工学の世界</li> <li>・制御の方式</li> <li>・さまざまな機械制御技術</li> </ul>	M2 テキスト第11・12章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
14	生命・生体にならう1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオエンジニアリングの世界</li> <li>・人間を救う・支援する機械</li> </ul>	M2 テキスト第13・14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間)

	15	生命・生体にならう2	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康とスポーツのための機械</li> <li>人間工学</li> </ul>	関連事項について調べる (2時間) M2 テキスト第14・15章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回提出する課題 (各回10点満点) に基づき成績評価をする。</li> <li>満点は150点 (講義15回分) で、これを100点満点に換算する。</li> </ul>			
学生への メッセージ	本講義を受講することにより、機械工学が対象とする学問・専門分野や、機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では、あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで、知識や視野を広げることができます。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考				

科目名	科学技術教養E1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy E1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 雅彦, 片田 喜章, 奥野 竜平, 金澤 尚史, 木村 真之, 工藤 隆則, 檜橋 祥一, 西 恵理, 畠中 恵司, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3463a2		

**授業概要・目的**  
 電気・情報に関する学問分野には、電気工学、電子工学、通信工学、情報工学などがある。電気工学は、発電電や送電、動力や照明といった電気をエネルギーとして利用する分野、電子工学は、電気の高速度応答性を活かした電気信号の取得・制御や半導体などの材料開発分野、通信工学は、有線や無線通信、通信ネットワークなど様々な通信技術を学ぶ分野、情報工学はコンピュータのハードウェアとソフトウェアや各種データの処理・利用に関する分野である。これらは、全て「電気」という共通項があり、「情報」が深くかかわる。しかし、それぞれの分野が特化し、かつ高度化したことにより、これらを全て網羅して理解することが難しくなっている。本講義では、これらの電気と情報に関する学問分野を全般的に少しづつ学ぶことで、その全体像とそれぞれの関連性をつかむと共に、多岐にわたる応用技術を学習することを目的とする。

**到達目標**  
 電気情報工学全般を学ぶことで、電気・情報・電子・通信に関連した学問にはどのような分野があり、どのような応用があるかを理解することが目標である。

**授業方法と留意点**  
 ・電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。  
 ・講義13回はパワーポイントを用いた口述講義の動画をMoodleで視聴。毎回で出される課題に解答し、Moodleで提出する。  
 ・講義2回分では研究室紹介動画視聴後にレポートをMoodleで提出する。  
 教科書が必要となるので、入手しておくこと。

**科目学習の効果(資格)**  
 電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。また、どの分野においても情報の知識は欠かせない。これらの原理や特性を知ること、自分の専門分野が電気・情報とどのように繋がっているかを理解することができる。国家資格で電気や情報の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	電気の基本法則とその発見の歴史	科学技術教養の意義 電気に関する学問の変遷と電気に関する基礎方程式	第1回課題 約1時間 教科書 Chapter1
2	電気をつくって送る	発電の原理と発電機の構造、発電電、送電のしくみ	第2回課題 約1時間 教科書 Chapter2
3	半導体による技術革新	半導体とは何か、半導体の機能、集積回路の作成技術	第3回課題 約1時間 教科書 Chapter4
4	地球にやさしい照明技術	電気をを用いた照明器具の発展、照明器具と消費電力、照明器具の応用	第4回課題 約1時間 教科書 Chapter7
5	さまざまな電子回路	電気回路と電子回路、能動回路と受動回路、集積回路、身近な製品の電子回路	第5回課題 約1時間 教科書 Chapter8
6	計算するデジタル回路	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	第6回課題 約1時間 教科書 Chapter9
7	コンピュータの世界	コンピュータのしくみ、パソコンの内部構造、スーパーコンピュータ	第7回課題 約1時間 教科書 Chapter10
8	家電製品を制御するマイコン	マイコンとは、家電製品に組み込まれたマイコン、プログラミングの基礎	第8回課題 約1時間 教科書 Chapter11
9	画像処理	3原色と画像の表現・表示、画像処理の基礎技術入門	第9回課題 約1時間 教科書 Chapter12
10	人工知能	人工知能の歴史、深層学習の発展とその実社会応用	第10回課題 約1時間
11	電波と放送	電波と応用分野、変調と復調、衛星放送からデジタル放送へ	第11回課題 約1時間 教科書 Chapter13
12	通信機器の発展	電気通信の歴史、携帯電話、通信のこれから	第12回課題 約1時間 教科書 Chapter14
13	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、歴史、接続方法、危険性	第13回課題 約1時間 教科書 Chapter15
14	研究室紹介1	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(6つの研究室)	第14回レポート 約2時間
15	研究室紹介2	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(5つの研究室)	第15回レポート 約2時間

**関連科目**  
 各自の学科で並行して開設されている数学、物理系科目も履修しておくことが望ましい。

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	基礎から学ぶ電気電子・情報通信工学	田口俊弘, 堀内利一, 鹿間信介	講談社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法(基準)**  
 授業では課題とレポートがある。課題の点数によって各講義回の評価点を付ける。各講義の評価点13回とレポート2回の点数で総合し、本講義の成績とする。評価点の合計を90%、レポートの評価点を10%とする。ただし、課題とレポート提出率80%以上を成績評価の対象とする。

**学生へのメッセージ**  
 身の回りの電気製品と情報技術は日々進化しています。これらを便利な道具として使うだけでなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。

担当者の研究室等	1号館4階および5階の電気電子工学科教員室 授業担当責任者 井上雅彦教授室(1号館4階)
備考	課題提供はMoodle上で行い、課題&レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題&レポートには提出期日がある。 期日までの課題&レポートの提出をもって出席とする。 課題&レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養C1	科目名(英文)	Scientific and Technological Literacy C1
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 俊太郎, 石田 裕子, 伊藤 譲, 久保田 誠也, 熊谷 樹一郎, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田井 政行, 水野 忠雄, 米田 昌弘
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3465a2		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。</li> <li>歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。</li> <li>講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。</li> </ul>
科目学習の効果(資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人たち（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画（計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会（環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -命の水を守る-	衛生工学（上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -水害から守る-	防災・減災、流域治水	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法(基準) 受講メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。 ※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。

科目名	科学技術教養 T 2	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T2
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東 武大, 小林 俊公, 友枝 恭子, 長島 健, 東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TNA3468a2		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
8	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
9	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
10	波の数理(音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
11	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
12	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
13	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)



			近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。																	
	14	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習(1時間)																
	15	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1時間)																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	講義メモ 45%、レポート 55%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や教に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館2階(東谷), 5号館1階(友枝・小林・東), 8号館2階(長島)]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			

科目名	統計情報処理	科目名 (英文)	Statistical Information Processing
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	妹尾 史郎, 坂本 淳二, 山根 雅由
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1022a0		

授業概要・目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>情報技術の有効利用の中でも、科学技術分野においてとりわけ重要であるデータの処理と分析のための種々の数学的処理技法を理解する。表計算ソフトを用いて、その特有のデータ処理・分析の操作・手順を学ぶ。</li> <li>デジタルデータとデータサイエンスの社会的・技術的背景及びデータ・AIを扱う上での留意事項について解説する。</li> </ul>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>理工学分野で必要となる情報（数値データ）の処理方法と基本的分析方法を習得する。</li> <li>デジタルデータとデータサイエンスの社会的・技術的背景を理解する。</li> <li>データ駆動型社会におけるデータの効用と価値を理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	代表的かつ標準的な表計算ソフトである Excel を対象とする。Excel の多種多様な機能のうち理工系の学生にとって必要なデータの集計・分析に有効利用できる機能に焦点を絞り、表計算を利用した数学的な考察能力の向上を促進するための演習を行う。
科目学習の効果 (資格)	ITパスポートや基本情報処理技術者(ともに国家資格)やMicrosoft オフィスペシャリスト(民間資格)の試験に役に立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	表計算の基本操作 効果的なグラフ表現	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業計画と受講留意事項の説明</li> <li>表の整形, 数式入力</li> <li>式のコピーと貼り付け</li> <li>グラフの作成</li> </ul>	情報処理室の利用手引きを読む。 表のレイアウト設定に関する演習課題の配布 (第1~6回の課題)
2	関数の利用	<ul style="list-style-type: none"> <li>数式の書き方</li> <li>関数ウィザード</li> </ul>	統計基本関数を用いた演習課題の配布 (第7回の課題)
3	データ集計とセルの参照	<ul style="list-style-type: none"> <li>セルの相対参照と絶対参照</li> <li>データの並び替え</li> <li>データを扱う上での留意事項について解説する。</li> </ul>	オートフィルタの演習 (第8回の課題)
4	ヒストグラム	<ul style="list-style-type: none"> <li>分析ツールの利用</li> <li>論理関数によるヒストグラムの作成</li> </ul>	ヒストグラム作成の演習 (第9回の課題)
5	散布図と回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>回帰直線とデータの推測</li> <li>データを扱う上での留意事項について解説する。</li> </ul>	散布図の作成と回帰直線によるデータ分析の演習課題 (第10回の課題)
6	相関係数	<ul style="list-style-type: none"> <li>相関係数とは</li> <li>相関係数の求め方</li> <li>データを扱う上での留意事項について解説する。</li> </ul>	相関係数を用いたデータ分析の演習課題 (第11回の課題)
7	統計基礎量 (分布の代表値・広がり)	<ul style="list-style-type: none"> <li>分布の代表値 (平均値/中央値/最頻値)</li> <li>分布の広がり (最大最小/分散/標準偏差)</li> <li>データを扱う上での留意事項について解説する。</li> </ul>	データ集計とデータ分布の割合に関する演習課題 (第12回の課題)
8	正規分布	<ul style="list-style-type: none"> <li>正規分布とは/標準正規分布</li> <li>分布データの存在確率</li> </ul>	正規分布関数を用いたデータ分析の演習課題 (第13回の課題)
9	データの標準化 (平均と標準偏差)	<ul style="list-style-type: none"> <li>平均が異なるデータの比較/標準偏差の異なるデータの比較</li> <li>分布の異なるデータの比較/データの標準化</li> </ul>	データの標準化と比較の演習課題 (第14回の課題)
10	分析ツールによる単回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>散布図による回帰分析</li> <li>相関係数と決定係数</li> <li>分析ツールを用いた単回帰分析</li> </ul>	分析ツールを用いた単回帰分析の演習課題 (第15回の課題)
11	重回帰分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>相関行列/重回帰分析の基本</li> <li>データを扱う上での留意事項について解説する。</li> </ul>	分析ツールを用いた重回帰分析の演習課題 (第16回の課題)
12	t分布とt検定	<ul style="list-style-type: none"> <li>t分布とは/正規分布との関係</li> <li>t検定と有意差</li> </ul>	簡単なt検定の演習課題 (第17回の課題)
13	平均値の差の検定	<ul style="list-style-type: none"> <li>t検定による平均値と差の検定</li> <li>分散分析</li> </ul>	分析ツールを用いたt検定の演習課題 (第18回の課題)
14	○総合演習 ○データ・AIの活用領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>まとめ</li> <li>Society5.0など社会で起きている変化について解説する。</li> <li>社会で活用されるデータおよびAIを含むデータの活用領域について解説する。</li> </ul>	データ集計・分析の総合的演習課題
15	データ・AI利活用の最新動向と留意事項	<ul style="list-style-type: none"> <li>データ・AI利活用の現場, 最新動向について解説する。</li> <li>データ・AIを扱う上での留意事項 (個人情報の保護, データの収集・分析時に生じるバイアス等) 及びデータを守る上での留意事項について解説する。</li> </ul>	事前学習: データ・AI活用事例について各自で調べる。 事後課題: データ・AIを扱う上での留意事項についての確認課題

関連科目	情報リテラシー I
------	-----------

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	演習テキストおよび資料を毎回配布する		
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	必要に応じて関連書籍（アスキー出版、インプレス出版等）を各自用意するとよい		
	2			
	3			
評価方法 (基準)	毎回の演習と受講態度 (30%)、小テスト (70%) で評価する。			
学生への メッセージ	上位学年次の学習や研究で必要となるデータの処理と分析の方法を効率よく学ぶことができます。毎回実施する演習課題にじっくり取り組む姿勢が大事です。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前学習：事後学習欄に示した内容について、毎回1.5時間以上かけて取り組む			

科目名	文学から学ぶ	科目名 (英文)	Literature
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	細川 知佐子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU1401a1		

授業概要・目的	この講義では『百人一首』を読んでいきます。まず、文学作品としての位置づけを行ったうえで、和歌の鑑賞を通して、我々現代人が忘れてしまった自然と共生する力や方法、また今も昔も変わらない心情などを学びましょう。古典作品は、現代と断絶した遠い過去の遺物ではありません。自ら作品に近づき親しむことにより、現代の文学作品と同様に多くの知見や感動を得ることができます。																																																																		
到達目標	和歌の断片的な知識ではなく、時代背景を含め作品としての総合的な理解が目標です。現代の我々との対比により、違いだけでなく、共感も得ること。																																																																		
授業方法と留意点	配布資料とパワーポイントによる講義。理解度を確認する復習テストを不定期に行います。理解できていない箇所は必ず見直しましょう。授業後、配布資料を必ず読んでおくこと。																																																																		
科目学習の効果 (資格)	大学生として必要最低限の「古典文学」の知識を身につけることができます。																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法 等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ガイダンス</td> <td>授業の目的、方法の説明</td> <td>『百人一首』を読む</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>作品としての『百人一首』1</td> <td>『百人一首』の成立と謎</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>作品としての『百人一首』2</td> <td>江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>作品としての『百人一首』3</td> <td>『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>四季歌を読む 春1</td> <td>春の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>四季歌を読む 春2</td> <td>桜の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>四季歌を読む 夏</td> <td>夏の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>四季歌を読む 秋1</td> <td>秋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>四季歌を読む 秋2</td> <td>秋の月の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>四季歌を読む 冬</td> <td>冬の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>恋歌1</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>恋歌2</td> <td>恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>恋歌3</td> <td>歌枕を用いた恋の歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>雑歌</td> <td>友情や人生をテーマにした歌を読みます</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>授業の総括</td> <td>『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり</td> <td>配布プリントを読む</td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む	2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む	3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む	4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む	5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む	6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む	7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む	8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む	9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む	10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む	11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む	13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む	14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む	15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む
回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題																																																																
1	ガイダンス	授業の目的、方法の説明	『百人一首』を読む																																																																
2	作品としての『百人一首』1	『百人一首』の成立と謎	配布プリントを読む																																																																
3	作品としての『百人一首』2	江戸時代を中心にした、『百人一首』の後世の受容	配布プリントを読む																																																																
4	作品としての『百人一首』3	『百人一首』の構成と和歌を読むための基礎知識	配布プリントを読む																																																																
5	四季歌を読む 春1	春の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
6	四季歌を読む 春2	桜の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
7	四季歌を読む 夏	夏の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
8	四季歌を読む 秋1	秋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
9	四季歌を読む 秋2	秋の月の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
10	四季歌を読む 冬	冬の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
11	恋歌1	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
12	恋歌2	恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
13	恋歌3	歌枕を用いた恋の歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
14	雑歌	友情や人生をテーマにした歌を読みます	配布プリントを読む																																																																
15	授業の総括	『百人一首』の意義と他の文学作品との関わり	配布プリントを読む																																																																
関連科目	日本語読解																																																																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1																																																																			
2																																																																			
3																																																																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>百人一首</td> <td>島津忠夫</td> <td>角川ソフィア文庫</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>百人一首 王朝和歌から中世和歌へ</td> <td>井上宗雄</td> <td>笠間書院</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫	2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院	3																																																			
番号	書籍名	著者名	出版社名																																																																
1	百人一首	島津忠夫	角川ソフィア文庫																																																																
2	百人一首 王朝和歌から中世和歌へ	井上宗雄	笠間書院																																																																
3																																																																			
評価方法 (基準)	授業に取り組む姿勢・復習テスト 30%、レポート 70%																																																																		
学生へのメッセージ	和歌が持つ美しいリズムを味わい、千年前の歌人たちからのメッセージを受け取りましょう。																																																																		
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室																																																																		
備考	事後に配布資料を約1時間程度通読する。 「質問はメールにて対応する」																																																																		

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	A B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	櫻井 清華
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くかなど、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	段階的に文章執筆のメソッドを習得し、最終的に 1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	教科書に沿って講義形式で行う。教科書は必ず用意して授業に臨むこと。 毎回授業開始時に前回授業の復習と日本語表現問題のプリントを行う。このプリントのまとめをテストとして実施し、成績評価に取り入れるため、遅刻をしないこと。 講義の進捗状況によって、シラバスに記載した順番が前後することもある。
科目学習の効果 (資格)	レポート・論文の作成に必要な文章スキルを身につける。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	導入 授業の内容、進め方について 文章の書き方 1 文章表現の基礎を学ぶ	本講義に臨むための基本姿勢 講義 文章表現の基礎	授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
2	文章の書き方 2 文章表現の基礎を学ぶ	講義 文章表現の基礎	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
3	事実の記述と意見の記述	講義 事実を述べる文章と意見を述べる文章の 違い。論理的に説明する方法	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
4	【課題 1】 客観的事実に基づき説明する	【課題作成】 1 週間以内に指示に従い課題を書いて 提出する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
5	構成	講義 レポートなどの文章構成を学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
6	要約①	講義 要旨を要約するコツを学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
7	要約②	講義 要旨を要約するコツを学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
8	文章を引用する	講義 文章を引用する方法を学ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
9	図表の引用	講義 図表などのデータを引用する方法を学 ぶ	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
10	意見を述べる	講義 論理的考察に基づき意見を述べる	教科書 意見の述べ方を復習する 小テストの予習・復習をする 指示した練習問題に取り組む 課題 2 を見直す等に 約半時間
11	【課題 2】 文章を引用して論理的な文 章を書く	【課題作成】 1 週間以内に指示に従い課題を書いて 提出する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
12	【課題 3】資料 (文章と図表) を引用して見解を述べる	【課題作成】 1 週間以内に指示に従い課題を書いて 提出する	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する 各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
13	レポートの書き方	講義 引用の作法を確認	これまでの授業内容を見直す 教科書 要約を復習する

			レポート執筆の基本を学ぶ	各自の理解不足箇所を補う 指示した練習問題に取り組む等に 約半時間
	14	小テストの実施	これまで行った小テストの内容を確認 する	全回配布分のプリントを確認・見直す等に 約半時間
	15	日本語表現まとめのテスト	総括	各自の理解不足箇所を補う等に 約半時間
関連科目	ゼミ、卒業研究など			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセ ンター編	
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	全三回の課題の合計点により評価する。 (評価の割合は基本的に1回目20%、2回目40%、3回目40%の予定) 課題を一度でも提出しない場合は不合格となるので 注意してください。			
学生への メッセージ	読書は、語彙力や文章力をアップさせるために重要である。日頃から読書の習慣を身につけておく。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	総学習時間の目安は60時間。 課題は基本的に担当教員が赤入れ採点し、不得意箇所などを各自にフィードバックします。			

科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	C D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	渡 勇輝
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。 大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。 考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	講義にもとづいて、練習問題や課題に取り組む。 教科書を用意して受講すること。
科目学習の効果 (資格)	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			1
2	文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
3	事実と意見	事実と意見の書き分け、論理的に説明する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
4	【課題 1】 説明文	ある事物について、論理的に説明する文章を書く	事前学習課題：第 1 回～第 3 回の内容の復習を行うこと（1 時間）
5	フィードバック	課題 1 のフィードバック	事前学習課題：課題 1 を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
6	構成	レポートの文章構成を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
7	要約	要約の作成方法を学ぶ	事前学習課題：課題 1 を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
8	文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
9	図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
10	意見を述べる	データに基づいて意見を述べる方法を学ぶ	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
11	【課題 2】 論説文	資料を引用して意見を述べる文章を書く	事前学習課題：第 5 回～第 10 回の復習を行うこと（1 時間）
12	フィードバック	課題 2 のフィードバック	事前学習課題：課題 2 を見なおすこと（30分） 事後学習課題：フィードバックを受けて、復習を行うこと（30分）
13	レポートの書き方	レポートの体裁や作成の注意点について学ぶ レポート課題の説明	事前学習課題：指定した教科書（該当ページ）を事前に読んでおくこと（30分） 事後学習課題：今回の内容の復習を行うこと（30分）
14	【レポート】	レポートを提出する	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（1 時間）
15	レポートの講評	レポートのフィードバック	事前学習課題：これまでの復習を行うこと（30分） 事後学習課題：講評を受けて、復習を行うこと（30分）

関連科目 全ての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	大学生の日本語文章表現	摂南大学教育イノベーションセンター編	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				

	3		
評価方法 (基準)	課題 2 回 (20%×2)、レポート (30%)、授業態度 (呼应状態・積極性)・小テスト (30%) により評価する。 課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。		
学生への メッセージ	日常会話で使っている日本語と、レポートや論文などで書く日本語は区別しなくてはなりません。これからの大学生活、社会生活のためにも、適切な文章表現を学びましょう。		
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室		
備考	事前事後学習の総時間の目安は 15 時間です。 提出課題については、授業中にフィードバックを行います。		



科目名	日本語表現 I	科目名 (英文)	Japanese Expression I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	松尾 佳津子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TJA1441a1		

授業概要・目的	文章表現の基礎を習得し、日本語表現力を高めることを目的とする。大学でのレポート・論文の作成、また社会に出てからの文書の作成に必要な、「事実を客観的に説明する」、「意見を論理的に記述する」力を養成することに重点を置く。考えや経験をどうまとめるか、他人に読んでもらう文章をどう書くか、など、文章化する際の基礎を実践的にトレーニングする。
到達目標	適切な方法を用いて、1000 字程度の論理的な文章を書くことができる。
授業方法と留意点	テキストに即して知識を整理したのち、各自取り組んだ課題（毎回の課題&中間課題 2 回&最終課題の全 3 種類）を提出していただきます。その中から適宜取り上げてコメントを加え、受講者と共有しながらフィードバックして授業を進めていきます。
科目学習の効果（資格）	授業でのレポート作成や卒業後の文章作成に役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	・はじめに ・文章の書き方 1	レポート・論文の基本事項	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
2	・文章の書き方 2	わかりやすい文章の書き方	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
3	・事実と意見	事実と意見の書き分け	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
4	・課題①- 1 説明文	必要なことをわかりやすく説明する	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
5	・課題①- 2 説明文	課題①を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
6	・構成	レポートなどの文章構成を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
7	・要約	要旨の要約の作成方法を知る	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
8	・文章を引用する	文章を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間） ※この回から対面に変更。
9	・図表を引用する	図表を引用する方法を学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
10	・意見を述べる	考察に基づいて意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
11	・課題②- 1 論説文	資料を引用して意見を述べる	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
12	・課題②- 2 論説文	課題②を振り返る	指摘された問題点を踏まえて、課題を修正しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
13	・レポートの書き方 1	レポートの体裁について学ぶ	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
14	・レポートの書き方 2	レポートの作成の注意点を教える	授業中に解答しきれなかった練習問題については、次回に提出できるように答案を作成しておく。（所要時間の目安は 1 時間）
15	・最終課題レポート	まとめのレポートを作成する	当日のレポート作成に備えて、テキストを読み直して注意点を確認しておく。（所要時間の目安は 1 時間）

関連科目 すべての授業の日本語による課題作成

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		「大学生の日本語文章表現」	摂南大学教育イノベーションセンター編
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法（基準） 課題 2 回（20%×2）、レポート（30%）、授業に取り組む姿勢・小テスト（30%）により評価する。課題、レポートを一度でも提出しない場合は不合格となる。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生への 学生として、社会人として、他人に自分の考えていることを伝えるには、友人とのラインのやり取りのようなわけにはいきません。自分の文章を

メッセージ	胸を張って他人に提示できるように、実際に手を動かしてトレーニングを重ねましょう。
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	◇事前事後学習の総時間の目安は15時間。 ◇提出課題については、授業中にフィードバックをします。

科目名	キャリアデザインⅠ	科目名(英文)	Career Planning I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中川 浩一
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1445a1		

授業概要・目的	<p>この授業を通じて学生には</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 就職や人生設計の前提として、「大学生」として大学生活をプランニングする。</li> <li>2) 基礎ゼミと連携しつつ、「摂南大学」の学生として必要な知識や技能を習得する。</li> <li>3) 専門の学びとの接続となるよう基本的なスタディスキルを習得する。</li> <li>4) 講義と並行して、グループワークを実施し、課題やメンバー構成などの所与の条件に対してグループとして処していく力を養成する。</li> </ol> <p>よくなることが期待される。 なお、講義は担当講師の人材業界での業務及び起業経験を活かした内容も含まれる。</p> <p>SDGs. 4-4 SDGs. 8-6</p>																																																																		
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1) 摂南大学への理解を深め、自らの大学生活を充実させる方法を考えられるようになる。</li> <li>2) 社会の変化を知り、これから身につけたい力について考えられるようになる。</li> <li>3) 調べる・考える・発表するための技能についての理解を深めることを講義目標とする。</li> </ol>																																																																		
授業方法と留意点	<p>講義ではディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れる。 資料を熟読した上で課題に挑まなければならないので、積極的な態度で受講すること。 今学期はTeamsを使ってグループワークを行うこともある。</p>																																																																		
科目学習の効果(資格)	<p>社会と自分の接点を考えるきっかけとなる。 「大学生活を充実させる」きっかけになる。</p>																																																																		
授業計画	<table border="1"> <thead> <tr> <th>回数</th> <th>授業テーマ</th> <th>内容・方法等</th> <th>事前・事後学習課題</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ようこそ、摂南大学へ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか?</li> <li>・公と私について考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>さあ始めよう!大学生活を</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>摂南大学</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後:0.5時間)</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>4</td> <td>自己効力感を高めよう</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後:2時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>SDGsについて考えよう グループ課題の設定</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとは何かについて予習しておくこと(事前:0/5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>社会は君を待っている</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>社会の仕組み①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>8</td> <td>社会の仕組み②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>9</td> <td>自分づくり①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前:1時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>10</td> <td>自分づくり②</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>11</td> <td>スケジューリング術</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>12</td> <td>ビブリオバトル①</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前:1時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>13</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前:1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>14</td> <td>グループ課題の発表会</td> <td>・グループごとのプレゼンテーション</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)</li> </ul> </td> </tr> <tr> <td>15</td> <td>講義のおさらい</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・講義4で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul> </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul> </td> </tr> </tbody> </table>			回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか?</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前:0.5時間)</li> </ul>	2	さあ始めよう!大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前:0.5時間)</li> </ul>	3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後:0.5時間)</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2時間)</li> </ul>	4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後:2時間)</li> </ul>	5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとは何かについて予習しておくこと(事前:0/5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>	6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>	7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>	8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>	9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前:1時間)</li> </ul>	10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後:0.5時間)</li> </ul>	11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>	12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前:1時間)</li> </ul>	13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前:1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)</li> </ul>	14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)</li> </ul>	15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義4で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul>
回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題																																																																
1	ようこそ、摂南大学へ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業のオリエンテーション</li> <li>・キャリアデザインとは何か?何故必要なのか?</li> <li>・公と私について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分にとって“キャリアデザイン”とは何かを考えること(事前:0.5時間)</li> </ul>																																																																
2	さあ始めよう!大学生活を	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶということを理解する</li> <li>・「学修」の意味を学ぶ</li> <li>・ノートの取り方、学ぶためのスキルを身に付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学で学ぶ意味について考えること(事前:0.5時間)</li> </ul>																																																																
3	摂南大学	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂南大学の建学の精神と教育理念を理解する</li> <li>・摂南大学の中にある「機会」について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・摂大生として、建学の精神と教育理念を理解すること</li> <li>・大学の中にある「機会」の活用の仕方を考えること(事後:0.5時間)</li> <li>・講義で課された課題に取り組むこと(事後:2時間)</li> </ul>																																																																
4	自己効力感を高めよう	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学生活において目標とすることを考える</li> <li>・自己効力感を高めることの意味を知る</li> <li>・個人ワークのインストラクション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設定された個人ワークに取り組むこと(事後:2時間)</li> </ul>																																																																
5	SDGsについて考えよう グループ課題の設定	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsに対する理解を深める</li> <li>・グループワーク</li> <li>・グループで工程管理を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・SDGsとは何かについて予習しておくこと(事前:0/5時間)</li> <li>・グループで課題に取り組むこと(2時間)</li> </ul>																																																																
6	社会は君を待っている	<ul style="list-style-type: none"> <li>・日本の労働事情の推移を知る</li> <li>・社会で求められている力について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会で求められる人材について考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>																																																																
7	社会の仕組み①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・GDPから見る社会の仕組み</li> <li>・労働と貨幣</li> <li>・税金について考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・経済・金融と私たちの生活の結びつきを考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>																																																																
8	社会の仕組み②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・税金について考える</li> <li>・社会の問題についてディスカッション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・配布資料を熟読し、社会の仕組みについて考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>																																																																
9	自分づくり①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の良いところを20個挙げる</li> <li>・ペアワーク</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の長所や短所について考え、周囲の人にも聴くこと(事前:1時間)</li> </ul>																																																																
10	自分づくり②	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシート記入</li> <li>・ペアワーク</li> <li>・大学4年間の目標設定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学へ入学した目的と学生としての自分の目標を再確認すること(事後:0.5時間)</li> </ul>																																																																
11	スケジューリング術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を理解する</li> <li>・PDCAサイクルを身につける</li> <li>・入学から今までの大学生活を振り返る</li> <li>・未来履歴書を書いてみる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・社会人基礎力を実践する方法を考えること(事後:0.5時間)</li> </ul>																																																																
12	ビブリオバトル①	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ビブリオバトルで発表をする準備</li> <li>・グループ内で発表する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他者に紹介したい本を選び、発表の準備を行うこと(事前:1時間)</li> </ul>																																																																
13	グループ課題の発表会	グループ課題の発表会	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(事前:1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)</li> </ul>																																																																
14	グループ課題の発表会	・グループごとのプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレゼンテーションの準備をすること(1時間)</li> <li>・他グループのプレゼンテーションの内容を復習すること(事後:0.5時間)</li> </ul>																																																																
15	講義のおさらい	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義4で行った個人ワークの振り返り</li> <li>・講義の振り返り</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・夏休み以降の大学生活の目標を考えること(0.5時間)</li> <li>・期末レポートを作成すること(1.5時間)</li> </ul>																																																																
関連科目	<p>キャリアデザインⅡ、キャリアデザインⅢ、インターンシップ エンプロイメントデザインⅠ、エンプロイメントデザインⅡ</p>																																																																		

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	授業態度 (30%)、グループ課題 (20%)、最終レポート (50%) で総合的に評価する。授業態度は、個人ワーク、ペアワークなどへの取り組み態度で判断する。			
学生への メッセージ	自分の将来を考える授業であると認識し、能動的に参加すること。			
担当者の 研究室等				
備考	必要に応じて授業内でレジュメを配布する。			

科目名	デザイン方法論	科目名 (英文)	Design Methodology
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	稲地 秀介
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR2026a0		

授業概要・目的  
デザインとは問題解決プロセスを「計画」と「実行」の2段階に分け、前者の部分という。今日、我々が当然と思っているこの「計画」+「実行」というプロセスは近代の産業革命（工業化）とともに発明されたものであり、高々二百年程度の歴史しかない。とはいっても、この短い期間の中で、その方法論は多様な広がりを見せ、次々と新しいデザインを提出しつづけてきた。しかし、21世紀に入り、大量生産・大量消費の工業社会は行き詰まり、我々は社会そのものを作り変えるという新しい問題に直面した。これまでとは異なる方向へと「デザイン」の拡張が求められている。本授業では、このような新たに21世紀に求められる「デザイン方法」の基礎を今日のテーマ事例の考察を通して学ぶことを目的としている。

SDGs=4、9、11、12

到達目標  
・今日的なデザイン方法に関する基礎的知識を習得する  
・答えのない問題解決に向けた議論の構えを習得する。

授業方法と留意点  
・動画やTeamsなどの情報メディアや教育ツールを用いた授業とする場合がある。  
・学外見学やゲスト講師によるレクチャーを行う場合がある。  
・講義は授業計画に沿って行うが、学生の理解度および興味に合わせてフレキシブルに計画内容を修正しながら実施する。

科目学習の効果（資格）  
なし

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	デザインとは？	・授業概要の説明 ・アートとデザインはどう違うのか？	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
2	「デザイン方法」の概念整理	ジョン・クリス・ジョーンズの Design Methods を起点に古典的なデザイン方法論を概観し、デザイン方法発展の大きなフレームを理解する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
3	問題発見と調査分析①(プロダクトデザイン：調査・分析・評価)	プロダクトデザインの典型的なデザイン方法を事例に、問題発見から解決までの大まかなプロセスを知る。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
4	問題発見と調査分析②(プロダクトデザイン：脱・市場ニーズ主義への道程)	従来のマスコプロダクトデザインの抱える課題、次世代のプロダクトデザイン方法の展開について考察する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
5	インクルーシブ・デザイン (ユーザーとデザイナーの対等な関係が作る新しい可能性)	デザインによる排除は、市場原理等に加速されて社会的排除につながる可能性を孕んでいる。いくつかの事例からユーザーとデザイナーが対等な関係性の中でデザイン (参加型デザイン) することが生み出す可能性について考察する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
6	情報のデザイン ( InfoGraphics 、 UserInterface 、 UserExperience )	情報を視覚的に分かり易く伝えることに加えて、今日では美しく快適なユーザーと機器との相互的な情報交換体験をデザインすることが求められている。いくつかの事例から情報デザインの展開 (社会的要求と技術的応答) と今後の展望について考察する。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
7	コミュニティー・デザイン (社会を持続可能な構造へと変える担い手は誰か?)	工芸家ウィリアム・モリスは、職人の手による壁紙に新しいデザインの世界を広げただけでなく、新しい工芸運動の一部として職人らの新しい生活環境を整えるという社会活動家としての側面もありました。ここでは、生活環境を維持し新しい生活文化として発展させてきた事例の学習を通して、現代的なコミュニティーデザインの在り方について考察します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
8	レジリエンス・デザイン (復旧なのか復興なのか? 生活か制度か? 誰がきめるのか?)	災害が多発する日本において、住環境のレジリエンスは大変重要な意味をもちます。阪神淡路大震災、東日本大震災の復興過程におけるいくつかの事例から、レジリエンス・デザインの方法と可能性について考察します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
9	アルゴリズムック・デザイン (モデル化による予測可能性と創造性)	近年、コンピュータの急速な発達によって、大規模なデータを取り扱うことができるようになり、従来では実行不可であった複雑なモデルを用いた予測・評価ができるようになりました。これは、我々が新しい創造のツールを手にしたといえます。このようなツールは新しいデザイン方法の発明に大きく貢献しています。いくつかのアルゴリズムック・デザイン手法の事例を通して、コンピュータを使ったデザイン方法について考察します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
10	学術研究のデザイン (既知の海と未知の海の泳ぎ方)	我々の日常生活から遠い存在であるように見える学術研究は、タイムラグがあ	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。

			るものの、実際には日常のさまざまな技術や判断を支えています。幾つかの事例を通して、学術研究の作法や構造の基礎を理解し、論理的に組み立て、議論するロジカルシンキングの基礎力を養うことを行います。	を整理する。
	11	デザイン方法の事例①(学外講師ショート・レクチャー)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	12	デザイン方法の事例①(分析・考察)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	13	デザイン方法の事例②(レクチャー)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	14	デザイン方法の事例②(学外講師ショート・レクチャー)	実務家(学外講師)ショート・レクチャーから実社会でのデザイン方法を学びます。積極的な質問などから、方法論だけでなくデザインすることの意義や可能性を感じとり、デザイン方法への認識を広げる機会とします。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
	15	講義のまとめ	学外講師レクチャーで学習したことをグループでまとめて発表します。	事前・事後 面白いと思う「デザイン」を探し、面白いと思う点を整理する。
関連科目	インテリアデザイン演習、設計演習、デザイン方法演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	「デザイン学概論」	石田 亨	共立出版
	2	「誰のためのデザイン？」増補・改訂版 認知科学者のデザイン原論	D. A. ノーマン	新曜社
	3	コミュニティデザインの時代 - 自分たちで「まち」をつくる	山崎 亮	中央公論新社
評価方法(基準)	課題レポート(20%)、授業内ミニテスト(80%)のみで成績評価を行う。			
学生へのメッセージ	教科書は指定しないが、講義時に必要な資料を配布する予定。グループワークで評価を行うことがあるため提出物などに注意すること。			
担当者の研究室等	12号館7階 稲地准教授室			
備考	講義に係る予復習は、毎回1.5時間程度を目安とし全15回で計60時間程度を行うこと。			

科目名	福祉住環境学	科目名 (英文)	Introduction to Housing Environment
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR2028a0		

授業概要・目的	現在、日本は超高齢社会となっており、高齢者がQOLを保ちながら、安心して住み続けられる住まいの整備が急務である。また、障がい者の自立と社会参加を支える基盤となる住環境の整備も、重要な課題となっている。 本講では、この社会に生きる誰もが健やかで安全に暮らせる住環境実現に向けて、高齢者・障がい者の住まいや施設、また福祉のまちづくりについて理解を深め、住環境整備の実践において必要となる知識及び技能を習得することを目的とする。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・高齢者・障がい者の視点から、福祉住環境整備の意義や理論的背景、社会における取組状況の基礎的部分を理解・実践できる。</li> <li>・高齢者・障がい者の住環境の現状と課題を認識し、生活改善に向けた住環境整備手法について基礎的部分を理解・実践できる。</li> <li>・高齢者住宅や福祉施設の種類や変遷を理解し、計画及び設計手法について基礎的部分を理解・実践できる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パワーポイント、資料プリント等を用いて講義を行う。</li> <li>・授業時に小テストを実施し、事前学習で課した課題取組状況と、前回までの授業の理解度を確認することがある。</li> <li>・講義の後半（第12回～第14回）では、高齢者を想定したリフォームプラン作成課題に取り組み、簡単な製図を行う。</li> <li>・学外見学や学外ゲスト講師を招くなどを行うことがある。</li> </ul> ※上記資料プリント等の配布および小テストにはTeamsを用いる。初回授業開始までに、必ず本授業のTeamに参加しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・福祉住環境コーディネーター（建築や住環境などに関する法令・制度や整備の部分のみ）</li> <li>・一級建築士、二級建築士</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	福祉住環境の理念・意義	福祉住環境の理念・意義、バリアフリーとユニバーサルデザイン (担当：山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
2	高齢者・障がい者等の住宅・住環境	高齢者・障がい者等を取り巻く住宅・住環境の現状と課題 (担当：山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
3	住宅におけるバリアフリー整備	バリアフリー整備の手法、住宅設備・用具の活用、整備に係る制度 (担当：山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
4	住宅におけるユニバーサルデザイン	ユニバーサルデザインによる住宅計画、実例 (担当：山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
5	高齢者施設・住宅の整備	高齢者施設の種類、制度的背景、実例 (担当：山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
6	障がい者施設・住宅の整備	障がい者施設及び共生型住宅の種類、制度的背景、実例 (担当：山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
7	福祉のまちづくりの展開	福祉まちづくりの計画と制度 (担当：山根)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
8	高齢者住宅の設計手法	高齢者住宅の設計手法 (担当：稲地)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく  事後学習 (毎回) : 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します
9	バリアフリー改修の設計手法	バリアフリー改修の設計手法 (担当：稲地)	授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく

				事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
	10	高齢者・障がい者の住宅事例（1）	高齢者・障がい者の住宅の新築事例（担当：稲地）	事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
	11	高齢者・障がい者の住宅事例（2）	高齢者・障がい者の住宅の改修事例（担当：稲地）	事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
	12	高齢者住宅の計画（1）	リフォームプラン作成（1）エスキース（担当：稲地）	事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
	13	高齢者住宅の計画（2）	リフォームプラン作成（2）製図（担当：稲地）	事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
	14	高齢者住宅の計画（3）	リフォームプランのプレゼンテーション、講評（担当：稲地）	事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します 授業内で提示する課題について、翌週までに調べておく																
	15	福祉住環境整備体験授業	高齢者体験、バリアフリー整備モデル施設の見学等の体験型授業（担当：稲地、山根）	事後学習（毎回）： 講義内容をまとめ、用語等を理解し、覚える  ※いずれも毎回授業中に行う小テストに出します																
関連科目	設計演習 II、建築計画学																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン</td> <td>野村歡 編、上田瑞昌 他 著</td> <td>彰国社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>ユニバーサルデザインの教科書 第3版</td> <td>中川聰 監修</td> <td>日経BP社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン	野村歡 編、上田瑞昌 他 著	彰国社	2	ユニバーサルデザインの教科書 第3版	中川聰 監修	日経BP社	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	住環境のバリアフリー・ユニバーサルデザイン	野村歡 編、上田瑞昌 他 著	彰国社																	
2	ユニバーサルデザインの教科書 第3版	中川聰 監修	日経BP社																	
3																				
評価方法（基準）	毎回授業時に行う小テスト（20%）、課題（リフォームプランの作成・プレゼンテーション）（40%）、習熟度チェック（40%）																			
学生へのメッセージ	本講義で展開される知見は、住み継ぎ続けられる社会環境づくりの担い手になるために必要な素養の一つです。あくまでも導入部分であり、興味に沿って更に展開することが望まれます。																			
担当者の研究室等	山根講師室（12号館7階） 稲地准教授室（12号館7階）																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に関連した小テスト・課題等は、理解を深められるよう授業内で紹介・解説する。</li> <li>・事前・事後学習は概ね各回1時間半程度を目安として行うこと。</li> </ul>																			



科目名	コミュニティプランニング	科目名 (英文)	Community Planning
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二・山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	C◎		
科目ナンバリング	TDR2029a0		

授業概要・目的	住環境デザインにおいては、集合住宅・住宅地等一定の空間スケールにおいて、居住者が共有・共用する空間の整備や管理が重要な鍵となる。コミュニティプランニングは、集合住宅・住宅地等コミュニティの計画及び管理について、背景と意義、制度、計画・整備・再生手法、居住の実態について学び、そこから導かれる課題について考察する。また、コミュニティの持続的な発展には居住者の主体的な関わりが不可欠であることから、まちづくりや地域環境改善等コミュニティを核とする様々な取組についての理解を深める。 本講義は、コミュニティの形成過程と計画手法、コミュニティベースの集合住宅及び住宅地に関わる基礎知識、計画・整備手法に関する知識を習得し、持続可能な住環境整備を可能とするコミュニティプランニングの計画技術を身につけることを目的とする。
到達目標	○住環境整備及び管理に関する基礎的知識を習得し、コミュニティが果たす役割について理解できるようになる。 ○コミュニティベースの集合住宅及び住宅地について、基本理念、計画手法、法制度を理解し、計画技術についての基礎的知識を得ることができる。 ○住民主体で展開されるコミュニティ醸成・再生やまちづくりの進め方に関する基礎的知識を習得できる。
授業方法と留意点	○パワーポイント、配付資料等を用いて講義を進める。 ○講義の中盤 (第8回) ではコミュニティプランニング事例見学として、ニュータウン、エリアマネジメントによる住宅地整備等の事例見学を行う。 ○毎回授業中に小テストを実施し、事前学習で課した課題取組状況と、前回までの授業の理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	本科目は、一級・二級建築士受験資格指定科目 (その他) となっている。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、コミュニティの定義 日本の伝統的コミュニティ 1	○講義の目的・内容と進め方、方針、評価及びコミュニティの定義について解説する。 ○白川郷合掌造集落の大屋根葺きを事例に日本の伝統的コミュニティを体感する。	事前：シラバスを読んで内容を確認する (30分) 事後：白川郷合掌集落について調べておく (60分)
2	日本の伝統的コミュニティ 2	前回に引き続き、白川郷合掌造集落の大屋根葺きを事例に日本の伝統的コミュニティを解説する。	事前：前回聴講内容について要点をまとめる (30分) 事後：聴講内容に関する課題について調査する (60分)
3	近代市民コミュニティと空間計画	近代市民コミュニティを焦点とする空間計画の形成過程、建築空間における仕掛けを解説する。	事前：コミュニティの定義について確認しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
4	コミュニティの場としての住宅地	講義における住宅地についての定義及び住宅地の多様性について解説する。	事前：自分の周りの住宅地を見学しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
5	近隣住区論	住宅地計画において世界中で活用されている「近隣住区理論」について解説する。	事前：近隣住区について、調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
6	住宅地におけるコミュニティベースの計画 1 住宅地の構成と手法	コミュニティ形成・醸成に関する住宅地の全体構成、空間構成手法について解説する。	事前：自分の周りの住宅地を見学しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
7	住宅地におけるコミュニティベースの計画 2 街区と建築の配置	住宅地の街区形成と建築の配置の考え方とコミュニティ形成との関係について解説する。	事前：自分の周りの住宅地を見学しておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
8	コミュニティプランニング事例見学	コミュニティベースの計画による集合住宅、住宅地 (ニュータウン) の見学を行う。	事前：見学先の配布資料を読んで内容を確認する (30分) 事後：見学内容をまとめ、レポートを作成する (60分以上)
9	住環境管理の考え方とコミュニティ	住環境管理の背景と意味、課題を解説し、住環境管理におけるコミュニティの意義について考える。	事前：「住環境」「コモンスペース」について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
10	集合住宅の管理とコミュニティ	集合住宅入居者の共同管理と入居者・地域コミュニティとの関係について解説する。	事前：マンション管理について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
11	集合住宅におけるコミュニティベースの計画 1 コーポラティブ住宅	コーポラティブ住宅の定義と建築計画について概説し、計画事例を解説する。	事前：コーポラティブ住宅について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
12	集合住宅におけるコミュニティベースの計画 2 コレクティブ住宅	コレクティブ住宅の定義と建築計画について概説し、計画事例を解説する。	事前：コレクティブ住宅について調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
13	住宅地の管理・計画とコミュニティ 1 エリアマネジメント・日本型HOA	コミュニティによる住宅地管理や、地域環境改善・まちづくりの取組について解説する。	事前：エリアマネジメントについて調べておく (30分) 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
14	住宅地の管理・計画とコミュニティ 2 地区計画	住民主体で策定される都市計画である「地区計画」の基本内容とその利用法を解説する。	事前：地区計画について、調べておく (30分). 事後：講義内容を確認、用語等を理解する (60分)
15	講義の総括と重要事項の確認	講義後半の習熟度の確認、講義全体のまとめを行う。	事前：講義後半 (第9回以降) の資料を読んで、要点を整理・確認しておくこと (60分以上)

関連科目 福祉住環境学, 地域・都市計画学, サステナブルデザイン演習, 建築法規, 住環境マネジメント

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	初学者の建築講座 建築不動産	齊藤広子他	株式会社 市ヶ谷出版社
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	新建築学大系 20 住宅地計画	土肥博至・御船哲	彰国社
	2	集合住宅地 (建築計画・設計シリーズ 33)	小泉信一編	市ヶ谷出版社
	3	住環境マネジメント：住宅地の価値をつくる	齊藤広子	学芸出版社
評価方法 (基準)	各講義での課題・小テスト：40%，事例見学レポート：10%，まとめテスト：50%			
学生への メッセージ	集合住宅・住宅地では、これまで居住者のコミュニティを形成・醸成する多種多様な工夫・仕掛けが提案されてきました。コミュニティ形成の理論とともに、多くの事例を紹介しますので、インターネット検索や土曜・休日などの現地見学に積極的に取り組んでください。			
担当者の 研究室等	12号館6階・坂本教授室，12号館7階・山根講師室			
備考	○まとめテストについては、MS Teams 等で解答例を提示する。 ○課題の未提出が3回以上の場合、成績評価しない。			

科目名	建築デザイン論	科目名 (英文)	Theory of Architectural Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久富 敏明
ディプロマポリシー (DP)	E◎		
科目ナンバリング	TDR2051a0		

授業概要・目的	住環境デザインは深く生活文化に根ざしたものであり、そのなかで建築デザインが身体スケールに対する理解を元に、家具デザイン、インテリアデザインからまちづくり、都市計画、ランドスケープデザイン、環境芸術、など分野横断的な社会活動であることを理解する。
到達目標	建築デザイン入門講座として、専門用語とその意味を習得する。住環境デザイン及び建築デザインに関連する知識を元に、計画し実践する能力を習得する。
授業方法と留意点	授業の形式は講義中心である。教科書及び配布プリントを利用し、授業進行に合わせて適宜理解度のチェックを行う。授業方法は、ICT ツール、または、プロジェクター、板書を利用する。教科書、配布プリントは必ず持参すること。
科目学習の効果 (資格)	1級建築士 (2級建築士、木造建築士) の資格試験に関連する内容

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション 住環境デザインと建築デザインの関係	建築を自然と地域に開くことの意義について	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
2	地域主義の建築と批判的地域主義の建築	気候風土と建築の関係 生業の地域性と住環境デザイン	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
3	考現学と建築デザイン	考古学と民族学から考現学へ ふるまいと建築デザイン	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
4	自然発生的建築の多様性 I	精神世界の投影、風土と住形式の不確定性、シンボルの多義性、防御と結束の表明、風と対話する家型、他	事前に教科書 P.8 から P.19 を読み、要点を理解する (1.5時間)
5	自然発生的建築の多様性 II	集落の歴史的持続性、集住の特異性、形式の持続性、地中の家の原初的形態 倉に貯蔵される記憶	事前に教科書 P.20 から P.28 を読み、要点を理解する (1.5時間)
6	近代建築の成り立ち	近代建築のつくり方 近代建築によって出来るようになったこと	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
7	近代建築の多義性 I	コルビュジェとミースにみる建築デザインの法則性	事前に教科書 P.29 から P.39 を読み、要点を理解する (1.5時間)
8	近代建築の多義性 II	ライトとカーンにみる建築デザインと自然の関係	事前に教科書 P.39 から P.48 を読み、要点を理解する (1.5時間)
9	空間と架構デザイン	素材と技術の発展と建築デザインの関係 石造、木造、鉄筋コンクリート造、鉄骨造から 3D プリンターへ	事前に教科書 P.69 から P.88 を読み、要点を理解する (1.5時間)
10	現代建築への展開 I	ピアノにみる建築技術と環境デザインの関係	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
11	現代建築への展開 II	フォスターにみる建築技術と環境デザインの関係	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
12	日本の歴史的建築構成の意味	時間軸から見た素材、構法 日本の伝統的建築物に見られる空間性	事前に教科書 P.49 から P.68 を読み、要点を理解する (1.5時間)
13	ランドスケープデザインと建築空間の連関	水・光・風・におい・音と建築デザイン	事前に教科書 P.89 から P.108 を読み、要点を理解する (1.5時間)
14	建築デザインと環境芸術	環境芸術の成立と建築デザイン 美術館建築の歴史との関係	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)
15	建築デザインが必要とされる場所	大規模災害時の避難所生活 拡張する公共空間のつかい方	授業で配布した資料を読み、要点を理解する (1.5時間)

関連科目 設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、建築計画学

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	建築概論	本多友常、安原盛彦、大氏正嗣、佐々木葉二、柏木浩一	学芸出版社
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準) 講義時間内に行なう修得理解度テスト (小テスト) を 5 回行い、その合計点で評価する。各回 20 点 (5 回実施) 100%。授業テーマの区切りに合わせ授業の一環として実施する。修得理解度テスト (小テスト) 実施日に欠席した場合は、教務課が発行する欠席届を提出すること。欠席届の提出を受けて、レポートなどで対応する。その際の評価は、修得理解度テスト (小テスト) の評価基準と同等にはならないことに留意して履修登録すること。

学生へのメッセージ 教科書は必ず入手してください。本講義で習得した知識を設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、設計演習Ⅲ、設計演習Ⅳ (旧カリ) で活用してください。

担当者の研究室等 12 号館 7 階 久富教授室

備考 各回の授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もある。予習復習は配布資料、教科書の通読、関連図書の検索も含め約 1 時間 30 分間程度とする。

科目名	人文地理学	科目名 (英文)	Human Geography
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	島田 広之
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	THU2407a1		

授業概要・目的	本授業では、地理学の入門的な内容についてお話しします。地理学は社会を、地域や空間などをキーワードとして、捉えていく学問です。人文地理学で扱うテーマは多岐にわたっており、学生の皆さん自身の興味ある分野について、地理学的な視点から考えられる力を身につけることを目指します。
到達目標	地理学の入門的な知識が身につく、社会の諸現象に対して地理学的な視点から説明できる。
授業方法と留意点	配布資料をもとに講義形式で行います。授業時に、理解度を確保するための小課題に取り組んでもらいます。
科目学習の効果 (資格)	皆さんの興味のある現象について、地理学的な視点で考えることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス：地理学とは？	地理学の学び方や授業の進め方等について紹介します。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
2	地理情報について	地図の歴史、GISについて学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
3	地理学の歴史	地理学の歴史と主要な理論について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
4	都市における地理学的現象	都市における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
5	農村における地理学的現象	農村の構造や課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
6	産業の地理学	産業構造の変化による様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
7	環境利用における地理学的現象	資源利用と景観について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
8	環境問題と地理学	環境問題について、様々なスケールからその影響について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
9	ジェンダーと都市	ジェンダーに関する空間的な現状について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
10	観光と地理学	観光について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
11	災害と地理学	災害について地理学的視点から学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
12	住宅をめぐる地理学的現象	現代住宅における様々な現象について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
13	過疎/ニュータウン、郊外の現在	ニュータウンなどの郊外地域の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
14	空き家と住宅をめぐる諸課題	空き家問題や郊外住宅の課題について学びます。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)
15	地理学の課題	・これまでの授業を踏まえた上で今後の地理学の課題について検討します。	授業テーマに応じた、事前学習をしてください。講義内容について事後学習しておいてください。(各2時間)

関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
	番号	書籍名	著者名	出版社名													
	1																
	2																
3																	
評価方法 (基準)	期末レポート試験 (30点)、授業ごとの小課題 (70点) にて評価します。																
学生への																	

メッセージ	
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	奥西 達也
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TS02411a1		

授業概要・目的	この授業は、受講生が経済学のごく初歩的な知識を身につけ、新聞などの経済記事のある程度理解できるようになることを目指す。経済とは何か、経済学とはどのような学問かを考えることを導入部に、新聞やネット上の経済記事で目にする基本的な経済用語、経済の大まかなしくみ(メカニズム)について、できるだけ平明に説明していく。また、戦後から現在に至る世界経済史のマクロ的な振り返りを通して、現日本の経済状況を理解することをも目指す。
到達目標	経済の大まかなしくみがある程度理解できるようになる。 現代経済の流れや経済問題がある程度理解できるようになる。 新聞やネット上の経済記事の内容がある程度理解できるようになる。
授業方法と留意点	・対面授業で行なう。対面授業に参加するように。 ・万一遠隔授業となった場合は授業資料配信型のオンライン授業とする。 ・使用するオンラインツールはWebFolderである。授業資料ではできる限り平明な解説文と図説チャートなどの静止画をメインにしたものを用いる(必要な場合には音声、動画を交える)。
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	イントロダクション	授業にかかわるガイダンス(授業の進め方・成績評価)。経済に関する受講生へのアンケート。	事前学習として「経済」とは何か、「経済学」とはいかなる学問かについて、自分なりの見解を簡単にまとめておく。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	2	経済と経済学	①誰のための経済か。そもそも経済とは？資本とは？資本主義とは？ ②様々な経済学(マクロ経済学とミクロ経済学など)：2対象の違い、視座の違い。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	3	市場の種類としくみⅠ 生産物市場①	需要・供給・価格調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	4	市場の種類としくみⅡ 生産物市場②	需要・供給・数量調整。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	5	市場の種類としくみⅢ 労働市場①	労働需要と労働供給。賃金の決定と失業の発生：自然失業率と景気変動。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	6	市場の種類としくみⅣ 労働市場②	労働市場の規制と緩和：労働法制とさまざまな雇用形態。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	7	市場のしくみと種類Ⅴ 資本市場	資金調達と株式市場。株価の決定。株式会社のしくみ。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	8	市場の種類としくみⅥ 貨幣市場	貨幣の需要・供給と利率。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	9	GDPと経済成長率	ストックとフロー、付加価値、三面等価、名目と実質の経済成長率など	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	10	為替変動	外国為替とは。通貨安・通貨高が経済生活へ及ぼす影響。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	11	国際分業と貿易	自由貿易のメリット・デメリット。保護貿易の功罪。国際収支の考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	12	インフレとデフレ	どのような現象か。なぜ起こるのか。その対策は：ケインジアンの考え方、マネタリストの考え方。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	13	中央銀行と金融緩和	価格政策と数量政策。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。

	14	政府の役割	有効需要政策と乗数効果。 租税政策と所得再分配。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
	15	世界経済と日本 まとめと復習	経済のグローバル化とリージョナル化。	事前学習として講義資料を読み指示された課題予習ををする。事後学習として講義内容の復習および指示された復習課題を行う。それぞれ1時間以上かけること。
関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	経済学入門 (マクロ編)	ティモシー・テイラー	かんき出版
	2	日本経済の常識	中原隆幸	ナカニシヤ出版
	3	入門経済学	J. スティグリッツ	東洋経済新報社
評価方法 (基準)	定期試験 (筆記試験) 70%、小テスト・提出物などが 30%。			
学生への メッセージ	日々、経済記事に注意を向け、関心あるトピックについて (自分なりに) 書籍やネットを使って掘り下げて調べる習慣をつけてほしい。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	チェックシート(小テスト)、提示された課題への取り組みなどを通して、自身の理解不足の箇所を把握し、自主的に調べ知識を深める、あるいは新たな気づきを得ることが肝要である。とりわけ重要な事項で理解の不足が目立つ場合には、折に触れ授業で言及しましたチェックシートや課題で問う、などのフィードバックを図る。質問等については基本的に授業終了後に対応する。			

科目名	経済学入門	科目名 (英文)	Introduction to Economics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	小塚 匡文
ディプロマポリシー (DP)	A⑩		
科目ナンバリング	TS02411a1		

**授業概要・目的**  
 マクロ経済は、一国単位での経済活動の状況を分析する学問です。毎日の新聞・ニュースを見ると、国民所得のこと、設備投資のこと、円相場のこと、景気のこと、日銀のことなど、マクロ経済に関するトピックがいろいろ出てきます。その多くは、この講義で扱うようなマクロ経済学の基本知識があると、理解できることがほとんどです（もちろん、マクロ経済にはまだ解明されていない謎もあります）。この講義は、マクロ経済学の基礎理論に基づいてマクロ経済の動向を考察できるようになることを目的としています。これは、経済活動に関わる社会人として、必要な知識であると担当者は考えています。  
 使用テキストは、日本の事例を使った解説を展開しています。講義では、できる限り図表やグラフを用いた解説を行います。初歩的な数学も用いることもあります。

**到達目標**  
 経済学部での学習に必要なマクロ経済学の基礎知識を習得するとともに、粗削りでもよいので、現実経済に対して自分なりの見解を述べるができるようになることを目標としています。

**授業方法と留意点**  
 講義資料は毎回配布しますが、Teams および Web Folder にもアップします。基本的にテキストや講義資料に従って講義を進めますが、講義中に調べ物などを実施して、履修者の皆さんが「手を動かす」時間を取るようにしたいと思います。なお、講義中の私語、スマートフォンなどの操作、イヤホンで音楽などを聴くことを禁止します（常識の範囲内ですが）。スマートフォンを操作する必要があるときは、指示します。  
 原則として毎回、練習問題を出題します。練習問題は次回講義開始時まで提出する宿題と位置付けていますが、講義中に解答していただく場合もあります。後述のように、練習問題は成績評価の対象となります。また、練習問題の解答の際には、Microsoft Forms を利用します。  
 練習問題の解説は、提出締め切り後に、復習を兼ねて行います。  
 その他、重要な連絡事項は、ポータルサイトの「お知らせ登録」で周知します。

**科目学習の効果 (資格)**  
 現実経済の基本的な知識が身につくので、新聞の経済関係の記事が読めるようになります。また、公務員試験（事務職）や経済学検定試験に出題される内容の基本事項を習得することができます。ただしこの講義で扱う内容は基本項目であるため、国家公務員、都道府県庁、市役所の専門試験については、この講義内容では十分ではありません。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	マクロ経済学とは	マクロ経済学の概観、マクロ経済循環について	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
2	GDP とは何だろうか	マクロ経済の基本項目である GDP (国内総生産) とその関連事項について (教科書第 1 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
3	消費と貯蓄	表裏一体の関係にある消費と貯蓄について (教科書第 2 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
4	設備投資と在庫投資	企業の購入である設備投資や在庫投資について (教科書第 3 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
5	金融と株価	貯蓄と投資をつなぐ存在である金融について (教科書第 4 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
6	貨幣の需要と供給 (1)	貨幣の役割について (教科書第 5 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
7	貨幣の需要と供給 (2)	貨幣の需要や供給がどのような要因で起こるのかについて (教科書第 5 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
8	乗数理論と IS-LM (1)	一国全体の需要である総需要の変化が国民生活に及ぼす影響について (教科書第 6 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
9	乗数理論と IS-LM (2)	総需要の状況をあらわす IS-LM モデルに基づく、財政・金融政策の効果について (教科書第 6 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
10	経済政策の必要性	財政・金融政策の限界と最近の金融政策について (教科書第 7 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
11	財政赤字と国債	財政支出拡大の問題点について (教科書第 8 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
12	インフレとデフレ	インフレとデフレが発生する要因について (教科書第 9 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
13	失業	失業についての考え方と日本の失業について (教科書第 10 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) 次回講義内容の予習 (60 分)
14	経済成長理論 / オープン・マクロ経済学	①経済成長のメカニズムについて (教科書第 11 章) ②外国の要素を考慮したオープン・マクロ経済学について (教科書第 12 章)	講義内容の復習・練習問題 (120 分) これまでの講義内容の復習 (120 分)
15	確認テスト	確認テスト (成績評価の対象)	これまでの講義内容の復習 (120 分)

**関連科目**

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	有斐閣アルマ マクロ経済学入門 (第 6 版)	福田慎一・照山博司	有斐閣
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

**評価方法 (基準)**  
 練習問題 (50%)、確認テスト (50%) で評価します。

**学生への**  
 疑問が生じたら、講義中、講義後を問わず、積極的に質問してください。「聞くは一時の恥聞かぬは一生の恥」です。



メッセージ	なお履修に当たっては、教科書は必ず購入してください。教科書を持っていることを前提に講義を進めます。
担当者の研究室等	1号館7階 小塚研究室
備考	15回目の確認テスト実施時に、教室を変更する可能性があります。

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	本授業では TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、リスニング、文法、リーディングセクションを演習形式で学習します。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC スコア 350 点以上 (TOEIC Bridge 130 点以上) を獲得できるようになる。</li> <li>語彙や文法の知識を定着させる。</li> <li>素早く正確な読解、リスニングができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。</li> <li>テキスト、電子辞書、ノートを持ってきてください。</li> <li>積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。</li> <li>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</li> <li>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。(原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</li> <li>①から③が続く場合、単位を認めない。</li> </ul> </li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: College life 1 品詞 TOEIC の紹介	授業の進め方、評価の方法などの説明 TOEIC の内容	授業の進め方、評価方法の確認 Unit 1 の Grammar, Reading section の予習、復習
2	Unit 2: Colleege life 2 自動詞、他動詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 1-40 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
3	Unit 3: Hobbies 5 文型	単語単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 41-81 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
4	Unit 4: Romance 現在、過去形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 82-122 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
5	Unit 5: Transportation 未来形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 123-163 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
6	Unit 6: Business 進行形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 164-204 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
7	Unit 7: Society 完了形	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習： 単語テストの準備：範囲 205-245 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備
8	中間テスト	単語テスト これまでの学習範囲より中間テスト	事前学習： 単語テストの準備：範囲 246-286、中間テストの準備
9	Unit 8: Health 助動詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 287-327 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
10	Unit 9: The environment 受動態	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 328-368 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
11	Unit 10: Medicine 不定詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 369-409 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
12	Unit 11: Finance 分詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：範囲 410-438 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
13	Unit 12: Shopping 動名詞	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：総復習 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認

	14	TOEIC ミニテスト リーディング	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事前学習 単語テストの準備：総復習 事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
	15	テキスト U1~10 までの復習	単語テスト テキストのリスニング、文法、リーディング問題を解答、正解確認から学習	事後学習 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English Pre-intermediate	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通試験(統一英語単語テスト): 20%</li> <li>・e-learning: 20%</li> <li>・教員評価: 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%)</li> </ul> 注意: 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後の学習として毎回1.5時間以上かけること。			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	谷口 永里子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	TOEIC 350 点 (TOEIC Bridge 130 点) 以上の実力をつけることを到達目標とする。 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容 (日常生活、学校生活など) の英文に関する基本的な情報を理解できるようになる。 「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	2	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0001-0044
	3	Unit 1 Occupations	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0045-0092
	4	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0093-0134
	5	Unit 2 At the Dinner Table	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0135-0179
	6	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0180-0223
	7	Unit 3 Sports	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0224-0270
	8	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0271-0318
	9	Unit 4 Health	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0319-0363
	10	Unit 5 What's on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0364-0407
	11	Unit 5 What's on Your Playlist?	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0408-0438
	12	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	13	Unit 6 At the Movies	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	14	Review 1	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	15	Review 2	Unit1~6の復習 文法、語彙の復習	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には1時間以上かけること。
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山 照彦 / LiveABC editors	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト(20%) e-learning 学習の進捗度(20%) 定期試験(30%) 小テスト、授業中の態度(課題の提出)(30%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	TOEIC に役立つ語彙や文法の知識を付け、リスニング問題で耳を鍛えましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後学習には、毎回1時間以上をかけること			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。 TOEIC に慣れて、高得点を目指せるようになることが目標である。
到達目標	TOEIC350 点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO 1～NO 438 の範囲を毎回 40 単語ずつ 10 回に分けてテストする。また、テキストの内容に関して各章ごとに臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス、および TOEIC 形式のプレテスト	・授業方針、評価方法、出欠の扱いなどの説明 ・ TOEIC プレテスト	文法全般を予習、課題は授業中に指示する 単語テストの予習 NO 1～40
2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする Be 動詞 単語テスト 1	単語テストの予習 NO 41～80 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習 一般動詞 1 単語テスト 2	単語テストの予習 NO 81～120 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の学習もする 一般動詞 2 単語テスト 3	単語テストの予習 NO 121～160 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 進行形 単語テスト 4	単語テストの予習 NO 161～200 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 未来形 単語テスト 5	単語テストの予習 NO 201～240 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 助動詞 単語テスト 6	単語テストの予習 NO 241～280 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
8	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 名詞 単語テスト 7	単語テストの予習 NO 281～320 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
9	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 冠詞 単語テスト 8	単語テストの予習 NO 321～360 復該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
10	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 代名詞 単語テスト 9	単語テストの予習 NO 361～400 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
11	文法問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 前置詞 単語テスト 10	V 単語テストの予習 NO 400～438 該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
12	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 形容詞	該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
13	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 副詞	該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
14	読解問題対策	語彙、読解、文法、Listening の練習 比較	該当 Unit の予習、重要項目、フレーズの整理
15	総まとめ TOEIC 形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		プリント教材配布	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-		成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、臨時試験 40%、提出物 10%、授業態度 (投げかける質問に対する発言、応答状態、積極性、発表など) 10%、e-learning 20% の割合で評価する。
学生への	*連絡や課題は Teams から行いますので、必ず登録してください。

メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回小テストをします。</li> <li>各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。</li> <li>・辞書は毎回必携のこと</li> <li>・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行きましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう</li> </ul> <p>教員への連絡は Teams のチャットから行ってください</p>
担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	<p>事前事後学習（それぞれ約1時間）以外に、毎日単語、15分、リスニング15分の学習をすること。</p> <p>「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</p> <p>小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。</p>

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(DP1) (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前学習：教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Occupations	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#001-042
3	Unit 1 Occupations	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#043-0084
4	Unit 2 At the Dinner Table	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0085-0126
5	Unit 2 At the Dinner Table	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0127-0168
6	Unit 3 Sports	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0169-0212
7	Unit 3 Sports	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前学習：テキスト p.33 の練習問題を行い、p.34 の Reading Passage の事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0213-0256
8	Review Test	Unit 1-3 授業内配布資料	テスト勉強：Unit1-3 までの復習(2時間)
9	Unit 4 Health	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前学習：テキスト p.37 の練習問題を行い、p.38 の Reading Passage の事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0257-0301
10	Unit 4 Health	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0302-0347
11	Unit 5 What's on your playlist?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0348-0392
12	Unit 5 What's on your playlist?	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0393-0438
13	Unit 6 At the movies	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：テキスト p.53 の練習問題を行い、p.54 の Reading Passage の事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
14	Unit 6 At the movies	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
15	総まとめ	Unit 3-6 授業内配布資料課題	事前学習：Unit3-6 までの復習(2時間)

関連科目									
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Live Escalate Book 2 : Trekking</td> <td>角山照彦</td> <td>成美堂</td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂
番号	書籍名	著者名	出版社名						
1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂						



	2	The 1500 Core Vocabulary for t-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20% e-learning 学習の進捗度 20% 定期試験・授業態度・課題・小テスト等 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	英語を使いこなす事ができれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。			
担当者の 研究室等 備考	7号館 2階 非常勤講師室			

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	Practical English is a course written for Japanese students seeking to improve their English skills. It is designed for active communication with many fun tasks and exercises and features various speaking, listening, reading, and writing activities.
到達目標	Participation in this course will improve the four primary skills: speaking, listening, reading, and writing.
授業方法と留意点	Individual, pair, and group work activities will form the core of each lesson.
科目学習の効果 (資格)	Students who complete the course will have the language skills and confidence to push to the next level in their English development.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 1: Speaking About Yourself	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	Students should: (1) Preview the unit for the next class (45 mins) (2) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0001-0040
	2	Unit 1: Speaking About Yourself	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0041-0080
	3	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0081-0121
	4	Unit 2: What Do You Do?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0122-0162
	5	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0163-0202
	6	Unit 3: What Does He Look Like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0203-0243
	7	Review Units 1-3	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0244-0284
	8	Unit 4: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0285-0325
	9	Unit 4: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0326-0366
	10	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0367-0407
	11	Unit 5: Like and Dislikes	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0408-0438
	12	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	13	Unit 6: What's She like?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	14	Review Units 4-6	テキスト実践、解説	Students should review the unit from the last lesson (45 mins)
15	Course review and evaluation. Feedback	これまでの項目を総復習		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	NAN' UN-DO
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		SEIBIDO
	2			
	3			
評価方法 (基準)	E-learning, 20%、TOEIC Bridge, 20%、final exam, 20%; coursework and quizzes, 40%.			
学生への メッセージ	This course will most benefit students who participate enthusiastically in activities, preview and review lessons and complete their homework assignments.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語 I a	科目名 (英文)	Practical English Ia
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2431c1		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い文章を読めるようにする。同時に、より多くの語彙力、文法力、リスニング力をつけていくことを目的とする。 教科書は最新かつ身近で興味深いテーマが数多くとりあげられているので、楽しみながら精読することで、英語力の向上を目指していく。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組むことで、英語を正しく読む力がつく。また、TOEICやTOEIC Bridge 受験のための必要な読解力の向上がはかれる。
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かさずことなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は英検やTOEIC, TOEIC Bridge 等のテストに必ず役立つ。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 1: Resellers-Good or Bad? インターネットでの転売について	語彙、本文精読、内容把握 第1回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0001-0045
3	Unit 1: Resellers-Good or Bad? インターネットでの転売について	本文要約、文法問題、リスニング 第2回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0046-0090
4	Unit 2: About Earphones イヤホン着用の長所短所と進化	語彙、本文精読、内容把握 Unit 1 単語テスト 第3回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0091-0135
5	Unit 2: About Earphones イヤホン着用の長所短所と進化	本文要約、文法問題、リスニング 第4回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0136-0180
6	Unit 3: Cash Registers 買い物での支払い方法の選択肢について	語彙、本文精読、内容把握 Unit 2 単語テスト 第5回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0181-0225
7	Unit 3: Cash Registers 買い物での支払い方法の選択肢について	本文要約、文法問題、リスニング 第6回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0226-0270
8	Unit 4: Funny Happenings During Online Lessons コロナ時のオンライン授業での様々なエピソード	語彙、本文精読、内容把握 Unit 3 単語テスト 第7回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0271-0315
9	Unit 4: Funny Happenings During Online Lessons コロナ時のオンライン授業での様々なエピソード	本文要約、文法問題、リスニング 第8回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0316-0360
10	Unit 5: Loose-Fitting Clothing 変化するファッションと最近の流行	語彙、本文精読、内容把握 Unit 4 単語テスト 第9回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0361-0405
11	Unit 5: Loose-Fitting Clothing 変化するファッションと最近の流行	本文要約、文法問題、リスニング 第10回単語テスト	復習、の予習 単語学習範囲: 0406-0438
12	Unit 6: Shrinkflation サイズを縮小することで価格上昇を防ぐ対策	語彙、本文精読、内容把握 Unit 5 単語テスト	復習、予習
13	Unit 6: Shrinkflation サイズを縮小することで価格上昇を防ぐ対策	本文要約、文法問題、リスニング	復習、予習
14	Unit 7: Living in the Countryside 最近メディアでとりあげら	語彙、本文精読、内容把握 Unit 6 単語テスト	復習、予習

	れる田舎暮らしについて																		
15	Unit 7: Living in the Countryside 最近メディアで取り上げられる田舎暮らしについて	本文要約、文法問題、リスニング	定期試験（前期末）の準備																
関連科目	他の英語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Trend Scope</td> <td>Jonathan Lynch/Kotaro Shitori</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Trend Scope	Jonathan Lynch/Kotaro Shitori	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Trend Scope	Jonathan Lynch/Kotaro Shitori	成美堂																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>統一英語単語テスト 20%, e-learning 20% 定期テスト 30% 平常点 30 点(小テストと授業態度) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第 1 回目の授業で説明する。</p>																		
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。																		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。</li> <li>・授業計画は進度によって変わる場合がある。</li> <li>・事前事後の学習のため、毎回平均 1 時間は学習すること。</li> <li>・質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。</li> <li>・小テストは必ず返却しフィードバックします。</li> </ul>																		

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アイビス ウイリアム
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	TOEIC のスコアを上げることに特化した授業を行う。 TOEIC L&R テスト対策の教科書と、大学指定の単語集を用い、各問題解答のための対策を演習によって身に付ける。
到達目標	TOEIC350以上のスコアを獲得することを目標とする。
授業方法と留意点	毎回、授業外で自分で学習した単語帳のなかの単語のテストを行う。 教科書の各章のテーマ（話題状況）とターゲットの文法事項を頭におきながら、TOEIC のパートごとに出题形式を学び、それを身に付けるために練習問題に解答してゆく。Reading Section の解答の際は、毎回適応する時間を計って練習することで、本番には全問解答することができるように準備する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC L&R test 350 点以上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	Unit 2 Travel	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0439-0480 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
3	Unit 3 Amusement	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0481-0522 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
4	Unit 4 Meetings	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0523-0565 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
5	Unit 5 Personnel	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0566-0609 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
6	Unit 6 Shopping	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0610-0653 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
7	Unit 7 Advertisement	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0654-0698 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
8	Unit 8 Daily Life	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0699-0741 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
9	Unit 9 Office Work	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0742-0781 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
10	Unit 10 Business	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0782-0821 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
11	Unit 11 Traffic	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	単語小テスト No. 0822-0862 事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
12	Unit 12 Finance and Banking	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
13	Unit 13 Media	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
14	Unit 14 Health and Welfare	テーマ関連の語彙の練習問題の後、 TOEIC 形式の Part1~Part 7 の練習問題を 解答し、パートごとに答え合わせをする。	事前事後学習には、毎回 1 時間以上かけること
15	Review	語彙・文法事項の総復習	今学期の既習範囲の復習

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般		
教科書	番号	書籍名	著者名 出版社名

	1	Step-up Skills for the TOEIC Listening and Reading Test : Level 2	北尾泰幸、西田晴美、林姿穂、Brian Covert	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test— Revised Edition	NISHIYA Koji	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト20%) e-learning 学習の進捗度 20% 期末試験 25% 授業中の小テスト 15% 受講態度(積極性) 20%			
学生への メッセージ	Have fun. Study hard. Speak English.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業の事前・事後学習は、全体でおおよそ30時間とする。授業中に実施される小テストは、翌週の授業内で返却され、フィードバックされる。質問等は、授業内か授業終了後に教室で、または出講時に非常勤講師室で対応する。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	アサヒ ロングス
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ることを。指定の単語集も、授業外の時間で学習し、毎回「小テスト」を受けることで、自分の学習の度合いを確認する。
科目学習の効果（資格）	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	Unit 1 Smartphone Addiction スマホ依存って病気だったの？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：439-459 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
2	Unit 2 Congestion at the Cafeteria 学生食堂の混雑を解決したい！	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：460-500 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
3	Unit 3 Infectious Diseases 予防は最高の薬！	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：501-541 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
4	Unit 4 Universal Design ユニバーサルデザインって何？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：542-582 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
5	Unit 5 Column 1 Word Search (Units1-4)	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：583-623 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
6	Unit 6 Student Stress ストレスと上手く付き合おう！	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：624-664 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
7	Unit 7 Black Baito ブラックバイトってどういうもの？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：665-695 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
8	Unit 8 Older Drivers 大丈夫？ 高齢者ドライバー	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：696-736 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
9	Unit 9 Plastic Waste 減らそう！ プラスチックごみ	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：737-777 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
10	Unit 10 Column 2 Crossword Puzzle (Units 6-9)	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：778-818 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
11	Unit 11 Overtourism インバウンド旅行で観光公害？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	単語学習範囲：819-862 授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
12	Unit 12 Esports e スポーツの人気を高めるには？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
13	Unit 13 Sleep Deprivation 睡眠不足は寝だめで解消！？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
14	Unit 14 AI 人工知能と共存できるか？	リスニング (穴埋め) リーディング (要約・内容一致) ライティング グループワーク	授業までに Warm up の単語を記入すること。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。
15	学期の復習	学期の復習	学期中の Warm up の単語の意味を把握しておくこと。 授業後にリーディング問題の不正解箇所と本文の内容を比較して再確認すること。



関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (成美堂)	西谷 恒志	成美堂
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	共通試験 20%(統一英語単語テスト 20%)、定期試験 30%、小テスト 10%、授業態度 20%(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など)、e-learning20%の割合で総合的に評価する。 (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映する。)			
学生への メッセージ	<p>会話力、TOEICの単語力やテクニックを、リーディング、ライティング、リスニング、グループワークでのディスカッションによって身に付けます。</p> <p>英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。</p> <p>当然のことではありますが、教科書はご自身のものを持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。</p> <p>授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	ジョセフ シウンシ
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、関連する例文を復唱し、英語で発信するための基礎作りをする。
到達目標	CEFR-J [A1.3]を目標とし、自分に関連する情報（個人情報・家族情報）、買い物、地理、学校・仕事に関する基本的な日常の事柄について、単純な情報発信や情報交換ができるようになる。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守ること。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：460-500
3	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：501-541
4	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：542-582
5	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：583-623
6	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：624-664
7	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：665-695
8	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：696-736
9	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：737-777
10	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：778-818
11	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題 単語学習範囲：819-862
12	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
13	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
14	英会話の練習	ノートを取る スピーキング ロールプレイ クイズ	ノートの再確認 宿題
15	復習	復習	ノートの再確認 宿題

関連科目	なし			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (成美堂)		

	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト 20%, e-learning 20%, 授業への参加 (ノートを取る、スピーキング、ロールプレイ、クイズ) 60% (※欠席、遅刻、授業中の私語や居眠りなど、受講態度は成績に反映します。)			
学生への メッセージ	<p>授業は全て英語で行います。          会話力、TOEICの単語力やテクニックを、ロールプレイによって身に付けます。          ビジネスで英語を使用する際に、培ったリスニング力やスピーキング力で、自信を持って話せるようにします。          講義、演習、ロールプレイ。          ノートを取るのので、筆記用具を持参してください。</p> <p>頑張ってください。質問があれば、いつでも来てください。          授業はマナーを守って受けてください。</p>			
担当者の 研究室等	7号館 2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 30 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行い、TOEIC で評価される英語力の向上を目指す。
到達目標	TOEIC 350点以上の実力 (TOEIC Bridgel30点)
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらおうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	読解、文法、語彙 品詞	TOEIC 文法・読解演習 主要品詞	単語小テスト No. 0439-0481 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	読解、文法、語彙 動詞の形 1	TOEIC 文法・読解演習 時制	単語小テスト No. 00482-0524 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	読解、文法、語彙 動詞の形 2	TOEIC 文法・読解演習 能動態と受動態	単語小テスト No. 0525-0567 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	読解、文法、語彙 前置詞	TOEIC 文法・読解演習 前置詞の役割	単語小テスト No. 00568-0610 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	読解、文法、語彙 接続詞	TOEIC 文法・読解演習 接続詞の役割	単語小テスト No. 0611-0653 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Review	前半の復習	単語小テスト No. 0654-0696 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	臨時試験	前半の試験	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	臨時試験評価	臨時試験の解説及び評	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙 可算名詞と不可算名詞	TOEIC 文法・読解演習 名詞の数について	単語小テスト No. 00697-0739 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙 主語・動詞の呼応	TOEIC 文法・読解演習 主語と動詞の一致について	単語小テスト No. 0740-0782 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙 関係詞	TOEIC 文法・読解演習 関係代名詞の用法	単語小テスト No. 0783-0825 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙 名詞節	TOEIC 文法・読解演習 名詞節の用法	単語小テスト No. 0826-0862 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙 副詞節	TOEIC 文法・読解演習 副詞節の用法	教科書 P. 55-60 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半の復習	Unit 16- 20 質問準備 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Seize the Essence of the TOEIC Test	Masako Yasumaru et al.	KINSEIDO
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	共通試験 20% (統一英語単語テスト 20%)、定期試験 40%、小テスト 10%、授業態度 (発表など) 10%、e-learning 20% の割合で総合的に評価する。
-----------	---

学生へのメッセージ	図書館や PC 等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-------------------------------

担当者の研究室等	7号館 2階 非常勤講師室
----------	---------------

備考	「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 小テスト、提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	中道 英美子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	このクラスは海外旅行、海外研修、ビジネスシーン、海外出張など、実際のシチュエーションで役立つ英語の運用能力を高めることを目的とする。そのため、日常生活、ビジネスに関わる基本語彙・表現の理解、習得に重点が置かれる。
到達目標	CEFR-J[A2-2]を目標とする。すなわち自分自身や家族、友人などにかかわる身近な事柄に関して英語で説明したり、書き表すことができる。また商業施設、公共交通機関の利用、医療、住居、気象、求職活動など、生活に関わる必須情報で英語で表現されたものを聴解、読解することができる。
授業方法と留意点	演習形式の授業を行う。あらかじめ指定された箇所に関する発話、発表を行うものとする。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			指定箇所の予習
1	オリエンテーション	リスニング スピーキング	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 439-480
2	Restaurants	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 481-520
3	Restaurants	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 521-560
4	Offices	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 561-600
5	Offices	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 601-640
6	Daily Life	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 641-680
7	Daily Life	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 681-720
8	Personnel	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 721-760
9	Personnel	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 761-800
10	Shopping	リスニング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 801-840
11	Shopping	リーディング スピーキング	指定箇所の予習 The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition No. 841-862
12	Finances	リスニング スピーキング	指定箇所の予習
13	Finances	リーディング スピーキング	指定箇所の予習
14	Transportation	リスニング スピーキング	指定箇所の予習

	15	Transportation	スピーキング リーディング	指定箇所の予習
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	コミュニケーションスキルが身に付く TOEIC L&R TEST (初級編)	角山 照彦 / Simon Capper / 遠藤 利昌	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語集)	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト...20% e-learning 学習の進捗度...20% 定期試験...40% 授業内での発表...20%			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ 15 時間程度とする。テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。 ※専任教員は「その他の質問等はチューデントアワーにて対応する。			

科目名	実践英語 I b	科目名 (英文)	Practical English Ib
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	片岡 晴美
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2432c1		

授業概要・目的	1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な4技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。 この授業では、TOEIC教材を学習し、スコアアップを目的とします。TOEICとは、Test of English for International Communication (国際コミュニケーション英語能力テスト)という英語によるコミュニケーション(意思疎通)とビジネス能力を測定するための試験のことです。ただ単に英語を学ぶだけでなく、他人と英語で上手くやり取りしながら、仕事を行えるようになるのを目指します。
到達目標	「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2]を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1]を目標とし、自分に関連する内容(日常生活、学校生活など)の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1]を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。 e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。  ※3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。  ※当科目の教科書は、オンライン教材「ChenkLink」を使用するため、必ず「新品」を購入し、「教科書固有番号」を使用できるようにしておくこと。 ※教科書を全く持参しない場合は、成績から40点減点となります。  ※2回目の授業までに、自分のスマホに教科書の音声データをダウンロードしておいて下さい。(やり方が分からなければ、Googleで検索すること。)  ・授業時には、教科書とノート以外に、①充電したスマホ、②イヤホン、③辞書(=紙の辞書でも、電子辞書でも、どちらでも良いです)を持参すること。 ・授業には、積極的・意欲的に取り組むこと。 ・携帯電話、スマートフォンは指示した時以外は使用を禁じます。 ・授業は予習を前提として行われます。また、授業後は丁寧に復習しておいてください。

科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等 TOEIC Bridge Score: 130 (TOEIC Score: 350相当, CASEC: 445)を目標とします。
-------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	授業概要及び評価方法の説明	教科書の予習 ※2回目の授業までに、自分のスマホに教科書の音声データをダウンロードしておいて下さい。(やり方が分からなければ、Googleで検索すること。) 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
2	Unit 1: Travel Steps 1 - 2 (前半)	テキスト実践、解説、発表 品詞①: 名詞(可算名詞・不可算名詞)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 439-480 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
3	Unit 1: Travel Step 3 (後半)	小テスト No. 1 (単語: 439-480) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 481-520 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
4	Unit 2: Dining Out Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 2 (単語: 481-520) テキスト実践、解説、発表 品詞②: 形容詞(名詞修飾、補語)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 521-560 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
5	Unit 2: Dining Out Step 3 (後半)	小テスト No. 3 (単語: 521-560) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 561-600 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
6	Unit 3: Media Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 4 (単語: 561-600) テキスト実践、解説、発表 品詞③: 副詞(動詞・形容詞修飾)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 601-640 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
7	Unit 3: Media Step 3 (後半)	小テスト No. 5 (単語: 601-640) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 641-680 聴き読み

			English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
8	Unit 4: Entertainment Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 6 (単語: 641-680) テキスト実践、解説、発表 時制 (現在・過去・未来・現在進行形)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 681-720 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
9	Unit 4: Entertainment Step 3 (後半)	小テスト No. 7 (単語: 681-720) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 721-760 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
10	Unit 5: Purchasing Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 8 (単語: 721-760) テキスト実践、解説、発表 3単現のs (修飾語句を伴う主語)	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 761-800 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
11	Unit 5: Purchasing Step 3 (後半)	小テスト No. 9 (単語: 761-800) テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 単語学習範囲: 801-862 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
12	Unit 6: Clients Steps 1 - 2 (前半)	小テスト No. 10 (単語: 801-862) テキスト実践、解説、発表 能動態・受動態 (感情を表す表現)	教科書の予習・復習 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
13	Unit 6: Clients Step 3 (後半)	テキスト実践、解説、発表 TOEIC Mini Test	教科書の予習・復習 聴き読み English Central Listening Marathon (目安:各30分~1時間)
14	Unit 7: Recruiting Steps 1 - 3	テキスト実践、解説、発表 動詞の後ろの動名詞・不定詞 (前置詞の 後ろの動名詞、定型表現) TOEIC Mini Test Final due: Listening Marathon	教科書の復習 聴き読み English Central (目安:各30分~1時間)
15	Review: Units 1-7	これまでの項目を総復習 TOEIC Mini Test	定期試験に向け、Units 1-7の復習・確認を、教科書の音声データを使って行う (聴き読み方式) (目安:1時間以上)

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	SCORE BOOSTER FOR THE TOEIC L&R TEST: PRE-INTERMEDIATE [レベル別 TOEIC L&R テスト実力養成コース: 準中級編]	溝口優美子 / 柳田真知子 著 早川幸治 / 番場直之 シリーズ 監修	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- [学校語彙で学ぶTOEICテスト【単語集】 -改訂新版-]	西谷恒志 編著	成美堂
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法  
(基準)

共通試験 (統一英語単語テスト): 20%  
定期試験: 30%、  
小テスト: 10%  
課題レポート (宿題やListening Marathonなど): 10%、  
授業態度 (授業中に投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性、発表など): 10%  
e-learning (English Central): 20%  
の割合で総合的に評価する。

※原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

※e-learning (English Central)  
[前期前半 (学習期)]

学生への  
メッセージ

英語の4技能5領域 [Reading, Listening, Writing, Speaking (やり取り・発表)] を育成する学習活動を行います。  
英語を使うことを楽しみましょう。

担当者の  
研究室等

非常勤講師室 (7号館2階)

備考

1. 共通試験 (統一英語単語テスト) と e-learning (English Central) は、成績に組み込まれます。
2. e-learning (English Central) は、前期前半学習期限が5/31です。計画的に学習しましょう。



3. TOEIC 対策に、学内のラーニングセンター（2号館2階）を、積極的にご利用下さい。

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	本授業では前期に引き続き、TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、より着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、U11~20 までの問題を解きます。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 150 点以上) を獲得できるようになる。</li> <li>語彙や文法の知識を定着させる。</li> <li>前期よりも素早く正確な読解、リスニングができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。</li> <li>テキスト、電子辞書、ノートを持ってきてください。</li> <li>積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。</li> <li>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</li> <li>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。(原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</li> <li>①から③が続く場合、単位を認めない。</li> </ul> </li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	授業の進め方、評価方法の確認
	2	Unit 13 : Careers 形容詞、副詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 863-900</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	3	Unit 14 : Art 名詞、代名詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 901-930</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	4	Unit 15 : Culture 前置詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 931-960</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	5	Unit 16: Population 接続詞	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 961-990</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	6	Unit 17 : Disasters 否定文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 991-1020</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	7	Unit 18 : Travel 名詞構文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1021-1050</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備</li> </ul>
	8	中間テスト	これまでの学習範囲より中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1051-1080</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	9	Unit 19 : Sports 比較 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1081-1110</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	10	Unit 20 : Life 比較 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1111-1140</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	11	Unit 21 : Entertainment 関係詞 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1141-1170</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	12	Unit 22 : Language 関係詞 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習：単語テストの準備：範囲 1171-1200</li> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	13	Unit 23 : Science 仮定法 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後学習：リスニングをもう一度聞く</li> </ul>
	14	Unit 24 : Technology 仮定法 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後学習：長文、文法事項を確認</li> </ul>

	15	Unit 19-24 のリスニング、 文法、長文などを見直し	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	・事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末 テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English Pre-intermediate	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通試験 (CASEC) : 20%</li> <li>・共通試験 (統一英語単語テスト) : 10%</li> <li>・e-learning : 10%</li> <li>・教員評価 : 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%)</li> </ul> <p>注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。海外旅行や留学に行くこともお勧めです。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	毎週、事前事後学習に 60 分を費やすこと。			

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	谷口 永里子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。 1年次に身につけた英語力を向上させるために、より高度な 4 技能統合型の授業を行う。インプット活動のみならず、アウトプット活動を取り入れ、各技能の基礎力および応用力を養う。
到達目標	TOEIC 450 点以上の実力をつけることを到達目標とする。 「読解力」としては、英文を速読するためのリーディングスキルを修得する。CEFR J[A2.2] を目標とし、生活、趣味、スポーツなど、日常的なトピックを扱った文章の要点を理解したり、必要な情報を取り出したりすることができる。 「リスニング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、自分に関連する内容（日常生活、学校生活など）の英文に関する基本的な情報を理解できるようにする。 「会話・ライティング力」としては、CEFR J[A2.1] を目標とし、海外研修、留学、ホームステイ、観光、あるいは海外からの訪問客への対応など、日本の大学生が英語を使用する現実的かつ具体的な場面と相手を想定しながら、複数の英文を連続して発話できるスピーキング力、複数の英文を組み合わせてパラグラフを構成できるライティング力を身につけるためのトレーニングを行う。(DP1)
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC, 英検等

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業の説明。 テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	2	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0863-0908
	3	Unit 7 Technology in Daily Life	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0909-0951
	4	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0952-0991
	5	Unit 8 Social Network	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：0972-1012
	6	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1013-1054
	7	Unit 9 Looking on the Bright Side	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1055-1095
	8	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1096-1137
	9	Unit 10 Love Affairs	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1138-1179
	10	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 単語学習範囲：1180-1200
	11	Unit 11 Storytelling	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	12	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	13	Unit 12 The Power of Words	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。
	14	Review 2	テキストに沿って、リスニング、会話練習、読解を行う。	テキストを読み、知らない単語は調べる。音声を聞いて発音練習をする。事前・事後学習には1時間以上かけること。 テキストの後半を振り返る。
	15	Review	Unit 7～12 の復習	テキストの後半を振り返る。事前・事後学習には1時間以上かけること。
関連科目				

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2: Trekking	角山 照彦 / LiveABC editors	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-		成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	統一英語単語テスト(10%) CASEC 試験(20%) e-learning の進捗度(10%) 定期試験(30%) 小テスト、授業中の態度(課題の提出)(30%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	TOEIC に役立つ語彙や文法を身につけ、リスニング問題で耳を鍛えましょう。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	木村 ゆみ
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	TOEIC テストを意識してリスニング、読解、文法、語彙能力向上を図り、実用的な英語のスキルアップを目指す。実際のTOEICテストに慣れ、高得点を目指すことを目標とする。
到達目標	TOEIC 500点以上の実力をつけることを到達目標とする。
授業方法と留意点	テキストに沿って進むとともに練習問題に取り組んでいく。 単語テストはNO 863～NO 1200の範囲を各自学習すること。また、テキストの内容も各章ごとに確認のための臨時テストを行う。 予習、復習をしっかりと行うこと。また、ただ出席するだけではなく、積極的な授業参加が求められます。携帯の使用や、私語、居眠りが認められた場合は即減点となるので注意。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のリスニング、語彙、文法、読解力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 896～928
3	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 接続詞2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 929～962
4	リスニング対策	リスニングを中心とし、語彙、文法の練習もする 不定詞1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 963～996
5	語彙問題対策	語彙、読解、文法、動名詞	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 997～1030
6	語彙問題対策	語彙、読解、文法、現在完了1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1031～1064
7	語彙問題対策	語彙、読解、文法、現在完了2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1065～1098
8	文法問題対策	語彙、読解、文法 文型1	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1099～1132
9	文法問題対策	語彙、読解、文法、 文型2	復該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 NO 1133～1166
10	文法問題対策	語彙、読解、文法 文型3	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習 1167～1200
11	文法問題対策	語彙、読解、文法、 関係代名詞1 単語テスト11	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理 単語予習
12	読解問題対策	語彙、読解、文法、 関係代名詞2	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
13	読解問題対策	語彙、読解、文法のまとめ	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
14	読解問題対策	語彙、読解、文法のまとめ	該当Unitの予習、重要項目、フレーズの整理
15	総まとめ TOEIC形式 ポストテスト	総復習 TOEIC ポストテスト	重要項目、フレーズの整理、総復習

関連科目	他の英語関連科目
------	----------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1		プリント教材配布	
2		The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test		成美堂
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	大学共通 (TOEIC Bridge 20%、e-learning 10%、統一英語単語テスト10%) 臨時テスト 40%、課題レポート 10%、授業態度 10% (授業中の発表) の割合で評価する。
-----------	--

学生へのメッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎回テストをします。</li> <li>各自の予習が不可欠です。授業での積極的な参加を求めます。</li> <li>・e-learning 教材と、テキストの音声ダウンロードして自宅学習を行いましょう。地道な努力により英語力は必ず伸びます、がんばりましょう。</li> <li>★連絡は全て teams から行いますので、まず最初に teams に入ってください。</li> <li>教員への連絡も teams のチャットから行ってください</li> </ul>
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習 (それぞれ約1時間) 以外に、毎日単語、15分、リスニング 15分の学習をすること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 提出物等は授業中にフィードバックする。
----	--

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	比較的平易な英文を用い、「読む」「聴く」だけでなく「書く」「話す」活動を取り入れた4技能統合型の演習授業を行う。4技能の基礎力を固めること、ICTを駆使した自律的英語学習の技能と習慣を身につけること、学内で提供される様々な授業時間外の英語学習機会に親しむことを目的とする。
到達目標	(1) 大学生にとって身近な話題についての平易なパッセージを読んで理解できるようになる。また、ゆっくり、はっきりと発声(再生)できれば音声だけでも理解できるようになる。同じ話題について、基本的な語彙や表現を用いた英文を書けるようになる。また、前もって用意すれば同じ内容を口頭で発話できるようになる。(DP1) (2) PCやスマートフォンを用いたe-learningによる自律的英語学習法に親しむ。 (3) 学内で提供される各種の授業時間外の英語学習機会に親しむ。
授業方法と留意点	演習型の授業を行うので、授業内の学習活動に積極的に参加、貢献する姿勢が重要な評価項目となる。e-learning 課題や、その他の授業外学習課題については、指示されたペースや期限を守り、必ず完了すること。3回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果(資格)	TOEIC, 英検等

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業方針・評価方法などの説明	事前学習：教科書に目を通しておく。
2	Unit 7 Technology in Daily Life	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0863-0908
3	Unit 7 Technology in Daily Life	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 7 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0909-0951
4	Unit 8 Social Network	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0952-0991
5	Unit 8 Social Network	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 8 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#0992-1033
6	Unit 9 Looking on the Bright Side	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#1034-1074
7	Unit 9 Looking on the Bright Side	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 9 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#1075-1116
8	Review Test	Unit 7-9 授業内配布資料	テスト勉強：Unit7-9-までの復習(2時間)
9	Unit 10 Love Affairs	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#1117-1158
10	Unit 10 Love Affairs	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 10 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間) 単語学習#1159-1200
11	Unit 11 Storytelling	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
12	Unit 11 Storytelling	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 11 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
13	Unit 12 The Power of Words	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
14	Unit 12 The Power of Words	Listening, Reading, 会話、文法を通し Unit 12 を学習する。	事前課題：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく(1時間) 事後学習：復習・課題(1時間)
15	総まとめ	Unit 10-12 授業内配布資料課題	事前学習：Unit10-12 までの復習(2時間)

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book 2 : Trekking	角山照彦	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for t-Revised Edition-	西谷 恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名

	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	CASEC 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 学習の進捗度 10% 定期試験・授業態度・課題・小テスト等 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	英語を使いこなす事ができれば、皆さんの未来へとつづく多くの可能性の扉が開きます。このクラスを通し英語の基礎力の向上と、自己学習の定着を目指しましょう。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				



科目名	実践英語 II a	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	ニール カー
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	Practical English is a course written for Japanese students seeking to improve their English skills. It is designed for active communication with many fun tasks and exercises and features various speaking, listening, reading, and writing activities.
到達目標	Participation in this course will improve the four primary skills: speaking, listening, reading, and writing.
授業方法と留意点	Individual, pair, and group work activities will form the core of each lesson.
科目学習の効果 (資格)	Students who complete the course will have the language skills and confidence to push to the next level in their English development.

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction Unit 7: Tell Me About Your Family	授業方法、成績評価等の説明、座席の指定。教科書の学習方法の説明 単語テスト範囲数の決定	Students should: (1) Preview the unit for the next class (45 mins) (2) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0001-0040
	2	Unit 7: Tell Me About Your Family	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0041-0080
	3	Unit 8: Communication	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0081-0121
	4	Unit 8: Communication	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0122-0162
	5	Unit 9: How Are You Feeling?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0163-0202
	6	Unit 9: How Are You Feeling?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0203-0243
	7	Review Units 7-9	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0244-0284
	8	Unit 10: Memories	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0285-0325
	9	Unit 10: Memories	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0326-0366
	10	Unit 11: Talking About Health	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0367-0407
	11	Unit 11: Talking About Health	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins) (3) Study1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test: words 0408-0438
	12	Unit 12: Mindset?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	13	Unit 12: Mindset?	テキスト実践、解説	Students should: (1) Review the unit from the last lesson (45 mins) (2) Preview the unit for the next class (45 mins)
	14	Review Units 10-12	テキスト実践、解説	Students should review the unit from the last lesson (45 mins)
15	Course review and evaluation. Feedback	これまでの項目を総復習		

関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Speaking of People	Peter Vincent, Naoko Nakazato, Alan Meadows	NAN' UN-DO
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test - Revised Edition		SEIBIDO
	2			
	3			
評価方法 (基準)	E-learning, 20%、TOEIC Bridge, 20%、final exam, 20%; coursework and quizzes, 40%.			
学生への メッセージ	Students who engage enthusiastically in activities, preview and review lessons, and do their homework assignments will achieve the most from this course.			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語Ⅱa	科目名 (英文)	Practical English IIa
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	湊 由妃子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2433c1		

授業概要・目的	読解を中心に行う授業である。1回生までに学んできたことを復習しながら、より長い文章を読めるようにする。同時により多くの語彙力、文法力、リスニング力をつけていくことを目標とする。 教科書は最新かつ身近で興味深いテーマが数多くとりあげられているので、楽しみながら精読することで、英語力の向上を目指していく。
到達目標	基礎読解力をつけることを最大の目標とする。まじめに授業に取り組むことで、英語を正しく読む力がつく。また、TOEIC や TOEIC Bridge 受験のために必要な読解力の向上がはかれる。
授業方法と留意点	語学の授業であるので、学生主導で進めていく。訳出、練習問題、音読、すべてを学生に指名することになるので、予習は欠かさずことなく、積極的に受講してもらいたい。 また、辞書は必ず持参すること、教科書を忘れたままの着席は欠席扱いとする。
科目学習の効果 (資格)	授業で習得した読解力は英検や TOEIC 等のテストに必ず役立つ。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Unit 8: Hanging Out in Streets and Parks コロナ後も店ではなく、公園などの屋外で友達と会う若者について	語彙、本文精読、内容把握	予習
	2	Unit 8: Hanging Out in Streets and Parks コロナ後も店ではなく、公園などの屋外で友達と会う若者について	要約、文法問題、リスニング 第1回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0863-0896 小テスト準備
	3	Unit 9: Plant Burgers Are Popular in America 肉の食べ過ぎを防ぐために開発された植物ベースのバーガーの特徴	語彙、本文精読、内容把握 Unit 8 単語テスト 第2回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0897-0930
	4	Unit 9: Plant Burgers Are Popular in America 肉の食べ過ぎを防ぐために開発された植物ベースのバーガーの特徴	要約、文法問題、リスニング 第3回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0931-0965 小テスト準備
	5	Unit 10: South Korean Culture Is Popular Worldwide 世界的に人気な韓国文化の紹介	語彙、本文精読、内容把握 Unit 9 単語テスト 第4回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 0966-0999
	6	Unit 10: South Korean Culture Is Popular Worldwide 世界的に人気な韓国文化の紹介	要約、文法問題、リスニング 第5回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1000-1034 小テスト準備
	7	Unit 11: Doxing インターネットの危険の一つである個人情報の公開について	語彙、本文精読、内容把握 Unit10 単語テスト 第6回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1035-1068
	8	Unit 11: Doxing インターネットの危険の一つである個人情報の公開について	要約、文法問題、リスニング 第7回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1069-1102 小テスト準備
	9	Unit 12: Fast Movies i いろんな事情でテレビや映画を見れない若者のツールについて	語彙、本文精読、内容把握 Unit 11 単語テスト 第8回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1103-1136
	10	Unit 12: Fast Movies いろんな事情でテレビや映画を見れない若者のツールについて	要約、文法問題、リスニング 第9回単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1137-1170 小テスト準備
11	Unit 13: Do We Need a "Dislike" Button on Social	語彙、本文精読、内容把握 Unit 12 単語テスト	復習、予習 単語学習範囲: 1171-1200	

	Media? 「嫌い」ボタンが押されることでの弊害とその対応	第10回単語テスト																	
12	Unit 13: Do We Need a "Dislike" Button on Social Media? 「嫌い」ボタンが押されることでの弊害とその対応	要約、文法問題、リスニング	復習、予習 小テスト準備																
13	Unit 14: Ramen Subscription 一ヶ月 7,000 円でのラーメンのサブスクを例にその長所短所について	語彙、本文精読、内容把握 Unit 13 小テスト	復習、予習																
14	Unit 14: Ramen Subscription 一ヶ月 7,000 円でのラーメンのサブスクを例にその長所短所について	要約、文法問題、リスニング	復習、予習 小テスト準備																
15	進度調整と後期の復習	後期学習内容の復習	期末テストの準備																
関連科目	他の英語科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>Trend Scope</td> <td>Jonathan Lynch/Kotaro Shitori</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition</td> <td>西谷 恒志</td> <td>成美堂</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	Trend Scope	Jonathan Lynch/Kotaro Shitori	成美堂	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂	3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	Trend Scope	Jonathan Lynch/Kotaro Shitori	成美堂																
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷 恒志	成美堂																
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	<p>共通試験 30% (TOEIC20%、統一英語単語テスト10%)、e-learning 学習の進捗度 10%、後期まとめのテスト 30%、小テストと授業態度 30%の割合で総合的に評価する。原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。 授業態度とは授業中の質問や指名に対する回答状況、授業への集中度をさす。 詳しくは第1回目に授業で説明する。</p>																		
学生への メッセージ	授業中はマナーを守り、積極的かつ集中して受講すること。																		
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室																		
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践的な英語力を身につけるため、TOEIC 試験などを積極的に受験してください。</li> <li>授業計画は進度によって変わる場合がある。</li> <li>事前事後の学習のため、毎回平均1時間は学習すること。 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」</li> <li>小テスト等は授業中にフィードバックする。</li> </ul>																		

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	A
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	マーティン オイクル
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

**授業概要・目的**  
This course is for students to improve their TOEIC skills, focusing on listening and reading. Students will acquire a higher level of vocabulary, a better understanding of grammar, a better listening ability, as well as an understanding of certain techniques when taking the test. Weekly practice with TOEIC mock questions will improve students' testing skills and confidence for the TOEIC test. In addition to in-class study, students will be responsible for studying for the E-Learning and the TOEIC Bridge test. リスニングとリーディングを中心とした TOEIC のスキルアップのためのコースです。より高度な語彙力、文法理解、リスニング力を身につけるとともに、受験時のテクニックも理解します。毎週行われる TOEIC 模擬問題演習により、TOEIC テストに対する自信とテストスキルを向上させます。授業での学習に加えて、E-Learning と TOEIC Bridge の試験勉強も行います。

**到達目標**  
The goal of this class is for students to acquire a better knowledge of English to increase their TOEIC scores to at least the level of 450 or higher, as well as to familiarize students with the workings of TOEIC test itself. このクラスでは、TOEIC のスコアを 450 点以上にするための英語の知識を身につけると同時に、TOEIC テスト自体の仕組みに慣れることを目標としています。

**授業方法と留意点**  
Aside from lectures, students will have extensive practice on TOEIC test questions. /// Regular attendance and participation is expected. Students who are absent five times will find it difficult to pass the class. 講義の他に、TOEIC テストの問題演習を多く行います。/// 定期的な出席と参加が求められています。5 回欠席した場合、本コースの合格は極めて難しくなります。

**科目学習の効果 (資格)**  
To improve students' test taking abilities and to increase TOEIC scores. 生徒の受験能力を向上させ、TOEIC のスコアアップを図る。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション、その他	オリエンテーション、その他	学習課題がない
2	Unit 1 Travel	旅行に関する語句・名詞を学ぶ	教科書ページ 16-26 (45 分) 単語 1201-1224 (45 分)
3	Unit 2 Dining Out	料理に関する語句・形容詞を学ぶ	教科書ページ 27-37 (45 分) 単語 1225-1247 (45 分)
4	Unit 3 Media	メディアに関する語句・副詞を学ぶ	教科書ページ 38-48 (45 分) 単語 1248-1270 (45 分)
5	Unit 4 Entertainment	エンターテインメントに関する語句・時制を学ぶ	教科書ページ 40-59 (45 分) 単語 1271-1293 (45 分)
6	Unit 5 Purchasing	買い物に関する語句・主語と動詞の一致を学ぶ	教科書ページ 60-70 (45 分) 単語 1294-1316 (45 分)
7	Unit 6 Clients	顧客との取引に関する語句・能動態	教科書ページ 71-81 (45 分) 単語 1317-1339 (45 分)
8	ユニット 1~6 の中間テスト、その他	ユニット 1~6 の中間テスト、その他	単語 1340-1362 (45 分)
9	Unit 7 Recruiting	求人・採用に関する語句・動名詞・不定詞	教科書ページ 82-92 (45 分) 単語 1363-1385 (45 分)
10	Unit 8 Personnel	人事に関する語句・現在分詞・過去分詞を学ぶ	教科書ページ 93-103 (45 分) 単語 1386-1408 (45 分)
11	Unit 9 Advertising	広告・宣伝に関する語句・代名詞を学ぶ	教科書ページ 104-114 (45 分) 単語 1409-1431 (45 分)
12	Unit 10 Meetings	会議に関する語句・比較を学ぶ	教科書ページ 115-125 (45 分) 単語 1432-1454 (45 分)
13	Unit 11 Finance	予算・費用に関する語句・前置詞を学ぶ	教科書ページ 126-136 (45 分) 単語 1455-1477 (45 分)
14	Unit 12 Offices	オフィスに関する語句・接続詞を学ぶ	教科書ページ 137-147 (45 分) 単語 1478-1500 (45 分)
15	ユニット 7~12 の期末テスト	ユニット 7~12 の期末テスト	ユニット 7~12 の期末テスト

**関連科目**  
他の英語科目

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	Score Booster for the TOEIC L&R Test Intermediate	番場直之 / 小山克明	金星堂
2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

**評価方法 (基準)**  
TOEIC テスト 20%、e-learning 学習の進捗度 10%、統一英語単語テスト 10%、中間テストと期末テスト 35%、授業中の学習、態度、参加状況 (授業での呼応状況など) 25%。

**学生へのメッセージ**  
The TOEIC test is the standard test for measuring English language ability. These days companies require a certain level on the test to be employed at their company, so you need to be serious about improving your TOEIC score. /// Students cannot use a use

**担当者の研究室等**  
7 号館 2 階 非常勤講師室

**備考**  
Because there is a considerable amount of vocabulary to learn in this class, it is strongly recommended that students spend time outside of class to learn vocabulary. この授業で学ぶべき語彙はかなりの多いため、授業以外の時間を使って語彙を学ぶことを強く勧める。

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	B
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	有本 好一郎
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	本授業では前期に引き続き、TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、より着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、U11~20 までの問題を解きます。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 150 点以上) を獲得できるようになる。</li> <li>語彙や文法の知識を定着させる。</li> <li>前期よりも素早く正確な読解、リスニングができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。</li> <li>電子辞書を持ってきてください。</li> </ul> <p>・積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。</p> <p>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。  ②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。  ③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。  (原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)  ①から③が続く場合、単位を認めない。</p>
科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法などの説明	授業の進め方、評価方法の確認
	2	Unit 11 : Instructions 命令文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1201-1231</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	3	Unit12 : Health & Physical Condition Yes/ No questions	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1232-1262</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	4	Unit 13 : Service Request 現在完了	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1263-1293</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	5	Unit 14 : Special Orders 疑問詞を用いた疑問文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1294-1324</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	6	Unit 15 : Money How を用いた疑問文	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1325-1355</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	7	Unit 16 : Public Signs 助動詞 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1356-1386</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備</li> </ul>
	8	中間テスト	これまでの学習範囲より中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1387-1417</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	9	Unit 17 : Sports 助動詞 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1418-1438</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	10	Unit 18 : History 受動態	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1439-1459</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	11	Unit 19 : Sightseeing 比較 1	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1460-1480</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	12	Unit 20 : Science 比較 2	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習 : 45 分</li> <li>単語テストの準備 : 範囲 1481-1500</li> <li>事後学習 : 45 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
	13	TOEIC ミニクイズ リスニング	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後学習 : 90 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
14	TOEIC ミニクイズ リーディング	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>事後学習 : 90 分</li> <li>リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>	

	15	Unit 17~20 復習	単語テスト 文法事項の確認 テキストの練習問題	・事後学習：90分 リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Power-up English Basic	JACET リスニング研究会	南雲堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通試験 (CASEC) : 20%</li> <li>・共通試験 (統一英語単語テスト) : 10%</li> <li>・e-learning : 10%</li> <li>・教員評価 : 60% (中間、期末試験 40%、単語クイズ 20%)</li> </ul> <p>注意：原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする (3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。海外旅行や留学に行くこともお勧めです。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	C
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	俣野 裕美
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	本授業では前期に引き続き、TOEIC 対策に特化した演習を行います。TOEIC の出題形式や傾向を把握し、着実に正解にたどり着ける力を養うことが目的です。毎回、頻出のテーマに沿って、リスニングセクションから1パート、リーディングセクションから1パートをピックアップして学習します。語彙や文法、読解やリスニングのコツなど、TOEIC の点数アップに必要な知識についても解説します。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>TOEIC スコア 450 点以上 (TOEIC Bridge 150 点以上) を獲得できるようになる。</li> <li>語彙や文法の知識を定着させる。</li> <li>素早く正確な読解、リスニングができるようになる。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書を使った演習形式の授業を行います。また、授業の初めには毎回単語テストを行います。指定範囲を学習してきてください。</li> <li>紙の辞書か電子辞書を持ってきてください。</li> <li>積極的な参加、努力する姿勢を大いに評価します。ただし、授業に関係のない行為は以下のような扱いをします。成績が下がるだけでなく、単位の取得に大きな影響を及ぼします。 <ul style="list-style-type: none"> <li>①私語など授業を妨害するような行為は自動的に欠席とみなす。</li> <li>②睡眠、携帯やスマートフォンの使用は減点対象。</li> <li>③許可のない途中退席、テキスト忘れは、原則欠席とみなす。(原則として欠席をレポートの提出でカバーすることはできない。)</li> <li>①から③が続く場合、単位を認めない。</li> </ul> </li> </ul>

科目学習の効果 (資格)	TOEIC 等、英語資格試験のスコアアップ 日常やビジネスシーンでの英会話能力の向上
--------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション Unit 1: TOEIC の紹介	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方、評価の方法などの説明</li> <li>TOEIC の構成について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業の進め方、評価方法の確認</li> <li>Unit 1 の TOEIC の紹介を読む</li> </ul>
2	Unit 2: Part 1(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 1(Listening Section)では人物が写っている写真、Part 5(Reading Section)では名詞・形容詞・副詞に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1201-1231</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
3	Unit 3: Part 1(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 1(Listening Section)ではモノ・風景が写っている写真、Part 5(Reading Section)では動詞①：一致・態に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1232-1262</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
4	Unit 4: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 2(Listening Section)では疑問詞で始まる疑問文(When/ Where/ Who/ Why)、Part 5(Reading Section)では動詞②：時制に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1263-1293</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
5	Unit 5: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 2(Listening Section)では疑問詞で始まる疑問文(What/ How)、Part 5(Reading Section)では不定詞と動名詞に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1294-1324</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
6	Unit 6: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 2(Listening Section)では Yes/ No 疑問文、Part 5(Reading Section)では接続表現に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1325-1355</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
7	Unit 7: Part 2(Listening Section), Part 5(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 2(Listening Section)では提案・依頼、選択疑問文、Part 5(Reading Section)では代名詞に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1356-1386</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、中間テストの準備</li> </ul>
8	中間テスト	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>これまでの学習範囲より中間テスト</li> </ul>	事前学習： 単語テストの準備：範囲 1387-1417、中間テストの準備
9	Unit 8: Part 2(Listening Section), Part 6(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 2(Listening Section)では発言に対する応答、Part 6(Reading Section)では長文穴埋め問題に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1418-1448</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
10	Unit 9: Part 3(Listening Section), Part 7(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 3(Listening Section)では日常場面での会話、Part 7(Reading Section)では文章の読み方に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1449-1479</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
11	Unit 10: Part 3(Listening Section), Part 7(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 3(Listening Section)ではオフィスの会話、Part 7(Reading Section)ではお知らせに焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1480-1490</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>
12	Unit 11: Part 3(Listening Section), Part 7(Reading Section)	<ul style="list-style-type: none"> <li>単語テスト</li> <li>Part 3(Listening Section)では図表を見ながら聞き取る、Part 7(Reading Section)では eメール・手紙に焦点を当てて学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学習： 単語テストの準備：範囲 1491-1500</li> <li>事後学習： リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認</li> </ul>



	13	Unit 12: Part 4(Listening Section), Part 7(Reading Section)	・単語テスト ・Part 4(Listening Section)ではアナウンス・トーク①:よく出る状況と話の展開、Part 7(Reading Section)では新聞や雑誌などの記事に焦点を当てて学ぶ	・事後学習: リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
	14	Unit 13: Part 4(Listening Section), Part 7(Reading Section)	・単語テスト ・Part 4(Listening Section)ではアナウンス・トーク②:聞き手への指示、行動を促す、Part 7(Reading Section)ではチャットに焦点を当てて学ぶ	・事後学習: リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認
	15	Unit 14: Part 4(Listening Section), Part 7(Reading Section)	・単語テスト ・Part 4(Listening Section)では留守番電話、Part 7(Reading Section)では複数文章に焦点を当てて学ぶ	・事後学習: リスニングをもう一度聞く、文法事項を確認、期末テストの準備
関連科目	他の英語関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Practical Exercises to Get the Hang of the TOEIC L&R TEST	Kanako Cho, Yoshikiyo Kawase, Yukiko Hazama, Sachiyo Hayashi	朝日出版社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition- (指定の単語帳)	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・共通試験(統一英語単語テスト):10%</li> <li>・e-learning:10%</li> <li>・TOEIC Bridge:20%</li> <li>・中間テスト+単語テスト:20%</li> <li>・定期試験:30%</li> <li>・授業態度:10%(授業で投げかけられた質問に回答がなされる状態や授業への集中度、ノートやメモを取っているか等)</li> </ul> <p>注意:原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とする(3回を超える欠席は単位不可/遅刻は3回で1回の欠席)</p>			
学生への メッセージ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・英語ができるようになると、自分の世界が広がります。多少の失敗は気にせず、前向きにトライし続けましょう。</li> <li>・英語力の向上には反復学習が欠かせません。一度解いた問題であっても、何度も解き直してみましょう。</li> <li>・半年間、一緒に楽しく勉強したいと思います。マナーを守り、将来のために少しでも多くのことを学んでくれることを願っています。</li> </ul>			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	事前事後の学習として毎回1.5時間以上かけること。			

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	D
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関 初海
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	TOEIC 形式の問題を正確に解く力を身につける。 さらに、TOEIC 形式の問題によく出てくる表現を使ってスピーキング・ライティング活動を行い、英語発信能力を高めることを目的とする。
到達目標	TOEIC 450 点以上のスコアを取得できるようになる。 TOEIC 形式の問題を正確に解くことができるようになる。 TOEIC によく出てくる表現を用いて、簡単な発話や英作文ができるようになる。
授業方法と留意点	演習形式で授業をすすめる。3 回を超える欠席のあった者には原則として単位を認めない。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC など

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	オリエンテーション	授業の進め方、評価方法について説明	Unit 8 予習 単語：1201-1230
	2	Unit 8 Office 1	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 8 復習 Unit 9 予習 単語：1231-1260
	3	Unit 9 Employment	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 9 復習 Unit 10 予習 単語：1261-1290
	4	Unit 10 Meetings	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 10 復習 Unit 11 予習 単語：1291-1320
	5	Unit 11 Clients	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 11 復習・予習 単語：1321-1350
	6	Unit 11 Clients	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 11 復習 Unit 12 予習 単語：1351-1380
	7	Unit 12 Offices 2	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 12 復習・予習 単語：1381-1410
	8	Unit 12 Offices 2	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 12 復習 Unit 13 予習 単語：1411-1440
	9	Unit 13 Computers & Technology	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 13 復習・予習 単語：1441-1470
	10	Unit 13 Computers & Technology	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 13 復習 Unit 14 予習 単語：1471-1500
	11	Unit 14 Events	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 14 復習・予習
	12	Unit 14 Events	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 14 復習 Unit 15 予習
	13	Unit 15 Sales & Marketing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 15 復習・予習
	14	Unit 15 Sales & Marketing	単語・文法事項の確認 リスニング・リーディング問題演習 スピーキング・ライティング活動	Unit 15 復習
	15	まとめ	総まとめ	総復習

関連科目	実践英語Ⅰ b
------	---------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	FIRST TRY FOR THE TOEIC L&R TEST	Robert Hickling	金星堂
	2	THE 1500 CORE VOCABULARY FOR THE TOEIC TEST-Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	CASEC 20% 統一英語単語テスト 10% e-learning 10% 授業参加度 (投げかける質問に対する呼応状態) と授業内小テスト 15%
-----------	--

	定期試験 45% の割合で総合的に評価する。
学生への メッセージ	授業への積極的な参加を期待します。
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	授業曜日以外の質問は Teams で受け付ける。詳細は第1回目に指示する。 予習・復習等にかかる時間をおよそ30時間とする。

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	E F
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	田村 康子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	この授業では、TOEIC450点以上の英語力を養うことを目標に、テキストに沿って練習問題をこなしていく。TOEIC 関連の基本的な語彙や表現を覚え、E-mail、ビジネス文書などを取り上げた簡単な読解問題に親しんでもらう。また、各ユニットで説明されている英語表現を習得する。テキストに沿って聞き取りを行い、リスニング力も養成する。練習問題をたくさんこなして TOEIC の点数アップを狙う。
到達目標	受講者が、TOEIC の出題形式に慣れ、授業のみならず、自主的に TOEIC の受験勉強をすすめ、最終的には 50～100 点程度スコアを上げることが目標である。
授業方法と留意点	毎週、単語の副読本から単語テストを行う。また、テキストに沿って、TOEIC のリスニング、リーディング対策を行っていく。
科目学習の効果 (資格)	語彙力の強化及び TOEIC のスコアアップ。リスニング、リーディング力の向上。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	Unit 1: Home Appliances	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 1-5 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
2	Unit 1: Home Appliances	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 6-9 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間) 単語テスト#1201-1220&1221-1240
3	Unit 2: Recreation	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 10-18 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間) 単語テスト#1241-1260&1261-1280
4	Unit 3: Restaurants	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 19-27 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間) 単語テスト#1281-1300&1301-1320
5	Unit 4: Supermarket Shopping	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 28-36 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間) 単語テスト#1321-1340&1341-1360
6	Unit 5: Housing	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 37-45 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間) 単語テスト#1361-1380&1381-1400
7	Unit 6: Business	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 46-56 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間) 単語テスト#1401-1420&1421-1440
8	復習、臨時テスト	復習と臨時テスト	テスト勉強：p. 1-56 ま復習復習(2 時間) 単語テスト#1441-1460&1461-1480
9	Unit 7: Bank & Post office	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 57-61 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間) 単語テスト#1481-1500
10	Unit 7: Bank & Post office	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 62-65 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
11	Unit 8: Job Hunting	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 66-74 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
12	Unit 9: Health	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 75-86 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
13	Unit 10: Tourism: Travel by Land	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 87-95 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)テキスト
14	Unit 11: Tourism: Travel by Air	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 96-104 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記(1 時間)
15	Unit 12: Tourism: Hotels	リスニング・リーディング	事前学習：テキスト p. 105-116 練習問題を行う(1 時間) 事後学習：授業で学んだ文法事項・英語表現を暗記

				(1 時間)
関連科目	他の英語科目			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	頻出表現と頻出単語で攻略する TOEIC L&R TEST	Hiromi Hagi, Eleanor Smith 他	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	CASEC 20%, 統一英語単語テスト 10%, e-learning 学習の進捗度 10%, 期末試験 (20%)、臨時テスト(20%)、クラス内単語テスト(10%)、授業態度(投げかける質問に対する発言、呼応状態、積極性など)(10%) 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。			
学生への メッセージ	毎回の授業に必ず出席し、授業内容を復習すること。 単語力を増強するため e-learning に積極的に取り組むこと。 さらに、TOEIC を受験することを勧める。			
担当者の 研究室等	7 号館 2 階 非常勤講師室			
備考	毎回授業開始時に、副読本の単語テストを行います。 単語帳#1201-1500 事前事後学習には、毎回一時間以上かけて下さい。 自習学習には、期末試験の準備を含めて、合計 20 時間以上はかけて下さい。 英単語は e-learning を含めて、毎日、平均一時間以上は学習すること。 質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。			

科目名	キャリアデザインⅡ	科目名 (英文)	Career Planning II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	橋本 朗子
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA1446a1		

授業概要・目的	この授業を通じて学生には、現代社会で生じているさまざまな事象を氾濫する情報からの確にとらえ、それらを起点に思考し、自らの活かし方、伸ばすべきポイントについて考えるようになることが期待される。 講義は担当者の実務経験を元に議論を進行することもある。  SDGs. 4-4 SDGs. 8-6
到達目標	将来、就きたい職業を模索し、そのために今何を行うべきかを自ら考え、宣言できるようになることである。
授業方法と留意点	講義だけでなく、グループワークや個人で考えるワークを織り交ぜて進行するので、能動的な態度で受講すること。 受講クラスは学籍番号によって異なるので注意すること。 ※2022年度以前の学生は再履修クラスで受講すること。
科目学習の効果 (資格)	来るべき就職活動に向けて、自分に必要な能力を自覚し、計画的に実行に移すことができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・講義の目的・内容の解説 ・評価の方法	・大学生生活1年目で経験したことを思い出しておくこと(事前:1時間) ・配布したレジメを見直すこと(事後:0.5時間)
2	社会を知る①	・なぜ仕事をするのか ・仕事観について考える ・仕事の成果とは他者への貢献であることを学ぶ	・人はなぜ働くのかについて仕事をしている一にインタビューしててまとめ、グループ討議の準備をしておくこと(事後:2時間)
3	社会を知る②	・課題「働く人を取材してレポート」のグループ討議とプレゼンテーション	・グループ討議の内容を振り返ること(0.5時間)
4	社会を知る③	・視点/視座/視野の使い方事例を知る ・業種・職種概念を理解する ・川上～川下の概念の理解	・配布資料を読み返し、どのような業種・業界があるか調べる(事後:0.5時間)
5	社会を知る④	・会社・業種・職種を理解する ・付加価値について考える	・配布資料を見直し、どのような職種・会社があるのか調べる(0.5時間)
6	自分を知る①	・特性と心がけ、自己PRの組み立て方を学ぶ	・自身の特性について考える(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、自らの強みについて考えること(事後1時間)
7	自分を知る②	・学生生活を振り返る ・学生生活で自分を高めるための方法を考える	・自身の学生生活を振り返ること(事前:0.5時間) ・配布資料を見直し、今後の学生生活の過ごし方を考えること(0.5時間)
8	自分を高める①	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の習慣について振り返ること(事後:0.5時間)
9	自分を高める②	・今までの習慣を見直し、自分を高める必要性を認識する	・講義を踏まえ、これからの大学生活における自身の取り組むべきことについて考えること(事後:0.5時間)
10	自分を高める③	・リーダーシップ開発 ・リーダーシップのタイプを知る ・リーダーシップコミュニケーションを学ぶ	・講義の内容を日常生活で実践すること(1.5時間)
11	自分を知る③	・モチベーションについて理解する ・自身のやる気の源泉を理解する	・自身の「やる気が出る時と出ない時」の差について考える(事前:0.5時間) ・自身の「やる気の源泉」を言語化すること(0.5時間)
12	社会を知る⑤	・ライフイベントを考える ・ライフイベントにかかる費用を知る。	・配付資料を見直し、自らの将来について考えること(0.5時間)
13	自分を高める⑤	・講義⑩⑪⑫の実践報告の共有と発表	・発表及びグループ討議の準備をしておくこと(事前:1時間)
14	社会を知る⑥	・ニッポンの課題について考える ・未来の働き方を考える	・日本を取り巻く課題について調べる(事前:0.5時間)
15	授業のおさらい	・講義のおさらい	・課題の出し忘れ等がないか確認しておくこと(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・Ⅲ、インターンシップ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) グループワーク (20%)、授業参加度 (30%)、レポート (50%) を総合的に評価する。

学生への 来たるべき就職活動に向けて日々の生活を振り返り、準備することを第一とし授業を行うので、卒業後の「あなた」になるために積極的に参加す

メッセージ	ること。
担当者の 研究室等	水野武（7号館3階）
備考	

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	伊賀野 大
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2451a1		

授業概要・目的	現代社会において、生活の質 (QOL) を高めるためには、健康であることがまず重要になる。健康であるためには自分の身体を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識が必要となる。 本授業では、健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
到達目標	健康の概念を理解し、より良い生活習慣を身に付けるための知識を得ることを目標とする。
授業方法と留意点	講義形式で行います。 必要な箇所を自らのノートに記入してください。 もしくは、授業資料を印刷して、書き込んでください。
科目学習の効果 (資格)	この講義を受講することにより、健康な身体づくりのための方法と知識を身に付けることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	社会と健康	・現代日本における健康問題と国の施策について知る。	・授業資料にて確認をすること
3	生活習慣病と3大疾病、心の健康①	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
4	生活習慣病と3大疾病、心の健康②	・メタボリックシンドローム、生活習慣病、3大疾病について理解する。 ・ストレスの生理的・心理的メカニズムを理解する。	・授業資料にて確認をすること
5	身体のしくみ①	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
6	身体のしくみ②	・筋・骨格について理解する。 ・脳・内臓・神経の働きについて理解する。 ・ホルモン、睡眠、アレルギーについて理解する。	・授業資料にて確認をすること
7	健康と運動	・運動処方と実践の方法を理解する。 ・生涯スポーツについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
8	食事と栄養	・5大栄養素と食事の選び方について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
9	食事と現代社会	・食品添加物、サプリメントについて知る。 ・食物アレルギーとアナフラキシーショックの対応について学ぶ。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
10	嗜好品と薬物	・喫煙、飲酒、カフェインについて理解する。 ・薬物について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
11	ドーピングについて	・ドーピングについて理解する	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
12	運動指導について	・コーチング方法について	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
13	緊急時の応急手当てや対応について	・緊急時の応急手当てについて理解する。 ・水難事故などの対応について理解する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
14	まとめ①	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。
15	まとめ②	・授業の内容に関して総括する。	・授業ノート及び配布資料で復習すること。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	期末試験：60% 受講態度、提出物等：40% 合計点が60点以上で合格
-----------	---

学生へのメッセージ	健康に過ごすための基礎的な知識と理解を深めるための授業です。 様々な観点から健康なからだをつくるためには何が必要かを学んでいきましょう。
-----------	---



担当者の 研究室等	総合体育館1階 体育館事務室
備考	事前・事後学習に必要な時間については、30時間を目安とします。

科目名	スポーツと健康	科目名 (英文)	Sports and Health
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	竹澤 健介
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TPH2451a1		

授業概要・目的	人生 100 年時代といわれる現代社会において、豊かで健康な生活を送ることが重要であるとされています。スポーツと健康についての知識を身につけ、正しい情報を選択し実践していくことが重要です。本講義では、受講者が生涯にわたって自らの健康の維持増進を図るための知識を学びます。
到達目標	①現代社会における健康問題について理解することができる。 ②健康に関する情報において取捨選択する力を養い、健康に対して自らの考えを持つことができる。 ③健康づくりのための知識を習得し、実践することができる。 ④身近な社会問題について主体的に学ぶ姿勢を身につけることができる。
授業方法と留意点	パワーポイントを用いた講義形式で授業を行う。 議題についてディスカッションを行ったり、自らの意見を発表する機会を設ける。
科目学習の効果 (資格)	健康の維持・増進に関する知識が身につく、受講者が自らの健康を管理できるようになる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス	授業の進め方、履修上の注意点、課題・評価などについての説明する。	なし
2	現代社会と健康問題	健康の定義と平均寿命・健康寿命などの現代社会が抱える健康問題について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
3	運動習慣が体に及ぼす影響	体を動かすことによる健康に対する効果や意義などを学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
4	生活習慣病①	現代社会における生活習慣病について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
5	生活習慣病②	現代における生活習慣病のそれぞれの症状や予防方法について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
6	食事と健康	健康な食生活を形成するための基礎知識を学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
7	睡眠と健康	睡眠が身体に及ぼす影響について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
8	健康づくりのための運動基準	健康づくりに対して国が定めた制度、運動基準について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
9	自身の健康チェック (適切な体重と食生活)	適切な体重について理解する。 健康に良い食生活について考える。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
10	計画的なスポーツ実践	運動・スポーツにおけるトレーニングの原理・原則について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
11	体力の定義 体力と健康の関係	体力と健康との関係について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
12	有酸素運動の効果と実践	有酸素トレーニングが健康に及ぼす効果について学習する。 (講義・小レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
13	スポーツと社会①	スポーツが社会に与える影響 (社会貢献や経済効果) について考える。 (講義・グループディスカッション)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: 指定された課題に取り組み学習内容を復習する (1 時間以上)
14	スポーツと社会②	スポーツが社会に与える影響 (社会貢献や経済効果) について、グループでまとめて発表する。 (発表)	事前: 発表準備をする (1 時間以上) 事後: 他者の発表した内容をまとめる (1 時間以上)
15	スポーツと健康のまとめ	授業のまとめ 持続可能な社会の実現のためにスポーツと健康がどのように関わることができるかを考える。(レポート)	事前: 授業テーマについて調べておく (1 時間以上) 事後: スポーツと健康の講義で学んだことを復習し、実践する。

関連科目	スポーツ科学実習Ⅰ・Ⅱ 生涯スポーツ実習
------	-------------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			

	3		
評価方法 (基準)	授業態度、小レポート 50%、レポート 30%、グループワーク、発表内容など 20%の割合で総合的に評価する。		
学生への メッセージ	質問等がある場合はメールにてご連絡下さい。 また、直接話したい場合には総合体育館内にある竹澤研究室あるいはスポーツ振興センターにお越しください。		
担当者の 研究室等	総合体育館 1 階		
備考	授業の進捗や理解度によって授業テーマの順序を入れ替える、または変更する場合があります。 学習効果を高めるため、時事問題を授業内容に加えることがあります。 初めのガイダンスには必ず出席すること。 欠席を 4 回以上した際の単位取得は認めない。		

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	西谷 継治
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	TOEIC 450点以上の実力を目指し、文法、読解、語彙など広く英語力の底上げを行う。
到達目標	TOEIC450点以上の実力 (TOEIC Bridge 150点)
授業方法と留意点	授業の進め方は毎回指名により学生諸君に発表してもらうのでそのつもりで授業に望んでもらいたい。予習として、必ず本文に目を通し、わからない単語や表現をチェックしておくことが大切である。練習問題には各自必ず答えを出しておくこと。
科目学習の効果 (資格)	理工系英語の基本を固め、専門英語と TOEIC Test の得点アップにつなげる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	Introduction	授業内容の詳しい解説	教科書の Unit 構成を把握しておく。事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	2	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1201-1230 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	3	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1231-1260 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	4	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1261-1290 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	5	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1291-1320 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	6	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1321-1350 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	7	Review	前半の復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	8	前半のまとめ	前半のまとめも文法・読解演習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	9	前半試験返却及び解説	前半試験返却及び解説	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	10	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1351-1380 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	11	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1381-1410 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	12	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1411-1440 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	13	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1441-1470 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	14	読解、文法、語彙	TOEIC 文法・読解演習	単語小テスト NO.1471-1500 事前事後学習には、毎回1時間以上かけること
	15	Review	後半復習	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること

関連科目	TOEIC, 英検ほか、英語関連の資格一般
------	-----------------------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	New Steps to Success in the TOEIC Test Grammar & Reading 550	David E. Bramley / 中井弘一	松柏社
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test-Revised Edition-	NISHIYA Koji	成美堂
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	e-learning (English Central) 10% 統一英語単語テスト 10% CASEC 20% 授業への参加、貢献 (問いに対する発言、単語小テスト、中間・期末テスト、授業態度等も含む) 60% 原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。
-----------	--

学生へのメッセージ	図書館やPC等を利用し日頃から英語に親しんでください。
-----------	-----------------------------

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
----------	--------------

備考	事前事後学習には、毎回1時間以上かけること 「質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する」 毎回の小テストに関して採点評価し、合格点に満たなければ再提出してもらいます。
----	---

科目名	実践英語Ⅱ b	科目名 (英文)	Practical English IIb
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	井寺 利奈
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2434c1		

授業概要・目的	最新の科学的トピックを扱った英文を題材として、リーディングやリスニングの能力を磨く。また、さまざまなテーマについて自分の意見を持ち、それを英語で述べたり書いたりすることで、スピーキングやライティングの訓練を積む。具体的には、TOEIC550 点以上をねらえる総合的英語力を身につける。
到達目標	TOEIC550 点以上の得点を取れる英語力を習得する。
授業方法と留意点	教科書に従って、リーディング、リスニング、文法などの演習を行う。 各ユニットの終わりには、自分の意見を英語で述べたり書いたりする。 毎回授業の初めに、前回範囲の理解を問う小テストを実施する。 問題演習や和訳などはすべて学生に指名し、全員参加型の授業を目指す。  ※毎授業、必ず辞書（紙・電子どちらでも可）を持参してください。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC テスト、TOEIC Bridge テスト、TOEFL テスト、英検

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
			シラバスとテキストに目を通しておく
1	イントロダクション	授業進め方・評価方法についての説明	シラバスとテキストに目を通しておく
2	Unit 1: Extinct No More: Can We Bring Back Mammoths? (絶滅させない:マンモスを生き返らせることはできるか)	単語テスト: 1201-1220 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
3	Unit 2 : That Sinking Feeling: Cities Returning to the Sea (沈んだ気持ち: 海に戻っていく街)	単語テスト: 1221-1240 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
4	Unit 3 : The Meat Problem: Solutions from the Lab (肉の消費問題: 解決策を求めて)	単語テスト: 1241-1260 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
5	Unit 4: The Science of Size: Why Aren't Land Mammals Bigger? (大きさの科学: 陸生哺乳動物が大きくなる理由)	単語テスト: 1261-1280 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
6	Unit 5 : Helping the Deaf: The Teen Who Translates Sign Language (聴覚障がい者への支援: AI で手話を翻訳する)	単語テスト: 1281-1300 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
7	Unit 6 : Feline Truths: How to Make Your Cat Love You (猫に関する真実: 猫に愛される秘訣)	単語テスト: 1301-1320 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
8	Unit 7 : Mind Control: Does Hypnosis Really Work? (マインドコントロール: 催眠術は本当に効くのか)	単語テスト: 1321-1340 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
9	Unit 8: Science for All: The Rise of Citizen Scientists (すべての人に科学を: 市民科学者の登場)	単語テスト: 1341-1360 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
10	Unit 9 : Real After All: NASA's Growing Interest in UFOs (UFO の真相: UFO への関心が高まる NASA)	単語テスト: 1361-1380 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
11	Unit 10 : Hard Gardening: Growing Plants on the Moon (過酷な農業: 月の土で植物を育てる)	単語テスト: 1381-1400 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
12	Unit 11 : Seeds of Life: Hayabusa's Great Discovery (生命の種: はやぶさの大発見)	単語テスト: 1401-1420 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
13	Unit 12 : Unlimited Resources: The Prospect of Mining Space (無限の資源: 宇宙採掘の展望)	単語テスト: 1421-1440 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
14	Unit 13 : An Itchy Problem: The Science of Mosquito Bites (かゆみの問題: 蚊に刺されの科学)	単語テスト: 1441-1460 テーマについての英文読解、リスニングや文法の演習	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)
15	Unit 14 : Goodbye Diets? The Exercise Pill (ダイエットはもう必要なし?: エクササイズ・ピル)	単語テスト: 1461-1500 テーマについての英文読解、英作など	単語テスト対策、授業で指示するテキスト範囲の予習と復習 (事前・事後にそれぞれ一時間程度)

関連科目	実践英語入門、実践英語初級			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Science Inspirations	Dave Rear	成美堂
	2	The 1500 Core Vocabulary for the TOEIC Test -Revised Edition-	西谷恒志	成美堂
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<p>小テスト+授業への積極的な参加度 (30%)  定期試験 (30%)  統一英語単語テスト (10%)  CASEC (20%)  e-learning (10%)</p> <p>※授業への積極的な参加度としては、投げかける質問に対する回答や、ノートを取っているかなどを評価します。授業態度に問題のある場合(遅刻、居眠り、私語、携帯電話の使用、許可なく途中退席する、教科書を持参しないなど)は教室に来ていても「欠席」扱いとします。また、原則として出席率80%以上の学生のみを成績評価の対象とします。</p>			
学生への メッセージ				
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考				

科目名	住環境設備	科目名 (英文)	Building Services
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	竹村 明久, 大橋 巧
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR2035a0		

授業概要・目的	建築環境設備には空調設備、給排水衛生設備、電気設備などがある。近年の建築や都市に関わる環境問題を背景として、講義では建築設備を広く住環境全般からとらえ直し、建築設備の基礎的な知識や考え方の修得を目的とする。
到達目標	建築設備工学に関する基礎的知識の修得およびその知識を説明できる
授業方法と留意点	原則として毎回、小演習を課す 授業中、講義の要点をノートに取る。ノートの提出を求めることがある。

科目学習の 効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、建築設備士、消防設備士など
------------------	---------------------------

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	概論 (教科書 第1章)	建築設備工学の概要 建築設備と地球環境問題	教科書を読んで予習しておく。
2	空調設備 (1) (教科書 第3章 1.2.)	空調の概要 空調方式の種類と特徴	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
3	空調設備 (2) (教科書 第3章 3.4.)	空調設備の計画 冷暖房負荷計算法	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
4	空調設備 (3) (教科書 第3章 5.6.)	湿り空気線図と空調プロセス 空調機	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
5	空調設備 (4) (教科書 第3章 7.8.)	冷温熱源機器 熱搬送機器	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
6	空調設備 (5) (教科書 第3章 9.10.13.)	配管設備の計画・設計 ダクト設備の計画・設計 換気・排煙設備	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
7	建築設備の見学	学内の設備機械室・屋上等に設置してある建築設備を見学する。	1~6回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
8	前半講義の まとめテストと解説	前半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	1~7回のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。
9	給水設備	給水・給湯・ガス設備の概要と注意事項	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
10	排水・通気設備	排水の考え方と通気設備の必要性	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
11	衛生器具・排水処理設備	衛生器具の選定のための必要基礎知識と排水処理設備の概要	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
12	消火・防災設備 (1)	消火栓・スプリンクラーなどの水に関する消火設備の概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
13	消火・防災設備 (2)	特殊消火設備と防災設備に関する概要と法規	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
14	電気・搬送設備	電気・搬送設備の概要と基礎知識	前回授業のノートを見返 (整理) して復習しておくこと。教科書を読んで予習しておく。
15	後半講義のまとめテストと 解説	後半講義のまとめテスト及びその解説を行う。	テストに備えて教科書を参考に配布資料及びノートを整理しておくこと。

関連科目	住環境工学 A、住環境工学 B、環境工学演習、環境設備計画 A、環境設備計画 B、スタジオ
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新 建築設備工学 (改訂2版)	田中俊六監修	井上書院
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回の小演習 40%、まとめテスト 60%を総合的に評価する
学生へのメッセージ	教科書を持参すること 遠慮なく質問すること
担当者の研究室等	12号館7階 大橋研究室、竹村研究室
備考	予習復習は配布資料、教科書についての通読をこれに当てること (計60時間)

科目名	環境設備計画 A	科目名 (英文)	Environment and Equipment planning A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	大橋 巧・川田 隆之・谷口 浩一郎
ディプロマポリシー(DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR3032a0		

授業概要・目的	本講義では、2年次「住環境設備」までに学んだ基礎的な知識や考え方をベースに、建築が抱える地球環境や都市環境等の諸問題との関係性を学んだ上で、空調設備、電気設備に関する技術や省エネルギー手法などを幅広く講述する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・建築が抱える地球環境・都市環境等の諸問題との関係を説明でき、改善例を提示できる。</li> <li>・空調設備に関する専門知識を知り、実務に応用できる技術の基礎を修得する。</li> <li>・都市や建物レベルの電気設備の基礎的知識を習得する。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業形態は講義中心であるが、原則として毎回、小演習を課す。 授業中、講義の要点をノートに取ることを。ノートの提出を求めることがある。
科目学習の効果 (資格)	建築環境・設備系の設計・施工等、実務に応用できる基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	環境問題と建築設備2 (都市環境問題)	都市環境の定義や諸問題、およびヒートアイランド現象について講述する。	ヒートアイランドについて各自調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
3	環境問題と建築設備3 (省エネルギーとパッシブデザイン)	環境配慮型デザインプロセスに基づく都市・建築のパッシブデザイン手法について事例を交えて講述する。	身近なパッシブデザインについて調べ予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
4	空調設備1 (現代空調設備の傾向)	現代の空調設備に関する概説、基礎的な住環境設備の知識・理解度の確認	参考書「第3章 空気調和設備」について予習・復習のこと
5	空調設備2 (熱源機器)	高効率、モジュール型等、最新熱源機器について (事例を交えて)	参考書「第3章 空気調和設備」の熱源機器を予習・復習のこと。
6	空調設備3 (空調機)	空気調和機二次側設備について (事例を交えて)、最近の多種多様な直膨パッケージエアコンの紹介	参考書「第3章 空気調和設備」の空調機器を予習・復習のこと。
7	空調設備4 (配管の全体システム)	主要空調機器に付帯するポンプと配管、全体システムについて (事例を交えて)	参考書「第3章 空気調和設備」の配管設備を予習・復習のこと。
8	空調設備5 (ダクトの全体システム、換気設備)	ダクトと送風機について (事例を交えて)、換気設備の重要性について (事例や失敗談を交えて)	参考書「第3章 空気調和設備」のダクト設備を予習・復習のこと。
9	空調設備6 (産業用空調)	産業用空調の概説、加湿と除湿についての応用、クリーンルームの概説・事例	参考書「第3章 空気調和設備」の産業用空調を予習・復習のこと。
10	電気設備1 (電気設備の基礎)	電圧、電流、抵抗、オームの法則、直流と交流の違い、配線方式 (単相3線式、3相3線式、3相4線式)、絶縁、接地の必要性について講述する。	教科書を読み、予習しておくこと。講義終了後、配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。講義後、小演習を実施して解説する。
11	電気設備2 (発電配電設備)	電気の流れ、発電所の仕組み、送電線、変電所、最近の停電事例、電力会社から家庭やビルへの受電方式について一部動画を交えて講術する。	電気の流れについて、各自調べて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
12	電気設備3 (ビルの電気設備)	ビルの電気設備 (受電方式、受変電設備、蓄電池、自家発、幹線設備、動力設備、照明コンセント設備、防災設備等) について講述する。また、実際の建築工事、電気設備について紹介する。	ビルを構成する電気設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
13	電気設備4 (日本のエネルギー事情と電気設備の省エネルギー・リニューアブル)	日本のエネルギー事情、電気設備の省エネルギーとリニューアブル事例紹介、再生可能エネルギーについて講述する。	電気設備の省エネルギー、再生可能エネルギーについて予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
14	電気設備5 (電気設備に関わる仕事と資格、図面の紹介)	電気設備に関わる仕事と資格について講述し、電気設備の図面例、施工写真の紹介する。	電気設備に関わる仕事、関連法規、資格について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う。	講義内容全般にわたって復習しておくこと。

関連科目 住環境工学A、住環境工学B、住環境設備、環境設備計画B、環境工学演習

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜紹介する		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新建築設備工学 (改訂2版)	田中俊六監修	井上書院
2				
3				

評価方法 (基準)	毎回行う小演習 40%、まとめテスト 60%で総合的に評価する
学生への	遠慮なく積極的に質問すること



メッセージ	
担当者の研究室等	12号館 7階 大橋研究室
備考	<ul style="list-style-type: none"><li>・講義に係る予習・復習は、合計で60時間（各回4時間）を目安とする</li><li>・非常勤講師への授業時間外の質問はメールにて受け付ける（メールアドレスは授業内で提示する）</li></ul>

科目名	環境設備計画 B	科目名 (英文)	Environment and Equipment planning B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	後期	授業担当者	大橋 巧, 担当者未定, 松下 直幹
ディプロマポリシー (DP)	D◎		
科目ナンバリング	TDR3036a0		

授業概要・目的	本講義は3年次前期の「環境設備計画A」に引き続き、衛生設備に関する技術の習得、および今後の脱炭素社会における環境配慮建築、環境共生建築を考える上で欠かせない、空調設備のコミッショニング技術や環境関連技術の基礎を習得する。
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>衛生設備に関する専門知識を知り、実務に応用できる技術の基礎を修得する。</li> <li>空調自動制御とコミッショニングに関する専門知識を知り、実務に応用できる技術の基礎を修得する。</li> <li>エネルギーと建築・都市設備の関係を知り、脱炭素社会において必要な環境配慮技術の基礎を修得する。</li> </ul>
授業方法と留意点	授業形態は講義中心であるが、原則として毎回、小演習を課す。 授業中、講義の要点をノートに取ることを求めることがある。 第1～5回の給排水衛生設備の講義に関しては、建築設備分野の第一線で活躍するゲスト実務者によるレクチャーを予定している。
科目学習の効果 (資格)	建築環境・設備系の設計・施工等、実務に応用できる基礎力を養う。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	給排水衛生設備 1 (給排水衛生設備概要・給水設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>給排水衛生設備の概要</li> <li>各種給水方式について</li> <li>給水汚染の原因と対策</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
2	給排水衛生設備 2 (給湯設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種給湯方式と給湯機器</li> <li>給湯設備の安全対策</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
3	給排水衛生設備 3 (排水通気設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種排水通気方式</li> <li>トラップの種類と機能、破封原因と対策</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
4	給排水衛生設備 4 (衛生器具・排水処理・雨水利用)	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種衛生器具と節水対策</li> <li>浄化槽、排水再利用設備、雨水利用設備</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
5	給排水衛生設備 5 (消火設備・ガス設備)	<ul style="list-style-type: none"> <li>消火設備の種類</li> <li>屋内消火栓設備、スプリンクラー設備</li> <li>ガスの種類と安全装置</li> </ul>	事前学習は、関連科目の教科書に記述されている内容を一読していただくこと。事後学習は、関連科目の教科書及び講義で配布した資料を読むなどして復習すること。
6	空調設備とコミッショニング 1 (省エネルギーと空調自動制御の概要)	建物の省エネを推進する上で必要となる空調自動制御の概要を講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
7	空調設備とコミッショニング 2 (空調自動制御の基本)	空調用熱源・空調機の装置の概要説明と自動制御の基本動作について講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
8	空調設備とコミッショニング 3 (空調自動制御による省エネルギー手法)	空調用熱源・空調機の制御による基本的な省エネ手法について講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
9	空調設備とコミッショニング 4 (コミッショニングプロセスの概要)	省エネルギー性能の検証プロセスである「コミッショニングプロセス」の概要、実施する意義、必要な技術などを実施事例を交えながら講述する。	関連科目の教科書を読み、空調設備について予習しておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
10	エネルギーと建築・都市設備 1 (エネルギーとは)	エネルギー資源と安全保障、エネルギー消費の副産物、エネルギーの捉え方について	参考書「第1章 概論」について予習・復習のこと
11	エネルギーと建築・都市設備 2 (都市のインフラ)	都市のインフラ整備、非常時のインフラ機能、都市のエネルギー供給システム、地域冷暖房システムについて	参考書「第1章 概論」について予習・復習のこと
12	エネルギーと建築・都市設備 3 (建築・都市の環境整備)	建築・都市の営みに起因する環境負荷、環境評価について	参考書「第1章 概論」について予習・復習のこと
13	エネルギーと建築・都市設備 4 (省エネルギーとアクティブデザイン)	最新のアクティブデザイン手法について事例を交えて講述する。	住環境設備を振り返り、設備に関する予習をしておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
14	エネルギーと建築・都市設備 5 (省エネルギーとマネジメント)	都市スケールの大学キャンパスをテーマに、省エネルギーマネジメント手法について講述する。	住環境設備を振り返り、設備に関する予習をしておくこと。また配布資料・ノートを見返(整理)して復習すること。
15	講義のまとめテストと解説	講義のまとめテスト及びその解説を行う。	講義内容全般にわたって復習しておくこと

関連科目	住環境設備 A、住環境工学 A、住環境設備、環境設備計画 A、環境工学演習			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	授業中に適宜紹介する		
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	最新建築設備工学（改訂2版）	田中俊六監修	井上書院
	2	空気調和・衛生設備の知識	空気調和・衛生工学会	オーム社
	3			
評価方法 （基準）	毎回行う小演習 40%、まとめテスト 60%で総合的に評価する			
学生への メッセージ	積極的な質問など、前向きな取組みを期待する			
担当者の 研究室等	12号館7階 大橋研究室			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・講義に係る予習・復習は、合計で60時間（各回4時間）を目安とする</li> <li>・非常勤講師への授業時間外の質問はメールにて受け付ける（メールアドレスは授業内で提示する）</li> </ul>			

科目名	デザイン方法演習	科目名 (英文)	Exercises in Design Method
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介, 大野 亜紀, 鹿間 栄吉, 西山 徹
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3061a0		

授業概要・目的	<p>この演習はヒューマンスケールのプロダクトを製作を通してデザイン方法を学習する、デザイン志向の学生を対象とするプログラムである。</p> <p>これまで個別に学習した様々な基礎的なデザインに関する知識を具体的な実践課題を通して総合化することを目的としている。プロダクト製作を通して、材料の特性を活かした機能や造形、加工法などプロダクトデザインにおける基礎的なデザイン能力を獲得する。なお、本演習授業はプロダクトデザインおよびその生産部門で活躍されてきた実務経験豊かな講師陣が指導する。講師陣の経験に基づいたプロダクトデザイン現場でのプロセスを疑似体験する。</p> <p>プログラムは2つからなる。A) 木工プログラムと B) 商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。ただし、A) 木工プログラムは作業安全確保の観点から受講者数を最大 16 人に限定している。</p> <p>また、履修登録前に受講希望者数を確認することを目的に事前登録を行う。定員より受講希望者が大幅に多い場合には、抽選により受講者を決定する。</p> <p>SDGs-9、11、12</p>
---------	---

到達目標	デザイン方法に関する基礎的能力の習得・活用できることを目標とする。具体的には、①問題発見能力、②問題解決能力（創造力）、③コミュニケーション能力（伝える力）である。
------	--

授業方法と留意点	<p>プログラムは2つからなる。A) 木工プログラムと B) 商品企画プログラムである。どちらか一方を履修する。なお、社会状況の変化に応じて Teams などを使った遠隔授業に移行する可能性がある。また、事前事後学習は合わせて概ね 180 分間程度とする。事前事後学習のためにデザイン工房を利用することが可能である。</p> <p>A) 木工プログラム 木を材料とした小物制作（設計・加工）から木材の特性を体験を通して理解するとともに基礎的な設計・製図を学ぶ。次に、簡単な椅子などの自分達の身体寸法にあった木工家具の製作を行う。定員は 16 人とする。製作材料などの費用がかかる。安全指示に従い、正しい服装や態度などを保つことが求められる。指示に従わない場合は、安全確保のため受講中止することがある。</p> <p>B) 商品開発プログラム 演習はレクチャーと実習からなっている。商品開発からデザインまでを担当する模擬開発者として、そのプロセスを学ぶ。具体的には、①情報収集・分析手法から、課題を見つける。②ブレインストーミングなどでアイデア出しをしてアイデアシートにまとめる。③商品化決定したアイデアを、デザインする。④デザインしたものを、利用者にわかりやすく伝える。これらは連続した実習として行うため、欠席することは演習を進める上で大きな障害となるので注意すること。演習の内容は受講者の作業進行状況に合わせて適宜変更する。また、演習作業に必要な材料は各自授業進行に合わせて購入準備すること。</p>
----------	---

科目学習の効果（資格）	A) 木工プログラムについては、インテリアプランナー、インテリアコーディネーター資格および本学科の空間デザインに関係する。
-------------	---

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	A) ガイダンス B) ガイダンス・レクチャー（商品開発の現場）	A) 目的、演習概要説明 B) 目的、演習概要説明および商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
2	A) レクチャー B) レクチャー（商品開発の現場）	A) 目的、演習概要説明 B) 商品開発の現場についてその概要をレクチャーする	A) 課題内容を理解し、過去の参考作品から作業工程などを検討、把握しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
3	A) 小作品製図 B) レクチャー（企画・デザイン）	A) 製図法の修得 B) 企画・デザインに必要な考え方についてレクチャーする	A) 基本的な家具製図法を参考文献などで確認しておく。図面の未完成の部分を次回演習授業までに補っておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
4	A) 小作品制作 1（部品切り出し） B) 実習	A) 図面から加工工程へ（図面提出） B) 想定企業を検討するための資料を集める	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
5	A) 小作品制作 2（接合部加工） B) 実習	A) 図面から加工工程へ B) 想定企業を検討するための資料を集める	A) 完成した図面から作業工程を再度確認し、事前に加工方法をデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
6	A) 小作品制作 4（組立て、仕上加工） B) 実習	A) 加工工程から仕上工程へ B) 模擬開発者として情報収集・分析を行う	A) 仕上げ工程の注意点を事前にデザイン工房1に設置の参考図書で学習しておく。 B) 演習の内容をまとめておくこと
7	A) 木工家具レクチャー B) 実習	A) デザインと加工方法について基礎的レクチャー B) 模擬開発者として情報収集・分析をまとめる（課題提出）	A) 改善案に対するコメントを元に、さらなる改善案を作成すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
8	A) 木工家具デザイン 2 B) 実習	A) 木工家具デザイン作業（エスキースチェック） B) ブレインストーミング	A) 改善案に対するコメントを元に、さらなる改善案を作成すること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
9	A) 木工家具製図 B) 実習	A) 木工家具製図作業 B) ブレインストーミングをまとめる（課題提出）	A) ミニオブジェ製作での図面やデザイン工房1に設置の参考図書を参考に製図を進めること。 B) 演習の内容をまとめておくこと
10	A) 木工家具製図 B) 実習	A) 木工家具製図作業（図面提出） B) アイデアシート作成（ニーズ・ネーミング・売り言葉など）	A) 次回演習までに部品加工のイメージを組み立ておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
11	A) 木工家具加工 B) 実習	A) 木工家具加工工程（部品切り出し） B) アイデアシート作成（ニーズ・ネーミング・売り言葉など）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと
12	A) 木工家具加工	A) 木工家具加工工程（接合部加工）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演

		B) 実習	B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）	習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと																
	13	A) 木工家具加工 B) 実習	A) 木工家具加工工程（接合部加工） B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと																
	14	A) 木工家具加工 7 B) 実習	A) 木工家具加工工程（接合部加工） B) 商品化案を決定（デザイン、ラフモデル作成）（課題提出）	A) 自分の進捗状況を管理して、必要な場合には演習時間外に作業を進めておくこと。 B) 演習の内容をまとめておくこと																
	15	講評会	講評会を行う	作品のプレゼンテーション準備をしてから演習に参加すること。																
関連科目	デザイン方法論、インテリアデザイン論																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>ウラからのぞけばオモテが見える</td> <td>佐藤オオキ, 川上典李子</td> <td>日経 BP 社</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>名作椅子の由来図典：歴史の流れがひと目でわかる</td> <td>西川栄明</td> <td>誠文堂新光社</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>椅子—人間工学・製図・意匠登録まで</td> <td>井上 昇</td> <td>建築資料研究社</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	ウラからのぞけばオモテが見える	佐藤オオキ, 川上典李子	日経 BP 社	2	名作椅子の由来図典：歴史の流れがひと目でわかる	西川栄明	誠文堂新光社	3	椅子—人間工学・製図・意匠登録まで	井上 昇	建築資料研究社
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	ウラからのぞけばオモテが見える	佐藤オオキ, 川上典李子	日経 BP 社																	
2	名作椅子の由来図典：歴史の流れがひと目でわかる	西川栄明	誠文堂新光社																	
3	椅子—人間工学・製図・意匠登録まで	井上 昇	建築資料研究社																	
評価方法（基準）	A) 制作過程における評価 50%、完成作品評価 50% B) 演習課題評価（60%）、プレゼン（20%）、授業態度（20%）																			
学生へのメッセージ	我々は日常的に様々なプロダクトなどのデザインに接している。特にこの演習は短時間で集中的に学ぶプログラムとなっているため、日頃から身の回りのデザインに対して高い意識をもって過ごすことでより有意義な演習となる。																			
担当者の研究室等	12 号館 7 階 稲地准教授室																			
備考	A) 製作に使用する材料などの購入費用がかかる。木工は大変危険であるため、服装や行動には注意が必要である。安全指示に背き、受講を続けることが危険と判断される場合には、演習途中でも受講中断することがある。 B) 模型やプレゼンテーションに使用する材料・用具などを購入費用がかかる（モデルボード、カッティングシート、イラストレーションマーカーなど）。																			

科目名	サステイナブルデザイン演習	科目名 (英文)	Exercises in Sustainable Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	白鳥 武・榊 愛・坂本 淳二・山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	F⑩		
科目ナンバリング	TDR3062a0		

授業概要・目的	サステイナブルデザインとは何か。様々な分野で使用されているが、その多様な定義や在り方を演習を通して理解し、持続可能な環境 (生態系/エコシステム) や社会 (人が集団で織りなす仕組み/システムや構成など) を導くデザイン手法を身に付けることを目的とする。本授業では有形 (建築やプロダクトなどの「モノ」)・無形 (仕組みづくりや考え方などの「コト」)・媒介を取って問わないサステイナブル成果物の自由なアウトカムを期待し、それらを導く制作過程や探求が重要であり、様々な調査や分析を含めたデザイン手法を学び、時に自ら考案しながら、最終成果物として、個々の学生が選択した「多様な阻害問題」を解決に導くための道筋を理解し、より効果的に持続可能な世界を創成できるデザイン力を涵養する。
到達目標	1) 問題発見と基本的な解決能力の習得: どの分野のサステイナブルデザインであろうと、その解決しようとする阻害問題群を調査・分析・明確化できる能力を身に付けることが期待できる。 2) プレゼンテーションスキルやディベート能力の向上が期待できる。 3) 多角的な視野で持続可能な世界を創生し具現化するデザイン能力の向上が期待できる。 4) 個別に「サステイナブル●●デザイン」とは何か、どう在るべきか? という問いに自分なりの答えを見出すことが期待できる。 ※●●には専門分野や種別名称が入る。
授業方法と留意点	1) 本授業では「サステイナブルデザインとは何か。どう在るべきか」という問いを日々の授業と演習を通して探求することが重要なため、授業内外での発見、学びを「SUS-D Book」を一冊 (A4以上) 用意して記録すること。色ペンやマジックなど、表現方法は自由。 2) 授業はワークショップ (WS) 及びフィールドワーク (FW) 調査を絡めながら実践力を培う。 3) 班別ワークと個別ワークの両方がある。 4) 中間講評会及び最終講評会を行う。 5) ノートパソコンを各自用意する。Microsoft Office の基本ソフト、GIS用のソフト等を使用する。作図を伴うデザイン (建築・プロダクト等) に取り組む場合は作図ソフトなども使用する。 6) その他自分が取り組みたいデザインに必要な道具 (アプリ・ソフトや製図版、模型制作手道具等自由) を使用する。
科目学習の効果 (資格)	国連による持続可能な開発目標 SDGs (エス・ディー・ジーズ) とも関連する項目やそれらとの相違も理解し、形骸化しないためにも、多分野にまたがる、多様で効果的なサステイナブルデザインに触れることができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	演習ガイダンス: 「サステイナブルデザインとは何か?」	1) 演習の目的・進め方 2) 担当教員のサステイナブルデザイン研究内容の紹介 3) デザイン手法: KJ法 4) KJ法を用いた WS、各学生の班内発表後全体ディスカッション	事前) a. 「SUS-D Book」を準備する: b. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 c. 「サステイナブル●●デザインとは何か?」という問いに対して自分の考えをPPT (パワーポイント) にまとめて発表2分の準備をする。 事後) SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。★ミニ課題1に取り組むこと
2	取組テーマ・分野設定の考え方 (その1)	1) サステイナブルデザイン事例検証 I 2) デザイン手法: 地球共生デザイン手法・相関図	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について自分の考えを進める。 事後) SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。★ミニ課題2に取り組むこと	
3	取組テーマ・分野設定の考え方 (その2)	1) サステイナブルデザイン事例検証 II 2) デザイン手法: ヒアリング・アンケート調査・集計と発表 3) デザイン手法: 主題図・GIS 演習と発表 4) 次回フィールドワーク I (FW1) の説明と★班分け★	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. フィールドワークに必要な道具、下準備をすること。★ミニ課題3に取り組むこと	
4	フィールドワーク演習 I	3,4 限目フィールドワーク I 実践演習 5 限目まとめ作業時間: 整理と確認	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. フィールドワークで調査・発見した情報を整理して発表に備える。	
5	フィールドワーク演習 II	まとめ作業時間: 整理と確認	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. フィールドワークで調査・発見した情報を整理して発表に備える。	

	6	フィールドワーク演習成果発表	3限目 最終班内まとめ作業時間 4限目 発表と講評 5限目 最終課題の説明と取組テーマの検討	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 自分が取り組みたい最終課題「サステイナブル●●デザイン」の●●を明確にして決定すること。 ★ミニ課題4に取り組むこと
	7	取組テーマ・分野設定の考え方(その3)と取組テーマ決定:最終課題説明	1)サステイナブルデザイン事例検証 III 2)次回フィールドワーク II (FW2) と関連づけた最終課題の説明 3) 取組テーマ別エスキース・企画	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について本日のエスキースをもとに自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 自分が取り組みたい最終課題「サステイナブル●●デザイン」のエスキースを進める。
	8	個別調査・デザイン企画・検討-1	1) サステイナブルデザイン事例検証 IV 2) 取組テーマ別エスキース・企画 3) FW2 現地調査 等	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について本日のエスキースをもとに自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 自分が取り組みたい最終課題「サステイナブル●●デザイン」のエスキースを進める。
	9	個別調査・デザイン企画・検討-2	1) サステイナブルデザイン事例検証 V 2) 取組テーマ別エスキース・企画 3) FW2 現地調査 等	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について本日のエスキースをもとに自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 自分が取り組みたい最終課題「サステイナブル●●デザイン」のエスキースを進める。
	10	個別調査・デザイン企画・検討-3 と★中間講評会★	1) サステイナブルデザイン事例検証 VI 2) 取組テーマ別エスキース・企画 の中間講評会(方向性の確認)	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について本日のエスキースをもとに自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 自分が取り組みたい最終課題「サステイナブル●●デザイン」のエスキースを進める。
	11	個別調査・デザイン企画・検討-4	1) サステイナブルデザイン事例検証 VII 2) 取組テーマ別エスキース・企画 3) FW2 現地調査 等	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について本日のエスキースをもとに自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 自分が取り組みたい最終課題「サステイナブル●●デザイン」のエスキースを進める。
	12	個別調査・デザイン企画・検討-5	1)サステイナブルデザイン事例検証 VII 2) 取組テーマ別エスキース・企画 3) FW2 現地調査 等	事前) a. 別資料「教科書リスト」から自ら取組みたい内容に近い一冊を選び、読み進める。 b. 自分が取り組みたい「サステイナブル●●デザイン」について本日のエスキースをもとに自分の考えを進める。 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 自分が取り組みたい最終課題「サステイナブル●●デザイン」のエスキースを進める。
	13	最終講評会準備	取組テーマ別エスキース・企画、最終講評会準備	事前) & 事後) a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。 b. 最終講評会に向けて成果物を進める
	14	★最終講評会★	最終講評会(3~5)限	事前) & 事後)

				a. SUS-D Book に本日の授業で学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。b. 最終まとめに向けてSUS-D Book をまとめること。																
	15	★全体講評、SUS-D BOOK 展示会とまとめ、ふりかえり★	3 限 SUS-D BOOK 展示会 4、5 限 全体講評、ふりかえり	事前) & 事後) a. SUS-D Book に本日の授業、まとめて学んだことや発見したことを日付を入れてまとめて記述しておくこと。今後の卒研やサステイナブルデザインに活用できるようにしておくこと。																
関連科目	住生活学、住環境マネジメント、空間情報デザイン、空間表現演習、地域・都市計画学、設計演習 I、インテリアデザイン、プロダクトデザイン、SDG s に学ぶ世界の課題、住生活概論、環境工学、スタジオ、卒業研究等																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>なぜデザインが必要なのか—世界を変えるイノベーションの最前線</td> <td>エレン ラプトン、他</td> <td>英治出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>世界を変えるデザイン 2—スラムに学ぶ生活空間のイノベーション</td> <td>シンシアスミス編集</td> <td>英治出版</td> </tr> <tr> <td>3</td> <td>ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する 7 つのステップ</td> <td>寛裕介</td> <td>英治出版</td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	なぜデザインが必要なのか—世界を変えるイノベーションの最前線	エレン ラプトン、他	英治出版	2	世界を変えるデザイン 2—スラムに学ぶ生活空間のイノベーション	シンシアスミス編集	英治出版	3	ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する 7 つのステップ	寛裕介	英治出版
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	なぜデザインが必要なのか—世界を変えるイノベーションの最前線	エレン ラプトン、他	英治出版																	
2	世界を変えるデザイン 2—スラムに学ぶ生活空間のイノベーション	シンシアスミス編集	英治出版																	
3	ソーシャルデザイン実践ガイド—地域の課題を解決する 7 つのステップ	寛裕介	英治出版																	
評価方法 (基準)	ミニ課題 20% 中間講評会+成果物 30% 最終講評会+成果物 50%																			
学生への メッセージ	本授業では国内外のサステイナブルデザインについて学び、考え、有形・無形・媒体を問わず、デザインやデザインプロジェクトを実践、牽引できる能力を養います。調査や分析、まとめる技術やデザインの様々な考え方に触れ、各学生が探求したい持続可能なデザインを自由に展開しながら、その新しい可能性を多角的に見つめ、挑戦する意欲ある学生を求めます。自分が追求したいサステイナブルデザインを創造性豊かに、かつ地道に学びの入り口となるフィールドワークで身近な阻害問題調査や分析も実践し楽しく世界を持続可能で豊かにするデザインの可能性																			
担当者の 研究室等	12 号館 6F 坂本教授室 12 号館 7F 榊准教授室 山根講師室 白鳥准教授室																			
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前事後学習は、1 週あたり 3 時間以上確保すること。</li> <li>・参考書は、教科書リストにある複数の参考書から任意に自分が進めたい最終成果物に向けたものを採択し、読み解くこと。ここに参考書で挙げている教材は一例で、リストは別途授業開始前に TEAMS にて提示する。初回授業までに読み進めること。参考書の鵜呑みではないデザインの多様な在り方を許容するために各学生の興味と成果物ニーズに沿ったこの方式を採用する。</li> </ul>																			



科目名	英語基礎会話 I	科目名 (英文)	Basic English Conversation I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	近藤 未奈
ディプロマポリシー (DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3435c1		

授業概要・目的	理工系分野を取り巻く社会状況は、インターネットの普及、経済のグローバル化が進む中で大きく変化しており、研究や企業活動において、英語で情報を得て発信する機会が急増しています。この授業では、「英語を話せるようになりたい」と思っている皆さんが、場面や状況に応じて自分のことを英語で説明する力を養成することを目標とします。実際の場面を想定したダイアログ練習を通して、英語での円滑なコミュニケーション能力を高めることを目指します。世界各地の都市や地域の映像を視聴して日本以外の地域への興味を高め、英会話を学ぶモチベーションの向上につながることも期待できます。
到達目標	英語によるコミュニケーションに役立つ実用的な英語表現を習得し、会話を身につける。 TOEICや英検などの英語資格試験に対応できる英語力を身につける。
授業方法と留意点	教科書を使用し、演習形式で行います。発音やロールプレイに積極的に取り組んでください。指名された受講者は発表するなどの機会があります。次回の授業で取り扱う問題演習の予習、および授業内容の復習には、1週間につき90分程度をかけること。 教科書は1回目の授業から使用する予定です。教科書販売期間中に早めに購入してください。 1回目の授業から英和辞書（電子辞書可/高校英語以上に対応できるレベルのもの）も使用するので、教科書と併せて毎回必ず持参すること。
科目学習の効果（資格）	日常生活や仕事の場面における、英語を使ったコミュニケーション能力の向上 TOEICや英検などの英語資格試験の得点につながる基礎英語力の向上

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	受講にあたってのオリエンテーション	受講に関する諸連絡（授業の進め方、各種課題やテストについての説明） ウォーミングアップ：英語の基礎知識の確認・自分の課題点を知る	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）
2	Spain: The sights and sounds of Spain (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
3	Spain: The sights and sounds of Spain (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (At the Airport)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
4	China: Pandas young and old, filmed in zoos and in the wilds of China (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
5	China: Pandas young and old, filmed in zoos and in the wilds of China (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (From the Airport)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
6	Peru: A tour of some of the most stunning places in Peru (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
7	Peru: A tour of some of the most stunning places in Peru (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (At the Hotel)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
8	Tokyo: A portrait of life in modern Tokyo (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
9	Tokyo: A portrait of life in modern Tokyo (2)	Tokyo: A portrait of life in modern Tokyo (2) スピーキング演習：会話ロールプレイ (Describing Tokyo)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
10	New York City: A tour of one of the world's most exciting cities (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
11	New York City: A tour of one of the world's most exciting cities (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (Getting Directions)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
12	Antarctica: The natural wonders of the Earth's coldest, driest, and windiest continent (1)	ウォームアップ会話練習/映像を見てリスニング演習	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
13	Antarctica: The natural wonders of the Earth's coldest, driest, and windiest continent (2)	スピーキング演習：会話ロールプレイ (Health Problems)	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
14	会話ロールプレイの総復習	At the Airport / From the Airport / At the Hotel / Describing a City / Getting Directions / Health Problems	教科書の予習（指定箇所の問題演習と予習：60-90分程度）、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える：60分程度）
15	まとめテスト実施	（終了後）テストの解説	まとめテストの復習 60分程度

関連科目	他の英語科目
------	--------

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Globe Trotters: Practical English with Video	Carmella Lieske	センゲージラーニング
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度（アクティビティへの積極的な参加、投げかける質問に対する発言、演習の解答・予習内容の発表、授業への集中度など）... 40%</li> <li>・小テスト（授業内で実施スケジュールを伝える/答えは毎回返却する）... 15%</li> <li>・期末まとめテスト... 45%</li> </ul> 以上を総合評価します。			
学生への メッセージ	外国語は自分から学ぶ姿勢が重要です。毎回の予習・復習をしっかりとこなしてください。間違えることを恐れず、意欲的に授業に参加してくれることを期待しています。 授業外の場面でも色々な分野での情報収集・知識習得に励んで下さい。学習成果の確認として、学内で実施される TOEIC IP 試験を受験するのも効果が大きいです。			
担当者の 研究室等	7号館2階 非常勤講師室			
備考	1週間につき、事前学習（授業のためのテキストの読み込み、宿題、小テスト対策など）としての予習には60-90分、事後学習（授業で扱った問題演習を復習する、単語や表現を覚える）には60分程度をかけると効果的です。 原則として、出席率80%以上（12回以上出席）の受講者のみを成績評価の対象とします。4回以上（正式な証明が可能な公休および大学指定の伝染病による欠席は除く）授業を欠席した場合、成績評価の対象外とします（単位が取得できる見込みはありません）。 その他の詳細は、第1回目の授業で詳しく説明します。受講			

科目名	英語基礎会話Ⅱ	科目名 (英文)	Basic English Conversation II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	土田 智佳子
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN3436c1		

授業概要・目的	2年次までに身に着いた英語力を基に英語によるコミュニケーションの楽しさを体験し、自主的に英語学習できるようになることを目指す。
到達目標	学生生活や衣食など、身近で日常的なテーマについて、簡潔な英語を使ってコミュニケーションをとることができる。
授業方法と留意点	身近な話題についての会話文を理解し、繰り返し言う練習を行い、自分のものにする。 ペアまたはグループで会話文を練習し、さらに自分たちで会話を展開する練習をする。 授業内外の課題には積極的に取り組むことが求められる。
科目学習の効果 (資格)	TOEIC のスコアアップ

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	教科書を用いて、授業の進め方や評価方法などを説明する。	シラバスを確認し、教科書に目を通しておく。
2	Unit 1 Electronic Devices	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 1 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
3	Unit 2 Health and Fitness	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 2 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
4	Unit 3 On the Phone	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 3 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
5	Unit 4 Household Chores	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 4 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
6	Unit 5 Environment Protection	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 5 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
7	Unit 6 Bargaining for Fun	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
8	Review Test	Unit 1-6	事前学習：テスト勉強 (2時間)
9	Unit 7 Affinity	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
10	Unit 8 Culture Shock	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
11	Unit 9 School Activities	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
12	Unit 10 Asking for Directions	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
13	Unit 11 Tourist Spots	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
14	Unit 12 Studying Abroad	Listening、Reading、会話、文法を通し Unit 6 を学習する。	事前学習：該当 Unit を予習。分からない語彙、フレーズを調べておく (1時間) 事後学習：復習・課題 (1時間)
15	総まとめ	Unit 7-12	事前学習：Unit 7-12 復習

関連科目	なし
------	----

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	Live Escalate Book3: Summit	角山 照彦 他	成美堂
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準)	出席が 80%未満の場合、原則として成績評価の対象外となります。 Review Test 20% 定期試験 30% 課題 20% 小テスト 20% 授業態度 (授業への取り組みには、指名された時の応答、発言・発表の積極性をはじめ学習態度が重視されます) 10%
-----------	---

学生へのメッセージ	親しみやすい話題で、どんどん英語で話してみましよう。積極的な参加を期待しています。
-----------	---

担当者の研究室等	7号館2階 非常勤講師室
備考	毎回の授業のための資料やテキストの読み込み、各担当者からの課題、発表やレポートの準備、宿題などに要する事前・事後学習総時間をおおよそ30時間程度とする。 テストやレポートに関するフィードバックは翌週以降の授業内で行う。その他の質問等は出講時に非常勤講師室にて対応する。

科目名	科学技術教養A	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池内 淳子, 伊熊 昌治, 大谷 由紀子, 奥田 泰雄, 小林 健治, 白須 寛規, 宮本 征一, 柳沢 学
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TNA3422a1		

授業概要・目的	広範な社会や人間生活の場面における現状と課題から、建築学に関わる学問体系のおおよそについて紹介し、社会や人間生活環境のあり方を考える基本的な教養を身につける。なお、本授業は建築学科専任教員全員で担当する。(SDGs-11)
到達目標	インテリアから都市空間にいたるまで、広範な建築技術、建築デザイン、建築文化における現状と課題を通して、建築がどの様に考え出され、社会、生活、文化にどのような影響を及ぼすものかを理解する。その上で、身近な生活環境から公共的な都市空間にいたるまで、そのあり方を的確に考察することができる基本的な教養を身につけることを目標とする。
授業方法と留意点	教科書・資料等は、Moodleに掲載あるいは各講義時に配布する。 TeamsやMoodle等を活用する授業があるため、詳細について初回授業で説明する。 各講で用意する教材や資料の理解に努め、課題を通して、建築と社会の繋がりを考えられるようになることを重視する。各講の内容に沿った演習課題を毎回実施する。
科目学習の効果 (資格)	身近な建築と生活や環境、都市環境に関するデザインの知識と手法が身に付く。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	環境共生の建築物	太陽・風の有効利用、CASBEEの考え方	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
2	建築と人間生活	建築の種類と計画空間、ライフスタイルからみた多様性、民族・地域からみた多様性	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
3	住む建築	住宅、住むことの工夫	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
4	商業の建築	商業施設、商店街の歴史と再生	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
5	交通の建築	陸・海・空の交通にかかわる建築の特徴	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
6	福祉医療の建築	建築と福祉医療	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
7	建築の外装・外構	外装材とは エクステリア、造園	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
8	建築の歴史	歴史的建築から建築における多様な「技術」について理解を深める	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
9	建築物のかたちと力の流れ	目に見える建築と目に見えない力がどのように関係しているのかを理解する視点を養う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
10	建築の骨組み	構造と力の流れ、構造材料の性能	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
11	建築の材料	構造と仕上げ材料	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
12	快適な温熱環境	建築空間における温熱環境を理解する視点を培う	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
13	建築をつくる	構造、材料、施工の新技術	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
14	建築の保存活用	建築と社会の結びつきについて、建築のストック活用事例、保存手法、コンバージョンといった建築保存の視点から見る	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう
15	建築と防災	災害、避難、防災教育	講義で知り得た情報について、身近な場面からそれらを見つけて評価してみよう

関連科目 なし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	教科書・資料等は、授業で配布あるいはMoodleに掲載予定		
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 計15回の課題(各回、課題レポート・講義メモ・小テスト・グループワーク・ディスカッション等により構成され、それぞれの割合の合計が100%となる)により評価する。期末試験は行わない。原則として、課題提出の割合が80%以上の履修者を成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ 授業で得た建築学に関する基礎的な知見を、日常生活や社会で起こっている様々な事象に照らして、自ら考え判断することを心がけてください。

担当者の研究室等 8号館3階・各授業担当者の研究室

備考 出席および遅刻・欠席の扱いは、原則として、理工学部における出席および遅刻・欠席の扱いに準ずる(出席率80%以上を成績評価の対象/30分以上の遅刻は欠席扱いとする/遅刻は2回で欠席1回とみなす)。事前あるいは事後学習として、教科書の当該回の範囲または指定した資料等を読み、関連する情報収集を行うなどし、授業1回あたり1.5時間以内

上をかける必要がある。

科目名	科学技術教養C	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy C
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	寺本 俊太郎, 石田 裕子, 伊藤 譲, 久保田 誠也, 熊谷 樹一郎, 熊野 知司, 佐藤 大作, 田井 政行, 水野 忠雄, 米田 昌弘
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TNA3425a1		

授業概要・目的	授業の目的は、受講者に私たちの生活を支える土木技術に対する興味を持つとともに技術の基本原則を知ってもらうことである。第1回の授業では、身の回りの土木技術の例を取り上げ、それらが技術者によってどのように守られているのかを説明する。第2・3回は現在にまでつながる国土開発の歴史をそれに従事した人々にも注目して講義する。第4～7回は「土木」の由来となる基本的な材料、第8～11回は設計方法、第12～15回は計画と環境問題について講義する。
到達目標	土木技術全般の基礎知識を有し、土木技術と社会や経済活動、生活との関りを理解できる。
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>基本的にパワーポイントを用いた講義形式。授業中はメモを取らせ授業終了時もしくは終了後に提出する。</li> <li>歴史と人物と基本原則をセットとして取り扱う。第4回以降は材料や設計の基本原則を扱う。基本的に古くからの基礎的な技術と現在の技術をセットで取り扱う。</li> <li>講義だけではイメージを伝えることが困難な場合には、サンプルや簡単な実験を併用する。</li> </ul>
科目学習の効果 (資格)	産業・経済活動や私たちの生活を支える道路・鉄道・上下水道などの社会基盤施設に関する基礎的な知識が得られ、安全安心な社会システム構築への興味関心が深まる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	私たちの日常生活と土木技術	私たちの身の回りの土木技術：・鉄道・道路網、上下水道、エネルギー施設、防災施設、憩い。・私たちの生活にどう関わっているのか？・技術を支える人々（建設会社、設計コンサルタント、公務員、メーカー・・・）	配布資料講義部分の予習と復習
2	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか①	国土建設の歴史 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
3	国土は先人たちによってどのように形作られてきたのか②	国土建設を行った人々 ・古墳時代～江戸時代 ・明治～第二次大戦、敗戦以降	配布資料講義部分の予習と復習
4	都市をつくる材料の話① -土木技術は土から始まった-	最も古い材料、土と人類、土と木 締めて使う、事例1(古くからの技術)、事例2(近代以降の技術)	配布資料講義部分の予習と復習
5	都市をつくる材料の話② -セメントコンクリートの発明-	セメントの発見・発明 耐久性、品質管理	配布資料講義部分の予習と復習
6	都市をつくる材料の話③ -鋼は文明を支える-	産業革命による鉄利用の拡大 鋼構造	配布資料講義部分の予習と復習
7	都市をつくる材料の話④ -循環型社会と土木材料-	新材料、リサイクル材料 産業廃棄物の利用	配布資料講義部分の予習と復習
8	国土を測る技術	広い国土をどうやって測るのか、歩測からGPSまで、原理、応用	配布資料講義部分の予習と復習
9	都市の造り方① -橋を設計する-	橋はなぜ必要か？橋はどうやって重力に抵抗しているのか、構造力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
10	都市の造り方② -川を設計する-	治水は国を治める。水と波の力を計算する。川、ダムと港の設計へ。水理学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
11	都市の造り方③ -地盤とトンネルを設計する-	都市を支える地盤の役割、地下空間。地盤力学の基礎	配布資料講義部分の予習と復習
12	安全で安心な都市へ① -未来の都市を計画する-	都市地域計画（計画学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
13	安全で安心な都市へ② -持続可能な都市を-	地球規模環境問題、循環型社会（環境工学）	配布資料講義部分の予習と復習
14	安全で安心な都市へ③ -命の水を守る-	衛生工学（上下水道学の基礎）	配布資料講義部分の予習と復習
15	安全で安心な都市へ④ -水害から守る-	防災・減災、流域治水	配布資料講義部分の予習と復習

関連科目 特になし

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	配布資料：科学技術教養 C	都市環境工学科全教員	
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	特になし		
2				
3				

評価方法 (基準) 受講メモ 50%、レポート 50%の総合点で評価する。 ※レポートは、授業のまとめとして毎回提出すること。期末試験は行わない。

学生へのメッセージ	豊かな自然に恵まれた日本は世界で最も厳しい自然災害にさらされる国土でもあります。この講義を通じて、自然災害の防災・減災や産業・経済活動支える社会基盤施設に関する基礎知識を身につけていただければ幸いです。
担当者の研究室等	講義担当者居室 1号館3階および4階
備考	事前・事後学習にかかる学習時間は授業外の課題や小テストの学習時間も含め、毎回1時間程度としてください。



科目名	科学技術教養M	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy M
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	池田 周之, 植田 芳昭, 小田 靖久, 海津 浩一, 寒川 哲夫, 諏訪 晴彦, 洞出 光洋, 堀江 昌朗, 南 久, 三宅 修吾, 山崎 達志, 渡邊 陽介
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TNA3423a1		

授業概要・目的	<p>機械工学とは“ヒトが活動する上での効率化と合理化, 自動化を図る機械”の原理, 性能, 製作, 利用と保守を科学的に体系化した学問である。機械工学は, 機械力学, 材料力学, 熱力学, 流体力学の4力学を基軸とし, その応用分野は多岐にわたる。</p> <p>本講義は, 機械工学を象徴する代表的な学問分野を科学技術教養の視点で学習することにより, 機械工学の全体像を俯瞰しつつ, 履修生が所属する機械工学以外の分野と機械工学のかかわりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解することを目的とする。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械技術とものづくり技術の全般的な基礎知識を知り, 機械工学と実社会への関わりを理解することができる。</li> <li>・機械工学と他分野の関わりに気づき, 機械工学の基本的な考え方や役割を理解する。</li> </ul>
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各テーマごとにその歴史, 基本原理, 最先端の話題を提供する。</li> <li>・Web上で配布するテキスト(PDF)に目を通し, ポイントをまとめておく。</li> <li>・講義前に課題を配布し, スライド資料を用いた講義を行う。(60分)</li> <li>・講義メモと課題を作成し, 指示に従って提出する。(30分)</li> </ul> <p>・状況に応じてオンライン方式に切り替える場合がある。</p> <p>・切り替える日時や受講方法の連絡にはTeamsを使うので, 注意しておくこと。</p>
科目学習の効果(資格)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械工学科の基本的な知識を俯瞰的に知ることが出来る。</li> <li>・機械工学と他分野との関わりに気づき, 受講者の興味や知識の幅を広げることができる。</li> </ul>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	機械工学の概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人類の歩みと機械の歴史</li> <li>・ものづくりの原点</li> <li>・科学技術と機械工学</li> <li>・これからの社会への機械工学の役割</li> </ul>	M1 テキスト第1章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
2	いろいろな機械材料	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属材料</li> <li>・高強度・機能性材料</li> <li>・新素材と高度産業社会</li> </ul>	M1 テキスト第3~5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
3	道具と機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・道具の歴史: ヒトの手の動作を補う道具から労働としての道具へ</li> <li>・農具 漁具 大工道具 手動工具 電動工具</li> </ul>	M1 テキスト第2章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
4	空間を移動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空を飛ぶ原理と飛行機の機械技術</li> <li>・深海に潜る原理と深海艇の機械技術</li> <li>・宇宙に飛び立つ原理とロケットの機械技術</li> </ul>	M2 テキスト第6~8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
5	精密に加工する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・もの大きさと精密さ</li> <li>・精密・超精密加工の発展</li> <li>・超精密加工の応用事例</li> <li>・超精密加工と超精密工作機械</li> </ul>	M1 テキスト第7章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
6	ものづくりの科学と技術	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶かして作る</li> <li>・変形させて作る</li> <li>・削って作る</li> <li>・積み上げて作る</li> <li>・工場を科学する</li> </ul>	M1 テキスト第6, 8章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
7	作業を補助する機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・人間の作業と機械</li> <li>・移動と運搬の補助</li> <li>・動力源・移動のためのメカニズム</li> <li>・力を伝えるための仕組みと手段</li> <li>・シャフトとベアリング</li> </ul>	M1 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
8	機械をかしこくする	<ul style="list-style-type: none"> <li>・機械の操作と知能化技術</li> <li>・知能化のための機械設計</li> <li>・パワーアシストスーツ</li> <li>・人工知能技術</li> </ul>	M1 テキスト第11章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
9	ミクロの機械	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小型化への取り組み</li> <li>・小さくなることで変わる物理特性</li> <li>・半導体製造技術</li> <li>・マイクロロボット</li> </ul>	M1 テキスト第12~14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
10	流れを利用する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・動力と流体機械</li> <li>・流体機械の歴史</li> <li>・発電のための流体機械</li> <li>・自然エネルギーの利用</li> </ul>	M2 テキスト第2・3章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
11	陸上を移動する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エンジンと機械工学</li> <li>・動力機械としてのエンジン</li> <li>・熱エネルギー</li> <li>・旅客輸送と貨物輸送</li> </ul>	M2 テキスト第4・5章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
12	計測する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・度量衡と政治</li> <li>・もの大きさと精密さ</li> <li>・センサで測る</li> <li>・センシング技術</li> </ul>	M2 テキスト第9・10章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
13	制御する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制御工学の世界</li> <li>・制御の方式</li> <li>・さまざまな機械制御技術</li> </ul>	M2 テキスト第11・12章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
14	生命・生体にならう1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・バイオエンジニアリングの世界</li> <li>・人間を救う・支援する機械</li> </ul>	M2 テキスト第13・14章に目を通し, ポイントをまとめておくこと (2時間)

	15	生命・生体にならう2	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康とスポーツのための機械</li> <li>人間工学</li> </ul>	関連事項について調べる (2時間) M2 テキスト第14・15章に目を通し、ポイントをまとめておくこと (2時間) 関連事項について調べる (2時間)
関連科目				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	<ul style="list-style-type: none"> <li>毎回提出する課題 (各回10点満点) に基づき成績評価をする。</li> <li>満点は150点 (講義15回分) で、これを100点満点に換算する。</li> </ul>			
学生への メッセージ	本講義を受講することにより、機械工学が対象とする学問・専門分野や、機械工学と実社会との関わりを理解することができます。現代社会では、あらゆる分野で機械が働いています。受講者それぞれの分野と機械工学の関わりを知ることで、知識や視野を広げることができます。			
担当者の 研究室等	担当教員の居室 [1号館の3階・4階・5階]			
備考				

科目名	科学技術教養E	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy E
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	井上 雅彦, 片田 喜章, 奥野 竜平, 金澤 尚史, 木村 真之, 工藤 隆則, 檜橋 祥一, 西 恵理, 畠中 恵司, 堀内 利一, 山田 逸成
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TNA3424a1		

授業概要・目的	電気・情報に関する学問分野には、電気工学、電子工学、通信工学、情報工学などがある。電気工学は、発電電や送電、動力や照明といった電気をエネルギーとして利用する分野、電子工学は、電気の高速度応答性を活かした電気信号の取得・制御や半導体などの材料開発分野、通信工学は、有線や無線通信、通信ネットワークなど様々な通信技術を学ぶ分野、情報工学はコンピュータのハードウェアとソフトウェアや各種データの処理・利用に関する分野である。これらは、全て「電気」という共通項があり、「情報」が深くかかわる。しかし、それぞれの分野が特化し、かつ高度化したことにより、これらを全て網羅して理解することが難しくなっている。本講義では、これらの電気と情報に関する学問分野を全般的に少しづつ学ぶことで、その全体像とそれぞれの関連性をつかむと共に、多岐にわたる応用技術を学習することを目的とする。
---------	---

到達目標	電気情報工学全般を学ぶことで、電気・情報・電子・通信に関連した学問にはどのような分野があり、どのような応用があるかを理解することが目標である。
------	---

授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電気電子工学科の教員が各授業テーマを順番に担当する。</li> <li>・講義 13 回分はパワーポイントを用いた口述講義の動画を Moodle で視聴。各回で出される課題に解答し、Moodle で提出する。</li> <li>・講義 2 回分では研究室紹介動画視聴後にレポートを Moodle で提出する。</li> </ul> <p>教科書が必要となるので、入手しておくこと。</p>
----------	--

科目学習の効果 (資格)	電気工学以外の分野でも電気を使った機器はいたるところで使われている。また、どの分野においても情報の知識は欠かせない。これらの原理や特性を知ること、自分の専門分野が電気・情報とどのように繋がっているかを理解することができる。国家資格で電気や情報の基礎の出題がある場合には、その基礎勉強にもなる。
--------------	--

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	電気の基本法則とその発見の歴史	科学技術教養の意義 電気に関する学問の変遷と電気に関する基礎方程式	第1回課題 約1時間 教科書 Chapter1
2	電気をつくって送る	発電の原理と発電機の構造、発電電、送電のしくみ	第2回課題 約1時間 教科書 Chapter2
3	半導体による技術革新	半導体とは何か、半導体の機能、集積回路の作成技術	第3回課題 約1時間 教科書 Chapter4
4	地球にやさしい照明技術	電気をを用いた照明器具の発展、照明器具と消費電力、照明器具の応用	第4回課題 約1時間 教科書 Chapter7
5	さまざまな電子回路	電気回路と電子回路、能動回路と受動回路、集積回路、身近な製品の電子回路	第5回課題 約1時間 教科書 Chapter8
6	計算するデジタル回路	アナログとデジタル、2進数とは、論理回路入門	第6回課題 約1時間 教科書 Chapter9
7	コンピュータの世界	コンピュータのしくみ、パソコンの内部構造、スーパーコンピュータ	第7回課題 約1時間 教科書 Chapter10
8	家電製品を制御するマイコン	マイコンとは、家電製品に組み込まれたマイコン、プログラミングの基礎	第8回課題 約1時間 教科書 Chapter11
9	画像処理	3原色と画像の表現・表示、画像処理の基礎技術入門	第9回課題 約1時間 教科書 Chapter12
10	人工知能	人工知能の歴史、深層学習の発展とその実社会応用	第10回課題 約1時間
11	電波と放送	電波と応用分野、変調と復調、衛星放送からデジタル放送へ	第11回課題 約1時間 教科書 Chapter13
12	通信機器の発展	電気通信の歴史、携帯電話、通信のこれから	第12回課題 約1時間 教科書 Chapter14
13	インターネットのつながり方	インターネットのしくみ、歴史、接続方法、危険性	第13回課題 約1時間 教科書 Chapter15
14	研究室紹介 1	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(6つの研究室)	第14回レポート 約2時間
15	研究室紹介 2	・研究室紹介(資料配信型)を視聴する(5つの研究室)	第15回レポート 約2時間

関連科目	各自の学科で並行して開設されている数学、物理系科目も履修しておくことが望ましい。
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	基礎から学ぶ電気電子・情報通信工学	田口俊弘, 堀内利一, 鹿間信介	講談社
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	授業では課題とレポートがある。課題の点数によって各講義回の評価点を付ける。各講義の評価点 13 回とレポート 2 回の点数で総合し、本講義の成績とする。評価点の合計を 90%、レポートの評価点を 10% とする。ただし、課題とレポート提出率 80% 以上を成績評価の対象とする。
-----------	---

学生へのメッセージ	身の回りの電気製品と情報技術は日々進化しています。これらを便利な道具として使うだけでなく、そのしくみを知って使うことでさらに活用することができます。そういったしくみに興味を持って受講して下さい。
-----------	---

担当者の研究室等	1号館4階および5階の電気電子工学科教員室 授業担当責任者 井上雅彦教授室(1号館4階)
備考	課題提供はMoodle上で行い、課題&レポート提出はすべてMoodle上で行う。 課題&レポートには提出期日がある。 期日までの課題&レポートの提出をもって出席とする。 課題&レポートの結果はMoodle上で個別に通知する。

科目名	科学技術教養V	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy V
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	湯浅 恵造, 青笹 治, 井尻 貴之, 居場 嘉教, 大橋 貴生, 尾山 廣, 見坂 武彦, 島田 幸祐, 瀬溝 人生, 中嶋 義隆, 長田 武, 西村 仁, 西矢 芳昭, 船越 英資, 松尾 康光, 宮崎 裕明
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TNA3420a1		

授業概要・目的	本講義では、病気・くすりの発見や原因解明の歴史、微生物の単離・殺菌技術や化粧品の開発、バイオエネルギー生産などのバイオテクノロジー、環境リスクがヒトに与える影響の評価など、生命科学の分野における最新の研究事例を取り上げ、幅広く解説する。また、製薬企業や化学メーカーで商品開発等に実務経験を有する教員が、その経験を活かしてバイオテクノロジー応用、薬剤開発に関する教育も行う。
到達目標	(1) 病気・くすり、醗酵・腐敗の歴史、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品などに関する知識を習得し、新聞やテレビのニュースを理解できるようになる。 (2) 病気の原因解明や治療法・くすりの開発における生命科学の意義を理解できるようになる。
授業方法と留意点	一話完結型のオムニバス形式で講義を行い、配付する資料とパワーポイントなどを用いて解説する。講義ごとに講義メモの提出を求める。その他、レポート・小論文・演習問題などの課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	生命科学に関するニュースがより身近になり、遺伝子組換え技術などのバイオテクノロジーと、我々のくらしや健康との関わりが理解できる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	病気と遺伝子 (船越)	我々が持つDNAは日常生活で頻繁に「傷(変異)」を受けている。しかしながら、ヒトの体内には傷を発見して治療する安全システムが備わっており、「がん」を未然に防いでいる。本講義では、がんの発症に密接に関わる「遺伝子の傷」と体を守る安全システムの仕組みについて概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
3	認知症～その原因と治療法 (宮崎)	我が国は超高齢化社会へと進行し続け、2025年には高齢者の5人に1人が認知症患者になると推定されている。そのため、認知症の発症率の低下や進行抑制のための有効な手立が見つからなければ、社会的な負担が著しく増加すると懸念されている。認知症の原因や治療薬の開発など最新の知見を踏まえて解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
4	免疫が引き起こす病気のしくみ (尾山)	外敵や内なる敵から自らを守るためにつくられた免疫システムの概要と、がん、ウイルス感染(インフルエンザ、HIV、肝炎)、アレルギー疾患などとの関連について紹介する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
5	薬物乱用と依存性薬物 (居場)	社会のルールからはずれた方法や目的で、薬物を使うことを薬物乱用という。薬物依存性という、その人の性格や人格の問題と思われがちであるが、脳内報酬系の異常という生物学的基盤があることを理解する必要がある。本講義では、薬物依存の形成機構および各種の依存性薬物について説明する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
6	ミトコンドリアと病気 (井尻)	太古の昔にヒトの細胞に侵入した細菌が由来のミトコンドリアであるが、我々の生と死はそのミトコンドリアに支配されている。本講義では、ミトコンドリアの特徴、役割およびミトコンドリアに関連した病気について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
7	くすりとタンパク質のかたち (中嶋)	タンパク質構造決定の意義と構造決定法のひとつであるX線結晶構造解析の概要から、インフルエンザ治療薬を例に医薬品開発への応用について述べる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
8	機能性糖質 (大橋)	食品や産業などに利用されている機能性の糖質の具体例を紹介し、人の健康や産業にとってどのような機能性があるのかを解説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
9	不妊のしくみ (西村)	日本人夫婦(カップル)は10組のうち1組は不妊と言われており、実際に治療を受けている人が多い。しかし、なぜ不妊になるのかははっきりしない場合も多い。本講義では受精の仕組みから考えられる不妊の原因と現在の治療法について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
10	化粧品とバイオテクノロジー	バイオテクノロジーを化粧品開発に応	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義

		ー (西矢)	用した事例を紹介し、実際の商品をとり上げてバイオテクノロジーのメリットを解説する。	後に配布資料を復習する (1時間)。
	11	エネルギーの創生と生物・環境に及ぼす影響およびバイオエネルギー技術 (松尾)	近年、エネルギーの枯渇化問題や生物とこれを取りまく環境との共生の問題を解決する新規エネルギーの創生が強く望まれている。また、21世紀に入り、エネルギー枯渇問題、環境負荷低減の要請から、生物の持つエネルギーを新しい代替エネルギーとして利用する試みが急速に発展している。本講義では、これまでに使用されてきたエネルギーから最先端のエネルギーまでの特徴を、生物と環境へ及ぼす影響といった観点から、また、バイオエネルギーの概要から最先端のバイオエネルギー技術まで、現在のエネルギーとの比較や生態系・環境との共生の立場	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	12	機能性食品などの新しい食品の形態 (青笹)	食品の一次機能(栄養素)、二次機能(味、触感など)および三次機能(生体機能の調節などの新規機能)について解説し、保健機能食品制度、特定保健用食品、栄養機能食品など新しい食品の形態を講述する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	13	担当: 新任教員、内容: 未定		予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	14	遺伝子組換え植物とその将来 (長田)	代表的な遺伝子組換え植物の創生方法について簡単に紹介し、世界における遺伝子組換え植物の実際、遺伝子組換え作物の環境への影響、また、日本における組換え作物の安全審査について説明する。さらに、遺伝子組換え賛成派と反対派の主な意見についても触れる。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。
	15	感染症とその予防 (見坂)	感染症をめぐる日本と外国の今日の問題、法令上の感染症の分類、病原体の管理、感染症の発生动向、予防接種について概説する。	予習としてテキストの該当する項目を熟読し、講義後に配布資料を復習する (1時間)。

関連科目

教科書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)

講義メモ 50%およびレポート・小論文・演習問題などの課題 50%の総合点で評価する。  
講義メモを含む課題未提出の場合は欠席1日とする。  
原則として出席率 80%以上の学生のみを成績評価の対象とする。

学生へのメッセージ

本講義では病気やくすりについて、遺伝子組換え技術、バイオエネルギー、機能性食品など、我々の健康と暮らしを支えている生命科学について、具体的な事例を取り上げ、分かりやすく解説します。本講義は生物・薬・エネルギー・環境を中心とした幅広い分野を含んでおり、各自の専門と関連する講義内容もあります。毎回レポート・課題があるので、毎回出席して各自の専門とのつながりを見つけ、幅広い教養を身につけてください。

担当者の研究室等

1号館8階 松尾、青笹、見坂、長田、大橋研究室  
1号館9階 尾山、西矢、西村、中嶋、宮崎、湯浅、船越、井尻、居場研究室

備考

欠席・遅刻の扱いは理工学部の規則に従って処理する (遅刻2回で欠席1回とみなす)。

科目名	科学技術教養 T	科目名 (英文)	Scientific and Technological Literacy T
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	東 武大, 小林 俊公, 友枝 恭子, 長島 健, 東谷 篤志
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TNA3426a1		

授業概要・目的	「情念や宗教」においては、時代を超えて人々に事物を伝えるために、「すごくたくさん」「山より大きい」といった抽象的な表現方法が用いられていた。「科学」によって数や式を発明したことで、誤解無く誰でも客観的に量や概念を伝えることに成功し、人類は大きく飛躍することが出来た。本講義では、科学技術を支える数学や物理学の内容を、時代背景を交えながら最新科学に至るまで講述する。数や形状を正確に記述するためのさまざまな手法を概観し、それが最新技術にどのように用いられているかを知る。 SDGs-9
到達目標	科学の歴史的な流れを、基礎的事項を踏まえながら説明できる。 科学という学問の背景にある考え方について、各自が意見を持つことができる。
授業方法と留意点	テキスト及び毎回の配布資料に基づく講義主体の授業とする。講義ごとに講義メモの提出を求めるとともに、レポート等の課題を課す。
科目学習の効果 (資格)	数学・物理の発展に関する幅広い知識を得て知見を広めることができる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
2	人類にとっての数(2)	「小数」、「無理数」、「ゼロの数」、「負の数」と数の世界は更に広がっていった。これらの歴史を当時の文化や考え方を交えながら紹介する。	教科書 1 章の予習復習 (1 時間)
3	人類にとっての数(3)	更に「実数」から「虚数」、「複素数」へと広がった数の世界。ガウス平面、オイラーの公式など「複素数」に関する先人たちの功績。また「複素数」の登場によって発展した科学について紹介する。	教科書 1 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
4	三角形から始める幾何学	ピタゴラスの定理や三角形の合同と相似、三角比について振り返ることから始め、それらを用いて、私達の身の回りのものを測ってみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
5	平行線の公理	高校までの幾何では扱われていない平行線の公理について、その内容と意義を紹介し、平面とは異なる世界はどのようなものか、想像してみる。	教科書 2 章の予習復習 (1 時間)
6	身近にある曲面	平行線の公理を検討することにより現れてきた、平面とは異なる曲面は結構身近にある。そのような曲面を通して、曲がっている世界を体験してもらう。	教科書 2 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
7	コペルニクス以前の天動説	惑星の運動の法則を考えるうえで、コペルニクス以前の天動説について概観する。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
8	コペルニクスの地動説	天動説から地動説へ、惑星運行の法則、実験で物理法則を実証する近代自然科学の萌芽を考える。	教科書 5 章の予習復習 (1 時間)
9	ガリレイの天文学	望遠鏡を発明した技術が自然観察である天体観測を精密化し宇宙を理解したい知的好奇心が科学革命を導く過程を考える。	教科書 5 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)
10	波の数理(音と光の基礎)	身近な「波」を表現するために、「振幅」、「波長」、「位相」という新たな概念を導入し、波の現象について紹介する。さらに、波の性質をもつ音波と光についても概観する。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
11	波としての光	光は粒子の性質と波の性質をあわせ持つ。しかし、この認識は科学者達の長年の研究と論争を経て得られたものである。本講では光が波であることの根拠を示す。そして写真やホログラフィーなどの、波の性質を利用した光の記録方法について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
12	電磁波	光は波である。弦を伝わる波は、弦の振れが大きいところと小さいところが繰り返して現れて波になっている。光が波ならば、いったい何の振動なのだろうか。マクスウェルは理論的に電磁波という波の存在を予言し、さらに光が電磁波の一種であることをつきとめた。本講では電磁波、そして光の正体について述べる。	教科書 3, 4 章の予習復習 (1 時間)
13	レーザー光	光を発するもの(光源)には様々なものがある。太陽は最も明るい光源である。人口の光源としては、電球、蛍光灯がある。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題 (1 時間)

			近年では省エネルギーな発光ダイオード(LED)が急速に普及している。本講では人が創り出した「最も高機能な光」を発生するレーザーについて、発振の原理及び応用について述べる。																	
	14	X線の発見から利用	X線の発見から発生の原理、さらにX線の利用について概観する。医療機器としてよく知られているレントゲンやX線CTがなぜ体内を見透かすことができるのかなどについても説明する。また、X線の欠点と安全性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習(1時間)																
	15	放射光と未来の光	科学技術の発展によりシンクロトロン放射光という次世代の光を生み出した。放射光の発生原理と科学等への利用を紹介する。さらに、近年の利用されてきている次世代の放射光である自由電子レーザーの特性についても簡単に紹介する。	教科書 3, 4 章の予習復習、レポート課題(1時間)																
関連科目	数学・物理の全科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)</td> <td>基礎理工学機構</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1	科学技術教養 I(教科書は初回講義時に配布)	基礎理工学機構																		
2																				
3																				
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																	
1																				
2																				
3																				
評価方法(基準)	講義メモ 45%、レポート 55%の総合点で評価する。																			
学生へのメッセージ	科学は現代社会で不可欠な学問の一つです。周囲を見渡せば、皆さんの生活が科学抜きには成立しないことがわかるでしょう。科学は近代になって急速に発展しましたが、古くから人々が自然現象や教に興味を持って考察を進めたことが基礎になっています。本講義で科学の歴史や重大な発見・発明の概要を学び、科学という学問をどう考えるか、さらに、これから科学や人間の活動はどう進んでいくべきか、各自で意見を持てるようになりましょう。																			
担当者の研究室等	担当教員の居室 [1号館2階(東谷), 5号館1階(友枝・小林・東), 8号館2階(長島)]																			
備考	遅刻・欠席の扱いは、理工学部専門科目の出席および遅刻・欠席と同じ扱いとする。事前事後学習は、毎回1時間以上かけること。講義メモは毎回採点して返却する。																			



科目名	設計演習Ⅲ	科目名 (英文)	Exercises in Architectural Planning and Drawing III
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	3	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	久富 敏明, 稲地 秀介, 川上 比奈子, 寒野 誠規, 榊 愛, 坂本 淳二, 中村 文紀, 樋口 祥明, 山田 義浩
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR3058a0		

授業概要・目的	学校などの地域施設的设计課題に取り組む。地域環境やコミュニティに視野をひろげ、企画のための調査、計画の組み立て作業を課題に取り入れて、構想力、計画力を養う。 SDGs-11
到達目標	住環境デザインの基礎として比較的大規模で複雑なプログラムの建築空間構成およびその図面表現ができる。
授業方法と留意点	少人数ごとに教員の指導を受け、案をつくりまとめていく。毎回のエスキースチェックを重視する。授業時間の延長がありうる。少人数のグループ指導に対して、履修人数の制限を行う場合がありますので、第1回授業の出席が必要になります(教務課の発行する欠席届を提出する場合は除く)。履修にあたっては、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱで学んだ設計製図に対する理解と作図、また空間設計演習で学んだBIM (ArchiCAD) の操作と大型プリンターの印刷ができることが必要です。また、BIMの操作を行うパソコン(ノート型が望ましい)を各自で準備してください。
科目学習の効果(資格)	1級建築士(2級建築士、木造建築士)の資格試験に関連する内容

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
1	ガイダンス及び設計課題の説明 第1課題:親水公園と環境建築の設計	設計演習Ⅲの目標、授業の進め方の説明。 第1課題の説明。	課題書を再読し理解を深める。敷地見学を行い、調査結果のレポートを作成する(1.5時間以上)
2	第1課題:親水公園と環境建築の設計	計画案作成、及びこれに関するグループディスカッション(敷地図・敷地調査レポート)	根拠も含めて計画案について説明する資料の作成(1.5時間以上)
3	第1課題:親水公園と環境建築の設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるように制作する(1.5時間以上)
4	第1課題:親水公園と環境建築の設計	中間提出とグループ講評(敷地配置図・平面図・断面図・スタディ模型)	中間提出後の修正案(図面・模型)を制作(1.5時間以上)
5	第1課題:親水公園と環境建築の設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	要求された図面・模型などの制作(1.5時間以上)
6	第1課題:親水公園と環境建築の設計 第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	第1課題の作品提出と講評会(敷地配置図・平面図・断面図・立面図・模型) 第2課題の説明	課題書を再読し理解を深める。敷地見学を行い、調査結果のレポートを作成する(1.5時間以上)
7	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	調査結果の報告とグループディスカッションおよびエスキース(敷地図・敷地調査レポート)	根拠も含めて計画案について説明する資料の作成(1.5時間以上)
8	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	根拠も含めて計画案について説明する資料の作成(1.5時間以上)
9	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるように制作する(1.5時間以上)
10	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	自分の考えをスケッチやスタディ模型で伝えられるように制作する(1.5時間以上)
11	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	中間提出とグループ講評(敷地配置図・平面図・断面図・スタディ模型)	中間提出後の修正案(図面・模型)を制作(1.5時間以上)
12	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	要求された図面・模型などの制作(1.5時間以上)
13	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	エスキース(平面図・断面図・スタディ模型)	要求された図面・模型などの制作(1.5時間以上)
14	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	作品提出(敷地配置図・平面図・断面図・立面図・ダイアグラム・パース・模型)	提出後の指摘事項について修正案を作成する。講評会発表の資料作成(1.5時間)
15	第2課題:まちのコミュニティスクールの設計	講評会(敷地配置図・平面図・断面図・立面図・ダイアグラム・パース・模型)	事前準備として発表用資料を作成すること(1.5時間以上)。講評会のレポートを作成し提出する(0.5時間程度)

関連科目	建築デザイン論(旧カリ:建築空間論)、建築計画学、図形科学、基礎設計演習、設計演習Ⅰ、設計演習Ⅱ、空間表現演習Ⅰ、空間表現演習Ⅱ、プロダクトデザイン演習、インテリアデザイン演習など
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	第4版 コンパクト建築設計資料集成	日本建築学会 編	丸善
2	ステップ・バイ・ステップ	川北、花田、三上、倉知、水島	彰国社	
3	初めての建築製図	“建築のテキスト”編集委員会	学芸出版社	

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	建築概論	本多友常、他	学芸出版社
2	改訂 図説やさしい建築計画	深水浩	学芸出版社	
3				

評価方法(基準)	提出物60%、日常の実習に対する取組み40% 提出物については、2つある課題の両方とも課題書に記載された全ての提出物を提出期限までに提出完了することが必要です。いずれかのひとつの課題のみの提出では合格にはなりません。出席については教務課が発行する欠席届を提出できる場合を除いて全回出席が必要です。 パース、ダイアグラム(アクソメ図)、模型の完成か未完成かの評価は難しいですが、担当教員の判断によることを了解した上で履修すること。
----------	--

学生へのメッセージ	毎回のエスキース、スケッチブックのチェックを実施し、授業はじめと終わりに押印する。 スケッチブックを準備すること。
担当者の研究室等	12号館6階 坂本教授室 12号館7階 稲地准教授室、榑准教授室、久富教授室、川上教授室、樋口教授室
備考	2つの課題ごとにグループ指導教員以外の広い視野からの批評を受けるために複数の教員参加の講評会を行う。 演習に係る予復習は、毎回3時間以上とする。 課題内容により、敷地周辺調査のための学外視察や招聘講師による講評会、学外講評階などを実施する場合がある。

科目名	住環境マネジメント	科目名 (英文)	Housing management
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	前期	授業担当者	山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	F⑩		
科目ナンバリング	TDR3030a0		

授業概要・目的	住まいと住まいを取り巻く環境について、環境負荷の低減化を図りつつ、安全で快適な住生活を長期的に持続させるためには、適切な維持管理と更新・再生行為が不可欠となる。特に集合住宅および住宅地は我が国の重要な住宅ストックであり、適切に維持管理し建物の資産価値及び居住性を向上させることは重要な課題である。本授業では、単体としての住宅にとどまらず、複数の住宅により構成される集合住宅および住宅地について、マネジメント（運営管理）とメンテナンス（維持管理）の両面から、法制度や施策、管理実態、管理方法、そこから導かれる課題と対応策について学ぶ。
到達目標	・住戸とその周りの空間について、建築物としての特徴を理解した上で、所有・利用をめぐる法制度や維持管理の手法について、また生活・運営上の工夫についての基礎知識を身につける。 ・マンションや団地、住宅地の再生について問題解決のための計画技術などについての基礎的知識を習得する。
授業方法と留意点	・パワーポイント、資料プリント等を用いて講義を行う。 ・講義の途中回で、集合住宅の大規模修繕工事の見学等の体験型授業を行う。 ・毎回授業中に小テストを実施し、事前学習で課した課題取組状況と、前回までの授業の理解度を確認する。
科目学習の効果 (資格)	一級建築士、二級建築士、マンション管理士、宅地建物取引士

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	住環境マネジメントの理念・意義 住まいとまちの仕組みを知る (1) 住宅の現状と課題	授業概要、住環境マネジメントの理念・意義、住宅の数と種類・権利・質・価格、住宅の供給と流通・金融の仕組み現在の課題	事前:シラバスを読んで内容を確認する(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
2	住まいとまちの仕組みを知る (2) 集合住宅の歴史と現状	日本における集合住宅の歴史、年代ごとの特徴的な事例、現状、現在の課題	事前:同潤会アパートについて調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
3	住まいとまちの仕組みを知る (3) 都市の現状と課題	密集市街地の現状と課題・対策、オールドニュータウンの現状と課題・対策、コミュニティの希薄化	事前:オールドニュータウンについて調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
4	住まいとまちのマネジメントを実践する(1) 住まいの購入・賃貸借	住宅選びの過程と情報、購入の契約、契約の解除と瑕疵担保、賃貸住宅の種類と当事者、賃貸人・賃借人の義務、様々な賃貸方式	事前:不動産チラシ等で住んでみたい家を探す(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
5	住まいとまちのマネジメントを実践する(2) 戸建て住宅の維持管理と売却・利活用	戸建て住宅の手入れ、維持管理の周期と方法、売却・リバースモーゲージ等の資産活用の方法	事前:リバースモーゲージについて調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
6	住まいとまちのマネジメントを実践する(3) 分譲マンションの所有の仕組みと共同管理	マンションの所有形態、専有部分と共用部分、区分所有法と管理組合、管理運営組織の仕組み、管理費・修繕積立金、管理業務の委託	事前:マンションの専有部分と共用部分について調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
7	前半講義の総括と確認	前半講義の総括とチェックテスト【1】を実施する	事前:マンション標準管理規約について調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
8	住まいとまちのマネジメントを実践する(4) 分譲マンションの維持管理	計画修繕の概念と長期修繕計画、大規模修繕の内容・周期及び進め方、工事監理の事例	事前:大規模修繕の工事内容について調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
9	住環境マネジメントの体験授業	分譲マンションの大規模修繕工事見学、建物維持保全に係る研修施設見学、住宅地マネジメント事例見学等の体験授業	事前:見学先の概要について調べる(30分) 事後:体験内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
10	住まいとまちのマネジメントを実践する(5) 分譲マンションの再生手法	建替えのプロセスと決議の手続き、合意形成困難の要因、マンション建替え円滑化法、建替え事例、解消制度の概要と事例、リノベーション事例	事前:マンション建替え事例について調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
11	公的賃貸住宅のマネジメントと団地再生	公的賃貸住宅の管理システム、維持管理の進め方、更新・再生手法、今後の整備の方向性	事前:ライフサイクルコストについて調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
12	民間賃貸住宅のマネジメント	民間賃貸住宅の管理システム、維持管理の進め方、管理をめぐる法整備、原状回復などのトラブルと解決方法	事前:原状回復について調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
13	住宅地のマネジメント、空き家の利活用とまちづくり	エリアマネジメント・HOA等による住宅地マネジメントの仕組み、空き家問題と発生要因、空き家発生予防と利活用の取組み、まちの再生と活性化	事前:エリアマネジメントについて調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
14	住環境マネジメントを支える政策とマンパワー	長寿命化対策、中古住宅流通促進、マンション管理適正化等住まいのマネジメント施策、住環境マネジメントに関わる専門家	事前:自分が住む自治体の分譲マンション施策について調べる(30分) 事後:講義内容を確認・理解し、課題(小テスト)に取り組む(60分)
15	講義の総括と確認	講義の総括とチェックテスト【2】を実施する	事前:講義の資料を読んで、要点を整理・確認する(60分)

関連科目 住生活学、地域・都市計画学、コミュニティプランニング、福祉住環境学、サステイナブルデザイン演習

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ステップアップで学ぶマンション管理	齊藤広子	彰国社
	2	図解住居学6 住まいの管理	一棟宏子・平田陽子・齊藤広子・ 松原小夜子・馬場昌子・藤田忍・ 梶浦恒男	彰国社
	3			
評価方法 (基準)	日常の取り組み(小テスト等) 30%、チェックテスト【1】(マークシート・記述) 30点、チェックテスト【2】(マークシート・記述) 40%で、総合的に評価する。			
学生への メッセージ	今すでに存在する住まいや町をより暮らしやすく、将来にわたって大事にしたいと思える場所にするためにはどうすれば良いかを学ぶ授業です。フィールドは近くにあります。皆さんが住む町や通学途中で見かける集合住宅、住宅団地など、身近な住まいや住環境を観察してみてください。良い所や魅力を発見すると同時に、気になる所、困りごとがありそうな所も探してください。それが学びの第一歩になります。			
担当者の 研究室等	1 2号館 7階 山根講師室			
備考	講義に係る予復習は、毎回 1.5 時間程度を目安とする。 小テストは毎回返却するので復習に活用すること。			

科目名	商業科教育法	科目名(英文)	Business Education Method
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	澤井 宏幸
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	<p>前期は、高等学校の商業教育全般についての理論・制度・実践を学びます。中心的なテーマのひとつは、高等学校教育の多様性と商業高校の教育課程の特徴について理解すること。いまひとつは、現代の経済社会が求めている職業能力や経営リテラシーを明らかにし、それを獲得するためのビジネス教育の内容や方法について理解することです。</p> <p>後期は、受講生全員が学習指導案を作成した上で模擬授業を行います。模擬授業において生徒役の学生は授業を受けながら、同時に評価者として評価シートを記入し、授業終了後、履修者全員で良かった点と改善すべき点を合評することによって、授業展開の適否について考えます。この過程を通じて、授業者は教育実習の心構えや資質・能力が形成されるとともに、生徒役の学生は授業の観察眼を養い、自らの授業展開に役立てることが出来ます。</p>
到達目標	<p>①商業科教員としての基本的かつ幅広い知識を習得する。</p> <p>②学習指導計画の立案ならびに模擬授業を行い、実践的な能力を体得する。</p> <p>③ビジネス教育のあり方について考え、将来の方向性について理解を深める。</p>
授業方法と留意点	<p>前期は、商業教育の目的、商業教育の歴史、教育課程の変遷、現行学習指導要領における教科・科目の構造について学びます。</p> <p>後期は、高等学校学習指導要領に基づき、高等学校における商業教育について、その目的や内容、指導計画の作成、指導方法について理解を深め、実践力を身につけることによって、商業科教員としての資質を養います。</p>
科目学習の効果(資格)	<p>本講座は、高等学校教職員免許状「商業」を取得するための必修科目です。商業高校では、様々な分野の専門科目(ビジネス基礎・マーケティング・簿記・情報処理・総合実践など)を担当する可能性があり、そのための基本的な知識・技能を習得することが出来ます。</p>

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
2	学習指導要領の総則とカリキュラムデザイン	学習指導要領総則、教育課程について、特色ある教育課程とは	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
3	商業高校の課題と先進的商業高校の事例	商業高校が抱える課題と先進的な商業高校の事例について	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
4	経営学部・商学部の教育との接続	高大接続を受けて、経営学部・商学部は何を学ぶところか	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
5	経営リテラシーの構造的な理解	ビジネス教育と経営リテラシーについて	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
6	職業能力の育成と構成要素	学校教育の「生きる力」、大学での「基礎的職業能力」、社会人の「職業能力」とは	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
7	教科「商業」	学習指導要領、教科の分野構成と学習内容について	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
8	商業教育を支える研究団体	商業教育を支える研究団体と事業内容、資格取得と検定試験について	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
9	授業づくりの基礎(1)	教科書の内容の分析と活用	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
10	授業づくりの基礎(2)	教材開発・資料活用の着眼点と方法	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
11	授業づくりの基礎(3)	ICTを活用する教材づくり	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(180分)
12	学習指導案の作成と検討	カリキュラム・単元・指導計画の吟味と学習指導案の確認	〔事後〕 学習指導案の作成(240分)
13	学習指導案の作成と授業の実践(1)	指導案の作成の意義付けと授業後の検討	〔事後〕 学習指導案の作成(240分)
14	学習指導案の作成と授業の実践(2)	授業の展開での板書・説明と発問	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
15	前期のまとめ	前期の講義を振り返り、商業教育についてそれぞれのレポートを作成	
16	ガイダンス「模擬授業演習の進め方」	後期の授業の進め方及び模擬授業の進め方	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
17	総合的科目	「課題研究」「総合実践」の教育の進め方	〔事後〕 課題レポートの作成(240分)
18	基礎的科目	基礎的科目の教育の進め方	〔事後〕「ビジネス基礎」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
19	基礎的科目	(1)「ビジネス基礎」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
20	ビジネス情報分野	ビジネス情報分野の教育の進め方	〔事後〕「情報処理」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
21	ビジネス情報分野	(1)「情報処理」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
22	会計分野	会計分野の教育の進め方	〔事後〕「簿記」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
23	会計分野	(1)「簿記」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
24	ビジネス経済分野	ビジネス経済分野の教育の進め方	〔事後〕「ビジネス法規」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
25	ビジネス経済分野	(1)「ビジネス法規」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
26	マーケティング分野	マーケティング分野の教育の進め方	〔事後〕「マーケティング」模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
27	マーケティング分野	(1)「マーケティング」の模擬授業 (2)評価表の作成	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)
28	4分野からの選択	ビジネス情報分野、会計分野、ビジネス経済分野、マーケティング分野から1分野を選択して模擬授業を行う準備	〔事後〕 模擬授業のための学習指導案の作成(240分)
29	4分野からの選択	(1)模擬授業	〔事後〕 ミニツペーパーの作成(200分)

		(2)評価表の作成																	
	30	後期のまとめ	商業科教育法を学んで感じたこと、及び自身が描く教員像について発表する 上記事後学習課題に要する時間も含め、総授業外学習時間は120時間である																
関連科目	大学の経営学部や経営情報学部で学ぶ専門科目は、商業科の専門科目として活かせる魅力があります。簿記、会計、原価計算、管理会計、情報処理、電子商取引、経営学、経済学、マーケティング、民法、会社法、ベンチャービジネス論など、幅広く履修しておくことが大切です。																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版</td> <td>文部科学省</td> <td>実教出版</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版	2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	高等学校学習指導要領解説 商業編 最新版	文部科学省	実教出版																
2																			
3																			
評価方法 (基準)	課題レポート・ミニツツペーパー50%、授業への参加度(学習意欲、事前学習、発表等)50%とし、総合的に判断して評価する。																		
学生への メッセージ	商業科教員採用試験では、日本商工会議所簿記検定2級程度の問題が出題されるので、在学中の取得を目指して欲しい。また、新聞やインターネットの政治・経済や教育に関する記事を日頃から読み、社会の変化に興味・関心を持ち、幅広いビジネスに関する知識を有する商業科教員を目指そう。																		
担当者の 研究室等	全学教育機構																		
備考	質問等はメール等で対応する。																		

科目名	情報科教育法	科目名 (英文)	Instruction Method for Information and Communication Science
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	3年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年	授業担当者	小林 正樹
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	高等学校普通教科「情報」の教員免許を取得するために必修となる講義である。「情報科」成立の経緯および教科内容について理解し、情報教育のあり方について、学習目標、指導方法、評価方法などの視点から考え、担当教員に必要な基礎的知識や資質を養う。また、指導案の作成、模擬授業の実施を通して、授業を展開できる能力を身につけることを目指す。
到達目標	教科「情報」の教育目標や位置づけについて知り、教員に求められる幅広い知識を身につけるとともに教育指導技術の向上を図る。また、教科「情報」の授業を行う上で必要となる技能について、授業研究、教材設計、指導計画の作成を通して身につける。さらに、ディスカッションや模擬授業などを通して、実践的な指導方法を修得する。
授業方法と留意点	テキストおよび配付資料を中心に、スライドを使って説明を行う。教員免許に関する科目であり、意見交換を行いながら学習指導案、学習教材などを作成するため、主体的・積極的な受講を求める。なお受講生の状況により、弱点を徹底的に補うため、進捗の変更を行うことがあることを留意されたし。
科目学習の効果 (資格)	教科「情報」の免許科目 【免許法施行規則に定める科目区分】 科目区分：教科及び教科の指導法に関する科目 各科目に含めることが必要な事項：各教科の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	イントロダクション	授業の進め方、情報技術の進展と情報教育の役割	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
2	情報教育の意義と役割	情報教育の実践と教育の情報化、共通教科情報科と専門教科情報科について	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
3	共通教科情報科の構成	共通必修科目「情報Ⅰ」と選択科目「情報Ⅱ」の内容構成	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
4	共通必修科目「情報Ⅰ」の内容	「情報Ⅰ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
5	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (1)	情報社会の問題解決の学習内容	情報社会の問題解決について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
6	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (2)	コミュニケーションと情報デザインの学習内容	コミュニケーションと情報デザインについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
7	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (3)	コンピュータとプログラミングの学習内容	コンピュータとプログラミングについて調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
8	共通必修科目「情報Ⅰ」の学習内容 (4)	情報通信ネットワークとデータの活用の学習内容	情報通信ネットワークとデータの活用について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
9	情報教育の指導方法 (1)	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化	年間指導計画書の作成、学習目標の明確化についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
10	情報教育の指導方法 (2)	課題分析の方法、進め方	課題分析の方法についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
11	情報教育の指導方法 (3)	評価の目的と対象、評価対象の具体化	評価の目的と対象についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
12	情報教育の指導方法 (4)	学習課題に応じた評価方法の種類と特徴	学習課題に応じた評価方法についてまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
13	模擬授業：情報Ⅰ (1)	学習目標の明確化、学習指導案の書き方	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)
14	模擬授業：情報Ⅰ (2)	教材研究の方法、授業分析	模擬授業の準備をする (150分) 教材研究、授業分析を行う (90分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (60分)
15	前期のまとめと学力診断テスト	前半の振り返り、確認テストと解説	前半の内容を整理する (180分)
16	選択科目「情報Ⅱ」の内容	「情報Ⅱ」で何を学ぶか、教育方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (150分) 次回の内容を確認する (90分)
17	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容 (1)	情報社会の進展と情報技術の学習内容	情報社会の進展と情報技術について調べまとめる (150分) 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく (90分)

	18	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（2）	コミュニケーションとコンテンツの学習内容	コミュニケーションとコンテンツについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	19	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（3）	情報とデータサイエンスの学習内容	情報とデータサイエンスについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	20	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（4）	情報システムとプログラミングの学習内容	情報システムとプログラミングについて調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	21	選択科目「情報Ⅱ」の学習内容（5）	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求の学習内容	情報と情報技術を活用した問題発見・解決の探求について調べまとめる（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	22	模擬授業：情報Ⅱ（1）	学習目標の明確化、学習指導案の作成	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	23	模擬授業：情報Ⅱ（2）	教材研究、授業分析	模擬授業の準備をする（150分） 教材研究、授業分析を行う（90分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（60分）
	24	模擬授業の展開（1）	学習目標の明確化、学習指導案の作成、教材研究	学習目標の明確化、学習指導案の作成をする（150分） 教材研究を行う（90分）
	25	模擬授業の展開（2）	相互評価、模擬授業の振り返り	模擬授業の振り返りをする（150分） 配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（90分）
	26	専門教科情報科の構成	専門教科情報科の内容構成、教育方法、共通教科情報科との差異	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	27	魅力ある授業の展開（1）	学習意欲を高める方法、内発的動機付けと外発的動機付け	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	28	魅力ある授業の展開（2）	学習者の協同と活動、ワークショップとプロジェクト学習	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	29	魅力ある授業の展開（3）	ICT 活用の実際、授業の記録・分析の方法	配付資料および教科書の該当箇所を読んでおく（150分） 次回の内容を確認する（90分）
	30	全体のまとめと学力診断テスト	全体の振り返り、確認テストと解説、これからの教師に求められる授業力	後半の内容を整理する（180分）
関連科目	情報関連科目全般			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	情 I 706 図説情報 I	監修：渡辺美智子	実教出版
	2	情 I 706 図説情報 I 学習ノート	実教出版編集部	実教出版
	3	高等学校学習指導要領（平成30年告示）解説 情報編	文部科学省	開隆堂出版
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	ICT 活用指導力アップ！教育の情報化-教員になるための情報教育入門-	監修：梅田恭子、齋藤ひとみ	実教出版
	2			
	3			
評価方法（基準）	学習指導案などの成果物等（50%）、学力診断テスト（40%）、授業への取組姿勢（10%）をもとに総合的に評価演習が中心となるため、継続的な授業への出席が必要です。			
学生へのメッセージ	学習者に対して授業を行うためには、周到な準備が必要になります。目的意識を持ち積極的に授業に出席して下さい。			
担当者の研究室等	11号館8階（小林研究室）			
備考	必要に応じて資料を配布します。			



科目名	職業指導	科目名 (英文)	Vocational Guidance
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	4	履修区分	必修科目
学期	通年	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー (DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	職業教育や進路指導においては、職業構造や職種・業種内容について学んだり資格取得や技能訓練などを促進したりするばかりでなく、社会や産業構造の変化の中で自分はいかに生きていくかという「生き方の設計」について学ぶことが重要です。本科目を通して学生は、キャリア教育の理論と実践について理解を深めるとともに、経済社会・産業界の変化と職業指導に与える影響などについて知見を広め、「生き方の設計」の指導者としての資質能力の基礎を身につけます。
到達目標	職業教育の理論、面談する際の技法への理解を深めることを講義の目標とします。
授業方法と留意点	講義と受講生による報告・討議を織り交ぜて進めます。 講義では都度課題を提示し、その内容を元に受講者間で話し合いを行って頂きます。 尚、遅刻等は厳禁です。
科目学習の効果 (資格)	工業科における職業指導に関する基礎知識が身に付く

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	オリエンテーション	・ 授業概要の説明、職業の定義、職業指導の概念整理	事前学習:本科目のシラバスを熟読すること(1時間)。 事後学習:年間の学びの計画を立てること(3時間)
2	職業指導の基礎理論	・ 職業指導における基本的な考え方、手法	事前学習:職業指導及びキャリアの基礎理論について調べておくこと(2時間) 事後学習:職業指導に関する資料を熟読すること(2時間)。
3	職業指導の歴史①	・ アメリカ・ヨーロッパを中心に職業指導の経緯を知る	事前学習:欧米の職業指導に関して調査すること(3時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(1時間)
4	日本の産業構造の変化	・ 日本の産業、雇用事情の変化を知る	事前学習:日本の産業の変遷について市調べておくこと(3時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
5	職業指導の歴史②	・ 日本の戦後の教育改革について	事前学習:日本の戦後の教育改革について調べておくこと(2時間)。 事後学習:配布資料を熟読し、講義内容を振り返ること(2時間)
6	日本型雇用と職業指導	・ 日本における雇用システムの変容と職業指導の関わり	事前学習:日本型雇用について発表資料を作成すること(3時間)。 事後学習:発表及びディスカッションの内容を振り返ること(1時間)
7	新規高卒就職システム	・ 新規高卒労働市場の変容と現状	事前学習:高卒労働市場に関して調べておくこと(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
8	高等学校における職業指導	・ 各種学校における職業指導の在り方について	事前学習:高校の職業指導の事例について調査・発表資料を作成すること(3時間) 事後学習:講義内容を振り返ること(1時間)
9	「労働すること」を考える	・ 仕事をすることの意義を考える	事前学習:仕事をする意味について意見をまとめておくこと(2時間) 事後学習:自らの労働観について考えること(2時間)。
10	職業指導の領域	・ 学校、家庭、地域コミュニティ、公的機関等職業指導がなされる「場」について考える	事前学習:職業指導領域に関する資料を事前に熟読すること(2時間)。 事後学習:講義内容を振り返ること(2時間)
11	キャリア教育の基礎理論①	・ キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:自己について考えておくこと(2時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(2時間)。
12	キャリア教育の基礎理論②	・ キャリアデザインにおける基礎理論を知る	事前学習:児童・生徒の発達について考えておくこと(3時間) 事後学習:キャリアデザイン理論についての資料を熟読すること(1時間)。
13	授業内容立案	・ 高校生向けの職業指導・キャリア教育に関する授業内容を立案する	事前学習:高校でのキャリア教育の事例について調べておくこと(1時間) 事後学習:模擬授業の準備をすること(3時間)。
14	模擬授業①	・ 講義13で立案した内容で模擬授業を実施	事前学習:模擬授業の準備をすること(2時間)。 事後学習:他者及び自らの発表内容を振り返ること(2時間)
15	講義の振り返り	・ 講義の振り返り、前期の中間レポートの提出	事前学習:前期のレポートを作成すること(3時間)。 事後学習:講義全体を振り返ること(1時間)
16	オリエンテーション	・ 後期授業概要の説明	事前学習:本科目のシラバスを再度熟読すること(1時間)。 事後学習:後期の学習計画を立てること(3時間)
17	商業教育と職業指導	・ 商業高校における職業指導について	事前学習:商業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
18	工業教育と職業指導	・ 工業高校における職業指導について	事前学習:工業高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)
19	普通科高校と職業指導	・ 普通科高校における職業指導について	事前学習:普通科高校の職業指導事例に関する調査すること(2時間)。 事後学習:講義の内容を振り返ること(2時間)

	20	フリーターとニートについて	・グループ（またはペア）でフリーター・ニート対策を考える	事前学習：フリーター・ニート問題に関して調査し、ディスカッションできるよう準備すること（2時間）。 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	21	職業指導・キャリア教育の実例	・地方も含めた職業指導の事例紹介	事前学習：発表の準備をすること（2時間）。 事後学習：他者及び自らの発表の内容を振り返ること（2時間）
	22	キャリアデザインとは何か	・キャリアデザインとは何かを考える	事前学習：自らの人生の節目について考えること（2時間）。 事前学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	23	高校生の就業力について 職業適性とは何か	・新規高卒者が求められる就業力について ・職業適性、各種アセスメントについて	事前学習：大卒と高卒の就職システムの違いについて調査すること（2時間） 事後学習：自らの適性の活かし方を考えること（2時間）
	24	人権教育としての職業指導	・職業指導の国際基準、ハンディキャップがある生徒への職業指導	事前学習：ILOの提唱する「人間らしい働き方」について調査すること（2時間） 事後学習：配布資料を精読すること（2時間）
	25	未来の働き方を考える	・日本の課題、それにより想像される未来における働き方を考える	事前学習：AIによる仕事の代替可能性について調査すること（2時間） 事後学習：講義内容を振り返ること（2時間）
	26	就業力向上企画を立案①	・高校生の就業力向上のための企画・授業を考える	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	27	就業力向上企画を立案②	・26回目で考えた内容を発表する	事前学習：発表の準備をすること（3時間）。 事後学習：他者及び自らの発表内容を振り返ること（1時間）
	28	キャリアカウンセリング理論①	・自己概念・環境との相互作用・学習理論からのアプローチ	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（2時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（1時間）
	29	キャリアカウンセリング理論②	・カウンセリングマインドを知る	事前学習：キャリアカウンセリングとは何かについて調べておくこと（1時間） 事後学習：講義の内容について振り返ること（2時間）
	30	まとめ/講義の振り返り	・提出物の確認、授業内容に関する質疑応答	事前学習：期末レポートを作成すること（4時間）。 事後学習：講義全体を振り返ること（2時間）
関連科目	教職科目全般。特に「生徒指導論」に関連する事柄を含みます。また「特別活動論」にも近接します。			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	講義内での課題、提出物、レポート、授業への積極的参加、レポートの提出状況およびその内容も加味して、成績を判定します。 平常点(30%)、授業課題(10%)、中間レポート(30%)、期末レポート(30%)			
学生への メッセージ	「職業指導」について学ぶとともに、自らの勤労観・職業観を養い、経済社会・産業界の状況に対応して自らの進路を切り開いていってください。特に後期は就職活動と並行しての受講となるので、自らの経験と照らし合わせながら、高校生に対する指導について考えてみてください。 なお、講義は担当者の人材業界での業務・及び起業経験に基づいたお話も交えて進行します。			
担当者の 研究室等 備考	水野講師室（7号館3階）			

科目名	基礎数学演習	科目名 (英文)	Exercises in Basic Mathematics
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	東 武大
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1001a0		

授業概要・目的	この講義は微積分学への準備となるように意図されている。微積分の講義では説明が省略されるか簡単に済まされるものに対して詳しい説明と演習を行う。微積分学は瞬間の変化を記述し、微小なものを足し合わせる方法を教えている。その動機付けとなるような問題も扱いたいと思っている。そのため物理からの簡単な応用問題も取り上げたいと思っている。
到達目標	主な目標は (1) 種々の量を文字式で表現できる。 (2) 初等関数の性質を利用した計算ができる。 (3) 平行移動、対称移動を利用して関数のグラフが描ける。
授業方法と留意点	各単元の内容の演習を演習教材(ワークブック)を用いて次のサイクルで実施する： (1) 授業で指定された演習問題に解答し、 (2) 教員の評価を受けること。正解するまでやり直し、 (3) その単元の全問題に正答したことの認定を教員から受ける。
科目学習の効果 (資格)	微積分、線形代数のための基礎を身につけて、専門科目で用いられる数式理解に役立てる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
1	整数・有理数・無理数	・オリエンテーション ・整数・有理数・無理数の諸性質	演習テキスト 第 1.1~1.4 章	レポート課題
2	複素数・無理数	・複素数の四則演算	演習テキスト 第 1.5~1.6 章	レポート課題
3	複素平面と極形式	・複素数の極形式表示	演習テキスト 第 1.7 章	レポート課題
4	文字式	・文字式の展開・因数分解	演習テキスト 第 2.1~2.3 章	レポート課題
5	2次方程式	・解の公式等による2次方程式の解法	演習テキスト 第 2.4 章	レポート課題
6	高次方程式	・因数定理を用いた高次方程式の解法	演習テキスト 第 2.4 章	レポート課題
7	1次関数(1)	・直線の式、直交条件	演習テキスト 第 3.1 章	レポート課題
8	1次関数(2)	・1次関数の応用	演習テキスト 第 3.1 章	レポート課題
9	2次関数	・グラフ	演習テキスト 第 3.2 章	レポート課題
10	無理関数	・グラフ	演習テキスト 第 3.2 章	レポート課題
11	分数式	・計算・部分分数分解	演習テキスト 第 4.1~4.2 章	レポート課題
12	分数式	・グラフ	演習テキスト 第 4.2 章	レポート課題
13	三角比(1)	・一般角、三平方の定理とその応用	演習テキスト 第 5.1 章	レポート課題
14	三角比(2)	・三角関数の定義、グラフ	演習テキスト 第 5.2 章	レポート課題
15	三角比(3)	・三角比の計算、余弦定理	演習テキスト 第 5.2~5.3 章	レポート課題
16	絶対値(1)	・絶対値の基本的性質	演習テキスト 第 6.1 章	レポート課題
17	絶対値(2)	・絶対値付きの方程式の解法、グラフ	演習テキスト 第 6.2~6.3 章	レポート課題
18	指数関数(1)	・指数法則	演習テキスト 第 7.1 章	レポート課題
19	指数関数(2)	・指数関数のグラフ、方程式の解法	演習テキスト 第 7.1 章	レポート課題
20	対数関数(1)	・対数の定義、底の変換公式	演習テキスト 第 7.2 章	レポート課題
21	対数関数(2)	・対数関数を含む方程式	演習テキスト 第 7.2 章	レポート課題
22	対数関数(3)	・対数関数のグラフ	演習テキスト 第 7.2 章	レポート課題
23	三角関数(1)	・加法定理	演習テキスト 第 8.1 章	レポート課題
24	三角関数(2)	・加法定理を用いた計算問題	演習テキスト 第 8.1 章	レポート課題
25	三角関数(3)	・加法定理から導かれる種々の公式	演習テキスト 第 8.2 章	レポート課題
26	三角関数(4)	・加法定理を用いた三角関数のグラフの描き方	演習テキスト 第 8.3 章	レポート課題
27	数列	・等差数列、等比数列	演習テキスト 第 9.1~9.3 章	レポート課題
28	和の公式	・等差数列、等比数列の和、シグマ記号に慣れる	演習テキスト 第 9.2~9.4 章	レポート課題

	29	数学的帰納法	・数学的帰納法を用いた証明	演習テキスト 第9.5章 課題	レポート
	30	複素平面と極形式	・複素数の極形式	演習テキスト 第10章 レポート課題	
関連科目	数式を用いるすべての科目、特に微積分。				
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1	数学の基礎	摂南大学基礎理工学機構数学教室編		
	2	日々の演習	摂南大学基礎理工学機構数学教室編		
	3				
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名	
	1				
	2				
	3				
評価方法 (基準)	全単元の検印を受けて演習教材(ワークブック)を全問正解した者のみを成績評価の対象とする。 「演習・小テスト・演習教材(ワークブック)」で30%、「中間試験」35%、「期末試験」35%の割合で判定し評価する。				
学生への メッセージ	教科書の問題を自分で何度も解いて数式を扱う経験を十分に積むよう努力してください。演習は必ず自分で解く努力をし、わからないところは質問する、積極的な姿勢を望みます。				
担当者の 研究室等	5号館1階 数学研究室				
備考	事前事後学習には、各々毎回1.5時間以上かけること。 レポート課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。				

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	大久保 勇輔
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1002a0		

授業概要・目的	微積分学は、関数の変化を理解し分析するための学問である。例えば、物体の運動や電磁場の変化のような自然界の様々な現象は関数を用いて表現され、これらの現象を深く理解するためには微積分学が必要となる。物理学や工学をはじめとする多くの自然科学分野で、微積分学は重要な役割を果たしている。この講義では主に、初等関数（整式、有理関数、無理関数、三角関数、指数・対数関数など）の微分を扱う。その際、初等関数の基本的な性質についても復習しながら講義を進める。またテイラー展開を用いて複雑な関数を多項式によって近似する方法や、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	(1) 初等関数の微分を計算することができる。 (2) 積の微分法・商の微分法・合成関数の微分法などの微分公式を扱うことができる。 (3) 関数の挙動を調べ、グラフを描くことができる。 (4) マクローリン展開やテイラー展開を用いて、基本的な関数の冪級数展開を求めることができる。 (5) 基本的な関数の不定積分を行うことができる。 (6) 部分積分・置換積分などの積分公式を扱うことができる。
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し、課題・演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために、教科書や板書ノートなどを参考に予習復習も励行すること。課題の提出や返却にはMoodleを利用する予定だが、コース名や登録キーについては初回の講義で説明する。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は微積分Ⅱを習得するのに引き継がれる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	講義資料の予習復習、第1章の問題
	2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	講義資料の予習復習、第1章の問題
	3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	講義資料の予習復習、第1章の問題
	4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	講義資料の予習復習、第1章の問題
	5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	講義資料の予習復習、第2章の問題
	6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	講義資料の予習復習、第2章の問題
	7	導関数の計算方法	・積、商の導関数	講義資料の予習復習、第2章の問題
	8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	講義資料の予習復習、第2章の問題
	9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	講義資料の予習復習、第2章の問題
	10	指数関数	・指数法則・ネイピア数 e・指数関数の定義	講義資料の予習復習、第3章の問題
	11	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	講義資料の予習復習、第3章の問題
	12	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	講義資料の予習復習、第3章の問題
	13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	講義資料の予習復習、第3章の問題
	14	三角関数	・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式	講義資料の予習復習、第4章の問題
	15	三角関数・逆三角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分	講義資料の予習復習、第4章の問題
	16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	講義資料の予習復習、第5章の問題
	17	高次導関数 (2)	・指数、対数、三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	講義資料の予習復習、第5章の問題
	18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	講義資料の予習復習、第6章の問題
	19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大、極小	講義資料の予習復習、第6章の問題
	20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	講義資料の予習復習、第6章の問題
	21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	講義資料の予習復習、第6章の問題
	22	関数の展開 (2)	・指数関数、三角関数、対数関数の展開・二項定理の一般化	講義資料の予習復習、第6章の問題
	23	原始関数 (1)	・微分の逆演算としての不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
	24	原始関数 (2)	・整式、有理式的不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
	25	原始関数 (3)	・三角関数の不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
	26	原始関数 (4)	・指数関数、対数関数の不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
	27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
	28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
	29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	講義資料の予習復習、第7章の問題
	30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	講義資料の予習復習、第7章の問題

関連科目	以下の科目の講義は微積分Ⅰの知識とスキルを前提にして授業が進められる。 微積分Ⅱ、工業数学Ⅰ、工業数学Ⅱ、統計学、代数学、幾何学Ⅱ、解析学、応用数学Ⅰ、応用数学Ⅱ 上記科目を受講する予定の学生は微積分Ⅰを履修すること。
------	---

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎 — 理工系学生に向けて — (ISBN:9784320110274)	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。(期末試験については COVID19 感染状況次第ではレポートへの変更も有り得る)			
学生への メッセージ	講義の時間以外にも予習・復習を行うことが重要です。積極的に講義に参加して、分からない点があれば気軽に質問してください。しっかりと基礎的な計算能力を身につけましょう。			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考	事前事後学習は毎回 1.5 時間以上かけること。 課題は、適宜講義中に解説する。			

科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	関 穰慶
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1002a0		

授業概要・目的	整式、有理式、無理関数、三角関数、指数・対数関数などの基本的な関数について、微分の計算法、テイラー展開の求め方、不定積分の計算法を習得する。
到達目標	(1) 基本的な関数の微分を行うことができる。 (2) 関数の挙動を調べ、グラフを描くことができる。 (3) 基本的な関数の不定積分を行うことができる。
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し、課題演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養、計算能力を身につけるために、予習復習を励行すること。
科目学習の効果 (資格)	本講義の内容は微積分 II を習得するのに引き継がれる。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第 1 章の問題
2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第 1 章の問題
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第 1 章の問題
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第 1 章の問題
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第 2 章の問題
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第 2 章の問題
7	導関数の計算法	・積、商の導関数	第 2 章の問題
8	合成関数の微分 高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第 2 章の問題
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第 2 章の問題
10	指数関数	・指数法則・ネイピア数 $e$ ・指数関数の定義	第 3 章の問題
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第 3 章の問題
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第 3 章の問題
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第 3 章の問題
14	三角関数	・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式	第 4 章の問題
15	三角関数・逆三角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分	第 4 章の問題
16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第 5 章の問題
17	高次導関数 (2)	・指数、対数、三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第 5 章の問題
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第 6 章の問題
19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大、極小	第 6 章の問題
20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第 6 章の問題
21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第 6 章の問題
22	関数の展開 (2)	・指数関数、三角関数、対数関数の展開・二項定理の一般化	第 6 章の問題
23	原始関数 (1)	・微分の逆演算としての不定積分	第 7 章の問題
24	原始関数 (2)	・整式、有理式的不定積分	第 7 章の問題
25	原始関数 (3)	・三角関数の不定積分	第 7 章の問題
26	原始関数 (4)	・指数関数、対数関数の不定積分	第 7 章の問題
27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第 7 章の問題
28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第 7 章の問題
29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第 7 章の問題
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第 7 章の問題

関連科目	以下の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められる。 微積分 II、工業数学 I、工業数学 II、代数学、幾何学 II、解析学、統計学 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること
------	---

番号	書籍名	著者名	出版社名
1	微積分基礎 — 理工系学生に向けて — (ISBN:9784320110274)	寺本恵昭	共立出版
2			
3			

番号	書籍名	著者名	出版社名
1			
2			
3			

評価方法 (基準)	課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。
学生への メッセージ	5号館1階に数学教員はいますので、数学、自然科学に関するどんな質問でも気軽に聞きに来て下さい。
担当者の 研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。



科目名	微積分 I	科目名 (英文)	Calculus I
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	荻茂 工将
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1002a0		

授業概要・目的	整式, 有理式, 無理関数, 三角, 指数, 対数関数などの基本的な関数について, 微分の計算法, テイラー展開の求め方, 不定積分の計算法を習得する。
到達目標	1) 基本的な関数の微分ができる。 2) 関数の挙動を求めグラフが描ける。 3) 基本的な関数の不定積分ができる。
授業方法と留意点	授業計画に挙げた内容を解説し, 課題演習で理解を深める。専門学科で必要とされる微積分の素養・計算能力を身につけるために, 予習復習を励行すること。
科目学習の効果 (資格)	次の科目の講義は微積分 I の知識とスキルを前提にして授業が進められます: 微積分 II, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 統計学(確率統計)。 上記科目を受講する予定の学生は微積分 I を履修すること。

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題	
			問	課題レポート
1	関数とそのグラフ (1)	・座標平面・点の表示・点の移動の表示	第 1 章の問	課題レポート
2	関数とそのグラフ (2)	・関数に関する用語・簡単な関数のグラフ	第 1 章の問	課題レポート
3	関数の極限	・実数の性質・極限の定義・極限の計算方法	第 1 章の問	課題レポート
4	関数の連続性	・連続性の定義・連続関数の性質	第 1 章の問	課題レポート
5	微分係数	・微分係数の定義・接線の方程式	第 2 章の問	課題レポート
6	導関数	・導関数の定義・導関数の求め方・整式の導関数	第 2 章の問	課題レポート
7	導関数の計算方法	・積, 商の導関数	第 2 章の問	課題レポート
8	合成関数の微分高次導関数	・合成の方法・合成関数の微分の計算	第 2 章の問	課題レポート
9	逆関数の微分	・逆関数の定義・逆関数の微分の計算	第 2 章の問	課題レポート
10	指数関数	・指数法則・ネピアの数 e・指数関数の定義	第 3 章の問	課題レポート
11	指数関数の微分	・ $x=0$ での微分係数・指数関数の微分	第 3 章の問	課題レポート
12	対数関数	・自然対数の定義・対数の性質	第 3 章の問	課題レポート
13	対数関数の微分	・ $x=1$ での微分係数・導関数の求め方・対数微分法	第 3 章の問	課題レポート
14	三角関数	・弧度法・三角関数の定義・諸性質と公式	第 4 章の問	課題レポート
15	三角関数・逆三角関数の微分	・ $\sin x$ の微分・三角関数の微分・逆三角関数の微分	第 4 章の問	課題レポート
16	高次導関数 (1)	・高次導関数の定義・多項式の高次導関数	第 5 章の問	課題レポート
17	高次導関数 (2)	・指数, 対数, 三角関数の高次導関数・ライプニッツの公式	第 5 章の問	課題レポート
18	平均値の定理	・ロルの定理・平均値の定理	第 6 章の問	課題レポート
19	関数の挙動 (1)	・関数の増減・極大, 極小	第 6 章の問	課題レポート
20	関数の挙動 (2)	・グラフの凹凸・変曲点	第 6 章の問	課題レポート
21	関数の展開 (1)	・テイラー展開・マクローリン展開	第 6 章の問	課題レポート
22	関数の展開 (2)	・指数関数, 三角関数, 対数関数の展開・2 項定理の一般化	第 6 章の問	課題レポート
23	原始関数 (1)	微分の逆演算としての不定積分	第 7 章の問	課題レポート
24	原始関数 (2)	・整式, 有理式的不定積分	第 7 章の問	課題レポート
25	原始関数 (3)	・三角関数の不定積分	第 7 章の問	課題レポート
26	原始関数 (4)	・指数関数, 対数関数の不定積分	第 7 章の問	課題レポート
27	不定積分の計算法 (1)	・置換積分	第 7 章の問	課題レポート
28	不定積分の計算法 (2)	・部分積分	第 7 章の問	課題レポート
29	不定積分の計算法 (3)	・分数関数の不定積分・無理関数の不定積分	第 7 章の問	課題レポート
30	不定積分の計算法 (4)	・初等関数の不定積分のまとめ	第 7 章の問	課題レポート

関連科目 微積分 II; 線形代数 I; II; 代数学; 幾何学 II; 解析学; 統計学(確率統計)

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
2				
3				

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
2				
3				

評価方法 (基準) 課題演習 40%、期末試験 60%で判定し評価する。

学生へのメッセージ	講義内容に関することはどんな事でも遠慮なく質問してください。一緒にがんばりましょう。
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	事前事後学習には、各々毎回1時間以上かけること。

科目名	微積分 II	科目名 (英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1 年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	後期	授業担当者	高尾 尚武
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1003a0		

授業概要・目的	1 変数関数の定積分, 及び多変数関数の微積分法の初歩について理解することを目的とします.
到達目標	(1) 定積分/広義積分の初歩を理解し, 簡単な計算ができる. (2) 偏微分の初歩を理解し, 非常に簡単な計算ができる. (3) 重積分の初歩を若干理解し, 非常に簡単な計算ができる.
授業方法と留意点	講義では, 厳密性は犠牲にして平易な内容のみを丁寧に解説します. 演習では計算練習を中心にしてもらいます.  受講者は授業内容を確実に自分のものとするよう心掛けてください. そのために, まずは授業に出席してください.
科目学習の効果 (資格)	微積分は理系の九九の様なものです. (本講義の内容は, 工業数学及び諸々の専門科目の習得に引き継がれます.)

回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
1	定積分の定義	・ 定積分の定義 ・ 定積分の性質	第 8 章の問題
2	簡単な定積分	・ 不定積分と定積分 ・ 基本的な関数の定積分	第 8 章の問題
3	定積分の計算法 (1)	・ 微積分の基本定理 ・ 不定積分と定積分	第 8 章の問題
4	定積分の計算法 (2)	・ 置換積分 ・ 部分積分	第 8 章の問題
5	定積分の計算法 (3)	・ 指数関数, 三角関数の定積分	第 8 章の問題
6	定積分の計算法 (4)	・ 有理関数, 無理関数の定積分	第 8 章の問題
7	・ ここまでの復習	・ ここまでの復習	第 8 章の問題
8	定積分の応用 (1)	・ 曲線が囲む面積の計算	第 8 章の問題
9	定積分の応用 (2)	・ 曲線の長さ	第 8 章の問題
10	定積分の応用 (3)	・ 体積の計算 ・ 回転体の体積	第 8 章の問題
11	広義積分 (1)	・ 広義積分	第 8 章の問題
12	広義積分 (2)	・ 広義積分の収束	第 8 章の問題
13	ここまでの復習	・ ここまでの復習	第 8 章の問題
14	ここまでの復習	・ ここまでの復習	第 8 章の問題
15	偏微分	・ 2 変数関数の例 ・ xy 平面内の領域と関数の定義域 ・ グラフとしての曲面 ・ グラフ上の曲線  ・ グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第 9 章の問題
16	偏微分	・ 偏微分可能性 ・ 全微分可能性 ・ 偏導関数	第 9 章の問題
17	合成関数の偏微分	連鎖律	第 9 章の問題
18	合成関数の偏微分	連鎖律	第 9 章の問題
19	テイラーの定理	2 変数のテイラーの定理	第 9 章の問題
20	テイラーの定理の応用	2 変数関数の極値問題	第 9 章の問題
21	重積分の定義 (1) 連鎖律の応用 (1)	重積分の定義	第 10 章の問題
22	重積分の定義 (2)	重積分の定義	第 10 章の問題
23	重積分の計算法 (1)	累次積分	第 10 章の問題
24	重積分の計算法 (2)	累次積分	第 10 章の問題
25	重積分の計算法 (3)	変数変換	第 10 章の問題
26	重積分の計算法 (4)	変数変換	第 10 章の問題
27	重積分の応用 (1)	曲面積	第 10 章の問題
28	重積分の応用 (2)	曲面積	第 10 章の問題
29	重積分の応用 (3)	体積	第 10 章の問題
30	重積分の応用 (4)	体積	第 10 章の問題

関連科目	以下の科目の講義は微積分 II の知識とスキルを前提にして授業が進められます: 工業数学 I, 工業数学 II, 統計学, 代数学, 幾何学 II, 解析学, 応用数学 I, 応用数学 II (ですから, 上記科目を受講する予定の学生は本講義を履修しておく方がよいでしょう.)
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			

	2			
	3			
評価方法 (基準)	平常点40%、期末試験60%で判定し評価します。但し諸状況次第では、期末試験をオンライン試験、レポート等の代替手段へ変更することも有り得ます。			
学生への メッセージ	<p>事前事後学習は必ず毎回1.5時間以上かけてください。</p> <p>分からない点があれば放置せず、質問してください。授業中や授業の前後は勿論、チャットやメールで質問していただいても構いません。</p> <p>また、5号館1階の数学教室と2号館2階のラーニングセンターには数学教員がいますので、(授業内容に限らず)数学/自然科学に関して質問があれば気軽にお越しください。</p>			
担当者の 研究室等	5号館1階			
備考	<p>初回の授業でより具体的な授業の内容や進め方、成績評価の方法、授業時間外学習についてお伝えします。</p> <p>また、教科書が合わないと思う場合、遠慮なくご相談ください。適当な参考書を一緒に探しましょう。</p> <p>尚、諸状況に応じてシラバスの内容は若干変更されることがあります。</p>			

科目名	微積分Ⅱ	科目名(英文)	Calculus II
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	安井 幸則
ディプロマポリシー(DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1003a0		

授業概要・目的	定積分の概念と計算法、広義積分の概念と計算法及び収束の判定法、2変数関数の偏微分の計算とそのグラフの把握極値問題の扱い方、重積分の概念と計算法、以上を説明する。
到達目標	基礎知識を身につけ、課題に対して定量的な解を求めることができる基礎的能力を有する： 1) 基本的な関数の積分ができる 2) 偏微分の計算ができる 3) 2変数関数の挙動がわかる 4) 重積分の計算ができる 5) 極値、体積、重心、慣性モーメントへの応用ができる。
授業方法と留意点	挙げた内容を具体的な計算例を中心にできるだけ平易に解説し、理解の程度を演習により確かめる。受講者はその厳選された平易な内容を実際に自分のものとするよう心掛けて頂きたい。各週の講義資料と確認テストをMoodleにアップします。それらで事前・事後学習を徹底させましょう。ただし状況によっては、Moodleを経由した「教材・課題提供型授業」でのオンライン授業で実施する場合もある。
科目学習の効果(資格)	2年生以降に学ぶ数学、物理学関連科目の基礎となる。これらの科目を履修予定の者はこの科目を履修しておくことが望まれる。

回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題	
			問	課題レポート
1	定積分の定義	・面積と定積分・定積分の定義・定積分の性質	第8章の問	課題レポート
2	簡単な定積分	・定数関数、1次、2次関数の定積分・不定積分と定積分・基本的な関数の定積分	第8章の問	課題レポート
3	定積分の計算法(1)	・微積分の基本定理・不定積分と定積分	第8章の問	課題レポート
4	定積分の応用(2)	・置換積分	第8章の問	課題レポート
5	定積分の応用(3)	・部分積分	第8章の問	課題レポート
6	定積分の応用(4)	・指数関数、3角関数の定積分	第8章の問	課題レポート
7	定積分の計算法(5)	・有理関数、無理関数の定積分	第8章の問	課題レポート
8	定積分の応用(1)	・曲線が囲む面積の計算	第8章の問	課題レポート
9	定積分の応用(2)	・体積の計算	第8章の問	課題レポート
10	定積分の応用(3)	・回転体の体積	第8章の問	課題レポート
11	定積分の応用(4)	・広義積分	第8章の問	課題レポート
12	2変数の関数(1)	・2変数関数の例・xy平面内の領域と関数の定義域	第9章の問	課題レポート
13	2変数関数のグラフ(1)	・グラフとしての曲面・グラフ上の曲線	第9章の問	課題レポート
14	2変数の関数(2)	・2変数関数の極限・2変数関数の連続性	第9章の問	課題レポート
15	2変数関数のグラフ(2)	・グラフ上の曲線の接線・接平面の導入	第9章の問	課題レポート
16	偏微分	・偏微分の定義	第9章の問	課題レポート
17	偏微分の計算(1)	・偏導関数の定義・偏導関数の計算法	第9章の問	課題レポート
18	偏微分の計算(2)	・偏微分可能性・全微分可能性	第9章の問	課題レポート
19	合成関数の偏微分	・2変数関数の合成と偏微分の計算	第9章の問	課題レポート
20	高次偏導関数(1)	・2次偏導関数の定義・偏微分の順序交換	第9章の問	課題レポート
21	高次偏導関数(2)	・合成の高次偏微分・偏微分作用素の表示	第9章の問	課題レポート
22	高次偏導関数(3)	・2変数のテイラー展開・マクローリン展開	第9章の問	課題レポート
23	偏微分の応用(1)	・2変数関数の極値問題	第9章の問	課題レポート
24	偏微分の応用(2)	・陰関数定理・条件付き極値問題	第9章の問	課題レポート
25	重積分の定義(1)	・体積と重積分・長方形領域上での重積分	第10章の問	課題レポート
26	重積分の定義(2)	・長方形上での逐次積分	第10章の問	課題レポート
27	重積分の計算法(1)	・曲線で囲まれた領域上での重積分	第10章の問	課題レポート
28	重積分の計算法(2)	・逐次積分への帰着	第10章の問	課題レポート
29	重積分の計算法(3)	・重積分と立体の体積	第10章の問	課題レポート
30	重積分の計算法(4)	・広義重積分・ $\Gamma$ 関数とベータ関数	第10章の問	課題レポート

関連科目	微積分Ⅰ、線形代数Ⅰ・Ⅱ			
教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1	微積分基礎	寺本恵昭	共立出版
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
評価方法(基準)	演習、小テスト、課題で40%、期末試験60%で評価する。			
学生への	どんなに些細な事でも遠慮なく質問すること、授業中でもいつでも親切に答えます。参考書を貸し出しますので相談に来て下さい。また、ス			

メッセージ	チューデントアワー(月-金の5限目)には5号館1階準備室に数学教員がいますのでどんな質問でも良いから来て下さい。数学は特に積み重ねが肝心の科目です。諦めずに続けましょう。
担当者の研究室等	5号館1階 数学研究室
備考	事前事後学習は毎回1時間以上かけること。 課題は採点して返却し、適宜講義中に解説する。

科目名	プロダクトデザイン演習	科目名 (英文)	Exercises in Product Design
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	稲地 秀介, 大野 亜紀, 鹿間 栄吉, 西山 徹
ディプロマポリシー (DP)	F◎		
科目ナンバリング	TDR2063a0		

授業概要・目的	
到達目標	
授業方法と留意点	
科目学習の効果 (資格)	

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法 等	事前・事後学習課題
	1			
	2			
	3			
	4			
	5			
	6			
	7			
	8			
	9			
	10			
	11			
	12			
	13			
	14			
	15			
	16			
	17			
	18			
	19			
	20			
	21			
	22			
	23			
	24			
	25			
	26			
	27			
	28			
	29			
	30			

関連科目	
------	--

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	
-----------	--

学生へのメッセージ	
-----------	--

担当者の研究室等備考	
------------	--

科目名	インターンシップ	科目名(英文)	Internship
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TCA3447a1		

授業概要・目的	<p>主に就職活動を中心とした進路選択行動を視野に入れた講義である。 この科目を通じて、学生は、実際の仕事現場の一員として業務を担当させていただくことで社会人の方々がどのような考え方で働かれているのか、特に 1) 仕事の社会における役割 2) 仕事の成果とは 3) 仕事の責任と充実感 を直接肌で感じることが期待される。前期の講義では事前学修として、ビジネス組織のあり方、ビジネス研究、マナーや常識を習得するなどの内容となるので講義を通じてインターンシップに参加する学生はもちろん、夏季休暇中に自身で1day 仕事体験等に参加する学生にとっても意義のある科目である。</p> <p>なお、講義では担当者の実務経験に基づいて議論を進めることもある。</p> <p>SDG s 4-4 SDG s 8-6</p>
到達目標	<p>就職活動の流れとインターンシップの位置づけ、意義について説明することができる。 インターンシップへ意欲的に自信を持って参加するためのマナーと心がまえを身につける。 インターンシップ先出の実習参加の機会を最大限に活用し、自分や社会をより理解し、将来の選択しや可能性について主体的に考えることができる。 講義や実習を通じて、職業観を形成し、それを他者に伝えることができる。</p>
授業方法と留意点	インターンシップの現場につながる講義(演習を含む)であることから、能動的に、真摯に参加することを求める。
科目学習の効果(資格)	インターンシップへ行く目的を理解し、その準備ができる。 企業等、実務の現場で実習を行うことで、自らの職業観の形成ができる。

授業計画	回数	授業テーマ	内容・方法等	事前・事後学習課題
	1	インターンシップとは	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業オリエンテーション</li> <li>講義委でのインターンシップと民間企業が行う 1day 仕事体験の違いを理解する</li> <li>学生と社会人の違いを理解する</li> <li>インターンシップの目的を考える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：インターンシップとは何かについて考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>
2	企業組織・ビジネスの理解	<ul style="list-style-type: none"> <li>組織の形態を知る</li> <li>ビジネスへの理解を深める</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：自らの興味のあるビジネスについて調べておくこと(0.5時間)</li> <li>事後学修：配付した資料を見直して講義を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>	
3	実習参加企業について	<ul style="list-style-type: none"> <li>産業の分類を知る</li> <li>業種、内容、インターン時期等、インターン受入企業等の組織について知る</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：興味のある会社や自治体などの組織について調べること(0.5時間)</li> <li>事後学修：インターン受入企業等の組織のリストに目を通し、希望する実習先を吟味すること(0.5時間)</li> </ul>	
4	企業研究を志望動機に結び付ける	<ul style="list-style-type: none"> <li>志望動機を組み立て方について考える</li> <li>企業研究を志望動機に結び付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：自身の興味のある企業について調べること(0.5時間)</li> <li>事後学修：配付された資料を見直し講義を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>	
5	社会人のマナー①	<ul style="list-style-type: none"> <li>社会人としての心構えを知る</li> <li>身だしなみ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：マナーがなぜ大切なのかを考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修：配付されたテキストを精読すること(0.5時間)</li> </ul>	
6	社会人のマナー②	<ul style="list-style-type: none"> <li>文書でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修：授業以降は丁寧なメールを心がけ、文書での適切な発信方法を試みること(0.5時間)</li> </ul>	
7	社会人のマナー③	<ul style="list-style-type: none"> <li>口頭でのコミュニケーション</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：効果的なコミュニケーションについて考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修：マナーの大切さを再度考えること(0.5時間)</li> </ul>	
8	履歴書・エントリーシートについて考える①	<ul style="list-style-type: none"> <li>エントリーシートとは何かを知る</li> <li>エントリーシートを書くための前準備を行う</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：エントリーシートを書く準備をしておくこと(0.5時間)</li> <li>事後学修：講義を振り返り、エントリーシートを下書きすること(0.5時間)</li> </ul>	
9	履歴書・エントリーシートについて考える②	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ用の履歴書を記入する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：履歴書を書く準備をしておくこと(0.5時間)</li> <li>事後学修：講義を振り返り、履歴書を下書きすること(0.5時間)</li> </ul>	
10	グループディスカッション①	<ul style="list-style-type: none"> <li>企業はなぜグループディスカッションを行うのかについて考える</li> <li>実際にグループディスカッションに取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修：グループディスカッション時の自身の行動を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>	
11	グループディスカッション②	<ul style="list-style-type: none"> <li>議論を前に進めるためのファシリテーション術を学ぶ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：グループ内の自分の役割を考えること(0.5時間)</li> <li>事後学修：自グループ及び他グループの発表を振り返ること(0.5時間)</li> </ul>	
12	事前訪問について	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前訪問のマナーと準備について</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：インターン先の企業等の組織のことをもう一度調べること(0.5時間)</li> <li>事後学修：訪問時のマナーについておさらいをすること(0.5時間)</li> </ul>	
13	課題のプレゼンテーション	<ul style="list-style-type: none"> <li>インターン先を調べて、インターンシ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>事前学修：プレゼンテーションの準備をすること(0.5</li> </ul>	



	ヨソ②	ップで何を学びたいかをプレゼンテーション	時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
14	課題のプレゼンテーション③	・インターン先を調べて、インターンシップで何を学びたいかをプレゼンテーション	・事前学修: プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: プレゼンテーションの内容を内省すること(0.5時間)
15	振り返りとまとめ	・授業を振り返る ・インターンシップの目的を再考する	・事前学修: インターンシップ I で学んだことをまとめること(0.5時間) ・事後学修: インターンシップで何を身につけたいかをもう一度考えること(0.5時間)
16	直前学修① 6月22日(土) 3限(予定)	・インターンシップの心構え ・今後のスケジュールの確認 ※スーツ着用のこと	・事前学修: 社会人を意識したスーツを着用し、身だしなみを自分なりに整えてくること(0.5時間)
17	直前学修② 6月22日(土) 4限(予定)	・報告書の書き方、注意点/マナー ・身だしなみの最終確認 ・グループワークとプレゼンテーション	・事前学修: マナーについて考えること(0.5時間) ・事後学修: 講義の内容を振り返ること(0.5時間)
18	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
19	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
20	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
21	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
22	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
23	インターンシップ実習	・夏季休暇中に10日間以上(原則)	・事前学修: 実習先からの指示がある場合はそれに沿うこと ・事後学修: 実習中は毎日日誌をつけ、実習内容を振り返ること(0.5時間)
24	体験報告書の作成	・報告書提出 ・インターンシップ担当教員における報告書チェックと指導 ・(担当教員への提出と教務課へ電子データを提出)	・事後学修: 直前学習②の通りに報告書を作成し、提出前に必ず推敲を行い、提出期限を厳守すること(0.5時間)
25	事後学修① 9月14日(土) 3限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修: 個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
26	事後学修② 9月14日(土) 4限(予定)	・インターンシップ体験報告(個人発表)及びプレゼン指導	・事前学修: 個人発表要のスライドを準備し、プレゼンテーションができるように練習し、準備すること(0.5時間)
27	事後学修③ 9月28日(土) 3限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
28	事後学修④ 9月28日(土) 4限(予定)	・事後学修①②で選出されたグループ代表による体験報告	・事前学修: 代表者はスライドを作成し、プレゼンテーションの準備をすること(0.5時間) ・事後学修: 聴講者は他者の発表を振り返ること(0.5時間)
29	事後学修⑤ 10月5日(土) 3限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る(実習記録簿の提出)	・事前学修: 実習記録簿を見直してこること(0.5時間)
30	事後学修⑥ 10月5日(土) 4限(予定)	・インターンシップ全体を振り返る	・事後学修: インターンシップの講義の全体を振り返り、今後のキャリア形成にどのように活かしたいのかについて考えること(0.5時間)

関連科目 キャリアデザインⅠ・キャリアデザインⅡ・キャリアデザインⅢ

教科書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			
参考書	番号	書籍名	著者名	出版社名
	1			
	2			
	3			

評価方法 (基準)	平常点(各回のミニッツペーパーおよび授業態度)30%、提出物・プレゼンテーション等60%、企業からの評価表等10%の合計点で評価する ※授業態度とは授業中の質問に対する回答状況、授業への集中度を示す
学生への メッセージ	インターシップの流れは以下のとおりである。 ※4月下旬にリスト公開→5月上旬に希望企業等の組織の絞り込み→5月下旬に就職部から受け入れ可否の回答→6月末頃に事前訪問→8月上旬からインターンシップ開始(予定)  インターンシップ先の都合により、日程等スケジュールが変更する場合もある COVID-19の影響により先方都合で実習が中止になることもある
担当者の 研究室等	水野講師室(7号館3階)
備考	教科書・・・必要に応じてレジメを配布 参考書・・・必要に応じて推薦図書を提示 服 装・・・立ち居振る舞いを学ぶために、原則、スーツ着用が好ましい。 予習・復習に毎回2時間以上取り組むこと。グループワーク、レポート作成のための学習時間を含め、総時間数で60時間程度を目安とする。 ※インターンシップ先の都合により、インターンシップ参加期間等の日程が変更される場合もある。

科目名	地域と私	科目名 (英文)	Introduction to Regional Science
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	前期	授業担当者	上野山 裕士
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1o, E科: Ao, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL01452a1, L科: LL01354a1, D科・S科: IL01361a1, P科: YL01417a2, J科: JL01363a1, W科: WL01342a1, N科: NL01343a1		

授業概要・目的	地域に関わるさまざまな視点を学び、それについて他者と対話することを通じて、受講生一人ひとりがこれから地域とどのように向き合い、どのように行動していくかを考えていきます。 本講義は、対話、グループワーク、プレゼンテーションを積極的に取り入れながら進めます。																		
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域のことを学ぶ意義を理解する。</li> <li>・地域が抱えるさまざまな課題を把握する。</li> <li>・グループ内で相互理解を図りながら活動できる。</li> <li>・グループにおける自分の役割を理解しながら活動できる。</li> <li>・地域の担い手としての自覚を持ち、自身と地域との今後の関わり方を具体的に描くことができる。</li> </ul>																		
授業方法と留意点	グループでの対話や発表、レポートの作成といったグループワークが中心の授業です。 グループワークで学習を進めますので、グループのメンバーに迷惑がからならないよう責任のある行動をしてください。 講義は基本的に土曜日に不定期開催します。なお、講義の日程は変更となる場合があります。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>&lt;4月6日(土) 1~3限&gt; 第1回 「地域と私」への取り組み方;オリエンテーション 授業の進め方/ひとこと自己紹介 第2回 地域との関わり方 ~『調査されるという迷惑』を読む~ グループディスカッション/教室内での共有 第3回 地域のいまとその担い手 地域福祉の視点から概説/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p>&lt;4月20日(土) 1~3限&gt; 第4回 インタビューにチャレンジ ~聴く、掘り下げる、まとめる~ グループづくり/グループ内での相互インタビュー/インタビューで聞いた内容をメモする 第5回 質的データの分析にチャレンジ メモの内容を整理する/分析する 第6回 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」をグループ、教室でシェアしよう 「身近な地域の課題解決・魅力磨き」について教室内プレゼンテーション&amp;ディスカッション</p> <p>&lt;5月18日(土) 1, 2限&gt; 第7回 地域に関するテーマを選定しよう 『地域』に関する文献の整理』についてのグループ内プレゼンテーション/グループで取り組むテーマの決定/グループワークの実施スケジュールの検討 第8回 グループワークについてシェアしよう グループワークテーマの教室内での共有・対話</p> <p>&lt;6月1日(土) 1, 2限&gt; 第9回 グループワークの中間報告会 第10回 グループワークに「具体的な地域」の視点を盛り込もう 「地域福祉」の実践事例から考える/選定したテーマを「具体的な地域」から考える</p> <p>&lt;6月15日(土) 1, 2限&gt; 第11回 グループワークに「担い手」の視点を盛り込もう テーマごとに「登場人物」を考える 第12回 大学生は地域のためになにができるかを考えよう 地域と学生の協働の実践について概説/地域の担い手としての大学生の可能性/地域の担い手としての大学生の強みと弱みについて考える 個人ワーク/グループディスカッション/教室内での共有</p> <p>&lt;6月29日(土) 1~3限&gt; 第13回 最終報告会① 第14回 最終報告会② 第15回 講義のふりかえり</p> <p>本科目の受講にあたっては、講義準備および復習として事前、事後学習を各回2時間程度、合計60時間取り組んでいただきます。</p>																		
関連科目	ソーシャル・イノベーション副専攻科目群																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	<p>学びレポート(個人ワーク)30%</p> <p>「身近な地域の課題解決・魅力磨き」『地域』に関する文献の整理 成果物(個人ワーク)20%</p>																		

	<p>学びのグループワークレポート 30%</p> <p>最終報告会でのプレゼンテーション 20% (ルーブリック評価)</p> <p>なお、60%で合格とする。</p>
学生へのメッセージ	<p>地域で起きていることを自分ごとにしていくための基礎を形成する授業です。また、副専攻科目を履修していくうえでの、基本的な学びができる科目でもあります。基本をしっかり身につけ、さらに学びを深めるためにも、主体的な学びの姿勢を期待します。</p>
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス3号館3階 上野山研究室</p>
備考	

科目名	地域貢献実践演習	科目名(英文)	Practical Training for Social Innovation
学部	学部共通	学科	地域志向系
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1◎, E科: A◎, C科: II◎, L科: DP2◎, DP5△, DP6△, D科: DP1◎, S科: DP1◎, P科: DP8△, J科: DP1◎, DP6◎, DP7◎, W科: DP1◎, DP7◎, N科: DP1◎N: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TL03457a1, L科: LL03366a1, D科・S科: IL03366a1, P科: YL03422a2, J科: JL03368a1, W科: WL0347a1, N科: NL03348a1		

授業概要・目的	この科目はソーシャル・イノベーション副専攻過程における実践科目です。4月・5月の半ばまではこれまでの講義やフィールドワークで見つけた学びを総合的に活かして、地域の課題により深く関与し、課題の解決を導くための計画策定から、実施、検証に至るまでを主体的に学ぶための準備を行います。5月後半(予定)からは連携先ご担当者様と密に連携しながら、課題の抽出、要因の理解、活動計画の立案を行い、課題解決・低減に向けて実践を行います。現地で実践と振り返りを繰り返しながら、当初立てた目標達成に向けた知識と技術の向上と責任ある行動を続けられる姿勢の確立を目的とします。																		
	SDGs 全般																		
到達目標	①これまで学んだ理論を実践に結びつけて、考察し行動することができる。 ②課題派遣から解決までのPDCAサイクルを回すことができる ③チームで活動することができる ④チーム内での役割を理解し協調的な行動ができる。 ⑤連携先の多様性、独自性などを理解した上で、解決策を提示することができる。																		
授業方法と留意点	4月・5月までは座学とディスカッションを行うため、講義内で課題が出ることもある。 また前期の途中より各連携先のフィールドに赴き、活動を行う。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	1. オリエンテーション/副専攻修了者のイメージ、受講方法 : 4月12日(金) 5限  ※2回目以降の講義の日時は初回の講義で決定する。なお開講曜日は金曜日5限を予定しているが履修学生の時間割次第で変更になることもある。  2. チームビルディングワーク  3. 連携先様に登壇いただき、連携先様の課題に関する話題提供  4. 連携先様のお話を踏まえ、調べたこと、今後取り組みたいこと等に関するプレゼンテーション  5. 以降は 現地に赴き、実践を繰り返す。 ※概ね3週間に一回、全員で集合し途中経過の報告会を行う。日時に关しては担当教員の指示に従うこと。 ※12月末(日時未定)に成果報告会を行う																		
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程関連科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	課題提出物 30% 活動の取り組み状況 50% 最終報告等 20%																		
学生へのメッセージ	副専攻で学修した成果を実践活動で発揮しつつ、更に成長できるように主体的に取り組んでくんでほしい。																		
担当者の研究室等	水野武(寝屋川キャンパス7号館3階)																		
備考																			

科目名	教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Teaching Practice II
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	非正規生	クラス	
単位数	2	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明・鎌田 祥輝・谷口 雄一・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅱ」では、教育実習校において10日間以上(80時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験報告及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅲ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じる。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業者を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	教育実習Ⅲ	科目名(英文)	Teaching Practice III
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	4	履修区分	選択必修科目
学期	通年集中	授業担当者	朝日 素明・鎌田 祥輝・谷口 雄一・西村 晃一・松浦 正典・吉田 佐治子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	「教育実習Ⅲ」では、教育実習校において15日間以上(120時間以上)の実習を行う。(1)教育実習校において、教科、特別活動、生徒指導などの実習を行う。大学において事前及び事後の指導を行う。(2)事前指導では、教育実習講義と個別指導を行う。(3)教育実習は所定期間内に実習校の指導教員の下で行う。(4)事後指導では、教育実習体験発表及び反省を行い、指導のまとめとして、総括を行う。																		
到達目標	学生は、学校教育の実情を理解し、教職に対する自らの適性に気づき、適切な進路を選択できるようになる。																		
授業方法と留意点	(1)教育実習校での実習を中心に行う。(2)大学での事前指導・事後指導は「教育実習Ⅱ」と合同で行う。(3)事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件である。要件を充足しない場合は実習中止または単位不認定となることに留意すること。(4)事後指導はグループワークが中心となる。進め方等についてガイダンスを行う。ガイダンスの時期については事前指導時の指示や教職課程年間行事予定表に従うこと。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 教育実習特別個別指導(4月) 教育実習予定者のうち、教育実習の履修に特に努力を要すると判断される履修者について行う。個別の呼び出しには速やかに応じること。</p> <p>2 教育実習事前指導(4月第3・第4土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習上の心がまえ・諸注意 教育実習ビデオの視聴 先輩教師の体験談 教師の仕事と責任について講義・討論 申請書類等の記入・提出</p> <p>3 教育実習個別指導(4月～7月) 教科書、教材、指導案の作成などについて、個別の質問にこたえ指導する。 教材・学習指導案を作成して提出、添削指導等を受けること(必要な者のみ)。</p> <p>4 前期教育実習開始(5月～7月) 実習校において授業を行ったり、クラブ活動の指導を担当するなど、教育活動に携わる。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>5 後期教育実習開始(8月～11月) 後期教育実習予定者の実習を行う。 「教育実習記録」を作成し、教材研究、学習指導案作成を行う。 実習中、本学教員による訪問指導を受ける。</p> <p>6 教育実習事後指導(7月～11月) 教育実習終了後、体験レポートを作成、提出する。 使用教科書・作成教材・学習指導案の写しを提出する。 体験に基づいたグループワークを行い、意見交換する。</p> <p>7 教職フォーラム(教育実習体験発表会)(10月第3土曜日午後;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 本学卒業生を含む現職の先生方を招き、体験発表を行う。発表方法の詳細については、掲示等による。 体験発表用資料を提出すること。</p> <p>8 教育実習総括講義(11月最終土曜日午前;詳細は教職課程年間行事予定表を参照) 教育実習のまとめとして、その成果を確認し、講評を行う。 総括講義に出席後、総括レポートを作成、提出する。 「教育実習記録」を提出する。</p>																		
関連科目	教職関連科目全般																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項</td> <td>教育実習を考える会</td> <td>蒼丘書林</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>学習指導要領解説</td> <td>文部科学省</td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林	2	学習指導要領解説	文部科学省		3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	新編教育実習の常識 - 事例にもとづく必須66項	教育実習を考える会	蒼丘書林																
2	学習指導要領解説	文部科学省																	
3																			
評価方法(基準)	事前指導ならびに事後指導への積極的参加(体験発表およびその準備を含む)(15%)、実習校における実習成績(60%)、事前指導・事後指導における課題等提出物(教育実習記録を含む)(25%)による総合評価を行う。なお、事前指導・事後指導の受講(出席および課題等提出)は教育実習実施要件であり、これを充足しなければ教育実習中止または単位不認定となることに留意すること。																		
学生へのメッセージ	『学生便覧』『教職課程履修ガイド』を必読、その指示を十分に理解しておくこと。 授業担当者と連絡・相談・報告を密にすること。																		
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館3階(松浦研究室、朝日研究室、西村研究室、吉田研究室、鎌田研究室) 寝屋川キャンパス7号館4階(谷口研究室)																		
備考	中学校教諭免許状取得希望者には、別途、介護等体験が義務化されている。 事前指導および事後指導における事前・事後学習総時間をおおよそ15時間程度とする。																		

科目名	栄養教育実習Ⅱ	科目名(英文)	Practice in Teaching II (Diet and Nutrition Educator)
学部	学部共通	学科	教職科目
配当年次	4年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	今城 安喜子
ディプロマポリシー(DP)			
科目ナンバリング			

授業概要・目的	本実習は小学校・中学校の役割や組織について知り、栄養教諭としての職務を理解し、その使命感や責任感を養うことを目的とする。また、児童・生徒への理解や関係づくりや指導に関する実践力を養う。大学で学んだ理論と教育現場での実践とを結び付けてリフレクションし、栄養教諭を目指す自己の課題を見極め、さらに向上を目指して知識と技能の修得に努める。教育実習終了後には、実習の反省・問題点の整理を行い、報告会を実施することにより、今後の課題を確認し、教育実習の体験を生かし、児童・生徒の豊かな食生活と健康を創造できる栄養教諭を目指す。																		
到達目標	① 学校運営や学級経営、指導方法について知り、栄養教諭としての係わり方について考えることができる。 ② 担任や栄養教諭の指導方法を意欲的につかもうとする。 ③ 児童・生徒と係わりながら関係を築き、指導力を養おうとする。 ④ 給食の時間に給食を教材に指導することができる。 ⑤ 研究授業をとおして、児童・生徒の食に対する関心を高めることができる。 ⑥ 教育実習を反省し、成果と課題をまとめ発表ができる。																		
授業方法と留意点	[実習場所] 枚方市内の小学校  [実習方法] 1. 栄養教育習校の管理職による講義 2. 栄養教育習校の学級担任による講義 3. 栄養教育習校の栄養教諭による講義 4. 指導案作成と学級担任、学年主任、教務主任からの指導 5. 給食の時間の参観																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	1. 事前指導 ・オリエンテーション ・事前打ち合わせ ・指導案作成  2. 実習内容 ・学校運営について学ぶ ・学級運営と児童生徒の指導について学ぶ ・生徒指導 ・学級活動参観 ・学校行事参観 ・実習校における食の全体計画と年間計画を学ぶ ・実習校における家庭・地域との連携について学ぶ ・栄養食事管理について学ぶ ・給食の時間の指導 ・給食当番の指導 ・給食の時間中の事故防止 ・給食の時間における衛生管理 ・研究授業の実施 ・食育指導案の作成 ・授業研究における授業と反省  3. 事後指導 ・報告会																		
関連科目	学校栄養指導論Ⅰ 学校栄養指導論Ⅱ 栄養教育実習Ⅰ 教職実践演習 全ての教職課程必修科目																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>食に関する指導の手引き 第二次改訂版</td> <td>文部科学省</td> <td>東山書房</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>別途、指示する</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房	2	別途、指示する			3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1	食に関する指導の手引き 第二次改訂版	文部科学省	東山書房																
2	別途、指示する																		
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	以下の基準で評価し、60%以上で合格とする。 ・受け入れ校 50% ・実習ノート 40% ・学修への取り組み(ルーブリック評価) 10%																		
学生へのメッセージ	教育実習での体験を大学で学んだ理論と結び付け、栄養教諭として必要な知識と技能を修得するとともに、新たな発見や課題点に気づき栄養教諭としての実践力を高めましょう。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス 8号館 326号室 tel:072-800-1879(直通) E-mail:akiko.imajo@setsunan.ac.jp																		
備考	事前・事後総学習時間は15時間程度である。																		



科目名	地域実習	科目名 (英文)	Introductory Training for Regional Study
学部	学部共通	学科	教養特別講義
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎, 古矢 篤史
ディプロマポリシー (DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01361a~JT01365a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	地域での課題を発見し、それを解決できる力を養うには、まず「地域」というものを体験を通じ理解することから始まります。本科目は、ソーシャルイノベーション副専攻課程1年次の必修科目で、主としてフィールドワークを中心に授業を実施します。また、本科目は2年次の「摂南大学PBLプロジェクト」、3年次の「地域貢献実践演習」等の基礎となる科目として位置づけられています。地域の人々とのコミュニケーションや協働を通じて、目標の設定から達成までの過程を体験学習により学び、地域での課題等について理解を図ります。																
到達目標	①地域での実態を理解する。 ②チームで働く意義を理解する。 ③役割行動のあり方について理解する。 ④地域の方々とのコミュニケーションができるようになる。																
授業方法と留意点	教室での授業とグループワーク、フィールドワークです。通年授業なので毎週、教室で授業があるのではなく、詳しいスケジュールは第1回授業で案内します。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p><b>【重要】</b> 第1回授業は前期の班決めなどをしますので、必ず出席してください。もし、出席できない時は必ず事前にTeamsのチャット機能で担当教員に連絡してください。また、授業の性質上、授業開始後、2~3回たってから参加するということもできません。その場合は履修辞退となります。授業開始後、欠席が続いたままの場合は単位認定できませんので、必ず初回から出席してください。</p> <p><b>【授業内容】</b> 1 チーム10名以内のチームを作り、地域での活動に取り組みます。 1. 年間計画を作成する。 2. 役割を決める。 3. 地域等で活動を行う。 4. 活動報告をまとめ、ふりかえる。 5. スケジュール管理をする。 6. 課題があれば、チームで話し合い解決に導く。 上記の1~6の活動を通じて自分たちの計画を自ら評価したり改善したりしながら、当初に設定した目標を達成できるよう、チームで協力して計画を実行していきます。第1回授業はで詳しい内容やスケジュールを説明し、受講者がどの取組内容に参加するかなどを決定します。この授業の実習先は寝屋川市の社会教育施設を予定しています。社会教育施設とは図書館、博物館、体育館、ホールなど市民なら誰でも学習にいくことのできる公的施設のことです。このような施設に実習に行くことによって市民が社会教育に参加する意義や運営の課題などを学んでいきます。</p> <p><b>【前期】</b> 開講時間はいずれも6時間目です。通年授業なので毎週教室で授業があるのではなく、前期は2週間に1回程度です。実習や実習先挨拶以外の日は学内教室での授業です。具体的な日には調整中ですので、第1回授業で案内します。</p> <p>第1回「ガイダンス (授業概要の説明)」 第2回「寝屋川市の現状を考える(1)」 第3回「寝屋川市の現状を考える(2)」 第4回「寝屋川市まちあるき」(学外) 第5回「社会教育とは(1)」 第6回「社会教育とは(2)」 第7回「まちあるき報告会」 第8回「実習先挨拶」(学外) 第9回「実習先挨拶の結果報告とそのふりかえり」 第10回~第18回 「実習」(学外) (主に夏季休暇中に行います)</p> <p><b>【後期】</b> 後期の詳しい日程・発表方法等は改めてお知らせします。 第19回「実習ふりかえり(1)」 第20回「実習ふりかえり(2)」 第21回「全体報告会」</p>																
関連科目	ソーシャルイノベーション副専攻課程科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	提出物 (20%)、活動への参画の程度 (40%)、最終報告プレゼンテーション (20%)、最終レポート (20%)																
学生へのメッセージ	地域創生の第一歩を踏み出してみよう！																
担当者の研究室等備考	朝田研究室 (寝屋川キャンパス、1号館7階)																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科: S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。  ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。  ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体:  大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	村瀬 憲昭, 下元 一輝
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>市役所(町役場)の職員、自治会の役職者、市民(町民)などの組織・活動グループと学生が協力してプロジェクトを進める経験を通じて、学生の社会人基礎力や人間力の向上を図る。プロジェクトの企画・運営においては、担当教員の指導の下で、必要な情報の収集方法や関係者との連絡調整方法、プロジェクトを円滑に進めるための「段取り」を習得する。</p> <p>①調査: 地域の現状や課題を調べ、プロジェクトの実現可能性を探る。  ②企画: プロジェクトの企画案を作成し、実現可能性、コスト、実施期間、有効性などに関する評価を行う。  ③関連する団体に企画案をプレゼンテーションし、必要に応じて修正した上で、詳細な実施計画を作成する。  ④実施: 実施計画に従いプロジェクトを実施する。途中で実施状況を関係機関に報告し計画の修正を行う。  ⑤結果報告: プロジェクトの終了時に関係機関に実施結果を報告し、次年度以降のプロジェクトの実施について話し合う。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なる価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	基本的には対面授業とするが、オンライン授業になった場合は、ICTツールを活用した遠隔授業とする。																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>社会人として必要な「主体性・実行力・課題発見力・発言力」を連携先との協働作業によって実践的に学ぶ。仕事全体をひとつひとつの細かいタスクに分割し、そこで必要な時間をゴール(締切日)から逆算することで、これらのタスクをいつ行うべきなのかを明確にし、仕事を前倒しでやる習慣を身につける。</p> <p>具体的には①仕事の全体像を把握し各タスクに分割する、②優先順位を付けて作業手順を決定する、③分担したタスクを各グループが責任を持って行い、自分たちで評価・改善ができるようにする。また、各グループでの活動を通じて、グループをまとめる役割とサポートスタッフとしての役割の重要性を体感する。</p> <p>活動対象の地方自治体:  大阪府寝屋川市、交野市、和歌山県すさみ町</p> <p>SDGsゴール: 4・11・17</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	参加態度40%、企画力20%、コミュニケーション能力20%、発表能力20%で評価する。																
学生へのメッセージ	仲間と協力して活動を進めていく中で、互いに率直に意見を出し合い、次の活動に向けて積極的に改善に取り組むことを期待しています。																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 1号館7階 村瀬研究室																
備考	履修登録をする前に、必ず、活動内容を問い合わせ、相談してから履修して下さい。問い合わせ・相談をせずに履修登録をした場合、登録を取り消すことがありますので注意してください。																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要で。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>2. 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わる事。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられる事。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	石田 裕子
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~1JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>授業概要：摂南大学が進める淀川水系の総合研究の実践的な担い手として、寝屋川市内での子どもたちへの環境学習支援および淀川水系での流域連携活動を実施する。流域内の様々な団体と連携し、河川での親水活動や交流会を通じて、流域住民、一般市民へ環境問題や流域の諸問題について普及・啓発する。</p> <p>目的：寝屋川市自然体験学習室の活動に関わり、子どもへの環境学習支援を行う。天若湖アートプロジェクトへの参加を中心に、淀川水系での流域連携を向上させる。</p>																
到達目標	<p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>地域の子どもの環境学習支援プログラムの企画・実践の手法を体得する。また、流域連携活動を通じて、淀川水系を中心とした環境保全と河川管理について問題を理解するとともに、その解決策について考察する。特に、淀川水系での環境保全活動や水辺再生の現場を題材に学習・調査を進める。プロジェクト</p>																
授業方法と留意点	<p>連携内容・方法：自然体験学習室では、環境学習支援の補助から始め、学生たち自身による企画と実践を行う。天若湖アートプロジェクト実行委員会や淀川愛好会に所属し、淀川水系内の市民団体や行政機関と連携し、活動を実施する。</p> <p>留意点：学外の連携先等と関わるので、大学生らしいマナーと最低限のコミュニケーション力が必要で。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>テーマ：寝屋川市における環境学習支援と淀川水系を中心とした流域連携プロジェクト</p> <p>内容：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 寝屋川市自然体験学習室における環境学習支援</li> <li>2. 点野水辺再生地区を中心とした水辺再生学習の実施</li> <li>3. 淀川水系を中心とした流域連携イベントの企画・実践</li> <li>4. 天若湖アートプロジェクトにおけるイベントの企画・実践</li> <li>5. 環境保全活動（天然アユ復活、木津川での伝統工法を用いた環境改善）の学習</li> <li>6. いい川・いい川づくりワークショップ等での発表</li> </ol> <p>方法：授業のうち半分（月1回）は原則として平常授業期間内の土曜日1・2限に行い、自然体験学習室の活動に参加して、地域ボランティアおよび子どもたちと接して、必要な知識・技術を習得する。9月と12月に予定している子ども教室において、自分たちで企画した環境学習プログラムを実施する。</p> <p>他の半分（月1回）は、学外の流域連携イベントに参加し、流域問題について学習する。特に、天若湖アートプロジェクトを中心に、淀川水系での流域連携を行う。</p> <p>学外発表の場として、天若湖アートプロジェクト（6月）、近畿水環境交流会（8月）、いい川・いい川づくりワークショップ（9-11月）を予定し、各活動段階における成果発表を行い、自己評価および外部評価を受けることで活動内容を振り返り、次の活動に向けてステップアップを図る。作業の実施に当たっては、理工学部都市環境工学科生態環境学研究室、および文化会エコシビル部の協力を得る。</p> <p>授業および活動スケジュールは、学校行事等の関係で受講者と相談の上、変更することがある。</p> <p>事前事後学習課題：内容ごとに参考資料を配布するので、熟読しておくこと。また、年度末にレポート課題を課す。</p>																
関連科目	<p>自然・都市環境論、流域・沿岸域工学（以上、C科）</p> <p>科学技術教養C</p> <p>教養特別講義「SDGsで読み解く淀川流域」</p>																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	<p>授業（イベントを含む）に積極的に参加し、水辺環境の再生および流域連携活動に加わること。（60%）</p> <p>水辺再生・流域連携の意義を正しく理解し、それを他者に伝えられること。（40%）</p>																
学生へのメッセージ	<p>子どもたちへの環境学習支援や流域連携活動においては、学生のみさんの若いパワーが必要です。ぜひ私たちと一緒に活動を盛り上げててください。文系・理系問わず、やる気のある人は大歓迎です。</p>																
担当者の研究室等備考	<p>寝屋川キャンパス 1号館3階 石田研究室</p>																

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1～TT01465a1, L科: LT01366a1～LT01370a1, D科・S科: IT01371a1～IT01375a1, J科: JT01374a～JT01378a1, W科: WT01352a1～WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決（食品ロス削減）に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。</li> <li>・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。</li> <li>・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて</li> <li>・調査活動</li> <li>・イベント参加</li> <li>・小冊子等作成</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて：講義+演習形式</li> <li>・その他の内容：グループ活動</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論（入門）、グローバルシチズンシップ論（応用）																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法（基準）	各活動への貢献度 60%、活動日誌・最終レポート 40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室（寝屋川キャンパス 2号館 2階）																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	鎌田 美保, 大塚 正人
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	食品ロスは世界でも課題になっていることですが、日本の食品ロス量は世界的に見ても多く、世界の食糧支援量よりも多いという現状があります。食品ロスは環境、貧困、経済等さまざまな分野の課題とも関連するものであり、食という日ごろ身近に行う行動とも関わりのあるもので、一人一人が意識をもって行動する必要がある課題です。その課題解決(食品ロス削減)に向けた取り組みを考え、実践し、多くの人にシェアする活動を行います。																
到達目標	<p>【PBLプロジェクト共通目標】</p> <p>参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>【本プロジェクト目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスの現状と関連する課題を理解する。</li> <li>・食品ロス削減に向けた活動を提案し、実施することができる。</li> <li>・プロジェクトに関わる多様な人々と対話し、相手の意見を尊重しながら、自身の考えを構築し、説明し、一定の合意形成を図ることができる。</li> </ul>																
授業方法と留意点	グループでの活動が中心となり、外部機関とも連携し、活動を行う。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて</li> <li>・調査活動</li> <li>・イベント参加</li> <li>・小冊子等作成</li> </ul> <p>【方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・食品ロスについて：講義+演習形式</li> <li>・その他の内容：グループ活動</li> </ul> <p>【事後学習】</p> <p>受講生には活動日誌を配布する。ミーティングおよび各活動後に話し合いや活動の内容、感想、反省点を記録すること。プロジェクト終了時に最終レポートを提出してもらう。レポートはプロジェクトを通して学んだこと、自身が貢献できた点、不足していた点を振り返るものとする。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバルシチズンシップ論(応用)																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	各活動への貢献度60%、活動日誌・最終レポート40%																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	鎌田講師室(寝屋川キャンパス2号館2階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p><b>【概要】</b> 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p><b>【目的】</b> アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。 1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。 2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。 3. イベント後の処理を適切に行う。</p>																
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業計画】</b></p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。 1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。 2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。 3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。 4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。 5. 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。</p>																
関連科目	すべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	朝田 康禎 古矢 篤史
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>プロジェクト名: キッズイベントイベントを創ろう!</p> <p><b>【概要】</b> 寝屋川市の地域交流センターであるアルカスホールの自主事業を企画から実施まで担当する。2024年度は小学生を対象としたイベントを企画し、協力組織スタッフのご指導のもと企画から出演者との交渉・経理・準備・実施・事後処理までを行う。</p> <p><b>【目的】</b> アルカスホールでは、毎年自主事業としてさまざまなイベントを企画・運営している。学生の発想・感覚を活かしたものにしたいとのことから、企画段階から学生の参画が求められている。指定管理者が行う自主事業運営に興味をもつ学生と現場スタッフが協働で事業を企画し、運営を行うことにより、企業がもつノウハウを学生が学ぶとともに、学生などの若い世代が参加できる自主事業を実現する。</p>																
到達目標	<p><b>【PBLプロジェクト到達目標(共通)】</b> 本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。</p> <p>上記に加えて、本プロジェクトでは以下のことも到達目標とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 市民のニーズを把握した上で自由な発想に基づき、新しい音楽イベントを企画・運営する。</li> <li>2. 十分な準備を行った上でイベントを成功に導く。</li> <li>3. イベント後の処理を適切に行う。</li> </ol>																
授業方法と留意点	<p>連携先や学生同士など、人と関わりながら学ぶことが中心となる。積極的に関わることが求められる。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【授業計画】</b></p> <p>4月 ご挨拶 5月 企画会議 6月 自主事業内容の決定および出演交渉 7月 中間報告会 寝屋川市に報告、寝屋川市広報に記事掲載依頼 8月 チラシのデザイン作業 9月 チラシの印刷・配付およびチケット作成 10月 ポスターセッション チケット発売開始 11月 打ち合わせ(出演者、舞台スタッフ、学生関係者) 12月 最終報告会 準備および本番</p> <p>この他に「基礎講座」全9回を受講すること</p> <p>これらの活動を通じて、以下のことを身につける。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. イベントがどのように企画・運営されているのか、体験的に知る。</li> <li>2. 企画したイベントが実行されるまでのスケジュール管理を身につける。</li> <li>3. 連携先・出演者との交渉をする中で、社会人として必要なマナーを身につける。</li> <li>4. メンバー及び連携先とのディスカッションを通じて、「質の高い意思決定」ができるようになる。</li> <li>5. 他のイベント等に活用可能な一般的知識を得る。</li> </ol>																
関連科目	すべての科目																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>普段のグループワークへの参加状況・貢献度(50%)、フィールドワーク当日の参加状況・貢献度(30%)、発表会における評価(20%)を総合して判断する。</p>																
学生へのメッセージ	<p>みなさまがこれからイベントを創り上げていくプロジェクトです。イベントの成功はみなさまにかかっています。主体的に取り組んでくださることを望みます。</p>																
担当者の研究室等	<p>寝屋川キャンパス1号館7階(朝田)</p>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 オリエンテーション 5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ 6~8月 説明会準備 9月 説明会実施 10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25% 協調性 25% 課題発見・解決力 25% プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	増田 知也, 工藤 隆則, 長田 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>寝屋川市では自治会加入率の低下と自治会の担い手不足に悩んでおり、とりわけ若年層の加入率上昇に向けた対策や、役職者の負担の軽減が必要となっている。本プロジェクトでは、寝屋川市内の自治会において、自治会活動を周知する手段としてLINE公式アカウント等の活用を支援する。</p> <p>学生が中心となって説明会の企画を立案し、円滑に説明会を運営し、参加して良かったと思ってもらえる説明会にするとともに、LINE公式アカウントの試験運用を通じて、地域への理解を深めるとともに、関係者との円滑なコミュニケーションを図ることを目指す。</p>																
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																
授業方法と留意点	定期的に会議を開催し、プロジェクトの進捗や課題について確認しながら、プロジェクトの目的達成を目指す。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月 オリエンテーション</p> <p>5月 寝屋川市・自治会との打ち合わせ</p> <p>6~8月 説明会準備</p> <p>9月 説明会実施</p> <p>10~12月 LINE公式アカウントの試験運用</p> <p>説明会では、参加者との座談会形式でLINE公式アカウントの活用方法について学んでもらう。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	<p>主体性 25%</p> <p>協調性 25%</p> <p>課題発見・解決力 25%</p> <p>プロジェクトへの貢献 25%</p>																
学生へのメッセージ																	
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス 11号館 10階 増田研究室																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5)</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【前期】</b></p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p><b>【夏季休暇期間～後期】</b></p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室</li> <li>・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室</li> </ul>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	小林 基, 中塚 華奈, 藤原 崇
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>枚方市東部地域は、大都市圏内の近郊住宅地に隣接しながらも、美しい農地や里山景観を残している。一方、高齢化と人口減少による地域衰退も危惧され、地域を活性化する必要があるという認識が生じている。</p> <p>このプロジェクトでは、今後の当該地域の社会経済の持続的な発展に資することを目指し、2025年日本国際博覧会（「大阪・関西万博」）および「ひらかた万博」の時期に合わせて当該地域の魅力を発信するため、以下の二点を目的として設定する。</p> <p>(1) 枚方市東部地域における多様な地域資源を探索し、フィールドワークと実体験を通じてその魅力を自分なりに再発見し、表現する。</p> <p>(2) 当該地域の魅力を国内の他地域の人々および海外からの来訪者に向けて発信するために妥当な方策を提案する。</p>
到達目標	<p>(1) 主体的に課題を設定し調査から報告までに至る計画を立て、実行する姿勢・能力を身に付ける。</p> <p>(2) チームワークに必要な能力（リーダーシップ／フォロワーシップ、スケジューリング／リスケジューリング、メンバーや教員、協力先との調整能力等）を身に付ける。</p> <p>(3) 現地での体験・観察・聞き取りを通じて、自らの言葉で地域の魅力を発見し、表現（報告）することができる。</p> <p>(4) 現地の課題や条件および現地の人々が積み上げてきた成果を踏まえ、具体性・実現可能性のある企画を提案できる。</p> <p>(5)</p>
授業方法と留意点	<p>本授業は、おおまかに（1）学内での事前準備、（2）フィールドワーク、（3）成果の共有および企画提案、（4）成果発表の準備、（5）成果発表の五つのフェーズによって構成される。前期・後期と一連のサイクルを繰り返すことにより報告・提案内容をブラッシュアップしてゆく。</p> <p>(1) 事前準備 [学内]</p> <p>グループごとにテーマ設定、現地に関する情報（ウェブサイト・文献等）の収集、フィールドワークの計画立案、協力者へのアポ取り等を実施する。教員から情報提供が行われる場合もあるが、基本的に学生主体で</p> <p>授業テーマごとの実施回数や日程については、進度や現地との交渉などを勘案し、柔軟かつ臨機応変に決定する。</p>
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p><b>【前期】</b></p> <p>(1) オリエンテーション</p> <p>授業の概要説明や自己紹介・アイスブレイク、グループ分け等を行う。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) テーマ設定、フィールドワークの準備</p> <p>グループごとの課題設定とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(3) フィールドワーク（インタビュー、散策、各種活動への参加等）</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(4) 成果の共有</p> <p>フィールドワークの成果を共有し、整理しておく。成果を踏まえ、提案についてのアイデアをまとめる。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、検討したい提案についてのアイデアを各自考えておく。</p> <p>(5) 発表資料作成</p> <p>グループごとに提案内容を検討し発表資料を作成する。事前・事後学習：発表のリハーサル</p> <p>(6) 中間発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p> <p><b>【夏季休暇期間～後期】</b></p> <p>(1) フィールドワークの準備</p>

	<p>グループごとの課題の調整とフィールドワークの準備にとりかかる。事前・事後学習：枚方東部についての情報収集、各自扱いたいテーマを検討しておく。</p> <p>(2) フィールドワーク</p> <p>フィールドワークを実施する。事前・事後学習：現地についての情報収集、メンバー間・現地とのスケジュールの共有、成果についてのメモ作成</p> <p>(3) 提案のブラッシュアップと発表資料作成</p> <p>成果を踏まえ、提案についてのアイデアを改良する。事前・事後学習：成果についてのメモ作成、提案の改善についてを各自検討しておく。</p> <p>(4) 学内での発表会</p> <p>グループごとに成果を報告する。事前・事後学習：発表のリハーサル、聴衆からのフィードバックをまとめる。</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法 (基準)	<p>(1) グループワークへの貢献度 (40%)：フィールドワーク、ディスカッション、成果物の制作から発表に至るプロセスへの積極的な参加。</p> <p>(2) 成果報告・企画・制作物の完成度 (60%)：テーマ設定と報告・提案内容および方法の妥当性、具体性、実現可能性、調査の精度、表現の工夫・巧みさ、オリジナリティ。</p>																
学生への メッセージ	<p>本授業は履修生が主体となり、自らプロジェクトを動かす気持ちで積極的に参加・貢献することに期待している。教員はサポートに徹し、履修生の希望にできる限り答えたいと考えている。</p>																
担当者の 研究室等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・寝屋川キャンパス：7号館5階 小林研究室</li> <li>・枚方キャンパス：8号館3階 中塚研究室</li> </ul>																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトI	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科: R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																
到達目標	<p>■PBL プロジェクト到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる</li> <li>・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く</li> <li>・子どもたちの非認知能力の向上に務める</li> <li>・子どもたちに喜んでもらえ</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。</p> <p>能動的に参加すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月: 連携先さまとの顔合わせ</p> <p>5月: 門真市の子ども達の現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修</p> <p>6月・7月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>7月: 中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る)</p> <p>8月・9月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>10月: 子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮)</p> <p>11月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>12月: クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																
担当者の研究室等	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階)																
備考																	



科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	水野 武
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「門真市子ども LOBBY」は、子どもたちの日常に寄り添う居場所になることを目的とする施設である。本プロジェクトは、施設を利用する子どもたち及び不登校児童に対して、大学生は何かできるのかについて考え、支援の実践を行うプロジェクトである。</p> <p>活動内容は参加できる曜日・時間帯に子どもたちと一緒に遊び、学習を行うための居場所を作ること、イベントの準備やお手伝いを行うことである。</p> <p>門真市子ども LOBBY を利用する子どもには、彼ら彼女らの日常に寄り添い一緒に遊ぶ、考える、学ぶことをしてくれる大人・大学生が必要であり、大学生の皆さんには活動を通して、子どもたちにとって「お手本=ロールモデル」となることが期待される。</p>																
到達目標	<p>■PBLプロジェクト到達目標(共通)</p> <p>本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけると共に、新しい価値の想像を目指す。</p> <p>■「子どもの居場所で大学生ができることを考える」プロジェクトの到達目標</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・貧困問題への理解等、社会状況の理解できる</li> <li>・メンバーおよび子どもたちと相互受容できる関係を築く</li> <li>・子どもたちの非認知能力の向上に務める</li> <li>・子どもたちに喜んでもらえ</li> </ul>																
授業方法と留意点	<p>現地での活動を必ず内省すること。</p> <p>能動的に参加すること。</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>4月: 連携先さまとの顔合わせ</p> <p>5月: 門真市の子ども現状および子ども政策について学ぶ(仮)、活動にあたっての諸研修</p> <p>6月・7月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>7月: 中間報告 (PBL 基礎講座内でここまでの活動を振り返る)</p> <p>8月・9月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>10月: 子ども lobby でのハロウィンイベントの企画立案と実施(仮)</p> <p>11月: 子ども lobby での子ども支援活動</p> <p>12月: クリスマスイベントの企画立案と実施(仮)、最終報告会</p>																
関連科目	地域貢献実践演習など副専攻科目。																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	日々の活動 40%, アセスメントの受検 10%, 中間報告 20%, 最終報告 30%																
学生へのメッセージ	地域に貢献できるようにメンバー全員で知恵を絞って進めていきましょう。																
担当者の研究室等	水野講師室(寝屋川キャンパス7号館3階)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning I
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトII	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	田中 樹
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>「甲津原援農活動プロジェクト」</p> <p>滋賀県米原市北部の姉川上流域に位置する甲津原地区を活動地域として、援農活動を通じて過疎・高齢化が進む地域社会の実態、直面する問題、土地管理の技法、地域資源(山の恵み)の豊かさ、人びととのコミュニケーションを学ぶ。地域貢献の余地や関わりのあり方を考える前段階としての現場感覚や感性を磨く。</p> <p>甲津原での学外活動(援農活動)は、4回(各回1泊2日)を予定。</p> <p>目的は以下の通り:</p> <p>(1) 過疎・高齢化が進む山間地域の実態を知る</p> <p>(2) 潜在的な地域資源や在来知を発掘し利活用する取り組みを発想する</p> <p>(3) 地域社会の人びとの暮らしの活性化とどれと連動する教育活動の実践事例を提案する</p>																		
到達目標	本プロジェクトでは、参加メンバー・学外の連携先との協働を通して、「主体性を持って前向きに取り組む力」、「自分とは異なった価値観を受け入れる力」、「課題を発見し、解決する力」を身につけるとともに、新しい価値の創造を目指す。																		
授業方法と留意点	この授業は座学(基礎講座)とフィールドワーク(学外活動)、成果発信(討論、成果品の作成、発表)から構成される。フィールドワーク(学外活動)は、土曜日と日曜日の1泊2日で行われる。地域社会の人びとと協働する機会が多いため、礼節と敬意のある身だしなみや振る舞いが求められる。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>1 基礎講座①: オリエンテーション/事前学習: シラバスの理解</p> <p>2 基礎講座②: 「執事のダンドリ手帳」から段取りの基本を学ぶ/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>3 基礎講座③: 情報発信力を磨く/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>4~8 学外活動①: 甲津原地区での援農活動(田植え、獣害対策用電気柵の設置、つけもの加工部での手伝い/1泊2日)</p> <p>9 基礎講座④: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える①ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>10 基礎講座⑤: 会議を回せ!ーファシリテーションについて考える②ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>11~14 学外活動②: 甲津原地区での援農活動(梅の実の収穫、梅干しの漬け込み/1泊2日)</p> <p>15 基礎講座⑥: 活動内容をシェアしよう!/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>16~19 学外活動③: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の設置、山菜採り/1泊2日)</p> <p>20 基礎講座⑦: オーディエンスを惹きつけろ!ーポスターセッションの教室ー/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>21~22 中間発表会の準備、中間発表</p> <p>23~26 学外活動④: 甲津原地区での援農活動(獣害対策用電気柵の撤取り/1泊2日)</p> <p>27 基礎講座⑧: プレゼンの教室/事後学習: リアクションペーパーの作成</p> <p>28~30 最終報告会(PBL科目報告会での発表)/事後学習: 最終報告書の作成</p>																		
関連科目																			
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	授業ごとのリアクションペーパー(70%)と活動報告書(30%)で評価し、60%以上を合格とする。																		
学生へのメッセージ	この科目は、教育・研究(野外調査)・社会実践のすべての要素を含む包括的な取り組みです。既存の知識を教わるという受け身な姿勢ではなく、地域社会の自然環境や生業、人びとからさまざまなことを能動的に学び取ってください。若い感性に裏打ちされる柔らかな発想とそこから派生する地域活性化への具体案を形作ることを期待します。																		
担当者の研究室等	枚方キャンパス8号館(農学部棟)・環境農学研究室(213号室)																		
備考	フィールドワークでは、野外活動に適した服装(長靴、軍手、長袖シャツ、帽子など)を準備すること。																		

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅠ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning Ⅰ
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 侑也, 小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。</li> <li>② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。</li> <li>③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。</li> <li>④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。</li> <li>⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。</li> </ol> <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	摂南大学PBLプロジェクトⅡ	科目名(英文)	Project/Problem Based Learning II
学部	学部共通	学科	
配当年次	2年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	大谷 侑也,小林 基
ディプロマポリシー(DP)	V科: II◎, R科: A◎, A科: A◎, M科: A1○, E科: B△, C科: II◎, L科: DP2◎, D科: DP1◎, S科: DP1◎, J科: DP1◎, W科: DP1◎		
科目ナンバリング	V科・R科・A科・M科・E科・C科: TT01461a1~TT01465a1, L科: LT01366a1~LT01370a1, D科・S科: IT01371a1~IT01375a1, J科: JT01374a1~JT01378a1, W科: WT01352a1~WT01356a1		

授業概要・目的	<p>本PBLプロジェクトの舞台は沖縄県の伊良部島である。伊良部島は宮古島(本島)の北西に約4kmほど離れた場所に位置し、いわば孤立した島であった。そのため橋が架かる(架橋化)以前の島民はフェリーで買い物や学校に行く必要があり、出産や急病の際にはヘリコプターで本島の病院に搬送されることもあった。その後、2015年に本島と伊良部島とを結ぶ「伊良部大橋」が完成し、車やバスで本島での買い出しや通院が可能となり島民の生活は大きく改善されたと言える。</p> <p>一方、島民の話の中では、橋の完成により観光客や犯罪が増加し、また島民間でのふれあいの場が喪失している、といった負の側面の声も聞かれている。したがって架橋化により島民の生活インフラへのアクセスは改善されたが、種々の問題が顕在化しており、それらの解決が喫緊の課題となっている。今回のPBLプロジェクトでは島民と対面・オンラインでコミュニケーションをとり、架橋化により地域で表面化している課題を把握した上でその課題解決策を考案する。そして実際に伊良部島でフィールドワークを行い、解決策を地域に実装し、島の課題解決の一端を担えるプロジェクトを目指す。</p>																
到達目標	<p>本PBLプロジェクトでの到達目標は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 地域の人々とコミュニケーションを取り、何が課題となっているかを把握できる。</li> <li>② 地域の施策の良い面と悪い面を理解し、物事をさまざまな角度から評価できる。</li> <li>③ 地域のニーズを踏まえた上で、適切な課題解決策を提示できる。</li> <li>④ 「島」の文化や環境を理解し、それらを自らの言葉で他者に伝えることができる。</li> <li>⑤ 普段とは異なる環境に住む人々を理解し、地域に溶け込むことができる。</li> </ol> <p>以上を到達目標とし、学内での活動や実際の現場でのフィールドワークを</p>																
授業方法と留意点	<p>学生間や教員と議論をしながら地域の課題解決策を考案していく。オンラインで現地の島民とコミュニケーションをとる。また夏季には実際に現地でフィールドワークを行い、考案したアイデアを現地に実装する予定である。</p> <p>本PBLでは「島」が持つ地域課題を学びながら、その解決策を学生・教員・島民との議論の中で提案していく。そのため普通の授業とは違い学生には積極的な議論への参加が求められる。また授業では実際に沖縄県伊良部島でフィールドワークを行うが、島民と共にアイデア出し・作業を行うためその場においても積極的な参加姿勢が求められる。</p>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>本PBLプロジェクトの大きな行程は以下の通りである。</p> <p>4月 キックオフミーティング、自己紹介、伊良部島の基礎知識習得。</p> <p>5月 連携先とのオンラインミーティングによる地域の現状の課題把握、ディスカッション(学生・教員は対面)。</p> <p>6月 課題解決策の考案、アイデア出し</p> <p>7月 中間報告会 アイデアの具体化、作業</p> <p>8月 アイデアの具体化、作業</p> <p>9月 伊良部島でのフィールドワーク</p> <p>10月 フィールドワークの詳細と成果のまとめ作業</p> <p>11月 活動の自己評価、良かった点と悪かった点の洗い出し、最終報告回準備</p> <p>12月 最終報告回準備・プレゼン練習</p> <p>1月 連携先とのオンラインによる成果報告会(学生・教員は対面)</p> <p>2月 まとめ作業(報告書の作成)</p> <p>3月 まとめ作業(報告書の作成)、解散ミーティング</p>																
関連科目																	
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	プロジェクトへの参加姿勢(70%)、プロジェクトの成果物(30%)																
学生へのメッセージ	繰り返しになりますがPBLプロジェクトは通常の授業とは異なり、学生・教員・地域の人々と対話をしながら進めていくものになります。履修者・教員はひとつの「チーム」となって活動していきます。とはいえ単なる「作業」や「仕事」ではありませんので、楽しみながら地域の課題解決を目指していこうと思います。夏の伊良部島フィールドワークをめざして頑張ってください！																
担当者の研究室等	寝屋川キャンパス7号館5階(大谷研究室)																
備考																	

科目名	理工学基礎実験	科目名 (英文)	Basic Experiments in Science and Engineering
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	竹村 明久, 安積 欣志, 小早川 昔離野, 坂本 淳二, 嶋田 恭博, 長島 健, 山根 聡子, 脇田 和樹
ディプロマポリシー (DP)	B◎		
科目ナンバリング	TDR1019a0		

授業概要・目的	理工学に必要な基礎的計測技術を身につけ、理工学の基礎的な考え方を体験する。さらに、専門分野だけでなく理工学全体の基礎知識に触れることを目的とする。																
到達目標	(1)長さ、重さ、電圧・電流、圧力・温度、pHなどの基礎的な計測技術を身に付ける。 (2)工学、物理学の基礎的な考え方を実験により身に付ける。 (3)ものつくりの基本である「見る、聴く、触れる、嗅ぐ」の感覚を働かせることと、よく考えて予想・考察する力を身に付ける。 (4)自らの役割に主体的に取組み、他のメンバーと協力・話し合い・働きかけて、目的を実行する能力を身に付ける。 (5)準備学習する習慣を身に付ける。																
授業方法と留意点	実験は4グループに別れて行う。グループ内では4~6名のチームで協力して実験を行う。13種類の実験をグループごとに実施する。実験室は常時換気するとともに、作業前後に器具のアルコール消毒する。時間内に実験からレポート作成まで行う。なお、大学構内への立ち入りが禁止された場合、実験をオンライン模擬実験に変更する可能性がある。																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1回目：ガイダンス</li> <li>・2~14回目：下記テーマから指定された実験、レポート作成（毎回予習レポートを課す）</li> <li>・15回目：総合課題演習</li> </ul> <p>★実験テーマ：</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 歩測 自分の歩幅を知り、道の距離を測定する。誰が正確に測れるか？</li> <li>(2) 体積と重量 身の回りのさまざまなものの単位体積重量を求める。いろいろな物体の形をはかりスケッチする。</li> <li>(3) 浮力 浮力のメカニズムを理解する。</li> <li>(4) 平面図形の重心(図心) 重心を実測と計算により求める。モーメントとはなにか？</li> <li>(5) 力の合成 力の合成に関する法則を実証するための実験方法を考え、実験を計画する。実験装置を作り、実験を実施し、測定データをもとに法則を検証する。</li> <li>(6) フックの法則 ばねに力が作用するときの変形量をはかる。フックの法則を理解する。</li> <li>(7) 重力加速度 重力加速度を計測する。計測精度を評価する。</li> <li>(8) 水平投射運動 斜面から球が水平投射されたときの球の位置などを測定する。力学的エネルギー保存則と水平投射による運動を説明する。</li> <li>(9) 圧力と温度 圧力と温度をはかる。圧力の作用と空気の状態変化を理解する。</li> <li>(10) 仕事と熱エネルギー 人の馬力をはかる。仕事と熱エネルギーを体感する。</li> <li>(11) 電流と電圧 簡単な電気回路を作り、テスターの使い方を知る。オームの法則、直流と交流について調べる。</li> <li>(12) 光の強さと成分 いろいろな光の強さと色の成分を測定する。</li> <li>(13) pHとEC 身近な環境をはかってみる。環境をはかる方法の原理を理解する。</li> </ol> <p>※厳重注意：課題提出物は個別の学生成果物です。他学生が提出されたものを閲覧や参考にする行為は厳禁です。重々留意ください。</p>																
関連科目	住環境デザイン概論、その他全般																
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>理工学部基礎実験</td> <td>摂南大学理工学部</td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1	理工学部基礎実験	摂南大学理工学部		2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1	理工学部基礎実験	摂南大学理工学部															
2																	
3																	
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	課題演習 (50%)、レポート (50%) の割合で評価する。																
学生へのメッセージ	この授業で学び体験するさまざまな物理・化学現象の測定技術は、住環境のデザインや建物の設計に欠かせないものです。実験を通して物理・化学現象を身近に体験しながら計測技術と理工学の基礎となる考え方を修得しましょう。																
担当者の研究室等	専任教員執務室 12号館 6または7階																
備考	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前学習として、教科書を読み用紙に要約する課題を課している。毎回1時間以上をかけ、教科書をよく読み、丁寧な字できちんとした文章を書き、課題を提出すること。</li> <li>・レポートはすべて返却するため、次のレポート点数がよくなるように見直すこと。</li> </ul>																

科目名	ゼミA	科目名(英文)	Seminar A
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二. 稲地 秀介. 大橋 巧. 川上 比奈子. 榑 愛. 白鳥 武. 竹村 明久. 樋口 祥明. 久富 敏明. 山根 聡子
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR1063a0		

授業概要・目的	[授業の概要・目的]住環境デザイン学科は、学際的な学問領域を含む学科であるため、幅広い分野の科目のなかから自分に適した科目を選択し、自分自身で体系化して理解を深める必要がある。ゼミAでは、少人数形式の講義、討論、演習、さらに研修旅行や演習の発表会などを通して、多面的価値観を育成すること、及びコミュニケーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、学科の教育目標を周知し、教養教育の補完を図り、自分自身の適性を見つけさせるようにする。実務経験を持つ教員が含まれており、インテリア・建築・まちのデザインや環境工学、建築設備、フィールドワーク調査などについて実践的な授業を行う。																		
到達目標	住環境デザインに関する学びについて知識や考え方を得るとともに、発表会などにおいて、自己の考えもとに、他者の多面的価値観を踏まえコミュニケーションできる。																		
授業方法と留意点	基本的に、ICTを活用し、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。ゼミは、教員数に合せ、学生を少人数に分けて行う。実施日時は学期始めに連絡する。学期初めには、①学科の学習教育目標、②不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。各回の担当教員による直接のコメントやアドバイスによってフィードバックする。																		
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>◆全体ゼミを3回、研修旅行ゼミを8回、教員個別の少人数ゼミを2回、SPI・英語テストなどを2回行う。</p> <p>○第1回全体ゼミ :1回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う</p> <p>○研修旅行ゼミ(事前準備、資料作成、発表含む) :8回 関連する施設を見学し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論・発表を行う。</p> <p>○少人数ゼミ :2回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> <p>○第2回全体ゼミ・第3回全体ゼミ :2回 少人数ゼミの演習で作成・まとめた課題について互いにプレゼンテーションを行い、意見交換する。 知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある。</p> <p>○SPI・英語テストなど :2回</p> <p>毎回の事前学習：配布された資料をよく見ておくこと(0.5時間) 毎回の事後学習：課題を各自ですすめておくこと(1時間)。</p>																		
関連科目	ゼミB、C、スタジオをはじめすべての授業に関連する																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況20%、レポート等の提出物80%により判定する。																		
学生へのメッセージ	授業テーマは修得度に応じ講義順の組替もありうる。本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 樋口教授室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など、約1.5時間程度をこれに当てること。課題については、発表等の際に教員・受講者からの講評を随時実施する。																		

科目名	ゼミB	科目名(英文)	Seminar B
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	2年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR2064a0		

授業概要・目的	<p>[授業概要・目的] 少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学びのスタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学習し、自分の個性を生かしながら協調してものづくりをおこなうことの大切さを理解させる。</p> <p>[到達目標] 1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 各専門分野の理解 4) 自分自身の適性の把握</p> <p>実務経験を持つ教員が含まれており、インテリア・建築・まちのデザインや環境工学、建築設備、フィールドワーク調査などについて実践的な授業を行う。</p>																		
到達目標	住環境デザインに関する様々な知識の再構築を図り、デザイン力、コミュニケーション力を養い、人間力・統合力を身につけ行動できる。																		
授業方法と留意点	<p>基本的に、ICT ツールを活用して、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。</p> <p>見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。</p> <p>初日では、①学科の学習教育目標、②不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。</p> <p>各回の担当教員による直接のコメントやアドバイスによってフィードバックする。</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>◆全体ゼミ、住環境デザインに必要な共通事項を中心に少人数ゼミ・グループ演習等を実施する。</p> <p>○全体ゼミ：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う</li> <li>・知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある</li> <li>・演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することもある</li> <li>・SPI・英語テスト</li> </ul> <p>○少人数ゼミ・グループ演習等：</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・設計における共通事項、プレゼンテーション手法、各種調査方法・分析手法等、住環境デザインに必要な共通事項を中心に、各教員の専攻も踏まえた講義や演習を行う</li> <li>・学外見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある</li> </ul> <p>毎回の事前学習：配布された資料をよく見ておくこと (0.5時間) 毎回の事後学習：課題を各自ですすめておくこと (1時間)</p>																		
関連科目	ゼミA、C、スタジオをはじめすべての授業に関連する																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。																		
学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 樋口教授室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	ゼミに係る予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など1.5時間程度をこれに当てること。 課題については、発表等の際に教員・受講者からの講評を随時実施する。																		



科目名	ゼミC	科目名(英文)	Seminar C
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	前期	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榎 愛, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR2065a0		

授業概要・目的	ゼミCは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、この授業の最後には自分の専門分野を決めます。実務経験を持つ教員が含まれており、インテリア・建築・まちのデザインや環境工学、建築設備、フィールドワーク調査などについて実践的な授業を行う。																
到達目標	1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 社会における専門分野の理解 4) 自分自身の専門分野の決定、ができる																
授業方法及び留意点	基本的に、ICTツールを活用し、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。 見学会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。 学期初めのゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。 全員が集合する全体ゼミ。知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。 各回の担当教員による直接のコ																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	◆全体ゼミを5回、教員個別の少人数ゼミを10回行う。  ○第1回全体ゼミ : 1回 学科の教育目標などのガイダンス、およびコンプライアンス教育を行う  ○少人数ゼミ : 10回 ・少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う ・学外見学会などに参加し、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある  ○第2回～第5回全体ゼミ : 4回 ・全体ゼミでは、知的好奇心の育成、将来の職業の理解を深めるため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することもある ・演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することもある  毎回の事前学習：配布された資料をよく見ておくこと(0.5時間) 毎回の事後学習：課題を各自ですすめておくこと(1時間)																
関連科目	ゼミA、B、スタジオ																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況20%、レポート等の提出物80%により判定する。																
学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																
担当者の研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 樋口教授室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榎准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、山根講師室																
備考	予習・復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動などをし、1.5時間程度をこれに当てること。 課題については、発表等の際に教員・受講者からの講評を随時実施する。																

科目名	ゼミD	科目名(英文)	Seminar D
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	1	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR3072a0		

授業概要・目的	<p>専門ゼミDは、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、卒業研究に向けた基礎的な力を身につける助走期間とする。</p> <p>実務経験を持つ教員が含まれており、インテリア・建築・まちのデザインや環境工学、建築設備、フィールドワーク調査などについて実践的な授業を行う。</p>																
到達目標	<p>1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 配属された研究室における専門分野のより深い理解 をもとに行動できる。</p>																
授業方法と留意点	<p>ゼミは、全員が集合する全体ゼミと、教員ごとに学生を少人数に分けて行う少人数ゼミとがある。</p> <p>基本的に、ICT ツールを活用して、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。</p> <p>知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。</p> <p>見学会・講演会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。</p> <p>ゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②不正行為防止対策とし</p>																
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>◆全体ゼミを、計5回行い、教員個別の少人数ゼミを10回行う。</p> <p>○全体ゼミ : 5回 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することがある。 演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することがある。</p> <p>○少人数ゼミ : 10回 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。 学外見学会などに参加して、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> <p>毎回の事前学習：配布された資料をよく見ておくこと (0.5時間) 毎回の事後学習：課題を各自ですすめておくこと (1時間)</p>																
関連科目	ゼミA、B、C																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対する取り組み状況20%、レポート等の提出物80%により判定する。																
学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																
担当者の研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 樋口教授室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、山根講師室																
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など1.5時間程度をこれに当てる。																

科目名	卒業研究	科目名(英文)	Graduation Thesis
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	4年	クラス	
単位数	6	履修区分	必修科目
学期	通年集中	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー(DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR4067a0		

授業概要・目的	卒業研究のテーマについて、適切な調査等の手法を用いて、自発的に現象を解明することができるようになることとする。 目的：卒業研究を通して、社会人として必要な行動力、思考力、協調性を得ることを目的とする。																		
到達目標	習得した専門知識・技能をもとに、社会人として必要最低限な行動力、思考力、協調性を習得し行動できる。																		
授業方法と留意点	①学期初めのゼミ初日は研究・制作の基礎的背景となっている住生活と環境デザインの考え方、③不正行為防止対策としての研究者・技術者倫理の解説を行う。  研究テーマに必要な知識を得るためのゼミとフィールドワークを基本とする。 各担当教員によるコメントやアドバイスによってフィードバックする。 最終提出物については講評会を開催し、非常勤講師を含む外来講師の講評によってフィードバックする。																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>【主な研究のテーマ】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○成熟社会の建築・環境デザインに関する研究</li> <li>○ユニバーサル社会の光・色彩環境計画に関する研究</li> <li>○建築・都市環境における脱炭素化・エネルギー使用合理化に関する研究</li> <li>○自然の力をかりるインテリア・建築史を踏まえた新たな空間デザインの提案</li> <li>○空間情報技術を用いた住環境の安全性・快適性の評価と改善策の提案</li> <li>○景観から読み取り得る地域の諸問題の要因把握と対応策の提案</li> <li>○共生を阻害する問題群を多角的に分析し、解決に導く有形・無形のデザインを提案する</li> <li>○人と空気環境の関係に関する研究</li> <li>○地球環境と社会の変化に対応する建築意匠と設計に関する研究</li> <li>○共用空間を所有する住宅地の管理とコミュニティに関する研究</li> </ul> <p>【研究方法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各研究室のテーマに対応して、ゼミ、実験、調査、制作、フィールドワークを実施する</li> </ul> <p>【事前事後学習課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○各自の研究テーマに対応して、指導教員より提示する。</li> </ul>																		
関連科目	全科目																		
教科書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 50%;">書籍名</th> <th style="width: 20%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width: 10%;">番号</th> <th style="width: 50%;">書籍名</th> <th style="width: 20%;">著者名</th> <th style="width: 20%;">出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法(基準)	○合否は中間審査20%、および卒業研究最終発表と展覧会発表による総合評価80%により決定する。 ○卒業研究に関する学科のイベントに全て参加し、提出物を全て提出すること。																		
学生へのメッセージ	○ゼミノートの記録保持、実験試料・調査資料の保存、論文の剽窃、データの改ざんなど、研究活動とその発表にかかわる守るべき倫理について、常に注意すること。 ○論文のテーマは、上にあげたもの以外でも興味のあるテーマであれば、取り組んでもらえるよう調整します。																		
担当者の研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 樋口教授室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	○週15時間以上を目安として、自主的に組み立てること 各担当教員によるコメントやアドバイスによってフィードバックする。 最終提出物については講評会を開催し、非常勤講師を含む外来講師の講評によってフィードバックする。																		

科目名	海外語学研修	科目名(英文)	Overseas Language Training
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	1年	クラス	
単位数	2	履修区分	選択科目
学期	通年集中	授業担当者	ブルボット サジト
ディプロマポリシー(DP)	A◎		
科目ナンバリング	TEN2424c2		

授業概要・目的	<p>本科目はグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の必修科目の一つである。GCMPは、国内外の多様な社会と人々に敬意と思いやりをもち、地域の課題と地球規模の課題に等しく当事者として向き合い、課題解決に向けて積極的に行動できるグローバル・シチズン(地球市民)の育成を目指す副専攻である。GCMPは、国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)目標4.7「2030年までに、持続可能な開発と持続可能なライフスタイル、人権、ジェンダー平等、平和と非暴力の文化、グローバル市民、および文化的多様性と文化が持続可能な開発にもたらす貢献の理解などの教育を通じて、すべての学習者が持続可能な開発を推進するための知識とスキルを獲得できるようにする」に資するものである。</p> <p>本科目の受講生は、グローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのいずれかに参加する。派遣先により現地での実習内容は異なるが、「グローバル・シチズンシップ」を共通のテーマとし、良き地球市民として行動するために必要な知識、態度、技能を体験的に学ぶ。受講生には、この授業で得られた反省点を帰国後の各学部での学び、副専攻課程での学び、特に後の海外実習(応用)での学びに生かすことが期待される。</p> <p>なお、本科目は単独で履修することもできるが、主としてグローバル・シチズンシップ副専攻課程(GCMP)の履修者を想定し、GCMPの必修科目「グローバル・シチズンシップ海外実習(入門)」と「海外語学研修」は目標や学習内容を共有する。</p>																
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> <li>・派遣先の国または地域の地理、歴史、文化について基本的な知識を有している。</li> <li>・派遣先の主要な社会課題について、課題の概要、解決への取り組み、また日本の社会課題との共通点や繋がりについて、具体的に例を挙げて説明できる。</li> <li>・派遣先の人々と、英語、現地言語、易しい日本語などの共通言語やジェスチャーを用いて意思疎通し、「一定の相互理解と信頼関係を築くことができた」という成功体験を得る。成功体験を自身の言葉で説明できる。</li> <li>・事前・事後授業等を含めた訓練により、外国語運用能力を向上させる。派遣先の人々と、英語、</li> </ul>																
授業方法と留意点	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前授業、現地派遣、事後授業の3つの部分から構成される。事前授業、事後授業は一部を除いて全学部、全派遣地域の全ての学生を対象に合同で行われる。昼休み、5限以降、土曜日、補講日など、全ての学生が参加しやすい時間に授業がスケジュールされ、受講生は全日程に出席することが求められる。私事都合(アルバイト、旅行等)による欠席は認められない。やむを得ない理由により出席できないときは速やかに欠席届を出し、教員やスタッフと連絡を密にし、指示を受けた課題に取り組むことが求められる。</li> <li>・グローバル・シチズンシップ副専攻課</li> </ul>																
授業テーマ・内容・方法・事前・事後学習課題	<p>年間スケジュールは概ね次の通りである。募集説明会～事前授業～現地派遣～事後授業のサイクルが、年間2回実施される。( )内は同一年度の二サイクル目で、現地派遣が年度末の2～3月になる場合のスケジュールである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・募集説明会：4月中旬 (9月下旬～10月上旬)</li> <li>・事前授業10回：6月中下旬～7月下旬 (11月～2月)</li> <li>・現地派遣：2週間程度 8月中旬～9月上中旬 (2月中下旬～3月下旬)</li> <li>・事後授業5回(成果報告会含む)：9月～10月中旬 (3月～4月下旬)</li> </ul> <p>【注意】新型コロナウイルス拡大の影響により、海外に渡航できない場合は、オンラインプログラムでの実施になる予定です。詳細は随時ポータルサイトで連絡します。</p> <p>本科目を受講する学生は、まずグローバル教育センターが主催する入門レベルの海外派遣プログラムのうちいずれかに参加申し込みをしないといけない。各派遣プログラムは日程、実習内容、参加費用などいずれも異なる。また、所属学部によっては選択できないプログラムもある。また、年度末の2～3月に現地派遣されるプログラムの場合は、単位認定の年度は翌年度となる。募集説明会に出席し、不明の点があれば問い合わせ、早めに計画を立てることが重要である。</p> <p>事前授業では、「地球市民」の概念を理解し、派遣先の社会事情と課題について自ら情報収集をして問いをたて、現地での実習から最大限の成果を得られるよう準備する。国連が定める持続可能な開発目標(SDGs)についてのワークショップ等を行う。語学力をはじめ、現地で必要となる技能について、自主的な訓練計画を立て、実行する。英語力に関しては、グローバル教育センターが提供する英語ワークショップであるECW(English Conversation Workshop)、学習支援センターでの英語チュータリング、ATR-CALLの英語e-learningサービスなど、学内の学習資源を積極的に利用する。</p> <p>派遣先では安全と健康が最優先であり、団体行動、ルール順守が求められる。そのいっぽうで、指示された行動をただ遂行するにとどまってはいけない。成功体験や挫折体験は自分の能力の限界に挑戦しなければ得られない。現地の事情について一つでも多くのことを知り、現地の人と一人でも多く知り合い、少しでも深く互いに理解し合えるように行動する。成果報告につなげられるよう、メモ、写真、動画などを可能な限り残す。何らかの資料が手に入れば整理して持ち帰る。</p> <p>事後授業では、現地で得られた体験と情報を時間をかけて振り返り、自身にとっての最大の成果は何であったかを特定し、今後の学びにどう生かすかを考えるワークショップを行う。ワークショップに基づき、各自の成果報告書(レポート)および小グループでの成果報告プレゼンテーションを作成する。第三者にとって興味深く、分かりやすい成果報告を目指す。</p>																
関連科目	グローバル・シチズンシップ論(入門)、グローバル・シチズンシップ論(応用)、グローバル・シチズンシップ海外実習(応用)、Topics in Global Citizenship(EMI)、摂南大学PBLプロジェクトIなど																
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>	番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名														
1																	
2																	
3																	
評価方法(基準)	事前授業評価 30% (規律の順守、課題への取り組み状況、提出物の評価を総合) 現地活動評価 40% (現地教員、引率者、受け入れ機関等による評価、テストスコア等の評価を総合) 事後授業評価 30% (成果報告のレポートやプレゼンテーションを作成過程を含めて評価)																
学生へのメッセージ	在学中に一度は海外に行きましよう。いけるなら二度行きましよう。二度行けるなら、グローバル・シチズンシップ副専攻の入門、応用の実習で二度行きましよう。																

担当者の 研究室等	各海外派遣プログラムに関する相談、グローバル・シチズンシップ副専攻プログラム全体に関する相談は3号館1階グローバル教育センター まで 教員室1（2号館2階）
備考	

科目名	スタジオ	科目名 (英文)	Studio
学部	理工学部	学科	住環境デザイン学科
配当年次	3年	クラス	
単位数	2	履修区分	必修科目
学期	後期	授業担当者	坂本 淳二, 稲地 秀介, 大橋 巧, 川上 比奈子, 榑 愛, 白鳥 武, 竹村 明久, 樋口 祥明, 久富 敏明, 山根 聡子
ディプロマポリシー (DP)	G◎		
科目ナンバリング	TDR3066a0		

授業概要・目的	<p>本科目は、少人数形式の講義、議論、演習、さらに見学会や演習の発表会などを通して問題発見、問題解決能力の育成、プレゼンテーション力の向上を図ることを目的とする。また同時に、各研究室の学習スタイルを体験し、各専門分野の研究の進め方を学び、卒業研究に向けた基礎的な力を身につける助走期間とする。</p> <p>実務経験を持つ教員が含まれており、インテリア・建築・まちのデザインや環境工学、建築設備、フィールドワーク調査などについて実践的な授業を行う。</p>																		
到達目標	<p>1) 問題発見・解決能力の習得 2) プレゼンテーション力の向上 3) 配属された研究室における専門分野のより深い理解をもとに行動できる。</p>																		
授業方法と留意点	<p>授業は、全員が集合する全体ゼミと、教員ごとに学生を少人数に分けて行う少人数ゼミで構成される。</p> <p>基本的に、ICT ツールを活用して、グループもしくは個人の課題による自主的調査・制作・ディスカッションを行う。ゼミは、教員数に合わせ、学生を少人数に分けて行う。</p> <p>知的好奇心を育成するため、または進路を考えさせるための講演会とすることがあり、学外講師による特別講演を行うこともある。</p> <p>見学会・講演会は定時のゼミの時間割を休日等に振り替えて実施することがある。</p> <p>ゼミ初日は、①学科の学習教育目標、②不正行為防止対策</p>																		
授業テーマ・内容、方法・事前、事後学習課題	<p>○全体ゼミ 全体ゼミでは、知的好奇心を育成するため、学外から講師を招いてフォーラムを実施することがある。</p> <p>演習の作品発表会などを開催し、互いにプレゼンテーションを行って意見交換することがある。</p> <p>○少人数ゼミ 少人数グループに分かれて、各教員の専攻による特色のある講義や演習を行う。</p> <p>見学会などに参加して、現地での講義、レポート作成、これらを素材とした議論を行う場合もある。</p> <p>毎回の事前学習：配布された資料をよく見ておくこと（1時間） 毎回の事後学習：課題を各自ですすめておくこと（2時間）</p>																		
関連科目	ゼミ A、B、C、卒業研究																		
教科書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
参考書	<table border="1"> <thead> <tr> <th>番号</th> <th>書籍名</th> <th>著者名</th> <th>出版社名</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>2</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>3</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table>			番号	書籍名	著者名	出版社名	1				2				3			
番号	書籍名	著者名	出版社名																
1																			
2																			
3																			
評価方法 (基準)	講義や演習及び討論や発表などの授業に対するコメント等の取り組み状況 20%、レポート等の提出物 80%により判定する。																		
学生へのメッセージ	本学科では、入学時から卒業まで、教員が身近な距離で学生と向き合い、専門職業人としてのキャリア形成を支援するための細やかな指導を行う。ゼミはその一環の創成型演習として開講するものである。学習段階に応じた目標を自覚し、自主的、積極的に学習に取り組んでほしい。																		
担当者の研究室等	12号館6階 住環境デザイン学科共通準備室 12号館6階 坂本教授室 12号館7階 樋口教授室、川上教授室、久富教授室、大橋教授室、稲地准教授室、榑准教授室、白鳥准教授室、竹村准教授室、山根講師室																		
備考	予習復習は配布資料、関連分野についての幅広い読書、文化活動など3時間程度をこれに当てる。 学外において調査や見学を行うことがある。 学外から講師を招くことがある。																		